

授業科目		フランス語					
担当教員		岡本 澄子		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
フランス語の基礎を学ぶ。まず発音記号、綴りと発音の規則を学び、フランス語特有の音に慣れる。この音声の訓練は学期中できるだけ毎回繰り返す。次に、挨拶や自己紹介などの日常的な会話表現を学んでゆく。実際に使われる表現とともに、名詞・冠詞・形容詞およびその性数、規則動詞と代表的な不規則動詞の変化を学ぶ。授業中、適宜フランスの文化や習慣を紹介する。				フランス語の基礎を学ぶ。聴くことと話すことを出発点に、関連する文法事項を学ぶことで、フランス語やフランス文化に親しみ、簡単な自己紹介と基礎的なやりとりができるようになることをめざす。			
教授方法	授業は演習形式。ほぼ毎回課題を出し、授業中に答え合わせをする。予習を前提に、授業では発音の練習、テキストの文法演習、対話のロールプレイ等を通じて、できる限りフランス語を運用する。映像や音声資料を使って、フランスの文化に親しむ。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業全体の導入、アルファベ、フランス語の母音・鼻母音と発音記号、自分の名前とその綴りをフランス語で言う						
2	フランス語の綴りと発音の規則、日本語でも使われているフランス語、出会いと別れの挨拶、名詞の性と数						
3	子音字の読み方と発音記号、英語とは読み方の異なるつづり字、冠詞（不定冠詞、部分冠詞、定冠詞）						
4	提示表現1（C'est ~, Ce sont ~）、出会いの場面での会話表現（挨拶、紹介）、数字（0~10）						
5	数字（11~16）、値段の表現（数字+euro）、カフェのメニュー、複数形で使う名詞						
6	主語人称代名詞、動詞êtreの直説法現在の活用、出身地を言う						
7	形容詞の性と数、主語+動詞（être）+ 属詞の構文						
8	職業・身分を言う、性別によって変化する名詞						
9	国籍を表す表現、人の特徴・性格を表す形容詞、否定形						
10	動詞avoirの直説法現在の活用、avoirを使った表現						
11	単純疑問文とその答え方、数字（17~90）						
12	自己紹介（名前、出身、職業・身分、国籍、年齢、兄弟構成）						
13	第一群規則動詞（-er型動詞）の直説法現在の活用、自己紹介（住んでいるところ、話せる言語）						
14	自分についてフランス語で聞かれたことにフランス語で答える						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
確認テスト	40%	1課終わるごとに行うテスト（学期中3回）の成績		授業態度	30%	宿題や予習をして授業に積極的に参加する	
口頭試験	10%	自己紹介等の口頭表現を正確な文法と発音で行う		単語テスト・課題	20%	1課終わるごとに行う単語テストの成績や毎回の課題の提出状況	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
予習としてテキストの音声資料を聴き、分からない単語の意味を調べる。ほぼ毎回課題を出し、各課が終わるごとにテストを行うので、復習に力を入れる。				質問や相談は、授業中や授業の前後に受け付ける。特に多くの学生に関連すると思われる事項に関しては、次の授業の際にコメントする。メールでの質問も受け付ける。			
教科書・テキスト	『エスカパード！フランス語への旅（改訂二版）』、駿河台出版社			受講生に望むこと	予習・復習を必ず行うこと。授業外の学習なしには語学の習得は不可能です。各種テストの回数が多いですが、1回ごとの範囲は限られますので、復習の機会とらえてください。		
参考書・参考資料等	必要に応じて適宜紹介する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		フランス語					
担当教員		岡本 澄子		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
フランス語Iで得た基礎力をさらに発展させ、身につけた語彙や文法事項をもとに表現を工夫して、フランス語で伝える力をつける。具体的には、時間・場所・様態・理由・数量などについて尋ねる表現を学び、動詞・形容詞などの語彙を増やすことで表現力をつける。近い未来や過去の経験を伝える表現を学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣を紹介する。				フランス語Iで得た基礎力をさらに発展させ、身につけた語彙や文法事項をもとに表現を工夫して、できるだけ正確なフランス語で伝える力をつける。			
教授方法	授業は演習形式。ほぼ毎回課題を出し、授業中に答え合わせをする。予習を前提に、授業では発音の練習、テキストの文法演習、対話のロールプレイ等を通じて、できる限りフランス語を運用する。映像や音声資料を使って、フランスの文化に親しむ。						
履修条件	フランス語Iを履修していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	第一群規則動詞（-er型動詞）（復習）、疑問詞（疑問代名詞）						
2	疑問詞（疑問副詞）、好き嫌いと言う						
3	人称代名詞強勢形						
4	カフェで注文する						
5	提示表現（Voici~, Voilà~, Il y a~）、付加形容詞（名詞を修飾する形容詞）						
6	身につけている物とその色について言う						
7	指示形容詞、所有形容詞						
8	自分と自分の家族について言う						
9	不規則活用動詞（aller, venir）、前置詞と定冠詞の縮約形						
10	前置詞と国名、近接未来・近接過去、不規則活用動詞（faire, prendre, partir）						
11	移動手段について言う、春休みの予定を言う						
12	電話での会話、日付の表現						
13	直説法複合過去						
14	春休みの予定をすでに経験したものととして複合過去形で表現する						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
確認テスト	40%	1課終わるごとに行うテスト（学期中3回）		授業態度	30%	宿題や予習をして授業に積極的に参加する	
作文課題	15%	自分自身についてフランス語で正確かつ豊かに表現する		小テスト・課題	15%	小テスト（単語テスト・動詞活用テスト）の成績や毎回の課題の提出状況	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
予習としてテキストの音声資料を聴き、分からない単語の意味を調べる。ほぼ毎回課題を出し、各課が終わるごとにテストを行うので、復習に力を入れる。				質問や相談は、授業中や授業の前後に受け付ける。特に多くの学生に関連すると思われる事項に関しては、次の授業の際にコメントする。メールでの質問も受け付ける。			
教科書・テキスト	『エスカパード！フランス語への旅（改訂二版）』、駿河台出版社			受講生に望むこと	予習・復習を必ず行うこと。授業外の学習なしには語学の習得は不可能です。各種テストの回数が多いですが、1回ごとの範囲は限られますので、復習の機会とらえてください。		
参考書・参考資料等	必要に応じて適宜紹介する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		ドイツ語					
担当教員	浜 泰子			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>英語以外の外国語（ここでは「ドイツ語」）を運用する（「読み、書き、聞き、話す」）ことができるようになるために、ドイツ語の基礎を習得します。</p> <p>ドイツ語の基本となる「文法」を学習しながら、筆記練習、発音練習、パートナー会話練習などを通して、実際に使えるドイツ語を目指して、バランスよくドイツ語の基礎を習得していきます。</p> <p>また、随時、ドイツ語の背景にある文化などにも触れ、ドイツ語を話す人々の生活や精神面にも目を向けることで、ドイツ語に対する理解をさらに深めるとともに、国際人としての多様な世界の見方を培っていきます。</p>				<p>ねらい： 国際化が進む現代社会で生きていくために、母語や英語以外の外国語（この授業では「ドイツ語」）の習得を通して、多様なものが見かたができるようになることを目指します。</p> <p>到達目標： ・ドイツ語の基本となる「文法」を習得することを中心に「読む」「書く」「聞く」「話す」ための基礎力をバランスよく身につける。（12月実施のドイツ語技能検定試験で4級に合格できるレベルのドイツ語力を身につける） ・言語運用に欠かせない「発音」が正しくできるようになる。 ・日常生活レベルの「語彙力」を身につける。 ・母語や英語以外の言語（ドイツ語）を通じて、またドイツ語圏の文化や考え方に触れることで、異文化を理解し受容する感性を身につける。</p>			
教授方法	教科書や補助プリントに沿って文法を学習したのち、練習問題を解いて文法的な理解を確認、さらに口頭練習、パートナー会話練習などを通して運用練習を行っていきます。随時宿題を出し、教師が添削を行うことで学習をサポートしていきます。また映像視聴や単語テストにより語彙力を養い、各課終了後に小テストを行うことで、教師および学習者自らが習熟度をチェックできるよう役立てていきます。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション / アルファバート・発音の基礎・挨拶						
2	発音（つづき）・数字 Lektion 1 自己紹介（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）						
3	Lektion 1 自己紹介（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）						
4	Lektion 1 自己紹介（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）						
5	Lektion 2 趣味はManga（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞）						
6	Lektion 2 趣味はManga（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞）						
7	Lektion 2 趣味はManga（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞） Lektion 3 フランクフルト中央駅で（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）						
8	Lektion 3 フランクフルト中央駅で（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）						
9	Lektion 3 フランクフルト中央駅で（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）						
10	Lektion 4 買い物（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類）						
11	Lektion 4 買い物（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類）						
12	Lektion 4 買い物（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類） Lektion 5 チューリヒの町で（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）						
13	Lektion 5 チューリヒの町で（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）						
14	Lektion 5 チューリヒの町で（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	30%	基礎知識の理解度や応用力を評価		課題提出	20%	出された宿題を期限までに提出し、丁寧に取り組んでいるかどうかで評価	
小テスト	40%	随時単語テスト、各課終了後の小テストにより、授業内容の理解度や家庭学習における復習の程度を評価		学習に対する取り組み姿勢	10%	授業において積極的に発声や発話をしているかどうか、また授業や家庭学習において、明らかになった疑問に対し解決の努力をしているかどうか、問題が	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>授業で学習した内容は、次回までにしっかり復習をしてください。</p> <p>教科書添付のCDを利用して、言語習得にとって最も大切な「発音練習」を繰り返して行ってください。</p> <p>出された宿題は丁寧に取り組み、理解を定着させる努力をしてください。</p> <p>理解できたこと、できないことを明確にし、自ら解決できないことは、次回の授業の際に、あるいはメールですぐに質問してください。</p>				<p>質問があればなるべくその場ですぐに、または授業の前後に行ってください。なお、ゆっくり質問時間を取りたい方は相談に応じますので、遠慮なく申し出てください。また、メールでの質問はいつでも大歓迎です！（メールアドレス：mailto:maifluft@po30.lcv.ne.jp）</p>			
教科書・テキスト	小野寿美子・中川明博・西巻丈児著『KREUZUNG NEO クロイツング・ネオ』朝日出版社、2011年『ネオ』初版、2,500円＋税（ISBN：978-4-255-25345-9）			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業の受講者は2学期開講の「ドイツ語」をぜひ続けて受講してください。（教科書後半部は「」で扱います）</li> <li>・語学習得は、一段一段の積み重ね。家庭での復習や発音練習もしっかり行ってください。</li> <li>・授業には必ず辞書を持参してください。（初回の授業で紹介いたします）</li> </ul>		
参考書・参考資料等	清野智昭著『ドイツ語のしくみ《新版》』白水社、2014年初版、1,300円＋税（ISBN：978-4-560-08656-8） 独和辞典については、授業初回で紹介いたします。			その他・特記事項	この授業の内容は、2学期開講の「ドイツ語」に続きます。（「ドイツ語」においても同じ教科書を継続して使用します）		

授業科目		ドイツ語					
担当教員	浜 泰子			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>1 学期開講の「ドイツ語」に引き続き、英語以外の外国語（ここでは「ドイツ語」）を運用する（「読み、書き、聞き、話す」）ことができるようになるために、「ドイツ語の基礎を習得していきます。ドイツ語の基本となる「文法」を学習しながら、筆記練習、発音練習、パートナー会話練習などを通して、実際に使えるドイツ語を目指し、バランスよくドイツ語の基礎を習得していきます。また、随時、ドイツ語の背景にある文化などにも触れ、ドイツ語を話す人々の生活や精神面にも目を向けることで、ドイツ語に対する理解をさらに深めるとともに、国際人としての多様な世界の見方を培っていきます。</p>				<p>ねらい： 国際化が進む現代社会で生きていくために、母語や英語以外の外国語（この授業では「ドイツ語」）の習得を通して、多様なものを見かたができるようになることを目指します。</p> <p>到達目標： ・ドイツ語の基本となる「文法」を習得することを中心に「読む」「書く」「聞く」「話す」ための基礎力をバランスよく身につける。（ドイツ語技能検定試験4級合格レベルのドイツ語力を身につける） ・言語運用に欠かせない「発音」が正しくできるようになる。 ・日常生活レベルの「語彙力」を身につける。 ・母語や英語以外の言語（ドイツ語）を通じて、またドイツ語圏の文化や考え方に触れることで、異文化を理解し受容する感性を身につける。</p>			
教授方法	教科書や補助プリントに沿って文法を学習したのち、練習問題を解いて文法的な理解を確認、さらに口頭練習、パートナー会話練習などを通して運用練習を行っていきます。随時宿題を出し、教師が添削を行うことで学習をサポートしていきます。また映像視聴や単語テストにより語彙力を養い、各課終了後に小テストを行うことで、教師および学習者自らが習熟度をチェックできるよう役立てていきます。						
履修条件	1 学期開講の「ドイツ語」を履修した後、本授業を履修してください。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	復習						
2	Lektion 6 映画を見に行きたい（話法の助動詞、分離動詞）						
3	Lektion 6 映画を見に行きたい（話法の助動詞、分離動詞）						
4	Lektion 6 映画を見に行きたい（話法の助動詞、分離動詞） Lektion 7 私のねがい（形容詞の格変化、zu不定詞）						
5	Lektion 7 私のねがい（形容詞の格変化、zu不定詞）						
6	Lektion 7 私のねがい（形容詞の格変化、zu不定詞）						
7	Lektion 8 休暇旅行（動詞の3基本形、現在完了）						
8	Lektion 8 休暇旅行（動詞の3基本形、現在完了）						
9	Lektion 8 休暇旅行（動詞の3基本形、現在完了）						
10	Lektion 9 オペラ鑑賞（過去、再帰代名詞と再帰動詞）						
11	Lektion 9 オペラ鑑賞（過去、再帰代名詞と再帰動詞）						
12	Lektion 9 オペラ鑑賞（過去、再帰代名詞と再帰動詞） Lektion 10 ホテルに宿泊（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）						
13	Lektion 10 ホテルに宿泊（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）						
14	Lektion 10 ホテルに宿泊（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	30%	基礎知識の理解度や応用力を評価		課題提出	20%	出された宿題を期限までに提出し、丁寧に取り組んでいるかどうかで評価	
小テスト	40%	随時単語テスト、各課終了後の小テストにより、授業内容の理解度や家庭学習における復習の程度を評価		学習に対する取り組み姿勢	10%	授業において積極的に発声や発話をしているかどうか、また授業や家庭学習において、明らかにになった疑問に対し解決の努力をしているかどうか、問題が	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>授業で学習した内容は、次回までにしっかり復習をしてください。教科書添付のCDを利用して、言語習得にとって最も大切な「発音練習」を繰り返して行ってください。出された宿題は丁寧に取り組み、理解を定着させる努力をしてください。理解できたこと、できないことを明確にし、自ら解決できないことは、次回の授業の際に、あるいはメールですぐに質問してください。</p>				<p>質問があればなるべくその場ですぐに、または授業の前後に行ってください。なお、ゆっくり質問時間を取りたい方は相談に応じますので、遠慮なく申し出てください。また、メールでの質問はいつでも大歓迎です！（メールアドレス：mailto:maifuft@po30.lcv.ne.jp）</p>			
教科書・テキスト	小野寿美子・中川明博・西巻丈児著『KREUZUNG NEO クロイツング・ネオ』朝日出版社、2011年『ネオ』初版、2,500円＋税（ISBN：978-4-255-25345-9）			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業の受講者は、1 学期開講の「ドイツ語」を一緒に受講してください。（教科書前半部は「」で扱います）</li> <li>・語学習得は、一段一段の積み重ね。家庭での復習や発音練習もしっかり行ってください。</li> <li>・授業には必ず辞書を持参してください。（「ドイツ語」初回授業で紹介）</li> </ul>		
参考書・参考資料等	要望や必要に応じて授業の際に紹介します。			その他・特記事項	1 学期開講の「ドイツ語」で使用したテキストを継続して使用します。		

授業科目		中国語					
担当教員		谷口 眞由実		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
初めて中国語を学ぶ学生を対象に初期段階で必要な発音と基本文法事項・語彙を学習する。拼音字母の発音、声調、音節の発音に習熟することをはじめとして、聞く、話す、読む、書くの4つの能力にわたる中国語の基礎学力を身につける。基礎文法については、豊富な例文を取り上げ、繰り返し練習問題に取り組むことで要点の理解を進める。また、例文については音読み、暗唱できるようにする。最後には学習した文型を使いながら、自己紹介ができるようにする。 Chinese				拼音字母で表記された音声を正確に発音することができ、また、拼音字母によって表記された単語や短文を簡体字に直したり、日本語訳ができる。更に基礎的な文法を用いた簡単な会話や自己紹介ができるようにする。			
教授方法	講義形式で発音や基礎文法を分かりやすく説明した後、繰り返し練習を行う。単語や例文については2人組になって練習を行い、互いに発音や文法をチェックしあう。また、受講者は語学教材のCDなどを用いて、書き取りや中文訳を行うとともに、短文を暗唱し、発表する。発音のチェック、文法の理解度を確認しながら、授業を進めることで基礎的な学力を身につける。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	中国語とは：簡体字、拼音字母、文法の特徴。発音1：音節、声調、単母音、複母音						
第2回	発音2：子音、鼻母音、er化						
第3回	発音3：声調変化、声調の組み合わせ、日常の挨拶						
第4回	発音4：中国語基本音節表、漢詩「登鸛雀樓」を読む						
第5回	第1課「你好！」：名前の言い方、“是”構文						
第6回	第1課「你好！」：“吗”を使う疑問文、出身地の言い方、副詞“都”						
第7回	第2課「这是谁的课本？」：指示代名詞、疑問詞“谁”						
第8回	第2課「这是谁的课本？」：助詞“的”、語気助詞“呢”、副詞“也”						
第9回	第3課「今天几号？」：数の言い方、数量名詞述語文、年齢の聞き方						
第10回	第3課「今天几号？」：年月日、曜日の言い方、聞き方						
第11回	第4課「我们去哪儿？」：動詞述語文、正反疑問文、場所の表現、語気助詞“吧”						
第12回	第4課「我们去哪儿？」：数の聞き方、お金の単位、動詞句を目的語に取れる動詞						
第13回	第5課「今天下午天气怎么样？」：形容詞述語文、程度副詞、時間の言い方						
第14回	第5課「今天下午天气怎么样？」：程度の聞き方、助詞“的”、量詞						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	期末に筆記試験を実施する。学習した拼音字母、語彙、基礎文法事項や中文訳などについて理解できているかを問う問題とし、その点数で評価する。		口頭発表、レポート	20	最後の時間に自己紹介をひとりずつ発表するとともに、その内容を簡体字で記述したレポートを提出する。	
平常点	20	普段の授業での暗唱、小テストなどの取り組みを全体的に評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前に教科書を予習し、分からない単語は調べ、教科書付属のCDで発音の予習を行う。事後には、学習した単語や構文を復習し、本文を暗唱すること。				授業中や授業後に適宜質問・相談を受ける。丁寧に答えていきたい。			
教科書・テキスト	『李麗と話そう！中国語初級文法&会話』中国語教育実践方法論研究会編、伊藤さとみ・曹泰和監修、郁文堂、2500円＋税			受講生に望むこと	例文の発音や練習問題の発表など、ぜひ恥ずかしがらずに大きな声を出して発音してほしい。また、こまめに辞書を引くようにしてほしい		
参考書・参考資料等	授業時に紹介する。			その他・特記事項	辞書を紹介するので、できれば購入してほしい。また、授業中、パソコンやスマホの使用は原則禁止。		

授業科目	中国語						
担当教員	谷口 眞由実			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
この授業では、「中国語」で学んだ初級段階の発音と基本文法事項・語彙についての復習を交えつつ、一段階進めて多くの語彙や呼応関係、文法事項を学ぶ。特に日常生活や中国旅行など、実際の場面で役立つ例文を豊富に学習し、繰り返し練習問題に取り組むことで理解を進める。音読練習、暗唱を盛り込み、頭で理解するだけでなく中国語の音を体で感じながら、発音と構文を一体として習得する。また2人組みでの会話の発表などを通じて実践的な中国語によるコミュニケーション能力を身につける。 Chinese				「中国語」で学んだ基礎知識を再度復習しながら、さらにさまざまな言いまわしや一歩進んだ文法事項について学び、簡単な表現について和文中訳ができるようにする。会話文と文章とを交えてさまざまな中国語表現を学んで身につける。さらに中国語での豊かなコミュニケーション能力を養うことをめざす。			
教授方法	発音や基礎文法を丁寧に分かりやすく説明し、練習を繰り返す。2人組になって、発音や会話の練習などを行い、互いに発音や文法をチェックしあう。また、語学教材のCDで例文の発音を聞いて復唱したり、聞き取りを適宜取り入れることによって、中国語の音を感じて理解するよう図りたい。受講者は短文を暗唱し、2人組みになって会話を皆の前で発表する。発表を通じて理解度を確認し合うとともに、コミュニケーション能力を学ぶ。						
履修条件	「中国語」を履修してから、履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	発音の復習、「中国語」の文法の復習						
第2回	第7課「今天太热了!」:比較構文、比較構文、比較構文						
第3回	第7課「今天太热了!」:同程度を表す構文、仮定の言い方、並列の言い方						
第4回	第8課「我已经到池袋了」:実現を表す助詞“了”、変化を表す“了”、いろいろな副詞						
第5回	第8課「我已经到池袋了」:連動文、“先・・・然后・・・”						
第6回	第9課「李丽在家吗?」:存在を表す動詞“在”、時間の言い方						
第7回	第9課「李丽在家吗?」:二重目的語構文、介詞“给”						
第8回	第10課「你去过中国吗?」:経験を表す“过”、“是...的”構文						
第9回	第10課「你去过中国吗?」:疑問詞“怎么”、介詞“在”						
第10回	第11課「明天就是文化节了」:語気助詞“呢”、様態補語						
第11回	第11課「明天就是文化节了」:並列の言い方“一边・・・一边・・・”						
第12回	第12課「离机场还有多远?」:時間量の言い方、概数の言い方、禁止の言い方						
第13回	第12課「离机场还有多远?」:介詞“离”、介詞“从”、“到”						
第14回	私のある一日を話してみよう!						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	期末に筆記試験を実施する。学習した拼音字母、簡体字、語彙、基礎文法事項や中文訳などについて理解できているかを問う問題とし、その点数で評価			口頭発表、レポート	20	最後の時間にある一日の過ごし方について口頭で1人ずつ発表するとともに、内容を簡体字と拼音で記述したレポートを提出する。
平常点	20	普段の授業での暗唱、小テストなどの取組みを全般的に評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
予習時に、新出単語を辞書で調べ、本文を理解し、付属のCDで発音練習を行ってほしい。また、授業後には授業で学んだ内容を復習し、できるだけ暗唱してほしい。				授業中や授業後に適宜質問を受けたい。できるだけその場で答えるようにするが、場合によっては次回までに回答を準備することもある。			
教科書・テキスト	『李麗と話そう!中国語初級文法&会話』中国語教育実践方法論研究会編、伊藤さとみ・曹泰和監修、郁文堂、¥2,500+税（1学期に使用したもの）			受講生に望むこと	発音したり、他の学生の前に出て会話を発表したりするのを恥ずかしがらず、積極的に行なってほしい。		
参考書・参考資料等	参考書や辞書については、授業の中で紹介する。			その他・特記事項	辞書を授業時に紹介するので、できれば購入してほしい。また、授業中、パソコンやスマホの使用は原則禁止。		

授業科目	スペイン語						
担当教員	織田 竜也			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>スペイン語の入門クラス。スペイン語理解の基礎として、アルファベット、発音、アクセント、数詞、規則動詞、ser動詞、estar動詞、名詞の性と数、冠詞、形容詞、不規則動詞、疑問詞、数字、時刻、前置詞などを講義する。講義した文法事項を踏まえて「聴く」「話す」訓練を行う。</p>				<p>初めてスペイン語を学ぶ学生を対象とする。初歩的な文法事項を理解し、簡単な自己紹介や旅先で買い物できる程度の会話力、看板やレストランのメニューを理解する程度の読解力の習得を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠A1程度の語学力を習得することを目標とする。</p>			
教授方法	文法事項の講義の後、演習形式で対話の練習を行う。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション、講義：Unidad 1 アルファベット、発音、アクセント						
2	演習：国、挨拶、数字						
3	講義：Unidad 2 人称代名詞、名詞の性と数、ser動詞冠詞、形容詞						
4	演習：自己紹介						
5	講義：Unidad 3 冠詞、所有詞、形容詞、estar動詞						
6	演習：都市、大学						
7	スペイン語の映画						
8	文法事項の復習、中間テスト						
9	講義：Unidad 4 動詞の現在形、疑問詞、前置詞						
10	演習：時刻と曜日、日常						
11	講義：Unidad 5 指示詞、所有詞、不規則動詞						
12	演習：家族の紹介						
13	講義：Unidad 6 hayの用法、不定詞						
14	全体のまとめ、期末試験						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	10				中間試験	30	
期末試験	60						
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		
事後学習：単語の記憶、会話の練習など					面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。		
教科書・テキスト	Juan Carlos Moyano Lópezほか『¡Muy bien! Curso de español』（2018年、朝日出版社）。				受講生に望むこと	どうすれば楽しく積極的に学習できるのか。性格や気質を考えて、自分の学習方法を発見してください。	
参考書・参考資料等	宮本博司（編）『改訂版 スペイン語ミニ辞典』（2003年、白水社）。				その他・特記事項	特になし。	

授業科目	スペイン語						
担当教員	織田 竜也			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>スペイン語の初級・中級クラス。複雑な文を理解するために、前置詞を伴う人称代名詞、不規則動詞、直接目的人称代名詞、間接目的人称代名詞、大名動詞、接続詞、点過去、線過去などについて講義する。構文を理解することで会話での「聴く」「話す」能力ばかりでなく、メールや雑誌などを「読む」「書く」能力を高める。</p>				<p>入門程度のスペイン語を習得済みの学生を対象とする。初級から中級程度の文法事項を理解し、スペイン語話者と簡単なやりとりができる程度の会話力、辞書を使いながら易しいスペイン語の読み物を読み進める程度の読解力の習得を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠A2～B1程度の文法事項と語彙を習得することを目標とする。</p>			
教授方法	文法事項の講義の後、演習形式で対話の練習を行う。						
履修条件	スペイン語 程度の入門的な学習を終えていること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	入門的知識の確認、講義：Unidad 7 gustar動詞						
2	演習：好み、予定						
3	講義：Unidad 8 不規則動詞、直接目的人称代名詞						
4	演習：買い物						
5	講義：Unidad 9 不規則動詞、間接目的人称代名詞						
6	演習：レストラン						
7	スペイン語の映画						
8	文法事項のまとめ、中間試験						
9	講義：Unidad 10 代名動詞、天気						
10	演習：祭りや行事						
11	講義：Unidad 11 estar動詞の応用、接続詞						
12	演習：体調と気分						
13	講義：Unidad 12 点過去と線過去						
14	全体のまとめ、期末試験						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	10				中間試験	30	
期末試験	60						
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事後学習：単語の記憶、会話の練習など。				面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。			
教科書・テキスト	Juan Carlos Moyano Lópezほか『¡Muy bien! Curso de español』（2018年、朝日出版社）。			受講生に望むこと	どうすれば楽しく積極的に学習できるのか。性格や気質を考えて、自分の学習方法を発見してください。		
参考書・参考資料等	宮本博司（編）『改訂版 スペイン語ミニ辞典』（2003年、白水社）。			その他・特記事項	特になし。		



授業科目		日本語					
担当教員		二本松 泰子		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
留学生在日本語で口頭発表したり1,200字程度のレポートを書いたりするために必要な知識として、日本語の文法および語彙の基本的な学習を行う。文法については、品詞の知識と文章上での単語の使い方を中心に学習を進め、正しい日本語の組み立て方を理解する。語彙については、普遍性の高い言葉を学ぶために新聞記事などを取り上げ、その読解および要約を通して知識を習得する。担当者による講義以外に、受講生にプレゼンテーションや課題作文を実施することによって、より実践的な日本語運用能力を身に付けることを目指す。それと併せて、BJTビジネス日本語能力テストのスコアが700点以上（480点以上でJLPTのN1におおむね相当する）獲得できるスキルも養成する。				ねらい 日本語の基本的な文法と語彙に関する知識を学ぶ。 到達目標 BJTビジネス日本語能力テストのスコアが700点以上獲得できる実用的な日本語運用能力を習得する。			
教授方法	授業は毎回配布するプリント及びパワーポイントを中心に進める。必要に応じて動画などの視聴覚教材も利用して講義する。また、受講生にプレゼンテーションや作文などの演習を課す。						
履修条件	日本語 も履修することが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	日本語の文の法則 文節と品詞について						
2	主語の使い分け 格助詞「が」と係助詞「は」の違い						
3	動作を表すニュアンス 自動詞と他動詞						
4	連用修飾の多様性 副詞の種類						
5	文脈のつなぎ方 接続詞の種類						
6	距離感の表し方 指示代名詞の使い方						
7	受け身の表現 助動詞「れる」「られる」						
8	使役の表現 助動詞「せる」「させる」						
9	敬語の種類 尊敬語・謙譲語・丁寧語						
10	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く						
11	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く						
12	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く						
13	受講生によるプレゼンテーション 正しい日本語で自己表現をする						
14	受講生による日本語作文 1,200字程度の文章を書く						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	60%	授業中に学んだ日本語の文法および語彙について正しく理解できているかを評価基準とする。		授業レポート	20%	1,200字程度の作文を正しい日本語で書くことができるかを評価基準とする。	
上記以外の授業評価	20%	授業中のプレゼンテーションにおいて正しく日本語を運用できているかを評価基準とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：教科書の予習および授業中に与えられた宿題は必ず準備してきてください。 事後学習：授業中に習った日本語の語彙・漢字や文法などの知識については、毎回必ず復習して覚えてください。				毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はオフィスアワーなどを利用して研究室に来てください。			
教科書・テキスト	毎回、授業で使用するプリントを配布します。			受講生に望むこと	毎回、必ず国語辞典（電子辞書可）を持ってきてください。また、BJTや、それ以外の日本語の資格試験も積極的に受験してください。		
参考書・参考資料等	必要に応じてプリントを配布します。			その他・特記事項	地域の行事などに積極的に参加するなどして、日常生活においても、生きた日本語を学ぶようにしてください。		

授業科目	日本語						
担当教員	谷口 眞由実・二本松 泰子		必修・選択	選択	単位数	1単位	
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2 学期		授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生	全学科共通	関連資格			備考		
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>「日本語」を履修した外国人留学生を対象とした授業とする。日本語の語彙や文法についての基礎知識を確認しながら、幅広いテーマについて書かれた本文を読んで内容を把握し、ディスカッションを行なって理解を深める。次に本文について要旨や感想、意見を短文にまとめ、学生同士互いに批評し合ってさらに手直し提出する。これらの過程を通して「聞く・話す・読む・書く」の4つの能力にわたって総合的な力を身につける。最後に、本文のテーマに沿ったレポートを書き、明解な文章を作成する力を養う。 Japanese Language</p>				<p>すでに学んできた日本語の語彙や文型、文法を基礎として日常的な場面で必要な日本語の理解に加えて、より広い場面で使われる日本語を理解することができる能力を身につける。幅広い話題について書かれた記事や簡単な評論を読んで内容を理解したり、自分の意見を述べたり、書いたりできること（日本語能力試験N2レベル）を目標とする。</p>			
教授方法	演習形式で行なう。まず教科書の各課の本文を順番に読み、内容を把握する。次に全員で本文についてディスカッションを行なうことで、理解を深める。その後、本文について各自の感想や意見を短文にまとめ、グループで互いに批評しあう（ピアレスポンス）。最後に他人の意見を踏まえ、文章を手直しして提出する。実践的な練習を通して、コミュニケーションを円滑に行なう能力と文章を書く力を養う。言葉の背景である日本の文化や話題になっている時事についても、適宜授業の中に織り込む。						
履修条件	「日本語」を履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	「新たな出会い」（印象的に自己紹介する）						
第2回	「時間を生かす」（時間の使い方についての情報をやりとりする）						
第3回	「緊急事態」（緊急事態が起こって経験したことについて話す）						
第4回	「世代を超えた交流」（故郷や住んだことのある場所やそこの生活を紹介する）						
第5回	「言葉を楽しむ」（日本語表現と自国の表現を比べる）						
第6回	「ライフスタイル」（様々な人のライフスタイルを知り、自分自身の考えや経験と比較する）						
第7回	「トレンドに乗ってつながる」（社会の流行やトレンドの中から興味のあるものを取り上げる）						
第8回	「情報社会に生きる」（情報やメディアについての自分の意見を述べる）						
第9回	「学校生活」（学校事情についての各国の違いや地震の経験を述べる）						
第10回	「働くということ」（自分の将来について考えるため仕事に対する考えを周囲と共有する）						
第11回	「地球に生きる」（環境について問題になっていること、環境のためにできることを述べる）						
第12回	「科学の力」（科学技術に関する課題に触れ、科学が社会に果たす役割を考える）						
第13回	「豊かさ幸せ」（豊かさについての多様な価値観を知り、自分の考えを客観的に振り返る）						
第14回	レポートを書く						
共通の評価基準							
幅広い場面で使われる日本語を理解することができるかを評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	学習した語彙・文法などが理解できているか、聞き取りや書き取りができるかを問う問題とし、基本的な知識の理解度によって評価する。		小テスト・作文	40	本文についての作文を実施し、語彙・文法などの理解度・習熟度によって評価する。最後に各自本文に関連したテーマについてレポートを作成し、自分の	
平常点	20	普段、意見を述べたり、ディスカッションやグループでの学習に積極的に参加しているか評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
本文の予習、および事後の課題作文を作成し、提出すること。				授業時間中や時間後に受け付ける。			
教科書・テキスト	『できる日本語中級』（アルク、嶋田和子監修）			受講生に望むこと	ディスカッションなどに積極的に参加してほしい。		
参考書・参考資料等	授業時に適宜紹介する。			その他・特記事項	国語辞典を持参し、適宜引いてみてほしい。授業時間中は、原則としてパソコン・スマホは使用しないこと。		

授業科目	English Lectures on Cultural Issues A						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures in English that will cover a variety of topics relevant to global and regional understanding, with an emphasis on important cultural issues. This course will give students the experience of attending academic lectures in English at the university level, give students a higher-level understanding of cultural issues that will help them to solve contemporary problems, and strengthen skillsets necessary to achieve leadership levels of success on language proficiency tests such as the TOEIC.				This class has three important goals. First, students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures. Students will prepare for lectures by reading materials outside of class, watching videos, and studying vocabulary. Second, students will develop note-taking skills in order to systematically organize the information they are listening to during the lectures. Third, students will demonstrate they have understood the material by analyzing it and developing opinions in small discussion groups during lecture breaks.			
教授方法	In order to deepen their knowledge of both the English language and topics under discussion, students will be expected to do preparatory work outside of class, including studying lecture-specific vocabulary lists, reading outside materials, and watching videos. Students will be required to take notes in class and turn in their notes as part of the grade. At the end of each quarter students will demonstrate understanding of course materials in the form of a comprehensive essay-based examination. There will also be several small tests and reading checks to make sure that students understand the materials.						
履修条件	-						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容						
1	Class orientation, introduction to notetaking strategies; Lecture 1: What is nature?						
2	Lecture 2: A history of the idea of nature; changing ideas of nature over time; comparative conceptualizations of nature						
3	Lecture 3: Ecology and ecological activism; understandings of ecosystems; Earth Day; Swamp Thing						
4	Lecture 4: The art of nature: Landscape painting and glowing rabbits						
5	Lecture 5: The uses and misuses of the idea of evolution; Stephen J. Gould's The Mismeasure of Man						
6	Lecture 6: "Well, that's just not natural!" Social control, gender norms, and the idea of 'the natural.'						
7	Lecture 7: Rice farming, green deserts, agriculture and biodiversity; sample essay-based examination						
8	Lecture 8: Forests and culture, Nausicaa and Mononoke Hime, trees in cultural representation						
9	Lecture 9: Ideas about animals; the Great Chain of Being; Descartes; animal consciousness and animal rights						
10	Lecture 10: Properties of nature: Who owns nature?						
11	Lecture 11: Indigenous idea of nature, indigenous activists and poetics						
12	Lecture 12: Earth in crisis 1: Plastic, pollution, pesticides, and the insect apocalypse						
13	Lecture 13: Earth in crisis 2: The climate crisis, Extinction Rebellion, Greta Thunberg						
14	Lecture 14: Earth in crisis 3: Visualizing a different future; prescriptions for a burning planet						
<b>共通の評価基準</b>							
Students prepare for and understand university level lectures on cultural issues. Students can develop opinions about what they have learned in lecture and express those opinions clearly in end-of-term in-class essays. Students will expand their knowledge of academic English and subject specific vocabulary related to the lectures.							
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
Final Exam	50%	Open note final essay exam			Vocabulary tests	20%	Subject-specific vocabulary tests related to lecture material
Student notes	20%	Student notebooks will be checked and graded			Other	10%	Other class assignments and activities
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students will be expected to read materials and watch videos outside of class in preparation for lecture. Students will study vocabulary in order to prepare for lecture. There will be short quizzes and homework checks. Students will be required to take lecture notes and keep a class notebook.				If students have any questions for the instructor they should feel free to ask at any time. If students want to make an appointment to meet please ask the instructor in class or send an email.			
教科書・テキスト	Necessary materials will be handed out in class or made available online.			受講生に望むこと	Students should prepare for class by reading all necessary materials, studying required vocabulary, and finishing any other necessary lecture preparation. Students should actively take notes in class and join in discussion activities.		
参考書・参考資料等	Electronic dictionary with good English sample sentences.						

その他・  
特記事項

-

授業科目	English Lectures on Social Issues A						
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy		必修・選択	選択	単位数	2単位	
履修年次	3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)				
Students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures in English that will cover a variety of topics relevant to global and regional understanding, with an emphasis on important social issues. This course will give students the experience of attending academic lectures in English at the university level, give students a higher-level understanding of social issues that will help them to solve contemporary problems, and strengthen skillsets necessary to achieve leadership levels of success on language proficiency tests such as the TOEIC.			This class has three important goals. First, students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures. Students will prepare for lectures by reading materials outside of class, watching videos, and studying vocabulary. Second, students will develop note-taking skills in order to systematically organize the information they are listening to during the lectures. Third, students will demonstrate they have understood the material by analyzing it and developing opinions in small discussion groups during lecture breaks.				
教授方法	In order to deepen their knowledge of both the English language and topics under discussion, students will be expected to do preparatory work outside of class, including studying lecture-specific vocabulary lists, reading outside materials, and watching videos. Students will be required to take notes in class and turn in their notes as part of the grade. At the end of each quarter students will demonstrate understanding of course materials in the form of a comprehensive essay-based examination. There will also be several small tests and reading checks to make sure that students understand the materials.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction: structure of the course and content covered						
2	(In)security: forms and consequences						
3	Inequality: global perspectives						
4	Inequality: local perspectives						
5	Inequality: accessibility and gender						
6	Precarity: the changing nature of work						
7	Consumerism: winners and losers						
8	Migration: push-factors and sending countries						
9	Migration: pull-factors and receiving countries						
10	Innovation and Technology: friend or foe						
11	Governments and the Public: doing democracy in the 21st century						
12	Problem Solving: local actors						
13	Problem Solving: global actors						
14	Final comprehensive essay-based examination						
共通の評価基準							
Students prepare for and understand university level lectures on social issues. Students can develop opinions about what they have learned in lecture and express those opinions clearly in end-of-term in-class essays. Students will expand their knowledge of academic English and subject specific vocabulary related to the lectures.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Final Exam	50	Open note final essay exam		Vocabulary Tests	20	Subject-specific vocabulary tests related to lecture materials	
Student Notes	20	Student notebooks will be checked and graded		Other	10	Other class activities and assignments	
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応				
Students will be expected to read materials and watch videos outside of class in preparation for lecture. Students will study vocabulary in order to prepare for lecture. There will be short quizzes and homework checks. Students will be required to take lecture notes and keep a class notebook.			If students have any questions for the instructor they should feel free to ask at any time. If students want to make an appointment to meet please ask the instructor in class or send an email.				
教科書・テキスト	Necessary materials will be handed out in class.		受講生に望むこと	Students should prepare for class by reading all necessary materials, studying required vocabulary, and finishing any other necessary lecture preparation. Students should actively take notes in class and join in discussion activities.			
参考書・参考資料等	Electronic dictionary with good English sample sentences.						

その他・  
特記事項

-

授業科目	Advanced English Communication (A1)						
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	選択	単位数	1単位	
履修年次	3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)				
Building on the 2-year EPGM Fluency framework, students will develop their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking for understanding, speaking and writing for communicative purposes; and familiarize themselves with the TOEIC Service List. Students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course. Topics for classroom-based activities and discussions will include social issues and career-based problems and solutions.			This class has three important goals. First, students will develop the four skills for communicative purposes. Second, students will familiarize themselves with the TOEIC Service List. Third, students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course.				
教授方法	Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Class orientation, introduction of Discussion Topic 1 (work-life balance), introduction of the Study Progress Guide (SPG) and semester-long vocabulary targets						
2	Textbook Unit 1, discussion preparation, SPG						
3	Textbook Unit 1, discussions, + introduction of Discussion Topic 2 (visitors experiences in Nagano), SPG						
4	Textbook Unit 2, information gathering and data collection, SPG						
5	Textbook Unit 2, report on information and data, SPG						
6	Textbook Unit 2 + Discussion Test						
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3 (service providers experiences visitors in Nagano and or Japan), SPG						
8	Textbook Unit 3, information gathering & data collection, SPG						
9	Textbook Unit 3, report on information and data, SPG						
10	Textbook Unit 3, discussion, introduction of Discussion Topic 4 (issues facing foreign blue/pink collar workers in Nagano and or Japan), SPG						
11	Textbook Unit 4, information gathering and data collection, SPG						
12	Textbook Unit 4, report on information and data, SPG						
13	Textbook Unit 4 + Discussion Test, SPG						
14	Evaluation of Discussion Video (2), SPG						
共通の評価基準							
Students can participate in academic discussions. Students can gather relevant information for academic discussions related to social issues and career-based problems and solutions.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Discussion	40	Multiple recorded discussion tests		Vocabulary	15	Active study of the TOEIC Service List	
Textbook	35	Textbook-related activities and completion of the Study Progress Guide		Other	10	Other classroom assignments	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students will be busy inside and outside class.				Contact me by email, come to my office, or speak to me before, during, or after class.			
教科書・テキスト	Business Plus 3 – Preparing for the Workplace, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students need to demonstrate a willingness to communicate and a willingness to develop personal learning goals.		
参考書・参考資料等	Access to a good dictionary (paper, electronic, or online) will be helpful.			その他・特記事項	Good luck. Work hard. Little by little. Step by step.		

授業科目	Advanced English Communication (A3)						
担当教員	Jean-Pierre Richard			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Building on the 2-year EPGM Fluency framework, students will develop their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking for understanding, speaking and writing for communicative purposes; and familiarize themselves with the TOEIC Service List. Students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course. Topics for classroom-based activities and discussions will include social issues and career-based problems and solutions.				This class has three important goals. First, students will develop the four skills for communicative purposes. Second, students will familiarize themselves with the TOEIC Service List. Third, students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course.			
教授方法	Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Class orientation, introduction of Discussion Topic 1 (work-life balance), introduction of the Study Progress Guide (SPG) and semester-long vocabulary targets						
2	Textbook Unit 1, discussion preparation, SPG						
3	Textbook Unit 1, discussions, + introduction of Discussion Topic 2 (visitors experiences in Nagano), SPG						
4	Textbook Unit 2, information gathering and data collection, SPG						
5	Textbook Unit 2, report on information and data, SPG						
6	Textbook Unit 2 + Discussion Test						
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3 (service providers experiences visitors in Nagano and or Japan), SPG						
8	Textbook Unit 3, information gathering & data collection, SPG						
9	Textbook Unit 3, report on information and data, SPG						
10	Textbook Unit 3, discussion, introduction of Discussion Topic 4 (issues facing foreign blue/pink collar workers in Nagano and or Japan), SPG						
11	Textbook Unit 4, information gathering and data collection, SPG						
12	Textbook Unit 4, report on information and data, SPG						
13	Textbook Unit 4 + Discussion Test, SPG						
14	Evaluation of Discussion Video (2), SPG						
共通の評価基準							
Students can participate in academic discussions. Students can gather relevant information for academic discussions related to social issues and career-based problems and solutions.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Discussion	40	Multiple recorded discussion tests		Vocabulary	15	Active study of the TOEIC Service List	
Textbook	35	Textbook-related activities and completion of the Study Progress Guide		Other	10	Other classroom assignments	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students will be busy inside and outside class.				Contact me by email, come to my office, or speak to me before, during, or after class.			
教科書・テキスト	Business Plus 3 – Preparing for the Workplace, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students need to demonstrate a willingness to communicate and a willingness to develop personal learning goals.		
参考書・参考資料等	Access to a good dictionary (paper, electronic, or online) will be helpful.			その他・特記事項	Good luck. Work hard. Little by little. Step by step.		



授業科目	Advanced English Communication (A2)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Building on the 2-year EPGM Fluency framework, students will develop their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking for understanding, speaking and writing for communicative purposes; and familiarize themselves with the TOEIC Service List. Students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course. Topics for classroom-based activities and discussions will include social issues and career-based problems and solutions.				This class has three important goals. First, students will develop the four skills for communicative purposes. Second, students will familiarize themselves with the TOEIC Service List. Third, students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course.			
教授方法	Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Class orientation, introduction of Discussion Topic 1 (work-life balance), introduction of the Study Progress Guide (SPG) and semester-long vocabulary targets						
2	Textbook Unit 1, discussion preparation, SPG						
3	Textbook Unit 1, discussions, + introduction of Discussion Topic 2 (visitors experiences in Nagano), SPG						
4	Textbook Unit 2, information gathering and data collection, SPG						
5	Textbook Unit 2, report on information and data, SPG						
6	Textbook Unit 2 + Discussion Test						
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3 (service providers experiences visitors in Nagano and or Japan), SPG						
8	Textbook Unit 3, information gathering & data collection, SPG						
9	Textbook Unit 3, report on information and data, SPG						
10	Textbook Unit 3, discussion, introduction of Discussion Topic 4 (issues facing foreign blue/pink collar workers in Nagano and or Japan), SPG						
11	Textbook Unit 4, information gathering and data collection, SPG						
12	Textbook Unit 4, report on information and data, SPG						
13	Textbook Unit 4 + Discussion Test, SPG						
14	Textbook Unit 4 + Discussion Test, SPG						
共通の評価基準							
Students can participate in academic discussions. Students can gather relevant information for academic discussions related to social issues and career-based problems and solutions.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Discussion tests	40	Discussion tests		TOEIC	15	TOEIC Service List Vocabulary Test	
Textbook	35	Textbook-related activities and completion of the Study Progress Guide		Assignments	10	Other activities	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Read, prepare, and do homework before classes. Engage in discussion.				Contact via Google Form, email, or come to office hours			
教科書・テキスト	Business Plus 3 – Preparing for the Workplace, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Willing to communicate.		
参考書・参考資料等	Dictionary, notebook			その他・特記事項	You cannot miss more than 4 classes in order to pass the class.		

授業科目	Advanced English Communication (A4)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Building on the 2-year EPGM Fluency framework, students will develop their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking for understanding, speaking and writing for communicative purposes; and familiarize themselves with the TOEIC Service List. Students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course. Topics for classroom-based activities and discussions will include social issues and career-based problems and solutions.				This class has three important goals. First, students will develop the four skills for communicative purposes. Second, students will familiarize themselves with the TOEIC Service List. Third, students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course.			
教授方法	Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Class orientation, introduction of Discussion Topic 1 (work-life balance), introduction of the Study Progress Guide (SPG) and semester-long vocabulary targets						
2	Textbook Unit 1, discussion preparation, SPG						
3	Textbook Unit 1, discussions, + introduction of Discussion Topic 2 (visitors experiences in Nagano), SPG						
4	Textbook Unit 2, information gathering and data collection, SPG						
5	Textbook Unit 2, report on information and data, SPG						
6	Textbook Unit 2 + Discussion Test						
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3 (service providers experiences visitors in Nagano and or Japan), SPG						
8	Textbook Unit 3, information gathering & data collection, SPG						
9	Textbook Unit 3, report on information and data, SPG						
10	Textbook Unit 3, discussion, introduction of Discussion Topic 4 (issues facing foreign blue/pink collar workers in Nagano and or Japan), SPG						
11	Textbook Unit 4, information gathering and data collection, SPG						
12	Textbook Unit 4, report on information and data, SPG						
13	Textbook Unit 4 + Discussion Test, SPG						
14	Textbook Unit 4 + Discussion Test, SPG						
共通の評価基準							
Students can participate in academic discussions. Students can gather relevant information for academic discussions related to social issues and career-based problems and solutions.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Discussion tests	40	Discussion tests		TOEIC	15	TOEIC Service List Vocabulary Test	
Textbook	35	Textbook-related activities and completion of the Study Progress Guide		Assignments	10	Other activities	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Read, prepare, and do homework before classes. Engage in discussion.				Contact via Google Form, email, or come to office hours			
教科書・テキスト	Business Plus 3 – Preparing for the Workplace, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Willing to communicate.		
参考書・参考資料等	Dictionary, notebook			その他・特記事項	You cannot miss more than 4 classes in order to pass the class.		

授業科目	Advanced English Communication (A2)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will strengthen their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking necessary for understanding, speaking and writing for communicative purposes, with various language users; and use the TOEIC Service List. Students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of and targeting of clear benchmarks for language improvement. Topics for classroom-based activities and discussions will include current and next generation social issues and career-based problems and solutions.				This class has three important goals. First, students will strengthen their ability to use the four skills necessary for understanding, speaking, and writing for communicative purposes with various language users. Second, students will use the TOEIC Service List. Third, students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of clear benchmarks for language improvement.			
教授方法	Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Class orientation, introduction of Discussion Topic 1, introduction of the Study Progress Guide (SPG) and semester-long vocabulary targets						
2	Textbook Unit 5, discussion preparation, SPG						
3	Textbook Unit 5, discussions, + introduction of Discussion Topic 2 (marketing to for Japanese and non-Japanese), SPG						
4	Textbook Unit 7, information gathering and data collection, SPG						
5	Textbook Unit 7, report on information and data, SPG						
6	Textbook Unit 7 + Discussion Test						
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3 (work-life balance: personal life vs company life, comparing urban and regional Japan), SPG						
8	Textbook Unit 8, information gathering & data collection, SPG						
9	Textbook Unit 8, report on information and data, SPG						
10	Textbook Unit 8, discussion, introduction of Discussion Topic 4 (sustainable development goals), SPG						
11	Textbook Unit 9, information gathering and data collection, SPG						
12	Textbook Unit 9, report on information and data, SPG						
13	Textbook Unit 9 + Discussion Test, SPG						
14	Evaluation of Discussion Video (2), SPG						
共通の評価基準							
17. Students can actively participate in academic discussions. Students can research and collect data to participate in and lead academic discussions related to current and next-generation social issues and career-based problems and solutions.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Discussion	40	recorded discussion tests		Vocabulary	15	TOEIC Service List vocabulary test	
textbook-related activities	35	textbook-related activities and completion of the Study Progress Guide		other activities	10	other activities	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There will be preparation for discussions and independent study.				Students can visit the instructor's office on weekdays or contact by email.			
教科書・テキスト	Business Plus 3 – Preparing for the Workplace, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	A desire to improve English communication skills.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Advanced English Communication (A3)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will strengthen their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking necessary for understanding, speaking and writing for communicative purposes, with various language users; and use the TOEIC Service List. Students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of and targeting of clear benchmarks for language improvement. Topics for classroom-based activities and discussions will include current and next generation social issues and career-based problems and solutions.				This class has three important goals. First, students will strengthen their ability to use the four skills for communicative purposes. Second, students will use the TOEIC Service List. Third, students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of clear benchmarks for language improvement.			
教授方法	Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Class orientation, introduction of Discussion Topic 1, introduction of the Study Progress Guide (SPG) and semester-long vocabulary targets						
2	Textbook Unit 5, discussion preparation, SPG						
3	Textbook Unit 5, discussions, + introduction of Discussion Topic 2 (marketing to for Japanese and non-Japanese), SPG						
4	Textbook Unit 7, information gathering and data collection, SPG						
5	Textbook Unit 7, report on information and data, SPG						
6	Textbook Unit 7 + Discussion Test						
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3 (work-life balance: personal life vs company life, comparing urban and regional Japan), SPG						
8	Textbook Unit 8, information gathering & data collection, SPG						
9	Textbook Unit 8, report on information and data, SPG						
10	Textbook Unit 8, discussion, introduction of Discussion Topic 4 (sustainable development goals), SPG						
11	Textbook Unit 9, information gathering and data collection, SPG						
12	Textbook Unit 9, report on information and data, SPG						
13	Textbook Unit 9 + Discussion Test, SPG						
14	Evaluation of Discussion Video (2), SPG						
共通の評価基準							
Students can participate in academic discussions. Students can gather relevant information for academic discussions related to social issues and career-based problems and solutions.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Discussion	40	recorded discussion tests		Vocabulary	15	TOEIC Service List vocabulary test	
textbook-related assignments	35	assignments from Study Progress Guide		other activities	10	other writing assignments	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There is preparation for class discussions and independent study.				Students can visit the instructor's office on weekdays or contact by email.			
教科書・テキスト	Business Plus 3 – Preparing for the Workplace, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	A desire to improve their own English skills		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Advanced English Communication (A1)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will strengthen their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking necessary for understanding, speaking and writing for communicative purposes, with various language users; and use the TOEIC Service List. Students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of and targeting of clear benchmarks for language improvement. Topics for classroom-based activities and discussions will include current and next generation social issues and career-based problems and solutions.				This class has three important goals. First, students will strengthen their ability to use the four skills necessary for understanding, speaking, and writing for communicative purposes with various language users. Second, students will use the TOEIC Service List. Third, students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of clear benchmarks for language improvement.			
教授方法	Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to Discussion Topic 1 (communicating with non-Japanese visitors and residents in Nagano/Japan), the Study Progress Guide (SPG), and vocabulary targets						
2	Textbook Unit 5, discussion preparation, SPG						
3	Textbook Unit 5, discussions, + introduction of Discussion Topic 2 (marketing to for Japanese and non-Japanese), SPG						
4	Textbook Unit 7, information gathering and data collection, SPG						
5	Textbook Unit 7, report on information and data, SPG						
6	Textbook Unit 7 + Discussion Test						
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3 (work-life balance: personal life vs company life, comparing urban and regional Japan), SPG						
8	Textbook Unit 8, information gathering & data collection, SPG						
9	Textbook Unit 8, report on information and data, SPG						
10	Textbook Unit 8, discussion, introduction of Discussion Topic 4 (sustainable development goals), SPG						
11	Textbook Unit 9, information gathering and data collection, SPG						
12	Textbook Unit 9, report on information and data, SPG						
13	Textbook Unit 9 + Discussion Test, SPG						
14	Evaluation of Discussion Video (2), SPG						
共通の評価基準							
Students can actively participate in academic discussions. Students can research and collect data to participate in and lead academic discussions related to current and next-generation social issues and career-based problems and solutions.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Discussion tests	40%	Discussion tests will be videoed and evaluated		TOEIC Service List	15%	Students will be tests of depth of knowledge of the TOEIC Service List	
Textbook	35%	Textbook-related activities and completion of the Study Progress Guide		Other	10%	Other class activities and assignments	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students will be expected to participate actively in all class activities. Students should be self-motivated and will to develop personal learning goals. Homework will be turned in before class.				If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to stop by the instructor's office, or if you want to make an appointment ask during class or send an email.			
教科書・テキスト	Business Plus 3 – Preparing for the Workplace, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins.		
参考書・参考資料等	An electronic dictionary with good English sample sentences.			その他・特記事項	-		

授業科目		Advanced Academic English (A2)					
担当教員	坂 淳一			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックライティングおよびアカデミックライティングのスキルを学ぶ。1,2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。				"高度な英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する力を身につける。ノーベル文学賞も受賞したバートランド・ラッセルの『幸福論』を原文で読み、自分の幸福論も英文エッセイとして書く。ただ読むだけでなく、一部は丁寧に翻訳し、ときには日本語や英語で summary を書き、読んだ内容についてディスカッションを行うなどして、読みを深める。また、批判的に読む訓練として、日本語による論評も行ってもらう。			
教授方法	読解については、全員で討論しながらテキストを読み進める輪読形式。英文エッセイは、「幸福」とは何かについて、個々人で考えながら書き進めてもらう。分量は、英文で1000字以上(A4で2枚くらい。もっと長くなって良い)。最後に、ラッセルの幸福論に対する論評を1000~2000語程度の日本語でまとめる。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業の進め方についての説明、バートランド・ラッセルおよびテキストの紹介。Academic English とはどのようなものかの解説と練習。						
2	輪読(1)、Academic Writing の技術の解説と演習(1)						
3	輪読(2)、Academic Writing の技術の解説と演習(2)						
4	輪読(3)、Academic Writing の技術の解説と演習(3)						
5	輪読(4)、Academic Writing の技術の解説と演習(4)						
6	輪読(5)、Academic Writing の技術の解説と演習(5)						
7	輪読(6)、Academic Writing の技術の解説と演習(6)						
8	輪読(7)、Academic Writing の技術の解説と演習(7)						
9	輪読(8)、Academic Writing の技術の解説と演習(8)						
10	輪読(9)、Academic Writing の技術の解説と演習(9)						
11	輪読(10)、Academic Writing の技術の解説と演習(10)						
12	輪読(11)、Academic Writing の技術の解説と演習(11)						
13	輪読(12)、Academic Writing の技術の解説と演習(12)						
14	輪読(13)、Academic Writing の技術の解説と演習(13)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な英文資料を読みこなすことが出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英文エッセイで展開することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	80	テキストに対する日本語の論評、英文エッセイ、授業内での要約の出来栄		授業での積極性	20	授業内の討論や発表を、どの程度積極的に行っているか	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
各章を2回で読むので、次回読む部分について、指定された方法(日本語での要約、英語での要約、指定された部分の翻訳など)での予復習を怠りなく行って欲しい。学期末には、14回で読んだ部分に関する日本語の論評(和文で1000~2000字程度)と英文エッセイを仕上げ提出すること。				質問は授業中にどんどんして欲しい。相談は研究室に来るか、場合によってはメールでの相談も可。			
教科書・テキスト	Baertrand Russell, The Conquest of Happiness (Liverlight Publishing)			受講生に望むこと	楽しんで、能動的に読んで欲しい。		
参考書・参考資料等	必要に応じて、授業で、あるいは OneNote で提供する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		Advanced Academic English (A1)					
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックライティングおよびアカデミックライティングのスキルを学ぶ。1,2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。				高度な英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する力を身につける。自力で読むのは難しい『Q: Skills for Success』(Level 5, CEFR C1水準)を教材として、読む・書くという英語活動を地道に行う。1つのユニットを授業コマ3回にわたって丁寧に扱うので、授業内外でしっかりと語彙や構文を学習したうえで、批評的思考にもとづき、インプットからアウトプットにつなげる。題材は、言語、ビジネス、メディア、国際関係の4つのトピックがあり、どれも主張と根拠が適切な段落展開のもと提示されており、形式面のモデルとして参考になるだけでなく、専門分野の背景知識として役立つ内容になっている。英語の文献で視野が広がる経験を楽しんでもらいたい。			
教授方法	1つ1つのリーディング教材を丁寧に吟味しながら、目的志向的なライティング活動を行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction (how to use the textbook, online resources, etc)						
2	Unit 1. Education - What is the value of learning a new language: Reading (1)						
3	Unit 1. Education - What is the value of learning a new language: Reading (2)						
4	Unit 1. Education - What is the value of learning a new language: Writing (short)						
5	Unit 2. Business - How is work changing: Reading (1)						
6	Unit 2. Business - How is work changing: Reading (2)						
7	Unit 2. Business - How is work changing: Writing (short)						
8	Unit 3. Media Studies - How well does a picture illustrate the truth: Reading (1)						
9	Unit 3. Media Studies - How well does a picture illustrate the truth: Reading (2)						
10	Unit 3. Media Studies - How well does a picture illustrate the truth: Writing (short)						
11	Unit 4. International Relations - Why is global corporation important: Reading (1)						
12	Unit 4. International Relations - Why is global corporation important: Reading (2)						
13	Unit 4. International Relations - Why is global corporation important: Writing (short)						
14	Peer review of final reports						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>高度な英文資料を読みこなすことが出来ているか。</li> <li>自分の意見を英文エッセイで展開することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
平常点(コメント等)	30	コメントや質問によるリーディング教材の批評的検討への貢献度を測る		ライティング課題	40	語彙や文法、構文を正確に運用できる表現力を測る	
レポート	30	適切な資料の引用を根拠として主張を説得的に論じるライティングスキルを測る					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された資料(文献や動画等)を学習し、事後学習としてリーディング内容の復習およびライティング課題に取り組みを行うこと。				大学のOffice365アカウントから、EmailまたはTeams/Skype for Businessで連絡をください。また、学内オフィスC105にて、簡単な質問は随時、面談はアポイントメントを設定したうえで、受け付けます。			
教科書・テキスト	Q: Skills for Success Level 5 Reading and Writing Split Student Book A with iQ Online Practice [3rd Edition] (Caplan, N., & Douglas, S., Oxford University Press, ISBN: 978-0-19-490408-7) 【以上4冊】			受講生に望むこと	本科目は週1回のペースで進むので、授業時間外に教材を学習する機会を計画的に作りましょう。英語リーディングとライティングのスキルを伸ばしたいという意志があれば、現在のTOEICスコア等は気にせずチャレンジしてください。		
参考書・参考資料等	教科書付属のオンラインエクササイズ、および、OneNote等の資料			その他・特記事項	特になし		

授業科目		Advanced Academic English (A2)																																
担当教員	坂 淳一		必修・選択	選択	単位数	1単位																												
履修年次	3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナバリング																												
対象学生	全学科共通	関連資格		備考																														
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)																															
英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックライティングおよびアカデミックライティングのスキルを学ぶ。1,2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を正確に読みこなし、自分の主張を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。			高度な正確に英文資料を読みこなし、自分の主張を英文エッセイの形で自在に展開する力を身につける。高名な歴史家 E.H.Carr の What Is History? を原文で読むが、ただ読むだけでなく、一部は丁寧に翻訳し、ときには日本語や英語で summary を書き、読んだ内容についてディスカッションを行うなどして、読みを深める。批判的に読む訓練として、日本語による論評も行ってもらう。また、英文エッセイとして、「自分史」を書くことで、英語による深い表現力を磨く。																															
教授方法	読解については、全員で討論しながらテキストを読み進める輪読形式。英文エッセイは、「自分史」について、個々人で書き進めてもらい、教員から助言を与えつつ仕上げってもらう。分量は、英文で1500字以上(A4で3枚くらい。もっと長くなってても良い)。最後に、カーの歴史論に対する論評を2000語程度の日本語でまとめる。																																	
履修条件	特になし																																	
授業計画																																		
実施回	授業内容																																	
1	授業の進め方についての説明、E. H. カーおよびテキストの紹介。Academic English とはどのようなものかの解説と練習。																																	
2	輪読(1)、Academic Writing の技術の解説と演習(1)																																	
3	輪読(2)、Academic Writing の技術の解説と演習(2)																																	
4	輪読(3)、Academic Writing の技術の解説と演習(3)																																	
5	輪読(4)、Academic Writing の技術の解説と演習(4)																																	
6	輪読(5)、Academic Writing の技術の解説と演習(5)																																	
7	輪読(6)、Academic Writing の技術の解説と演習(6)																																	
8	輪読(7)、Academic Writing の技術の解説と演習(7)																																	
9	輪読(8)、Academic Writing の技術の解説と演習(8)																																	
10	輪読(9)、Academic Writing の技術の解説と演習(9)																																	
11	輪読(10)、Academic Writing の技術の解説と演習(10)																																	
12	輪読(11)、Academic Writing の技術の解説と演習(11)																																	
13	輪読(12)、Academic Writing の技術の解説と演習(12)																																	
14	輪読(13)、Academic Writing の技術の解説と演習(13)																																	
共通の評価基準																																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な英文資料を正確に読みこなすことが出来ているか。</li> <li>・自分の主張を英文エッセイで展開することが出来ているか。</li> </ul>																																		
成績評価方法と基準																																		
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準																												
授業レポート	80	テキストに対する日本語の論評、英文エッセイ、授業内での要約などの出来栄		授業での積極性	20	授業内での討論や発表をどの程度積極的に行っているか																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">授業外における学習(事前・事後学習等)</th> <th colspan="4">質問や相談への対応</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">毎回6頁程度読むので、次回読む部分について、指定された方法(日本語での要約、英語での要約、指定された部分の翻訳など)での予復習を怠りなく行って欲しい。英文エッセイ、テキストの論評も、指定された期日までに仕上げる事。</td> <td colspan="4">質問は授業中にどんどんして欲しい。相談は研究室に来るか、場合によってはメールでの相談も可。</td> </tr> <tr> <td>教科書・テキスト</td> <td colspan="3">E. H. Carr, What Is History? (Penguin Classics)</td> <td>受講生に望むこと</td> <td colspan="2">楽しんで、能動的に読んで欲しい。</td> </tr> <tr> <td>参考書・参考資料等</td> <td colspan="3">必要に応じて、授業で、あるいは OneNote で提供する。</td> <td>その他・特記事項</td> <td colspan="2">特になし</td> </tr> </tbody> </table>							授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応				毎回6頁程度読むので、次回読む部分について、指定された方法(日本語での要約、英語での要約、指定された部分の翻訳など)での予復習を怠りなく行って欲しい。英文エッセイ、テキストの論評も、指定された期日までに仕上げる事。			質問は授業中にどんどんして欲しい。相談は研究室に来るか、場合によってはメールでの相談も可。				教科書・テキスト	E. H. Carr, What Is History? (Penguin Classics)			受講生に望むこと	楽しんで、能動的に読んで欲しい。		参考書・参考資料等	必要に応じて、授業で、あるいは OneNote で提供する。			その他・特記事項	特になし	
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応																															
毎回6頁程度読むので、次回読む部分について、指定された方法(日本語での要約、英語での要約、指定された部分の翻訳など)での予復習を怠りなく行って欲しい。英文エッセイ、テキストの論評も、指定された期日までに仕上げる事。			質問は授業中にどんどんして欲しい。相談は研究室に来るか、場合によってはメールでの相談も可。																															
教科書・テキスト	E. H. Carr, What Is History? (Penguin Classics)			受講生に望むこと	楽しんで、能動的に読んで欲しい。																													
参考書・参考資料等	必要に応じて、授業で、あるいは OneNote で提供する。			その他・特記事項	特になし																													



授業科目	Advanced Academic English (A1)					
担当教員	富田 裕子		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)			
英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミック・リーディング及びアカデミック・ライティングのスキルを学ぶ。1・2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。			高度な英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する力を身につける。この授業では英国の新聞、雑誌の記事、随筆など多種多様な教材を用いて、読解力、語彙力を身につけることを目的とする。できるだけ広い分野をカバーし、要約、要旨のつかみ方、速読の練習もあわせて行う。またその資料が提起している問題を十分理解し、解決策などについてグループ単位で日本語・英語を使って話し合う。更にこの授業を通して、受講生が英国社会や文化が理解できるようにしたい。			
教授方法	授業は演習形式で、担当教員が事前に配布した英字新聞の記事などのプリントを使って、まずテキストの内容確認をし、それから英語でディスカッションを行う。担当教員は受講生にまず英語の生教材を速読・熟読する技術を身につける練習をしてもらう。次に教材の要旨をつかみ、日本語・英語でまとめ、加えて教材に対する自分の意見を日本語・英語で的確に述べるコツを教授する。また教材が提起している問題の解決策について、日本語・英語を使ってクラス・ディスカッションもしてもらう。更に英語でレポートを書く際に必要となる英文構成力や表現力についての指導も行う。この授業は英語と日本語を用いて行う。					
履修条件	特になし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	ガイダンス(自己紹介、授業の進め方・学習方法・評価方法を説明する。)					
2	英字新聞の読み方や英国の新聞について説明する。					
3	英国の教育制度・英国の大学に関する英文記事の講読					
4	英国のパブリックスクールに関する英文記事の講読					
5	英国の階級制度に関する英文記事の講読 1					
6	英国の階級制度に関する英文記事の講読 2 と英文エッセイの書き方の説明					
7	英王室に関する英文記事の講読					
8	肥満問題に関する英文記事の講読					
9	人種問題、移民問題に関する英文記事の講読					
10	女性の社会進出に関する英文記事の講読					
11	強制婚に関する英文記事の講読					
12	ベール着用禁止論争に関する英文記事の講読					
13	経済・ビジネスに関する英文記事の講読					
14	医療と年金問題に関する英文記事の講読					
共通の評価基準						
1. 高度な英文資料を読みこなしが出来るか。 2. 自分の意見を英文エッセイで展開することが出来るか。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
定期試験(筆記)	50%	授業で学んだことがどの程度習得されているかを確認するための試験で、その点数によって評価する。	授業貢献、提出物など	50%	提出物によって評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応			
毎回、教員から授業中に出された課題にしっかり取り組むこと。予習を十分してから授業に臨むこと。			質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。			
教科書・テキスト	教科書は使用しない。プリント教材を配布する。		受講生に望むこと	1. 受講生の積極的な授業参加を期待する。 2. 毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。(電子辞書可) 3. スマートフォンや携帯電話は授業中には使わないこと。 4. 遅刻はしないこと。 5. 予習・復習をよくすること。		
参考書・参考資料等	参考書は必要に応じて授業中に紹介する。					

その他・  
特記事項

各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は評価を下げるので注意すること。しかし怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取る。遅刻は30分までは出席とみなす。

授業科目		心理学					
担当教員	藤田 勉			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
心理学に対して興味や関心をもつ人は多いが、心理学という学問がどういった学問で、どのようなことを研究しているのか理解している人は少ない。心理学の対象・目的・仕事を明確にし、心理学の代表的な研究方法を学ぶことで、心理学とはどのような学問であるのかを理解する。さらに、心理学の様々な分野（知覚心理学、学習心理学、性格心理学、思考心理学、臨床心理学、社会心理学、教育心理学、発達心理学等）における研究成果を知ることにより、その有用性を確認する。				本講義を通じて、受講生は一般に誤解されやすい心理学を正しく理解するとともに、心理学的なものの見方や思考法を学ぶ。			
教授方法	原則的には講義形式で進められるが、受講生が参加・体験できるような実験、調査、検査等を組み入れ、受講生に心理学を“実感”してもらえよう工夫していく。受講生は授業時間以外で講義内容に関して予習・復習を行うことが求められる。今年度は学期中数回の小テストを実施する予定である。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	キックオフ（授業の目的、授業の内容、授業の形式、使用テキスト、成績評価の方法、授業のスケジュールなど）						
第2回	心理学とは何か（心理学の対象）						
第3回	心理学とは何か（心理学の目的、心理学の仕事）						
第4回	心理学の研究法（観察、実験）						
第5回	心理学の研究法（調査、検査、事例研究法）						
第6回	まとめ						
第7回	感覚・知覚心理学（知覚とは、錯視の例、幾何学的錯視他）						
第8回	感覚・知覚心理学（対比現象、反転図形、恒常性、視覚以外の錯覚他）						
第9回	学習心理学（学習とは、行動の種類、レスポンド条件づけの基本手続きと応用研究）						
第10回	学習心理学（オペラント条件づけの基本手続きと応用研究）						
第11回	記憶について（記憶とは、記憶の検査法、記憶の種類、記憶の範囲、記憶の諸現象、記憶術）						
第12回	発達心理学（発達心理学とは、ヒトの発達段階、胎生期～乳児期の発達）						
第13回	発達心理学（乳児期～幼児期の発達）						
第14回	性格心理学（性格とは、性格の分類、性格の形成、性格検査の実際）、授業全体のまとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	50	筆記試験により授業内容の理解度を総合的に評価する。		小テスト（筆記）	35	筆記試験により単元ごとの授業内容の理解度を評価する。学期中数回の実施を予定。	
授業貢献度	15	受講態度等により評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
この授業は60時間の授業外学習が必要である。授業に臨むにあたり、指定された教科書の該当箇所や参考資料等を事前に読んでおくこと。				質問・相談については、原則的には授業時間内で受け付け、当日もしくは後日回答する。その他必要な場合は、初回授業時間に伝えるメール・アドレスにて受け付ける。			
教科書・テキスト	『新版行動科学序説（新版5刷）』藤田勉・藤田直子 世音社 2019 ISBN：4-921012-12-1			受講生に望むこと	本授業を受講することにより、「心理学」の有用性を知り、日常生活に役立ててもらいたい。		
参考書・参考資料等	『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《見方の“クセ”と“思い込み”編》』藤田勉 ほおずき書籍 ISBN978-4-434-17309-7 『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《行動編》』藤田勉 ほおずき書籍 2012 ISBN：978-4-434-17206-9			その他・特記事項	出席は授業開始時に確認する。授業開始後30分までは遅刻、それ以降は欠席とする。		

授業科目	哲学						
担当教員	馬場 智一			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>毎回一つの素朴な疑問について哲学的に考えてゆく。今年度は、フランスの大学入学資格試験で実際に出題された問題と、その模範解答を紹介する。解答を検討する過程で、著名な哲学者の学説や文章を紹介する。授業の後半では、受講者自身に問いを出してもらい、クラス全体で議論する。毎回授業の最後に、学習内容およびディスカッションを振り返る。</p>				<p>ねらい ヨーロッパ文化および近代文明の背景をなす西洋哲学の著名な学説についての知識を身につけると同時に、私たちが生きる世界に対して自ら疑問をもって、哲学的に考えることを学ぶ。</p> <p>到達目標 自明の事柄について哲学的な問いを立てることができる。 立てられた問に含まれる言葉を定義できる。 問に関連する哲学史上の著名な学説を参照することができる。 論証に必要な具体例を挙げるることができる。 立論を論理的に構成できる。 立論を説得的に構築できる。 対話を通じて自らの考えを吟味検討できる。</p>			
教授方法	講義、ディスカッションを主体とし、必要に応じて演習、小テストを実施する。						
履修条件	特にないが、自分の頭で考えることを放棄したい学生には向かない。出張による休講のため補講措置を取る予定である。学年暦で補講日に設定されている土曜日はあらかじめ予定を開けておくこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業の進め方、授業スケジュール、授業で学ぶこと、テストについて、評価について、哲学について						
2	私たちは幸せになるために生きているのか？						
3	自分のことより、他人のことを知る方が簡単か？						
4	自由になるためには選択できれば十分か？						
5	レポートについて（書き方、問いの設定）						
6	自分が属している文化について判断することはできるのか？						
7	言語は道具にすぎないのか？						
8	醜さは芸術家の関心を惹くか？						
9	技術の発展は人間を変容させるのか？						
10	私たちは稼ぐために働いているのか？						
11	理性は必然的に宗教と対立するのか？						
12	レポートのピアレビュー						
13	わたしたちの道徳的信念は経験に基づいているのか？ レポートの提出						
14	レポートの返却、レポート内容の発表						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
平常点	15	受講態度、提出物、ディスカッションへの参加を総合的に評価する。			小テスト	40	小テストを行い、理解度に応じて評価する
授業レポート	45	授業の達成目標への到達度により評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
資料をあらかじめ配布する場合は、事前に読んでおくこと。学習内容について次の回で小テストを行うので、復習をすること。授業で学んだ内容を基にレポートを作成すること。				・他の受講生の参考になるので、質問は、できるだけ授業中に行う。授業の前後にも受け付ける。できるかぎり回答は授業中に行う。			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	自分が知っていることと知らないことを区別するよう努力し、自分の頭で粘り強く考え、問いを多く投げかけること。		
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	倫理学						
担当教員	馬場 智一			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
この授業では倫理学の対象、方法、その応用について講義形式で紹介する。学習内容に関連したディスカッションを適宜行う。小テストおよびレポートを課す。講義ではまず倫理学の対象と方法および簡単な歴史を説明する、ついで規範性の導出を主な関心とする3つのアプローチを立場ごとに解説する。最後に現代的諸問題を倫理学がどのように扱っているのかを個別の問題ごとにみてゆく。				ねらい 倫理学の各分野の基本的な学説を学び、人間や社会が抱える諸問題を倫理的に考察することができるようになること 到達目標 規範倫理や応用倫理学の代表的な立場や扱われる問題について、基本的な説明ができる。 倫理学上の学説を、現代の具体的問題に適用し吟味検討できる。 いかなる理念や倫理観をもつべきか、みずから吟味できるようになる 倫理的問題を、独断的な信念によらず他者との対話を通じて検討することができる			
教授方法	講義ののち、ディスカッションを行う。						
履修条件	特にないが、自分の頭で考えることを放棄したい学生には向かない。出張による休講のため補講措置を取る予定である。学年暦で補講日に設定されている土曜日はあらかじめ予定を開けておくこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業の進め方、授業スケジュール、授業で学ぶこと、テストについて、評価について、倫理学について						
2	功利主義						
3	義務論						
4	徳倫理						
5	生命倫理、レポートの書き方						
6	環境倫理						
7	動物倫理						
8	食の倫理						
9	エンハンスメント						
10	ビジネス倫理						
11	社会契約論						
12	正義論とその批判、レポートピアレビュー						
13	気候正義、レポート提出						
14	レポートの返却、レポート内容の発表						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
平常点	15	受講態度、提出物、ディスカッションへの参加を総合的に評価する。			小テスト	40	小テストを行い、理解度に応じて評価する
授業レポート	45	授業の達成目標への到達度により評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
資料をあらかじめ配布する場合は、事前に読んでおくこと。 学習内容について小テストを行うので、復習をすること。 授業で学んだ内容を基にレポートを作成すること。				・他の受講生の参考になるので、質問は、できるだけ授業中にすること。授業の前後にも受け付ける。できるかぎり回答は授業中に行う。			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	普段から時事問題に関心を持ち、倫理学と関連する問題にアンテナを張っておくこと。		
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	教育学				
担当教員	荒井 聡史		必修・選択	選択	単位数 2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2 学期	授業形態	講義 科目ナンバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）		
<p>子どもと教育に関する心理学的、社会的、哲学的、教育学的な理論を学び、学際的視点から現代社会における教育の課題を検討する。特に1980年代以降の子ども論の理論動向を軸に、高度情報化社会の中の子どもの生活世界の変容や、近代学校制度から始まる学校中心主義の教育言説の構造的問題点についても触れながら、子ども・若者の教育の現代的課題を浮き彫りにし、人間にとっての教育の意味、社会における教育の意味を検討していく。</p>			<p>子どもという存在を学際的な視座から見つめ直すために必要な諸理論を学びながら、子どもや若者を多様な視点から見るとともに、人間にとっての教育の意味と現代社会における子どもをめぐる課題を検討し、受講者が子どもの問題を自らの課題として受け止め、向き合う意欲と態度を身につけることを目標とする。</p>		
教授方法	講義。プレゼンテーションソフトを利用した講義を中心に、豊富な音楽資料、映像資料を提示し、分かり易く、しかし知的刺激に富んだ授業を心がける。また、受講生には毎回リアクション・ペーパーに記入をもらい、受講生の主体的、能動的な授業参加を促すとともに、インタラクティブな授業展開を試みる。				
履修条件					
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	オリエンテーション、「教育」の概念				
2	私たちの「教育」のイメージ				
3	現代の教育改革				
4	現代の「学力」観				
5	「教育目的」とは何か				
6	古典的心理学の発達観				
7	野生児研究から生理的早産説まで				
8	人間の発達の多層性				
9	人間の生涯と発達				
10	子ども論の誕生と展開				
11	子どもの世界				
12	現代社会における子どもと教育の課題 「発達」と「生成」				
13	現代社会における子どもと教育の課題 大人の指標としての「代理の責任」				
14	現代社会における子どもと教育の課題 「ケアの倫理」を通してみる共生社会の可能性				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	30	授業内容の理解度について30問の筆記テストを通して評価する。	授業レポート	42	授業内容を主体的に受け止め、自らの課題として発展できたかを評価する。
授業内小レポート	28	毎授業後提出するリアクションペーパーを通じて、授業に主体的に参加できたかを評価する。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>毎授業回の終わりに次回の授業内容に関する資料を配布するので、事前に読んで疑問点等を整理した上で授業に望むこと。 授業内容を主体的に受け止め、自己の課題を確認してレポートに反映すること。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。</li> </ul>		
教科書・テキスト	特に使用しない。授業内で配布するペーパー資料を中心に授業を進めるので、資料をきちんと整理して保管すること。		受講生に望むこと	授業内容を主体的に受け止め、これからの自己の人生と社会のあり方を展望するための課題を発見する姿勢を望む。	
参考書・参考資料等	第1回授業時に参考文献リストを提示する。また、授業中適宜資料を配布する。		その他・特記事項	授業レポートについては第1回授業時に課題を提示するので、授業内容を通じて得た視点を反映させながら作成してもらおう。	

授業科目		言語学					
担当教員		中島 基樹		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
主に日本語と英語の言語データを比較することを通して、音韻論、統語論、意味論など言語学の各分野を概観し、人間言語の普遍性と多様性について考察する。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語学の各分野の研究対象や主な研究事例について理解すること。</li> <li>・日本語と英語の共通点・相違点（人間言語の普遍性と多様性）について理解すること。</li> <li>・（言語）データを客観的・論理的に分析する力を養うこと。</li> </ul>			
教授方法	第1～10回は教員による講義を中心に授業を進めるが、毎回の授業において必ず問いを発し、受講者が個人およびグループで考察・議論する機会を設ける。第11～13回の授業では、第10回までの授業の内容や思考法をふまえ、受講者が3～4名程度のグループで興味を持った言語事象について発表する。						
履修条件	特になし（「言語学」とは独立した内容のため、「言語学」のみの受講も可能です。）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：言語学とは？						
2	音韻論						
3	形態論 複合						
4	形態論 派生						
5	統語論 句構造						
6	統語論 移動と語順						
7	意味論 単語の意味						
8	意味論 文の意味						
9	語用論						
10	言語習得研究						
11	グループ発表						
12	グループ発表						
13	グループ発表						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	40	教員の発問に対して自ら考え、グループでの議論に積極的に参加しているか。また、コメントシートにおいて、授業内容を理解した上で批判的な考察がで		グループ発表	20	授業内容をふまえて適切なテーマを設定し、必要な調査・考察を行い、わかりやすく発表することができるか。	
期末レポート	40	授業内容をふまえて適切な問いを設定し、先行研究をふまえて論理的に分析・考察し、レポートとしてまとめることができるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通して興味を持ったトピックについて、文献等で詳しく調べてみましょう。</li> <li>・日頃から身の回りの言語表現・言語事象に対する意識を高めましょう。</li> </ul>				毎回のコメントシートに記入するか、気軽に研究室(C104)を訪ねてください。			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	教員の解説や他の学生の意見を鵜呑みにせず、自分の頭で批判的に考えることを心がけてください。		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窪園晴夫(2019) 『よくわかる言語学』 ミネルヴァ書房</li> <li>・三原健一・高見健一(2013) 『日英対照 英語学の基礎』 くらしお出版</li> </ul> その他、授業時に随時紹介します。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	文学（日本文学）					
担当教員	二本松 泰子		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>わが国の伝統文化のひとつである古典文学は、それと気付かないだけで、実は、現代社会におけるさまざまな文化的営為に依然として影響を与え続けている。本授業では、わが国の代表的な古典作品を取り上げて文学史を概観しつつ、それらが関連する現代社会の文化事象について、具体的な事例を挙げて解説する。それによって、現代に生きる我々の精神文化が、古典文学という伝統文化と深く関わって形作られていることを学ぶ。</p>			<p>ねらい 日本の古典における代表的な作品について文学史的な知識を学びつつ、それらが現代社会の精神文化に与えている影響について理解する。</p> <p>到達目標 社会的営為としての文学が果たす役割を理解し、社会における文化の在り方についての正しい見解を身に付けることができる。</p>			
教授方法	<p>授業はプリントやパワーポイントの他に、古典文学に関連する動画などの各種映像コンテンツも視聴覚教材として使用する。また、適宜、授業の後半において4～5人のグループに分かれて、グループワーク（グループ内での討論）を行う。討論のテーマは、その日の講義内容に即したもので、その場で結論をワーキングペーパーに書き込んで提出してもらう。グループワークの具体的な方法やワーキングペーパーの書き方については、その都度、説明する。なお、毎回の授業で紹介する古典作品については、現代語訳のプリントや動画など、高校時代に古典が苦手だった人にも取り組みやすい教材を用いながら内容を説明するので、古典がまったく読めなくても構わない。</p>					
履修条件	「文学」の授業も履修することが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容					
1	日本古典文学を学ぶ意味 現代社会の精神文化を形成したもの					
2	『古事記』『日本書紀』－神話と現代人の迷信－					
3	『出雲国風土記』の物産記事－郷土誌のはじまり－					
4	『万葉集』と万葉仮名－詩歌の遡源－					
5	『竹取物語』のかぐや姫－正統派ヒロイン像の確立－					
6	『伊勢物語』の在原業平－正統派英雄像の確立－					
7	『源氏物語』の光源氏と紫上－恋愛小説の祖型－					
8	『今昔物語』『宇治拾遺物語』－都市伝説のモチーフ－					
9	『枕草子』『方丈記』『徒然草』－エッセイ・コラムの文芸性－					
10	『平家物語』『太平記』－歴史小説への影響－					
11	『醒睡笑』と咄本－話芸への影響－					
12	『雨月物語』と上田秋成－怪談の娯楽性－					
13	『椿説弓張月』と曲亭馬琴－連載小説の商業的価値－					
14	日本文学のまとめ 古典から近現代文学まで					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	70	授業中に取り上げた作品について、正しい知識が身についているかを評価基準とする。	グループワーク	30	授業で取り上げた作品が現代社会の精神文化において果たした役割について、正しく理解できているかを評価基準とする。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
授業で紹介した作品や同時代の他の作品を自主的に読んでください。			毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はオフィスアワーなどを利用して研究室に来てください。			
教科書・テキスト	古典文学作品のコピーを必要に応じて配布します。		受講生に望むこと	積極的にグループワークに取り組み、討論を通して授業の理解度を深めてください。		
参考書・参考資料等	特になし。		その他・特記事項	授業で扱うすべての古典文学作品については動画でその内容を紹介するほか、現代語訳のプリントを配布しますので、古文が読めなくても授業内容を十分理解できます。この授業を通して、日本の古典文化について身近に感じてくださると幸いです。		



授業科目		文学（中国文学）					
担当教員		谷口 眞由実		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		1・2・3・4年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生		全学科共通	関連資格		備考		
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
中国文学は三千年近い歴史を有し、日本文学や日本文化への影響も計り知れない。本授業は、中国文学を世界文学の一つである点と日本文学との深い関わりとの両方を軸として捉え直す。中国古典文学の多様なジャンルの作品を取り上げ、味わうと共にその特徴を考察する。また、作者の生涯や作品が誕生した社会的あるいは文学史的背景に着目し、文学に表された人間観、世界観について考える補助線とする。古典文学が人間存在の奥深さや世界観の多様さへと我々をいざない、現代の個人や社会の諸問題のありかを照らす灯となることを理解する。 Literature（Chinese Literature）				世界の文学の中から主に中国の文学、詩や物語、小説などを取り上げて、作品中に描かれた様々な人間ドラマを読み取り、考察する。さまざまなジャンルの文学作品の特徴について知ることを目標とする。特に古典文学の中に脈々と息づく深い人間洞察や豊かな世界観を学び、現代を生きる上での糧となることを理解する。			
教授方法		講義形式で作品を解説・読解しつつ、各時間に取り上げる作品の表現や内容について適宜問題を設定し、学生同士のディスカッションやグループ学習を行いながら進める。学生自身が作品と向き合い、読解を深め、問題について、さまざまな質問や意見を持つように促す。ディスカッションやグループ学習で出された意見を受講者全員にフィードバックし共有することで、解釈の揺れや広がり、問題への多様なアプローチの仕方、思考方法などを学ぶよすがとする。また、適宜参考文献を紹介し、さらに関心・興味を広げ、人生観や世界観を学ぶ一助とする。					
履修条件		特になし					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	中国文学の特徴－漢語の表現特徴、韻文・散文のさまざまなジャンル、中国最古の詩集『詩経』						
第2回	『文選』所収「古詩十九首」－後漢時代の民衆・役人の喜怒哀楽						
第3回	六朝詩人陶淵明「飲酒二十首」－詠いこまれた人生への洞察、アウトサイダーとしての生涯						
第4回	唐詩の世界 - 「詩中に画有り、画中に詩有り」と評された王維の自然詩、近体詩の成立						
第5回	唐詩の世界 - 自由奔放な詩想をうたい上げた李白、比喩表現の豊かさ						
第6回	唐詩の世界 - リアリズムの詩人杜甫、葛藤と社会との対峙の諸相						
第7回	唐詩の世界 - 白居易「長恨歌」の物語性と表現工夫						
第8回	唐詩の世界 - 李商隱「錦瑟」詩における修辞性と情感表出の間						
第9回	宋詩－蘇軾を読む						
第10回	歴史文学『史記』 時代や社会と格闘した人間ドラマ						
第11回	歴史文学『史記』 時代や社会と格闘した人間ドラマ、司馬遷が託した思い						
第12回	六朝志怪小説『搜神記』 - 不思議な出来事の記録、人間の愚劣さと誠実さ						
第13回	唐代伝奇小説 - 人間の一生の物語「枕中記」、幸福とは何か						
第14回	中国文学のまとめ 古典から近現代文学まで						
共通の評価基準							
特になし							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート課題	60	授業で取り上げた作品について、個人でさらに調査・考察した結果をレポートにまとめる。参考文献を適宜参考に行っているか、考察に独自性は見えるか			グループワーク、平常点	40	授業の中でグループでディスカッションやグループ学習を実施する。積極的に参加しているか、ユニークな意見を提出しているか、他の学生の意見を参考
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
次の授業で学ぶプリントに事前に目を通しておく事。授業後、興味を持った作品について、レポート作成に向けて参考資料を読み込んだり、作品への読解を深めておくこと。				授業の中で適宜質問を受けたい。			
教科書・テキスト	特に使用しない。レジュメプリントを配布。			受講生に望むこと	グループ学習やディスカッションに積極的に参加してほしい。また、授業で紹介した作品のみでなく、関連作品も積極的に読むようにしてほしい。		
参考書・参考資料等	適宜授業の中で紹介する。			その他・特記事項	原則として授業中はパソコン・スマホは使用禁止とする。		

授業科目	文学（イギリス文学）				
担当教員	坂 淳一		必修・選択	選択	単位数 2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2学期	授業形態	講義 科目ナンバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）		
イギリス文学は、幅広いジャンルと長い伝統を持ち、欧米文学への入り口として好適である。この講座では、イギリス文学史の区分に従って講義と作品鑑賞を行い、イギリス文学の魅力を探る。詩と小説の鑑賞を交互に行いながらイギリス文学の歴史と魅力について学び、時代背景や文化・思想・宗教などについても学ぶ。英詩の鑑賞には英日対訳教材を用い、小説の鑑賞には映画と翻訳を活用するが、時には原書も参照する。鑑賞した作品については授業内でディスカッションを行い、相互に理解を深める。また、作品分析のレポートを書き、文化研究の方法を学ぶ。(Literature III (British Literature))			イギリス文学の歴史と特徴を知ると同時に、文学の背景にある文化・思想・宗教についても学び、文学鑑賞の楽しみ方と文化研究の方法を学ぶことができます。		
教授方法	作品を鑑賞し、その作品についての小レポートを書いてもらい、解説をするという流れで進める。講義科目ではあるが、授業内ではその作品の内容について演習的に議論することもあるので、黙って聞いていれば良い授業ではない。参考資料等は、すべてプリントで用意する。				
履修条件	特になし				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	授業の進め方の説明、イギリス文学史の概説、古英語期の『ベオウルフ』、中英語期の『カンタベリー物語』について				
2	『ハリー・ポッター』と聖書、アーサー王伝説				
3	シェイクスピアのソネット、レポート提出と解説				
4	『ガリバー旅行記』鑑賞				
5	シェイクスピアの演劇とルネサンスについて				
6	『ガリバー旅行記』レポート提出と解説、古典主義時代について				
7	古典主義とロマン主義（1） アレクザンダー・ポープとバラッド、ワーズワースの詩の鑑賞				
8	ジェイン・オースティン『エマ』鑑賞				
9	古典主義とロマン主義（2） 歴史・庭園文化・ゴシック小説、ブレイクの詩				
10	ロマン主義時代の文学：『エマ』レポート提出とジェイン・オースティンの解説				
11	ディケンズ『クリスマス・キャロル』鑑賞				
12	ヴィクトリア朝英国とその文化について				
13	『クリスマス・キャロル』レポート提出とディケンズの解説				
14	20世紀のイギリス文学：ジェイムズ・ジョイスとヴァージニア・ウルフ				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業レポート	80%	4回提出する、鑑賞した作品に関する小レポートの総合評価	授業内の討論など	20%	授業内におけるディスカッションなどにおける発言内容や態度
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
レポート提出が4回あります。日頃から作品ならびに関連の文献を読んだり、映画を見るなどして、完成度の高いレポートを書いてください。			質問については、出来るだけ授業中もしくは授業の直後に聞くか、オフィスアワー（授業で発表する）に研究室に質問に来ること。		
教科書・テキスト	教材・資料はプリントで配布またはオン・ラインで配信する。		受講生に望むこと	ただ講義を聞くだけでなく、自分の感じたことや気付いたことを積極的に発言してください。	
参考書・参考資料等	必要に応じて、授業で紹介する。		その他・特記事項	人文科学への入り口のような授業にしたいと思いません。	

授業科目	歴史(近現代)						
担当教員	大串 潤児			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
長野県の20世紀を主な素材として、一般教養としての「歴史(近現代史)」の基礎知識と歴史学の方法を講義する。				地域にある大学に学ぶ学生として以下の知識・力の育成を目指す。 高等学校までの近現代史の知識をふまえてさらに高度な専門的知識の習得。 地域(長野県)の近現代史 20世紀史の基礎的な知識を学ぶ。 歴史学の基本的な方法論や、時代・社会を分析する方法について学ぶ。			
教授方法	基本的には配布したレジュメに即した講義を行う。主題によっては映像資料などを活用しつつ、学生との討論を実施する。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス 授業内容の概要						
2	信州(長野県)とはどのような地域なのか? (1) 前近代史の復習						
3	信州(長野県)とはどのような地域なのか? (2) 近現代史の舞台						
4	近代の出発(1) 幕末維新をどうみるか?						
5	近代の出発(2) 「王政復古」か、「ご一新」か?						
6	学校からみる「近代」(1) 教育とは何だろうか?						
7	学校からみる「近代」(2) 就学率は100%?						
8	女性が働くということ(1) 近代の産業と労働						
9	女性が働くということ(2) 農村のすがた						
10	戦争と軍隊(1) 「軍都」という空間						
11	戦争と軍隊(2) ある兵士の戦場経験:日中戦争						
12	満州移民						
13	松代大本営 アジア太平洋戦争の敗戦と東アジア						
14	"いのち"の近現代史 佐久病院の戦後史						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
試験	100	講義の内容を理解しているか、どうかを問う。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
一連のテーマで講義する機会が多いので、レジュメ記載の参考文献には目を通すことが望ましい。				質問があれば授業後の時間に可能な限り対応する。 その他は以下のメールアドレスに相談のこと。 ogushi@shinshu-u.ac.jp			
教科書・テキスト	毎回の講義でレジュメを配布する。			受講生に望むこと	積極的に授業に臨んでほしい。		
参考書・参考資料等	毎回の講義レジュメで紹介する。			その他・特記事項	高等学校(ないし中学校)の日本史(社会科)教科書が参考になる。		

授業科目	民俗文化論					
担当教員	織田 竜也		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
民俗文化（Folk Culture）とは都市文化（Urban Culture）との対比で語られてきた文化現象である。民俗学という分野で研究が行われてきたが、文化人類学、社会学、歴史学、文学との関連も深い。参拝、祭り、民間伝承、民俗芸能などの事例から民俗文化を学ぶ。デジタルコンテンツやテーマパークにおいて民俗文化がどのように取り込まれているのかを知り、民俗文化の変容について考える。先駆者の仕事から民俗文化への接近方法を習得し、民俗宗教、まればと、フォークロリズムなど、民俗文化を理解するための専門的な切り口について理解を深める。			民俗文化の現代的な諸相について理解を深める。参拝や祭り、盆や節句などの民俗宗教、神楽や歌舞伎などの民俗芸能の具体的な事例に触れながら、民俗文化を変容させる要因について考える。生活習慣としての民俗、忘れられた民俗、新たに創造される民俗に思いを巡らせ、日本人は何を受け継ぎ、何を失ったのかを考える。県内各地の民俗文化をマネジメントする基礎的な知識を習得することを目標とする。			
教授方法	講義中心の授業。映像資料を使用した学習を踏まえ、民俗文化にまつわる現代社会の問題点や将来像について意見を交換する。					
履修条件	特になし。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	民俗文化とは何か					
2	民俗宗教					
3	年中行事					
4	神社と祭り					
5	縁起の民俗文化					
6	南方熊楠の民俗学					
7	柳田国男と折口信夫					
8	神楽と民間伝承					
9	能と紅葉伝説					
10	歌舞伎と紅葉伝説					
11	フォークロリズム					
12	デジタルコンテンツと民俗文化					
13	テーマパークと民俗文化					
14	全体のまとめと期末試験					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
受講態度	10			期末試験	90	
授業外における学習（事前・事後学習等）						
事後学習：映像視聴、読書など、随時指示する。				面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。		
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	口頭の講義内容をノートするように指導する。試験問題はそこから出題する。	
参考書・参考資料等	岡本太郎『神秘日本』（2015年、角川ソフィア文庫）。			その他・特記事項	特になし。	

授業科目		文化人類学						
担当教員		織田 竜也		必修・選択		選択	単位数	2単位
履修年次		1・2・3・4年	開講学期	4 学期		授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生		全学科共通	関連資格			備考		
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）				
<p>文化人類学とは、文化を通して人間集団について理解する学問分野である。文化とは集団が共有する世界観であり、時代や地域の制約を受け、常に変化する。他者とは何かを考えながら、人間が創り出す世界観についてのイメージを持ち、各地の様々な文化現象について、共感できなくても理解する力を習得する。構造主義、文化相対主義、創られた伝統、トリックスター、ポトラッチ、シャーマニズムなどの文化人類学の思考方法や概念を通して世界を見つめた後に「自分とは何か」「人間とは何か」といった普遍的な問いに立ち返る。</p>				<p>世界各地の文化を学び、異文化理解に必要な知識を習得する。文化人類学の基礎的な思考方法に親しむことで、異質な他者に対して、共感は難しくても理解する柔軟な思考を育む。多様な人間の暮らし、習慣、感じ方、考え方などに触れ、あらためて自分とは何かを考える。既存の価値観から距離を置き、新たな世界の見方を習得することを目標とする。</p>				
教授方法		講義中心の授業。映像資料を使用した学習を踏まえ、世界の文化にまつわる現代社会の問題点や将来像について意見を交換する。						
履修条件		特になし。						
授 業 計 画								
実施回	授業内容							
1	イントロダクション、世界観と他者							
2	トリックスター							
3	移民と仕事							
4	構造主義							
5	文化相対主義							
6	創られた伝統							
7	国家と王権							
8	老いと病い							
9	スペインの巡礼							
10	拡張する人間							
11	石貨、クラ、ポトラッチ							
12	経済人類学							
13	失われた古代文明							
14	全体のまとめ、期末試験							
共通の評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
受講態度	10				期末試験	90		
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応			
事後学習：映像視聴、読書など、随時指示する。					面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。			
教科書・テキスト	特になし。				受講生に望むこと	口頭の講義内容をノートするように指導する。試験問題はそこから出題する。		
参考書・参考資料等	山口昌男『学問の春：知と遊びの10講義』（2009年、平凡社新書）。				その他・特記事項	特になし。		

授業科目		音楽					
担当教員	大南 匠			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
前半はバロックから現代までの西洋音楽史の流れに沿いながら、様々な音楽の構造、思想に触れる。後半はサティ、ケージ、ノイズミュージック、即興演奏などの作品に触れ、「聴く」ことの意味について考察する。				「聴く」ことの意味と音楽作品制作のプロセスについて考察し、音楽の多様性について理解する。			
教授方法	講義形式。講義の前半は前回の授業のミニットペーパーを基に進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、バロックの音楽（ヨハン・パッヘルベル、ヘンリー・パーセル、トマゾ・アルビノーニ、J.S.バッハほか）						
2	古典派の音楽（W.A.モーツァルト、J.ハイドン、ベートーヴェンほか）						
3	ロマン派の音楽1（フランツ・シューベルト、エクトル・ベルリオーズ、メンデルスゾーン、フレデリック・ショパン、ロベルト・シューマンほか）						
4	ロマン派の音楽2（フランツ・リスト、リヒャルト・ワーグナー、ピョートル・チャイコフスキー、グスタフ・マーラー、リヒャルト・シュトラウスほか）						
5	国民楽派の音楽1（ミレイ・バラキレフ、モDEST・ムソルグスキ、アレクサンドル・ボロディン、リムスキー＝コルサコフほか）						
6	国民楽派の音楽2（アントニン・ドヴォルザーク、イサーク・アルベニス、ファリャ、ジャン・シベリウス、ヴィラ＝ロボスほか）						
7	印象派の音楽（クロード・ドビュッシー、モーリス・ラヴェル、ジャック・イベールほか）						
8	近代の音楽1（セルゲイ・ラフマニノフ、セルゲイ・プロコフィエフ、アレクサンドル・スクリャービン、アラム・ハチャトゥリアン、バルトークほか）						
9	近代の音楽2（アーノルド・シェーンベルク、アルバン・ベルク、アントン・ヴェーベルン、パウル・ヒンデミットほか）						
10	現代音楽1（エドガー・ヴァレーズ、オリヴィエ・メシアン、ヤニス・クセナキス、カールハインツ・シュトックハウゼンほか）						
11	“きく”ことについての考察1（ワークショップ）						
12	“きく”ことについての考察2（エリック・サティ、ジョン・ケージ、マリー・シェーファー、ブライアン・イーノ、ポーリン・オリヴェロスほか）						
13	現代音楽2（ルイジ・ノーノ、ジョルジュ・リゲティ、テリー・ライリー、ステイーヴ・ライヒほか）						
14	現代音楽3（アルヴォ・ペルト、ヘンリック・グレッツキ、吉松隆、佐藤聡明、Merzbow-秋田昌美、池田亮司、山下洋輔、セシル・テイラーほか）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	最後の講義の際に提出する課題レポートを評価する。課題については12回授業の際に告知する。		ミニットペーパー	50	授業ごとのミニットペーパー（記述式）の内容を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業では作品の全てを提示することはできない。各自、資料をもとに作曲家や演奏家の著作、および作品に触れて欲しい。				授業内でも、授業外でも質問や相談を受け付ける。メールでも可。			
教科書・テキスト	プリントを適宜配布する。			受講生に望むこと	授業の前半は前回授業のミニットペーパーや直接の質問や感想から構成するため、思ったこと、感じたことを積極的に発言して欲しい。		
参考書・参考資料等	各自の状況に合わせて適宜、提示する。			その他・特記事項	なし		

授業科目	国際関係論						
担当教員	駒村 哲			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
国際関係の歴史的形成と展開に関する基本的知識を得るとともに、現代国際社会が直面する諸問題を解決する手法を学ぶ。				学際的かつ総合的学問である国際関係論について理解できるようになる。現代国際関係の諸問題を解決する手がかりを自ら見つけることができるようになる。			
教授方法	講義（プリント配布）とともにビデオをみる。						
履修条件	歴史学及び政治学関係の科目を履修することが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	国際関係論とは何か						
2	国民国家とは何か						
3	国際社会とは何か						
4	第1次世界大戦						
5	1920年代のヨーロッパ						
6	1920年代のアジア						
7	1930年代のヨーロッパ						
8	1930年代のアジア						
9	第2次世界大戦－ヨーロッパ戦争						
10	第2次世界大戦－アジア・太平洋戦争						
11	冷戦とは何か－アメリカにおける研究						
12	冷戦とは何か－ロシアにおける研究						
13	国際関係論における理論研究						
14	21世紀の国際関係論						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	25%	論理的説明がなされている		期末試験	25%	歴史的事実を正確に理解している	
期末試験	25%	オリジナルな見解が説得力を有している		期末試験	25%	講義内容を踏まえて論述している	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前にテキストを読み、問題関心を高め、事後はテキストを読み返す。				講義の前後で対応する。			
教科書・テキスト	『国際紛争』（ジョセフ・ナイ）有斐閣、2017年			受講生に望むこと	主体的かつ積極的に取り組む。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	社会学						
担当教員	築山 秀夫			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
この科目は、総合教育科目のうち「社会と産業」の科目に位置づけられている。社会学の立場から、現代社会の構造と特徴について講義する。現代社会を、社会学的パースペクティブを用いて分析し、考察できる能力を培う。 まず、社会学の方法と視座、社会学が誕生した歴史的背景について学ぶ。次に、近代社会、リスク社会の特質について、学ぶ。そして、社会的に重要視され、受講生が関心を持つ問題を幾つか取り上げて、そのメカニズムや構造的背景について考察する。特に、身近な分野としての家族、少子化、地域社会、ジェンダー、まちづくり等について、社会学的に接近し、履修者間の議論（グループワークと発表）を通じて理解を深める。				ねらい 身近で個人的な問題に見えるような現象を、より広い社会的文脈のなかで捉え直し、理解することのできる能力を身に付けることをねらいとする。 さらには、他者によって構築された自己自身を捉え、デフォルト的なものの見方をアンインストールし、社会をこれまでと違う視点で眺めることで、そこに潜む構造を捉える批判的な思考法と、それをより良い社会の構築に結びつける構想力を身に付けより良い社会の構築に必要な条件を探求することをねらいとする。 到達目標 社会学の方法や視座、社会学的想像力とは何かを理解する。 社会学の歴史について理解する。 社会学の領域や多様性について理解する。 社会学が対象としている近代社会の特徴を理解する。 自分で社会的問題を捉え、それについて、社会学的な分析をすることが出来る。			

教授方法	基本は、講義形式で行い、その上、学生による能動的な学修も組み込む。受講者をグループに分け、いくつかのテーマについて、グループ内でディスカッションをした後に、意見の発表をしてもらう。
履修条件	この科目は、社会科学の考え方の基礎的な習得をねらっているの、なるべく一年次に受講をして頂きたい。本授業を履修する前に受講する必要のある科目はない。初回で、この講義の進め方について説明するので、初回から出席することが望ましい。

授業計画	
実施回	授業内容
1	オリエンテーション:授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をする。 ・受講生の属性を知るために、簡単な調査を実施する。グループワーク 受講生をグループに分けて、「社会的」なるものとは何かについて、
2	社会学の方法と視座:社会学の方法と社会学の魅力、社会学的想像力について解説する。 第一回で調査した結果を共有する。
3	社会科学および社会学の誕生と歴史的背景、科学史における位置づけについて解説する。
4	社会学の領域と多様性:社会学の領域、社会学の多様性（連字符社会学）について解説する。 第1～4回までの内容についての理解度を確認するために、小テストを実施する。
5	近代社会の特質:国民国家、資本主義、階級社会など近代社会の特質について解説する。
6	リスク社会としての現代:リスク社会としての現代社会の特質について解説する。 第5～6回までの内容についての理解度を確認するために、小テストを実施する。
7	グループワーク 少子化の背景と原因について、グループに分かれて議論する。 テーマに関するレポートを提出する
8	現代日本の家族と少子化:家族の構造や機能、家族の現状を諸データより分析し、解説する
9	現代日本の家族と少子化:家族の構造や機能、家族の現状を諸データより分析し、解説する
10	グループワーク 日本における社会的格差について、グループに分かれて議論する。 テーマに関するレポートを提出する。
11	日本における社会的格差、福祉制度の課題について解説する。
12	グループワーク 地方創生について、グループに分かれて議論する。 テーマに関するレポートを提出する。
13	地方創生について、その現状と課題について、解説する。
14	まとめ:これまでの授業で学んだことを振り返り、社会学的に捉えることは何かを確認する。

共通の評価基準

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50%	選択・記述とし、社会学の基礎的知識を理解し、社会学的視点で社会現象の説明ができれば、優とする。試験が60点以上なければ、他の成績が良くても	小テスト	20%	第4回と第6回の講義時に小テストを実施し、理解度に応じて評価する。
授業レポート	30%	グループワークを実施するうちの3回の講義時に、それぞれレポートを（10点満点）提出していただき、評価する。全てのレポートを提出していることが及			

授業外における学習（事前・事後学習等）		質問や相談への対応	
毎回、次回の講義に必要な資料等を配布するので、次回の講義までに必ず熟読しておくこと。事後学習においては、授業でノートしたことを整理し、参考文献の当該箇所を読むなどして、理解の深化に努める。		質問は、授業後及びオフィスアワー時に受け付ける。また、毎回、講義の後に、リアクションペーパーを書いて頂くので、そちらに質問を書いて頂ければ、次回の講義時に解答する。但し、自分のできる限り調べる努力をすること。	
教科書・テキスト	教科書は特になし。毎回、次回以降の授業のレジュメ・資料を配布する。	受講生に望むこと	授業はパワーポイントによる講義を中心に行うが、受講生にはノートを取って学習することを求める。 。グループワークやディスカッションに積極的に取り組むこと。 日常的に新聞等のマス・メディアが発信する情報を摂取し、現代社会に関する多様な情報を獲得すること。
参考書・参考資料等	参考文献に関しては、講義内でその都度、適宜紹介する。また、必要な参考資料を講義時に配布する。		



その他・  
特記事項

自ら考え、学び、知的好奇心を持ち続けることを期待する。意見を主張するときには、必ずエビデンスを示すことを心掛けてほしい。

授業科目		憲法					
担当教員	関 良徳			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
授業の前半では、日本国憲法の基本原理や様々な種類の人権について概説し、それらの特性や問題点について検討します。後半では、人権保障のために設けられている統治機構の各機能について概説します。				この授業の目標は、私たちの身の周りで生じている様々な憲法上の問題を手掛かりに、日本国憲法の基本原理（民主主義・平和主義・基本的人権の尊重）について理解することです。具体的には、各条文の解釈を通じてその意味を理解すると同時に、判例を適宜参照することで実際の事件と憲法とのかかわりについて考察できるようになることです。			
教授方法	講義形式とディスカッション形式を組み合わせで行います。						
履修条件	この授業を履修するためには、毎回の予習と復習が必要です。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	憲法と立憲主義：憲法についての基礎的な概念やその中核を構成する立憲主義の考え方を説明する。						
2	日本国憲法の成立：大日本帝国憲法から現憲法が成立するまでの歴史的過程及びその正統性を概説する。						
3	民主主義と天皇制：憲法前文、民主主義及び天皇制について説明する。						
4	平和主義の原理：第9条の解釈及び自衛隊問題について説明し、改憲論について討論する。						
5	基本的人権の原理：人権の諸形式及び人権の主体等について説明するとともに、人権の限界について考える。						
6	包括的基本権と法の下での平等：第13条及び第14条について説明し、関連する判例を検討する。						
7	自由権 - 内心の自由：思想良心、信教、学問の各自由について説明し、関連する判例を検討する。						
8	自由権 - 表現の自由：表現の自由や知る権利について、判例検討を通じてその限界を考える。						
9	自由権 - 人身の自由：刑事司法制度と人身の自由について説明を行う。						
10	自由権 - 経済的自由：職業選択の自由や財産権について説明を行う。						
11	参政権と社会権：参政権、生存権、教育を受ける権利、労働基本権について概説する。						
12	統治機構 - 国会：国会の権能や法律の制定過程について説明する。						
13	統治機構 - 内閣：内閣の権能や議院内閣制（大統領制との比較を含む）などについて概説する。						
14	統治機構 - 裁判所・地方自治：裁判所の役割や司法権の独立、地方自治の制度について説明する。						
共通の評価基準							
授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「達成目標の水準にある」、応用問題が解ければ「それよりもやや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と評価されます。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
1	60	期末試験		2	40	予習・復習課題	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎回の授業時にレポート課題を出します。この課題は授業の事後学習であると同時に、次回の授業の事前学習となる内容になっています。次回授業の際に提出する必要があります。				・授業時間内に質問・相談を受け付けます。 ・メールでの質問や相談も受け付けています。			
教科書・テキスト	『論点 日本国憲法（第2版）』東京法令出版			受講生に望むこと	憲法が身近な問題と関わっていることを十分に理解していただきたいと思います。		
参考書・参考資料等	授業時間内に適宜紹介します。			その他・特記事項	授業内で行うディスカッションに積極的に参加して下さい。		

授業科目	経済学入門						
担当教員	中条 潮			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
この入門講座では、海外実地研修（海外プログラム）のビジネスビジット先を例に、経済学の役割、市場メカニズムの役割、その限界と政策の必要性をわかりやすく説明します。				主たる目標は、以下の2つです。 1) 海外実地研修（海外プログラム）のビジネスビジット先のねらいを理解すること。 2) 専門科目としての「ミクロ経済学」で体系的にミクロ経済学を学ぶ準備段階として、日本と世界の基礎的な経済事象を理解することによって、政策のありかたや経営問題を考える際の基本となる「経済学的な物の見方」を身に付けること。			
教授方法	7回の短い授業であり、かつ、履修者が多い授業ですので、時間のかかる質疑応答を実施する余地がなく、基本的には講義スタイルとします。						
履修条件	全学部全学年の学生が履修可能です。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	・ 海外実地研修についての私の考え方と本講義の視点 ～大学では何を学ぶべきか～						
2	・ ミクロ経済学のごくごく基礎知識～経済事象を読み解くために～ 1. 経済学の目標は社会全体の利益の最大化 2. 経済学の「効率」の概念						
3	・ ミクロ経済学のごくごく基礎知識～経済事象を読み解くために～ 3. 市場メカニズムの役割と限界						
4	・ 日本経済の諸相（海外プログラムとの関係で考える経済の諸相） 1. 海外プログラムのbusiness visit sitesと学んでもらいたい経済の基礎						
5	日本経済の諸相（海外プログラムとの関係で考える経済の諸相） 4. 自由貿易 v s 閉鎖国家						
6	日本経済の諸相（海外プログラムとの関係で考える経済の諸相） 6. 「外部不経済の内部化」と「企業の社会的責任」はどう違う？～CSR、SDGへの疑問～						
7	日本経済の諸相（海外プログラムとの関係で考える経済の諸相） 8. 経済改革、自由、高福祉～北欧モデルから学ぶ～						
共通の評価基準							
特にありません。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	100	必要な基礎用語、経済事象、余剰分析について、50%理解しているとみなせば合格とします。		授業中の質問や回答	不定	授業を活性化させる質問や回答の場合は、その程度に応じて加点することがあります。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：県大ナビにupされた授業のレジュメを読んで、わからない用語は自分で調べておくこと。 事後学習：授業中に登場した用語でわからなかったものがあれば自分で調べること。				質問は、なるべく、授業中にしてください。 授業前後の質問は1分以内で回答できる質問だけにしてください。 上記で対応が難しい質問や相談については、メールにてアポをとってければ可能な限り対応します。			
教科書・テキスト	教科書は使用しません。県大ナビに授業の資料をupします。			受講生に望むこと	学生として当然必要な授業態度以外、特に求めません。		
参考書・参考資料等	教科書に同じ。			その他・特記事項	グローバルマネジメント学部の「海外実地研修」を履修する学生は、この「経済学入門」を履修済みであることが望ましいです。		

授業科目	経済学入門						
担当教員	穴山 悌三			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>経済入門 では「マクロ経済学」の初歩的基礎的な手法を用いながら、日本と世界の経済事象をわかりやすく解説し、政策のあり方や経営問題を考える際の基本となる「経済学的な物の見方」の理解を得ることを目標とします。</p>				<p>グローバル化する社会と経済を理解するには、家計、企業、国家の役割を統合した大きな視点から理解する必要があります。このためには、専門科目としての「マクロ経済学」で体系的にマクロ経済学を学ぶ必要がありますが、その準備となるよう、この入門講座では、企業の役割、国家の役割、家計の役割を、現在の経済事情をひもときながら、主としてマクロ経済学の視点でわかりやすく説明します。</p>			
教授方法	主にパワーポイントを用いた講義およびクラス内での討議を実施します。履修生はクラス内での討議に積極的に参加することが要求されます。						
履修条件	経済学入門 と はセット科目です。両方とも履修することが望ましいです。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	6/10 イントロダクションー講義の目的、ミクロとマクロ、経済学の考え方（教科書第 部イントロダクション）						
2	6/17 経済活動の捉え方 - 国民所得、生計費、失業（教科書第8章、第9章、第10章付論）						
3	6/24 生産と成長（教科書第10章）						
4	7/1 貯蓄、投資と金融システム（教科書第11章）						
5	7/8 総需要と総供給（教科書第12章）						
6	7/15 オープン・エコノミー（教科書第13章）						
7	7/22 政策論評、授業のまとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	定期試験の点数による評価です。授業の例題レベルの問題が解ければ100点満点中70～79点、応用問題が解ければ同80点以上、授業内容が概ね理解できてい			平常点	30	授業中に課す短いレポートや授業中の発言等の貢献度を総合的に評価します。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業計画に記す教科書の当該箇所を予め目を通しておいてください（授業の理解度に応じて進捗は若干変化する可能性がありますので当該箇所は適宜授業中に指示します）。授業内容に関連するテーマについて短いレポートを課すことがあります。				質問、相談のある学生は授業終了後に受け付けますので気軽に声をかけてください。またそれ以外に話したい場合はメールで日時を予約の上、研究室に来てください。			
教科書・テキスト	N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之他訳 [2019] 『マンキュー入門経済学(第3版)』、東洋経済新報社。ISBN:978-4-492-31521-7			受講生に望むこと	分かりやすく現実に即した授業を心掛けます。将来の経済学系科目の履修の前提となりますから是非履修して下さい。また、授業中の議論には積極的に参加して下さい。		
参考書・参考資料等	参考図書として以下をあげておきます。 ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山大道他訳 [2019] 『クルーグマンマクロ経済学(第2版)』、東洋経済新報社。ISBN:978-4-492-31490-6 N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之他訳 [2019] 『マンキュー経済学 マクロ編(第4版)』、東洋経済新報社。ISBN:978-4-492-31520-0 吉川洋 [2017] 『現代経済学入門 マクロ経済学(第4版)』、岩波書店。ISBN:978-4-00-026656-7 その他、必要に応じて授業中に適宜指示します。			その他・特記事項	将来あるいは並行して「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「海外実地研修」、「国際交通観光ビジネス入門」、「公共経済学」、「公共経済学」、「グローバル経済論」を履修する学生、また、「航空観光公共経済プログラム」への参加を希望する学生は、「経済入門 および 」を履修ないしは履修済であることが求められます。		

授業科目		数学的発想					
担当教員	鈴木 章斗			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
この授業では、数Ⅰ・A程度の知識を前提として、グラフ理論、確率・統計、整数の性質などについての初歩的な講義を行います。これらの数学の身近な応用として、たとえば、グラフ理論ではカーナビの経路探索、確率・統計では宝くじや保険、整数の性質では公開鍵暗号方式などのしくみを理解します。それぞれのテーマごとの講義の後に、応用例に関するグループワークなどを通じた体験的活動を行って、数学的な発想法を経験的に学んでいきます。最終的には、人工知能についてグループで調べ、シンギュラリティが起きるかについて、数学的発想に基づいた議論を行います。				ねらい 私たちの身の回りでは、いたるところでさまざまな数学が応用されています。ところが、自分が知っている数学を応用して、何かの役に立ったという経験は少ないのではないのでしょうか？この講義では、いくつかの数学の応用例を紹介しますが、難しい計算や公式を覚えるのが目的ではありません。実際に数学を応用する体験を通して、数学的な発想力を養い、社会生活に役立てることを目標とします。 到達目標 具体例を通して数学が応用されるしくみを理解する。 具体的な問題設定に数学が応用できる。 数学を応用した結果に基づいて議論したり判断したりできる。			
教授方法	この授業では、毎回基礎的な内容に関する簡単な説明を行った後、グループ学習を行います。基本的にアクティブ・ラーニング形式の授業を行います。						
履修条件	特になし。高校までの数学とは雰囲気違った数学をします。いままでも数学が得意だった人も、そうでない人も歓迎します。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と進め方を理解する。						
2	確率・統計（基礎編） (1) 確率・統計の基礎を理解する。						
3	確率・統計（応用編） (1) 宝くじや保険のしくみを理解する。						
4	確率・統計（実践編1） (1) グループで宝くじで大金持ちになる確率を計算する。						
5	確率・統計（実践編2） (1) グループで保険の損得勘定をしてみる。						
6	グラフ理論（基礎編） (1) グラフ理論の基礎を理解する。						
7	グラフ理論（応用編） (1) ダイクストラ法を理解する。						
8	グラフ理論（実践編） グループでダイクストラ法を用いて経路探索をし、その効用を話し合う。						
9	整数の性質（基礎編1） (1) 高校で習う整数の性質を復習する。（ユークリッドの互除法）						
10	整数の性質（基礎編2） (1) 高校で習う整数の性質を復習する。（合同式）						
11	整数の性質（応用編） (1) 公開鍵暗号の仕組みについて理解する。						
12	整数の性質（実践編） (1) 公開鍵暗号の仕組みについて理解する。						
13	人工知能 1（グループ学習） グループで人工知能（AI）の現状とそこで使われている数学について調べる。						
14	人工知能 2（グループ学習） グループでAIについて調べた内容と数学的発想に基づいて、シンギュラリティが訪れるかについて議論する。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
最終レポート	50	設定された課題について数学的発想に基づいて議論できるかを判定します。		授業レポート	50	グループ学習の内容の理解度を毎回の授業で測ります。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎回の授業で指定される課題に取り組んで、授業内容の復習や次回の授業のための予習を行ってください。				質問は、授業後に受け付けます。必要がある場合は、メールでの質問も受け付けます。アドレスは、初回の授業でお知らせします。			
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	グループ学習には積極的に参加してください。わからないことがあったら質問してください。		
参考書・参考資料等	浅野晃「社会人1年生のための統計学教科書」 ウィリアム・J・クック「驚きの数学 巡回セールスマン問題」 サイモン・シン「暗号解読」 新井紀子「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」			その他・特記事項	この授業で知っていた方がいい高校数学の知識は、数学Ⅰ・Aの確率と整数の性質だけです。数学の勉強をするというより、数学の気持ちがわかる授業をしたいと思います。		

授業科目	生命科学				
担当教員	杉山 英子		必修・選択	選択	単位数 2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	4 学期	授業形態	講義 科目ナバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
<p>変化が激しくストレスに晒されやすい現代にあって、私たちを取り巻く自然への深い関心と理解を培い、生涯に亘って精神と身体を健康に維持できるように、生物の生命現象を分子の動きを追いながら学び、疾患や失調という形で表出されてくる個体や集団レベルでの課題を理解できるようにする。具体的には、生体構成物質の構造や性質ならびに細胞や器官の働き、ヒトの健康と密接に関わる栄養、ホメオスタシス、生殖、発生等における基本的な物質の流れについて学ぶ。さらに、遺伝子操作技術の発展が人間社会に及ぼす影響などを学ぶ。</p>			<p>「生命のしくみ」を一通り理解し、現代社会に急速に拡散・浸透しつつある生命科学の知識や技術をいかに利用し育てていくかを判断することができる力を養う。</p>		
教授方法	講義。テキストとスライドを併用する。講義後半には、私たちの生活に関わる具体的で身近な課題を取り上げる。				
履修条件	高校の「生物基礎」の履修であること				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	オリエンテーション (「生物学」から「生命科学」へ 生物学の歴史)				
2	生命とは何か、生物とはどのようなものか(「生命」の基本概念)				
3	生命の最小単位: Cell (細胞の構造と細胞内小器官の役割)				
4	からだをつくる分子(糖質・タンパク質・脂質・無機塩・核酸)				
5	細胞と遺伝子(1) (細胞増殖とDNA複製)				
6	細胞と遺伝子(2) (genomeと gene expression)				
7	動物の発生と細胞分化				
8	生命活動とエネルギー (エネルギーの通貨ATPとミトコンドリア)				
9	ホメオスタシスと栄養(1) (飢餓応答と摂食の重要性)				
10	ホメオスタシスと栄養(2) (生体リズムと食事)				
11	ホメオスタシスと栄養(3) (摂食とホルモン)				
12	免疫(自己による非自己の認識に果たす糖鎖の役割)				
13	遺伝子操作技術と人間社会 (DNA polymorphism と遺伝子検査・遺伝子診断)				
14	まとめ				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験(筆記)	50	論理的思考力、表現力、読解力	授業レポート	30	思考力、表現力
上記以外の授業評価	20	主体的態度、授業への貢献度			
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
生物系の科学ニュースを読むように心がけてほしい。			授業中に取り上げて回答する。		
教科書・テキスト	教科書は使用しない。		受講生に望むこと	授業に集中してほしい。	
参考書・参考資料等	参考書:『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著(講談社)他、授業の中で紹介する。		その他・特記事項	『生物と無生物のあいだ』を必ず読んでもらいます。	

授業科目	プログラミング基礎						
担当教員	萱津 理佳			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2・3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>アルゴリズムの記述、変数や制御構造、プログラミングの基礎を学ぶことにより、コンピュータの原理解を深めるとともに、論理的な思考、問題解決能力を養う。次に、情報の発信や表現に関わるより発展的な内容を学習する。まず、WWWの仕組みを理解し、HTMLを使った演習、ホームページビルダーを利用したWebサイトの作成を通して情報発信力、情報表現力を身につける。</p>				<p>アルゴリズム・プログラミングの基礎を学ぶことにより、論理的な思考および問題解決能力を養う。また、WWWの仕組みを理解し、インターネット上で情報の発信、情報表現力を身につける。</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。受講者がPCを操作しながら授業を進める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス、プログラム・プログラミング・プログラミング的思考とは						
2	プログラミング的思考と論理的思考、論理的思考とアルゴリズム						
3	アルゴリズムとプログラミング、プログラムの基本構造について						
4	アプリ教材を利用したプログラミング的思考のレッスン						
5	ビジュアルプログラミング言語を利用したプログラミング						
6	WWWの基礎知識、HTMLでのWebページ作成						
7	JavaScriptでプログラミング（1） 逐次処理						
8	JavaScriptでプログラミング（2） 選択処理と繰り返し処理						
9	JavaScriptでプログラミング（3） 総合問題						
10	Webサイト作成（1）ホームページビルダー演習（トップページ、サブページの作成）						
11	Webサイト作成（2）ホームページビルダー演習（リンクの作成、サイトの転送）						
12	課題作成（1）						
13	課題作成（2）						
14	作品発表会&相互評価						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	50	課題を正確に理解し、提出期限を守って提出できている。 課題の理解度および完成度。		その他の授業評価	50	授業に意欲的に取り組んでいる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>授業で指定された課題に取り組むこと。 授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp</li> </ul>			
教科書・テキスト				受講生に望むこと	<p>授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。  生活のいろいろな場面でプログラミング的思考を発揮してみましょう！</p>		
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	<p>PC教室キャパシティの都合上、定員を30名とします。受講希望者は履修登録の上、第1回の授業に必ず集まって下さい。履修登録者が30名を超えた場合は、第1回授業の冒頭で履修の抽選を行います。</p>		

授業科目		IT活用論					
担当教員	石田 幸央			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>インターネットやテクノロジーを活用した事業やサービスの実例を授業の中で実際に使って紹介し、学生と講師、学生同士が対話しながら理解を深めていきます。物事をどのように捉えて自ら考えるか、その思考法も学びます。</p> <p>1. ITとはどんなものなのかどのように活用されているか、国内及び世界の事例を交えて学びます。</p> <p>2. ビッグデータ解析の重要性を実践的に体験、AIの活用事例を学びます</p> <p>3. SNSの利用に関してメリットやリスクなどを学びます。</p> <p>4. ショッピング、会員制無制限利用サービス（サブスク）、インターネット広告、検索などのインターネットサービスの基本サービスの学習と事例紹介、スマホ決済やシェアリングエコノミー、IoTの実例を学びます</p> <p>5. 情報発信のための画像や映像などの要素制作を実践し、活用できるようにします。</p> <p>6. グループワーク、フィールドワークなどを通じてアイデアを出し、まとめ、制作し発表する中でデザイン思考～プロトタイピングを体験します。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての講義において学生とインタラクティブに、対象のサービスを実際に使いながら進め、ページや映像などを試しに作ってみるなど、実践的な講義を目指します。</li> <li>いくつかの講義では、その領域の専門家をゲスト講師として招いて話していただきます。</li> <li>ワークショップ、グループディスカッションなどを織り交ぜながら、常に動きのある講義とします。</li> <li>自分の頭で考えて判断、行動し、ITを活用できる学生の育成を狙いとしません。</li> </ul>			
教授方法	講義と実習、ワークショップ、フィールドワークなど 次の講義に対して予習し、その内容をスモールグループで共有し、自らの言葉で教え、仲間から学び、知識を広げる。						
履修条件	PC、タブレット、スマホ等の情報端末持参 WiFiでのインターネット接続必須						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	第1回・講義の概要、ITって怖い？便利？ ITの理解とインターネットサービス、ビジネスモデル スマホからPCまでIT機器の選び方						
2	第2回・インターネットが課題を解決した事例紹介、サービス設計 世界から見た日本のIT事情（GAFA, BAT）						
3	第3回・インターネットと地域・世界 ふるさと納税、SNSや動画でのローカルプロモーションと世界での情報発信の事例						
4	第4回・データの理解と分析 ビッグデータでわかること、AIってなんだ？ 機械学習、ディープラーニング、統計、グラフ分析、データグラフィック						
5	第5回・SNSの過去現在未来 SNSとの付き合い方、メリットとデメリット、リスク、タブー、プログメディアによる宣伝と犯罪						
6	第6回・商品を買う、買ってもらおう ショッピング、ストア、フリマ						
7	第7回・IDと会員サービス プレミアムとポイントとサブスクモデル 変わる音楽や映像の世界						
8	授業内容：第8回・人を惹きつけ離さない インターネット広告の世界 広告と広報、プロモーション、コミュニケーション グループワーク1						
9	第9回・検索の行動変革 検索からツイッター、Youtube、Instagram、Netflixへ グループワーク2						
10	第10回・情報発信のためのクリエイティブ制作 ホームページ、Facebook、Insta向けの画像や映像の制作と編集方法 映像&画像制作技術 フィールドワーク						
11	第11回・変革を遂げるお金の未来 デジタルマネー、スマホ決済の広がり、「お金」とFintechの今とこれから グループワーク3						
12	第12回・シェアリングエコノミー 「空き」の活用 小さな余りから大きな資源へ 群衆の叡智 グループ発表						
13	第13回・ドローン、センサー、AIの活用、工業・農業・漁業・サービス業での実例 IoTの今とこれから						
14	第14回・まとめ これからのIT人材 圧倒的に足りないIT実務人材 ITを恐れない人材になるには？						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
1	30	オープニングピッチ（ショートプレゼン）参加 x 10回			2	45	レポート提出 x 10回 期限内で4.5点
3	15	最終レポート提出			4	10	積極点 発言、発表等で加点
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
次回授業の予習、調べ物 学習内容のレポート グループでの調査・企画・設計、フィールドワーク、まとめ、発表を行います。				随時可能とします。 メールでの質問、相談も受け付けます。遠慮なくメールください。 授業後に「ミニゼミ」を行い、さらなる深い学びや、別の角度からの学びや実践を行います。質問、相談、ディスカッションの時間を創出します。			
教科書・テキスト	なし			受講生に望むこと	積極的に授業での取り組みに参加し、内容に応じて積極的に発言、コミュニケーションすることを望みます。		



参考書・ 参考資料等	インターネット上のあらゆる情報	その他・ 特記事項	楽しみながら学びましょう！
---------------	-----------------	--------------	---------------

授業科目	発信力ゼミ（8組）						
担当教員	野口 暢子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	キャンパスツアー（含む図書館）						
3	アカデミックスキルズ（1）本を読む、ノートを取る						
4	アカデミックスキルズ（2）レポートの書き方（1）						
5	アカデミックスキルズ（3）レポートの書き方（2）						
6	キャリア講座（1）自己理解						
7	キャリア講座（2）キャリアデザイン						
8	情報検索ガイダンス						
9	アカデミックスキルズ（4）新聞・文章講座						
10	アカデミックスキルズ（5）プレゼンテーション						
11	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	信州の観光を考える（第14回以降の授業についてのガイダンス）						
14	信州の観光の現状と課題（受講生による事例発表）						
15	信州の観光の現状と課題（受講生による事例発表）						
16	信州の観光の現状と課題（受講生による事例発表）						
17	観光に関する課題の解決（受講生による発表）						
18	観光に関する課題の解決（受講生による発表）						
19	観光に関する課題の解決（受講生による発表）						
20	山ノ内町・視察						
21	野沢温泉村・視察						
22	白馬村・視察						
23	別所温泉・視察						
24	信州の温泉地の魅力を高めるために						
25	信州のスキーリゾートの魅力を高めるために						
26	信州の歴史的遺産をどのように活用するか						
27	外国からの観光客増加に向けて						
28	研究のまとめ・発表会						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業内における発表の準備・観光に関する文献や資料を読むこと			野口の学内メールアドレスに質問・相談内容を送ってください。直接会って話をしたい場合は、面談を希望する日時を書いたメールを送ってください。		
教科書・テキスト	なし		受講生に望むこと		調べる力・疑問を感じる力・まとめる力・質問する力をこの授業内でしっかりと身につけていきましょう。
参考書・参考資料等		必要に応じて、紹介いたします。	その他・特記事項		第20回～第23回までの視察は、通常の授業日ではなく、土曜日（補講日）などに行います。

授業科目	発信力ゼミ（5組）						
担当教員	谷口 真由実			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	キャンパスツアー（含む図書館）						
3	アカデミックスキルズ（1）本を読む、ノートを取る						
4	アカデミックスキルズ（2）レポートの書き方（1）						
5	アカデミックスキルズ（3）レポートの書き方（2）						
6	キャリア講座（1）自己理解						
7	キャリア講座（2）キャリアデザイン						
8	情報検索ガイダンス						
9	アカデミックスキルズ（4）新聞・文章講座						
10	アカデミックスキルズ（5）プレゼンテーション						
11	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	ゼミテーマ「詩や絵本」について考える						
14	ゼミテーマに沿って各自問いとテーマを考える						
15	夏季休暇の課題発表、ピアレビュー						
16	詩や絵本について調査グループをつくる						
17	詩や絵本についての情報収集						
18	詩や絵本についての関連図書を読む（1）						
19	詩や絵本についての関連図書を読む（2）						
20	文献調査（1）						
21	学外での調査（あるいは外部講師のお話を聞く）						
22	文献調査（2）						
23	研究発表の方法を検討する						
24	プレゼンテーションの内容を考える、構想発表（1）						
25	プレゼンテーションの内容を考える、構想発表（2）						
26	プレゼンテーションの発表準備						
27	クラス内研究発表会（1）						
28	クラス内研究発表会（2）						
共通の評価基準							

特になし					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価	0	特になし
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業の中で、調査や作文などの課題を出すので、しっかり取り組んで期限までに提出すること。			授業の中で、遠慮なく質問・相談してください。なるべくその場でお答えします。		
教科書・テキスト	特になし。適宜プリントなど配布		受講生に望むこと	クラス内の学生同士、積極的に意見交換するようにし、またウェブサイトから情報を得るだけでなく、幅広く本を読むようにしてください。	
参考書・参考資料等	『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門』（佐藤望ほか編、慶應義塾大学出版会、2014年第2版）		その他・特記事項	授業には必ず出席し、指示がある場合以外は、スマホやパソコンは使用しないこと。	

授業科目	発信力ゼミ（3組）						
担当教員	萱津 理佳			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	キャンパスツアー（含む図書館）						
3	アカデミックスキルズ（1）本を読む、ノートを取る						
4	アカデミックスキルズ（2）レポートの書き方（1）						
5	アカデミックスキルズ（3）レポートの書き方（2）						
6	キャリア講座（1）自己理解						
7	キャリア講座（2）キャリアデザイン						
8	情報検索ガイダンス						
9	アカデミックスキルズ（4）新聞・文章講座						
10	アカデミックスキルズ（5）プレゼンテーション						
11	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	後半ガイダンス、自己紹介、アイスブレイク						
14	アイスブレイク、夏休みの活動・宿題等について						
15	夏の課題報告（1）						
16	夏の課題報告（2）						
17	発信力を鍛えよう、テーマ探求（1）						
18	発信力を鍛えよう、テーマ探求（2）						
19	テーマ決定、研究計画（1）						
20	研究計画（2）						
21	テーマに関する調査・研究（1）						
22	テーマに関する調査・研究（2）						
23	テーマに関する調査・研究（3）						
24	テーマに関する調査・研究（4）						
25	発表準備・レジュメ作成（1）						
26	発表準備・レジュメ作成（2）						
27	発表会（1）						
28	発表会（2）						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定された課題・レポートに取り組むこと</li> <li>学外での調査やイベントに参加など（任意）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>質問や相談は、授業中および授業の前後に受け付けます。</li> <li>授業時間外はメールでの対応、または（アポをとって）直接来室して下さい。</li> </ul>		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと		各自が自分の課題やテーマの解決に向けて、主体的に学び、活動すること グループワークや、ゼミの活動・議論に積極的に参加すること
参考書・参考資料等		適宜資料を配布、または、参考書等を指示します。	その他・特記事項		アカデミックスキルズを身につけるとともに、主体性やコミュニケーション力、考えぬく力を一緒に鍛えていきましょう！

授業科目	発信力ゼミ（2組）						
担当教員	織田 竜也			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	キャンパスツアー（含む図書館）						
3	アカデミックスキルズ（1）本を読む、ノートを取る						
4	アカデミックスキルズ（2）レポートの書き方（1）						
5	アカデミックスキルズ（3）レポートの書き方（2）						
6	キャリア講座（1）自己理解						
7	キャリア講座（2）キャリアデザイン						
8	情報検索ガイダンス						
9	アカデミックスキルズ（4）新聞・文章講座						
10	アカデミックスキルズ（5）プレゼンテーション						
11	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	後半の進め方						
14	夏季休暇の過ごし方						
15	夏季休暇のプレゼンテーション						
16	自分について考える						
17	対話						
18	自分の将来像（3分）						
19	ブレインストーミング						
20	グループ学習						
21	自分の将来像（6分）						
22	自分の将来像（6分）						
23	脱出ゲーム						
24	ゲーム制作						
25	ゲーム実践						
26	フィールドワーク						
27	自分の将来像（9分）						
28	自分の将来像（9分）						
共通の評価基準							



成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
読書、フィールドワーク、プレゼンの練習。			面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。		
教科書・テキスト	随時指示する。		受講生に望むこと	他人に自分の内面を見せる勇気を養ってください。	
参考書・参考資料等	特になし。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	発信力ゼミ（7組）						
担当教員	二本松 泰子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	キャンパスツアー（含む図書館）						
3	アカデミックスキルズ（1）本を読む、ノートを取る						
4	アカデミックスキルズ（2）レポートの書き方（1）						
5	アカデミックスキルズ（3）レポートの書き方（2）						
6	キャリア講座（1）自己理解						
7	キャリア講座（2）キャリアデザイン						
8	情報検索ガイダンス						
9	アカデミックスキルズ（4）新聞・文章講座						
10	アカデミックスキルズ（5）プレゼンテーション						
11	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	夏休みに向けた指導 - 長野県内の城下町について調べる -						
14	夏休みに向けた指導 - 長野県内の城下町における課題の見つけ方 -						
15	夏休みの成果発表						
16	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 長野県佐久市の龍岡城五稜郭について調べる -						
17	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 長野県佐久市の新海三社神社について調べる -						
18	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 長野県佐久市の安養寺（信州味噌発祥の地）と安養寺らーめんについて調べる -						
19	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 長野県佐久市のスイーツ（日本三大ケーキのまちとしての佐久市）について調べる -						
20	フィールドワークの準備 - 龍岡城五稜郭を軸とする周辺地域の調査 -						
21	フィールドワークの実施 - 龍岡城五稜郭・新海三社神社・安養寺・中込駅前通りを中心に -						
22	フィールドワークの成果発表、グループ分け、グループごとのテーマ設定						
23	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 龍岡城五稜郭を軸とする町おこしのアイデアについて討論する -						
24	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 龍岡城五稜郭を軸とする町おこしのアイデアについてクラス内でプレゼンする -						
25	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 長野県佐久市の地元市民を対象にしたワークショップ開催の準備 -						
26	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 長野県佐久市の地元でワークショップを開催し、龍岡城五稜郭を軸とする町おこしのアイデアを地元発信する -						
27	フィールドワークの準備 - 松本城を事例にして、完成された城下町文化の発信方法を学ぶ -						
28	フィールドワークの実施 - 松本城・縄手通り商店街・あがたの森公園を中心に -						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前学習：プレゼンテーションを担当する場合は、報告のためのパワーポイントや資料を事前に作成しておいてください。 事後学習：プレゼンテーションをした後は、指摘されたことを中心に補足調査をしてください。			毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はオフィスアワーなどを利用して研究室に来てください。		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	このクラスの後半は長野県内におけるフィールドワークの実施を中心に調査・プレゼンテーションの方法について学びます。その際、皆さんの学習成果については、できるだけ広く地元にも発信してもらう予定ですので、地域貢献の意義についても併せて学んでください。	
参考書・参考資料等	特になし。		その他・特記事項	学習の成果を“発信する”一環として、毎年の受講生には、地元メディア（新聞・ラジオ・テレビ）の取材に対応してもらっています。今年度の受講生の皆さんも、できる範囲で結構ですので、ご協力くださると幸いです。	

授業科目	発信力ゼミ（9組）						
担当教員	馬場 智一			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	キャンパスツアー（含む図書館）						
3	アカデミックスキルズ（1）本を読む、ノートを取る						
4	アカデミックスキルズ（2）レポートの書き方（1）						
5	アカデミックスキルズ（3）レポートの書き方（2）						
6	キャリア講座（1）自己理解						
7	キャリア講座（2）キャリアデザイン						
8	情報検索ガイダンス						
9	アカデミックスキルズ（4）新聞・文章講座						
10	アカデミックスキルズ（5）プレゼンテーション						
11	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	自己紹介、他己紹介、授業・課題・評価の概要、哲学プラクティスについて						
14	哲学対話をやってみる						
15	夏休みの振り返り、読書レポートピアレビュー、読んだ本の紹介						
16	哲学カフェ方法論講義						
17	哲学カフェ模擬演習						
18	グループ分け、計画立案						
19	計画発表・哲学カフェ演習						
20	計画発表・哲学カフェ演習						
21	実施報告・哲学カフェ演習						
22	実施報告・哲学カフェ演習						
23	クラス内発表準備、冬休みの課題について						
24	クラス内発表準備						
25	クラス内発表準備						
26	クラス内発表準備						
27	クラス内発表						
28	クラス内発表						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
フィールドワークについては適宜指示する。			他の学生の参考になるので、できるだけ授業中にすること。		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと	授業時間以外、学外の活動を通じた、学外の人々との交流に積極的に参加すること	
参考書・参考資料等	<p>アカデミックスキルズについては、適宜必要な資料を配布する。</p> <p>哲学対話については、以下を参照。</p> <p>河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン』河出書房新社、2018年</p> <p>梶谷真司『考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの哲学入門』幻冬舎、2018年</p> <p>土屋陽介『僕らの世界を作りかえる哲学の授業』青春新書、2019年</p>		その他・特記事項	特になし	

授業科目		発信力ゼミ（1組）					
担当教員	東 俊之			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	メンタルヘルス講座、自己紹介						
第2回	キャンパスツアー（含む図書館） 課外で「個人面談」をおこないます。						
第3回	アカデミックスキルズ（1）本を読む、ノートを取る						
第4回	アカデミックスキルズ（2）レポートの書き方（1）						
第5回	アカデミックスキルズ（3）レポートの書き方（2）						
第6回	キャリア講座（1）自己理解						
第7回	キャリア講座（2）キャリアデザイン						
第8回	情報検索ガイダンス						
第9回	アカデミックスキルズ（4）新聞・文章講座						
第10回	アカデミックスキルズ（5）プレゼンテーション						
第11回	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション						
第12回	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
第13回	【後半クラス開始】・アイスブレイクを行う / ・ゼミの主テーマについてクラス全体で議論する、など 3学期にスタート						
第14回	【後期オリエンテーション】・後期（3・4学期）のスケジュールを確認する / ・3学期に作成するリサーチペーパー（レポート課題）のテーマを開示する、など						
第15回	【アカデミック・ライティングの進め方】・3学期に作成するリサーチペーパーの作成の手順を説明する / ・アカデミックな文章の作成方法をおさらいする、など						
第16回	【リサーチペーパー作成演習】・あたえられたテーマについての情報・データを収集し、論題を検討する、など						
第17回	【レポート作成演習】・あたえられたテーマについての個人レポートの構成を考える、など						
第18回	【レポート作成演習】・あたえられたテーマについての個人レポートを実際に作成する、など						
第19回	【個人レポート報告（中間課題）】・作成したレポート（リサーチペーパー）の内容を個人でプレゼンテーションする / ・他者からのコメントを受け、リサーチペーパーを修正する、など						
第20回	【個人レポート報告（中間課題）】・作成したレポート（リサーチペーパー）の内容を個人でプレゼンテーションする / ・他者からのコメントを受け、リサーチペーパーを修正する、など						
第21回	【3学期までの自己点検授業】・3学期までの自己の成長を振り返り、次学期の目標を考える / ・自身の作成したリサーチペーパーを自己評価する、など						
第22回	【グループ活動の基本】・グループ活動の要点を学ぶ、ブレインストーミングやKJ法を体験する、など						
第23回	【グループ活動】・グループを決定する / ・グループ活動のテーマを開示し発表論題を検討する、など						
第24回	【グループ活動】・テーマについての情報を収集し、グループで発表する論題を決定する、など						
第25回	【グループ活動】・グループで設定した研究目標を達成するため手段を検討する / ・検討した手段を評価する、など						
第26回	【グループ活動】・これまでのグループ活動をまとめる / ・次回の発表の準備を行う、など						
第27回	【グループ発表練習】・クラス内で発表を行い、他者とディスカッションを行う（採点の対象ではない） / ・グループ活動を自己評価する、など 課外で「個人面談」をおこないます。						
第28回	【クラス内での発表】・クラス内で発表を行い、他者から講評を得る（採点の対象とする） / ・1年間の振り返り（自己点検）をおこない、次年度の目標を立てる、など						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す 「発信力ゼミ（1組）」では、3学期に提出する
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す 「発信力ゼミ（1組）」では、第28回に実施するクラス内発表とそれに至るプロセスを評価	上記以外の授業評価	0	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>授業外でのレポート作成やプレゼンテーションの準備は必須です。提出期限は厳守してください。レポートやプレゼンテーションに内容によっては、課外でのフィールド調査も必要になる場合があります。また、授業時にグループ活動などを行う際には、事前に個人で情報収集することを求めます。さらに、アカデミックスキルを身につけるためには、きちんと復習することが不可欠です。担当者から返却された採点済みのレポートを必ず見直すようにしてください。</p>			<p>不明な点は遠慮なく訪ねてください。特に、レポート作成などは今後大学生活を送る上で不可欠な能力・技術ですので、わからないまま放置しないようにしてください。オフィスアワーは、火曜2限・火曜日3限に設定していますが、オフィスアワー以外の時間でも対応可能です。ただし、不在の場合があるので、なるべくメールでアポイントを取ってください。</p>		
教科書・テキスト	特に指定しません。		受講生に望むこと	<p>本科目は、発信力を涵養するとともに、大学生（あるいは社会人として）としての基礎的な能力を身につけることも目的としています。そのため、遅刻や無断欠席、授業中の私語など受講態度不良は厳しく注意します。</p>	
参考書・参考資料等	<p>佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦（2020）『アカデミック・スキルズ（第3版）』慶應義塾大学出版会 その他、授業内で適宜指示します。また必要な資料を配付する場合があります。</p>		その他・特記事項	<p>授業担当者（東）は、7月2週目～2学期末まで「海外プログラム」の引率が予定されています。そのため、第13回・第14回授業は、3学期におこないます。また、授業のことだけでなく、大学生活で困ったことがあれば、遠慮なく授業担当者（東）に尋ねてください。</p>	

授業科目	発信力ゼミ（12組）						
担当教員	加藤 孝士			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力、自身のキャリアへの関心を高める。社会問題等を調査したり、自分の将来像などについて語り合い、その成果をクラス内で発表する。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	アカデミックスキルズ1（ノートテイク・リーディング）						
3	キャンパスツアー（含む図書館）						
4	アカデミックスキルズ2（レポート作成（一般・実験））						
5	アカデミックスキルズ3（情報整理・プレゼンテーション）						
6	情報検索ガイダンス						
7	アカデミックスキルズ4（実践・ショートプレゼンテーションの準備）						
8	キャリア講座（1）コミュニケーションスキルアップ						
9	キャリア講座（2）キャリアデザイン						
10	ショートプレゼン 発表（3分）、質疑応答（3分）×15名						
11	ショートプレゼン 発表（3分）、質疑応答（3分）×15名						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	後半の授業説明と自己紹介						
14	夏休みに向けた課題について						
15	課題の発表と共有						
16	調査・分析の手法（1）						
17	調査・分析の手法（2）						
18	グループ分けとテーマの決定						
19	テーマに関する情報収集（1）						
20	テーマに関する情報収集（2）						
21	仮プレゼン資料の作成						
22	ショートプレゼン						
23	テーマに関する調査・分析（1）						
24	テーマに関する調査・分析（2）						
25	テーマに関する調査・分析（3）						
26	プレゼンテーションの準備（1）						
27	プレゼンテーションの準備（2）						
28	クラス発表会						
共通の評価基準							



成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
発表テーマに関する情報収集等を行う必要がある			授業後、H404にて質問・相談を受けつける		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと	疑問をお持ちながら、授業に臨んでください	
参考書・参考資料等	特になし		その他・特記事項	特になし	

授業科目	発信力ゼミ（４組）						
担当教員	金 賢仙			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	キャンパスツアー（含む図書館）						
3	アカデミックスキルズ（１）本を読む、ノートを取る						
4	アカデミックスキルズ（２）レポートの書き方（１）						
5	アカデミックスキルズ（３）レポートの書き方（２）						
6	キャリア講座（１）自己理解						
7	キャリア講座（２）キャリアデザイン						
8	情報検索ガイダンス						
9	アカデミックスキルズ（４）新聞・文章講座						
10	アカデミックスキルズ（５）プレゼンテーション						
11	アカデミックスキルズ（６）プレゼンテーション						
12	３・４学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	後半グループ顔合わせ & アイスブレイク「株式会社をつくろう」ゲーム						
14	アイスブレイク「株式会社をつくろう」ゲーム & 「好きな会社」、「知りたい会社」のリサーチワーク（夏季休暇に向けて）						
15	後半ガイダンス & キャッチアップ						
16	「株式会社をつくろう」ゲーム & 「気になる上場会社（全国版）」のリサーチ・ワーク（抽出）						
17	「株式会社をつくろう」ゲーム & 「気になる上場会社（全国版）」のリサーチ・ワーク（決定）						
18	リサーチ・ワーク（上場会社の情報の集め方等の学びを含む）						
19	プレゼンテーションA（テーマ：気になる上場会社（全国版））						
20	プレゼンテーションA（テーマ：気になる上場会社（全国版））						
21	プレゼンテーションA（テーマ：気になる上場会社（全国版））						
22	プレゼンテーションA（テーマ：気になる上場会社（全国版））						
23	プレゼンテーションAの振り返り & プレゼンテーションBの準備						
24	プレゼンテーションBの準備						
25	プレゼンテーションB（テーマ：気になる上場会社（長野県と全国版））						
26	プレゼンテーションB（テーマ：気になる上場会社（長野県と全国版））						
27	プレゼンテーションB（テーマ：気になる上場会社（長野県と全国版））						
28	プレゼンテーションB（テーマ：気になる上場会社（長野県と全国版））						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価。	発表(プレゼンテーション)	50	前半：発表評価ルーブリックを別に示す。 後半：正確性、独自性、当日のパフォーマンスを総合的に評価。
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
プレゼンのテーマ確定と準備をする際に、各自でリサーチを行う。			原則として、オフィス・アワーに対応する。		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	本セミナーは大学での学びの入口といえます。楽しみながら、学びましょう。	
参考書・参考資料等	特になし。		その他・特記事項	講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。	

授業科目	発信力ゼミ（13組）						
担当教員	寺川 直樹			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	アカデミックスキルズ1（ノートテイク・リーディング）						
3	キャンパスツアー（含む図書館）						
4	アカデミックスキルズ2（レポート作成（一般・実験））						
5	アカデミックスキルズ3（情報整理・プレゼンテーション）						
6	情報検索ガイダンス						
7	アカデミックスキルズ4（実践：ショートプレゼンの準備）						
8	キャリア講座（1）コミュニケーションスキルアップ						
9	キャリア講座（2）キャリアデザイン						
10	ショートプレゼン 発表（3分）、質疑応答（3分）×15名						
11	ショートプレゼン 発表（3分）、質疑応答（3分）×15名						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	ゼミテーマ（自然災害およびそれに付随する諸問題・批判的思考）に関する講義1						
14	ゼミテーマに関する講義2、および夏休みのレポートテーマに関する説明						
15	レポートについての発表とピアレビュー						
16	グループ分け、グループごとのテーマ設定						
17	テーマについての調査・研究（1）						
18	テーマについての調査・研究（2）						
19	テーマについての調査・研究（3）						
20	テーマについての調査・研究（4）						
21	中間発表						
22	テーマについての調査・研究（5）						
23	テーマについての調査・研究（6）						
24	テーマについての調査・研究（7）						
25	テーマについての調査・研究（8）						
26	プレゼンテーションの準備（1）						
27	プレゼンテーションの準備（2）						
28	クラス内発表会						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
レポート課題の提出や発表準備を求めることがある。また、授業時間外に学外研修に向かう予定である。			メール（terakawa.naoki@u-nagano.ac.jp）での連絡か、H403に直接お越しください。		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	自然災害およびそれに付随する諸問題、または批判的思考に関心があることが望ましい。	
参考書・参考資料等	その都度指示する。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	発信力ゼミ（10組）						
担当教員	三浦 正士			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	キャンパスツアー（含む図書館）						
3	アカデミックスキルズ（1）本を読む、ノートを取る						
4	アカデミックスキルズ（2）レポートの書き方（1）						
5	アカデミックスキルズ（3）レポートの書き方（2）						
6	キャリア講座（1）自己理解						
7	キャリア講座（2）キャリアデザイン						
8	情報検索ガイダンス						
9	アカデミックスキルズ（4）新聞・文章講座						
10	アカデミックスキルズ（5）プレゼンテーション						
11	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	テーマに関するディスカッションとグループ分け						
14	夏休みに向けた指導						
15	夏休みの成果発表						
16	地域の政策課題を知る						
17	国や自治体の政策を学ぶ						
18	政策課題への対応策を考え、レポートにまとめる						
19	調査計画を立てる						
20	テーマに関する調査研究						
21	テーマに関する調査研究						
22	中間発表とディスカッション						
23	テーマに関する調査研究						
24	テーマの関する調査研究						
25	プレゼンテーションの準備						
26	プレゼンテーションの準備						
27	発表会の予行演習、プレゼンテーションの訓練						
28	クラス内発表会						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告者は、報告内容について主体的な問題関心を持ち、適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して報告に備える。報告者以外は、報告が予定されている内容について事前に情報を収集する。</li> </ul> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告者は、報告内容に対する質問・指摘を踏まえ、報告内容の充実に向けた情報収集等を行う。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に口頭で受け付ける。</li> <li>・上記のほか、相談等は随時メール等で受け付ける。</li> </ul>		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	ゼミナールの活動や授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	発信力ゼミ（14組）						
担当教員	宮城 正作			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	アカデミックスキルズ1（レポートの書き方）						
3	キャンパスツアー（含む図書館）						
4	アカデミックスキルズ2（資料作成）						
5	キャリア講座（1）自己理解						
6	情報検索ガイダンス						
7	アカデミックスキルズ3（資料デザイン）						
8	キャリア講座（2）コミュニケーションスキルアップ						
9	キャリア講座（3）キャリアデザイン						
10	ショートプレゼン 発表（3分）、質疑応答（3分）×20名						
11	ショートプレゼン 発表（3分）、質疑応答（3分）×20名						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	・シルクスクリーン技法の説明 ・シルクスクリーン技法を用いたTシャツ制作（基礎編）						
14	・シルクスクリーン技法を用いたTシャツ制作（基礎編）						
15	・シルクスクリーン技法を用いたTシャツ制作（基礎編）						
16	・シルクスクリーン技法を用いたTシャツ制作（基礎編）						
17	・シルクスクリーン技法を用いたTシャツ制作（基礎編）						
18	・グループ決めと制作物の検討						
19	・制作物の検討とブランド名・コンセプトの立案						
20	・各自・各グループで制作（応用編）						
21	・各自・各グループで制作（応用編）						
22	・各自・各グループで制作（応用編）						
23	・各自・各グループで制作（応用編）						
24	・各自・各グループで制作（応用編） ・展示方法の検討						
25	・各自・各グループで制作（応用編） ・展示方法の検討						
26	・作品の展示（中間発表）						
27	・プレゼンテーション資料の作成						
28	・プレゼンテーション（最終発表）						
共通の評価基準							



成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
・制作は授業内で終えることはできませんので、授業外の時間も活用してください。			随時受け付けます。 miyagi.masanari@u-nagano.ac.jp		
教科書・テキスト	とくになし。		受講生に望むこと	アートやデザイン、ファッションが好きな人に向いています。絵が上手い・下手ではなく、「好き」や「やってみたい」という気持ちをもっている人を歓迎します。	
参考書・参考資料等	教員より随時配布する。		その他・特記事項	とくになし。	

授業科目	発信力ゼミ（15組）						
担当教員	山本 直樹			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力、自身のキャリアへの関心を高める。社会問題等を調査したり、自分の将来像などについて語り合い、その成果をクラス内で発表する。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	アカデミックスキルズ1（レポートの書き方）						
3	キャンパスツアー（含む図書館）						
4	アカデミックスキルズ2（資料作成）						
5	キャリア講座（1）自己理解						
6	情報検索ガイダンス						
7	アカデミックスキルズ3（資料デザイン）						
8	キャリア講座（2）コミュニケーションスキルアップ						
9	キャリア講座（3）キャリアデザイン						
10	ショートプレゼン 発表（3分）、質疑応答（3分）×20名						
11	ショートプレゼン 発表（3分）、質疑応答（3分）×20名						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	夏休みに向けた指導						
14	夏休みに向けた指導2						
15	ドラマワーク（身体）						
16	ドラマワーク（感覚）						
17	ドラマワーク（感情）						
18	ドラマワーク（言葉）						
19	ドラマワーク（物語の立体化）						
20	劇の創作（1）						
21	劇の創作（2）						
22	劇の創作（3）						
23	中間発表、反省会						
24	朗読劇（リーダーシアター）の創作（1）						
25	朗読劇（リーダーシアター）の創作（2）						
26	朗読劇（リーダーシアター）の創作（3）						
27	最終リハーサル、反省会						
28	発表会						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
毎回の授業終了時に示す課題について取り組み、次回提出すること。			適宜、対応する。		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと	演習および創作の際には積極的な参加を望む	
参考書・参考資料等	佐藤ほか（編）『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』第二版、慶応義塾大学出版会、2013年 小林由利子他『ドラマ教育入門』図書文化社、2010年		その他・特記事項	無し	

授業科目	発信力ゼミ（11組）						
担当教員	宮森 征司			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	キャンパスツアー（含む図書館）						
3	アカデミックスキルズ（1）本を読む、ノートを取る						
4	アカデミックスキルズ（2）レポートの書き方（1）						
5	アカデミックスキルズ（3）レポートの書き方（2）						
6	キャリア講座（1）自己理解						
7	キャリア講座（2）キャリアデザイン						
8	情報検索ガイダンス						
9	アカデミックスキルズ（4）新聞・文章講座						
10	アカデミックスキルズ（5）プレゼンテーション						
11	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	テーマ決め（1）						
14	テーマ決め（2）						
15	課題書に関するプレゼン（1）：個人プレゼン						
16	課題書に関するプレゼン（2）：個人プレゼン						
17	グループワーク（1）：調査対象決め						
18	グループワーク（2）：調査対象決め						
19	フィールドワークの技法						
20	フィールドワーク（1）						
21	グループワーク（3）：フィールドワーク振り返り						
22	フィールドワーク（2）						
23	中間報告（1）						
24	中間報告（2）						
25	追加調査（1）						
26	追加調査（2）						
27	最終報告（1）：グループプレゼン						
28	最終報告（2）：グループプレゼン						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
適宜、アカデミック・スキルの涵養のため、中間レポート等を課すことがあります。 具体的なテーマ、調査対象、発表に至るまでの計画については、基本的に、受講生自らが決めることとなります。夏休みにはそのつもりで準備を進めておくこと。			講義時間以外は、基本的にメールで受け付けます。		
教科書・テキスト	有益と思われる図書については、講義時に紹介します。		受講生に望むこと	講義全体のテーマとしては、広く「まちづくり」を想定していますが、受講生の希望に応じて、柔軟に対応します。各自が勉強してみたいことを積極的に見つけて下さい。	
参考書・参考資料等	有益と思われる図書については、講義時に紹介します。		その他・特記事項	学生主体のゼミ運営を想定しています。具体的に取り組みたいテーマがあれば、是非、積極的に取り組んでください。 フィールドワークで近隣市町村などに出向くことになるかも知れません。調査費用、交通費など、負担して頂く場合があるかも知れませんが、ご承知おください。	

授業科目	発信力ゼミ（6組）						
担当教員	鶴田 靖人			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク、レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	キャンパスツアー（含む図書館）						
3	アカデミックスキルズ（1）本を読む、ノートを取る						
4	アカデミックスキルズ（2）レポートの書き方（1）						
5	アカデミックスキルズ（3）レポートの書き方（2）						
6	キャリア講座（1）自己理解						
7	キャリア講座（2）キャリアデザイン						
8	情報検索ガイダンス						
9	アカデミックスキルズ（4）新聞・文章講座						
10	アカデミックスキルズ（5）プレゼンテーション						
11	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	夏休みに向けた指導（1）						
14	夏休みに向けた指導（2）						
15	夏休みの振り返り、課題発表						
16	調査・分析方法を学ぶ						
17	班で調査したいテーマを考える						
18	班で調査・分析を実施する（1）						
19	班で調査・分析を実施する（2）						
20	班で調査・分析を実施する（3）						
21	班で調査・分析結果をまとめる						
22	中間発表						
23	プレゼンテーションのやり方を学ぶ						
24	プレゼンテーションの内容を考える（1）						
25	プレゼンテーションの内容を考える（2）						
26	プレゼンテーションの発表準備・再検討（1）						
27	プレゼンテーションの発表準備・再検討（2）						
28	クラスでの発表会						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業内活動の準備を事前に課す場合がある。事後学習として課題を課す場合がある。			質問はできるだけ授業内で行うこと。相談は授業後に受け付ける。		
教科書・テキスト	なし		受講生に望むこと	ディスカッションなどの活動が多いので、積極的に参加すること。	
参考書・参考資料等	適宜配布する。		その他・特記事項	なし	

授業科目		デザイン思考							
担当教員		三上 龍之		必修・選択		選択	単位数	2単位	
履修年次		1・2年	開講学期		4 学期	授業形態		演習	科目ナバリング
対象学生		全学科共通		関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）					
<p>「デザイン」が色やカタチなど所謂デザイナーの活動だけではなく、様々な分野や職種で応用・実践できる方法論であることを理解する。今の姿を探る、課題を見つける、解決策を考える、試して洗練するというプロセスの中で、発散と収束を繰り返して課題を発見し解決するための、様々なツールを実際に体験する。また、関連したノウハウなども学習し、総合演習では、グループで設定したテーマで、これまで学習したプロセスを通して実施することで、デザイン思考による課題の発見と解決を实践する。</p> <p>英語表記「Design Thinking」</p>				<p>ねらい： 社会課題が複雑化し、人々の価値観が多様化するなか、これまでのマーケティングやマネジメントのアプローチに加え、デザイン的な取り組みで課題を発見し解決する方法論（デザイン思考）の有効性が注目されている。本科目では、社会の様々な分野や職種で応用・実践できる「デザイン思考」のマインド、プロセス、ツールについて学び、経験することで、これからのイノベーション人材に必要な基礎的スキルの向上を狙う。</p> <p>到達目標： 「デザイン思考」に関して、体験を通じて自分事として理解する</p>					
教授方法		基礎的知識の講義ののち、実際の手法を、個人またはグループワークにより体験する。総合演習ではグループごとにテーマを決め、一連のプロセスを通して実施し、プレゼンテーション（課題発表）を行う。							
履修条件		特に無し							
授業計画									
実施回	授業内容								
1	ガイダンス～デザイン思考の背景								
2	デザイン思考の概要								
3	プロセス1「今の姿を探る」								
4	演習1「今の姿を探る」手法の実践								
5	プロセス2「課題を見つける」								
6	演習2「課題を見つける」手法の実践								
7	プロセス3「解決策を考える」								
8	演習3「解決策を考える」手法の実践								
9	プロセス4「試して洗練する」								
10	演習4「試して洗練する」手法の実践								
11	総合演習：「今の姿を探る」								
12	総合演習：「今の姿を探る」								
13	総合演習：「解決策を考える」								
14	総合演習：「試して洗練する」								
共通の評価基準									
特に無し									
成績評価方法と基準									
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準		
定期試験	40	総合演習での取り組み成果のプレゼンテーションによりグループワークの実践度合いを評価する			授業レポート	60	毎回レポートで学んだ内容の理解度を判断。最終回は総合レポートとして、到達目標が達成されたかを評価する。		
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日ごろから「デザイン」について自分事として意識する</li> <li>・各回の学習内容を振り返り、授業レポートを作成する</li> <li>・各回のワークをグループで繰り返し、ワークの内容を確実に把握する</li> <li>・総合演習の課題の各ステップで、繰り返しによるブラッシュアップをグループで実践する</li> <li>・最終回終了後、総合レポートを作成する</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前後・授業中に質問に応じる</li> <li>・各回の授業レポートで相談・質問を受け付け、個別または次回授業の中で対応する</li> </ul> <p>メールアドレス：tatsuyuki.mikami@toshiba.co.jp</p>				
教科書・テキスト	特に無し				受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は受け身でなくインタラクティブに取り組む</li> <li>・グループワークでは積極的に献身的に</li> <li>・集中し真剣に考え没入する感覚を味わう</li> </ul>			
参考書・参考資料等	必要に応じ授業の中で紹介する				その他・特記事項	<p>受講人数の上限：50名            上限を上回った場合の選抜方法：受講希望者は履修登録と同時に、受講動機と出席見込（他科目、実習等との重複の有無）を申告すること。方法については別途通知する。</p>			



授業科目	世界の文化と社会						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
日本と密接な関係を持っている多文化・多民族社会アメリカ合衆国について、特に地域、人種、日米関係等の視点から、基本的に理解するための講義を進めてゆく。またアメリカ文化が幕末、明治時代以降現在に至るまで日本においていかに受容されてきたのかを概観し、さらにグローバルな視点からアメリカ文化と日本文化との間の比較考察を試みる。質疑応答・議論等の機会も設けることにより、双方向的な授業内容にしたい。				世界の中の特定の文化や社会を、一国に限定して捉えるのではなく、他国との交流や、地域全体、さらにはグローバルな動態のなかで捉えることのできるものの見方を、具体的事例を通して学ぶ。またこれにより、日本の文化と社会も同様な観点から捉えられるようにする。			
教授方法	アメリカの文化と社会、日米関係、アメリカ文化と日本文化との比較についての講義を中心に進める。毎回リアクション・ペーパーの提出を求め、学生の積極的な参加を期待し、質疑応答・議論などを通して学生の理解を深めたい。						
履修条件	「世界の文化と社会」履修者は必ず「世界の文化と社会」（4学期開講）も履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	現代アメリカ社会の動向、アメリカの成立と発展、理念、文化についての概説						
2	アメリカの地域、移民、人種、日米関係等についての概説						
3	アメリカの西部、カリフォルニア、ヒスパニック系、日系、アジア系						
4	アメリカの南部、南北戦争、現代の南部、南部の文化、アフリカ系、ネイティブ・アメリカン						
5	アメリカの東部・ニューイングランド・ニューヨーク・ユダヤ系・アイルランド系						
6	アメリカの中西部・五大湖周辺地方・農業問題						
7	アメリカの地域・文化・社会・日米関係などについてのまとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
リアクション・ペーパー	20%	毎回講義後リアクション・ペーパーの提出を求め、講義内容についての反応・理解を確認しながら進める。			授業レポート	50%	授業で扱った内容のなかで最も興味を持ったテーマについて各自研究し、その成果を最終レポートにまとめる。
講義への参加・意欲・態度	30%	学生との質疑応答・議論などの時間を設け、講義への積極的な参加・意欲・態度を評価に加える。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義のなかで興味を持ったテーマを各自でさらに調査・研究する。				何時でも質問や相談に応じます。メールも可。			
教科書・テキスト	プリント配布			受講生に望むこと	積極的な講義への参加を期待します。		
参考書・参考資料等	亀井俊介監修『アメリカ』（新潮社）講義中に適宜紹介する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	世界の文化と社会						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>中華人民共和国及び周辺の中国語通用地域についての、社会、政治、文化、民族問題などについて、基礎的な情報を理解することを目的として講義を進める。グローバルな視点からの東アジアの現在までの歴史的展開とともに、日本文化と中国文化の相違について考察する。学生の積極的な参加を期待し、質疑応答・議論などの機会を設けることにより、双方向的な授業内容にしたい。</p>				<p>世界のなかの特定の文化と社会を、一國に限定して捉えるのではなく、他国との交流や、地域全体、さらにはグローバルな動態のなかで捉えることのできるものの見方を、具体的事例を通じて学ぶ。またこれにより、日本の文化と社会も同様な観点から捉えられるようにする。</p>			
教授方法	中国の文化と社会、日本との関係、日本・アメリカ・西欧の文化と社会との比較を行いつつ講義を進める。毎回リアクション・ペーパーの記入を求め、学生の積極的な参加を期待し、質疑応答・議論などを通じて学生の理解を深めたい。						
履修条件	「世界の文化と社会」履修者は必ず「世界の文化と社会」（3学期開講）も履修すること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容						
1	中国歴代王朝の歴史・地理・社会・民族の概観、華北と江南						
2	中華人民共和国の歴史・社会・政治。経済・民族・日中関係の概観						
3	日本人に影響を与えた中国の古典：『論語』、『孟子』、『老子』、『大学』、『中庸』など						
4	儒教・道教の日本文化・社会への影響：新渡戸稲造『武士道』、岡倉天心『茶の本』、『東洋の理想』、内村鑑三『代表的日本人』						
5	禅仏教・大乘仏教の日本文化・社会への影響：鈴木大拙『禅と日本文化』、日中文化交流史						
6	アメリカの思想、日本人のアメリカ体験、日本におけるアメリカ文化の受容、日米文化交流史						
7	日本の文化・社会と、中国の文化・社会、アメリカの文化・社会の比較考察、講義のまとめ						
<b>共通の評価基準</b>							
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
リアクション・ペーパー	20%	毎講義後リアクション・ペーパーの提出を求め、講義内容についての反応・理解を確認しながら進める。			期末レポート	50%	講義で扱った内容のなかで最も興味を持ったテーマについて各自研究し、その成果を最終レポートにまとめる。
講義への参加・意欲・態度	30%	学生との質疑応答。議論などの時間を設け、授業への積極的な参加・意欲・態度を評価に加える。			期末レポート	50%	講義で扱った内容のなかで最も興味を持ったテーマについて各自研究し、その成果を最終レポートにまとめる。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義のなかで興味を持ったテーマを各自でさらに調査・研究する。				何時でも質問や相談に応じます。メールも可。			
教科書・テキスト	プリント配布			受講生に望むこと	積極的な講義への参加を期待します。		
参考書・参考資料等	陳舜臣・尾崎秀樹監修『中国』（新潮社）講義中に適宜紹介する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		象山学					
担当教員	首藤 聡一郎・真野 毅		必修・選択	選択	単位数	2単位	
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）				
<p>この科目は、総合教養科目に位置づけられており、グローバルマネジメント学部では必修科目、健康発達学部では選択科目とされている。イノベーターを学外から招き、現実における様々な課題やチャレンジについて学生にリアルに考えてもらう講義である。イノベーターに自分の経験を語っていただいたうえで、講師をファシリテーターとし、学生自らが自分の問題として考えていく。これまで、整理された知識を受動的に身につける機会が多かった学生に対し、複雑な現実と格闘する先達の姿を見せ、能動的に現実と向き合っていくきっかけを与え、社会に貢献していく方法を身につけてもらう。</p> <p>なお、本講義を担当する1人である真野毅は、京セラに入社し、同社米国子会社社長（携帯電話部門）に就任。その後、クアルコムジャパン株式会社代表取締役を経て、民間出身副市長公券を通じて兵庫県豊岡市副市長に就いた。学生が現実を理解し、向き合っていく姿勢を構築していくためのファシリテーターとして、それらの経験を十分に活用していく。</p> <p>また、もう1人の担当の首藤聡一郎は、経営戦略を中心に研究を進めている。学生が現実を理解する助けとなる諸理論を適宜紹介していくとともに、学生が自らの考えを明示的にまとめていくプロセスの支援をしていく。</p>			<p>1) 現実のビジネスや行政の現場について理解し、その現実をリアルに感じ取れるようになる、2) 学生が現実の課題やチャレンジについて自分の問題としてしっかり考えられるようになる。</p>				
教授方法	講演、グループワークおよびレクチャー。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス、次回講演に向けた準備						
2	講演および質疑応答（1）						
3	ワークショップ（1）						
4	講演および質疑応答（2）						
5	ワークショップ（2）						
6	講演および質疑応答（3）						
7	ワークショップ（3）						
8	講演および質疑応答（4）						
9	ワークショップ（4）						
10	講演および質疑応答（5）						
11	ワークショップ（5）						
12	講演および質疑応答（6）						
13	ワークショップ（6）						
14	最終ワークショップ、まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小レポート	30	内容、形式等		ワークショップレポート	30	内容、形式等	
期末レポート	30	内容、形式等		授業への貢献	10	ワークショップでの貢献や講演での質問等	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：講演に関する下調べおよび質問の準備、事後学習：講演後、小レポート作成。				授業時やその前後に対応する。それ以外の時間に関しては事前にメール等でアポイントメントをとること。			
教科書・テキスト	なし。			受講生に望むこと	この授業は皆さんにとって多くのことをもたらすと思います。真剣に取り組みましょう。また、学外のイノベーターのご協力あつての授業です。貴重な時間を割いて来てくださる講師の方に感謝の気持ちをもって講演に臨みましょう。		

参考書・ 参考資料等	佐々木 利廣，大室 悦賀『入門 企業と社会』、中央経済社、 2015年。その他については授業時に適宜紹介。	その他・ 特記事項	特になし。
---------------	--	--------------	-------

授業科目		信州学						
担当教員		田澤 直人			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		1年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生		全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要					授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>「信州学」の授業は、信州（長野県）といった地域を素材として、信州の歴史・民俗・地理・産業・観光等、信州に関わることについて、授業担当者を受講学生が、ともに調べ、考えていく授業である。そもそも、「信州学」という学問分野があるわけではない。担当者は、大学時代に日本民俗学を専攻した故に、そうした観点から、「信州学」を論ずることもする。しかし、基本的には学生諸君が、自らの関心のある分野について、興味関心を共にする者同士でグループを作り、調べ、そして、考え、分析したことを、最終的に、授業の中でレゼンしてもらう。</p>					<p>信州について、自らが興味関心のあることについて、各種文献を用い、調べることができたか。  信州について、調べたことを、プレゼンをとおして、他者にわかるように発表することができたか。  信州について、他者の発表した事柄について、自分なりに客観的な評価ができたか。  信州について、自らが調べたことを、最終的に、レポートとして、提出できたか。</p>			
教授方法		<p>1回目の授業のオリエンテーション、その後の2回の授業は、講義を行う。その際に、ワークシートを使った調べ学習をしてもらう。4回目の授業からは、グループを作り、自らの関心のある信州に関わる事柄につき、調べ学習を実施し、中間発表会、そして、中間発表会で判明した新たな課題等を、さらなる、調べ学習をする。最終的には、調べた成果を、パワーポイントを使い、発表してもらう。その後、調べた内容を、各個人がレポート（ワードで作成したA4版2枚以内）を提出する。</p>						
履修条件		なし。						
授業計画								
実施回	授業内容							
1	オリエンテーション：授業の進め方について説明。実際にどのようなプレゼンのやり方があるのか、2019年度の授業でのプレゼンの内容を示しながら、解説もする。							
2	県歌「信濃の国」を題材に、ワークシートをもとに、調べ学習を行う。その際に、教科書として指定した『長野県の歴史散歩』も使用する。							
3	長野県の歴史・地理・民俗について、『長野県の歴史散歩』を教科書に、ワークシートを利用しながら、調べ学習及び講義を行う。							
4	1 - 3回の授業をとおして、自分が興味関心を持った点を、各自、自己紹介の中で、発表してもらう。その後、興味関心を同じくする者同士のグループ分けを行い、班長を決める。グループは、受講者の総人数により変動する可能性もあるが、4人から5人のグループを想定している。							
5	各グループごとに、中間発表会に向けて、準備を行う。図書館利用、ネット検索も可。							
6	各グループごとに、中間発表会に向けて、準備を行う。図書館利用、ネット検索も可。							
7	中間発表会実施：最終的なプレゼンに向けて、現時点での成果と課題を、グループごとに発表する。							
8	各グループごとに、最終的なプレゼンに向けて、準備を行う。図書館利用、ネット検索も可。							
9	各グループごとに、最終的なプレゼンに向けて、準備を行う。図書館利用、ネット検索も可。フィールドワークも可							
10	各グループごとに、最終的なプレゼンに向けて、準備を行う。図書館利用、ネット検索も可。フィールドワークも可							
11	各グループごとに、最終的なプレゼンに向けて、準備を行う。図書館利用、ネット検索も可。各グループごとに、担当者がその段階での、プレゼン内容の事前チェックを行う。プレゼン発表順番を決める。							
12	プレゼン1回目：発表時間は、2019年度は各グループ15分以内であった。発表グループがいくつできるか、現時点では予測不可能なので、発表時間までは指定できないが、パワーポイントを使い、発表を行う。発表グループ以外は、発表内容を聞き、コメントと評価を記入する。							
13	プレゼン2回目：プレゼン1回目同様に、パワーポイントを使い、発表を行う。発表グループ以外は、発表内容を聞き、コメントと評価を記入する。							
14	プレゼン3回目：プレゼン1・2回目同様に、パワーポイントを使い、発表を行う。発表グループ以外は、発表内容を聞き、コメントと評価を記入する。							
共通の評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
レポート	30	プレゼンの内容を踏まえて、自分が調べたことを、具体的にレポートできているか、評価する。			平常点	10	授業の出席及び授業への取り組み状況を評価する。	
プレゼンの評価	60	授業担当者及び授業受講者による、プレゼン内容の5段階評価を実施する。						
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応			
授業時間内で調べ学習が足りない場合は、グループによっては、フィールドワーク等も必要となる。					授業中および授業終了後、個別に相談にのる。メールでの相談も受け付ける。 担当者メールアドレス： tzw3574@ebony.plala.or.jp			
教科書・テキスト	山川出版社『歴史散歩20 長野県の歴史散歩』 大学生協で販売する予定なので、受講者は、第2回の授業前までに必ず購入しておくようお願いいたします。				受講生に望むこと	わからないことや疑問に思ったことは、積極的に聞いてください。ともに考えていきましょう。		
参考書・参考資料等	必要に応じて、その都度指示をする。				その他・特記事項	とくにありません。		

授業科目		シーズンスポーツ					
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	通年	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>大学での講習および8月に2泊3日の集中授業で、カヌー、ウィンドサーフィン、SUPの基礎を学び、協力して自然、ひと、自分とうまく付き合っていくには、どのようにすればよいのかをグループワークでディスカッションする。</p>				<p>長期休暇中に合宿形式で、他者との交流を持ちながら自然体験を行い、新しい仲間を作り、その後も心身ともに充実した大学生活を送れるようにする。また、自然の中で、マリンスポーツを通して目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】を身につける。</p>			
教授方法	<p>本授業は、信州の自然を生かしたマリンスポーツのうちウィンドサーフィン、SUP、カヌー、(stand-up paddling)といった種目が、自己の健康を作る生涯スポーツになるような様々な方法や技能を体験しながら学ぶ。また、自然、ひと、自分とうまく付き合っていく方法を学んでいくことを目的とする。</p>						
履修条件	<p>定員14名（4名以下、実施中止）  【実施経費】約2万2千円 自己負担（道具のレンタル料、レッスン料、救助費用、2泊3日目の費用）  このほか、自宅から黒姫駅までの往復交通費、昼食お弁当代が自己負担としてかかります。  5月中にガイダンスをおこなって、前金1万円を集めますので、当選者は教務課による掲示に注意してください。  【実施場所】野尻湖グリーンスポーツクラブ（信濃町）  住所：〒389-1312 長野県 上水内郡信濃町富濃3946-125  TEL:026-255-3645  【実施日時】現地実習 予定8月3日～5日 夏期休業中  【宿泊場所】野尻湖畔のコテージないし旅館を予定  (3)授業のキーワード  ウィンドウサーフィン、カヌー、SUP  (4)授業計画 事前学習2時間 事後学習 1時間 実習11時間 計14時間  *大学での講習  事前学習 学期中の土日ないし夏休み  座学 1時間 プール体験学習 1時間  事後学習 時期は検討中  座学（最終レポート講評）1時間</p>						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1回	<p>授業内容:大学での講習  事前学習 学期中の土日ないし夏休み</p>						
2回	<p>大学での講習  座学 1時間 プール体験学習 1時間</p>						
3回 ～6回	<p>1日目 AM:11時に黒姫駅集合（お昼お弁当持参）  野尻湖グリーンスポーツクラブ（信濃町）</p>						
7回 ～10	<p>2日目 野尻湖グリーンスポーツクラブ（信濃町）  午前 ウィンドウサーフィン、カヌー、SUP応用</p>						
11回 ～13	<p>3日目 野尻湖グリーンスポーツクラブ（信濃町）  午前 ウィンドウサーフィン、カヌー、SUPのうちから選択活動</p>						
14回	<p>事後学習 時期は検討中  座学（最終レポート講評）1時間</p>						
0							
0							
0							
0							
0							
0							
0							
0							
0							
0							
共通の評価基準							
特になし							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
積極的な授業参加姿勢・ス	50	ウィンドウサーフィン、カヌー、SUP操作可			授業レポート	30	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと
上記以外の授業評価	20	時間外の運動を促すこと					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

	特になし。最終レポートにより事後学習とする。		メールで対応：zhang.yang@u-naganno.ac.jp
教科書・テキスト	特になし	受講生に望むこと	事前にエントリーを行ってください。
参考書・参考資料等	必要に応じて提示します。	その他・特記事項	1.実施予定日：2020年8月3日～5日（変更あり） 2.参観者4名以下、実施中止とする

授業科目		シーズンスポーツ（冬期）					
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	通年	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>長期休暇中に合宿形式で、他者との交流を持ちながら自然体験を行い、新しい仲間を作り、その後も心身ともに充実した大学生活を送れるようにする。また、自然の中でのウィンタースポーツを通して、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】を見につける。</p>				<p>本授業は、信州の自然を生かしたウィンタースポーツのうちスキー、スノーボードといった種目が、自己の健康を作る生涯スポーツになるように様々な方法や技能を体験しながら学ぶ。また、自然、ひと、自分とうまく付き合っていく方法を学んでいくことを目的としている。</p>			
教授方法	<p>大学での講習および2月に2泊3日の集中授業で、スキー、スノーボードの基礎を学び、協力して自然、ひと、自分とうまく付き合っていくには、どのようにすればよいのかをグループワークでディスカッションする。</p>						
履修条件	<p>【定員】35名  【実施日時】2021年1月9日、10日、11日（2泊3日）  【実施場所】志賀高原一ノ瀬スキー場（TEL 0269-34-2588）  【宿泊場所】：ホテルマウンド  住所：〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町志賀高原一ノ瀬  TEL:TEL 0269-34-2727 FAX：0269-34-2557</p>						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1回	大学での学習・事前学習						
2回 ～6回	1日目 志賀高原一ノ瀬スキー場集合（お昼弁当持参） 午前 スキー・スノーボード（初級）基礎						
7回 ～10	2日目 志賀高原一ノ瀬スキー場 午前 スキー・スノーボード（初級）応用						
11回 ～13	3日目 志賀高原一ノ瀬スキー場 午前 スキー・スノーボード（初級）応用						
14回	事後学習 時期未定 座学（最終レポート講評）						
0							
0							
00							
0							
0							
0							
0							
0							
0							
0							
共通の評価基準							
ウィンタースポーツを通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
積極的な授業参加姿勢・ス	50	スキー・スノーボード操作			上記以外の授業評価	20	授業時間外の運動・健康管理を促すこと
授業レポート	30	授業時にレポートを課す。そのための資料収集しておくこと					レポートを提出すること
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
最終レポートにより事後学習とする				メールで対応： Mail: zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定しません			受講生に望むこと	受講希望者は、事前にエントリーを行ってください。		



参考書・ 参考資料等	必要に応じて提示します。	その他・ 特記事項	1.実施予定日時：2021年1月9日～11日（変更あり） 2.8名以下は、実施中止の場もあります
---------------	--------------	--------------	---

授業科目	グローバル教養ゼミ(坂)						
担当教員	坂 淳一			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>選考とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的にとらえるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。</p>				<p>英国小説をみんなで読むことによって、様々な「読み」の可能性を探る。また、作品の背景となっている英国やヨーロッパの文化、社会、歴史、思想などについても学んでいく。</p>			
教授方法	<p>全員で同じ本を読みながら、討論を通して理解を深めていく輪読形式。「読書会」という感じで、意見を話し合いながら前期・後期1冊ずつの本を読む。また、定期的に欧米の文化・歴史に関する自由発表を行ってもらう。前期は日本語に翻訳された本を読み、まずは文学作品の鑑賞方法を学ぶ。後期は英語の原書で読むことに挑戦してもらうが、難しい場合は翻訳書を参照してもよい。最後には、前期に読んだ作品、もしくは後期に読んだ作品について、日本語で各自の作品論を書く(4000字以上)。その他、欧米の音楽や絵画などを鑑賞する時間も設け、欧米文化入門のような科目にする。</p>						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	前期に読む作品である『人間の絆』と、作者のモームについての紹介。英国の文学史解説。ゼミの進め方の解説。						
2	『人間の絆』輪読(1)						
3	『人間の絆』輪読(2)						
4	『人間の絆』輪読(3)						
5	『人間の絆』輪読(4)						
6	『人間の絆』輪読(5)						
7	『人間の絆』輪読(6)						
8	『人間の絆』輪読(7)						
9	『人間の絆』輪読(8)						
10	『人間の絆』輪読(9)						
11	『人間の絆』輪読(10)						
12	『人間の絆』輪読(11)						
13	『人間の絆』輪読(12)						
14	『人間の絆』に関する総合討論						
15	後期に読む作品である A Room with a View と、作者の E. M. Forster についての紹介。20世紀初頭の英国についての解説。作品冒頭を映画で鑑賞。						
16	A Room with a View 輪読(1)						
17	A Room with a View 輪読(2)						
18	A Room with a View 輪読(3)						
19	A Room with a View 輪読(4)						
20	A Room with a View 輪読(5)						
21	A Room with a View 輪読(6)						
22	A Room with a View 輪読(7)						
23	A Room with a View 輪読(8)						
24	A Room with a View 輪読(9)						
25	A Room with a View 輪読(10)						
26	A Room with a View 輪読(11)						
27	A Room with a View 輪読(12)						
28	A Room with a View に関する総合討論						

共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50	年度末の作品レポートの出来栄で評価する	授業での積極性	50	授業内の発表や討論でのパフォーマンスによって評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
毎回その日に輪読する範囲をきちんと読んでくる。また、発表を行う時はしっかり準備をし、最終レポートもきちんと仕上げること。			授業時に教室で質問するか、研究室に聞きに来てください。		
教科書・テキスト	ウィリアム・サマセット・モーム『人間の絆』（上）（下）中野好夫訳（新潮文庫）、E.M.Forster, A Room with a View (Penguin Classics)		受講生に望むこと	楽しんで学んでください。	
参考書・参考資料等	プリントで配布するか、OneNoteで配信します。		その他・特記事項	特になし	

授業科目	グローバル教養ゼミ(谷口)						
担当教員	谷口 眞由実			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。 Global Humanities Seminar				中国古典文学を中心に中国文学や中国文化関連文献を講読し理解を深め、背景にある歴史、思想についても考える。あまり学ぶ機会のない中国近現代文学についても、日本語訳を利用しながら講読、調査するほか、関連する映画なども参考にして理解を深め、併せて現代に繋がる問題意識を醸成したい。後期には、中国文学・文化に関して各自関心のある課題について調査・研究を行い、幅広い視野と深い教養を身に着ける。			
教授方法	週に1回。クォーターごとに7回、通年で28回の授業を演習形式で実施する。作品ごと、段落ごとに担当者を決めて、語彙・文法、あるいは作者・制作背景、作品解説など調べた結果を発表し、さらにディスカッションする形で展開することで、中国語・中国文学、中国文化を主体的に学ぶ。また、学外の関連施設などを訪れて調査を行い、知識を深める。						
履修条件	できれば「中国語」「中国語」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	イントロダクションー中国古典を現代中国語で読むためにー						
第2回	古典文学を読むー『世説新語』、『捜神記』、韓愈・柳宗元ほか						
第3回	古典文学を読むー『世説新語』、『捜神記』、韓愈・柳宗元ほか						
第4回	古典文学を読むー『世説新語』、『捜神記』、韓愈・柳宗元ほか						
第5回	古典文学を読むー『世説新語』、『捜神記』、韓愈・柳宗元ほか						
第6回	古典文学を読むー『世説新語』、『捜神記』、韓愈・柳宗元ほか						
第7回	古典文学を読むー『世説新語』、『捜神記』、韓愈・柳宗元ほか						
第8回	古典文学を読むー『世説新語』、『捜神記』、韓愈・柳宗元ほか						
第9回	古典文学を読むー『世説新語』、『捜神記』、韓愈・柳宗元ほか						
第10回	近現代文学を読むー魯迅、老舎、莫言ほかー						
第11回	近現代文学を読むー魯迅、老舎、莫言ほかー						
第12回	近現代文学を読むー魯迅、老舎、莫言ほかー						
第13回	各自テーマを考える、近現代文学を読むー魯迅、老舎、莫言ほかー						
第14回	各自テーマを決める、近現代文学を読むー魯迅、老舎、莫言ほかー						
第15回	各自のテーマについて調査する、近現代文学を読むー魯迅、老舎、莫言ほかー						
第16回	学外研修(国会図書館、国立博物館など)						
第17回	各自のテーマについて調査する、近現代文学を読むー魯迅、老舎、莫言ほかー						
第18回	各自のテーマについて調査する、近現代文学を読むー魯迅、老舎、莫言ほかー						
第19回	各自のテーマについて調査する、関連文献を読む						
第20回	各自のテーマについて調査する、関連文献を読む						
第21回	各自のテーマについて調査する、関連文献を読む						
第22回	各自のテーマについて調査する、関連文献を読む						
第23回	各自のテーマについて調査する、関連文献を読む						
第24回	各自のテーマについての研究をまとめる						
第25回	各自のテーマについての研究をまとめる						
第26回	各自のテーマについての研究をまとめる						
第27回	各自のテーマについての研究をまとめる						
第28回	研究発表						
共通の評価基準							

特になし					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	60	授業での発表内容やディスカッション参加への意欲や積極性を評価する。	期末レポート	40	自身の立てた問いについて深く調査・考察できたか、その経過や結果を自身の言葉でまとめられたかを評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
テキストを事前に読んで、分からない語など調べておいてほしい。また、事後にはその文献を読んだ感想や気づいたことなど文章に書くようにしてほしい。			授業内にできる限り、質問に答えたい。また、時間外にも相談に応じたい。		
教科書・テキスト	『現代中国語で読む古典』（青木五郎著、白帝社、¥2200）		受講生に望むこと	授業では、活発に質問や意見を出し、主体的に取り組んでほしい。	
参考書・参考資料等	参考書などを適宜授業内で紹介する。		その他・特記事項	中国語の辞書を授業で紹介するのでできれば購入してほしい。	

授業科目	グローバル教養ゼミ(萱津)						
担当教員	萱津 理佳			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。				情報システムやネットワークの仕組み、および、情報社会の動きについて理解を深める。そして、情報に関する興味関心を広げるとともに、各自が追究していきたい具体的なテーマを探求し設定する。設定したテーマについて、文献調査やフィールドワーク・分析を行い、報告書にまとめる。これらの過程を通して、問題についての理解を深めるとともに、問題を提起する能力、それについての現状把握や解答する能力、そして、それらをまとめ表現する能力を身につけることを目標とする。			
教授方法	原則として、演習方式。適宜、グループワークを取り入れる。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス, アイスブレイク, 春季休業中の報告						
2	アイスブレイク, 春季休業中の報告						
3	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告						
4	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告						
5	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告						
6	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告						
7	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告						
8	グループ活動, 各自のテーマに関する調査計画						
9	グループ活動, 各自のテーマに関する調査計画						
10	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究						
11	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究						
12	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究						
13	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究						
14	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究						
15	各自のテーマに関する中間発表						
16	各自のテーマに関する中間発表						
17	各自のテーマに関する調査・研究						
18	各自のテーマに関する調査・研究						
19	各自のテーマに関する調査・研究						
20	各自のテーマに関する調査・研究						
21	各自のテーマに関する調査・研究						
22	各自のテーマに関する調査・研究						
23	ゼミ論集(報告書)の作成						
24	ゼミ論集(報告書)の作成						
25	ゼミ論集(報告書)の作成						
26	ゼミ論集(報告書)の作成						
27	発表会						
28	発表会, 振り返り, まとめ						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業・課題	100	授業や課題への取り組み状況，および達成度を総合的に評価する			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定された課題・レポートに取り組むこと</li> <li>各自の課題の進捗状況等の報告用資料を作成し，ゼミで発表のこと</li> <li>学外での調査やイベントに参加など</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>質問や相談は，授業中および授業の前後に受け付けます。</li> <li>授業時間外はメールでの対応，または（アポをとって）直接来室して下さい。</li> </ul>		
教科書・テキスト			受講生に望むこと		各自が自分の課題やテーマの解決に向けて，主体的に学び，活動しましょう。 グループワークや，ゼミの活動・議論に積極的に参加しましょう。
参考書・参考資料等		適宜資料を配布，または，指示します。	その他・特記事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の春季休業前にキックオフミーティングを実施します。</li> <li>「情報」分野に関するニュースや社会問題にアンテナを張りましょう。</li> <li>実際に『やってみる』活動を重視したいと思います。</li> </ul>

授業科目	グローバル教養ゼミ（織田）						
担当教員	織田 竜也			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。</p>				<p>文化人類学や経済人類学の文献読解と国内でのフィールドワーク。読解は事前学習を丁寧に行い、語彙や文脈について時間をかけて対話を繰り返す。今年度はモース『贈与論』とボランニー『経済の文明史』をとりあげる。フィールドワークでは調査計画、インタビュー、画像や映像の処理について経験を深め、報告書を作成する。</p>			
教授方法	テキストの輪読。ディスカッション。フィールドワーク実習。						
履修条件	事前にウェブで「受講申請」した学生。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション						
2	文献読解『贈与論』						
3	文献読解『贈与論』						
4	文献読解『贈与論』						
5	文献読解『贈与論』						
6	フィールドワーク準備						
7	フィールドワーク実習						
8	フィールドワーク実習						
9	収集資料の整理						
10	報告書の作成						
11	文献読解『贈与論』						
12	文献読解『贈与論』						
13	文献読解『贈与論』						
14	文献読解『贈与論』						
15	文献読解『経済の文明史』						
16	文献読解『経済の文明史』						
17	文献読解『経済の文明史』						
18	文献読解『経済の文明史』						
19	フィールドワーク準備						
20	フィールドワーク実習						
21	フィールドワーク実習						
22	収集資料の整理						
23	報告書の作成						
24	文献読解『経済の文明史』						
25	文献読解『経済の文明史』						
26	文献読解『経済の文明史』						
27	文献読解『経済の文明史』						
28	全体のまとめ						
共通の評価基準							



成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
受講態度	50		レポート	50	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
文献の調べ学習。フィールドワーク実習。			面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。		
教科書・テキスト	マルセル・モース『贈与論』ちくま学芸文庫。カール・ポランニー『経済の文明史』ちくま学芸文庫。		受講生に望むこと	真っ直ぐな眼差しで世界と向き合えるように自分を磨いてください。	
参考書・参考資料等	随時指示する。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	グローバル教養ゼミ(中島)						
担当教員	中島 基樹			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。</p>				<p>日本語または英語の文法に関する研究を行い、その成果をレポート(論文)にまとめること。また、その過程において論理的・批判的な思考力を身につけること。</p>			
教授方法	学生による発表を中心に授業を進めます。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	テキスト講読(1)						
3	テキスト講読(2)						
4	テキスト講読(3)						
5	テキスト講読(4)						
6	テキスト講読(5)						
7	研究テーマ案発表(1)						
8	テキスト講読(6)						
9	テキスト講読(7)						
10	テキスト講読(8)						
11	テキスト講読(9)						
12	テキスト講読(10)						
13	テキスト講読(11)						
14	研究テーマ案発表(2)						
15	研究中間発表(1)						
16	研究テーマに関する文献講読または調査(1)						
17	研究テーマに関する文献講読または調査(2)						
18	研究テーマに関する文献講読または調査(3)						
19	研究テーマに関する文献講読または調査(4)						
20	研究テーマに関する文献講読または調査(5)						
21	研究中間発表(2)						
22	研究テーマに関する文献講読または調査(6)						
23	研究テーマに関する文献講読または調査(7)						
24	研究テーマに関する文献講読または調査(8)						
25	研究中間発表(3)						
26	研究テーマに関する文献講読または調査(9)						
27	研究テーマに関する文献講読または調査(10)						
28	研究最終発表						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	50	授業時の発表やディスカッションに対する取り組みにより評価。	研究レポート	50	年度末に提出する研究レポートの内容やまとまりにより評価。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
各回の授業で扱うテキストや文献をよく読み、疑問点を整理した上で授業にのぞんでください。			気軽に研究室 (C104) を訪れてください。		
教科書・テキスト	初回授業時に受講者の希望を聞いて決定します。		受講生に望むこと	文献に書かれていることに対して疑問を抱くことで、新しい研究・発見へとつなげましょう。	
参考書・参考資料等	授業時に随時紹介します。		その他・特記事項	予備調査の際に申請した人以外で受講を希望する場合は、初回授業時までに担当教員まで申し出てください。	

授業科目	グローバル教養ゼミ(二本松)						
担当教員	二本松 泰子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
長野県ゆかりの文学作品を地域文化として理解し、それを町おこしや観光資源として利用することによって、地元を活性化させるための文化事業を企画・立案する。その過程を通して、地域資源としての日本文学の価値について学ぶ。				ねらい 長野県ゆかりの文学作品を取り上げ、地域文化としての日本文学の役割について理解する。  到達目標 日本文学が地元の地域資源となる可能性について学び、それを活用してゆく手法を身に付ける。			
教授方法	今年度は、長野県出身の歴史上の人物である木曾義仲と巴御前について取り上げ、まずは彼らが登場する文学作品や伝説に関する基礎知識を学ぶ。次に、県内における義仲・巴ゆかりの地域をフィールドワークし、地域文化としての文学・伝説について理解を深める。さらにそのような知見を踏まえて、地元ケーブルテレビ等と連携したミニ番組の企画、自治体と連携した市民向け講演会の企画・運営、多言語パンフレットの企画・制作、その他各種地元メディアに発信する、といった義仲と巴を顕彰する活動を地元で行う。有志たちには千年前から日本文化の中心地であった京都探訪も予定している。						
履修条件	学外で実施するフィールドワークに積極的に参加してください。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業のガイダンス(1年間のスケジュール、学習目標の確認など)						
2	日本文学と地域文化について【講義】						
3	長野県内の文化事業についてー自治体の活動を中心にー【講義】						
4	長野県内の文化産業についてー地元メディアを中心にー【講義】						
5	木曾義仲と巴御前について学ぶー歴史上の人物としての義仲・巴について【講義】ー						
6	木曾義仲と巴御前について学ぶー『平家物語』の義仲・巴について【講義】ー						
7	木曾義仲と巴御前について学ぶー県内における義仲・巴ゆかりの伝説・遺跡について【講義】ー						
8	木曾義仲と巴御前について学ぶー県外における義仲・巴ゆかりの伝説・遺跡について【講義】ー						
9	木曾義仲と巴御前について調べるー各種コンテンツにおける義仲・巴について【グループワーク】ー						
10	フィールドワークの準備ー東御市の白鳥河原(義仲挙兵の地)とその周辺について調べる【グループワーク】ー						
11	フィールドワークの実施ー東御市の白鳥河原の現地踏査ー						
12	フィールドワークの成果発表ー《義仲挙兵の地》としての東御市の白鳥河原をPRする動画・多言語パンフレットを作成する【グループワーク】ー						
13	フィールドワークの成果発表ー《義仲挙兵の地》としての東御市の白鳥河原をPRする動画・多言語パンフレットを作成する【グループワーク】ー						
14	夏休みに向けた指導ー木曾町と義仲・巴についてー						
15	夏休みの成果報告、木曾義仲と巴御前について学ぶー義仲・巴の出身地としての木曾町について【講義】ー						
16	木曾義仲と巴御前について学ぶー木曾町における義仲・巴関連の遺跡及び施設について【講義】ー						
17	木曾義仲と巴御前について学ぶー木曾町の義仲・巴関連のイベントについて【講義】ー						
18	フィールドワークの準備ー木曾町における義仲・巴関連の情報について調べる【グループワーク】ー						
19	フィールドワークの実施ー木曾町の現地踏査ー						
20	フィールドワークの成果発表ー《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【地元ケーブルテレビの番組制作を企画する】【グループワーク】ー						
21	フィールドワークの成果発表ー《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【地元ケーブルテレビの番組制作を企画する】【グループワーク】ー						
22	フィールドワークの成果発表ー《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【ラジオ番組に出演する】【グループワーク】ー						
23	フィールドワークの成果発表ー《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【ラジオ番組に出演する】【グループワーク】ー						
24	フィールドワークの成果発表ー《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【動画・多言語パンフレットを作成する】【グループワーク】ー						
25	フィールドワークの成果発表ー《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【自治体と連携した市民向け講演会・フォーラムの企画】【グループワーク】ー						
26	フィールドワークの成果発表ー《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【自治体と連携した市民向け講演会・フォーラムの開催・運営】【グループワーク】ー						
27	1年間の活動報告書を制作する【グループワーク】						
28	1年間の総括						

共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表	40	授業のテーマに即した内容、形式、発表の仕方などを総合的に評価する。	グループワーク	30	ディスカッションに対する姿勢や共同作業への取り組みなどを総合的に評価する。
平常点	30	受講態度、授業内での課題の取り組みなどを総合的に評価する。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前学習：プレゼンテーションを担当する場合は、報告のためのパワーポイント・動画、レジュメなどの資料を事前に作成しておいてください。 事後学習：プレゼンテーションをした後は、指摘されたことを中心に補足調査をしてください。			毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はオフィスアワーなどを利用して研究室に来てください。		
教科書・テキスト	適宜プリントを配布します。		受講生に望むこと	この授業では、フィールドワークとグループワークを重視した学習を進めてゆきます。どちらも積極的に取り組んでください。	
参考書・参考資料等	特になし。		その他・特記事項	上記以外の地元メディアからも取材があれば、積極的に対応してください。どうぞよろしくお願ひします。	

授業科目	グローバル教養ゼミ(馬場)						
担当教員	馬場 智一			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>哲学の原典購読および、参加者の希望に応じてフランス語・ドイツ語の文章購読をし、哲学的問題やグローバルな諸問題について議論する。また、各自関心のあるテーマについて調べ報告する。</p>				<p>文章を精読する習慣を通じて物事を筋道を立てて整理して論じたり、哲学的に考える姿勢を身につける。フランス語・ドイツ語をブラッシュアップしたい学生には、フランス語1・2、ドイツ語1・2で学習できなかった文法事項を学習し、全文法事項の9割程度を学習することを旨とする。文章読解力や、外国語読解能力を生かし関心あるテーマについて深く調査できる力を身につけることを目標とする。</p>			
教授方法	<p>毎回哲学の原典を輪読する。語学希望者がいる場合は、フランス語ないしドイツ語で書かれた同じ内容の文章を読み、適宜文法解説、背景の解説などを行う。</p>						
履修条件	<p>フランス語を学習したい学生はフランス語1・2を、ドイツ語を学習したい学生についてはドイツ語1・2を履修していることが条件となる。哲学の原典購読をしたい学生は、哲学、倫理学、公共哲学のいずれかを履修していることが望ましいが、何か哲学の本を読みたいという強い意欲があれば、履修を妨げるものではない。</p>						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業の進め方について						
2	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
3	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
4	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
5	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
6	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
7	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
8	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
9	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
10	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
11	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
12	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
13	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション、レポートの提出						
14	レポートの返却、報告						
15	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
16	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
17	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
18	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
19	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
20	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
21	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
22	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
23	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
24	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
25	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
26	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション						
27	(外国語)原典購読と解説、ディスカッション、レポートの提出						
28	レポートの返却、報告						

共通の評価基準

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	70	予習、授業態度等を総合的に評価する	レポート	30	授業中に示す
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
与えられた文章をあらかじめ読み、外国語の場合は解らない単語を調べたり、分からない文法事項をはっきりさせておくこと。			可能な限り授業中にすること		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと		語学の場合はしっかり予習をすること。積極的にディスカッションに参加すること。
参考書・参考資料等	特になし		その他・特記事項		輪読の文章は、初回、受講者と相談して決めるので、必ず初回出席すること。初回をやむを得ない理由で休む場合はメールで必ず連絡すること。

授業科目	金融リテラシー						
担当教員	松尾 隆敏			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>現代は金融との関わりなしに日常生活を営むことは不可能である。また、金融商品・サービスが多様化し高度化する中で、金融取引においては自己責任・自己判断がより一層求められる時代となっている。加えて、我が国は世界トップクラスで少子高齢化が進み、社会保険制度を巡る財政事情が厳しくなっている。</p> <p>こうした環境の下で、若者が将来の夢や豊かな生活を実現するには、「金融に関する正確な知識と的確な選択・判断力」（＝金融リテラシー）を身に付け、効果的な金融取引を実践していく必要がある。本科目は、金融業界の各分野および行政機関から専門家を招き、現代の金融経済の状況や社会情勢を読み解きながら、大学時代はもとより社会に出て役立つ金融リテラシーの習得を目指す。</p>				<p>【ねらい】 金融と生活の関わり、金融・経済に関する基礎知識、各種金融商品の特性、トラブルの回避・対処方法等のトピックにつき総合的に理解するとともに、ライフプランニング演習（ライフプランを踏まえたキャッシュフロー分析）等を通じて、大学生・社会人として必要な情報収集力および判断力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】 大学生生活（短期的視点）、社会人生活（長期的視点）を送る上で必要とする金融・経済に関する基礎知識を習得する。 演習を通じ、合理的な選択・判断力を養う。</p>			
教授方法	<p>専門家によるオムニバス形式の講座（長野県金融広報委員会＜事務局：日本銀行長野事務所＞の寄付講座として運営）。講義を主体に演習を織り交ぜた形式。随時、学生との対話も行う。</p>						
履修条件	特になし。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス、人生とお金】 金融リテラシーの重要性、一生涯に付き合うお金、人生設計と資金計画、意思決定と自己責任など 講師：担当教員（松尾）						
2	【お金を稼ぐ】 お金の機能と金利、働くこととお金、お金の使い方・収支管理、お金を貯めるコツ、大学生と国民年金など 講師：担当教員（松尾）						
3	【ライフプランを描く】 ライフプランニングの重要性・方法、キャッシュフローの分析演習など（持ち帰り課題として後日提出） 講師：長野県金融広報委員会（CFP）						
4	【お金と経済】 金融と経済の関係、上手にお金の取引を行うための知恵（金利・投資）、契約・トラブルへの対処、金融とSDGsなど 講師：担当教員（松尾）						
5	【経済・財政・金融システム（ ）】 人々の生活と国家財政の関わり、国家財政の現状と課題など 講師：財務省関東財務局長野財務事務所						
6	【経済・財政・金融システム（ ）】 日本経済はどのように動いているのか 講師：日本銀行松本支店						
7	【お金をふやす】 資産形成や投資の意義、リスクとリターンの関係、リスク管理の手法、具体的な金融商品など 講師：日本証券業協会						
8	【お金を借りる】 銀行の役割、クレジットカード・消費者ローン・住宅ローンの仕組みと利用上の留意点など 講師：全国銀行協会						
9	【リスクに備える】 人生におけるリスクと保険の役割、生命保険の仕組み、ライフステージに即した活用法など 講師：生命保険文化センター						
10	【リスクに備える】 生活の中のリスクと保険の役割、損害保険の仕組みと活用法など 講師：日本損害保険協会						
11	【地域経済と金融】 地域経済における地方銀行の役割、地方創生に向けた地方銀行の役割等 講師：八十二銀行						
12	【お金をふやす】 投資信託の仕組みと特徴、分散投資の意義など 講師：投資信託協会						
13	【ライフプランを描く】 第3回課題を踏まえた議論・解説、重要事項の復習など 講師：長野県金融広報委員会（CFP）						
14	【全体総括、ライフプランを描く】 重要事項の復習、全講義の中で生じた疑問への回答など 講師：担当教員（松尾）						
共通の評価基準							
<p>期末テスト、中間レポートおよびライフプランニング演習におけるキャッシュフロー見直し課題等の各評点の合算値（100点満点）により、本学の定める評価基準に基づき、評価・単位認定を行う。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	60	基礎知識を問う択一式試験を課す。講義内容の理解度に応じて評価する。		中間レポート	30	講義内容の理解度と活用状況に応じて評価する。オリジナリティを重視して評価する。	
ライフプランニング演習に	10	講義内容の理解度と活用の状況、収支の整合性に応じて評価する。評価に際しオリジナリティも重視する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>学習範囲が広いので、毎回、講義内容の復習を行い、知識の定着に取り組む。 第3回講義において、ライフプラン・キャッシュフロー分析演習に関する持ち帰り課題を課す。結果レポートを第9回講義開始時に提出する。 第5回講義終了時に、3,000字程度（A4・表裏1枚）の中間レポートを課す。提出締め切りは第7回講義開始時までとする。</p>				<p>・原則として講義の最後の5分間を使い質問を受け付けるとともに、授業に関する感想文を書いてもらう。</p>			
教科書・テキスト	・教科書・テキストは特になし。毎回、講義資料を配布する。			受講生に望むこと	<p>・学習範囲が広いので、各回の講義内容が理解できるよう、主体的に講義に参加すること。また、毎回講義内容の復習を行い、知識の定着に取り組む。 ・外部講師によるオムニバス形式の講座であるため、各回の講義において疑問点を解消するよう努める。</p>		
参考書・参考資料等	・講義中に、必要に応じ、適宜参考資料（冊子）を配布する。			その他・特記事項	<p>・第4回は5月9日（土曜日）補講で実施。 ・5月27日（水曜日）は休講。</p>		



授業科目	経営学入門						
担当教員	森本 博行			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>経営学全般について基礎的知識を学ぶ概</p> <p>担当教員は、ソニーにおいてVP（Vice president）を経験し、事業戦略、海外子会社経営についての実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p> <p>担当教員は、広告会社の外資系部門（マッキンゼーエリクソン博報堂）、さらに製造業（ソニー）においてVP（Vice president）を経験し、広告宣伝、事業戦略、米国、英国で海外子会社経営についての実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力について講義します。</p>				グローバルマネジメント学部の教育基盤である経営学について理解する			
教授方法	講義形式とミニレポートによるアクティブ・ラーニング						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：経営学とは何か						
2	市場の不確実性と戦略発想						
3	マクロ経営組織論：人や集団を動かす、目標を実現するための組織						
4	ミクロ経営組織論：人のモチベーションと人を動かすリーダーシップ						
5	会計学：企業や行政組織の活動を評価する財務会計と管理会計						
6	競争戦略論：ポジションニング・アプローチとゲーム論アプローチ						
7	資源ベースの企業戦略論：企業間で利益格差はなぜ生まれるのか						
8	創発戦略論：事業環境の変化と事業戦略						
9	マーケティング論：顧客価値の追求と市場創造						
10	技術戦略論：イノベーションと技術開発						
11	意思決定理論：適切な意思決定と認知バイアス						
12	海外進出と国際経営						
13	日本企業の海外進出と異文化マネジメント						
14	日本企業の経営課題						
共通の評価基準							
・毎回の授業では、提示した課題に対するミニ・レポートを提出する必要がある。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	経営学を概観し、経営学の基礎となる考え方を理解できるだけの知識を修得したか、否かを評価する。		ミニ・レポート	40	毎回の授業を理解できたか、授業の理解度を評価する	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
・授業で提示された課題について、復習し、確認すること。				・毎回の授業で質問すること。			
教科書・テキスト	・特になし。			受講生に望むこと	・毎回、授業に必ず出席すること。		
参考書・参考資料等	スティーブ P. ロビンズ『マネジメント入門』（ダイヤモンド社） 榎原清則『経営学入門（上、下）』（日本経済新聞出版社）、米倉誠一郎『勇気の出る経営学』（筑摩書房）、加護野忠男、伊丹敬之『ゼミナール経営学入門』（日本経済新聞出版社）			その他・特記事項	グローバルマネジメント学部の必修科目		

授業科目	政策科学					
担当教員	田村 秀・中村 稔彦		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義は、学部1年次全員を対象に、政策の基本的な事項や政策を理解するために必須となるデータ・リテラシーを学ぶことを通じて、経済政策や公共政策を今後学習するための基本的な素養を涵養することを目標とするものである。</p> <p>具体的には政策の立案、実施、評価の基本的な過程に関して、個別事例を通して理解を促すとともに、政策を作成する上で欠かすことのないアンケートや各種統計データに関する基礎的な見方を学び、政策に関する基本的な知識の習得を目指している。</p> <p>なお、第1回から第10回までと第14回を田村が、自治体勤務の経験を活かして、より具体的な政策を取り上げて担当するとともに、第11回から第13回までについては中村が担当する。</p>			<p>ねらい 公共経営コースの導入科目として、政策に関する基本的な事項を学習し、基礎的なデータ・リテラシーを涵養することにより、公共経営分野における知識が体系的に理解でき、数量的スキルを修得できるようになる。</p> <p>到達目標 政策に関する基本的な用語の内容が理解できる。 政策を理解するための基礎的なデータ・リテラシーを習得する。 公共経営の基本的な考え方が理解できる。</p>			
教授方法	講義形式で行い、学生に対して毎回問いかけるなど双方向形式で進める。					
履修条件	特になし。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	講義内容の説明、受講に当たっての注意を行うとともに、データ・リテラシーに関する基礎的な小テストを行う。					
2	政策とは何かということについて具体的な事例を通じて説明を行い、政策プロセス、すなわちPDCAサイクルについて具体的な事例を通じて説明を行う。					
3	学生アンケートを実施するとともに、政策のニーズを把握する上で欠かすことのないアンケートに関する基本的な統計理論を説明する。					
4	問題点の多いアンケートを事例として取り上げ、政策形成に活かすためにどのように改善すべきかなどの考察を行う。					
5	学生アンケートを実例にして、アンケートからどのような分析をすべきか、また、政策形成に関してどのような有益な情報が得られるかについて考察を行い、アンケートに関するまとめを行う。					
6	データの見方について、留意点などを具体的に説明する。					
7	データの見方について、引き続き事例を基に考察する。					
8	様々な統計データについて、活用方法も含めて説明を行う。					
9	ランキングの特性について具体的な事例を通じて説明を行う。					
10	引き続きランキングの特性について説明を行うとともに、アンケートなどに関する小テストを行う。					
11	政策の立案・評価の両面で必要となる経済波及効果とその算出方法について、具体的な事例も用いながら説明を行う。					
12	経済波及効果の算出方法の問題点の解決方法について説明を行う。					
13	経済波及効果の実際を学んだ上で、経済波及効果に関する小テストを行う。					
14	データの視覚化について、グラフの有効な活用方法などを考察するとともに講義のまとめを行う。					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト	75	3回実施する（25%×3回）		授業レポート	25	講義内容についてどの程度理解しているかを基準とする。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
<p>毎回指定された課題・問題に取り組む。 小テストの内容について復習を行う。 授業で扱った内容や資料について、自分なりに調べてみる。</p>				<p>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前回の授業における質問や意見に対してコメントする。 ・メールでの質問も受け付ける。</p>		
教科書・テキスト	教科書：田村秀『データ・リテラシーの鍛え方』（イースト新書、2019年）			受講生に望むこと	<p>公共政策や経済に関するニュースを日頃から読むこと。 ニュースで取り上げられる様々なデータの出典や根拠について関心を持つこと。</p>	
参考書・参考資料等	<p>参考書：田村秀『データの罠』（集英社新書、2006年）、小長谷 一之他『経済効果入門 地域活性化・企画立案・政策評価のツール』（日本評論社、2012年）及び石村貞夫他『Excelでやさしく学ぶ産業連関分析』（日本評論社、2009年）。</p> <p>このほか、資料をWEBサイトから事前にダウンロードして入手しておくこと。</p>			その他・特記事項	<p>国、地方自治体で実際の公共政策の立案及び実施に携わっている（田村）。</p>	

授業科目	マーケティング入門						
担当教員	中村 陽人			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>マーケティングの考え方やフレームワークは、一般的な企業はもとより、行政機関や教育機関、医療機関といった様々な組織で活かすことができる。さらに言えば、身近なグループや個人の行動にすら適用することが可能である。本授業は入門という位置づけであるため、特に基本的なフレームワーク（環境分析、STP、MM、CRM）に焦点を当て、それらを理解し活用できるようにすることを狙いとする。なお、出来る限りイメージしやすいように事例を多く示すこと、各論となるマーケティング関連科目への橋渡しとなるような俯瞰的な視点を提供することの2点を意識した授業を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングに関わる基本的な知識（専門用語、トピック、現代の潮流など）を理解している。</li> <li>・マーケティング戦略の基本的なフレームワークを理解し、さまざまなケースに適用することができる。</li> <li>・マーケティングの概要を理解し、俯瞰的な視点から各論を位置づけることができる。</li> </ul>			
教授方法	<p>授業はPowerPointを利用して講義形式で行なう。配布資料に定義や細かな表などはすべて載せているので、授業中は全体の概要をおさえたうえで、何が重要なのかを考える。授業では事例を多く提示するとともに、積極的に履修者にも具体例を考えてもらう時間をとり、抽象的な概念をできるだけ具体化できるように支援する。また、毎回授業の最初に、前回授業の内容に関連した復習テストを行なう。授業の内容を振り返り知識の定着を図るとともに、出席や事前準備（前回の復習）などを確認し、努力を最終評価に反映できるようにする。</p>						
履修条件	特になし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、マーケティングの概要						
2	戦略の類型と組織						
3	環境分析						
4	STP						
5	ブランドの構築						
6	MM（製品）						
7	サービスの基礎						
8	MM（価格）						
9	流通の仕組み						
10	MM（流通チャネル）						
11	MM（コミュニケーション）						
12	CRM						
13	マーケティング戦略の適用						
14	発展的なトピック						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	33	基礎知識の理解度を評価する。			レポート	17	授業で学んだフレームワークを、オリジナリティの高い事例にどれだけ適用できるかを評価する。
復習テスト	50	毎回授業の最初に行ない、前回授業の内容に関する定着度を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業後には配布資料を用いて授業内容を復習し、次回授業の最初に行う復習テストに備える。				質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。また、メールでの質問も随時受け付ける。			
教科書・テキスト	教科書は使わず、毎回資料を配布する。			受講生に望むこと	授業で扱われたトピックについて、日々の生活の中で事例を探すこと。		
参考書・参考資料等	授業の中で参考文献の一覧を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	アントレプレナーシップ論(2年)						
担当教員	大室 悦賀			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>本講義では、アントレプレナーシップを初学者に向けた入門として以下の内容を学習する。アントレプレナーシップ(起業、創業)という現象がなぜ生じるのか、アントレプレナーシップを生じさせる構造はどうなっているのか、アントレプレナーシップと地域再生や地域活性化にはどのような関係があるのかを学習します。具体的には、事例を扱いつつながら、アントレプレナーの役割とアントレプレナーにとって必要な要素を学習します。そして、地域との関係性をどのように構築し、地域の活性化に貢献しうる手法を学びます。</p> <p>また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。</p>				<p>アントレプレナーとは会社を起業する人や企業・行政の組織の中で新しい組織やビジネスとネット組織や人を結びつけて、新しいものを生み出す人のことです。こうした人々は経済発展の原動力になったことが高く評価されて、その機能について考察するのがアントレプレナーシップ論です。この講義では、理論を通して、企業家精神をもつてもらうことをねらいます。</p>			
教授方法	基本的に理論の習得をベースとした講義形式で実施する。講義の中では質問時間を30分程度用意し、理解の浸透を図る。一方で、映像資料や事例検討などでグループによる対話やワークショップも取り入れる。						
履修条件	2年次以降						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション(授業概要、評価基準の説明、授業の進め方) and 映像鑑賞						
2	アントレプレナーシップ基礎理論(アントレプレナーとはどのような人なのか)						
3	アントレプレナーの社会的意義(市場の創造、企業や社会の変革、企業家社会の構築)						
4	アントレプレナーに必要な能力(哲学、ビジョン、事業機会の認知、資源動員および事業コンセプト)						
5	アントレプレナーシップとイノベーション(イノベーション2.0の台頭と役割の変化)						
6	変容する企業モデル(持続可能な企業モデルの台頭)と組織構造						
7	地域社会とアントレプレナーシップの関係						
8	中間まとめ						
9	組織内で求められるアントレプレナーシップ(イントレプレナーと事業継承)						
10	組織内で求められるアントレプレナーシップ(パブリックアントレプレナー)						
11	ニュータイプのアントレプレナー(社会的企業家と制度的企業家)						
12	ニュータイプのアントレプレナー(サステイナブルアントレプレナー)						
13	アントレプレナーシップとセルフマネジメント						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小レポート	60	授業内で小レポートの実施および4回程度の課題を提出してもらう。		授業テスト	40	事前にテーマを設定し、授業内でレポートを作成してもらいます。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習: テーマに沿って参考図書等を利用し学習すること 事後学習: テーマに沿って事例を調べること				授業後あるいはメールにてアポイントを入れ、研究室に来室ください。			
教科書・テキスト	指定無し			受講生に望むこと	私語等で受講生や担当者に迷惑がおよぶ行為には厳しく対応する。迷惑行為におよぶ者には警告なしに学生番号を確認のうえ退出退場を命じることがある。授業にきっちり集中することを望む。		
参考書・参考資料等	大室悦賀著『サステイナブル・カンパニー入門』学芸出版、2016年 山田幸三他編『からのアントレプレナーシップ』中央経済社、2017年 川名和美他著『社会人基礎力を養うアントレプレナーシップ』中央経済社、2016年 その他講義中に指示する。			その他・特記事項	講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学(歴史・理論)も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要になるので、それなりの覚悟をもって望んでほしい。私語(いかなる理由の発話であれ)や遅刻など、他の受講者にとって迷惑になると私が判断する行為に		

---

講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要に

授業科目	アントレプレナーシップ論(1年)						
担当教員	大室 悦賀			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>本講義では、アントレプレナーシップを初学者に向けた入門として以下の内容を学習する。アントレプレナーシップ(起業、創業)という現象がなぜ生じるのか、アントレプレナーシップを生じさせる構造はどうなっているのか、アントレプレナーシップと地域再生や地域活性化にはどのような関係があるのかを学習します。具体的には、事例を扱いつつ、アントレプレナーの役割とアントレプレナーにとって必要な要素を学習します。そして、地域との関係性をどのように構築し、地域の活性化に貢献しうる手法を学びます。</p> <p>また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。</p>				<p>アントレプレナーとは会社を起業する人や企業・行政の組織の中で新しい組織やビジネスとネタと組織や人を結びつけて、新しいものを生み出す人のことです。こうした人々は経済発展の原動力になったことが高く評価されて、その機能について考察するのがアントレプレナーシップ論です。この講義では、理論を通して、企業家精神をも養うことをねらとします。</p>			
教授方法	基本的に理論の習得をベースとした講義形式で実施する。講義の中では質問時間を30分程度用意し、理解の浸透を図る。一方で、映像資料や事例検討などでグループによる対話やワークショップも取り入れる。						
履修条件	2年次以降						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション(授業概要、評価基準の説明、授業の進め方) and 映像鑑賞						
2	アントレプレナーシップ基礎理論(アントレプレナーとはどのような人なのか)						
3	アントレプレナーシップを分析する様々な視点(経済学的視点、経営学視点、社会・心理学的視点)						
4	アントレプレナーの社会的意義(市場の創造、企業や社会の変革、企業家社会の構築)						
5	アントレプレナーに必要となる能力(哲学、ビジョン、事業機会の認知、資源動員および事業コンセプト)						
6	変容する企業モデル(持続可能な企業モデルの台頭)と組織構造とイノベーション						
7	地域社会とアントレプレナーシップの関係						
8	中間まとめ						
9	組織内で求められるアントレプレナーシップ(イントレプレナーと事業継承)						
10	組織内で求められるアントレプレナーシップ(パブリックアントレプレナー)						
11	ニュータイプのアントレプレナー(社会的企業家と制度的企業家)						
12	ニュータイプのアントレプレナー(サステイナブルアントレプレナー)						
13	アントレプレナーシップとセルフマネジメント						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小レポート	60	授業内で小レポートの実施および4回程度の課題を提出してもらう。		授業テスト	40	事前にテーマを設定し、授業内でレポートを作成してもらいます。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習: テーマに沿って参考図書等を利用し学習すること 事後学習: テーマに沿って事例を調べる				授業後あるいはメールにてアポイントを入れ、研究室に来室ください。			
教科書・テキスト	指定無し			受講生に望むこと	私語等で受講生や担当者に迷惑がおよぶ行為には厳しく対応する。迷惑行為におよぶ者には警告なしに学生番号を確認のうえ退出退場を命じることがある。授業にきっちり集中することを望む。		
参考書・参考資料等	大室悦賀著『サステイナブル・カンパニー入門』学芸出版、2016年 山田幸三他編『からのアントレプレナーシップ』中央経済社、2017年 川名和美他著『社会人基礎力を養うアントレプレナーシップ』中央経済社、2016年 その他講義中に指示する。			その他・特記事項	講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学(歴史・理論)も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要になるので、それなりの覚悟をもって望んでほしい。私語(いかなる理由の発話であれ)や遅刻など、他の受講者にとって迷惑になると私が判断する行為に		

---

講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要に

授業科目	ソーシャル・ビジネス論						
担当教員	大室 悦賀			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>近年、社会的課題の解決にビジネスの手法を活用する「ソーシャルビジネス」が台頭し、社会的にその期待が高まっている。本講義では、ソーシャル・ビジネスの台頭した社会的背景、役割、特徴について学び、事例の検討をおこない、ソーシャルビジネスの本質について学習する。講義では、本質を理解するために、ディスカッション、ワークショップ、映像鑑賞などを行い、知識と実践的なマネジメント力を身につける。また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。</p>				<p>本講義では、社会的課題の解決が行政のみならずビジネスの手法でも実行可能であること、そして学生それぞれが意識をもって参加することが重要になっていることを理解し、自分で何ができるかを考えることができる知識と思考を獲得することを目標とする。</p>			
教授方法	基本的に理論の習得をベースとした講義形式で実施する。一方で、映像資料や事例検討などでグループによる対話やワークショップも取り入れる。						
履修条件	2年以降						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション&ワークショップ（授業概要、評価方法、授業の進め方）						
2	ソーシャルビジネスが台頭する社会的背景（政府の失敗と市場の失敗）						
3	ソーシャルビジネスが台頭する社会的背景（NPOの失敗とNPOの形態変化）						
4	ソーシャル・ビジネスとは何か						
5	ソーシャル・ビジネスの特徴とメカニズム						
6	事例検討（映像資料を基に学生同士でディスカッションします）						
7	組織形態（株式会社、NPO、社団法人）と組織ポートフォリオ戦略						
8	ソーシャル・イノベーションとソーシャル・イノベーション・クラスター						
9	社会指向型企業の台頭と特徴						
10	サステナブルカンパニーの台頭						
11	事例検討（映像資料を基に学生同士でディスカッションします）						
12	サステナブルカンパニーと地域の関係						
13	ソーシャル・ビジネスのモデル化のポイント						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小レポート	60%	授業内で小レポートの実施および4回程度の課題を提出してもらう。		授業テスト	40%	事前にテーマを設定し、授業内でレポートを作成してもらいます。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：テーマに沿って参考図書等を利用し学習すること 事後学習：テーマに沿って事例を調べる				授業後あるいはメールにてアポイントを入れ、研究室に入室ください。			
教科書・テキスト	大室悦賀『サステナブル・カンパニー入門』学芸出版、2016年			受講生に望むこと	私語等で受講生や担当者に迷惑がおよぶ行為には厳しく対応する。迷惑行為におよぶ者には警告なしに学生番号を確認のうえ退出退場を命じることがある。		
参考書・参考資料等	谷本真治他編著『ソーシャルイノベーションの創出と普及』NTT出版、2013年 大室悦賀編著『ソーシャル・ビジネス』中央経済社、2011年			その他・特記事項	講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要になるので、それなりの覚悟をもって望んでほしい。私語（いかなる理由の発話であれ）や遅刻など、他の受講者にとって迷惑になると私が判断する行為に対		



---

講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要にな

授業科目	海外実地研修A					
担当教員	真野 毅・首藤 聡一郎		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修（英語）とビジネス研修により構成する。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 ミズーリ大学コロンビア校 （アメリカ合衆国・ミズーリ州コロンビア）</p> <p>担当教員の真野は、京セラ株式会社でグローバルビジネスの実務経験を30年、並びに兵庫県豊岡市の副市長として8年間公共経営の実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、学んだ理論を実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>			<p>「グローバルな視点と考え方を有する学生を育て上げる」という長野県立大学の目的を達成するため、世界の現状をビジネスの側面から体感し、グローバルな感覚/ものの考え方を養い、各国の経済とビジネスについてその要諦を学ぶとともに、グローバルな視点にとって必須であるビジネス英語の実践的対話力の習得と現地でのブラッシュアップを図る。</p>			
教授方法	語学研修（英語）：講義（研修先大学内での実施が中心） ビジネス研修：講義、演習、実習（研修先大学内での講義および演習、現地の行政や企業などに出向いての演習および実習）					
履修条件	「海外経営経済演習」の単位を修得していることが望ましい					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	【第1週】2019年6月8日（月）～12日（金） 午前：語学研修（英語） 3時間×4日＝12時間 午後：ビジネス研修 3時間×4日＝12時間（予定訪問先）コロンビア市役所					
2	【第2週】2019年6月15日（月）～19日（金） 午前：語学研修（英語） 3時間×5日＝15時間 午後：ビジネス研修 3時間×5日＝15時間（予定訪問先）REDI（起業支援NPO）					
3	【第3週】2019年6月22日（月）～26日（金） 午前：語学研修（英語）3時間×5日＝15時間 午後：ビジネス研修 3時間×5日＝15時間（予定訪問先）フードバンク（食料供給福祉組織）					
4	【第4週】2019年6月29日（月）～6月30日（火） 午前：語学研修（英語） 3時間×1日＝3時間 午後：ビジネス研修 3時間×1日＝3時間 プレゼンテーション 5時間×1日＝5時間					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
語学研修（英語）	40	ビジネスを課題とした基礎英語能力（主として自己の意見の表明能力）とビジネス上の基礎的会話を実施できる能力（80%）、英語授業への取り組み姿勢	ビジネス研修	40	研修訪問前の事前プレゼンテーションの準備姿勢と内容および研修訪問後の振り返りプレゼンテーションの内容（80%）、ビジネス研修への取り組み姿勢	
研修全体の成果	20	英語研修、ビジネス研修、課外活動、日常生活をとあして学んだ成果をまとめたレポート（100%）				
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
課外でも、現地の学生と一緒にイベントや活動に参加し、生きた英語を学ぶこと。			現地教員が対応。もし現地教員で難しい場合は、引率教員が対応する。			
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	日本人の間でも英語で話すよう努めること。		

参考書・ 参考資料等	現地で適宜配布。	その他・ 特記事項	担当教員の真野は、京セラ株式会社でグローバルビジネスの実務経験を30年、並びに兵庫県豊岡市の副市長として8年間公共経営の実務経験を有しております。
---------------	----------	--------------	---

授業科目		海外実地研修B					
担当教員		中村 文彦・鶴田 靖人		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		2年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング
対象学生		グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>語学研修（英語）とビジネス研修により構成された研修を行う。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みつつ、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 ニュージーランド リンカーン大学</p>				<p>「グローバルな視点と考え方を有する学生を育てる」という長野県立大学の目的を達成するため、世界の現状をビジネスの側面から体感し、グローバルな感覚・ものの考え方を養い、研修国の経済とビジネスについてその要諦を学ぶとともに、グローバルな視点にとって必須であるビジネス英語の実践的対話力の習得と現地でのブラッシュアップを図る。</p>			
教授方法		語学研修（英語）：講義（研修先大学内での実施が中心） ビジネス研修：講義、演習、実習（研修先大学内での講義および演習、現地の行政や企業等に出向いての演習および実習）					
履修条件		「海外経営経済演習」の単位を修得していることが望ましい					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ウェルカムセレモニー・enrollment手続き、その他						
2	【第1週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修						
3	【第1週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修						
4	【第1週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修						
5	【第1週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修						
6	【第2週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修						
7	【第2週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修						
8	【第2週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修						
9	【第2週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修						
10	【第3週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修						
11	【第3週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修						
12	【第3週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修						
13	【第3週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修						
14	最終プレゼンテーション farewellセレモニー						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
語学研修（英語）	40	ビジネスを課題とした基礎英語能力（主として自己の意見の表明能力）とビジネス上の基礎的会話を実施できる能力（80%）、英語授業への取り組み姿勢		ビジネス研修	40	visit前の準備姿勢とvisit後の振り返り・プレゼンテーション(80%)、研修への取り組み姿勢（20%）。	
研修全体の成果	20	研修全体における学習姿勢・研修全体の成果の評価					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
研修全体を通じて自己の英語力を向上させ、現地のビジネスから学習のヒントを得るように心がけること。				現地教員、引率教員が適宜対応する。			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	効果を高めるため、授業参加者同士でも英語で会話するよう努めること。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	研修中は、引率教員および現地教員の指示に従って常に適切な行動をとるよう心がけること。		

授業科目		海外実地研修C					
担当教員		衣川 修平・中村 陽人		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		2年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング
対象学生		グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修(英語)とビジネス研修により構成する。語学研修(英語)は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度(TOEIC500点程度)のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力(会話やプレゼン力)を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、ジョブシャドウイング、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 Ara Institute of Canterbury (AICクライストチャーチ工科大学) (ニュージーランド・クライストチャーチ)</p>				<p>「グローバルな視点と考え方を有する学生を育て上げる」という長野県立大学の目的を達成するため、世界の現状をビジネスの側面から体感し、グローバルな感覚/ものの考え方を養い、各国の経済とビジネスについてその要諦を学ぶとともに、グローバルな視点にとって必須であるビジネス英語の実践的対話力の習得と現地でのブラッシュアップを図る。</p>			
教授方法		語学研修(英語)：講義(研修先大学内での実施が中心) ビジネス研修：講義、演習、実習(研修先大学内での講義および演習、現地の行政や企業などに出向いての演習および実習)					
履修条件		「海外経営経済演習」の単位を修得していることが望ましい。					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1週	2020年6月15日(月)～6月19日(金) 午前：語学研修(英語)15時間程度 午後：ビジネス研修、研修の事前準備、グループプレゼンテーション						
第2週	2020年6月22日(月)～6月26日(金) 午前：語学研修(英語)15時間程度 午後：ビジネス研修、研修の事前準備、グループプレゼンテーション						
第3週	2020年6月29日(月)～7月3日(金) 午前：語学研修(英語)15時間程度 午後：ビジネス研修、研修の事前準備、グループプレゼンテーション						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
語学研修(英語)	40	ビジネスを課題とした基礎英語能力(主として自己の意見の表明能力)とビジネス上の基礎的会話を実施できる能力(80%)、英語授業への取り組み姿勢		ビジネス研修	40	研修訪問前の事前プレゼンテーションの準備姿勢と内容および研修訪問後の振り返りプレゼンテーションの内容(80%)、ビジネス研修への取り組み姿勢	
研修全体の成果	20	英語研修、ビジネス研修、課外活動、日常生活をとおして学んだ成果をまとめたレポート(100%)					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
英語研修の予習・復習、ビジネス研修の事前調査、ビジネス研修の事後整理、最終レポートの作成など。				適宜対応する。			
教科書・テキスト	必要に応じて研修先および担当教員より指示する。			受講生に望むこと	課題にかかわらず、主体的に問題意識を持ち、調べ、考えてほしい。		
参考書・参考資料等	必要に応じて研修先および担当教員より指示する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	海外実地研修D						
担当教員	尹 大栄・中村 稔彦		必修・選択	選択	単位数	2単位	
履修年次	2年	開講学期	2学期		授業形態	実験・実習	科目ナバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格			備考		
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修(英語)とビジネス研修により構成する。語学研修(英語)は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度(TOEIC500点程度)のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語のうち、特に発信する力(会話やプレゼン力)を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、ジョブシヤドウィング、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 スウェーデン市民大学ウブサラ校 (スウェーデン王国・ウブサラ)</p>				<p>「グローバルな視点と考え方を有する学生を育て上げる」という長野県立大学の目的を達成するため、世界の現状をビジネスの側面から体感し、グローバルな感覚/ものの考え方を養い、各国の経済とビジネスについてその要諦を学ぶとともに、グローバルな視点にとって必須であるビジネス英語の実践的対話力の習得と現地でのブラッシュアップを図る。</p>			
教授方法	語学研修(英語)：講義(研修先大学内での実施が中心) ビジネス研修：講義、演習、実習(研修先大学内での講義および演習、現地の行政や企業などに出向いての演習および実習)						
履修条件	「海外経営経済演習」の単位を修得していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
【第1週】	語学研修(英語)2時間×2日+4時間×2日=計12時間 ビジネス研修(予定訪問先)スカプスタ空港2時間×4日+6時間×1日=14時間 ビジネス研修(訪問先)豊田自動織機(ミヨルビー工場)2時間×4日+6時間×1日=14時間 その他：現地の学生との交流プログラム等を実施						
【第2週】	語学研修(英語)4時間×2日+5時間×1日=計13時間 ビジネス研修(予定訪問先)SKB社(核燃料・廃棄物管理会社)の核燃料最終処分場 2時間×4日+8時間×1日=16時間 その他：現地の学生との交流プログラム等を実施						
【第3週】	語学研修(英語)4時間×2日+2時間×1日+5時間×2日=計20時間 その他：現地の学生との交流プログラム等を実施						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
語学研修(英語)	40%	ビジネスを課題とした基礎英語能力(主として自己の意見の表明能力)とビジネス上の基礎的会話を実施できる能力(80%)、英語授業への取り組み姿勢			ビジネス研修	40%	研修訪問前の事前プレゼンテーションの準備姿勢と内容および研修訪問後の振り返りプレゼンテーションの内容(80%)、ビジネス研修への取り組み姿勢
研修全体の成果	20%	英語研修、ビジネス研修、課外活動、日常生活をとおして学んだ成果をまとめたレポート(100%)					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
国内におけるビジネス研修先(仁科工業、松本空港)の現状と問題点を整理しておくこと。海外でのビジネス研修(スカプスタ空港、豊田自動織機、SKB社)終了後は、日本との対比をしっかりとまとめておくこと。				随時対応する。			
教科書・テキスト	必要に応じて研修先および担当教員より指示する。			受講生に望むこと	訪問国の経済・社会・文化について事前に学習しておくこと。		
参考書・参考資料等	必要に応じて研修先および担当教員より指示する。			その他・特記事項	海外実地研修を通じてグローバルな視点と考え方を身に付ける。		

授業科目		海外実地研修E					
担当教員	永田 邦和・宮下 清		必修・選択	選択	単位数	2単位	
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）				
<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修（英語）とビジネス研修により構成する。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、ジョブシャドウイング、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 アテネオ大学 語学学習センター （フィリピン共和国・マニラ）</p>			<p>「グローバルな視点と考え方を有する学生を育て上げる」という長野県立大学の目的を達成するため、世界の現状をビジネスの側面から体感し、グローバルな感覚/ものの考え方を養い、各国の経済とビジネスについてその要諦を学ぶとともに、グローバルな視点にとって必須であるビジネス英語の実践的対話力の習得と現地でのブラッシュアップを図る。</p>				
教授方法	<p>語学研修（英語）：講義（研修先大学内での実施が中心） ビジネス研修：講義、演習、実習（研修先大学内での講義および演習、現地の行政や企業などに出向いての演習および実習。）</p>						
履修条件	「海外経営経済演習」の単位を修得していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1週	6月15日（月）～6月20日（土）語学研修（英語）3時間×1日+5時間×3日=18時間 ビジネス研修（ビジネス・ビジットの事前準備・事後報告の準備）2時間×2日=4時間（予定訪問先）Epson Precision（Philippines）Inc.（EPPI）						
第2週	6月22日（月）～6月27日（土）語学研修（英語）3時間×2日+5時間×2日=16時間 ビジネス研修（第1週のビジネス・ビジットの事後報告、第2週のビジネス・ビジットの事前準備・事後報告の準備）2時間×3日=6時間（予定訪問先）アジア開発銀行（ADB）・国際協力機構						
第3週	6月29日（月）～7月3日（金）語学研修（英語）5時間×2日+3時間×2日=16時間 総括（第2週のビジネス・ビジットの事後報告、海外実地研修とビジネス・ビジットのまとめ）2時間×2日+7時間×1日=11時間						
第4週	7月6日（月）～7月7日（火）語学研修（英語）5時間×1日+3時間×1日=8時間						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
語学研修（英語）	40	ビジネスを課題とした基礎英語能力（主として自己の意見の表明能力）とビジネス上の基礎的会話を実施できる能力（80%）、英語授業への取り組み姿勢		ビジネス研修	40	研修訪問前の事前プレゼンテーションの準備姿勢と内容および研修訪問後の振り返りプレゼンテーションの内容（80%）、ビジネス研修への取り組み姿勢	
研修全体の成果	20	英語研修、ビジネス研修、課外活動、日常生活をとおして学んだ成果をまとめたレポート（100%）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
語学研修の予習・復習や、宿題等にはしっかりと取り組むこと。また、ビジネス・ビジットのプレゼンテーションの準備に十分に時間を掛けること。				質問や相談がある場合、現地教員または引率教員に尋ねること。			
教科書・テキスト	必要に応じて現地教員および引率教員より指示する。			受講生に望むこと	「海外経営経済演習」の単位を修得していることが望ましい。		
参考書・参考資料等	必要に応じて現地教員および引率教員より指示する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		海外実地研修F					
担当教員	東 俊之・宮森 征司・尹 大栄			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修（英語）とビジネス研修により構成する。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。</p> <p>ビジネス研修は、講義、ワークショップ、ジョブシャドウイング、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>担当教員の宮下は企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有しており、ビジネスやマネジメントの事例を含めた学びを進め、それらの考察を通して実務にも生かせる能力の習得に役立てていきます。</p> <p>【研修先】 レスター大学（イギリス・レスター市）</p>				<p>「グローバルな視点と考え方を有する学生を育て上げる」という長野県立大学の目的を達成するため、世界の現状をビジネスの側面から体感し、グローバルな感覚/ものの考え方を養い、各国の経済とビジネスについてその要諦を学ぶとともに、グローバルな視点にとって必須であるビジネス英語の実践的対話力の習得と現地でのブラッシュアップを図る。</p>			
教授方法	語学研修（英語）：講義（研修先大学内での実施が中心） ビジネス研修：講義、演習、実習（研修先大学内での講義および演習、現地の行政や企業などに出向いての演習および実習）						
履修条件	「海外経営経済演習」の単位を修得していることが望ましい						
授業計画							
実施回	授業内容						
第1週	第1週（2020年7月13日（月）～7月17日（金））：語学研修：5時間×2日+3時間×1日+2時間×1日=15時間、ビジネス研修：2時間（事前学習）+2時間（事後学習。自習）=4時間、（予定訪問先）Chatsworth House 変更になる場合がある						
第2週	第2週（2020年7月20日（月）～7月24日（金））：語学研修：3時間×3日+2時間×1日=11時間、ビジネス研修：2時間×2日（事前学習）+2時間×2日（事後学習。自習）+2時間×2日（事後学習。プレゼン）=12時間。（予定訪問先）Leicester City Football club, East Midlands						
第3週	第3週（2020年7月27日（月）～7月31日（金））：語学研修：5時間×2日+3時間×2日=19時間、ビジネス研修：2時間×1日（事後学習。プレゼン）=2時間。変更になる場合がある						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
語学研修（英語）	40	ビジネスを課題とした基礎英語能力（主として自己の意見の表明能力）とビジネス上の基礎的会話を実施できる能力（80%）、英語授業への取り組み姿勢			ビジネス研修	40	研修訪問前の事前プレゼンテーションの準備姿勢と内容および研修訪問後の振り返りプレゼンテーションの内容（80%）、ビジネス研修への取り組み姿勢
研修全体の成果	20	英語研修、ビジネス研修、課外活動、日常生活をとおして学んだ成果をまとめたレポート（100%）					
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		
海外現地での語学およびビジネス研修の授業に基づき、必要な事前学習（主にテキストや関連・参考資料の予習や語学練習など）と事後学習（資料やノートの整理、理解確認や語学練習など）を行うことが求められる。					海外での学習その他の相談については、引率教職員が随時、対応する。		
教科書・テキスト	必要に応じて研修先および担当教員より指示する。また語学研修に関しては、現地で準備される。				受講生に望むこと	これまで英語や海外経営経済演習をはじめ、多くの準備をしてきた海外研修を最大限に活かせるように心がけてください。とはいえ現地では気負いすぎずに、学習面だけでなく食事や休息など健康面にも十分配慮して、充実したレスターでの3週間を過ごしてください。	



参考書・ 参考資料等	必要に応じて研修先および担当教員より指示する	その他・ 特記事項	現地の生活・学習では気になることや心配なことは小さなことでも引率教員や現地スタッフに相談・連絡してください。レスターでの研修がよりよいものになるよう参加者、現地・引率スタッフとも積極的なコミュニケーションを心がけましょう。
---------------	------------------------	--------------	---

授業科目		海外経営経済演習（リンカーン）					
担当教員	中村 文彦・鶴田 靖人			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>研修先の政治、社会、文化、民族、経済、産業の具体的な特徴について、自ら調べて報告・議論した上で、研修先における学修の要点等に関する担当教員のアドバイスを受ける。この際、適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p> <p>【研修先】リンカーン大学ニュージーランド</p>				<p>海外研修の準備を兼ねて、訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>			
教授方法	基本的に演習によって行う予定である。						
履修条件	リンカーン大学に留学を予定していること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス、海外研修のための事前学習およびグループワーク						
2	海外研修のための事前学習およびグループワーク						
3	グループによるプレゼンテーションとアセスメント						
4	海外研修のための事前学習およびグループワーク						
5	グループによるプレゼンテーションとアセスメント						
6	海外研修のための事前学習およびグループワーク						
7	グループによるプレゼンテーションとアセスメント						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
調査・報告	40	調査内容（質および量が十分なレベルであるか？） 調査姿勢（主体性等） 学術調査の引用のルール等を満たしているか？		参加態度	60	議論への参加・貢献 授業への参加姿勢（主体性、その他） 協調性その他	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
報告を担当している箇所以外についても、できるだけ各回のテーマに関する下調べを自分で行うこと。				授業後に受け付ける。			
教科書・テキスト	特に指定しない。			受講生に望むこと	積極性と協調性をもって参加すること。		
参考書・参考資料等	授業時間内に都度指示する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	海外経営経済演習（レスター）				
担当教員	東 俊之・宮森 征司		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）		
<p>自身が参加する研修先となる国（海外実地研修に参加しない学生は、担当教員と相談して定めた任意の国）について、政治、社会、文化、民族、経済、産業の具体的な特徴を学生自身で調べて報告し、議論し、研修先における学修の要点について教員のアドバイスを受ける。適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ることと英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p> <p>担当教員の宮下は企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有しており、ビジネスやマネジメントの事例を含めた学びを進め、それらの考察を通して実務にも生かせる能力の習得に役立てていきます。</p> <p>【研修先】レスター大学（英国・レスター）</p>			<p>海外短期実地研修の準備を兼ねて、訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>		
教授方法	演習（必要に応じて講義を行う場合もある。また、外部講師による講演を行う場合もある）				
履修条件	海外実地研修Fに参加予定の者				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	本演習の目的、発表方法の説明				
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表	60	プレゼンテーションと議論の内容を評価	グループ活動	20	プレゼンテーションの準備としてのグループ活動の参加度や事前準備状況を評価
レポート	20	授業内で何度か課すレポート課題を評価			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
海外研修の広い意味での準備になるため、英語とビジネス研修に役立つ参考資料を収集することや学ぶことが事前学習になります。また授業での発表や質疑など討議で得たことを整理し、必要なフォロー学習を行うことが事後学習となります。			担当教員のオフィスアワーや授業前後での面談、またメールなどで連絡があれば都合のつく時間にて対応します。 ・東のオフィスアワー：火曜2限、火曜3限 ・宮森のオフィスアワー：月曜3限、月曜4限		
教科書・テキスト	教科書は、特に指定しません。		受講生に望むこと	いよいよ2学期に迫った海外研修を最大限充実したものにするための準備を行うのが本演習です。現地で英語での討議や発表の経験をしますが、訪問予定先や英国での興味のあることについて事前に調べて、自分なりに理解し、自分の考えや意見が述べられるようにしておくことよいでしょう。調べることで、さらなる疑問や興味も出てくるので、英国での学びがますます面白くなります。	
参考書・参考資料等	授業内で適宜指示します。			その他・特記事項	本演習の時間で、海外で重要となる連絡や説明を行うこともあるので、欠席をしないように十分留意しておいてください。海外では国内以上に体調管理は大切になりますので、その点でも準備をしておいてください。

授業科目	海外経営経済演習 (AIC)				
担当教員	衣川 修平・中村 陽人		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習 科目ナンバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
<p>自身が参加する研修先となる国(海外実地研修に参加しない学生は、担当教員と相談して定めた任意の国)について、政治、社会、文化、民族、経済、産業の具体的な特徴を学生自身で調べて報告し、議論し、研修先における学修の要点について教員のアドバイスを受ける。適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ることと英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p> <p>【研修先】Ara Institute of Canterbury(AICクライストチャーチ工科大学)(ニュージーランド・クライストチャーチ)</p>			<p>海外短期実地研修の準備を兼ねて、訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>		
教授方法	演習。必要に応じて講義を実施する場合もある。				
履修条件	特になし。				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	本演習の目的、発表方法の説明				
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業評価	100	プレゼンテーションと議論により判断			
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
各種課題にむけた調査、資料作成。			質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。また、メールでの質問も随時受け付ける。		
教科書・テキスト	授業の中で適宜指示する。		受講生に望むこと	課題にかかわらず、主体的に問題意識を持ち、調べ、考えてほしい。	
参考書・参考資料等	授業の中で適宜指示する。		その他・特記事項	特になし	

授業科目	海外経営経済演習（ミズーリ）					
担当教員	首藤 聡一郎・真野 毅		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>自身が参加する研修先となる国（海外実地研修に参加しない学生は、担当教員と相談して定めた任意の国）について、政治、社会、文化、民族、経済、産業の具体的な特徴を学生自身で調べて報告し、議論し、研修先における学修の要点について教員のアドバイスを受ける。適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ることと英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p> <p>【研修先】ミズーリ大学（米国・ミズーリ州コロロンビア） 担当教員の真野は、京セラ株式会社でグローバルビジネスの実務経験を30年、並びに兵庫県豊岡市の副市長として8年間公共経営の実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、学んだ理論を実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>			<p>海外短期実地研修の準備を兼ねて、訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>			
教授方法	演習。必要に応じて講義を実施する場合もある					
履修条件	ミズーリ大学留学予定者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	ガイダンス、英語でのピッチ					
2	グループワーク（日米の地方政治システム）					
3	海外での生活に潜むリスク					
4	グループワーク（日米のベンチャーエコシステム）					
5	グループワーク（日米のNPO）					
6	留学に際してのリスク管理					
7	グループワーク（留学の目的と計画）					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加	10	グループワークでの貢献等		プレゼンテーション	30	話し方なども含めたプレゼンテーションの内容
期末レポート	30	内容、形式等		リフレクションシート	30	内容、形式等
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
グループワーク・プレゼンテーションの準備。				授業時に受け付ける。必要に応じて授業外でも対応するが、その場合、メール等で事前にアポイントメントを取ることを。		
教科書・テキスト	なし。			受講生に望むこと	事前の準備で留学の学びの豊かさや楽しさは大きく変わります。真剣に取り組みましょう。	
参考書・参考資料等	必要に応じて授業時に紹介。			その他・特記事項	使用言語は基本的に英語。 担当教員の真野は、京セラ株式会社でグローバルビジネスの実務経験を30年、並びに兵庫県豊岡市の副市長として8年間公共経営の実務経験を有しております。	

授業科目	海外経営経済演習（マニラ）				
担当教員	永田 邦和・宮下 清		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）		
<p>自身が参加する海外研修先について（海外研修に参加しない学生は担当教員と相談のうえ任意の国をとりあげて）、その国の政治、社会、文化、民族、経済、ビジネスの具体的な特徴を学生自身で調べて報告し、全員で議論し、教員のアドバイスを受ける。適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ることと英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p> <p>【研修先】アテネオ大学 語学学習センター（フィリピン共和国・マニラ）</p>			<p>海外短期実地研修の準備を兼ねて、訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>		
教授方法	演習。				
履修条件	海外実地研修E参加予定者				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	本演習の目的、発表方法の説明				
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーションと議論	100	プレゼンテーションと議論により判断			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
プレゼンテーションの準備に十分時間を掛けること。			なるべく、授業中に質問すること。授業時間外に質問や相談がある場合、研究室に来ること。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	海外実地研修を実りあるものにするため、この演習で十分な準備をすること。	
参考書・参考資料等	適宜指示する。		その他・特記事項	授業中に重要な連絡・説明をするので、欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合、担当教員（永田・宮下）に連絡すること。	

授業科目	海外経営経済演習（ウプサラ）				
担当教員	尹 大栄・中村 稔彦		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）		
<p>自身が参加する研修先となる国（海外実地研修に参加しない学生は、担当教員と相談して定めた任意の国）について、政治、社会、文化、民族、経済、産業の具体的な特徴を学生自身で調べて報告し、議論し、研修先における学修の要点について教員のアドバイスを受ける。適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ることと英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p> <p>【研修先】スウェーデン市民大学ウプサラ校（スウェーデン王国・ウプサラ）</p>			<p>海外短期実地研修の準備を兼ねて、訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>		
教授方法	発表とディスカッション				
履修条件	海外実地研修（スウェーデン、ウプサラ）参加者				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	本演習の目的、発表方法の説明				
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表	100%	プレゼンテーションと議論により判断			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
研修国（スウェーデン）の政治・経済・社会に関する資料・文献のレビュー			研究室訪問や、メールでの質問・相談に対応する。		
教科書・テキスト	関連文献・資料を適宜紹介、配布する。		受講生に望むこと	関連文献・資料をしっかりとレビューすること	
参考書・参考資料等	関連文献・資料を適宜紹介、配布する。		その他・特記事項	研修効果を高めるための事前学習を怠らないこと	

授業科目	海外経営経済演習（野口）					
担当教員	野口 暢子		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
海外短期実地研修で訪問した国の社会や経済の状況、政策について、英語で受講生がプレゼンテーション（約30分）を行う。その後、クラスのメンバーからの質問に答えたり、訪問した国以外の地域や日本における状況との比較を行うことで、プレゼンテーションの内容について理解を深める。			訪れた国の状況や海外短期実地研修の内容について、興味を抱いたことを中心に調査を行い、訪問した国や関心を持ったテーマについての理解が深まること、英語でのプレゼンテーション能力の向上を図ること、質問や議論をする力を高めることを目標とする。			
教授方法	受講生ひとりにつき約30分、パワーポイントを使用した英語でのプレゼンテーションを行ったのち、質疑応答の時間を設け、発表したテーマに関して、発表者以外の受講生たちの理解も深める。					
履修条件	海外短期実地研修に参加したこと					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	海外実地研修に参加して、わかったこと。関心を持ったこと					
2	アメリカに関する発表と発表についての質疑応答・他国との比較検討					
3	フィリピンに関する発表と発表についての質疑応答・他国との比較検討					
4	ニュージーランドに関する発表と発表についての質疑応答・他国との比較検討					
5	イギリスに関する発表と発表についての質疑応答・他国との比較検討					
6	スウェーデンに関する発表と発表についての質疑応答・他国との比較検討					
7	受講生が関心のあるテーマについて、諸外国と日本との比較検討					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
発表	50	着眼点、情報の正確さ、わかりやすさ		質疑応答	50	問題を発見する力、積極的に質問する姿勢、丁寧に、的確に質問にこたえることができたかどうか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
海外短期実地研修に行った国に関してパワーポイントを使い、英語で発表できる準備をすること。演習で扱う国々やテーマについて、情報を集めること			大学のメールアドレス宛に質問や相談の内容を書いていただければ、お答えを返信いたします。直接会って、質問や相談をしたい場合には、その旨を書いたメールを送ってください。			
教科書・テキスト	なし		受講生に望むこと	自ら情報を収集し、知識を増やし、視野をひろく、思考を深くする姿勢を持ってください。		
参考書・参考資料等	演習の中で、参考になる本や資料などを紹介いたします。		その他・特記事項	演習を休む際には、できるだけ事前に連絡をください。		



授業科目		海外経営経済演習（中村文）					
担当教員	中村 文彦			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
海外研修の総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることにより、海外の経済社会事情に関する具体的な議論をし、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図る。				授業の目標は次の通り。 訪問国等、特定の国を対象とした研究を行い、海外の経済社会事情に関する具体的な議論を行うことにより専門学習の基礎を得る。 英語プレゼン能力の向上を図る。 その後の専門分野における学びの動機を得る。			
教授方法	海外実地研修参加者は特定のテーマ（経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ）について、また、海外実地研修に参加しなかった者は、海外経営経済演習 の履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象について、それぞれ、概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断等を、主に英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論しながら、教員のアドバイスを受ける。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
7	第7回：クラスごとではなく全学生一堂に会しての代表学生による発表と全員での議論。						
共通の評価基準							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
調査・報告	40	調査内容（質および量が十分なレベルであるか？） 調査姿勢（主体性等） 学術調査の引用のルール等を満たしているか？		参加態度	60	議論への参加・貢献 授業への参加姿勢（主体性、その他） 協調性その他	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
報告を担当している箇所以外についても、できるだけ各回のテーマに関する下調べを自分で行って下さい。				授業後に受け付けます。			
教科書・テキスト	特に指定しません。			受講生に望むこと	積極性と協調性をもって参加して下さい。		
参考書・参考資料等	授業内で都度指示します。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	海外経営経済演習 (東)						
担当教員	東 俊之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>自身が参加した海外実地研修における経営学、経済学、社会学、行政学等に係るテーマ(海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象)について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとする。</p>				<p>海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	本演習の目的、発表方法の説明						
第2回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第3回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第4回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第5回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第6回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第7回	クラス全員でのまとめの議論						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験(筆記)	0%				小テスト	0%	
授業レポート	0%				上記以外の授業評価	100%	プレゼンテーションと議論により判断
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>プレゼンテーションの準備は必須です。また、事後学習として発表者は発表内容のリフレクションをすることが求められます。</p>				<p>火曜日2・3限目をオフィスアワーとして設定します。何かありましたら、遠慮なく尋ねてください。また、それ以外の時間帯でも在室しているときは対応します。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。</p>			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	受講生間の積極的なディスカッションができるように、質問項目を考えながら他者の発表を聞くようにしてください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	欠席した場合は、なるべく早く授業担当者に連絡を取り、指示を仰いでください。		

授業科目	海外経営経済演習（大室）						
担当教員	大室 悦賀			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けともする。</p> <p>また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。</p>				<p>海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	2年次						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
7	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
その他	100	プレゼンテーションと議論により判断					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前学習：事前に自分の経験を体系的にまとめておくこと          事後学習：授業中におこなった議論を自分なりにまとめ、気づいたポイントを書き出しておくこと。</p>				メール等でアポイントを入れてください			
教科書・テキスト	指定なし			受講生に望むこと	積極的に、参加すること。		
参考書・参考資料等	指定なし			その他・特記事項	現実と理論の往復を意識して、海外研修を振り返ること。		

授業科目	海外経営経済演習（衣川）						
担当教員	衣川 修平			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
主に海外実習で訪れた地域における経済、経営、社会、行政等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとします。				海外短期実地研修で訪れた地域をリサーチ対象として、基盤的な知識の獲得、ディスカッション、プレゼンテーション、の各能力の向上を図ることを目標とします。			
教授方法	演習						
履修条件	海外研修の単位を修得した者。 また海外研修に行けなかったまたは単位を修得できなかったが、特段の事情が認められる者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	本演習の目的、発表方法の説明						
第2回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第3回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第4回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第5回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第6回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第7回	報告会						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
平常点	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者の意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べることができたか		報告	50	1. 報告資料は適切であったか 2. 報告方法が効果的であったか 3. 協業関係をうまく取り結ぶことができたか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
プレゼンテーションのための、資料収集とパワー作成を第1回から行うようにしてください。				演習時にオフィスアワーを指定します。			
教科書・テキスト	適宜紹介します。			受講生に望むこと	本演習の性質上、報告会は欠席しないようにお願いします。		
参考書・参考資料等	適宜紹介します。			その他・特記事項	Email: kinugawa.shuhei@u-nagano.ac.jp		

授業科目	海外経営経済演習 (金)				
担当教員	金 賢仙		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習 科目ナンバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。			海外経済実地研修において自身が赴いた国・地域の政治、経済、文化等について、説明できるようになる。 自身の問題意識を深め、検討すべきテーマの設定をできるようになる。 自身のテーマについてのプレゼンテーションができるようになる。 英語によるプレゼンテーション、意見交換ができるようになる。		
教授方法	演習				
履修条件	海外経営経済演習、海外経済実地研修を履修済みであること。				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	ガイダンス				
2	学生による発表と議論及び担当教員のコメント				
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
7	クラスごとではなく全学生一堂に会しての代表学生による発表と全員での議論。				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
100		プレゼンテーションと議論により判断			
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
報告を担当している箇所以外についても、できるだけ各回のテーマに関する下調べを自分で行ってください。			原則として、オフィス・アワーに対応する。		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	自身が興味関心を持ったことに関連する問題意識を深め、テーマ設定ができるようにしましょう。	
参考書・参考資料等	特になし。		その他・特記事項	プレゼンテーションに際して、参考文献を自身で用意すること。参考文献は最低でも2件用意すること。(英文か和文かは問わない。) 印刷等の手配については、授業中に説明します。	

授業科目	海外経営経済演習（首藤）				
担当教員	首藤 聡一郎		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習 科目ナンバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）		
まず、留学時の学びをそれぞれプレゼンテーションしてもらった後、受講者全員で議論する。また、留学時に生じた疑問について調査し、それについてもプレゼンテーションしてもらった後、議論する。			1) 留学の経験を、外部化することで、明瞭にすることができる 2) 他社の留学経験を理解することで自らの経験を深化させることができる 3) 留学時に生じた疑問について調査することで、留学時の学びを発展させることができる		
教授方法	プレゼンテーション、ディスカッション				
履修条件	「海外実地研修」受講者				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	ガイダンス				
2	留学経験のプレゼンテーション・ディスカッション（1）				
3	留学経験のプレゼンテーション・ディスカッション（2）				
4	留学経験のプレゼンテーション・ディスカッション（3）				
5	留学時に生じた疑問に関するプレゼンテーション・ディスカッション（1）				
6	留学時に生じた疑問に関するプレゼンテーション・ディスカッション（2）				
7	留学時に生じた疑問に関するプレゼンテーション・ディスカッション（3）				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	50	内容、わかりやすさ、形式等から総合的に判断	議論への貢献	50	発言の頻度、質等から総合的に判断
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前学習（1）：自らの留学に関するプレゼンテーションの準備 事前学習（2）：留学時に生じた疑問に関するプレゼンテーションの準備			授業時に受け付ける。それ以外の時間に関してはメールでアポイントメントを取ること		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと	真剣に取り組みましょう	
参考書・参考資料等	授業時に適宜紹介		その他・特記事項	特になし	

授業科目	海外経営経済演習（田村）						
担当教員	田村 秀			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けともする。</p>				<p>海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	海外短期実地研修に参加すること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論及び担当教員のコメント						
3	学生による発表と議論及び担当教員のコメント						
4	学生による発表と議論及び担当教員のコメント						
5	学生による発表と議論及び担当教員のコメント						
6	学生による発表と議論及び担当教員のコメント						
7	クラスごとではなく全学生一堂に会しての代表学生による発表と全員での議論						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
その他	100	プレゼンテーションと議論により判断					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
海外短期研修から帰国後、研修で学んだことをしっかりと整理すること				随時受け付ける			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	毎回受講し、議論に積極的に参加すること		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目	海外経営経済演習（永田）						
担当教員	永田 邦和			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>自身が参加した海外研修における経済・経営・社会・行政・政治上のテーマについて（海外研修に参加しなかった学生は担当教員と相談して自身が定めた任意の研究対象について）、その概略、研修と研究から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を主として英語でプレゼンし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、専門教育の基礎とする。</p>				<p>海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。</p>			
教授方法	演習形式。						
履修条件	海外実地研修に参加すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント（1）						
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント（2）						
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント（3）						
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント（4）						
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント（5）						
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント（6）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	0				小テスト	0	
授業レポート	0				上記以外の授業評価	100	プレゼンテーションと議論により判断
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		
発表の準備に十分時間をかけること。					なるべく授業中に質問をすること。また、授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。		
教科書・テキスト	特になし。				受講生に望むこと	他の受講生の発表に対して積極的に質問やコメントをすること。	
参考書・参考資料等	適宜指示する。				その他・特記事項	特になし。	



授業科目	海外経営経済演習（中村陽）						
担当教員	中村 陽人			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマについて、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとする。</p>				<p>海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。</p>			
教授方法	演習。必要に応じて講義を実施する場合もある。						
履修条件	海外経営経済演習 および海外実地研修を履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
7	クラスごとではなく全学生一堂に会しての代表学生による発表と全員での議論。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業評価	100	プレゼンテーションと議論により判断					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
各課題にむけた調査、資料作成。				質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。また、メールでの質問も随時受け付ける。			
教科書・テキスト	授業の中で適宜指示する。			受講生に望むこと	課題にかかわらず、主体的に問題意識を持ち、調べ、考えてほしい。		
参考書・参考資料等	授業の中で適宜指示する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	海外経営経済演習（中村稔）						
担当教員	中村 稔彦			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとする。</p>				<p>海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	特になし。3回以上欠席した者は評価の対象外とする。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	本演習の目的、発表方法の説明						
第2回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第3回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第4回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第5回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第6回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第7回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーションと議論	100	知識力、構成力、表現力、思考力、発言力を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
できる限り台本を見ないで、英語でプレゼンテーションができるように、事前準備をしっかりと行うこと。				随時対応する。			
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	海外研修の成果を十分にアピールして欲しい。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	海外経営経済演習（三浦）						
担当教員	三浦 正士			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けともする。</p>				<p>ねらい 海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。</p> <p>到達目標 海外の事情に関する調査能力、日本と比較検討する思考力、分析力を身につける。 英語でのプレゼンテーション能力を身につける。 議論に必要なコミュニケーション能力を身につける。</p>			
教授方法	演習形式で行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
上記以外の授業評価	100	プレゼンテーションと議論により判断する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告者は、報告内容について主体的な問題関心を持ち、適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して報告に備える。</li> <li>・報告者以外は、報告が予定されている内容について、書籍やインターネット等を通じて事前に情報を収集する。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・上記のほか、相談等は適宜メール等で受け付ける。</li> </ul>			
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	海外経営経済演習（宮下）						
担当教員	宮下 清			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>受講者がそれぞれに参加した海外研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマにおいて、その概略、研修から得られた知見、自身の経営や政策における考えなどの発表と討議による学びの場とする。発表については英語でのプレゼンテーションを行い、全員で議論し、教員のアドバイスを受け、さらに学びを深めていく。これにより、その後の専門分野における学びの動機付けとする。</p> <p>担当教員は企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有し、ビジネスやマネジメントの事例を含めた学びを進め、それらの考察を通して実務にも生かせる能力の習得に役立てる。</p> <p>海外実地研修に参加の学生は「海外経営経済演習」履修時に、担当教員と相談して定めた任意の研究対象について上記を行うものとする。</p>				<p>海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。</p>			
教授方法	演習による（毎回の予定に基づき、受講者の発表と討議を行う）						
履修条件	原則として、ゼミナール（演習）の受講者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
その他	100	発表（プレゼンテーション）と議論（ディスカッション）による					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習として、研修先のテーマとすることを学習する。発表のための準備を行う。事後学習として、他の発表や討議で学んだことを整理、習得し、次回以降に活かす。				オフィスアワーや授業前後にて対応。			
教科書・テキスト	指定はないが、海外研修時のテキストや資料を必要に応じて活用。			受講生に望むこと	海外研修を充実させることはもとより、研修後も資料やノートを整理し授業に活用できるように。		
参考書・参考資料等	特に指定はない。海外研修時の資料を必要により活用。			その他・特記事項	各国での学び、体験を受講者が持ち寄ることで、さらに多様なグローバル知見の獲得が本演習の意義。担当教員は企業での人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有する。		

授業科目	海外経営経済演習（森本）						
担当教員	森本 博行			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
海外研修プログラムで体験した異文化社会についての学びを学問的に整理し、さらに理解を深める。				海外研修プログラムで訪問したそれぞれの国の社会・文化についての違いを、受講生相互に理解する。 担当教員は、広告会社の外資系部門（マッキンゼーエリクソン博報堂）、さらに製造業（ソニー）においてVP（Vice president）を経験し、広告宣伝、事業戦略、米国、英国で海外子会社経営についての実務経験を有しており、また担当教員は、国際経営論の研究者として欧州およびアジア各国を訪問した経験があり、各国の事例を交えながら考察し、将来的に受講生がグローバル人材としての実務に活かすことができる能力について講義します。			
教授方法	演習方式						
履修条件	ゼミナール を履修していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	アメリカでの異文化体験報告						
2	フィリピンでの異文化体験報告						
3	英国での異文化体験報告						
4	ニュージーランドの異文化体験報告						
5	スウェーデンでの異文化体験報告						
6	国民文化の次元の違いについてのディスカッション						
7	海外研修プログラムでの異文化理解についての総括						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業での報告	60				レポート	40	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
体験したことや学んだことについての報告内容を事前にまとめる				相談や質問については、メールで対応する			
教科書・テキスト	なし			受講生に望むこと	海外研修プログラムの事前学習は、各国の社会について基礎知識を学んでおくこと。		
参考書・参考資料等	G. ホフステードほか『多文化世界』（有斐閣）、エリン・メイヤー『異文化理解力』（英治出版）、鈴木賢志『日本人の価値観』（中公新書）			その他・特記事項	特になし		

授業科目	海外経営経済演習 (尹)						
担当教員	尹 大栄			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
参加した研修先で学んだこと(訪問国の政治、社会、文化、経済、産業など)や現地での体験について報告し、議論する。適宜、英語によるプレゼンテーションを行う。				研修先で得た知識や経験について発表し合うことにより、自分の研修成果をより深く客観的・複眼的に内省する。			
教授方法	発表とディスカッション						
履修条件	海外研修参加者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション：本演習の目標、発表方法について説明						
2	学生により発表と議論および指導教員のコメント						
3	学生により発表と議論および指導教員のコメント						
4	学生により発表と議論および指導教員のコメント						
5	学生により発表と議論および指導教員のコメント						
6	学生により発表と議論および指導教員のコメント						
7	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
発表	70	プレゼンテーション内容			議論	30	議論への積極さ・貢献度
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
英語によるプレゼンテーションを促したい。				研究室訪問やメールで随時対応する。			
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	英語によるプレゼンテーションに積極的にチャレンジしてほしい。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	海外で活躍できる人材を目指してほしい。		

授業科目	海外経営経済演習（六山）						
担当教員	六山 悌三			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
主として自身が参加した海外実地研修における経営経済訪問先を中心に、研修先のテーマについて、研修の概略、研修から得られた知見、研修内容に関する自身の気付きや各種の提言等を主として英語でプレゼンし、全員で議論し、担当教員の専門的視点からのコメントを受けます。				海外実地研修における特定の国や研修訪問先を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済事情とビジネス事情について具体的な議論をし、海外研修の総括とするとともに、専門的な学習にむけての経営・経済の考え方の基礎を専門ゼミ担当教員から得ることを目的とします。あわせて、英語プレゼン能力の向上も図ります。			
教授方法	演習形式（学生による報告と討議、教員からのフィードバック）						
履修条件	学務による規定の通り						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス。この演習の進め方と留意点について。						
2	報告と討議						
3	報告と討議						
4	報告と討議						
5	報告と討議						
6	報告と討議						
7	まとめ						
共通の評価基準							
全員が、パワーポイントないしはレジュメあるいはその他の発表手段を用意して、少なくとも1回（したがって5人グループならば5回以上）の英語による発表を行うこと。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
平常点	100	発表レジュメやパワーポイントの質、プレゼンテーション内容、議論への参加の程度等で判断します。研修内容、発表テーマの理解があり、基礎的な報告					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
報告・討議のための資料等の事前準備が必要となります。				メールでの質問等はもちろん、日時を約束しての面会にも対応します。			
教科書・テキスト	用いません。			受講生に望むこと	積極的な参加を望みます。		
参考書・参考資料等	テーマ・内容等に応じて適宜指示します。			その他・特記事項	第1回ガイダンスをはじめ、必要に応じて指示します。		

授業科目	海外経営経済演習（宮森）					
担当教員	宮森 征司		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けともする。</p>			<p>ねらい 海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。</p> <p>到達目標 海外の事情に関する調査能力、日本と比較検討する思考力、分析力を身につける。 英語でのプレゼンテーション能力を身につける。 議論に必要なコミュニケーション能力を身につける。</p>			
教授方法	演習形式で行う。					
履修条件	特になし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	本演習の目的、発表方法の説明					
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
7	クラスごとではなく全学生一堂に会しての代表学生による発表と全員での議論					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
上記以外の授業評価	100	プレゼンテーションと議論により判断する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
<p>・報告者は、報告内容について主体的な問題関心を持ち、適宜レジюмеやパワーポイント等の資料を作成して報告に備える。 ・報告者以外は、報告が予定されている内容について、書籍やインターネット等を通じて事前に情報を収集する。</p>			授業中、授業の前後に受けつける。			
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと	報告者は入念に準備しておくこと。積極的に議論に参加すること。		
参考書・参考資料等	特になし		その他・特記事項	特になし		



授業科目		経営組織論（2年）					
担当教員	東 俊之		必修・選択	選択必修	単位数	2単位	
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）				
<p>今日の社会は組織なしには動かない。そのため、組織について基本知識を持つことが不可欠である。つまり、組織全体をいかにマネジメントするかを考える必要があり、また組織のなかの人間行動に注目することが不可欠である。本科目では、経営組織論、特にマクロ組織論（組織理論）に注目し、今後の社会生活において必要不可欠な組織についての知識や技能を、講義や演習、事例分析を通して身につける。そしてこうした知識・技能を活用して、組織をマネジメントする基礎的な実践能力を涵養する。</p> <p>本授業では、経営組織論に関する様々なテーマについて、講義形式の授業、事例分析やグループ活動、ビデオや動画などのAV資料などを通じて効果的に学習する。また本授業は、最初の数回で「組織論の全体」を把握し、その後「組織と環境との関係」、「組織の成長・発展の方法」を主題にしながら、経営組織論の各論を学習する。</p>			<p>本科目は、組織を経営するための基礎的な実践能力を身につけることがねらいです。具体的には、組織とは何か、またどのような組織観があるのかを説明できる、組織と環境との関係から、組織をいかに設計すればよいかを説明できる、組織の経営活動ならびに組織内の人間行動の側面から、組織文化を説明できる、企業組織の基本形態と特徴を、経営戦略との関係から説明できる、組織を変革する過程や条件を理解し、変革を実行できる、本科目で学習した内容を、実際の組織活動に応用できる、ようになることを到達目標としています。</p>				
教授方法	<p>毎回、経営組織論に関する様々なテーマについて、基本的にPowerPointと板書の両方を使用しながら講義形式の授業を行いますが、多くの場合でショートケースを用いながら説明を行います。また、皆さんの「所属する組織」を具体的にイメージしながら、理論を考察する機会を持ちます。くわえて、事例分析やグループ活動なども適時実施します（おおよ講義：70%、演習30%の割合）。さらに2回に1度の割合で小テストを実施しますので、予習・復習が不可欠です。</p>						
履修条件	先行して履修すべき科目等は、特にありません。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	【ガイダンス（イントロダクション）】：本科目の全体像を説明し、「組織とは何か」を考えます。特に、「組織」は皆さんにとって、あるいは社会にとって不可欠なものであることを把握し、本授業で学ぶことをどのように実践に生かせるかを理解します。						
第2回	【マクロ組織論とミクロ組織論】：経営組織論は大きくマクロ組織論（組織理論）とミクロ組織論（組織行動論）に分けられます。ここでは、この両者の内容について理解を深め、さらには組織と集団の違いを学習します。特に、マクロ組織論の射程を詳しく解説します。						
第3回	【経営組織の基本概念】：様々な組織の見方ができることを理解し、自分なりの組織観を持てるようにします。また経営組織論における代表的な組織の定義である「バーナードの協働システムとしての組織観」を紹介し、他の組織観との違いを学習します。						
第4回	【伝統的組織論（管理と組織の関係）】：F. テイラーの科学的管理法とH. ファヨールの管理原則、さらにM. ヴェーバーの官僚制組織論を題材として、古典的な組織論を学びます。また、当時の歴史背景から、そうした理論的ななぜ導き出されたのかを考えます。						
第5回	【協働の体系としての組織】：「近代組織論の父」と称される、C. パーナードの理論を学び、組織が「協働システム」として成り立っていることを理解します。くわえて、協働システムとしての組織が成立する条件についても詳細に考察します。						
第6回	【組織における意思決定】：ノーベル経済学賞受賞者である、H. サイモンの組織に関する理論を学び、組織における意思決定がどうあるべきかを考えます。特に、限定合理性である人間の限界を克服するための道具（装置）として組織が存在していることを理解します。						
第7回	【環境と組織のダイナミクス】：組織は外部環境から影響を受け、また外部環境に影響を与える存在です。こうした「オープンシステム」としての組織を検討します。さらに、組織内の個人の行動が経営活動にどう影響するのか検討します。グループ討議を実施します。						
第8回	【組織構造と組織デザイン論】：経営組織の基本構造（機能別組織、事業部制組織、マトリクス組織など）について学習します。また、不確実性と情報処理負荷の削減という視点から、組織をどのように設計すべきかを考察します。						
第9回	【コンティンジェンシー理論】：環境変化に応じて組織の構造や管理方法を適切に変化すべきだという考えをコンティンジェンシー理論（条件適応理論）と言います。ここではコンティンジェンシー理論の代表的な研究を確認し、環境と組織との関係を考察します。						
第10回	【制度派組織論と個体群生態学】：環境と組織の場合、組織から環境への働きかけが必ずしも可能でない場合があります。こうした「非合理の組織論」の代表的な研究分野について学習し、その対策を検討します。						
第11回	【組織文化論】：「組織に共通するものの見方、価値観」を組織文化と言います。組織構造だけでなく、この組織文化も組織の成果に影響を与えたと考えられます。そこで、この組織文化が組織メンバーに与える影響を考え、また文化をどのように管理すべきかを学習します。						
第12回	【経営組織と戦略】：組織が持続・発展するためには、環境変化に合わせて「経営戦略」を変更するだけでなく、組織構造や組織文化を変革することも不可欠です。ここでは、経営組織と経営戦略との関係を事例を用いながら考察します。グループ討議を実施します。						
第13回	【組織間関係論】：外部環境の変化に対して個別組織での対応が難しい場合には、組織間のレベルでの対応が不可欠です。ここでは、組織が持続・発展するための方法として、他組織と協働する必要があることを学び、そのポイントを探ります。						
第14回	【経営組織論の展望】：まともとして、これまで学んできたことを振り返り、様々な組織理論が生まれる背景を探ります。さらに、現在の経営組織論の到達点を鑑み、今後どのようなことが問題となってくるのか、皆さんと検討します。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	30%	期末試験（40点）。期末試験は、論述問題を出題します。これまで学んできたことを総合的に考える問題を出題します。なお論述問題ですので、自身の見		小テスト	30%	小テスト（5点×6回＝30点。2、4、6、8、10、12回に実施）。前回および当日の授業内容が理解できているかの確認のために実施します。穴埋問題を中心	
授業レポート	30%	レポート課題（20点）とグループ討議レポート（5点×2回＝10点）。レポート課題は、組織の特徴を分析するレポートです。またグループ討議レポートは、		上記以外の授業評価	0%	授業への積極的な取り組みなどによって、ボーナスポイントを付与する場合があります。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回授業の終わりに「課題」を提示します。これは提出を求めものではなく、次回授業の予習になるものです。グループ討議を行う際には、事前に調査しておかないと、活発な議論ができません。さらに2回に1度の割合で小テストを実施しますので、予習・復習が不可欠です。</p>				<p>火曜日2限目・3限目をオフィスアワーとして設定しますが、それ以外でも在室しているときは対応します。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。</p>			
教科書・テキスト	教科書：馬場・蔡・福原ほか著『マネジメントの航海図』中央経済社、2015年（本体2,700円＋税）。（必ずしも教科書通りには進みません。また適時資料を配布します）			受講生に望むこと	<p>組織活動は日常のあらゆる場面に存在しています。そのため、常に“組織”を意識し、特に企業組織の活動について、新聞記事や雑誌記事、関連書籍を読み、理解することが大切です。また授業は、これまで皆さんが組織活動で経験したことを思い出しながら受講してください。</p>		
参考書・参考資料等	参考書：尾尾雅夫編著『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房、2010年（本体2,800円＋税）。（その他、参考文献は授業時に指示します）			その他・特記事項	<p>授業スライドは、授業前に学生ポータルからダウンロードできるようにします。予習・復習に役立ててください。ただし、授業時にもスライドを印刷したものを配付しますので必ずしも印刷する必要はありません。また、欠席された際はなるべく事前に担当教員にアポイントをとり、指示を仰ぐようにして</p>		

---

授業スライドは、授業前に学生ポータルからダウンロードできるようにします。予習・復習に役立ててください。ただし、授業時にもスライドを印刷したものを配付しますので必ずしも印刷する必要はありません。また、欠席された際はなるべく早めに担

授業科目		経営組織論（1年）					
担当教員	東 俊之			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>今日の社会は組織なしには動かない。そのため、組織について基本知識を持つことが不可欠である。つまり、組織全体をいかにマネジメントするかを考える必要があり、また組織のなかの人間行動に注目することが不可欠である。本科目では、経営組織論、特にマクロ組織論（組織理論）に注目し、今後の社会生活において必要不可欠な組織についての知識や技能を、講義や演習、事例分析を通して身につける。そしてこうした知識・技能を活用して、組織をマネジメントする基礎的な実践能力を涵養する。</p> <p>本授業では、経営組織論に関する様々なテーマについて、講義形式の授業、事例分析やグループ活動、ビデオや動画などのAV資料などを通じて効果的に学習する。また本授業は、最初の数回で「組織論の全体」を把握し、その後「組織と環境との関係」、「組織の成長・発展の方法」を主題にしながら、経営組織論の各論を学習する。</p>				<p>本科目は、組織を経営するための基礎的な実践能力を身につけることがねらいです。具体的には、組織とは何か、またどのような組織観があるのかを説明できる、組織と環境との関係から、組織をいかに設計すればよいかを説明できる、組織の経営活動ならびに組織内の人間行動の側面から、組織文化を説明できる、企業組織の基本形態と特徴を、経営戦略との関係から説明できる、組織を変革する過程や条件を理解し、変革を実行できる、本科目で学習した内容を、実際の組織活動に応用できる、ようになることを到達目標としています。</p>			
教授方法	<p>毎回、経営組織論に関する様々なテーマについて、基本的にPowerPointと板書の両方を使用しながら講義形式の授業を行いますが、多くの場合でショートケースを用いながら説明を行います。また、皆さんの「所属する組織」を具体的にイメージしながら、理論を考察する機会を持ちます。くわえて、事例分析やグループ活動なども適時実施します（おおよ講義：70%、演習30%の割合）。さらに2回に1度の割合で小テストを実施しますので、予習・復習が不可欠です。</p>						
履修条件	先行して履修すべき科目等は、特にありません。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	【ガイダンス（イントロダクション）】：本科目の全体像を説明し、「組織とは何か」を考えます。特に、「組織」は皆さんにとって、あるいは社会にとって不可欠なものであることを把握し、本授業で学ぶことをどのように実践に生かせるかを理解します。						
第2回	【マクロ組織論とミクロ組織論】：経営組織論は大きくマクロ組織論（組織理論）とミクロ組織論（組織行動論）に分けられます。ここでは、この両者の内容について理解を深め、さらには組織と集団の違いを学習します。特に、マクロ組織論の射程を詳しく解説します。						
第3回	【経営組織の基本概念】：様々な組織の見方ができることを理解し、自分なりの組織観を持てるようになります。また経営組織論における代表的な組織の定義である「バーナードの協働システムとしての組織観」を紹介し、他の組織観との違いを学習します。						
第4回	【伝統的組織論（管理と組織の関係）】：F. テイラーの科学的管理法とH. ファヨールの管理原則、さらにM. ヴェーバーの官僚制組織論を題材として、古典的な組織論を学びます。また、当時の歴史背景から、そうした理論的ななぜ導き出されたのかを考えます。						
第5回	【協働の体系としての組織】：「近代組織論の父」と称される、C. パーナードの理論を学び、組織が「協働システム」として成り立っていることを理解します。くわえて、協働システムとしての組織が成立する条件についても詳細に考察します。						
第6回	【組織における意思決定】：ノーベル経済学賞受賞者である、H. サイモンの組織に関する理論を学び、組織における意思決定がどうあるべきかを考えます。特に、限定合理性である人間の限界を克服するための道具（装置）として組織が存在していることを理解します。						
第7回	【環境と組織のダイナミクス】：組織は外部環境から影響を受け、また外部環境に影響を与える存在です。こうした「オープンシステム」としての組織を検討します。さらに、組織内の個人の行動が経営活動にどう影響するのか検討します。グループ討議を実施します。						
第8回	【組織構造と組織デザイン論】：経営組織の基本構造（機能別組織、事業部制組織、マトリクス組織など）について学習します。また、不確実性と情報処理負荷の削減という視点から、組織をどのように設計すべきかを考察します。						
第9回	【コンティンジェンシー理論】：環境変化に応じて組織の構造や管理方法を適切に変化すべきだという考えをコンティンジェンシー理論（条件適応理論）と言います。ここではコンティンジェンシー理論の代表的な研究を確認し、環境と組織との関係を考察します。						
第10回	【制度派組織論と個体群生態学】：環境と組織の場合、組織から環境への働きかけが必ずしも可能でない場合があります。こうした「非合理の組織論」の代表的な研究分野について学習し、その対策を検討します。						
第11回	【組織文化論】：「組織に共通するものの見方、価値観」を組織文化と言います。組織構造だけでなく、この組織文化も組織の成果に影響を与えると考えられます。そこで、この組織文化が組織メンバーに与える影響を考え、また文化をどのように管理すべきかを学習します。						
第12回	【経営組織と戦略】：組織が持続・発展するためには、環境変化に合わせて「経営戦略」を変更するだけでなく、組織構造や組織文化を変革することも不可欠です。ここでは、経営組織と経営戦略との関係を事例を用いながら考察します。グループ討議を実施します。						
第13回	【組織間関係論】：外部環境の変化に対して個別組織での対応が難しい場合には、組織間のレベルでの対応が不可欠です。ここでは、組織が持続・発展するための方法として、他組織と協働する必要があることを学び、そのポイントを探ります。						
第14回	【経営組織論の展望】：まともとして、これまで学んできたことを振り返り、様々な組織理論が生まれる背景を探ります。さらに、現在の経営組織論の到達点を鑑み、今後どのようなことが問題となってくるのか、皆さんと検討します。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	30%	期末試験（40点）。期末試験は、論述問題を出題します。これまで学んできたことを総合的に考える問題を出題します。なお論述問題ですので、自身の見		小テスト	30%	小テスト（5点×6回＝30点。2、4、6、8、10、12回に実施）。前回および当日の授業内容が理解できているかの確認のために実施します。穴埋問題を中心	
授業レポート	30%	レポート課題（20点）とグループ討議レポート（5点×2回＝10点）。レポート課題は、組織の特徴を分析するレポートです。またグループ討議レポートは、		上記以外の授業評価	0%	授業への積極的な取り組みなどによって、ボーナスポイントを付与する場合があります。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回授業の終わりに「課題」を提示します。これは提出を求めものではなく、次回授業の予習になるものです。グループ討議を行う際には、事前に調査しておかないと、活発な議論ができません。さらに2回に1度の割合で小テストを実施しますので、予習・復習が不可欠です。</p>				<p>火曜日2 限目・3 限目をオフィスアワーとして設定しますが、それ以外でも在室しているときは対応します。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。</p>			
教科書・テキスト	教科書：馬場・蔡・福原ほか著『マネジメントの航海図』中央経済社、2015年（本体2,700円＋税）。（必ずしも教科書通りには進みません。また適時資料を配布します）			受講生に望むこと	<p>組織活動は日常のあらゆる場面に存在しています。そのため、常に「組織」を意識し、特に企業組織の活動について、新聞記事や雑誌記事、関連書籍を読み、理解することが大切です。また授業は、これまで皆さんが組織活動で経験したことを思い出しながら受講してください。</p>		
参考書・参考資料等	参考書：田尾雅夫編著『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房、2010年（本体2,800円＋税）。（その他、参考文献は授業時に指示します）			その他・特記事項	<p>【重要】1学期に「経営組織論（2年）」が開講されていますが、1年生の皆さんは、そちらの授業は履修申請しないでください。授業スライドは、授業前に学生ポータルからダウンロードできるようにします。予習・復習に役立ててください。ただし、授業時にもスライドを印刷し</p>		

---

**【重要】**1学期に「経営組織論(2年)」が開講されていますが、1年生の皆さんは、そちらの授業は履修申請しないでください。  
授業スライドは、授業前に学生ポータルからダウンロードできるようにします。予習・復習に役立て

授業科目		ファイナンス入門					
担当教員	永田 邦和			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>ファイナンスは、将来の利益が確実でない状況での資金の貸借を研究している。企業は、不確実性を伴う事業に必要な資金を調達し、その利益から資金を返済している。経営者や金融機関の担当者、投資家が企業活動を金銭的な観点から評価し、正しい意思決定をするためには、ファイナンスの知識が必要になる。</p> <p>本講義では、グローバル・ビジネスコースのみならず、その他のコースの展開科目の学習に必要な基礎知識や予備知識の修得を目指し、初学者が理解しやすいように、金融機関や金融市場の概要も取り上げ、ファイナンスの基本的な考え方を学習する。</p>				<p>本講義では、金融機関や金融市場、ファイナンスの基本的な考え方、証券投資、コーポレート・ファイナンス、リスク管理手法に関する基礎知識を身に付け、企業経営や金融に関するニュースや出来事の背景を理解できるようにする。これらの基礎知識は、今後のグローバル・ビジネスコースのみならず、その他のコースの展開科目の学習に必要な基礎的・予備的知識のみならず、金融業界への就職や個人の資産形成、企業経営においても重要な知識である。</p>			
教授方法	講義形式。「習うより慣れる」の方針で、授業中に計算問題の演習時間を設けたり、計算問題を宿題として課す。不明な点があれば、解説の時間に、積極的に質問すること。						
履修条件	総合教育の「経済学入門」を受講していると、授業内容を理解しやすい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	コーポレート・ファイナンスと投資の基礎知識						
3	株式と負債						
4	資金の時間的価値：現在価値の計算方法						
5	資産価格の決定理論（1）：債券価格と利回り						
6	資産価格の決定理論（2）：株価の決定理論						
7	リスクとリターン：期待値と標準偏差						
8	ポートフォリオ理論（1）：共分散と相関係数						
9	ポートフォリオ理論（2）：分散投資とCAPM						
10	投資決定の基礎理論						
11	資本構成の基礎理論						
12	デリバティブ（1）：デリバティブの概要と先物取引						
13	デリバティブ（2）：オプションとスワップ						
14	保険の仕組みと機能						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記試験）	50	ファイナンスの基礎知識の理解度に応じて評価する。		小テスト	30	3回程度小テストを行い、理解度に応じて評価する。	
授業レポート	0			上記以外の授業評価	20	授業中の練習問題の成果や宿題の提出状況等に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業前に教科書を読んで、予習すること。授業では、教科書を超えるレベルの内容も取り上げるので、授業後には、教科書やノート等で復習すること。				リアクションペーパーを配布するので、質問を記入すること。質問には次回の授業で回答する。授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限りいつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。			
教科書・テキスト	内田交（2009）『すらすら読めて奥までわかるコーポレート・ファイナンス』（改訂版）、創成社。教科書に載っていない分野については、資料を配付する。			受講生に望むこと	ファイナンスを深く理解するには数学や統計学の知識が必要になる。「習うより慣れる」の方針で、授業中に演習時間を設けたり、宿題を課す。何度も繰り返し返すと正解を導けるようになるので、諦めずに取り組むこと。		
参考書・参考資料等	石橋尚平・高橋陽二・内木栄利子（2018）『知識の基盤になるファイナンス』中央経済社。 柳瀬典由・右坂元一・山崎尚志（2018）『リスクマネジメント』中央経済社。			その他・特記事項	受講生の理解度や進捗状況に応じて授業計画を変更する。		

授業科目		原価計算入門					
担当教員		衣川 修平		必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次		2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生		グローバル専攻	関連資格		備考		
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>世の中にはものを販売する小売業もあれば、ものを製造する製造業があります。本講義では、主に製造業において原価を計算し、それを内部管理に使用する会計手法である工業簿記を学びます。</p> <p>原価には製造原価、販売費、一般管理費などがあり、製造原価はさらに材料費、労務費、経費に分類される。これらの費用をどのように計算すれば、適切に企業の生産活動をコントロールできるのかを学ぶのが工業簿記です。</p> <p>本講義では実際に電卓を叩いて、叩いて、叩きまくり、問題演習を豊富に解いていきます。</p>				<p>主に製造業においてマネジメントに不可欠なツールとして工業簿記があります。本講義では工業簿記の基礎を学ぶことによって、会計数値の観点から、製造活動をコントロールし、マネジメントする方法の基礎を学びます。</p>			
教授方法		講義。随時、電卓を使った問題演習、ディスカッションなどを入れます。					
履修条件		初等簿記の知識があり、基礎的な仕訳ができること。アカウンティング入門の単位を取得していることが望ましい。					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	イントロダクション&工業簿記とは何か：工業簿記と原価計算						
第2回	工業簿記の基本：原価とはなにか						
第3回	工業簿記の基本：原価計算の流れ						
第4回	材料費：材料費の購入と消費						
第5回	材料費：棚卸資産、予定消費						
第6回	労務費						
第7回	経費						
第8回	製造間接費						
第9回	部門計算：集計						
第10回	部門計算：配賦						
第11回	個別原価計算：個別原価計算の基礎						
第12回	総合原価計算						
第13回	標準原価計算						
第14回	直接原価計算&まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	80	定期試験では点数で評価したうえで、講義全体の理解度を勘案して修正する。			小テスト	20	講義内容を修得したかどうか、3回に一度ほど、小テストを行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
問題集を指示するので、それを解いてください。				講義中にオフィスタイムを指示します。またメールでの質問を随時受け付けます。			
教科書・テキスト	自作プリとを配布する予定です。			受講生に望むこと	会計は努力が報われる科目です。また社会に出てから役に立つ科目です。電卓と一緒に叩いて頑張りましょう。		
参考書・参考資料等	岡本 清（編集）、廣本敬郎（編集）『検定簿記ワークブック/2級工業簿記』中央経済社			その他・特記事項	Email: kinugawa.shuhei u-nagano.ac.jp		

授業科目		アカウントニング入門					
担当教員	中村 文彦			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>アカウントニング（会計）は、企業のビジネス活動を資金の面からとらえて、これを記録し、その順末を利害関係者（ステークホルダー）に会計情報として報告する一連のプロセスを対象とする。会計情報がどのように作成され報告されるかによってその後の企業行動や利害関係者の行動が影響を受け、その結果、マクロ経済上のパラメータも動かされるため、アカウントニングのスキルを身につけることは重要である。本講義では、アカウントニングを支える複式簿記という技術の基礎を学び、様々なアカウントニング領域の学習の準備を行う。</p>				<p>複式簿記の基礎的技法を身につけることが、本講義の基本目標である。この目標の達成には、会計処理という技術だけではなく、その背後にある基本的な会計思考を合わせて理解する必要がある。</p>			
教授方法	講義と問題演習を織り交ぜながら授業を進める予定である。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	簿記学習の出発点 【学習事項】複式簿記の必要性、簿記一巡のプロセス、簿記普及の背景、簿記の種類、簿記の学び方						
2	5要素と2つの財務諸表 【学習事項】5要素の重要性、資産・負債・純資産と純資産等式、貸借対照表、問題演習						
3	5要素と2つの財務諸表 【学習事項】費用・収益と当期純損益、損益計算書、問題演習						
4	「勘定」という計算単位 【学習事項】複式簿記の記録対象、取引の概念、「勘定」という計算単位、勘定記入のルール、問題演習						
5	仕訳と仕訳帳 【学習事項】仕訳の手順と役割、主要簿としての仕訳帳、仕訳帳の記入法、問題演習						
6	転記と総勘定元帳 【学習事項】転記の手順、総勘定元帳の記入法、問題演習						
7	現金・預金取引 【学習事項】現金勘定の利用と勘定記入、現金出納帳、当座預金勘定、その他の預金、問題演習						
8	商品売買取引 【学習事項】商品売買取引、分記法による取得と販売の会計処理、返品と値引きの記帳、問題演習						
9	債権債務（売掛金・買掛金と貸付金・借入金） 【学習事項】売掛金勘定の記帳、買掛金勘定の記帳、貸付金勘定の記帳、借入金勘定、問題演習						
10	授業内容：固定資産の取引 【学習事項】固定資産の分類、有形固定資産の取得と売却、問題演習						
11	純資産（資本） 【学習事項】資本金勘定の記帳、資本の引出しの処理、問題演習						
12	費用・収益 【学習事項】様々な費用と収益、費用と収益の会計処理、問題演習						
13	試算表と精算表 【学習事項】会計情報のニーズ、試算表の種類と作成の目的、試算表の種類、試算表の作成手順、						
14	試算表と精算表 【学習事項】精算表、精算表の種類、精算表の作成と当期純損益算定のメカニズム、問題演習						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	40	前回学習した内容について定着度合いを評価する。		期末テスト	60	講義全体の学習内容について試験を行い、理解度・習熟度等を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストを一読してから授業に出席し、学習したことはその日のうちにすぐ復習し身に付けるよう心がけること。また、企業が公表する各種情報にも日常から関心を持つこと。				授業前後において対応する。			
教科書・テキスト	中村文彦『簿記の思考と技法』森山書店。			受講生に望むこと	主体的に学習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中にプリントを配布する予定である。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		地方財政論					
担当教員	中村 稔彦			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>講義では単に知識を修得するにとどまらず、講義の中で学生自身が「望ましい地方政府と地方財政の姿」を考えられるようにしたい。いきなり地方財政について理解することは困難であるため、当初は基礎となる財政学の理論や制度、そして中央政府（国）の財政状況等も概観する。毎回、理論や制度の説明を行うだけでなく、実態や問題点、改革案を明示したり、学生に意見を求めることにも力点を置くようにする。実態や問題点をより明確にするために、多数の最新の財政統計資料（図表）も配付する。また理解力、思考力を高めるために、毎回授業の最後には、受講生に講義内容の要約や感想、課題の解答等をコメントシートにまとめさせる時間を設ける。</p>				<p>地方公共財の供給や教育・医療・社会保障等の提供とこれらにかかる費用を賄うための税金の徴収等、地方公共団体（都道府県市区町村）等の経済活動は私たちの生活に密接に関わっているが、これら経済活動の方向性と程度は最終的には政治によって決定される。私たちの生活に大きな影響を与えるだけに、これらをどの方向に向けるべきか、また、どの程度実施すべきかについては、常に私たち住民は意見を持ち、そして、監視しなければならない。時には、アクション（投票）等を起こす必要もあるだろう。意見を持ち、監視するためには、当然知識が必要であり、ここに「地方財政論」を学ぶ必要性が出てくるのである。「地方財政論」の講義の到達目標は、受講生が地方財政の理論や制度、歴史、政策等を包括的に理解することだけでなく、それらをもとに現在直面しているわが国の地方財政上の様々な課題を自己評価する力を身につけることである。</p>			
教授方法	<p>講義はテキストの他、配付する多数のレジュメ、最新の財政統計資料（図表）等を使用して行う。一方的な話す講義にはせず、講義の随所で受講生に質問して回答を求めるようにする。受講生は講義に集中し、かつ思考しなければならず、気を抜いている暇などないであろう。更に理解力、思考力、表現力を向上させるために、毎回講義の最後10分程度は、当日の講義の重要な部分のおさらいと与えた課題に対する回答等の記入（コメントシートとして提出）に充てるようにする。</p>						
履修条件	特になし。ただし、5回以上欠席した者は評価の対象外とする。						
授業計画							
実施回	授業内容						
第1回	ガイダンス/財政学と地方財政論（『財政学』第1章の2、3及び『地方財政論』第1章の2、3、4） シラバスの記載事項についての確認した上で、財政とは地方財政とは何か、なぜ中央政府、地方政府は必要なのかを考える。						
第2回	予算の意義と循環（『財政学』第4章の1、2、3、4及び『地方財政論』第2章の1） 予算の意義や原則、循環等を中央政府と地方政府に分けて学んだ上で、予算制度の問題点を考える。						
第3回	経費構造と地方財政計画の意義（『財政学』第2章の2及び『地方財政論』第2章の2、3、4、5） 中央政府と地方政府の経費構造と地方財政計画の意義を学んだ上で、経費がなぜ膨張するのかを考える。						
第4回	地方政府の現代的機能（『財政学』第2章の3、4及び『地方財政論』第3章の1、2、3、4） 公共財の定義や供給状況を学んだ上で、フリーライダー、足による投票、所得再分配について考える。						
第5回	教育と機会均等（『地方財政論』第4章の1、2、3、4） 義務教育をめぐり国と地方の役割分担について学んだ上で、教育への政府の関与が正当化される理由等について考える。						
第6回	医療・介護とリスク分散（『地方財政論』第5章の1、2、3、4） 国民健康保険「国保」制度と介護保険制度について学んだ上で、医療サービスや介護サービスの問題点を考える。						
第7回	福祉と所得再分配（『地方財政論』第6章の1、2、3、4） 生活保護や児童扶養手当等の現金給付について学んだ上で、地方政府がなぜ現金給付に関与しているのか等について考える。						
第8回	租税の理論（『財政学』第5章1、2、3、4） 租税の根拠や構造について学んだ上で、望ましい税制について考える。						
第9回	個人所得税（『財政学』第6章の1、2、3、4） 所得税の理念や算定方法を学び、実際に所得税額を計算する。						
第10回	地方税の体系（『地方財政論』第7章の1、2、3、4） 地方税の体系や代表的な税目の課税要件等を学んだ上で、地方政府は支出増加を地方税の課税自主権の行使で調整すべきかについて考える。						
第11回	特定補助金の理論と応用（『地方財政論』第9章の1、2、3、4） 地方政府へ交付される使途が特定された補助金の理論等について学んだ上で、特定補助金の整理・縮小を図ろうとする改革論について考える。						
第12回	地方財政調整制度（『地方財政論』第10章の1、2、3、4） 地方政府へ交付される使途の特定のない一般補助金の理論等について学んだ上で、地方交付税制度をめぐる政策的な諸問題について考える。						
第13回	財政赤字と公債論（『財政学』第11章1、2、3及び『地方財政論』第11章の1、2、3、4） 財政赤字の状況を確認した上で、公債の発行の必要性和負担について考える。						
第14回	地方財政と分権改革（第13章の1、2、3、4） 地方分権改革の動きについて学んだ上で、残された改革課題と改革をとりまく外部環境や内在的要因について考える。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	40	教科書、参考書、資料等すべて持込不可。問題は選択式が50%、記述式が50%。理解度、表現力等を評価する。			コメントシート	42	毎回の講義内容の感想や課題の解答等を記入（各回0～3点×14回）する。理解度、問題意識、表現力等を評価する。
レポート	18	授業で興味を持った内容について、問題点と改善案を述べる。問題意識、情報の収集力・正確さ、表現力等を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>授業前に各回の該当の章・節を読み、理解できない用語や内容について、自分なりに調べておくこと。 授業後は、講義で説明した重要な部分の見直しと講義の中で紹介した参考書や新聞、ホームページ等を調べる。これにより、幅広い経済・財政の一般常識を身につけることができるだろう。</p>				<p>授業後の対応の他、研究室やメールでも対応する。</p>			
教科書・テキスト	持田信樹『地方財政論』（東京大学出版会、2013年）3,080円（税込）。			受講生に望むこと	理想の地方政府、地方財政とはどのようなものか、講義を受けながら、常に考えてほしい。		
参考書・参考資料等	<p>持田信樹『財政学』（東京大学出版会、2009年）3,080円（税込）。 総務省編『平成31年版 地方財政白書』（日経印刷、2019年）3,429円（税込）。 小宮敦史著『図説 日本の財政 令和元年度版』（財経詳報社、2020年）2,860円（税込）。 吉沢浩二郎編著『図説 日本の税制、平成30年度版』（財経詳報社、2018年）2,310円（税込）。</p>			その他・特記事項	特になし。		



---

持田信樹『財政学』(東京大学出版会、2009年)3,080円(税込)。  
総務省編『平成31年版 地方財政白書』(日経印刷、2019年)  
3,429円(税込)。  
小宮敦史著『図説 日本の財政 令和元年度版』(財経詳報社、  
2020年)2,860円(税込)。

授業科目		行政学					
担当教員	三浦 正士			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
この科目では、行政学の基本的な考え方を学び、行政が果たすべき役割と機能について考察する。具体的には、教科書や参考書を基に講義を行い、行政システム、官僚制、行政組織、公務員制度、政策過程に関する基礎的な理論を習得するとともに、具体的な事例を取り上げることで、理論を現実の問題に応用する力を養う。さらには、政治と行政（政官関係）、国と地方（中央地方関係）、行政と民間（官民関係）、行政と住民（行政統制）など、行政を取り巻く多様なアクターとの関係について考察し、行政を様々な角度から理解するための視点を養うことのできる講義とする。				ねらい 今日の社会においては、政府の役割が多様化・複雑化を見せており、政府の担う行政機能が人々の生活に大きな影響を与えている。本授業では、行政学に関する基本的な知識を習得するとともに、行政が果たすべき役割と機能について理解を深めることを目的とする。さらに、政府をめぐる近年の動向や行政と企業、NPO、住民といった多様なアクターの関わりを具体例を交えて学ぶことで、これからの行政のあり方について多面的に考えることのできる力を養うことをめざす。 到達目標 行政の基本的な仕組みと今後の課題を説明することができる。 行政のあり方について、主体的に調べる態度を持ち、自らの意見を示すことができる。			
教授方法	講義形式で行う。具体的には、穴埋め式のレジュメと具体的な事例を交えたパワーポイントを用いて、講義の要点を理解することのできる授業とする。						
履修条件	「地方自治論」を併せて受講することが望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	行政学の射程：講義内容の説明、受講に当たっての注意を行うとともに、「行政」とは何かについて考察し、行政学を学ぶ意義を共有する。						
2	行政機能の肥大化と福祉国家：欧米や日本における国家と政府の歴史をたどり、政府や行政の役割がどのように変化してきたかについて解説する。						
3	官僚制をめぐる諸論点：官僚制をめぐる多様な研究の概要を解説するとともに、官僚制批判の含意と今後の課題について検討する。						
4	行政組織論と行政管理論：経営学の知見も踏まえつつ、行政機構の内部の仕組みとそのメカニズムを解説し、組織や管理を考える視点を学ぶ。						
5	行政組織論と行政管理論：経営学の知見も踏まえつつ、行政機構の内部の仕組みとそのメカニズムを解説し、組織や管理を考える視点を学ぶ。						
6	政府体系と中央地方関係：欧米や日本における多様な政府体系を解説するとともに、中央政府と地方政府（自治体）の関係に関する諸理論について検討する。						
7	執政制度と政官関係：議院内閣制と大統領制の違いを解説するとともに、内閣と与党の関係、内閣と省庁の関係に注目して日本の政官関係の特徴を説明する。						
8	内閣制度と省庁制：日本の中央政府の組織編成、中央省庁改革による変化について解説するとともに、日本の行政機構の特徴について検討する。						
9	公務員制度と人事行政：行政組織を支える公務員制度の諸原理と人事行政の運用について、具体的な事例にも触れながら説明する。						
10	行政官僚制の政策過程：政府が政策を立案、決定、実施、評価する一連のプロセスを解説するとともに、政策過程における政治と行政の役割を検討する。						
11	法律の制定過程と予算の策定過程：政策過程における諸理論を踏まえて、日本における法律の制定・予算の策定過程の実際を検討する。						
12	行政改革と公民関係：日本における行政改革の展開と近年における行政改革の主要なテーマを取り上げ、その意味と今後の課題について検討する。						
13	行政統制と行政責任：住民が行政を統制するための諸制度（情報公開、行政不服審査等）について解説するとともに、現代国家における行政責任とは何かを考察する。						
14	まとめ：これまでの講義内容について振り返るとともに、行政の果たすべき役割と機能、その課題について理解を深めたか確認を行う。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	学期末に実施する。講義内容を踏まえ、行政学に関する知識の理解度、論理性を評価する。		リアクションペーパー	30	各回の終了時に提出を課す。授業に対する積極性、問題を発見する力を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習 日本の政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを通じて情報を収集し、関心を高める。 事後学習 教科書、参考書の関連する章を読み、講義内容について理解を深める。				・質問は、授業中に口頭で受け付けるほか、リアクションペーパーで受け付ける。毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントを行う。 ・上記のほか、質問や相談は随時メール等で受け付ける。			
教科書・テキスト	伊藤正次ほか『はじめての行政学』（有斐閣ストウディア、2016年）			受講生に望むこと	授業中に重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、積極的に教員に質問すること。		
参考書・参考資料等	牛山久仁彦、外山公美編著『国家と社会の政治・行政学』（芦書房、2013年） 西尾勝『行政学[新版]』（有斐閣、2001年）			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		社会調査論					
担当教員	築山 秀夫			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
基本的に講義形式で行い、学生による能動的学修も組み込む。社会調査についての基本的な理解の習得、社会調査報告書を読むリテラシーを身に付けることを目標とする。社会調査の意義、社会調査の歴史、社会調査における倫理、調査の種類と具体例、量的調査と質的調査の相違と特徴、調査目的に応じた調査方法の選択、調査の企画・設計、標本抽出と誤差、調査票の作成法（ワーディング）、質的調査法、フィールドワークの仕方など、データ収集から分析するまでの具体的な方法についても解説する。				ねらい 社会調査に関する基本的な知識を理解し、社会調査及び報告書を読むリテラシーを身に付けることねらいとする。 到達目標 社会調査の歴史を理解する。 社会調査と社会理論の関係を理解する。 社会調査における倫理について理解する。 調査目的に応じた調査方法の選択を理解する。 社会調査の企画と設計ができる。 標本抽出と抽出誤差について理解できる。 調査票の作成ができる。 カイ二乗検定他、二変数の相関をとらえることができる。 質的調査の基本を理解する。 信頼に足る調査を見分けることができる。			
教授方法	基本的には、講義形式で実施する。授業は講義を中心に行うが、幾つかのテーマについて、グループに分かれて議論し、発表するなど、アクティブ・ラーニングを取り入れる。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をする。社会調査を巡る現状について、解説する。						
2	社会調査の意義と目的 社会調査の理論に対する意義、観察と理論の関係について解説する。						
3	社会調査の歴史 大衆を捉える手段として始まった社会調査の歴史について、解説する。						
4	社会調査の倫理 社会調査と権力、社会調査と人権について、日本社会学会倫理綱領に基づきながら、解説する。 グループワーク 社会調査と権力について、グループに分かれて議論する。						
5	社会調査の企画と設計 調査目的の明確化、社会調査全体の企画と設計について、解説する。 第1～第4回までの内容について、理解度を確認するために、小テストを実施する。						
6	社会調査の種類 調査目的に応じた社会調査の種類と方法について、量的調査、質的調査について解説する。標本抽出の理論と方法 量的調査におけるサンプリングの歴史、種類や意義について解説する。						
7	調査票の作成 仮説から調査票を作成する方法について解説する。 グループワーク KJ法を用いて、仮説を立て、ワーディングを検討する。						
8	調査票の作成 ワーディングの方法について解説する。 グループワーク ワーディングによって、いかに回答が左右されるのかについての実験を行う。						
9	調査の作業 調査実施計画書、調査参加依頼書等の作成と調査のシミュレーションについて解説する。						
10	単純集計と主な統計量 データの分布を示す主な統計量、平均値、標準偏差などについて解説する。 第5～9回までの内容について、理解度を確認するために、小テストを実施する。						
11	2変数間の関連 2つの項目の間の関連性をとらえるために、クロス集計とカイ二乗検定について解説する。 幾つかの事例を用いて、カイ二乗検定を行う。						
12	質的調査、参与観察法 参与観察法の事例として、マリノフスキー、ホワイトなどによる調査を解説する。						
13	フィールドワーク、聞き取り調査 聞き取り調査の具体的な手法、ラポール関係の構築などについて解説する。						
14	まとめ 社会調査のリテラシーについて、受講者間で再度確認する。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	選択・記述式とし、社会調査の基礎的知識を理解し、社会調査報告書を読み解くリテラシーが身に付き、統計的検定の問題を手計算で解ければ、Aとする。			小テスト	20	第5回と第10回に小テストを実施し、理解度に応じて評価する。
平常点	20	授業参加度、リアクションペーパー等を参考にして、平常点を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業で配布したレジュメ、資料を繰り返し読み、理解を深めてほしい。				リアクションペーパーに質問を書いて頂き、次回に回答する。メールで質問に回答する。			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	社会調査に関心を示し、メディアに溢れる社会調査を、自分なりに読み解いて、調査のリテラシーを身につけてほしい。		
参考書・参考資料等	大谷信介・後藤範章・小松洋・木下栄二2013『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 佐藤郁哉2015『社会調査の考え方 上・下』東京大学出版会			その他・特記事項	自ら考え、学び、積極的に授業に参加してほしい。		

授業科目		リーダーシップ論					
担当教員		宮下 清		必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>授業では、リーダーとリーダーシップの意味、リーダーシップ研究、リーダーシップのスタイル、経営環境とリーダーシップ、メンバーとフォロワー、現在と今後のリーダーシップのあり方などのリーダーシップの論点を取り上げる。授業は講義に加えて、課題や事例についてのグループ討議、発表など主体的かつ双方向的が学びを進める。担当教員は企業での人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有し、リーダーシップの発揮などの説明や事例で実務経験を活かしていきたい。</p>				<p>リーダーシップとは「組織の目的や目標の達成に向けて、個人および集団を働かせるための影響力」を意味する。マネジメント分野で関心が高く、重要なリーダーシップについて、その働きや理論を学び、リーダー、マネジャー、フォロワーやメンバーについて理解することを目標とする。またリーダーシップを実践的に理解し、組織の問題や課題に対応する力も高めたい。</p>			
教授方法	講義に演習的な授業形態を加え、課題・事例研究、グループ討議、発表・質疑等により双方向の授業とする。読書や講義で知識・概念を、共同学習やグループ討議から多様で実践的な理解が得られるようにしたい。						
履修条件	経営学入門、組織論、組織行動論を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	第1回：ガイダンス：リーダーシップ論の概要、リーダーシップ論を学ぶことの意義						
2	第2回：マネジメントについて：組織とは、組織の共通目的、貢献意欲、コミュニケーション						
3	第3回：マネジャーの人間観：合理的経済人モデル、社会人モデル、自己実現モデル、複雑人モデル						
4	第4回：リーダーシップの基本：リーダーとは、リーダーシップの定義、サーバントリーダーシップ						
5	第5回：リーダーシップの持論：演習：持論としてのリーダーシップを探る						
6	第6回：リーダーシップ論の展開(1)：リーダーシップの資質、リーダーシップの行動特性、リーダーシップと状況						
7	第7回：リーダーシップ論の展開(2)：カリスマ的リーダーシップ、変革型リーダーシップ						
8	第8回：フォロワーからのリーダーシップ：リーダーとフォロワーの信頼関係、フォロワーのリーダーシップ、リーダーシップの幻想						
9	第9回：フォロワーシップとは何か(1)：フォロワーのルーツ、フォロワーシップの定義、ボス・マネジメント						
10	第10回：フォロワーシップとは何か(2)：模範的フォロワー、勇敢なフォロワー、頼れるフォロワー、フォロワーシップの定性的研究						
11	第11回：リーダーシップを高める：演習：自分のリーダーシップをどう高めるか						
12	第12回：マネジャーに求められるもの(1)：ゼネラル・マネジャーの行動、マネジャーの仕事						
13	第13回：マネジャーに求められるもの(2)：マネジャーの実像、マネジャーの3つの課題						
14	第14回：総合事例：課題と事例の考察（リーダーシップ）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	40	授業内容の理解度の全体的な評価		課題レポート	30	授業中や授業外に課される提出物・レポートの評価	
上記以外の評価	30	授業への積極的な参加（発言、質疑、発表、討議）による評価					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストや課題の資料を理解し、課題を考え作成（提出）する「事前学習」および、講義や討議で学んだ内容を整理し、学習を定着させる「事後学習」が求められる。				オフィスアワー、授業前後、メールでアボ後の面談により対応			
教科書・テキスト	小野善生『リーダーシップ徹底講座』中央経済社、2018年。			受講生に望むこと	リーダーシップについて学び、考え、実践してみようという意欲的なスタンスが大切になる。		
参考書・参考資料等	『リーダーシップの名著を読む（日経文庫）』日本経済新聞社、2015。 『リーダーシップの教科書』HBRリーダーシップ論文ベスト10、ダイヤモンド社、2018。			その他・特記事項	自分の体験や記事からリーダーシップに関する知見や情報がリーダーシップの理解に役立つものとなる。担当教員は企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有している。		

授業科目		経営戦略論						
担当教員		首藤 聡一郎			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期		授業形態	講義		科目ナンバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格			備考			
授業の概要					授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>企業の経営戦略について講義する。特に詳細に取り扱うのは、企業のポジショニングや関係性を重視する経営戦略論と、企業内部の経営資源の蓄積と活用や人々の学習を重視する経営戦略論である。加えて、ゲーム理論の要素を組み込んだものなども取り扱う。講義の中で議論を行うことで、理論に対する理解を深めると同時に考える力を養ってもらおう。また、グループワークを通じて、理論を用いて現実を理解し分析する力を養成する。</p>					<p>1) 現実の企業の経営戦略について知る。2) 経営戦略論を概観する。3) 理論を用いて現実の企業行動を分析できるようになる。</p>			
教授方法	講義、グループワーク							
履修条件	特になし							
授 業 計 画								
実施回	授業内容							
1	ガイダンス							
2	コスト・リーダーシップ戦略							
3	差別化・集中化							
4	ビジネス・システム							
5	経営資源の蓄積と活用							
6	イノベーション							
7	多角化と企業ドメイン							
8	範囲の経済							
9	PPM（プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント）							
10	ファイブ・フォース・モデル							
11	協調と競争（1）							
12	協調と競争（2）							
13	国際化							
14	まとめ：特に、戦略と組織との関係について							
共通の評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
期末テスト	30	点数			授業時のワークシート	30	提出頻度、内容等	
授業への参加	40	グループワークへの貢献、発言など						
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応			
事前学習：提示される文書・映像等を通じた学習					授業時に受け付ける。それ以外の時間に関してはメールでアポイントメントをとること。			
教科書・テキスト	特になし。				受講生に望むこと	グループワークなどの授業への参加が大きなウエイトを占める授業です。積極的な参加を期待しています。		
参考書・参考資料等	授業時に適宜紹介。				その他・特記事項	特になし。		

授業科目	公共哲学						
担当教員	馬場 智一			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
公共性についての現代の思想や論争を辿り、現代社会が抱える公共性の問題を考えるための手掛かりを学んでゆく。次に、経済、政治、社会保障、科学技術、災害など、具体的な領域において、公共哲学が考えるべき問題を検討する。				ねらい 古代から現代にいたる公共哲学の代表的な学説を学び、現代社会が抱える公共性の諸問題を、哲学的に考えることができるようになること 到達目標 公共哲学における著名な学説について基本的な説明ができる。 公共哲学における学説を、現代世界に適用し、吟味検討できる。 現代社会の公共性がいかにあるべきか、自ら吟味検討できる。 現代社会の公共性がいかにあるべきか、他者との対話を通じて吟味検討できる。			
教授方法	講義形式の授業を行う。適宜ディスカッションを行う。						
履修条件	特にないが、哲学ないし倫理学をすでに履修していることが望ましい。出張による休講のため補講措置を取る予定である。学年暦で補講日に設定されている土曜日はあらかじめ予定を開けておくこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業の進め方、授業スケジュール、授業で学ぶこと、テストについて、評価について、公共哲学とは何か						
2	公共哲学としての功利主義						
3	公共哲学としてのリベラリズム						
4	リベラリズム批判の公共哲学 1 ノージックの権原理論						
5	リベラリズム批判の公共哲学 2 マッキンタイアの徳倫理学、レポートの書き方						
6	アーレントの公共哲学						
7	ハーバーマスの公共哲学						
8	デモクラシーと公共性						
9	経済学と公共性						
10	危機と公共哲学 1 巨大災害						
12	危機と公共哲学 2 社会保障						
12	公共的問題としての科学技術						
13	レポート提出、国際社会における公共性						
14	レポート返却、レポート内容の発表						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
平常点	15	受講態度、提出物、ディスカッションへの参加を総合的に評価する。			小テスト	40	小テストを行い、理解度に応じて評価する。
授業レポート	45	授業の達成目標への到達度により評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
教科書の指定された範囲を、事前に読んでおくこと。 学習内容について次の回で小テストを行うので、復習をすること。 授業で学んだ内容を基にレポートを作成すること。				・他の受講生の参考になるので、質問は、できるだけ授業中に行う。 授業の前後にも受け付ける。できるかぎり回答は授業中に行う。			
教科書・テキスト	山岡龍一・斎藤純一『公共哲学 改訂版』放送大学教育振興会 NHK出版、2017年 ISBN 9784595140877			受講生に望むこと	普段から時事問題に関心をもち、公共哲学と関連する問題にアンテナを張っておくこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜示す			その他・特記事項	特になし		

授業科目		地方自治論					
担当教員	三浦 正士			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
この科目では、地方自治の基本的な仕組みを学び、今後の課題を考察する。序盤の授業（第1回～第6回）では、地方自治に関する歴史と理論、地方分権改革の動向等について検討を行う。中盤の授業（第7回～第10回）では、地域政治のシステムや住民自治のあり方について検討を行う。終盤の授業（第11回～第14回）では、自治体の政策過程を解説するとともに、まちづくり、地域福祉、防災・危機管理といった具体的な政策課題を取り上げ、行政と企業、NPO、地域住民の協働のあり方について自治体の実践を交えつつ実証的な検討を行う。以上により、地方自治の基本的な仕組みに関する知識の習得のみならず、地方自治の現実の姿を多面的な視点から理解することのできる講義とする。				ねらい 地方分権改革によって、地域における政治や行政は大きな変革期を迎えている。そこで、この科目では、地方分権改革がもたらされた背景と制度の変化について概観することで、地方自治の基本的な仕組みと今後の課題を理解することを目的とする。さらに、地方自治をめぐる具体的な政策課題を取り上げ、そこにおける協働の実践について学ぶことで、受講者が地域のアクターとしてこれからの地方自治のあり方や多様化・複雑化する地域課題について考える力を身につけることをめざす。 到達目標 地方自治の基本的な仕組みと今後の課題を説明することができる。 多様化・複雑化する地域の公共的課題について、主体的に調べる態度を持ち、自らの意見を示すことができる。			
教授方法	講義形式で行う。具体的には、穴埋め式のレジュメと具体的な事例を交えたパワーポイントを用いて、講義の要点を理解することのできる授業とする。また、リアクションペーパーを用いて、双方向的なコミュニケーションを図る。						
履修条件	「行政学」を事前に履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	「自治」とは何か？：講義内容の説明、受講に当たっての注意を行うとともに、「自治」とはいかなる概念かを解説し、地方自治論を学ぶ意義を共有する。						
2	戦前の地方自治の歴史：日本における戦前の地方自治の歴史をたどり、現在の地方自治制度の源流となった戦前の諸制度の問題点を考察する。						
3	戦後の地方自治の歴史：日本における戦後の地方自治の歴史をたどり、自治体が直面してきた政策課題と地方自治制度の改革課題を考察する。						
4	地方政府の種類と機能：都道府県と市町村、特別地方公共団体といった地方自治の基本的な制度設計を解説するとともに、大都市制度についても触れる。						
5	地方分権改革の意義と到達点：地方分権一括法とその後の地方分権改革の動向を解説し、分権時代における自治体の役割の重要性について理解を深める。						
6	市町村合併と広域行政：自治の区域の変更をもたらす合併の歴史的展開とその功罪を考察するとともに、区域変更を伴わない自治体間の連携の手法である広域行政について解説する。						
7	二元的代表制と自治体議会の改革課題：自治体における首長と議会の関係を説明するとともに、近年の議会改革の動きを念頭に、自治体議会の改革課題を考察する。						
8	議員のなり手不足と地域政治：人口減少に伴い深刻化する「議員のなり手不足問題」を取り上げ、今日の地域政治が抱えている課題とその対応策について考察する。						
9	住民参加と協働：地方自治における住民参加・協働の重要性について解説するとともに、情報公開や住民投票といったトピックスについても触れる。						
10	地域コミュニティと自治体内分権：住民自治の基盤である地域コミュニティと自治体行政の関係について解説するとともに、近年進められている自治体内分権の意義を展望する。						
11	自治体の政策過程：総合計画や予算編成といった自治体の政策過程について解説し、PDCAサイクルを作動させるうえでの課題について考察する。						
12	地方自治とまちづくり：自治体が直面する政策課題のひとつとして「まちづくり」を取り上げ、地方分権や住民参加・協働の現状について考察を深める。						
13	地方自治と地域福祉：自治体が直面する政策課題のひとつとして「地域福祉」を取り上げ、地方分権や住民参加・協働の現状について考察を深める。						
14	地方自治と防災・危機管理：自治体が直面する政策課題のひとつとして「危機管理」を取り上げ、地方分権や住民参加・協働の現状について考察を深める。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	学期末に実施する。講義内容を踏まえ、地方自治に関する知識の理解度、論理性を評価する。		リアクションペーパー	30	各回の終了時に提出を課す。授業に対する積極性、問題を発見する力を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習 自治体の政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを通じて情報を収集し、関心を高める。 事後学習 教科書、参考書の関連する章を読み、講義内容について理解を深める。				・質問は、授業中に口頭で受け付けるほか、リアクションペーパーで受け付ける。毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントを行う。 ・上記のほか、質問や相談は随時メール等で受け付ける。			
教科書・テキスト	今川晃、牛山久仁彦編『分権・自治と地域行政』（芦書房、2020年）			受講生に望むこと	授業中に重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、積極的に教員に質問すること。		
参考書・参考資料等	磯崎初仁、金井利之、伊藤正次『ホーンブック地方自治 [第3版]』（北樹出版、2014年） 新藤宗幸・阿部篤『概説 日本の地方自治』（東京大学出版会、2006年）			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	民法概論						
担当教員	後藤 泰一			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
この授業では、先ず"法学の基礎"を固めた上で、次に所有権(物権)・契約・不法行為(財産法と称する分野)を一通り学び"民法の基礎"を固める。契約が有効に成立するには、一人前の取引能力を有すること、真意が相手に正しく伝わっていること、契約内容が適法性・社会的妥当性を有することが要求されるが、これを代理や時効とともに学ぶ。そして、その契約を通して不動産や動産の所有権を他人に移転しつうが、その所有権の有する支配権という強力な権能から生ずる様々な問題のほか、交通事故・公害・欠陥商品など身近に起きる不法行為と損害賠償に関する問題も学ぶ。				民法の基礎的な概念及び用語を習得する。 条文を正確に読み解く力を養う。 身近に生ずる問題解決のための法的思考と法的素養を身につける。			
教授方法	基本的には講義形式であるが、随時「質疑応答」もありうる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	民法を学ぶ前に(その1):法と社会規範、道徳との関係、法はどこにあるか、法の目的						
2	民法を学ぶ前に(その2):法律関係、権利と義務、権利の分類、権利の実現ほか						
3	民法とは何か、民法典について、財産法の3原則、条文(六法)の読み方						
4	民法上の権利の主体、契約を有効に成立させるには? 権利能力と意思能力						
5	制限行為能力、未成年者・成年被後見人・被保佐人ほか、死亡と失踪宣告						
6	法人のあらまし、代理制度・表見代理と無権代理						
7	無効・取消し・解除、錯誤・虚偽表示・心裡留保						
8	物権的請求権、占有権、所有権の取得時効(合わせて債権の消滅時効も)						
9	不動産売買と登記(對抗問題と背信的悪意者排除論)、動産売買と即時取得						
10	所有権の制限、利用による場合(地上権・賃借権)、担保による場合(抵当権・譲渡担保)						
11	相隣関係、建物区分所有、共有(遺産の共有とは?)						
12	不法行為と損害賠償、過失責任・無過失責任・中間責任、不法行為が成立するには?						
13	人格権の侵害、交通事故、公害(四大公害訴訟)ほか						
14	欠陥商品と消費者保護、共同不法行為、全体のまとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	100						
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
新聞やテレビ等で報道される"法的問題ないし民法上の問題"を自分で考えてみる。 参考書として紹介する書物を利用・活用し、民法を幅広く学習するよう努める。				質問・相談等は授業後に受け付ける。			
教科書・テキスト	特になし(授業では配布資料を使用する)。ただし、六法は必携とする(例えば、『ポケット六法』(有斐閣)・『デイリー六法』(三省堂)のほか、判例付きの『判例六法』(有斐閣)でもよい)。			受講生に望むこと	授業中の携帯電話・スマートフォン等は使用厳禁。 法律の授業なので六法を忘れないように。		
参考書・参考資料等	授業中に随時紹介する。			その他・特記事項	私たちは(嫌だと言っても)法の中で暮らしているという現実をいつも意識・自覚しておいて欲しい。		



授業科目		キュレーター概論					
担当教員	秋葉 芳江			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>キュレーターは、無数の情報の海の中から自分の価値観や世界観に基づいて情報を拾い出し、新たな価値や意味を付与し多くの人々とそれらを共有する人材である。</p> <p>本講義では、他者基準ではなく、自らの基準で、自らの力で価値を発見または創出する力を実践的に身につける。</p> <p>（隔週開講、2コマ連続）</p> <p>民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わり、現在もソーシャル・イノベーションを創出するCSI運営を担う経験をふまえ、実践的な講義を行う。</p>				<p>視点を变える、視野を広げる、異なる視座を持つことを理解し、キュレーターの主要なふるまいを実践的に身につけ、最終的に新しい価値創出を自ら行えるようにする。</p> <p>最終課題（最終提出物）では、講義で理解し、得たことを踏まえ、自分なりの新しい価値を提案する。</p> <p>新しい価値を生み出す力は、21世紀を生き抜く力として必須である。本講義を通じてそれを身につけて欲しい。</p>			
教授方法	<p>レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。また、毎回の履修生からのフィードバックを活用し、前回講義からのステップアップレクチャー&amp;ディスカッションを可能な限り行う。オンラインツールを多用しオンライン空間での学びを促進する。</p>						
履修条件	<p>特になし。ただし、アントレプレナーシップ論（GM必修）履修済を前提としている。三年次のソーシャルビジネスプランニング～の履修希望者は本講義の履修を強く推奨する。</p>						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。本講義で使用する言葉の説明。（9/30：3限）						
2	“価値”を発見、創出するとは。なぜ価値が重要なのか。新しい価値とは何なのか。ブルーオーシャン戦略も手がかりにする。（9/30：4限）						
3	“未来構想力”を理解する。現代と現在をデータに基づき理解したうえで、未来から“バックキャスト”する思考方法を理解する。（10/14：3限）						
4	未来と自分を結節する。自分自身をリソース化し未来構想と自分自身を結節するとはどういうことか。未来構想力を強化する。（10/14：4限）						
5	多様な事例から価値創出を理解する(1)。ケーススタディと討論で実践的に理解する。（10/28：3限）						
6	多様な事例から価値創出を理解する(2)。講義中に紹介する方法によって自ら新しい価値創出に挑戦する。（10/28：4限）						
7	中間まとめ。各自提出した中間まとめ課題を利用した価値創出を行う。（11/11：3限）						
8	“場と空間”が持つ力を理解する。様々なケースにおいて、もたらされる効用を理解する。効用ある空間の探索を実践する。（11/11：4限）						
9	“問う力”を理解する。異なる視点、視野、視座による相対化を理解する。物事を“俯瞰”することをワークも通じて実践的に理解する。（12/2：3限）						
10	“問いをたてる力”について理解する。あたり前を疑い現存する価値を“再定義”することを理解する。（12/2：4限）						
11	“感性”、“直感”の有用性を理解する。感性や直感の磨き方、“平常心”の持ち方を実践的に理解する。自身にとっての多様性についても理解する。（12/16：3限）						
12	最新の世界動向から価値創出を検討する。特にSDGsについて学ぶ。持続可能性、AI、100年人生、を手掛かりに、価値の生み出し方を理解する。（12/16：4限）						
13	新しい価値を生み“社会実装”することを理解する。自己更新フレームと規範をワークも通じて構築する。（1/13：3限）						
14	まとめ。=社会環境が変わろうとも生き抜くために=(1/13：4限)						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
最終提出物	30	講義内容を踏まえていること、提案する価値と講義内容とのつながりが明示されていること、および、自分なりの新しい価値提案を行っていること。（締切）		中間まとめ課題	20	提出時点までの講義内容を踏まえていること。自分の考えが記載されていること。	
講義時記録(様式は別途指)	50	講義に対する積極的な参加姿勢。各回講義内容の理解度。（各10%で5回）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前学習として次回講義に向けて講義中に指示する内容について予め思考、探索しておくこと。</p> <p>ClassNoteBook等を用い集合知による学びを実践する。積極的に活用されたい。</p> <p>CSI主催「公開講座」「経営者トークライブ」「コラボ公開講座」等への参加を推奨する(平日19-21時開催)。参加によってより理解が深まる。開催情報はCSI公式Facebookページ掲載。</p>				<p>メールは随時受け付ける。予約の上でのCSI(後町キャンパス)への来訪又はオンラインでの対応(CSI業務との調整で対応)。</p>			
教科書・テキスト	指定なし			受講生に望むこと	<p>講義には集中して臨んでもらいたい。</p> <p>講義では討論を多用する。積極的参加を臨む。</p> <p>講義中にオンラインで探索やフィードバックを求めため、オンラインデバイス(スマートフォン、タブレット、ノートPC)を各自講義に持参すること(困難な学生は事前に相談)。</p>		
参考書・参考資料等	<p>推奨書籍は以下。加えて講義の中で随時紹介する。</p> <p>大室悦賢著『サステナブル・カンパニー入門』学芸出版社、2016年</p> <p>W・チャン・キム、レネ・モボルニ他著『ブルー・オーシャン戦略』ダイヤモンド社、2015年</p> <p>リンダ・グラットン他著『LIFE SHIFT』東洋経済新報社、2016年</p>			その他・特記事項	<p>他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。</p>		

---

推奨書籍は以下。加えて講義の中で随時紹介する。  
大室悦賀著『サステイナブル・カンパニー入門』学芸出版社、  
2016年  
W・チャン・キム、レネ・モボルニユ他著『ブルー・オーシャン戦  
略』ダイヤモンド社、2015年

授業科目		組織行動論					
担当教員	宮下 清			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本科目では、組織の中で働く人間を理解し、人間の行動を理論的にとらえ、組織目的の達成に有効な知識や考え方を学ぶ。授業では、モチベーション、コミットメント、キャリア・マネジメント、チーム・マネジメント、リーダーシップ、組織学習、組織変革など組織と人間が関わる様々な論点を取り上げる。講義に加えて課題や事例についてのグループ討議や発表も取り入れ、出来るだけ受講生が主体的かつ双方向的に学べるものとする。担当教員は企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有し、職場のモチベーション、リーダーシップ、組織変革やキャリアマネジメントの説明や事例などでそれらを活かせる。</p>				<p>人は家族、学校、企業などの組織に所属し多くの人たちと関わり活動している。組織行動とは「組織における人間行動」のことであり、そうした人間行動を対象にしている。組織行動論を通して、企業など組織の人間行動を理解することが目標となる。さらに、組織の問題や課題への対応力を高め、組織活動や協働などへの活用をも目指したい。</p>			
教授方法	授業では講義による概念説明が主になるが、課題・事例などでグループ討議と発表・質疑などを取り入れたい。読書や講義で知識・概念を学び、課題や事例から実践的で理解を届けかつ深められるよう進める。						
履修条件	「経営学入門」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス・組織行動論とは：経営学と組織行動論、組織行動を学ぶ意義						
2	組織と人間の関わり：経営管理と組織、組織における人間観、個人と集団						
3	モチベーション(1)：モチベーションとは、欲求階層説（内容理論）、動機づけ理論						
4	モチベーション(2)：内発的動機づけ、期待理論（過程理論）、職務特性理論						
5	組織コミットメント：情緒的と功利的なコミットメント、日本企業の組織コミットメント						
6	キャリア・マネジメント(1)：キャリアとは、企業におけるキャリア、個人のキャリア意識						
7	キャリア・マネジメント(2)：キャリアモデル、組織と個人の視点、エンプロイアビリティ						
8	チーム・マネジメント：チームの定義、多様なチームとその特徴、チームによる意思決定						
9	リーダーシップ：リーダーとリーダーシップ、リーダーシップ研究、フォロワー						
10	組織学習(1)：組織学習の考え方、アンラーニング、組織学習のサイクル、ダブルループ学習						
11	組織学習(2)：パラダイム転換、知識創造モデル、学習する組織、実践共同体による学習						
12	組織変革(1)：組織変革とは、計画的変革と創発的変革、組織変革のプロセス						
13	組織変革(2)：組織変革の事例、組織変革への抵抗、組織変革エージェントとサポート						
14	総合研究：課題と事例の検討						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	40	授業内容の理解度の全体的な評価		授業の課題	30	授業中や授業外で課される提出物・レポートの評価	
上記以外の評価	30	授業への積極的な参加（発言、質疑、発表、討議）による評価					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストや課題の資料を理解し、課題を考え作成（提出）する「事前学習」および、講義や討議で学んだ内容を整理し、学習を定着させる「事後学習」が求められる。				オフィスアワー、授業前後、メールでアボ後の面談により対応			
教科書・テキスト	開本浩矢編『組織行動論』（ベーシック+）、中央経済社、2019年			受講生に望むこと	組織行動で学んだことが日常生活でどう関わるかを考え、適用や実践すると有益で興味深くなる。		
参考書・参考資料等	S.P.ロビンズ著、高木訳『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社 2009年。			その他・特記事項	自分の得た見聞、文献やニュースなど関連情報と組織行動の学びを関連付けてみてください。担当教員は企業での人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有している。		

授業科目	グローバル・ビジネス						
担当教員	森本 博行			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>グローバル・ビジネスは、多様で複雑なグローバルな事業環境において、企業は、それぞれの国においていかにして最適な経営を行うべきか、研究された学問分野です。授業では、第一に現代のグローバル経済社会にはどのような特徴があるのか、第二に進出国の産業政策、文化や経済システムの違いなどによって外国企業にとって不利な立場にあるのに、なぜ企業は進出し、競争優位を実現することができるのか、企業のグローバルな経営行動について学びます。</p> <p>担当教員は、広告会社の外資系部門（マッキンゼーエリクソン博報堂）、さらに製造業（ソニー）においてVP（Vice president）を経験し、広告宣伝、事業戦略、米国、英国での海外子会社経営についての実務経験を有しており、また担当教員は、国際経営論の研究者として欧州およびアジア各国を訪問した経験があり、各国の事例を交えながら考察し、将来的に受講生がグローバル人材としての実務に活かすことができる能力について講義します。</p>				<p>グローバル経済社会での企業活動は、各国の政治制度や産業政策、経済状況や文化の違いなど、多様で複雑な事業環境に直面しています。授業では、グローバルに活動する企業の戦略的行動や海外子会社経営について考察しながら、国際経営の基本的な知識や理論の修得を通して、論理的思考力を養成することを目標としています。</p>			
教授方法	<p>授業は、参考資料をプロジェクターで提示しながら、教科書（グローバル経営入門）によって進めていきます。受講生数にもよりますが、比較的少数の場合には、問題意識や理解度を高めるために、課題についてグループ・ディスカッションを行います。受講生が多数の場合には、授業ごとに出す課題について、受講生はミニレポートの提出することになります。</p>						
履修条件	経営学入門を履修していること						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	グローバル経営の考え方						
2	グローバル経営の戦略論						
3	グローバル経営戦略の諸側面						
4	グローバル経営の組織論						
5	本社－海外子会社関係とその変遷						
6	グローバル統合・ローカル適応の論理						
7	多国籍企業の革新モデル：トランスナショナル経営論とその後						
8	グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメント						
9	グローバルR&Dマネジメント						
10	グローバル戦略提携のマネジメント						
11	グローバル人的資源戦略						
12	リージョナル・マネジメント						
13	グローバル経営における文化						
14	グローバル経営の課題						
共通の評価基準							
グローバル・ビジネスについての理解度							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	国際経営の基礎となる知識の修得度			ミニ・レポート	40	毎回の授業の理解度
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>・WEBで、毎回事前にパワーポイント資料を提示しますので、事前に理解しておく必要があります。</p>				<p>・授業での質問、研究室を訪問してください</p>			
教科書・テキスト	浅川和宏『グローバル経営入門』（日本経済新聞出版社）			受講生に望むこと	<p>・海外プログラムで体験した「気づき」や発見を、学問として学ぶことで、さらに国際理解を高めて下さい。</p>		
参考書・参考資料等	<p>『国際経営（第4版）』（吉原英樹、有斐閣）、『グローバル経営入門』（浅川和宏、日本経済新聞出版社）、『ものづくりの国際経営戦略』（新宅純二郎、天野倫文、有斐閣）、『新興市場戦略論』（天野倫文、新宅純二郎ほか、有斐閣）、『新・国際経営』（竹田志郎、文真堂）、江夏健一ほか『国際ビジネス理論』（中央経済社）</p>			その他・特記事項	<p>・日本企業の海外子会社や多国籍企業に就職を希望する人にとって必要な専門知識です。担当教員は、企業において事業戦略、国際経営の実務経験を有しております。</p>		

授業科目		経営統計学入門					
担当教員	鶴田 靖人			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>統計学とは、データの扱い方、データから正しい値を推測する方法を研究する学問です。経営の世界では、品質管理やマーケティングなどの分野で統計スキルを用いています。なぜならば、データという客観的な数値を活用することで、課題の把握、将来の予測、効果の検証などを正確に行えるからです。また、「データは21世紀の石油である」という言葉もあるようにデータをつまかく活用することで新たな価値を生むことができますとされています。この授業ではデータから必要な情報を得るための様々な統計手法や統計的思考を学びます。</p>				<p>ねらい この科目は、ファイナンス等、データ分析を伴うマネジメント分野で必須である統計学の基本事項を理解することを目標とする。</p> <p>到達目標 ばらばらな数の集まりであるデータが持つ特徴を記述統計量と呼ばれる指標を用いて要約し、データの特徴を説明できる。 確率の考え方を使って、データ全体（母集団）から一部（標本）をランダムに抽出する標本調査の仕組みを説明できる。 標本から母集団の性質を推測する統計的推論（推定、検定）を正しく使用し、自分が立てた仮説の妥当性を検証できる。 相関関係を理解し、回帰分析手法を身に付けることで、複数のデータの関係を明らかにできる。</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式で行います。演習は計算問題を解いてもらいます。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、データの視覚化 統計学とは、どのような学問であるかを学ぶ。授業の進め方について理解する。ヒストグラムを用いたデータの視覚化の方法を学ぶ						
2	データが持つ特定の性質を数量的に表現する方法を学ぶ（1） キーワード：平均、散らばりの尺度、分散						
3	データが持つ特定の性質を数量的に表現する方法を学ぶ（2） キーワード：標準化、変動係数						
4	回帰分析と相関分析の考え方と方法を学ぶ（1） 相関関係、相関係数						
5	回帰分析と相関分析の考え方と方法を学ぶ（2） キーワード：回帰関係、回帰分析、最小二乗法						
6	回帰分析と相関分析の考え方と方法を学ぶ（3） キーワード：回帰分析、決定係数						
7	統計的推論の基礎である確率の考え方や基本的な確率の概念を学ぶ（1） キーワード：確率に関する3つのアプローチ、確率変数、確率分布、期待値						
8	統計的推論の基礎である確率の考え方や基本的な確率の概念を学ぶ（2） キーワード：二項分布、正規分布						
9	標本（サンプル）から計算された値の確率的なふるまいを学ぶ（1） キーワード：母集団、標本、無作為抽出、大数の法則、中心極限定理						
10	標本（サンプル）から計算された値の確率的なふるまいを学ぶ（2） キーワード：標本分布、t分布						
11	母集団の特徴を表す値を推測する方法を学ぶ（1） キーワード：統計的推論、比率の区間推定、点推定						
12	母集団の特徴を表す値を推測する方法を学ぶ（2） キーワード：平均の区間推定						
13	標本を観察した結果とつきあわせて、仮説が正しいかどうかを調べる方法を学ぶ（1） キーワード：仮説検定、有意水準、比率の検定						
14	標本を観察した結果とつきあわせて、仮説が正しいかどうかを調べる方法を学ぶ（2） キーワード：平均の検定						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	基礎知識の理解度に応じて評価する			小テスト	25	複数回の小テストを実施する
上記以外の授業評価	25	課題の提出状況に応じて評価する					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎回、指定された課題に取り組んでください。定期的に小テストを実施するので教科書を参考に授業の復習をしてください。				質問は、基本的にメールで受け付けます。オフィスアワーを設定します（日時は授業で説明）。 アドレス：tsuruta.yasuhi to@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	宮川公男著『基本統計学 第4版』有斐閣、2015年。			受講生に望むこと	毎回、電卓を持参してください。主体的に演習や課題に取り組むことを期待しています。		
参考書・参考資料等	なし			その他・特記事項	高度な数学の知識を理解している必要はありません。ただし、電卓を使って計算する問題を出題するので中学校までに学ぶ四則演算および平方根の計算方法を知っている必要があります。		

授業科目		地方行政基礎演習					
担当教員		野口 暢子・中村 稔彦		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>長野県や長野市の総合計画・財政のあらましを学習した上で、長野県及び長野県内の市町村などの特徴ある政策や成功した取り組みについて、その内容に詳しい担当職員に授業内に講演していただく（約60分）。講演後は、受講生が講演者に直接質問する機会を設け、さらに理解を深める（約30分）。そのうえで、コメントシートをまとめる（約10分）。最終回には「自分の基礎（的）自治体」における関心のある政策についてのレポートをまとめ、提出できるように、講義を進めていく。</p>				<p>当該施策を担当している自治体職員から地域における政策や取り組みについての講演を聞いたり、受講生自らが自治体が行っている仕事について調べたりすることを通じて、地域の課題に関する興味・関心の幅をひろげ、将来、地域の課題解決のための政策立案を行えるような素養を涵養することを目標とする。</p>			
教授方法	自治体における政策について外部講師（自治体職員など）による講演とその内容に関する質疑応答。担当教員による当該政策等についての補足説明。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	はじめに - 授業の進め方・長野県における地方行政システムの概要（担当教員：野口・中村）						
2	長野県の総合計画（ゲストスピーカー：長野県庁企画振興部総合政策課職員、担当教員：野口）						
3	飯田市のエネルギー自治と内発的発展（ゲストスピーカー：飯田市役所市民協働環境部環境モデル都市推進課職員、担当教員：中村）						
4	健康寿命NO.1の長野県（ゲストスピーカー：長野県庁健康福祉部健康増進課職員、担当教員：中村）						
5	長野市の総合計画（ゲストスピーカー：長野市役所企画政策部企画課担当職員、担当教員：野口）						
6	「教育県」から「学習県」へ（ゲストスピーカー：長野県教育委員会担当職員、担当教員：野口）						
7	信州の観光（ゲストスピーカー：長野県庁観光振興課職員、担当教員：野口）						
8	長野市の財政のあらまし（ゲストスピーカー：長野市役所財政部財政課職員、担当教員：中村）						
9	木曾広域連合の仕事（ゲストスピーカー：木曾広域連合職員、担当教員：野口）						
10	信州ブランド戦略とは（ゲストスピーカー：長野県産業労働部営業局職員、担当教員：野口）						
11	高森町の子育て支援政策と町づくり（ゲストスピーカー：高森町役場総務課職員、担当教員：中村）						
12	長野市における防災対策（ゲストスピーカー：長野市役所避難所担当経験職員、教員：野口）						
13	長野市男女共同参画政策の現状と課題（ゲストスピーカー：長野市役所地域・市民生活部人権・男女共同参画課担当職員、担当教員：野口）						
14	まとめ - 長野県の魅力を高めるために（担当教員：野口・中村）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
コメントシート	36	講演内容の要約や質問・感想等を記入(第2回～第13回 0～3点×12回=合計点)する。理解度、課題発見力を評価する。		質問する力	14	講演に関して、積極的に質問できたかどうかを評価する。講師への質問・コメントシートに書いた質問の両方を評価の対象とする。	
期末レポート	50	正確な情報をもとにしているか、レポートの書き方のルールにしたがって書けているか、論理的であるか、明快であるか、政策に関する疑問点や改善点を					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回、講演の内容に関する予備知識を身に付けて、質問の準備をすること。講演の後にその当日配布された資料等をもとにして、自ら情報収集を行い、さらに政策に関する理解を深めること。「自分の基礎（的）自治体」の政策に関する期末レポートを書くこと。</p>				<p>授業の最後に配布するコメントシートに質問を書いてください。次の回の授業で回答を配布します。個人的な質問や相談がある場合には、担当教員の学内メールアドレス宛にその内容を書いたメールを送ってください。直接話したいときには、面談が可能な日時と質問や相談したい内容の概要を書き、学内メールアドレス宛にメールを送ってください。</p>			
教科書・テキスト	なし			受講生に望むこと	日頃から、社会における問題に関心を持ち、行政や政治・経済に関する情報を得ること		
参考書・参考資料等	授業に必要な資料は授業内に配布する。その他、受講生の関心に応じて、参考書・参考資料などを紹介する。			その他・特記事項	おもに地方自治のシステム・政策に関する回は野口が、地方財政に関する回は中村が担当する。		

授業科目	行政法						
担当教員	宮森 征司			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
行政法は、行政組織法、行政作用法、行政救済法の三分野から構成されるが、この授業では、これら全ての分野における基本的な概念や仕組みについて、行政法学の理論、実定法の条文、行政事例や裁判例を素材としながら、概観的に学習する。				行政法の基本的な概念や仕組みについて理解し、受講生自らの言葉で説明することができる能力を身に付ける。			
教授方法	授業は講義形式で行うが、講義中に学生に意見を求めるなど、受講生の人数に合わせて、可能な限り双方向性を確保する。						
履修条件	特になし。もっとも、憲法や民法など、他の法律学の素養があれば行政法の内容の理解が深まると思われる。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス：授業の進め方、行政法とは（法学の中の行政法、政策学としての行政法）						
2	行政法とは（行政組織法、行政作用法、行政救済法）；法律による行政の原理（法律の留保）；行政上の一般法原理						
3	行政組織と行政組織法						
4	行政の行為形式論とは 権力的な行為形式（行政行為）：行政行為の種類、行政行為の効力論、行政行為の取消し・撤回						
5	権力的な行為形式（行政行為）：行政裁量、行政手続						
6	非権力的な行為形式（行政指導、行政契約）：行政手続						
7	行政立法、行政計画						
8	情報公開、個人情報保護						
9	行政の実効性確保						
10	行政争訟とは 伝統的な訴訟形式（取消訴訟、無効等確認訴訟、不作為違法確認訴訟）						
11	新たな訴訟形式（義務付け訴訟、差止訴訟）、その他の訴訟形式（当事者訴訟、住民訴訟等）						
12	行政不服審査						
13	国家補償とは；国家賠償						
14	国家賠償法；損失補償						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト・コメント	30	授業内容の理解、授業内容に対するレスポンスの状況等		定期試験	70	記号選択問題(40%)、説明問題(40%)、事例解決型問題(20%)	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義前後には、教科書ないし参考書の該当部分をよく読んで、予習・復習をしっかり行うこと。 基本的に、本講義では、学生が自分で授業中にとったメモやノートをもとに学習することを想定している。				質問は、授業中・授業の前後に口頭で、あるいは、メールで受け付ける。 時間をかけて口頭で質問したい場合は、必ず事前にアポイントメントを取ること。 受講生の間で共有した方がよいと思われる質問については、毎回の講義開始時に、教員から紹介及びコメントを行う。			
教科書・テキスト	・担当者が授業準備にあたって参考にしてしているものを指定しておく。 高橋滋編『行政法Visual Materials』（有斐閣、2014年） 大橋洋一『社会とつながる行政法入門』（有斐閣、2017年） その他、入門書レベルのテキスト等について、初回講義時に紹介するので、これらの情報をもとに購入するかどうかが、受講者自身で判断されたい。			受講生に望むこと	法学学習においては、日常生活の中ではあまり用いない用語が登場することがある。この点でつまづくと後が大変なので、基本的な内容と思われても、分からないことがあったら積極的な質問を期待する。		
参考書・参考資料等	発展的な学習を想定している受講生には、例えば、 ・曾和俊文・山田洋・巨理格『現代行政法入門（第4版）』（有斐閣、2019年） ・高橋滋『行政法（第2版）』（弘文堂、2018年） 公務員試験を想定している受講生には、例えば、				本講義では、学生が自分で授業中にとったメモやノートをもとに、教科書や参考書と照らし合わせながら学習することを想定しているため、そのつもりで受講すること（基本的に授業内容に関するPPTファイルの配布は想定していない）。		

<p>発展的な学習を想定している受講生には、例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曾和俊文・山田洋・巨理格『現代行政法入門（第4版）』（有斐閣、2019年）</li> <li>・高橋滋『行政法（第2版）』（弘文堂、2018年）</li> </ul>	<p>講義時には、必ず、立法（どの種類のものを購入するかは受講生の判断に委ねる）を持参すること。</p> <p>基礎的な知識や概念については、毎回の講義後に復習をしておくこと（法学学習にとっては体系性が命である）。</p> <p>日々の新聞やニュース等の報道に目を向け、複眼的な視野を持つように心掛けること（中学・高校の「現代社会」や「政治経済」で学ぶレベルの基礎知識を用いてさまざまな立場に立って社会・物事を見ることができるとは、行政法の理解にも結び付けてくるはずである）。</p> <p>時間の都合上、各種資格試験で行政法の学習が必要な学生にとっては、本講義の内容では不十分な面が大きいかも知れない。不安な場合には、適宜、相談されたい。</p> <p>その他・特記事項</p>
--	--



授業科目	コミュニティ・デザイン（概論）						
担当教員	築山 秀夫			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
基本的に講義形式で行い、学生による能動的学習も組み込む。コミュニティデザインを学ぶために、コミュニティの基礎的知識を理解することを目標とする。講義内容の柱は次の3つである。第一は、コミュニティに関する社会学者による理論的展開について、第二は、コミュニティを地縁型とテーマ型に分け、それぞれの構造と現状、課題について、第三は、コミュニティのデザインとしての公共政策、住民による市民活動・まちづくりについてである。これらを通じて、受講者とコミュニティとのあり方について考察を深める。				<p>ねらい</p> <p>地域の課題を観察、分析し、地域再生を目指すコミュニティデザインに関する、基礎知識としてコミュニティ概念及び、その現状を理解し、コミュニティ政策やコミュニティデザインそれ自体が持つ課題を学び、現代的な問題に応用することのできる能力を身に付けることをねらいとする。</p> <p>到達目標</p> <p>社会学者によるコミュニティの定義について理解する。  コミュニティの変容と現状について理解する。  地縁型コミュニティとテーマ型コミュニティの内実と課題について理解する。  スケールごとのコミュニティ・デザインのあり方について理解する。  コミュニティデザインの現状と課題について理解する。</p>			
教授方法	授業は講義を中心に行うが、幾つかのテーマについて、グループに分かれて議論し、発表するなど、アクティブ・ラーニングを取り入れる。						
履修条件	特になし						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をする コミュニティ及びコミュニティ・デザインをめぐる現状について、解説する。						
2	日本におけるコミュニティの現状について、解説する。 コミュニティ・デザインの定義及びコミュニティ・デザインの歴史、アソシエーションではなく、コミュニティをデザインすることについて、						
3	コミュニティの定義 社会学者によるコミュニティ概念の定義について解説する コミュニティの変容 コミュニティ解放仮説、社会関係資本、コミュニティの排他性・寛容性について解説する						
4	地縁型コミュニティの構造と機能 地縁型コミュニティとしての町内会など所謂地域住民組織について解説する 地縁型コミュニティの理解を深めるために、実家が位置する町内会等地域住民組織に関するレポート を提出する。						
5	地縁型コミュニティの現状と課題 町内会や自治会などの現状と変容について解説する。 第1～4回までの内容についての理解度を確認するために、小テスト を実施する。						
6	テーマ型コミュニティの構造と機能 市民活動及びNPM、新しい公共などについて解説する。						
7	テーマ型コミュニティの現状と課題 NPO・NGOの定義、日本のNPOの現状等について解説する。 テーマ型コミュニティの理解を深めるために、実家がある市町村に存在するNPOに関して、レポート を提出する。						
8	テーマ型コミュニティの事業デザイン、ファンドレイジング、ロジック・モデルについて解説する。 グループディスカッション 地域課題を解決するNPOの事業をデザインする。						
9	デザインすること、社会計画、まちづくり、サブシディアリティの原理について解説する。						
10	コミュニティのデザイン1 ナショナルなデザインとしての国土計画、コミュニティ政策、新しい公共について解説する。 第5～9回までの内容についての理解度を確認するために、小テスト を実施する。						
11	コミュニティのデザイン2 ローカルなデザインとしての都市計画、都市マスタープラン、コミュニティ政策について解説する						
12	コミュニティのデザイン3 市民による地域のデザイン、住民参加、市民活動について解説する						
13	コミュニティのデザイン5 デザインしないまちづくり、リノベーションのまちづくりについて解説する。						
14	まとめ コミュニティデザインを越えて 受講者同士のディスカッション						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	50	選択・記述とし、コミュニティ及びコミュニティ・デザインに関する理解について問う。定期試験が60点以上なければ、及第しないこととする。		小テスト	20	第5回と第10回の講義時に小テストを実施し、理解度に応じて評価する。	
レポート	20	第4回と7回にレポートを提出して頂く。全てのレポートを提出していることが及第の条件となる。		日常点	10	日常的な、ディスカッション等への参加状況で評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業中に、配布された資料に関しては、しっかりと読み込んでおくこと。講義中に取ったノートを読み返し、復習をしておくこと。				質問は授業後、オフィスアワー時に受け入れる。また、毎回、講義の後に、リアクションペーパーを書いて頂くので、そちらに質問を書いて頂ければ、次回の講義時に解答することとする。但し、自分でできる限り調べる努力をすること。簡単な質問はしないこと。			
教科書・テキスト	特になし。必要な文献資料については、その都度、コピーしたものを配布する。			受講生に望むこと	受講生は、予習・復習、グループワークやディスカッションに積極的に取り組んでほしい。		
参考書・参考資料等	船津衛・浅川達人2014『現代コミュニティとは何か』恒星社厚生閣 広原清明2011『日本型コミュニティ政策-東京・横浜・武蔵野の経験』晃洋書房 小泉秀樹2016『コミュニティデザイン学』東京大学出版会			その他・特記事項	自らの出身地域を再生させるにはいかなるコミュニティデザインが必要かをベースに考えてほしい。		

授業科目		地域マーケティング					
担当教員		坪井 明彦		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生		グローバル専攻	関連資格		備考		
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>地域マーケティングとは、まちづくりや地域の問題解決、地域活性化のためにマーケティングの理論や技法を適用することである。したがって、標的市場の設定やマーケティング・ミックスなどの基本的な概念を理解するとともに、それらの考え方をどのようにまちづくりに用いていくかを、国内外の事例を交えて解説していく。もちろん、企業のマーケティング理論や技法をすべてそのまま地域のマーケティングに適用できるわけではなく、地域マーケティングならではの問題や困難もあるが、自治体の政策や地域づくりにマーケティングの考え方を取り入れる意義やメリットを理解してもらいたい。</p> <p>英語表記「Regional Marketing」</p>				<p>ねらい 自治体や地域団体の政策や活動に対して、マーケティングの枠組みとらえること。 到達目標 自治体や地域の団体などの地域づくりや地域活性化のための政策や活動を、ターゲットやマーケティング・ミックスといったマーケティングの考え方をを用いて整理できること。また、それに対して、問題点や改善点などについて、自分なりの考えをもてるようになること。</p>			
教授方法		講義形式を中心とするが、随時、課題を提示するので、履修生にはそれに対して記述してもらう。					
履修条件		「マーケティング入門」を修得していること。					
授業計画							
実施回	授業内容						
1	マーケティングとは何か、また、なぜ、地域マーケティングという概念が生まれたのかを理解する。						
2	マーケティング・ミックスの中の、顧客価値の創造について、理解する。						
3	マーケティング・ミックスの中の、顧客価値の伝達・提供の方法について理解する。						
4	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて、理解する。						
5	地域ブランド論の基礎として、ブランドの概念や機能について理解する。						
6	地域ブランドの概念と構成について理解する。						
7	地域ブランド・コンセプトの開発におけるアプローチの方法について理解する。						
8	地域の買い手の地域を購入する（選択する）プロセスについて理解し、それへの対処方法を考える。						
9	地域における産業の重要性を理解し、産業の活性化の方法について考える。						
10	地域に移住者を呼び込む方法や各地の事例について理解する。						
11	地域活性化の担い手や地域マーケティングの主体について考える。						
12	住民を顧客として捉えるだけでなく、地域に誇りを持ってもらい、地域づくりの担い手になってもらうことの重要性について理解する。						
13	観光客やビジネス客など地域外からのビジターの重要性を理解し、ビジターを誘致し、産業の活性化に結びつける方法について考える。						
14	地域の事業者の発展のために、地域内で生産される商品の販売支援策として、どのような方法があるかを考える。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	基礎知識の理解度や考察内容に応じて評価する。		小レポート	30	授業内容の理解度や考察内容に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された課題・問題に取り組む。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業や授業前後に受け付ける。</li> <li>・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。</li> </ul>			
教科書・テキスト	なし。レジュメを配布する。			受講生に望むこと	主体的に授業にのぞみ、覚えるのではなく考えながら受講してほしい。		
参考書・参考資料等	『地域マーケティングの核心』佐々木茂ほか 同友館 2014 『地域のマーケティング』P.コトラーほか 東洋経済 1996			その他・特記事項	遅刻をしないこと		

授業科目	ソーシャル・イノベーション論						
担当教員	大室 悦賀			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>近年、社会的課題の解決にビジネスの手法を活用する「ソーシャルビジネス」が台頭し、社会的にその期待が高まっている。本講義では、ソーシャル・ビジネスの中心となる概念であるソーシャル・イノベーションについて学習する。その過程では、ソーシャルイノベーションと密接に関わるイノベーション理論をオーバービューしていく。講義では、本質を理解するために、ディスカッション、ワークショップ、映像鑑賞などを行い、知識と実践的なマネジメント力を身につける。また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。</p>				<p>本講義では、ソーシャル・イノベーションを最終的に理解するとともに、その過程でイノベーションの理論がどのように変遷してきているのかを理解することを目的とする。</p>			
教授方法	基本的に理論の習得をベースとした講義形式で実施する。一方で、映像資料や事例検討などでグループによる対話やワークショップも取り入れる。						
履修条件	3年以降						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション&ワークショップ（授業概要、評価方法、授業の進め方）						
2	イノベーションとは何か（シュムペーターとドラッカー）						
3	イノベーション理論1（知の探索と深化）						
4	イノベーション理論（知の探索と深化）						
5	イノベーション理論（SECIモデルと知識創造）						
6	イノベーション理論（認知バイアス・直感と論理・感情）						
7	イノベーション理論（制度・ネットワーク・資源依存・エコシステム）						
8	中間まとめ						
9	リードユザイノベーションの再考						
10	オープンイノベーションの2.0の台頭						
11	ソーシャルイノベーション1（事例検討）						
12	ソーシャルイノベーション（理論）						
13	ソーシャルイノベーション（私達にとってのソーシャルイノベーション）						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小レポート	60%	授業内で小レポートの実施および4回程度の課題を提出してもらう。		授業テスト	40%	事前にテーマを設定し、授業内でレポートを作成してもらいます。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：テーマに沿って参考図書等を利用し学習すること 事後学習：テーマに沿って事例を調べる				授業後あるいはメールにてアポイントを入れ、研究室に入室ください。			
教科書・テキスト	無			受講生に望むこと	私語等で受講生や担当者に迷惑がおよぶ行為には厳しく対応する。迷惑行為におよぶ者には警告なしに学生番号を確認のうえ退出退場を命じることがある。		
参考書・参考資料等	谷本真治他編著『ソーシャルイノベーションの創出と普及』NTT出版、2013年 大室悦賀編著『ソーシャル・ビジネス』中央経済社、2011年 クレイトン・クリステンセン著『イノベーションのジレンマ 技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』翔泳社、2001年 ドラッカー著『イノベーションと企業家精神』ダイヤモンド社、2001年			その他・特記事項	講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要になるので、それなりの覚悟をもって望んでほしい。私語（いかなる理由の発話であれ）や遅刻など、他の受講者にとって迷惑になると私が判断する行為に対		

---

講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要にな

授業科目	地域イノベーション論						
担当教員	尹 大栄			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>長期間にわたる国内景気の低迷や安価な輸入品との競争激化などにより、日本の多くの地域・地場産業が衰退の一途をたどっている。本講義では、長い歴史の中で生き残ってきた国内外の代表的な地域・地場産業を取り上げ、その持続性を支えるイノベーションを生み出してきた企業家や地域企業、非営利組織（NPO）、社会的企業の活動について学ぶ。これらの主体がどのようなロジックで地域産業の変革を引き起こすのかについて、理論的な説明に加え、具体的な事例を取り上げて議論する。</p>				<p>地域産業が抱えている様々な課題を創造的に解決する方法について学習し、地域産業の持続的要因は何かについて理解する。</p>			
教授方法	指定テキスト及び参考書を用いた講義形式を基本とするが、地域イノベーションの主体である企業、非営利組織（NPO）、社会的企業のイノベーション活動に関する豊富なエピソード、写真映像などを積極的に活用する授業展開を計画している。						
履修条件	地域産業に興味のある人						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション；地域産業とイノベーション						
2	世界3大眼鏡産地（日・伊・中）の物語（1）						
3	世界3大眼鏡産地（日・伊・中）の物語（2）						
4	世界3大眼鏡産地（日・伊・中）の物語（3）						
5	静岡県の酒造産業の活性化（1）						
6	静岡県の酒造産業の活性化（2）						
7	プラモデルの集積地 静岡						
8	協調メカニズムとしての取引制度（1）						
9	協調メカニズムとしての取引制度（2）						
10	協調メカニズムとしての取引制度（1）						
11	地域産業における人材育成の仕組み（2）						
12	地域産業とファミリービジネス（1）						
13	地域産業とファミリービジネス（2）						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末テスト	70	期末テストの成績			レポートほか	30	レポート提出
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前課題についてしっかり調べてくる				研究室訪問やメールに対応する			
教科書・テキスト	尹大栄（2014）『地域産業の持続性』中央経済社			受講生に望むこと	地域産業を深く学ぶ機会にしてほしい		
参考書・参考資料等	必要に応じて紹介する			その他・特記事項	授業はテキストに沿って展開するので、テキストを購入すること		

授業科目		経営史							
担当教員		橋本 規之		必修・選択		選択	単位数	2単位	
履修年次		2年	開講学期	3・4学期		授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生		グローバル履修メント	関連資格			備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）					
<p>・18世紀の産業革命の時代から、21世紀の現在までを対象にして、ヨーロッパ、アメリカ、日本、アジア地域におけるビジネスとマネジメントの歴史を概観します</p> <p>・各時期の政治、経済、社会、文化の背景を踏まえて、市場への創造的な適応であるイノベーションの観点から、経営史を織り込んでいきます</p> <p>・前半の第1回～第7回は、ヨーロッパとアメリカの経営史を扱います</p> <p>・後半の第8回～第14回は、日本とアジアの経営史を取り上げます</p>				<p>・ビジネスとマネジメントの歴史をグローバルなスケールで学ぶことを通じて、時間軸（垂直方向）と空間軸（水平方向）を自在にスライドできる認識とセンスを養います</p> <p>・イノベーションの歴史から思考の糧を得ることにより、広い視野と多角的な視点で物事に創造的にアプローチできる力を身に付けることを目指します</p>					
教授方法		講義形式です。毎回の講義で配布するパワーポイントの資料に基づいて進めていきます。講義中、適宜ディスカッションも行います。							
履修条件		特にありません。							
授業計画									
実施回	授業内容								
1	全体のイントロダクションの後、2回に分けて、18世紀後半から19世紀前半までのイギリスを中心に、産業革命（工業化）の時代を扱います。								
2	同上								
3	2回に分けて、18世紀末から20世紀初頭までのアメリカを中心に、大企業の誕生の時代を扱います。								
4	同上								
5	20世紀前半の欧米のビジネスの歴史を扱います。								
6	20世紀後半の欧米のビジネスの歴史を扱います。								
7	1990年代以降のデジタル革命とIT革命を通じた、欧米のビジネス活動の足跡を扱います。								
8	これ以降は、日本とアジアの経営史です。初回は、日本の江戸時代の商家経営や明治期の産業革命（工業化）を扱います。								
9	1920～30年代の大衆消費社会の到来と財閥の時代を扱います。								
10	第二次世界大戦後の復興期の企業活動を扱います。								
11	1960年代を中心に高度成長期の企業活動を扱います。								
12	1970年代から80年代の安定成長期の企業活動を扱います。日本の経営が最も国際競争力を発揮した時代です。								
13	1990年代から現在までのグローバル市場での日本企業の活動を扱います。								
14	最後はアジア経営史です。成長著しい東アジア地域（韓国・台湾・中国）を中心に、アジア企業のビジネスの諸展開を概観します。								
共通の評価基準									
成績評価方法と基準									
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準		
中間レポート	36	前半の講義を踏まえた課題レポート（36点満点）の達成度により評価します。			期末レポート	36	後半の講義を踏まえた課題レポート（36点満点）の達成度により評価します。		
出席	28	出席1回で、2点です。14回出席すると、28点になります。							
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応				
<p>・事前の学習では、参考文献の該当箇所を読んでおくと、理解が深まります</p> <p>・事後の学習も同様ですが、講義資料をよく復習することが肝心です</p> <p>・各スライドの脚注や末尾の参考文献リストを復習や発展的な学習として利用してください</p>					<p>授業後の教室や電子メールで基本的に対応します。メールの連絡先は下記の通りです。 hashimoto.noriyuki@u-nagano.ac.jp</p>				
教科書・テキスト	特に指定しません。初回の講義で代表的なテキストを紹介します。				受講生に望むこと	講義の内容を理解するためには、毎回出席することが不可欠です。			
参考書・参考資料等	各回の講義で紹介します。				その他・特記事項	講義は日本語で行います。			

授業科目		企業家論(トップ・マネジメント論)					
担当教員	今村 英明			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>この科目は、専門科目のうち経営系の展開科目に位置付けられています。</p> <p>民間営利企業、NPO・NGOなどの非営利団体などの経営者(トップ・マネジメント)について、基本的な理解を得ることを目指します。具体的には、経営者の果たす役割・機能、経営者の様々なタイプ、生い立ちや経営者になるまでの歩み、経営者として成功するための条件、経営者の陥りやすい罠、失敗の要因などに関して、内外の色々な経営者の伝記やビデオ、経営者論などを通じて学び、ディカッションします。</p> <p>また実際の経営者を題材に上記のポイントなどを調査して、そこからの学びをクラスで発表して頂きます。</p> <p>教員は、現在も企業経営者へのアドバイザーを兼任している実務家教員であり、現場での「経営者体験」を授業で紹介いたします。</p>				<p>ねらい 民間営利企業、NPO・NGOなどの非営利団体などの経営者(トップ・マネジメント)について、基本的な理解を得ることを目指します。</p> <p>到達目標 経営者の果たす役割・機能、経営者の様々なタイプ、生い立ちや経営者になるまでの歩み、経営者として成功するための条件、経営者の陥りやすい罠、失敗の要因などを理解します。 実際の経営者を調べて、その学びをクラスで発表・共有するための基本スキルを習得します。 自分なりの「目指したい経営者像」を描きます。</p>			
教授方法	教員の提供する教材に関するディカッション、講義、グループ・ワーク、レポート作成						
履修条件	特にありません。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：授業の目標、進め方 教材：「大野和士」 テーマ：経営者のイメージ						
2	教材 「スティーブ・ジョブズ」(アップル)、テーマ： Lead the Self/People/Society (自分/人々/世の中をリードする)						
3	教材 「木内博一」(農業起業家)、テーマ： Lead the Self (自らをリードする)						
4	教材 「星野佳路」(星野リゾート)、テーマ：Lead the People (人々をリードする)						
5	教材 「宮崎駿」(スタジオ・ジブリ)、テーマ：Lead the People (人々をリードする)						
6	教材 「宇都宮健児」(弁護士)、テーマ：Lead the Society (社会をリードする)						
7	教材 「骨髄バンク」(社会起業家)、テーマ：Lead the Society (社会をリードする)						
8	学生プロジェクトの発表(I) 経営者はどのように経営者になるのか?						
9	教材 「南場智子」(DeNA)、テーマ：起業する						
10	教材 「米山稔」(ヨネックス)、テーマ：危機を乗り越える						
11	教材 「大山健太郎」(アイリス・オーヤマ)、テーマ：安定させる、成長させる						
12	教材 「カルロス・ゴーン」(日産自動車)、テーマ：改革する、「罠」に落ちる						
13	学生グループ・プロジェクトの発表(II) 経営者は何をしているのか?						
14	教材 「杉田秀夫」(本四連絡橋公団)、テーマ：偉大な人生とは何か? 授業のまとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加	36	授業の理解度、授業で紹介した経営者の評価(個人評価)。		グループ・プロジェクト	64	グループで、経営者を調べて、その結果を発表してもらいます。またレポートを提出してもらいます(グループ評価)	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
グループ・プロジェクトに取り組んで、結果をクラスで発表してください。授業で学んだ内容をもとに、個人メモを作成して、授業終了時に提出してください。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付けます。</li> <li>・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをします。</li> <li>・メールでの質問も受け付けます。</li> </ul> アドレス：h_imamura@shinshu-u.ac.jp または18000608@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	野田智義・金井壽宏,リーダーシップの旅、光文社,2007年。			受講生に望むこと	毎回、楽しくかつ真摯に課題やディスカッションに取り組んでください。特に、「一人称で考える」、すなわち「自分だったらどうするか」を意識して考えてみてください。授業では、遠慮なく、どしどし質問・発言してください。		
参考書・参考資料等	金井壽宏,リーダーシップ入門、日本経済新聞出版社,2005年。			その他・特記事項	実務家としての経験：総合商社で海外プロジェクトを8年、経営コンサルタントを通算19年、企業アドバイザーを8年、NGOの役員を8年、企業の社外取締役を5年経験しています。		

授業科目		健康マネジメント論					
担当教員		宮崎 紀枝		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生		グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>健康な社会づくりとは何か、地域のあるべき姿を描き、何をすべきかを考える力を養う。健康的な地域社会の実現のために、地域全体のアセスメントから健康ニーズや取り組むべき課題を明確にし、計画・実施・評価を展開する方法を学ぶ。これらに基づいて地域住民及び保健・医療・福祉・企業等を含む地域にある様々な社会資源と連携して、いかに健康的な地域社会づくりをマネジメントするかを理解するために必要な知識（健康や連携の意義、健康づくりを支える地域システム、事業化・施策化など）を学び、地域特性に合った社会づくりの必要性を理解する。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の動向と健康課題の現状を理解し、QOLやヘルスプロモーションの理念に基づいた地域や組織の将来展望について考える。</li> <li>・ライフステージごとの健康システムの現状を理解し、新たなヘルスシステムを考える。</li> <li>・個人の健康維持増進と健康的な地域づくりや会社経営のあり方について理解を深める</li> </ul>			
教授方法		講義、グループワーク、グループ発表					
履修条件		とくになし					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 健康とは 予防とは 健康の世界戦略について						
2	社会の動向と健康課題の変遷 現代の健康課題						
3	ライフサイクルと健康をまもる仕組み						
4	親と子どもの健康をまもる仕組み						
5	労働者の健康をまもる仕組み（法的根拠）						
6	労働者の健康をまもる仕組み（健康課題と保健計画）						
7	健康経営とは						
8	健康経営の実現にむけて						
9	健康経営実践者にきく						
10	健康経営実践者にきく						
11	地域ヘルスケアシステムとは						
12	ヘルスシステムの充実にむけて						
13	現状のヘルスシステムと補いたいリソース（グループワーク）						
14	学生が考えた新たなヘルスシステムの提案（発表）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	60	小レポート2回(20%) 最終レポート(40%)		グループワークと発表	40	グループワーク自己評価(20%) グループ発表(20%：内訳 資料・発表10%、内容10%)	
授業態度	減点	欠席、遅刻、提出物					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
発表のためにグループワークや資料づくりを事前事後の学習を補うこと				授業日の昼休みに対応する			
教科書・テキスト	産業保健ハンドブック			受講生に望むこと	グループワークや自己学習は積極的に実施すること		
参考書・参考資料等	国民衛生の動向ほか			その他・特記事項	とくになし		



授業科目		組織間関係論					
担当教員	東 俊之			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
<b>授業の概要</b>				<b>授業目標（ねらい・到達目標）</b>			
<p>組織間関係とは、一定の環境下において、ある組織と別の一つあるいはそれ以上の組織との間で生じる関係のことである。その対象は、営利企業だけでなく、NPOや行政組織なども含まれる。そのため、企業間の協調関係、企業と非営利組織との関係、企業と行政との関係、あるいは複数の異なるセクター間協働などが、この範疇に入る。また環境変化が激しい現在では、単一組織だけで十分な成果をあげることが難しくなっており、そのために他組織と何らかの関係を構築することが求められている。</p> <p>本科目ではこうした組織間関係を、先行研究（理論）と事例（実践）の両側面から検討し、組織間関係が生じるメカニズムは何か、関係を継続・発展するためにどのようなマネジメントが必要か、さらには組織間関係によってどのような付加価値が創造されるのか、などを考える。これら考察により、組織を経営するための実践的なマネジメント能力を涵養する。</p>				<p>現在では、他組織と何らかの関係を持ち、協働することによる価値創造が求められている。そのため、組織間関係論の知識を持つことが不可欠になっていく。</p> <p>そこで本科目で組織間関係論の先行研究（理論）を学習し、かつ組織間関係の具体的な事例を検討することで、組織間関係に関する知識・技能を身につける。具体的には、組織間関係の形成過程や成功要因を説明できる、実際の組織間関係を深く分析できる、さらに 自組織と他組織との関係を円滑に構築できる、といった能力を修得する。</p>			
教授方法	<p>本科目は、大きく分けて2つのパートから成り立っています。前半（2～7回）は「理論編」で、組織間関係論の理論を学びます。ビデオ資料や簡単な事例を用いますが、基本的には基本的にPowerPointと板書の両方を使用した講義形式です。しかし漫然と受講するのではなく、自身の所属する組織に置き換え、考えながら講義を聴く姿勢が求められます。</p> <p>また後半（9～13回）は「事例編」で、事例を検討することでより具体的に組織間関係の必要性やマネジメント方法などを演習形式で学習します。事例は個人で分析するだけでなく、グループで演習（ディスカッション）してもらったことがあります。そのため、授業前に事例内容を理解しておくことが必要であり、自身の見解を持っておくことが不可欠です。</p>						
履修条件	特に履修条件は設けませんが、「経営組織論」を履修していることが望ましいです。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	6月5日（金）2限：【ガイダンス（イントロダクション）】：本科目の全体像を説明し、試験やレポート課題提出などのスケジュールを案内します。さらに「組織間関係とは何か」を考え、単一組織では達成できないことが成果を生み出す可能性を理解します。「レポート課題」を						
第2回	6月8日（月）2限：【組織間関係論の展開と領域】：組織間関係論がどのように発展してきたのか、またどのような研究領域が含まれているのか、その概要を学習します。また、組織間関係論の基本的な用語や考え方を理解し、なぜ「組織間関係」を把握することが必要かを理解します						
第3回	6月12日（金）2限【組織間関係論の基本理論（1）】：組織と組織の関係を分析するための基本的な理論を枠組みとして、「取引コスト理論」「資源依存理論」などの考え方を学習します。こうした理論を踏まえつつ、皆さんが所属する組織が、他組織と「なぜ関係を結んでいるのか」						
第4回	6月15日（月）2限【組織間関係論の基本理論（2）】：組織間関係の理論として議論されている、「ネットワーク論」や「コラボレーション（協働）論」などを学習します。特に、組織と組織が協働することで、それぞれの組織が持つ能力の総和以上の価値が創造される可能性を検討						
第5回	6月19日（金）2限【組織間関係論の対象】：企業だけが組織間関係論の対象となるのではなく、NPOや行政組織、学校組織などが含まれることを理解します。そのうえで、「同一セクターのダイアド（1対1）関係」から、「クロスセクターのマルチ（複数）関係」への展開していること						
第6回	6月22日（月）1限【組織間関係の形成プロセスと媒介者】：新たな組織間関係を築くためのポイントを考え、どのように組織間関係形成のプロセスをマネジメントし、またどのように調整することが必要かを考えます。さらに、組織間関係構築に必要な「人」の役割についても考えます						
第7回	6月22日（月）2限：【組織間学習と組織間文化】：組織間関係を継続・発展するために不可欠な「組織間学習」の理論を学び、皆さんの関係する組織でどのような学習が行われているのか理解します。そして、組織間で文化を共有することの利点を問題点を理解します。						
第8回	6月26日（金）2限：企業間関係の総合演習（中間振り返り）と中間テスト：これまでの内容を振り返り、組織間関係論の理論を全体像をつかみます。特に自分の所属する組織で、学んできたことがどのように生かせるのかを確認します。最後に理論の理解度を把握すべく、テストを行い						
第9回	6月29日（月）1限：【事例学習（1）組織間関係としての企業と企業】：企業間の関係が組織間関係の代表的な事例です。例えば、「SCM」や「製販同盟」など様々な事例があげられます。異なる業態の企業の協働事例を取り上げ、企業間の協働がうまく進むために必要なことを考えます						
第10回	6月29日（月）2限：【事例学習（2）企業とNPOの組織間関係】：企業と企業の関係だけでなく、近年では企業とNPOの関係についても注目されています。ここでは、特に社会問題解決のための企業とNPOの協働について事例を用いながら検討します。						
第11回	7月3日（金）1限：【事例学習（3）マルチセクターによる協働】：企業やNPO、行政組織など様々な主体（マルチセクター）による組織間協働が、近年増加しています。ここでは、企業、NPO、行政の協働による地域ブランド構築の事例を取り上げ、その成功要因を検討します。						
第12回	7月3日（金）2限：【事例学習（4）6次産業化における農商工連携】：農山村や漁村の産業振興を考える上で近年盛んに議論されている「6次産業化」とは何かを学び、さらに6次産業化を進展させるための農商工連携について地元（長野県）の事例を踏まえながら検討します。						
第13回	7月6日（月）1限：【事例学習（5）組織間協働による地域活性化】：「地域」には様々な主体が存在しており、その主体の協働が地域活性化のためには不可欠です。地域主体が協働するために、何が必要で、どのように協働をマネジメントすべきか、事例分析を通じて学習します。						
第14回	7月6日（月）2限【組織間関係論の到達点と方向性】：これまで学習してきたことのまとめとして、組織間関係論の現在の到達点を確認し、また十分に議論されていない領域や今後の課題などを考察します。また、皆さん自身が本科目で学んだことをどのように活用すべきかを考えます						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	45 %	期末試験（30点）& 中間試験（15点）。期末テキスト、論述問題を中心に出題。中間テストは、空欄補充問題を中心に出題。			小テスト	20%	第3回、第4回、第5回、第6回、第7回の最初に、前回授業内容と、予習課題内容の理解度の確認のために小テストを実施（各4点×5回＝20点）。基本用語の
授業レポート	35%	レポート課題（15点）と事例分析レポート（4点×5回＝20点）。レポート課題は、組織間関係論の成功要因を各自で分析します。また事例分析レポート			上記以外の授業評価	0	授業中の積極的な発言や、事例分析についてのプレゼンテーションなどを行った場合は、ボーナスポイントを付与する場合があります。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回授業の終わりに「課題」を提示します。これは提出を求めるものではなく、次回授業の予習になるものです。グループ討議を行う際には、事前に調査しておかないと、活発な議論ができません。さらに第3回～第7回にかけて、毎回小テストを実施しますので、予習・復習が不可欠です。なお、授業スライドは、授業前に学生ポータルからダウンロードできるようにします。予習・復習に役立ててください。</p>				<p>火曜日2限目・3限目をオフィスアワーとして設定しますが、それ以外でも在室しているときは対応します。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。</p>			
教科書・テキスト	佐々木利廣・加藤高明・東 俊之・澤田好宏『組織間コラボレーション：協働が社会的価値を生み出す』ナカニシヤ出版、2009年（本体2,400円＋税）。（必ずしも、教科書通りには進みません。また適時資料を配布します）			受講生に望むこと	「経営組織論」（2年次1学期開講）を履修していることが望ましいです。また、常に企業活動や組織活動に関するニュースを確認したり、所属する組織における問題点の把握に努めたりする積極的な姿勢が不可欠です。		

<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>・佐々木利廣・大阪NPOセンター編『地域協働のマネジメント』中央経済社、2018年（本体2,700円＋税）／・小橋勉『組織の環境と組織間関係』白桃書房、2018年（本体3,000円＋税） （その他、参考文献は授業時に指示します。また資料を配付する場合もあります）</p>	<p>その他・ 特記事項</p>	<p>【重要】授業担当者（東）は、7月11日から2学期末まで「海外プログラム」の引率が予定されており、本科目は7月1週目で終了します。そのため、6/22、6/29、7/3、7/6、は1・2限連続で授業を行います。</p>
-----------------------	--	----------------------	--

授業科目		人材マネジメント論					
担当教員		宮下 清		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生		グローバルマネジメント	関連資格		備考		
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>人材マネジメントは最も重要な経営資源とされる人的資源（Human Resource）を対象とし、組織目的を達成するための人材に関わる活動や施策から成り立つ。本授業では人的資源管理の基礎となる知識と重要な概念について理論と実践面から理解を深める。具体的には人材と関わる環境、戦略、組織、育成、雇用、異動等について学んでいく。</p> <p>担当教員は企業での人事教育、商品企画、営業管理の勤務経験があり、モチベーション、リーダーシップ、組織開発、ナレッジマネジメント、教育訓練や国際人事などで実務経験を活かすことができる。</p>				<p>人材（人的資源）、人材マネジメントは何か。人材マネジメントの基礎知識を習得し、経営環境や戦略・組織との関連を含めて理解すること、さらに企業や組織の課題を探り、解決につなげる力の向上も目標とする。</p>			
教授方法		講義が主体であるが、出来るだけグループ討議や発表などの参加型授業も併用し学習効果を高め、主体的で興味が持てる学びの場としたい。					
履修条件		「経営学入門」を履修していること。					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス：人材マネジメントの学び方、企業・組織における人材マネジメント						
2	人事労務管理と人材マネジメント：人事管理と労務管理、HRMと人材マネジメント						
3	環境と人材マネジメント：環境と経営、外部環境と内部環境、人材管理のシステム						
4	経営戦略と人材マネジメント：経営戦略と人事戦略、戦略的人材モデル、人材戦略						
5	人材とモチベーション：労働意欲と人間観、動機づけ、欲求階層説、職務充実						
6	人材とリーダーシップ：リーダーの役割、リーダーシップの研究、マネジャーとリーダー						
7	組織文化と組織開発：組織文化、組織開発、組織の活性化						
8	知識創造と人材：ナレッジマネジメント、知の創造を行う人材						
9	人材育成と教育訓練(1)：教育・研修・能力開発、企業内教育と体系						
10	人材育成と教育訓練(2)：人材育成の課題、人材育成のプログラム						
11	雇用管理(1)：採用、配置、異動、人材ポートフォリオ、昇進昇格						
12	雇用管理(2)：ジョブローテーション、職能資格制度、専門職、目標管理						
13	国際人材マネジメント：国際人事モデル、多国籍企業と国際戦略、グローバル人材						
14	人材マネジメントの総合事例：事例企業における人材マネジメント、活用と育成						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	60	全体の授業内容の理解度を評価する。		小レポート	20	授業課題のレポート作成により、学習プロセスを評価する。	
上記以外の授業評価	20	授業への参加意欲、質問への答えやコメントなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストや課題の資料を理解し、課題を考え作成（提出）する「事前学習」および、講義や討議で学んだ内容を整理し、学習を定着させる「事後学習」が求められる。				授業の前後、メールでアボ後の面談により対応。			
教科書・テキスト	宮下清『テキスト経営・人事入門』創成社、2013年			受講生に望むこと	日頃から、企業の人事や教育制度など実践的な記事を経済新聞や経済誌から読んでみてください。		
参考書・参考資料等	『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣、上林憲雄ほか、2018年。 『新しい人事労務管理』有斐閣、佐藤博樹ほか、2019年。			その他・特記事項	自らの見聞、文献やニュースから得た情報を人材マネジメントと関連させて考えてみてください。そうすることで学びはより一層興味深いものとなる。担当教員は企業での人事教育、商品企画、営業管理の実務経験がある。		

授業科目	経営情報論						
担当教員	首藤 聡一郎			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
経営情報の基礎的な諸理論と実際				1) 経営情報の基礎的な諸理論を理解する 2) 経営情報、特にIT (Information Technology) の利活用の実際について知る			
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	3年生以上						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	人の情報処理特性						
3	ITの基礎原理						
4	業務の自動化・AI (Artificial Intelligence) の活用						
5	コミュニケーションの基礎理論						
6	通信の基礎理論						
7	CMC (Computer Mediated Communication)						
8	組織と情報 ( 1 )						
9	組織と情報 ( 2 )						
10	組織におけるIT活用の基礎理論と実際 ( 1 )						
11	組織におけるIT活用の基礎理論と実際 ( 2 )						
12	ビジネスとIT ( 1 )						
13	ビジネスとIT ( 1 )						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末テスト	50	点数		グループワーク	30	発言、提出物等	
リフレクションシート	20	提出回数、内容等					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
適時指示します				授業後に対応します。アポイントメントをとってくればそれ以外の時間にも対応します			
教科書・テキスト	ありません			受講生に望むこと	授業への積極的な関与をお願いいたします		
参考書・参考資料等	適宜支持します			その他・特記事項	ITについて取り扱いますが、それ以外の内容もあります。その点についてご理解いただいたうえで受講の決断をしていただければ幸いです		

授業科目		グローバル・ビジネス演習					
担当教員		森本 博行		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>国際経営の実際について、テキストに書かれた企業事例にもとづいてディスカッションする。            担当教員は、ソニーにおいてVP（Vice president）を経験し、事業戦略、海外子会社経営についての実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p> <p>担当教員は、広告会社の外資系部門（マッキンゼーエリクソン博報堂）、さらに製造業（ソニー）においてVP（Vice president）を経験し、広告宣伝、事業戦略、米国、英国で海外子会社経営についての実務経験を有しており、また担当教員は、国際経営論の研究者として欧州およびアジア各国を訪問した経験があり、各国の事例を交えながら考察し、将来的に受講生がグローバル人材としての実務に活かすことができる能力について講義します。</p>				<p>国際経営の実際における課題や問題点を把握し、将来的に企業におけるグローバル人材としての素養を身につける。</p>			
教授方法	演習方式						
履修条件	グローバル・ビジネスを履修していること						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	国際経営とは（味の素のケース）						
2	国際経営戦略（トヨタ自動車のケース）						
3	国際経営組織（アクセンチュアのケース）						
4	国際マーケティング（資生堂のケース）						
5	海外生産（シーゲート・テクノロジーのケース）						
6	国際研究開発とイノベーション（IBM・ネスレのケース）						
7	国際人的資源管理（シーメンスのケース）						
8	国際経営財務（ソニーのケース）						
9	自動車産業（新興国における現代自動車とトヨタ自動車）						
10	エレクトロニクス産業（レノボ、ノキア、サムスン電子、パナソニックのケース）						
11	IT産業（グーグルとIBMのケース）						
12	流通（アジアにおけるグローバル小売競争の展開）						
13	生活文化産業（ユニリーバ、P&G、花王にみる欧米企業のケース）						
14	国際経営の将来像						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	国際経営の課題の理解度		出席	30	意見の発表	
発表	30	ケースについて事前学習					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
企業ケースについての事前学習				授業外での質問はメール等で応える			
教科書・テキスト	吉原英樹ほか『ケースに学ぶ国際経営』（有斐閣ブックス）			受講生に望むこと	授業で意見をいうためには、事前に企業ケースを学習しておく必要があります。		
参考書・参考資料等	湯沢威ほか『国際競争力の経営史』（有斐閣）			その他・特記事項	特にありません		

授業科目		セルフ・マネジメントと社会イノベーション						
担当教員		稲垣 聡一郎			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生		グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要					授業目標（ねらい・到達目標）			
この科目は、「具体的な結果」をベースにしている。「望む結果を得るために、どのように自分をマネジメントすれば良いのか?」「パフォーマンスを発揮できる状態をどのように作り、リーダーシップを発揮するのか?」などの要素を、自分の内面や軸（思考レベルではなく、感情や身体感覚レベル）に向き合いながら、実践を通して習得していく。「自分の外にある人や環境を変える」アプローチではなく、「自分自身の内面や思考のクセ、感情・行動・結果の構造」を理解すること、意識的にそれらをシフトすることで、今までとは違う選択肢を生み出し、新たな行動・結果を生み出していく。					ねらい：「望む結果を得るために、どのように自分をマネジメントすれば良いのか?」「パフォーマンスを発揮できる状態をどのように作り、リーダーシップを発揮するのか?」 ・自分の感情・思い込み・思考・行動・コミュニケーションのパターンに気づくことができる ・モノゴトに対して、今までとは違った見方をする事ができる（視野が広がる・視座が高くなる） ・相手が考え、感じていることに気づくことができる（非言語メッセージや言葉に出ない文脈に気づくことができる） ・相手と深い関係性を築き、信頼関係を作ることができる ・集中力・注意力が増し、新たな情報をよりオープンに認識できる ・ストレスを軽減し、知的集中力を高めて課題と向き合える			
教授方法		講義と演習を織り交ぜた形式。ディスカッションやダイアログを通してを行う。						
履修条件		特になし						
授業計画								
実施回	授業内容							
1	オリエンテーション（授業の位置づけ、授業の進め方、グループ内で自己紹介）							
2	セルフマネジメントとは何か							
3	自分の今の状態を知る：身体・感情・マインド・意図							
4	セルフマネジメントの全体像							
5	ストレスとは何か?：恐れと疲労							
6	自分のストレスの状態を知り、ストレス状態からの脱却法を考える							
7	マネジメントの最小単位：Unit of Analysis							
8	人の意識と無意識：意識や注意を高めるためのポイント							
9	自分の状態を理解する：自分のパターンを知る							
10	自分の状態を理解する：自分のパターンを変えるための方法を考える							
11	マインドセット：Growth Mindset/Fixed Mindset							
12	新たな結果を生み出すための方法：選択肢を広げ結果を変えるために							
13	セルフマネジメントを日常に組み込むための方法を考える							
14	まとめ							
共通の評価基準								
・授業への参加貢献 ・レポートの提出								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
授業への参加貢献	30	基礎知識の理解度に応じて評価する。			各回のレポート	40	各回、実践結果のレポートを提出する。理解度に応じて評価する。	
最終レポート	30	授業終了後のレポート						
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応			
毎回指定された課題・問題に取り組む。 実践期間中の「うまくできたこと」「難しかったことやチャレンジ」「実践から学んだインサイト」をレポート1枚にして授業に持ち寄る 授業で学んだ内容をもとに、最終講義終了後にレポートを作成して提出する					・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・メールでの質問も受け付ける（si@transform-your-world.com）。			
教科書・テキスト	テキスト：ドラスカー・スクールのセルフマネジメント教室 （Transform Your Results ISBN：483342360X） 著者：ジェレミー・ハンター、稲垣 聡一郎 出版社：プレジデント社				受講生に望むこと	毎回、実践期間で学んだレポートを作成し授業に臨むこと 主体的に課題やディスカッションに取り組むこと		
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。また、授業中に適宜資料を配布する。				その他・特記事項	特になし		

授業科目		ソーシャルビジネス・プランニング					
担当教員	秋葉 芳江			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>はプランニング基礎編。レクチャーに加えて個人ワークとグループワークを組み合わせ、主体性と創造力を養う。</p> <p>ではプランニングの前提として持つべき“望ましい姿”を醸成する。事例からイメージを膨らませ、価値基準が貨幣価値だけではないことを理解し、マルチステークホルダーとの四方よしの関わり方を理解する。受講を通じて、まずは、ビジネスで“きれいごと”を言うてよいのだ、ということを理解する。（毎週2コマ連続での開講。開講曜日に注意）</p> <p>なお、～通して起業に必要な主要な要素を履修でき、ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。</p> <p>民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わり、自らも起業経験を有し、現在も各種起業塾講師およびソーシャル・イノベーションを創出する本学CSI運営を担う経験をふまえ、実践的な講義を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・プランニングの基本的なスキームを理解する</li> <li>・社会課題を生まないビジネスを理解する</li> <li>・ビジネスアイデアの源泉を理解する</li> <li>・ビジネスモデルの基本について理解する</li> </ul>			
教授方法	レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。ワークを多用する。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。履修期間を通じてアイデアレビューを繰り返す。オンラインツールを多用しオンライン空間での学びも行う。						
履修条件	<p>二年次のキュレーター概論履修済を強く推奨する。</p> <p>起業志向の学生の履修を推奨する。可能であればソーシャルビジネス・プランニング～通して履修することを強く推奨する。（～通して、起業に必要な主要な要素を履修でき、ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。）</p> <p>履修希望者は、～のシラバス内容をよく確認すること。</p> <p>上記を踏まえ、ソーシャルビジネス・プランニング～を連続で履修登録することを推奨するが、のみ、のみの履修希望者にも配慮する。履修登録期間中に相談されたい。</p> <p>なお、起業志向までいかずともアントレプレナーシップを実践的に身につけたい学生の履修も歓迎する。</p>						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。（4/9）						
2	ソーシャルビジネスのプランニングの基本的スキーム（4/9）						
3	社会課題を生まないビジネスとは（4/16）						
4	既存一般ビジネスの社会化を考える（4/16）						
5	ビジネスアイデアの源泉（4/23）						
6	ビジネスアイデアの源泉（4/23）						
7	SDGsをビジネスヒントにする（4/30）						
8	ミニアイデアソン（4/30）						
9	ビジネスモデルとは（5/7）						
10	仮想のビジネスモデルを考える（5/7）						
11	仮想のビジネスモデルを考える（5/14）						
12	マネタイズを考える（5/14）						
13	アイデアプレゼンテーション（5/21）						
14	まとめ（5/21）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
指定する回の成果物	30	適切に講義内容に取り組んでいること。理解度。		最終アイデア表明	70	講義内容を踏まえていること、および、提案アイデアの源泉が明確なこと	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回の講義の時間は、自らのプランを磨き上げていくステップとして使うこと。したがって事前学習として次回講義に向けて講義中に指示する内容について予め思考、探索しておくこと。指定するオンラインドキュメント類等による学習。</p> <p>CSI主催「公開講座」「経営者トークライブ」「コラボ公開講座」等への参加を推奨する（平日19-21時開催）。参加によってより理解が深まる。開催情報はCSI公式Facebookページ掲載。</p> <p>持続可能経営に取り組む経営者の生の知見に触れる学外の機会を積極的に活用することを推奨する。</p>				<p>メールは随時受け付ける。予約の上でのCSI(後町キャンパス)への来訪又はオンラインでの対応。</p> <p>特に独立起業志向の学生は上記による随時相談を大いに歓迎する。</p>			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	<p>講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。</p> <p>テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス(スマートフォン、タブレット、ノートPC)は必須(困難な学生は事前に教務に相談)。</p> <p>履修登録期間中でも重要な内容が続くので、履修希</p>		

<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>授業中に適宜参考書を紹介する。</p>	<p>講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス(スマートフォン、タブレット、ノートPC)は必須(困難な学生は事前に教務に相</p>
		<p>その他・ 特記事項</p> <p>実務経験：民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わる。自らもソーシャルビジネス起業経験を有す。各種起業塾講師、持続可能経営志向の創業支援多数。</p>



授業科目		ソーシャルビジネス・プランニング					
担当教員	秋葉 芳江			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>では、ソーシャルビジネスの形成過程を理解する。創業者が事業化に進む時の“スイッチ”はどこで押されるのか、事業原動力、継続モチベーションは何か、事例から理解する。ソーシャルビジネス事業が創業者の体験や価値観と深くつながっていること、事業における理念（哲学）の重要性を理解する。アイデアにテクノロジーを活用する具体および、サプライチェーンからの発想を理解する。受講を通じて、生き方が働き方とつながっていること、未来構想力がカギになることも理解する。（毎週2コマ連続での開講。開講曜日に注意）</p> <p>なお、～通して、起業に必要な主要な要素を履修でき、ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。</p> <p>民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わり、自らも起業経験を有し、現在も各種起業塾講師およびソーシャル・イノベーションを創出する本学CSI運営を担う経験をふまえ、実践的な講義を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアへのテクノロジー活用を理解する</li> <li>・サプライチェーンを意識してビジネスを理解する</li> <li>・マネタイズの基本について理解する</li> <li>・未完成ながらビジネスアイデアをピッチできるようになる</li> </ul>			
教授方法	<p>レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。ワークを多用する。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。履修期間を通じてアイデアレビューを繰り返す。オンラインツールを多用しオンライン空間での学びも行う。</p>						
履修条件	<p>二年次のキュレーター概論履修済を強く推奨する。起業志向の学生の履修を推奨する。可能であればソーシャルビジネス・プランニング～通して履修することを強く推奨する。（～通して、起業に必要な主要な要素を履修でき、ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。）</p> <p>履修希望者は、～のシラバス内容をよく確認すること。上記を踏まえ、ソーシャルビジネス・プランニング～を連続で履修登録することを推奨するが、～のみの履修希望者にも配慮する。履修登録期間中に相談されたい。</p> <p>なお、起業志向までいかずともアントレプレナーシップを実践的に身につけたい学生の履修も歓迎する。</p>						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。ソーシャルビジネスのプランニングの基本的スキーム復習。（6/4）						
2	ソーシャルビジネス起業家から学ぶ（事業動機、モチベーション、経営理念）。オンラインゲスト予定（6/4）						
3	生きた経営理念にするには（6/11）						
4	仲間を集める、仲間になる。プレストの習慣化。（6/11）						
5	テクノロジーを活用する（アイデア編）（6/18）						
6	テクノロジーを活用する（手を動かす編）（6/18）						
7	テクノロジーの可能性（6/25）						
8	サプライチェーンと四方よし（6/25）						
9	利益を考える（7/2）						
10	利益を生む仕組み・アイデア（7/2）						
11	リアルビジネスから学ぶ（7/9）						
12	ビジネスアイデア再考 “愛”はあるか？（7/9）						
13	アイデアピッチ（7/16）						
14	まとめ（7/16）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
指定する回の成果物	30	適切に講義内容に取り組んでいること。理解度。			最終日のアイデアピッチ	70	講義内容を踏まえていること、および、提案アイデアが新たな課題を生まないこと。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回の講義の時間は、自らのプランを磨き上げていくステップとして使うこと。したがって事前学習として次回講義に向けて講義中に指示する内容について予め思考、探索して置くこと。指定するオンラインドキュメント類等による学び。CSI主催「公開講座」「経営者トークライブ」「コラボ公開講座」等への参加を推奨する（平日19-21時開催）。参加によってより理解が深まる。開催情報はCSI公式Facebookページ掲載。持続可能経営に取り組む経営者の生の知見に触れる学外の機会を積極的に活用することを推奨する。</p>				<p>メールは随時受け付ける。予約の上でのCSI(後町キャンパス)への来訪又はオンラインでの対応。特に独立起業志向の学生は上記による随時相談を大いに歓迎する。</p>			
				<p>受講生に望むこと</p> <p>講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス(スマートフォン、タブレット、ノートPC)は必須（困難な学生は事前に教務に相談）。</p>			

教科書・テキスト	特になし	その他・特記事項	実務経験：民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わる。自らもソーシャルビジネス起業経験を有す。各種起業塾講師、持続可能経営志向の創業支援多数。
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する		

授業科目		ソーシャルビジネス・プランニング					
担当教員	秋葉 芳江			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>はプランニング実践編。を履修済であることが望ましい。実務的な指導を含めて実際のプランニングに本格的に取り組む。講義と実習から基本的なプランニング力を身につける。ではプランニングに必要な要素、事業化する際のポイントを理解する。模擬プランニングを行い、さらに“よいビジネス”にするにはどうすべきか机上検討し、グループ討議では視点の多様性の価値を理解する。（毎週2コマ連続での開講。開講曜日に注意）</p> <p>なお、～通して、起業に必要な主要な要素を履修でき、ではシートマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。</p> <p>民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わり、自らも起業経験を有し、現在も各種起業塾講師およびソーシャル・イノベーションを創出する本学CSI運営を担う経験をふまえ、実践的な講義を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスモデル要素を深く理解する</li> <li>・ビジネスを取り巻く実務要素を知る</li> <li>・バックオフィスを理解してビジネスを構築できるようになる</li> <li>・様々なテクノロジーの動向を理解しビジネスでの活用を理解する</li> </ul>			
教授方法	<p>レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。ワークを多用する。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。履修期間を通じてアイデアレビューを繰り返す。オンラインツールを多用しオンライン空間での学びも行う。</p>						
履修条件	<p>二年次のキュレーター概論履修済を強く推奨する。起業志向の学生の履修を推奨する。可能であればソーシャルビジネス・プランニング～通して履修することを強く推奨する。（～通して、起業に必要な主要な要素を履修でき、ではシートマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。）</p> <p>履修希望者は、～のシラバス内容をよく確認すること。上記を踏まえ、ソーシャルビジネス・プランニング～を連続で履修登録することを推奨するが、のみ、のみの履修希望者にも配慮する。履修登録期間中に相談されたい。</p> <p>なお、起業志向までいかずともアントレプレナーシップを実践的に身につけたい学生の履修も歓迎する。</p>						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。ソーシャルビジネス・プランニング～振り返り。（9/24）						
2	ソーシャルビジネス起業家から学ぶ（9/24）						
3	他者事業からビジネスモデル机上演習（10/1）						
4	他者事業からビジネスモデル机上演習（10/1）						
5	グローバル視点でビジネスを捉える（10/8）						
6	海外ソーシャルビジネス事例からヒントを探る（10/8）						
7	テクノロジーを活用する2（10/15）						
8	テクノロジーを活用する2（手を動かす編）（10/15）						
9	ビジネスと法律・知財（10/22）						
10	ビジネスと組織（10/22）						
11	ビジネスを支える”バックオフィス”を知る（ゲスト予定）（10/29）						
12	マイビジネスのバックオフィスを考える（10/29）						
13	スモールビジネスとポートフォリオ（11/5）						
14	まとめディスカッション＝そのアイデアは未来をどう変えるのか＝（11/5）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
指定する回の成果物	30	適切に講義内容に取り組んでいること。理解度。			まとめディスカッション	70	講義内容を踏まえていること、および、アイデアの世界観が示されていること
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回の講義の時間は、自らのプランを磨き上げていくステップとして使うこと。したがって事前学習として次回講義に向けて講義中に指示する内容について予め思考、探索しておくこと。指定するオンラインドキュメント類等による学習。CSI主催「公開講座」「経営者トークライブ」「コラボ公開講座」等への参加を推奨する（平日19-21時開催）。参加によってより理解が深まる。開催情報はCSI公式Facebookページ掲載。持続可能経営に取り組む経営者の生の知見に触れる学外の機会を積極的に活用することを推奨する。</p>				<p>メールは随時受け付ける。予約の上でのCSI(後町キャンパス)への来訪又はオンラインでの対応。特に独立起業志向の学生は上記による随時相談を大いに歓迎する。履修登録時点で具体的な事業プランや希望がある学生は、相談に応じる。</p>			
				受講生に望むこと	<p>講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス(スマートフォン、タブレット、ノートPC)は必須（困難な学生は事前に教務に相談）。</p>		

教科書・テキスト	特になし		講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス(スマートフォン、タブレット、ノートPC)は必須(困難な学生は事前に教務に相
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する	その他・特記事項	実務経験：民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わる。自らもソーシャルビジネス起業経験を有す。各種起業塾講師、持続可能経営志向の創業支援多数。

授業科目		ソーシャルビジネス・プランニング					
担当教員	秋葉 芳江			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>では、～の集大成としてマイプランを仕上げる。ライフプランも並行させ、なりたい自身の姿を投影したビジネスプランニングの実務を含む指導を行う。事業内容は仮想でも可。各自プランをグループワークで相互ブラッシュアップを重ね講義最後にプレゼンテーションする。事業内容によってはトライアル実施も可能としたい。</p> <p>受講を通じて、生き方と働き方を乖離させないことを具体的に理解し、一歩踏み出す自信、挑戦する楽しみを知る。なお、具体的な事業化を希望する学生には、CSIで創業実務を含めて支援することが可能。（毎週2コマ連続での開講。開講曜日に注意）</p> <p>民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わり、自らも起業経験を有し、現在も各種起業塾講師およびソーシャル・イノベーションを創出する本学CSI運営を担う経験をふまえ、実践的な講義を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能なビジネスを自ら構築できる</li> <li>・生き方と働き方（仕事）を乖離させないプランニングができる</li> <li>・アントレプレナーシップを身につける</li> </ul>			
教授方法	<p>レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。ワークを多用する。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。履修期間を通じてアイデアレビューを繰り返す。オンラインツールを多用しオンライン空間での学びも行う。</p>						
履修条件	<p>二年次のキュレーター概論履修済を強く推奨する。起業志向の学生の履修を推奨する。可能であればソーシャルビジネス・プランニング～を通して履修することを強く推奨する。～を通して、起業に必要な主要な全要素を履修でき、～ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。履修希望者は、～のシラバス内容をよく確認すること。上記を踏まえ、ソーシャルビジネス・プランニング～を連続で履修登録することを推奨するが、～のみの履修希望者にも配慮する（ただし、必ず履修登録期間中に十分相談されたい）。なお、起業志向までいかずともアントレプレナーシップを実践的に身につけたい学生の履修も歓迎する。</p>						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。ソーシャルビジネスのプランニングの基本的スキーム復習。（11/26）						
2	マイアイデア プレビュー（11/26）						
3	”事業計画書”の機能（12/3）						
4	ビジネスモデル再考（12/3）						
5	資金調達（12/10）						
6	人材（12/10）						
7	マイビジネスの価値循環を考える（12/17）						
8	提供価値を可視化する（プロトタイプ）（12/17）						
9	プロトタイプのテストレビュー。事業計画レビュー。（1/7）						
10	創業実務（創業、登記、企業内ベンチャー等）（1/7）						
11	事業計画 レビュー（1/14）						
12	経営者の孤独（1/14）						
13	ファイナルプレゼンテーション（1/21）						
14	まとめ = work as life で生きていく =（1/21）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
指定する回の成果物	30	適切に講義内容に取り組んでいること。理解度。			ファイナルビジネスプラン	70	講義内容を踏まえていること、持続可能なビジネスであること、プラン内容が自分自身と乖離していないこと、アントレプレナーシップがあること
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回の講義の時間は、自らのプランを磨き上げていくステップとして使うこと。したがって事前学習として次回講義に向けて講義中に指示する内容について予め思考、探索しておくこと。指定するオンラインドキュメント類等による学習。CSI主催「公開講座」「経営者トークライブ」「コラボ公開講座」等への参加を推奨する（平日19-21時開催）。参加によってより理解が深まる。開催情報はCSI公式Facebookページ掲載。持続可能経営に取り組む経営者の生の知見に触れる学外の機会を積極的に活用することを推奨する。</p>				<p>メールは随時受け付ける。予約の上でのCSI（後町キャンパス）への来訪又はオンラインでの対応。特に独立起業志向の学生は上記による随時相談を大いに歓迎する。</p>			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	<p>講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス（スマートフォン、タブレット、ノートPC）は必須（困難な学生は事前に教務に相談）。</p>		

参考書・ 参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。	その他・ 特記事項	実務経験：民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わる。自らもソーシャルビジネス起業経験を有す。各種起業塾講師、持続可能経営志向の創業支援多数。
---------------	-----------------	--------------	--

授業科目		コミュニティ・デザイン（各論）						
担当教員		由井 真波			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生		グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要					授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>ソーシャルな課題を、人々の繋がり・関係性に着目し、解決へとアプローチする「コミュニティデザイン」的な思考力を身に付けることを目標とする。講義と、グループワークによる体験学習を行う。授業で紹介する事例や活用する手法・ツールは、地域の現場で多様な主体者とともにデザインプロジェクトを推進してきた、講師による実例を素材とする。</p> <p>：地縁型やテーマ型などコミュニティの多様なフィールドと、コミュニティデザインの実践例を知る。：の事例をもとにコミュニティデザインの構造を知り、実際の現場で用いられる手法（フィールドワーク、ワークショップなど）を知る。海外プログラム体験をもとに考察する。：の手法の一部を実践する。</p>					<p>ねらい ・社会的な課題を身近なコミュニティの中に発見し、自分ごとに引きつけ、解決に向けた具体的なアプローチを実践するための基礎的な力のうち、主としてデザイン的な思考力を身に付けることをねらいとする。</p> <p>到達目標 実社会の多様なコミュニティを構成する人々に注目し、背景にある思いや相互の働きかけを見つけ出し、記述することができる。 人々の活動を活性化する、コミュニティの「場」のあり方について自身なりの具体的な見解を示せる。 コミュニティデザインの基礎スキルである、他者との創造的な対話に係る基本的な技術を身に付ける。</p>			
教授方法		講義と演習を織り交ぜた形式。随時グループワークを行う。また、学外へのフィールドワークを行う。						
履修条件		特になし						
授 業 計 画								
実施回	授業内容							
1	授業の位置付け、進め方について理解する。コミュニティデザインの概要について知る。							
2	実例をもとにコミュニティデザインのプロセスについて理解する。							
3	ワークシートを用い、現実のコミュニティにおける人々の関係性に注目する。							
4	ワークシートを用い、現実のコミュニティにおける人々の関係性を考察する。							
5	グループワーク（海外プログラムでのコミュニティ体験から） 適宜講義を交える。							
6	グループワーク（海外プログラムでのコミュニティ体験から） 適宜講義を交える。							
7	グループワーク（寮・三輪でのコミュニティ体験から） 適宜講義を交える。							
8	フィールドワーク（まち歩き）							
9	フィールドワーク（まち歩き）							
10	フィールドワークをもとにコミュニティ視点から現場の状況と課題をまとめる。							
11	フィールドワークをもとにコミュニティ視点から現場の状況と課題をまとめる。							
12	発表の準備を行う。							
13	発表と意見交換							
14	まとめ・振り返りと最終レポート作成							
共通の評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	70	授業内で使用するワークシートやコメントシートの提出状況や成果に応じて評価する。（40%） 最終レポートにてコミュニティデザイン的な思考			その他の授業評価	30	授業内のグループワークほか共創への参加と貢献に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応			
<p>日頃から、様々な「コミュニティ」とそこで起こっている「人々の相互の働きかけ」について意識する 自身がこれまで関わってきた、異なる「コミュニティ」を意識し、その違いを考察する（血縁や地縁によるコミュニティ、寮生活のコミュニティ、海外生活のコミュニティなど） 履修生には、簡単な事前課題（画像データ集めなど）と準備物を別途連絡する。</p>					<p>・質問は、主として授業中や授業の前後に受け付ける。 ・予備的に、メールでの質問も受け付ける。（アドレスは授業内およびガイダンスにて紹介）</p>			
教科書・テキスト	特になし				受講生に望むこと	<p>毎回、スマホやノートPC、タブレットなどWEBサーチできるツールを持参。 その他、ワークに必要なツールは授業初回に紹介、各自用意のこと。（ふせんやマーカーなど）</p>		
参考書・参考資料等	講座内で適宜資料配付、参考書の紹介を行う。				その他・特記事項	<p>受講は20名程度を想定、履修希望者多数の場合は簡単なアンケートとともに抽選を行う。 フィールドワークの受け入れ先との調整により、授業の進行は変更することがあり、授業内で案内する。 本講座は集中講義であり、上記の14回を土曜・日曜を含む4日に分けて実施する。</p>		

授業科目		コミュニティ・デザイン（各論）					
担当教員	由井 真波			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>地域における身近なコミュニティをフィールドとして、「コミュニティデザイン」的な行動力を身に付けることを目標とする。フィールドワークを中心に、グループワークによる体験学習を行う。</p> <p>授業で紹介する事例や活用する手法・ツールは、地域の現場で多様な主体者とともにデザインプロジェクトを推進してきた、講師による実例を素材とする。</p> <p>：フィールドワーク、ヒアリングをもとに、県立大が位置する身近な地域のコミュニティにおける課題を発見する ：課題を設定し、解決へ向け、ワークショップを経て提案する ：の提案の一部をデザイン手法を用いて実験的に実施する（プロトタイピング） ：を通してコミュニケーション力を高める</p>				<p>ねらい ・社会的な課題を身近なコミュニティの中に発見し、自分ごとに引きつけ、解決に向けた具体的なアプローチを実践するための基礎的な力のうち、主としてデザイン的な行動力を身に付けることをねらいとする。</p> <p>到達目標 身近なコミュニティが抱える課題の中から、適正規模かつ具体的なイシューを設定することができる。 イシューに対し、「自分ごと」としての具体的な提案を行うことができる。 。コミュニティデザインの基礎スキルである、他者とともに創案し表現する基本的な技術を身につける。</p>			
教授方法	演習を主に、一部講義を交えた形式。随時グループワークを行う。また、学外へのフィールドワークを行う。						
履修条件	特になし						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	授業の位置付け、進め方について理解する。コミュニティデザインの概要について知る。						
2	コミュニティデザイン各論Ⅰの成果から、地域の現状と関係性を知る。						
3	フィールドワーク（まち歩き）						
4	グループワーク（身近なコミュニティの課題整理とテーマ検討）						
5	フィールドワーク（まち歩き）						
6	フィールドワーク（まち歩き）						
7	グループワーク（現状共有と方向性検討）						
8	フィールドワーク（イシューを想定したまち歩き）						
9	フィールドワーク（イシューを想定したまち歩き）						
10	グループワーク（提案作成：プロトタイピング含む）						
11	グループワーク（提案作成：プロトタイピング含む）						
12	発表の準備を行う						
13	発表と意見交換						
14	まとめ・振り返りと最終レポート作成						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	70	授業内で使用するワークシートやコメントシートの提出状況や成果に応じて評価する。（40%） 最終レポートにてコミュニティデザイン的な提案		上記以外の授業評価	30	授業内のグループワークほか共創への参加と貢献に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>日頃から、様々な「コミュニティ」とそこで起こっている「人々の相互の働きかけ」について意識する。</p> <p>人々の活動を相互に活性化させる取り組みやプロジェクトについて注目し、その仕組みを考察する。</p> <p>履修生には、簡単な事前課題と準備物を別途連絡する。</p>				<p>・質問は、主として授業中や授業の前後に受け付ける。</p> <p>・予備的に、メールでの質問も受け付ける。（アドレスは授業内およびガイダンスにて紹介）</p>			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	<p>毎回、スマホやノートPC、タブレットなどWEBサーチできるツールを持参。</p> <p>その他、ワークに必要なツールは授業初回に紹介、各自用意のこと。（ふせんやマーカーなど）</p>		
参考書・参考資料等	講座内で適宜資料配付、参考書の紹介を行う。			その他・特記事項	<p>2学期に開講する「コミュニティデザイン各論Ⅰ」と連続で受講することが望ましい。</p> <p>受講は20名程度を想定、履修希望者多数の場合は簡単なアンケートとともに抽選を行う。</p> <p>フィールドワーク受け入れ先の調整により授業の進行は変更することがあり、授業内で案内する。</p> <p>本講座は集中講義であり、上記の14回を土曜・日曜を含む4日に分けて実施する。</p>		



授業科目	マーケティングリサーチ						
担当教員	中村 陽人			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>近年の企業経営では、大企業はもとより中小企業であっても、実証的なデータを取得・分析し、その結果に基づく意思決定を行なおうとする動きが加速しており、調査・分析にかかわる知識やスキルがビジネスパーソンに強く求められるようになってきている。本授業では実証的な手法の中でも特に定量的な調査手法に重点を置き、その知識とスキルの習得を目指す。講義中心であるが実際の調査票を比較したり、標本サイズを算出してサンプリングを実施したりするなど、適宜、実習的な要素を取り入れる。また、実際に企業で行われた調査について取り上げ、意図や問題点を考察するなど、実務の世界でいかに適用するか、という実践的な視点を重視する。なお、ここで得られる知識やスキルは主張（提案）の強力な根拠となるものであり、実証研究にもそのまま活かすことができる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種調査手法の特徴を理解し、目的に合った調査手法を正しく選択することができる。</li> <li>・各種調査手法を実際に用いて、必要なデータを入手することができる。</li> </ul>			
教授方法	<p>授業はPowerPointを利用して講義形式で行なう。配布資料に定義や細かな表などはすべて載せているので、授業中は全体の概要をおさえたいうえで、何が重要なのかを考える。授業では事例を多く提示するとともに、積極的に履修者にも具体例を考えてもらう時間をとり、抽象的な概念をできるだけ具体化できるように支援する。また、毎回授業の最初に、前回授業の内容に関連した復習テストを行なう。授業の内容を振り返り知識の定着を図るとともに、出席や事前準備（前回の復習）などを確認し、努力を最終評価に反映できるようにする。</p>						
履修条件	特になし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、調査・分析のための基礎知識						
2	調査手法とデータの分類						
3	質問法（測定と尺度）						
4	質問法（構成概念と妥当性）						
5	質問法（調査票の作成）						
6	質問法（調査票の作成）						
7	質問法（標本抽出）						
8	質問法（標本抽出）						
9	質問法（標本サイズの決定）						
10	質問法（データ収集）						
11	実験法						
12	投影法						
13	面接法						
14	観察法						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	33	基礎知識の理解度を評価する。			レポート	17	授業で学んだ知識を、実際の調査計画や調査票にどれだけ適用できるかを評価する。
復習テスト	50	毎回授業の最初に行ない、前回授業の内容に関する定着度を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業後には配布資料を用いて授業内容を復習し、次回授業の最初に行う復習テストに備える。				質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。また、メールでの質問も随時受け付ける。			
教科書・テキスト	教科書は使わず、毎回資料を配布する。			受講生に望むこと	授業で扱われたトピックについて、日々の生活の中で実例を探すこと。		
参考書・参考資料等	授業の中で参考文献の一覧を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		マーケティング論							
担当教員		今村 英明		必修・選択		選択	単位数	2単位	
履修年次		2年	開講学期		3・4学期	授業形態		講義	科目ナンバリング
対象学生		グローバル専攻	関連資格			備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）					
この科目は、専門科目の経営系の展開科目に位置付けられています。 企業が市場（マーケット）に商品やサービスを提供するための諸活動がマーケティングです。マーケティングを効果的に行うためには、市場をよく理解しなければなりません。市場を調べて、市場で起きていることを理解する活動をマーケティング調査（マーケティング・リサーチ）と呼びます。この授業は、新しい店舗を企画していくプロセスを例に、マーケティング調査の意義や役割、基本的なプロセスについて学ぶとともに、計画的・合理的に調査を行う能力と態度を習得することを目的としています。マーケティング調査の手順と方法や情報の収集と分析の手法について概説したうえで、実際にマーケティング調査を行う課題を設定し、情報の収集や分析から企画の作成までを体験的に学習できるように工夫しています。 学生グループが、授業で学んだことを活用して、新しい商店のコンセプトを作成し、そのマーケティング企画を検討し、コマーシャルの制作・				（１）マーケティング調査と商品企画に関する基本的な概念や手法、プロセスを理解します。 （２）将来の職業キャリアの中で、市場をよりよく観察・理解し、自分で新たなビジネス機会を探索し、新しい商品やサービスの仮説を作り、さらにそれを検証して実現していくための基礎を作ります。 （３）マーケティング・リサーチと商品企画への関心を高め、さらに深く学ぼうという意欲を高めるきっかけにします。					
教授方法		教科書と教員の提供する教材に関するディカッション、講義、グループ・ワーク（商店・商品に対する市場調査、マーケティング企画、コマーシャル作成・発表）の組み合わせで行います。							
履修条件		できれば事前に「マーケティング基礎」の履修が望ましいです。							
授業計画									
実施回	授業内容								
1	0 オリエンテーション：授業開始に当たって、授業の目標、進め方、学生プロジェクトの概要、過去の事例紹介などです。また「マーケティングとは何か？」について講義します。								
2	1 探索的調査（Ⅰ）商品企画プロセス：探索的調査、コンセプト・デザイン、検証的調査、企画書作成、という一連の商品企画プロセスの概要を学びます。								
3	1 探索的調査（Ⅱ）インタビュー法：ターゲット顧客が本当に欲しいものを知るために、顧客インタビューを行います。ここでは、効果的なインタビュー方法について学びます。								
4	1 探索的調査（Ⅲ）観察法：顧客の「潜在ニーズ」を発見するための効果的な手法である「観察法」（エスノグラフィー）の進め方や留意点について学びます。								
5	1 探索的調査（Ⅳ）リード・ユーザー法：先端的顧客（リード・ユーザー）に、アイデア出しや商品化プロセスに参加してもらってリード・ユーザー法の進め方や留意点について学びます。								
6	1 探索的調査 学生プロジェクトの中間発表 これまで学生グループで調べた結果を発表して、今後の進め方を考えます。								
7	2 コンセプト・デザイン（Ⅰ）アイデア創出：新商品のアイデア創出の方法、進め方、留意点について、学びます。								
8	2 コンセプト・デザイン（Ⅱ）コンセプト開発：商品コンセプトの役割、コンセプト開発と検証の進め方、留意点について学びます。								
9	2 コンセプト・デザイン（Ⅲ）プロトタイプング：新商品コンセプトを実際に試作し、顧客ニーズに合致しているかの検証を行うプロトタイプングの進め方、留意点について学びます。								
10	2 コンセプト・デザイン 学生プロジェクトの中間発表 これまで学生グループで検討した結果を発表して、今後の進め方を考えます。								
11	3 検証的調査（Ⅰ）競合・技術の確認：競争相手に勝てるかどうか、あるいは自社が技術的に提供可能か、などの要素を確認する仕方や留意点について学びます。								
12	3 検証的調査（Ⅱ）顧客ニーズの確認：新商品が、顧客ニーズに合致するか様々なサンプリング・テストを通じて確認する仕方、アンケート調査の仕方、留意点について学びます。								
13	4 企画 販促提案：顧客に新商品に気づき、興味を持ち、購買を検討してもらうための広告宣伝などの販促促進（プロモーション）の検討の仕方、留意点について学びます。								
14	5 総まとめ：学生プロジェクトの結果（コマーシャル動画と店舗チラシまたはポスター）を発表して頂きます。また授業の総まとめを行います。								
共通の評価基準									
成績評価方法と基準									
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準		
授業シートの記入・提出	33	授業への参加度、理解度の確認			グループ・プロジェクト	67	グループプロジェクトの成果物で評価します。プロジェクトは、市内の新しいお店を企画し、マーケティング戦略を検討し、CMとチラシを制作してもらい		
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応				
・シラバスと授業で指定された教科書の内容を予習してきてください。 ・グループ・プロジェクトに取り組んで、結果をクラスで発表してください。					・質問は、授業中や授業の前後に受け付けます。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをします。 ・メールでの質問も受け付けます。 アドレス：h_imamura@shinshu-u.ac.jp または 18000608@u-nagano.ac.jp				
教科書・テキスト	西川英彦・廣田章光 編著 『1からの商品企画』、碩学舎/中央経済社、2012年。				受講生に望むこと	毎回、楽しく、かつ真摯に課題やディスカッションに取り組んでください。授業では、遠慮なく、どしどし質問・発言してください。			
参考書・参考資料等	石井淳彦・廣田章光、『1からのマーケティング』第3版、中央経済社、2009年。小川孔輔、『マーケティング入門』日本経済新聞出版社、2009年。フィリップ・コトラー『コトラーのマーケティング3.0』（恩蔵監訳、藤井訳）。				その他・特記事項	実務家としての経験：商社で海外プロジェクトを8年、経営コンサルタントを通算19年、企業アドバイザーを8年、NGOの役員を8年、企業の社外取締役を5年経験しています。マーケティングのアドバイスも行っています。			

授業科目	消費者行動論						
担当教員	中村 陽人			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本授業は心理学や社会学、経済学など複数の学問領域の知見を適宜利用しながら、購買意思決定を行う消費者について深く理解することを目的とする。授業は4つのパートで構成され、最初のパート（1、2）では、消費者行動について主に研究の視点から概要をまとめる。第2パート（3～7）では購買意思決定に影響を与える消費者個人の内部要因、第3パート（8～10）では消費者を取り巻く外部要因について詳細をまとめる。最終パート（11～14）ではそれまでの知見を統合し、情報処理と購買意思決定のメカニズムを明らかにする。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者の購買意思決定に影響を及ぼす内的要因と外的要因について理解し、情報処理や意思決定のメカニズムを説明することができる。</li> <li>・抽象的な効果や理論を実際の具体的な事例で置き換えることができる。</li> </ul>			
教授方法	<p>授業はPowerPointを利用して講義形式で行なう。配布資料に定義や細かな表などはすべて載せているので、授業中は全体の概要をおさえたうえで、何が重要なのかを考える。授業では事例を多く提示するとともに、積極的に履修者にも具体例を考えてもらう時間をとり、抽象的な概念をできるだけ具体化できるように支援する。また、毎回授業の最初に、前回授業の内容に関連した復習テストを行なう。授業の内容を振り返り知識の定着を図るとともに、出席や事前準備（前回の復習）などを確認し、努力を最終評価に反映できるようにする。</p>						
履修条件	<p>特に条件はないが、マーケティングの諸科目と関連性が深いので、特に「マーケティング入門」、「マーケティングリサーチ」を履修しておくことが望ましい。</p>						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、消費者行動論とは						
2	消費者行動研究の変遷						
3	個人特性と関与						
4	知覚						
5	動機づけと学習						
6	態度						
7	満足とロイヤルティ						
8	他者と集団						
9	文化						
10	コミュニケーション						
11	認知バイアス						
12	合理的な意思決定						
13	意思決定の方略						
14	情報処理と意思決定						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	基礎知識の理解度を評価する。			復習テスト	50	毎回授業の最初に行ない、前回授業の内容に関する定着度を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>授業後には配布資料を用いて授業内容を復習し、次回授業の最初に行う復習テストに備える。</p>				<p>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。また、メールでの質問も随時受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	教科書は使わず、毎回資料を配布する。			受講生に望むこと	授業で扱われたトピックについて、日々の生活の中で事例を探すこと。		
参考書・参考資料等	授業の中で参考文献の一覧を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		簿記システム論					
担当教員	中村 文彦			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>アカウントिंगが対象とするのは、企業のビジネス活動を資金の面からとらえて、これを記録し、その顛末を利害関係者（ステークホルダー）に会計情報として報告する一連のプロセスである。会計情報がどのように作成され報告されるかによって、その後の企業行動や利害関係者の行動に影響を受け、その結果、マクロ経済上のパラメータも動かされるため、アカウントिंगはとても重要な役割を担っている。本講義では、アカウントINGを支える複式簿記について学ぶ。</p>				<p>講義では、次の二つの目標を設定する。  複式簿記の思考と技法を身につけること  財務諸表の構造等に関する基本事項を学習し理解すること</p>			
教授方法	一方的に講ずるのではなく、適宜、演習を織り交ぜながら授業を進める予定である。						
履修条件	アカウントING入門を履修済みであること（単位習得は問わない）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	簿記一巡のプロセス						
2	現金預金取引 学習事項：現金預金取引、現金勘定、現金過不足、現金出納帳、						
3	現金預金取引 学習事項：当座預金、当座借越契約、当座預金出納帳、小口現金						
4	商品売買取引 学習事項：商品売買取引、取得と売却の会計処理、保有中の会計処理、						
5	商品売買取引 学習事項：商品有高帳、売上原価の計算						
6	手形取引 学習事項：手形、手形の会計処理、受取手形記入帳と支払手形記入帳、金融手形の会計処理						
7	その他の債権・債務 学習事項：貸付金・借入金、未収入金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、						
8	債権の回収と貸倒れ 学習事項：売上債権の性質、クレジット売掛金、貸倒れの発生と見積り、貸倒引当金の会計処理、						
9	有価証券の取引 学習事項：有価証券の分類、有価証券の会計処理、有価証券の区分と会計処理						
10	固定資産の取引 学習事項：固定資産の分類、有形固定資産の会計処理、無形固定資産の会計処理						
11	費用・収益 学習事項：費用収益の見越しと繰延べ、経過勘定の分類、費用の繰延べ、収益の繰延べ、費用の見越し、						
12	純資産と税金 学習事項：純資産の概念、個人企業の資本金勘定、個人企業の税金、株式会社の純資産、株式会社の税金						
13	決算 学習事項：決算情報のニーズ、決算予備手続き、決算本手続き、財務諸表の作成						
14	総合演習						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	40	評価基準：前回学習した内容について定着度合いを評価します。		期末テスト	60	講義全体の学習内容について試験を行い、理解度・習熟度等を評価します。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストを一読してから授業に出席し、学習したことはその日のうちにすぐ復習し身に付けるよう心がけること。また、企業が公表する各種情報にも日常から関心を持つこと。				授業後において対応する。			
教科書・テキスト	中村文彦『簿記の思考と技法』森山書店。			受講生に望むこと	主体的に学習に取り組むこと		
参考書・参考資料等	講義中にプリントを配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		管理会計						
担当教員		衣川 修平		必修・選択	選択	単位数	2単位	
履修年次		2年	開講学期	3学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生		グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)				
<p>主に製造業において、製品を作る場合、製品の種類も多種多様であり、製造工程も複雑であり、またヒトやモノも複数の製品や複数の工程、部門に複雑に関与しています。中、上級の工業簿記では、このような複雑性に対応した、工業簿記システムを構築することで、会計数値の側面から、コントロールとマネジメントを試みます。本講義では、これらの中、上級の工業簿記の計算システムを、問題演習によって実際に電卓をたたいて計算しながら、身につけていくものとします。</p> <p>原価計算入門に引き続き、本講義でも、電卓を叩いて、叩いて、叩きまくりませう。</p>				<p>本講義では、企業会計で学んだ初等工業簿記の知識を前提として、中・上級の工業簿記を学ぶ。中・上級の工業簿記を学ぶことによって、主に製造業における生産活動のコントロールと、その組織をマネジメントするための実践的な能力を身につけるものとします。</p>				
教授方法		講義。随時、電卓を使った問題演習を行います。						
履修条件		原価計算入門を履修していること、ないし原価計算の基礎を習得している者。						
授 業 計 画								
実施回	授業内容							
第1回	工業簿記の現代的意義とその歴史的展開							
第2回	単純個別計算							
第3回	部門別個別計算							
第4回	単純総合計算							
第5回	工程別総合計算							
第6回	組別総合原価計算							
第7回	個別原価計算							
第8回	標準原価計算							
第9回	工程別標準原価計算							
第10回	標準原価差異							
第11回	CVP分析							
第12回	直接原価計算							
第13回	品質原価計算							
第14回	セグメント別損益計算							
共通の評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
正規試験(筆記)	80	定期試験では点数で評価したうえで、講義全体の理解度を勘案して評価する。			小テスト	20	講義内容を修得したかどうか、3回に一度ほど、小テストを行う。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応				
問題集を指定するので、それを解いてください。				講義中にオフィスアワーを指定します。メールでの質問も随時受け付けます。				
教科書・テキスト	随時指定します。			受講生に望むこと	会計科目は問題を解かない限り身に付きません。一緒に電卓をたたきまくりませう。			
参考書・参考資料等	岡本清著『原価計算』国元書房 廣本敏郎・挽文字著『原価計算論』中央経済社 岡本清・廣本敏郎(編集)『検定簿記ワークブック/1級工業簿記・原価計算(上・下)』中央経済社			その他・特記事項	Email: kinugawa.shuhei u-nagano.ac.jp			

授業科目		財務会計入門					
担当教員	中村 文彦			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>企業は、ビジネス活動を財務数値により捉え要約情報へと変換し、それをディスクロージャー制度を通じて、効率的・効果的にステークホルダーに供給します。一方、各ステークホルダーは、経済的な意思決定を行うために、財務情報の需要者となり、自己の利害を極大化しよう行動しようとする。本講義では、財務情報に対する需給活動を適正に行うために必要となる会計ルールを考察する「財務会計」という会計領域に焦点を当て、その基礎理論を学習する。</p>				<p>財務会計の理論と会計処理の基礎を習得することが基本目標である。</p>			
教授方法	一方的に講ずるのではなく、適宜、演習を織り交ぜながら授業を進める予定である。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	財務会計の視点 学習事項：財務会計とは？、各種ステークホルダーとそれぞれの利害						
2	会計によるビジネス活動の描写と利益計算 学習事項：資金循環活動の描写、資金調達活動の会計描写、投下運用活動の会計描写、販売回収活動の会計描写						
3	会計に対する規制（会計基準と法規制） 学習事項：利益操作という問題、利益計算ルールへの規制の視点、会計原則と会計基準、制度会計（会社法会計、						
4	資金調達活動の会計（1）出資者からの資金調達 学習事項：会社の諸形態、会社の設立と会計処理、企業の資金調達と会計処理（1）自己資本による調達						
5	資金調達活動の会計（2）出資者以外からの資金調達 学習事項：企業の資金調達と会計処理（2）他人資本による調達（借入金、社債）						
6	投下運用・生産活動の会計（1）仕入活動と諸経費の会計処理 学習事項：商品等の仕入活動、材料等の仕入れと製造課程の記帳、人材の雇用と人件費の処理						
7	投下運用・生産活動の会計（2）設備投資と研究開発、生産活動 学習事項：固定資産への設備投資の会計処理、減価償却、減耗償却、減損会計、研究開発と無形資産の会計処理						
8	販売活動の会計 学習事項：販売の記録と売上原価の計算、売上代金の回収						
9	設備投資と研究開発 学習事項：企業における固定資産、固定資産の取得原価、減価償却、固定資産の減損						
10	設備投資と研究開発 学習事項：企業における研究開発活動、研究開発と無形固定資産、設備投資・研究開発と財務諸表						
11	税金と配当 学習事項：税金の種類、課税所得、確定決算主義、配当制限と債権者保護						
12	財務諸表の作成と見方 学習事項：財務諸表の体系、ディスクロージャー制度、各財務表の基本内容						
13	財務諸表分析 学習事項：財務諸表分析の視点と方法、収益性の分析、安全性の分析						
14	学習のまとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	40	前回学習した内容について定着度合いを評価する。		期末テスト	60	講義全体の学習内容について試験を行い、理解度・習熟度等を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストを一読してから授業に出席し、学習したことはその日のうちにすぐ復習し身に付けるよう心がけること。また、企業が公表する各種情報にも日常から関心を持つこと。				授業後に受け付ける。			
教科書・テキスト	桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門 -- 企業活動を描き出す会計情報とその活用』有斐閣。			受講生に望むこと	主体的に学習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中にプリントを配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		財務会計論					
担当教員	中村 文彦			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>企業は、ビジネス活動を財務数値により捉え要約情報へと変換し、それをディスクロージャー制度を通じて、効率的・効果的にステークホルダーに供給します。一方、各ステークホルダーは、経済的な意思決定を行うために、財務情報の需要者となり、自己の利害を極大化しようとする。本講義では、財務情報に対する需給活動を適正に行うために必要となる会計ルールを考察する「財務会計」という会計領域に焦点を当て、その中級レベルの理論と会計処理を学習する。</p>				<p>財務会計の理論と会計処理の中級レベルのスキルを習得することが基本目標である。</p>			
教授方法	一方的に講ずるのではなく、適宜、演習を織り交ぜながら授業を進める予定である。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ディスクロージャーの意義と種類 学習事項：ディスクロージャーの意義、会計情報の内容と範囲（定量的情報と定性的情報、基本財務諸表と補足情報その他の外部情報）、						
2	損益計算の仕組み 学習事項：損益計算の基本原則と財務諸表、フローに基づく損益計算のルール、ストックに基づく損益計算のルールと資本維持概念						
3	損益計算の基本思考 学習事項：損益計算の前提（会計公準）、会計ルールにおける損益計算の基本思考（財産法と損益法、棚卸法と誘導法、資産負債アプローチと						
4	キャッシュ・フロー情報の必要性 学習事項：キャッシュ・フロー情報の必要性、キャッシュフロー計算書の区分表示、キャッシュフロー計算書の作成方法						
5	会計ルールの設定システム 学習事項：会計ルール設定の重要性（会計の機能）、会計基準の設定プロセス、会計基準設定の2つのアプローチ、基準設定主体の性質と						
6	資産会計 学習事項：資産会計の意義、資産の分類、流動資産（当座資産、棚卸資産、その他の流動資産）の処理と表示、						
7	資産会計 学習事項：固定資産（有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産）の処理と表示、無形資産の処理と表示、繰延資産の処理と表示						
8	負債会計 学習事項：負債会計の意義、負債の分類と負債性引当金、流動負債の処理と表示						
9	負債会計 学習事項：固定負債の処理と表示、リース債権・債務の会計						
10	純資産会計 学習事項：純資産の部の構成、株主資本に関わる会計処理（払込資本の会計、留保利益の会計処理）、評価換算差額の会計処理、新株予約権						
11	外貨換算会計の基礎 学習事項：外貨建取引の意義、決算および決済時の会計処理、為替予約取引						
12	税効果会計の基礎 学習事項：税効果会計の意義、引当金に係る税効果会計、減価償却にかかる税効果会計、						
13	連結会計の基礎 学習事項：連結財務諸表の意義、資本連結の考え方、連結会社間取引の処理の考え方						
14	全体のまとめ、振り返り						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	40	前回学習した内容について定着度合いを評価する。		期末テスト	60	講義全体の学習内容について試験を行い、理解度・習熟度等を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストを一読してから授業に出席し、学習したことはその日のうちにすぐ復習し身に付けるよう心がけること。また、企業が公表する各種情報にも日常から関心を持つこと。				授業後に受け付ける。			
教科書・テキスト	新井清光・川村義則『新版現代会計学（第3版）』中央経済社。			受講生に望むこと	主体的に学習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	講義中にプリントを配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		金融論					
担当教員	永田 邦和			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>金融論は、経済における資金の循環を、制度や歴史、政策の観点から研究している。情報通信技術の発展により、瞬時に大規模な資金が国境を越えて取引されるようになり、ある国の金融危機が世界中に波及するようになった。金融業界の現状のみならず、日本や企業を取り巻く経済状況を理解するためにも、金融論の知識が必要になる。</p> <p>本講義では、グローバル・ビジネスコースのみならず、その他のコースの展開科目の学習に必要な基礎知識や予備知識の修得を目指し、貨幣や金利、金融機関、金融市場、金融政策、国際金融等の金融論の基礎知識を学習する。</p>				<p>本講義では、貨幣や金利、金融機関、金融市場、金融政策、国際金融に関する知識を身に付け、金融関係のニュースや出来事の背景を考察し、日本や世界の金融の現状のみならず、日本経済や企業を取り巻く経済状況を理解できるようにする。これらの知識は、今後のグローバル・ビジネスコースのみならず、その他のコースの展開科目の学習に必要な基礎的・予備的知識である。</p>			
教授方法	講義形式。授業中の練習問題や宿題を課すことがある。リアクションペーパーを配布するので、質問を記入すること。次回の授業で、質問に回答する。						
履修条件	経済学入門やファイナンス入門、ミクロ経済学を受講していると、授業内容を深く理解できる。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス・金融論で何を学ぶか						
2	貨幣（1）：貨幣の機能と定義						
3	貨幣（2）：新しい決済手段						
4	金利（1）：金利の概念と決定要因						
5	金利（2）：利率と債券						
6	金融政策のためのマクロ経済学						
7	金融政策の課題と日本銀行						
8	金融政策の基本手段と新しい展開						
9	金融システムと金融仲介機関の役割（1）：金融システムと金融仲介機関の機能						
10	金融システムと金融仲介機関の役割（2）：金融システムと金融仲介機関の現状						
11	金融システムの安定化のための政策						
12	金融市場と金融商品						
13	国際金融（1）：為替レートの決定理論						
14	国際金融（2）：国際収支						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記試験）	60	金融論の基礎理論の理解度に応じて評価する。		小テスト	30	3回程度小テストを行い、理解度に応じて評価する。	
授業レポート	0			上記以外の授業評価	10	授業中の練習問題の成果や宿題の提出状況等に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業前に教科書を読んで、予習すること。授業では教科書のレベルを超える内容も取り上げるので、授業後には、教科書とノート等でしっかりと復習すること。				リアクションペーパーを配布するので、質問を記入すること。次回の授業で、質問に回答する。 また、授業時間外では、研究室で質問を受け付ける。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。			
教科書・テキスト	家森信善（2019）『金融論』（第2版）、中央経済社。教科書に載っていない内容については、資料を配布する。			受講生に望むこと	教科書のレベルを超える内容も扱うので、参考書・参考資料等を読んだり、図書館で関連文献を探したりして、しっかりと自習すること。		
参考書・参考資料等	小林照義（2020）『金融政策』（第2版）、中央経済社。 川西諭・山崎福寿（2013）『金融のエッセンス』、有斐閣。 佐々木百合（2017）『国際金融論入門』、新世社。			その他・特記事項	受講生の理解度や関心に応じて、授業計画を変更することがある。		



授業科目		コーポレート・ファイナンス					
担当教員	小西 大			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
この授業では、コーポレート・ファイナンスの基本概念である「現在価値」に基づき、債券や普通株式等の金融商品やプロジェクトが評価されることを簡単な計算例を基に理解する。また、リスクとリターン、ポートフォリオ理論、資本支出予算、企業の資金調達などについて学習する。授業の理解を助けるために、何度か計算演習を行う予定である。				この講義ではコーポレート・ファイナンス（企業財務、企業金融ともいいます。）を理解するために必要な基本概念やアセット・プライシング（資産価格に関する考え方）について学習します。アセット・プライシングの基礎をしっかりと学習することで、日本経済新聞のマーケット総合面掲載記事の内容や証券投資の基礎を理解できるようになることが目標です。			
教授方法	事前に配付する講義資料に基づきパワーポイントを用いて講義します。また、グループワークを取り入れて、学生の皆さんにもパワーポイントを用いて発表してもらう予定です。講義内容を理解すると同時に、プレゼンテーションのスキルも習得できるように講義を構成する予定です。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス：授業の概要、目標、成績評価方法、その他注意事項について説明する。また、グループワークの取り組み方についても説明する。						
2	現在価値：現在価値の概念を説明した上で、応用例として株価や債券価格（理論価格）の求め方について説明する。						
3	市場の効率性（1）：市場の情報効率性に関する3つの概念について説明する。市場が効率的ではないことを示唆する現象を紹介する。						
4	市場の効率性（2）：市場が効率的ではないことを示唆する現象が起きるメカニズムを認知心理学などの知見に基づき説明する。						
5	情報の経済学と金融：モラルハザード・逆選択について説明する。モラルハザード・逆選択の解決方法を、マイクロファイナンス（貧困からの脱却を助ける金融サー						
6	第1回グループ発表						
7	中間試験：試験を実施し、その後解説を行う。						
8	証券投資：株式、債券（社債や国債）、投資信託などの投資対象について説明する。						
9	ポートフォリオ理論の基礎（1）：証券投資に関する基礎理論を説明する。証券投資のリターン（収益）、リスクといった概念を理解するために統計学の基礎的内容について説明						
10	ポートフォリオ理論の基礎（2）：分散投資のメリットを平均・分散アプローチに基づき説明する。						
11	資本資産評価モデル：リスク証券の価格がどのように決まるか資本資産評価モデルに基づき説明する。						
12	オプション：金融派生商品の一つであるオプションについて説明する。オプションを使った企業のリスクマネジメントについて説明する。						
13	第2回グループ発表						
14	まとめ：講義全体をまとめる。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
中間試験	25%	試験の得点		期末試験	50%	試験の得点	
グループワーク	25%	プレゼンテーションの内容及びグループ内での相互評価					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
復習は必須です。またグループワークの準備には時間がかかると思って下さい。時間をかけるほど得るものは大きいと思います。				質問は基本的に講義中に受け付けます。			
教科書・テキスト	教科書は指定しません。講義資料を用います。			受講生に望むこと	コーポレートファイナンスは現実と深く関連する学問です。新聞の経済面や金融面を読み、現実に行き起こっている様々な現象に関心を持つように心がけて下さい。		
参考書・参考資料等	参考図書は第1回講義で紹介いたします。また、講義中にその都度紹介いたします。			その他・特記事項	対話で講義を構成できるようにするため皆さんの積極的参加を期待します。		

授業科目		コーポレート・ファイナンス（応用）					
担当教員	小西 大			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
この授業では、企業の資金調達手段と企業価値評価について学ぶ。前者として、間接金融としての金融機関の融資の仕組み、直接金融としての債券、株式、投資信託・デリバティブ等その他の証券による資金調達の仕組みを学ぶ。後者として、企業価値のフレームワーク、ファンダメンタル分析、経営戦略分析、投資プロジェクトおよび企業価値の評価について学ぶ。				企業価値を高めるための財務戦略について講義します。資金調達（株式や社債の発行、銀行借入など）、利益還元（配当など）、設備投資の意思決定などを中心に説明します。あわせてコーポレートガバナンス（企業統治）や企業価値評価についても説明します。企業の財務戦略に関する基本的内容を理解し、日本経済新聞の投資情報面や『東洋経済』、『エコノミスト』などの経済誌掲載記事を理解し批判的に読めるようになることが到達目標です。			
教授方法	事前に配付する講義資料に基づきパワーポイントを用いて講義します。また、グループワークを取り入れて、学生の皆さんにもパワーポイントを用いて発表してもらう予定です。講義内容を理解すると同時に、プレゼンテーションのスキルも習得できるように講義を構成する予定です。						
履修条件	特になし。コーポレートファイナンス を履修済みであることが望ましいですが、必ずしも履修を必要条件とはしません。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス： 授業の概要、目標、成績評価方法、その他注意事項について説明する。また、グループワークの取り組み方についても説明する。						
2	設備投資の意思決定： 投資実行の可否を判断するための意思決定基準について説明する。						
3	資本コスト： 株主資本コスト、負債資本コスト、加重平均資本コストなどの概念について説明する。						
4	資金調達： 株式や社債の発行、銀行借入などの様々な資金調達方法について説明する。						
5	資本構成（1）： 最適な資本構成（負債による調達割合）に関する考え方について説明する。						
6	資本構成（2）： 最適な資本構成（負債による調達割合）に関する考え方について説明する。						
7	第1回グループワーク						
8	中間試験： 試験を実施し、その後解説を行う。						
9	株式公開： 株式市場に公開する理由や株式公開の手続き、公開価格の決定方法について説明する。						
10	利益還元政策： 配当や自社株買いを通じた株主に対する利益還元方法について説明する。						
11	コーポレートガバナンス： 報酬制度や取締役会を通じたコーポレートガバナンスについて説明する。また「会社は誰のものか」について考える。						
12	企業価値評価： DCF法を用いた企業価値評価について説明する。						
13	第2回グループワーク						
14	まとめ： 講義全体をまとめる。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
中間試験	25%	試験の得点		期末試験	50%	試験の得点	
グループワーク	25%	プレゼンテーションの内容及びグループ内での相互評価					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
復習は必須です。またグループワークの準備には時間がかかるとして下さい。時間をかけるほど得るものは大きいと思います。				質問は基本的に講義中に受け付けます。			
教科書・テキスト	教科書は指定しません。講義資料を用います。			受講生に望むこと	コーポレートファイナンスは現実と深く関連する学問です。新聞の経済面や金融面を読み、現実に行き起こっている様々な現象に関心を持つように心がけて下さい。		
参考書・参考資料等	参考図書は第1回講義で紹介しします。また、講義中にその都度紹介しします。			その他・特記事項	対話で講義を構成できるようにするため皆さんの積極的参加を期待します。		

授業科目		金融システム論					
担当教員	永田 邦和			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>金融システムは金融機関と金融市場から構成され、金融取引を円滑にし、最適な資金（資源）配分を実現する機能を果たしている。近年の金融自由化や情報通信技術の発展により、金融システムはより効率的になったが、金融危機が生じやすくなった。金融危機により、金融システムが機能しなくなると、企業部門への資金の移転が滞り、経済が不況に陥る。金融システムの効率性と安定性を確保することは非常に難しい問題になった。</p> <p>本講義では、金融システムに関する理論研究や実証研究を取り上げ、金融システムの機能を制度や歴史、政策の観点から学習する。</p>				<p>本講義では、銀行や金融市場の概要と機能、金融危機、金融規制に関する知識を身に付け、金融システムに関するニュースや出来事の背景を考察し、日本や世界の金融の現状を理解できるようにする。金融業界への就職や企業の経理・財務スペシャリストを目指す学生にとっては必須の知識になる。</p>			
教授方法	講義形式。ただし、授業中に練習問題を解く時間を設けることがある。予習・復習を促すために、宿題を課すこともある。						
履修条件	ファイナンス入門と金融論、コーポレートファイナンス、ミクロ経済学、マクロ経済学を履修していると、講義内容を深く理解できる。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	金融取引における情報の非対称性（1）：逆選択						
3	金融取引における情報の非対称性（2）：モラルハザード						
4	銀行の情報生産機能（1）						
5	銀行の情報生産機能（2）						
6	地域金融機関とリレーションシップバンキング						
7	銀行の流動性供給機能						
8	銀行取付						
9	決済システム						
10	日本の金融システム						
11	銀行中心システムと市場中心システムの比較						
12	バブル						
13	金融危機						
14	金融規制						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記試験）	60	金融システムに関する基礎理論の理解度に応じて評価する。		小テスト	30	3回程度小テストを行い、理解度に応じて評価する。	
授業レポート	10			上記以外の授業評価	10	授業中の練習問題の成果や宿題の提出状況に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業前に教科書を読んで、予習すること。授業では、教科書を超えるレベルの内容も取り上げるので、授業後には、教科書やノート等で復習すること。				リアクションペーパーを配布するので、質問を記入すること。次の授業で、質問に回答する。 また、授業時間外では、研究室で質問を受け付ける。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。			
教科書・テキスト	未定。3学期前に指定する。教科書に載っていない分野については、資料を配付する。			受講生に望むこと	教科書のレベルを越える内容も扱うので、参考書・参考資料等を読んだり、図書館で関連文献を探したりして、しっかりと自習すること。		
参考書・参考資料等	川西諭・山崎福寿（2013）『金融のエッセンス』、有斐閣。 村瀬英彰（2016）『金融』（第2版）、日本評論社。			その他・特記事項	受講生の理解度や関心に応じて授業計画を変更する。		

授業科目		産業組織論					
担当教員	穴山 悌三			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>産業組織論は、ミクロ経済学やゲーム理論などを分析用具として、理論と実証の両面から産業・企業の構造や行動を明らかにして、経済厚生や政策を論じる実践的な学問です。本授業では、伝統的な産業組織論から現代に至るまでの基礎的な理論とそれらの理論の応用とを、豊富な具体的事例を交えて学びます。主なテーマは、独占や寡占における企業行動や企業間関係、企業の戦略的行動と市場支配力、電力や電気通信等のネットワーク産業の特質と競争政策などです。授業はパワーポイントによる講義と対話の他、レポートの発表・討議も実施します。担当教員は、企業等における産業組織の分析に係る実務経験を有しており、事例を交えた考察を通して実務に応用可能な基礎的能力を習得させます。 Industrial Organization</p>				<p>授業では、産業組織論の基本的な理論と実証の考え方を学び、現実の産業・市場・企業行動を理解する上で有用な分析の枠組みについて理解を深めます。本科目を履修することにより、自分が関心を持つ産業について、市場構造や市場行動（企業の戦略的行動など）を分析する力が身に付きます。また主に経済厚生観点から政策を評価し、関連するテーマについて自分の意見を言えるようになります。</p>			
教授方法	主にパワーポイントを用いて講義を行います。第1回授業で授業のガイダンスを実施します。第9回授業では各自のレポート（4000～6000字程度、テーマや書き方等は第2回授業で指示します）を元にプレゼンテーションと討議を実施します。なお、一方通行の講義とならないよう、授業中は積極的に対話を行います。						
履修条件	ミクロ経済学を履修していることが望ましく、また、簡単な微分等の計算やゲーム理論に関する基礎知識があれば授業理解に有用です。ただし講義中に平易な解説を加え、必要に応じてプリント等でも補強するため、これらは必須ではありません。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	9/28 イントロダクション；産業組織論の基本構造（目的、対象、方法、系譜、意義と課題）						
2	9/30 理論的基礎（1） - ミクロ経済学の基礎知識（需要と供給、市場均衡、消費者余剰と生産者余剰）						
3	10/5 理論的基礎（2） - ゲーム理論の基礎知識（非協力ゲーム、ナッシュ均衡）						
4	10/7 独占企業の行動（利潤最大化、完全競争市場との比較）、理論的基礎のまとめ						
5	10/12 伝統的な基礎概念（1） - 市場構造（市場集中、参入障壁、コンテストブル市場）						
6	10/14 伝統的な基礎概念（2） - 産業の利潤と効率性（構造 - 行動 - 成果分析、価格費用マージン、X非効率、動態的効率性）						
7	10/19 寡占企業の行動（クールノー・モデル、ベルトラン・モデル、シュタッケルベルク・モデル、参入阻止）						
8	10/21 企業間関係（プライス・リーダーシップ、カルテル、暗黙の協調、合併・買収・事業提携、垂直的統合と垂直的制限）						
9	10/28 ケース・スタディとプレゼンテーション（各自がテーマを選んで報告・討議）						
10	11/2 製品差別化（製品差別化の種類、差別化製品市場での独占的競争、「ロケーション」・モデル）						
11	11/4 情報と広告（情報の非対称性、探索費用、経験財、広告の種類、広告と経済厚生）						
12	11/9 価格・マーケティング戦略（価格差別、非線形料金、抱き合わせ、アップグレード、ディーラーシップ）						
13	11/11 研究開発と知的財産（イノベーション・研究開発のインセンティブと経済厚生、ネットワーク外部性、規格・標準化競争）						
14	11/16 ネットワークと競争（ネットワーク産業の特質、スイッチング・コスト、プラットフォーム、ネットワーク産業の競争政策）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	70	試験は講義で説明したテーマから4題出題します。評価基準は、授業の例題レベルの問題が解ければ100点満点中70～79点、応用問題が解ければ同80点以上		授業レポート	20	第2回授業で指示するテーマと書き方でレポートを書き、第9回授業で発表します。評価基準は、自ら考えて独自性のあるものが10点満点、資料等で一通	
授業中の平常点	10	「コメントシート」の記入・提出が全てきちんと行われていれば10点満点です。記入内容による減点はありませぬ。また授業中に適切な発言や有益な提言					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習については、リーディング・アサインメントで少なくとも1週間前の講義時に必読文献と参考文献とを指定するので該当部分を読んでください（準備学習の目安は各120分程度）。事後学習については、適宜演習問題やクイズを出しますので各自で取り組んでください。事前事後学習については特に成果物の提出等を要求しませんが、理解を深めるために各人が積極的に取り組むことを期待しています。				授業中はもちろん、授業前後やオフィス・アワーの質問等を歓迎します。また全員に感想・質問等を「コメントシート」に記入してもらいます。全てに目を通した上で適宜返答を行いますので積極的に活用してください（詳細は第1回授業で説明します）。			
教科書・テキスト	本授業は特定の教科書は用いませぬが、準教科書として次を指定します。 井手秀樹・鳥居昭夫・竹中康治著 [2010]、『入門・産業組織』、有斐閣。（ISBNコード:9784641163416）			受講生に望むこと	デジタル化が進む中、GAFAなどのプラットフォームの興隆やビジネスモデルの変化等によって、これまでの産業の境界が曖昧化しています。混沌とした時代であればあるほど、授業で学ぶ基本を応用し、問題解決を考え抜くことが新たな価値の創出につながります。好奇心を持って、積極的にチャレンジしてください。		
参考書・参考資料等	参考書として次を指定するので各人のレベルと必要に応じて自習に用いてください。一部の内容は講義で説明します。 長岡貞男・平尾由紀子著 [2013]、『産業組織の経済学（第2版）』、日本評論社。（ISBNコード:9784535556676） 岡田羊祐 [2019]、『イノベーションと技術変化の経済学』、日本評論社。（ISBNコード:9784535559141） Carlton, D., and J. Perloff [2004], Modern Industrial			その他・特記事項	産業組織論の扱うテーマは他の学問領域とも広範に関わっています。理論的分析の基礎となるミクロ経済学、ゲーム理論、数理統計学はもとより、ビジネス・エコノミクス、規制の経済学、経営学のマネジメントやマーケティングの戦略論なども関連を持		

参考書として次を指定するので各人のレベルと必要に応じて自習に用いてください。一部の内容は講義で説明します。  
長岡貞男・平尾由紀子著 [2013]、『産業組織の経済学（第2版）』、日本評論社。（ISBNコード:9784535556676）  
岡田羊祐 [2019]、『イノベーションと技術変化の経済学』、日本評論社。（ISBNコード:9784535559141）  
Carlton, D., and J. Perloff [2004], Modern Industrial Organization, 4th Edition, Pearson/Addison-Wesley. (ISBN:9780321180230) / [2015] Global Edition (ISBN:9781292087856)

産業組織論の扱うテーマは他の学問領域とも広範に関わっています。理論的分析の基礎となるマイクロ経済学、ゲーム理論、数理統計学はもとより、ビジネス・エコノミクス、規制の経済学、経営学のマネジメントやマーケティングの戦略論などとも関連を持

授業科目		公共経済学					
担当教員	中条 潮			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>この講義では、「公共性が高い」とされる社会的・経済的問題とそれに対する政府の規制や慣習を、経済学、特に「市場の失敗」を分析用具に検討します。</p> <p>「公共性が高い」とは、単純に「大事」ということではありません。「市場の失敗・欠落」要因の存在をさします。この講義では、現実のいくつもの具体的な経済問題・社会問題を例示しながら、その背景となる「市場の失敗・欠落要因」についての理論的検討を行います。</p> <p>交通や通信の公共性、農業保護の妥当性、防災、医療、教育問題といった、すぐれて経済的な公共的課題だけでなく、我々の日常生活をとりまく様々な社会問題（たとえば、飲酒や麻薬などの非合法財、キャンプ、プロ野球球団のドラフト制、結婚制度等）についてもととりあげ、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを講論します。</p>				<p>市場メカニズムの機能と市場の失敗の理解およびそれを適用しての基礎的な政策評価能力と国や自治体の限界について知る能力の基礎を形成することを目指します。</p>			
教授方法	講義。話の内容は固いものであることを覚悟してください。2コマ続きでこの話を聞くのは相当につらいと思います。インタラクティブな授業をしているほど暇ではないけれど、時々、あてて質問します。						
履修条件	『経済学入門』、『ミクロ経済学』を履修済であることを前提に授業を行います。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	1. 開題：公共政策とは						
2	2. 資源配分の適正化と市場機構の役割 (1) 資源配分の適正化とは？						
3	2. 資源配分の適正化と市場機構の役割 (2) 市場への不用意な介入の問題点 (3) 政府の失敗・規制の失敗						
4	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (1) 環境汚染は小さくさなければならぬか？～SDGへの疑問～（外部不経済）						
5	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (2) 地域開発効果は税金無駄使いの大義名分（外部経済効果）						
6	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (3) 国防はなぜ税金で維持するのか？傭兵制度ではいけないか？（社会欲求財）						
7	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (4) 無意味な価値欲求財の定義～医療、教育も市場化を～						
8	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (5) 未成年者はなぜ飲酒してはいけないのか？（情報の不完全）						
9	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (6) 防災の経済学（情報の不完全）～防災にも必要な自己責任～						
10	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (7) 盗みは倫理的な問題にあらず（所有権の不確定）						
11	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (8) 地方バスの赤字路線を補助することは正しいか？（所得再分配）						
12	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (9) 長野にはなぜ電力会社は1社しかないのか？（ゆらぐ「規模の経済性」）						
13	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (10) 社会的内部補助の問題点（所得再分配）～新幹線の黒字で篠ノ井線を補助するのは正しいか～						
14	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (11) 企業の内部補助と価格規制の課題～エレベータはなぜ無料なのか～						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	100	授業内容を50%理解していれば合格点を与えます。講義では応用能力は求めません。		小テスト	不定	必要に応じて課すことがあるかもしれませんが、その際はあらためて指示します。	
レポート	不定	必要に応じて課すことがあるかもしれませんが、その際はあらためて指示します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：教科書や県大ナビにupされた授業のレジュメを読んで、わからない用語は自分で調べておくこと。 事後学習：授業中に登場した用語でわからなかったものがあれば自分で調べること。				質問は、なるべく、授業中にしてください。授業前後の質問は1分以内で回答できる質問だけにしてください。 なお、上記で対応が難しい質問や相談については、メールにてアポをとっていただければ可能な限り対応します。			
教科書・テキスト	中条ほか編著『経済学で読み解く交通・公共政策』（中央経済社） このほか、必要に応じて県大ナビに資料をupします。			受講生に望むこと	学生としての基本的な遵守事項以外、特に求めません。		
参考書・参考資料等	必要に応じて指示します。			その他・特記事項	「航空・公共経済プログラム」参加希望者はこの授業を履修する必要があります。		

授業科目	公共経済学（航空政策）						
担当教員	中条 潮			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>「公共経済学」における「市場の失敗・欠落」要因の理論的検討は、どの財についても適用できるものであり、すべての政策立案はそれに沿ってなされることが求められます。本講義では、その具体的例として航空市場をとりあげ、「公共経済学」における理論的検討を航空市場に適用した場合の具体的な政策のありかたを示すことによって、他の政策においても同様のステップで議論の展開が可能となることを示します。</p> <p>したがって、本講義の目的は、航空政策そのものを論じることにはありません。公共政策の事例として航空市場を取り上げるのだという点を理解してください。</p> <p>また、本講義では、講義内容を理解するうえで必要な場合には、航空会社の経営の問題についても言及しますが、本来の目的は、社会全体の利益の視点から政策論を展開することにあるという点も理解してください。</p>				<p>「公共性（市場の失敗）」ゆえに政策介入がなされやすい一例として航空市場をとりあげ、市場メカニズムの機能と市場の失敗の理解およびそれを適用しての基礎的な政策評価能力の具体的な醸成を図ることを目的とします。</p>			
教授方法	講義。「公共経済学1」よりはリラックスして聞ける内容で話しますが、しよせん、講義は講義。退屈さは覚悟してください。余裕があれば授業中であてて発言や質問を促すことがあるかもしれません。						
履修条件	『経済学入門』、『ミクロ経済学』、『公共経済学』を履修していることを前提に授業を行います。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	開題 本講義の目的～航空分野における社会全体の利益の最大化～ 航空概観						
2	・航空サービスの需要特性概観						
3	・航空サービスにおける市場の失敗（1）						
4	・航空サービスにおける市場の失敗（2）						
5	・航空自由化政策の流れ 1．規制緩和政策の経緯						
6	・航空自由化政策の流れ 2．オープンスカイの進展						
7	・航空輸送事業の経営課題と政策課題 1．LCCの攻勢						
8	・航空輸送事業の経営課題と政策課題 2．日本におけるLCCの発展可能性						
9	・航空輸送事業の経営課題と政策課題 3．既存大手航空会社の反撃～LCの経営戦略～						
10	・航空輸送事業の経営課題と政策課題 4．幻想から覚めたか日本航空						
11	・空港経営と空港政策の課題 1．空港整備運営に関する誤解						
12	・空港経営と空港政策の課題 2．空港民営化の課題						
13	・空港経営と空港政策の課題 3．ハブ競争とハブ空港の課題						
14	補論：航空輸送の発展史からみる航空政策の現代的課題						
共通の評価基準							
特にありません。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	100	授業内容を50%理解していれば合格点を与えます。応用能力は求めません。			小テスト	不定	必要に応じて課すことがあるかもしれませんが、その際はあらかじめ指示します。
レポート	不定	必要に応じて課すことがあるかもしれませんが、その際はあらかじめ指示します。			授業内質疑	不定	時間的に無理と思いますが、気の利いた質問や回答は加点する場合があります。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：教科書および県大ナビにupされた授業のレジュメを読んで、わからない用語は自分で調べておくこと。 事後学習：授業中に登場した用語でわからなかったものがあれば自分で調べること。				質問は、なるべく、授業中にしてください。 授業前後の質問は1分以内で回答できる質問だけにしてください。 なお、上記で対応が難しい質問や相談については、メールにてアポをとってくれば可能な限り対応します。			
教科書・テキスト	中条潮著『航空幻想（第2版）』（中央経済社）。必要に応じて資料を県大ナビにupします。			受講生に望むこと	学生としての基本的な礼儀以外は求めません。		
参考書・参考資料等	毎年版『数字でみる航空』航空振興財団。			その他・特記事項	「航空・公共経済プログラム」参加者はこの授業を履修する必要があります。		

授業科目		医療経済学					
担当教員	増原 宏明			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>社会にとって望ましく適切な医療を提供するためには、適切な医療制度の設計が必要です。この講義では、現在の医療制度の概要を把握した上で、経済学的視点から制度の問題点を明確にし、医療制度のあり方について検討します。また現在の医療制度が、医療機関や患者に与える影響とその問題を、経済理論とデータを用いて分析します。講義を受けることで「医療制度」を把握し、患者・医療機関・医療スタッフのインセンティブとその結果を理解し、データによって検証することができるようになります。</p>				<p>医療経済学は大きく、制度、経済理論、実証研究の3つから成り立ちます。まず制度で、医療には多くの規制がかかります。これらを整理しながら、医療制度の特徴を把握します。次に、医療制度のもとでのインセンティブ構造が決まりますので、資源配分が歪むかどうか、経済理論によって確かめます。最後に、医療制度の下、経済理論によって説明される行動が実際に起こっているかについては、実際のデータを用いて検証しなければなりません。ミクロ計量経済学的手法を用いて、実証分析で確かめます。この授業を履修することで、以下の3つを修得できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療制度を経済学的思考に基づき評価し、医療の現代的問題を論理的に説明できるようになる。</li> <li>・データに基づき医療政策を判断できるようになる。</li> <li>・医療政策が与えるインセンティブを踏まえ、評価できるようになる。</li> </ul>			
教授方法	講義形式で、テキストに則って行う。時間の許す範囲でディスカッションを行う。						
履修条件	特になし。ただし、5回以上欠席したものは、評価の対象外とする。						
授業計画							
実施回	授業内容						
第1回	医療経済学と日本の医療：医療サービスの持つ特徴と、社会保険の仕組み、データを用いて医療費の実態を探ります。						
第2回	日本の医療保険制度：わが国の医療保険制度を学びます。医療保険が職業ごとであること、それによって医療保険が弱点を抱えることを理解します。						
第3回	高齢者の生活保障 - 医療と介護：後期高齢者医療制度と介護保険制度を学びます。高齢者をどのようにして支えるのか、どのような問題が生じるのかを理解することができます。						
第4回	医療経済学の分析道具箱－ミクロ経済学の基礎：医療を経済的に分析するために必要なミクロ経済学を復習し、医療の問題を考えます。						
第5回	医療サービスの需要－不確実性、保険、情報の非対称性：医療では不確実性や情報の非対称性が大きな問題となります。医療サービス需要における問題を理解します。						
第6回	供給者誘発需要と情報の非対称性：医療において情報の非対称性が存在することで、需要が誘発されてしまうかもしれないことが指摘されています。理論的フレームワークを学んだ後、データでこの仮説を検証します。						
第7回	医療提供体制－医療サービスの供給のしくみ：医療には供給者側にも様々な規制がかかります。制度を学ぶとともに、効率的な医療提供体制を実現するための、現状と問題点を理解します。						
第8回	医療における競争と規制：第7回までで説明できなかった、医療における代表的な規制を説明し、経済学的な視点からその根拠や目的を説明します。複雑な医療制度を体系的に理解できます。						
第9回	薬価基準制度と医薬品産業：医療費の25%は薬剤費が占めており、その価格は政府が薬価として決定します。薬価基準制度を学習し、薬価基準制度自体がもたらす制度的な歪みを学習します。						
第10回	経済格差と健康・医療の経済分析：健康状態の良し悪しは人々の幸せに影響を及ぼすでしょう。所得水準・所得格差が健康水準に果たす役割を理解し、データによって仮説を検証します。						
第11回	健康投資、健康支出、マクロ経済パフォーマンス：人的資本は経済成長のエンジンとして考えられていますが、この人的資本には健康投資を通じて蓄積される健康資本も含まれます。健康資本を取り入れた経済モデルを学習し、その実証分析結果を学習します。						
第12回	医師の労働市場と医師不足問題：地方において医師不足問題が深刻となっています。労働経済学の基礎を踏まえて、医師の労働市場と医師不足問題を分析します。						
第13回	主要国の医療環境とTPP：世界には大きく3つの医療保障制度があります。その特徴を紹介しながら、ドイツ・フランス、イギリス、アメリカの医療制度を学びます。また自由貿易協定がわが国の医療に与える影響についても分析します。						
第14回	不確実な将来と向き合う－医療制度をどう改革するか：わが国の公的医療保険制度は、諸外国と比べて高いパフォーマンスを示していますが、少子高齢化により制度の持続可能性も危ぶまれています。財政方式のあるべき姿を中心に、医療制度改革の方向性を検証します。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	100	持ち込み不可。基礎的な概念を説明できれば「水準にある」、経済学に基づき説明できれば「やや上にある」、経済学にも続き批判できれば「かなり上にある」。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>授業前に各回の該当の章を読み、理解できない用語や内容について、調べる。授業後は、講義で説明した重要な部分を見直し、ノートしてまとめる。とりわけ経済理論を用いての議論については、自ら手を動かして、数式と図表をまとめること。</p>				<p>授業後の対応に加えて、メールでも受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	細谷圭・増原宏明・林行成『医療経済学15講』（新世社、2018年）2,640円（税込）、ISBN: 978-4883842841。			受講生に望むこと	医療は必要不可欠なものです。だれしも納得できる制度ではありません。経済的思考で医療を分析する能力を養ってください。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	特になし。		



授業科目		規制の経済学					
担当教員	穴山 悌三			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>規制の経済学は、市場の失敗に対処するための法制度と経済システムの関わりを分析し、個々の産業の特質をふまえて社会的に望ましい制度設計について考察する学問です。本授業では、経済的規制と社会的規制とを対象に、分析の基礎となる経済理論と現実社会の事例とを学びます。主なテーマは、自然独占などの市場の失敗、料金規制、インセンティブ規制、参入規制、規制改革と競争促進の理論と実際などで、事例検討として電力や電気通信等を取り上げます。授業はパワーポイントによる講義と対話の他、レポートの発表・討議も実施します。担当教員は、企業等における規制や制度の分析に係る実務経験を有しており、本科目では事例を交えながら考察して実務に応用可能な基礎的能力を習得させます。</p> <p>Economics of Regulation</p>				<p>本科目では、公的規制に関する経済理論の学習や事例検討を通じて、現実の産業・市場における規制システムについて理解を深め、規制分野の政策分析・問題解決に必要な能力を育てます。本科目を履修することにより、公益事業などにおける経済的規制、健康・安全・環境に関する社会的規制について、規制の意義・手法・理論的背景を理解し、規制に関する問題や社会的に望ましい規制の在り方等について考え、実際の制度や政策に関して自分の意見を言うようになります。</p>			
教授方法	<p>毎回、パワーポイント資料を用いた説明を中心とする講義を実施します。ただし、第1回にガイダンスを実施し、第9回には各自に課したレポートを元にプレゼンテーションと討議を実施します（レポートは4000～6000字程度、テーマや書き方等は第2回で指示します）。なお、一方通行の講義にならないように授業中は積極的に対話を行い、特に事例検討では能動的な授業参加を期待します。</p>						
履修条件	<p>ミクロ経済学を履修していることが望ましい。なお、簡単な微分等の計算に関する基礎知識があれば授業理解に有用です。ただし授業中に平易な解説を加えるため、これらは必須ではありません。</p>						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	6/8 公的規制とは何か（公的規制の目的・対象・手段、主体とプロセス、経済的規制と社会的規制、「公益事業」）						
2	6/10 公的規制の経済理論の根拠（「市場の失敗」、自然独占、外部経済、公共財、情報偏在、リスク、「政府の失敗」）						
3	6/15 料金規制（1）- 料金水準論（料金設定方式と経済厚生、伝統的なROR規制の意義と問題）						
4	6/17 料金規制（2）- 料金体系論（料金体系の種類と考え方、ラムゼー価格、価格差別、非線型料金）						
5	6/22 インセンティブ規制（インセンティブ規制の種類、価格上限規制、ヤードスティック規制、契約理論の考え方）						
6	6/24 参入・退出規制（数量規制、免許入札制、「産業政策」と規制）、独占禁止の法と経済						
7	6/29 規制改革と競争促進（1）- 規制改革の考え方と歴史的推移（技術進歩、コンテストブル市場、規制改革の経緯）						
8	7/1 規制改革と競争促進（2）- 対等競争条件の整備（ボトルネック規制、内部相互補助、排他的行為、非対称規制）						
9	7/6 ケース・スタディとプレゼンテーション（各自がテーマを選んで報告・討議）						
10	7/8 事例検討（1）- 電力・エネルギー産業						
11	7/13 事例検討（2）- 放送・電気通信産業						
12	7/15 事例検討（3）- 運輸・交通産業						
13	7/20 社会的規制の理論と事例検討（1）- 健康と安全						
14	7/22 社会的規制の理論と事例検討（2）- 環境						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	80	試験は記述・論述式で計4題出題。評価基準は、理論的思考・分析ができれば100点満点中70～79点、理論的根拠のある応用思考・分析ができれば80点以上		授業レポート	10	第2回授業の指示に従ってレポートを書き、第9回授業で発表します。評価基準は、よく考えて独自性のあるものが10点満点、資料等で一通り調べたものが	
授業中の平常点	10	「コミュニケーション・シート」の記入・提出が全てきちんと行われていれば10点満点です。記入内容による減点はありませぬ。また授業中の適切な発言					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前学習については、リーディング・アサインメントで少なくとも1週間前の授業時に必読文献と参考文献とを指定するので該当部分を読んでください（準備学習の目安は各120分程度）。事後学習については、適宜演習問題やクイズを出しますので各自で取り組んでください。事前事後学習については特に成果物の提出等を要求しませんが、理解を深めるために各人が積極的に取り組むことを期待しています。</p>				<p>授業中はもちろん、授業前後やオフィス・アワーの質問等を歓迎します。また全員に感想・質問等を「コメントシート」に記入してもらいます。全てに目を通した上で適宜返答を行いますので積極的に活用してください（詳細は第1回授業で説明します）。</p>			
教科書・テキスト	<p>本授業は作成資料を中心として行うため特に教科書は用いませぬが、準教科書として次の2冊を指定します（主に前者で基礎理論を、後者で現代の動向を学びます）。</p> <p>植草益著 [2000]、『公的規制の経済学』、NTT出版。（ISBNコード:4757120443）</p> <p>塩見英治編 [2011]、『現代公益事業-ネットワーク産業の新展開-』（有斐閣ブックス）、有斐閣。（ISBNコード:9784641183995）</p>			受講生に望むこと	<p>規制について考えることは日常あまりありませんが、実は経済・社会にとってとても重要な役割を果たしています。本授業では事例検討を取り入れるため、主体的で積極的な授業参加を求めます。好奇心を持ってチャレンジしてください。</p>		
	その他・特記事項				<p>この講義の扱うテーマは、理論的分析の基礎となるミクロ経済学、公共経済学、ビジネス・エコノミクス、産業組織論などと関連を持っています。これらの科目と併せて学ぶことで、より一層豊かな知識と応用力を得ることが期待できます。担当教員は、企業等における規制や制度の分析に係る実務経験を有しています。</p>		

参考書・ 参考資料等	<p>参考書として次を指定するので各人のレベルと必要に応じて自習に用いてください。一部の内容は授業中に説明します。</p> <p>穴山梯三著 [2005]、『電力産業の経済学』、N T T 出版。(電子書籍版、ISBN: 9784757121430)</p> <p>Decker, C. [2015], Modern Economic Regulation -An Introduction to Theory and Practice-, Cambridge University Press. (ISBN:9781107699069)</p> <p>Viscusi, W. K., J. E. Harrington, and J. M. Vernon [2005], Economics of Regulation and Antitrust, 4th Edition, MIT Press. (ISBN:9780262220750)</p> <p>Sherman, R. [2008], Market Regulation, Pearson/Addison-Wesley. (ISBN:9780321322326)</p> <p>上記以外の文献については授業中に別途指定します。</p>
---------------	--

授業科目		数理統計学					
担当教員	鶴田 靖人			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>この授業のキーワードは数学的思考力と統計的思考力です。数学的思考力とは、情報を整理し実際に起きている問題を数式として表した上で解くことで正解までたどり着く力です。数式を用いるのはよく似た問題を一般化することで「問題を解くパターン」を作ることが可能だからです。この授業ではランダムな現象を読みとけるように確率論を学びます。高校で学ぶ確率と違う点は、統計学でよく使う確率の知識を学ぶ点です。統計的思考力とはデータ（という客観的事実）を分析しマネジメントの役に立つ情報を得る力です。この授業では統計分析手法の中でも現象の特徴の把握・仮説の妥当性の検証・現象のモデル化の方法を扱います。Rという統計分析ソフトの操作方法を学ぶことで実際のデータを分析する力を身につけることができます。</p>				<p>ねらい この科目は数理統計学に関する基本事項を理解し、数学的思考力および統計的思考力を身につけることを目指します。</p> <p>到達目標 確率論の基礎を学ぶことでランダムな現象をモデル化する力を身につけ数学的思考力を養います。 仮説検定や回帰分析などの統計分析手法を習得し、統計的思考力を養います。</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式で行います。演習は計算問題を解いてもらいます。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	確率とは何か 確率の定義、順列、組み合わせ						
2	確率の性質（1） 標本空間、加法定理、乗法定理						
3	確率の性質（2） ベイズの定理						
4	確率変数と確率分布（1） 確率変数、確率分布、期待値						
5	確率変数と確率分布（2） 分散、共分散、相関係数						
6	離散確率分布 二項分布、ポワソン分布						
7	連続確率分布 正規分布、カイ2乗分布（F分布）						
8	Rの実習と記述統計量（PC演習） 記述統計量、箱ひげ図						
9	仮説検定（PC演習） 平均値の検定、平均値の差の検定						
10	単回帰分析（1）（PC演習） 最小2乗法、決定係数						
11	単回帰分析（2）（PC演習） パラメータの検定、パラメータの区間推定						
12	重回帰分析（1）（PC演習） 自由度調整済み決定係数、偏相関係数、パラメータの推定						
13	重回帰分析（2）（PC演習） 多重共線性、変数選択						
14	まとめ（PC演習）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	基礎知識の理解度に応じて評価する			上記以外の授業評価	50	課題などの提出状況に応じて評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された課題に取り組んでください。授業の理解を深めるために予習・復習に取り組むことが望ましいです。				質問は基本的に授業後に行ってください。メールでも受け付けます。 tsuruta_yasuhiro@u-nagano.ac.jp オフィスアワーを設定します（日時は授業で説明）			
教科書・テキスト	宮川公男著「基本統計学 第4版」有斐閣			受講生に望むこと	1回目から7回目までは電卓を持参してください。8回目から14回目まではPCを使用するので個人のPCを持参してください。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介します。			その他・特記事項	経営統計学入門を履修済みであることが望ましいです。		

授業科目		企業と法					
担当教員	金 賢仙			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義では、企業を取り巻く法制度に関する入門・基礎的内容を概括して学習する。</p> <p>まず、法学入門の内容を学習したのちに、法領域ごとの基礎的内容を学習する。</p> <p>具体的には、総論、企業の組織に関する法領域、情報開示に関する法領域、資金調達に関する法領域、企業の取引に関する法領域、企業と労働者に関する法領域、企業と市場に関する法領域、企業の知的財産権に関する法領域、企業と訴訟に関する法領域について、初歩的な理解をするための学習をする。</p>				<p>企業を取り巻く法制度の入門・基礎的内容について理解をし、説明できるようになることを教育目標とする。</p>			
教授方法	原則として、講義形式とする。場合によって、グループワークを取り入れる。						
履修条件	特になし。（ただし、他の法学系科目を履修済みであれば、学習が効率的となり得る。）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	法学入門（総論）						
3	法学入門（企業と法の関わり）						
4	企業と法（企業の類型と法）						
5	企業と法（大規模公開会社と法）						
6	企業と法（企業情報の開示と法）						
7	企業と法（企業の資金調達と法）						
8	企業と法（企業による取引と法）						
9	企業と法（企業と労働者と法）						
10	企業と法（企業と知的財産と法）						
11	企業と法（企業と市場）						
12	企業と法（企業と国際取引）						
13	企業と法（企業と訴訟）						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	100	講義の内容（企業を取り巻く法制度の入門・基礎的内容）を正確に理解し、把握しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
特になし。				原則として、オフィス・アワーに対応する。			
教科書・テキスト	<教科書> 特に指定しない。教員の作成するレジュメ及び資料を配布する。 <参考書> 高橋和之ほか『法律学小辞典（第5版）』（有斐閣、2016） （このほか最新の六法を携帯することが望ましい。（有斐閣ポケット六法等））			受講生に望むこと	楽しみながら、学びましょう。法学は、現実の社会事象や事例と直結している学問領域です。要点さえつかめば、とても面白いです。		
	参考書・参考資料等	特になし。必要時には、講義中に案内する。			その他・特記事項	講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。	

授業科目		契約法						
担当教員		栗田 晶			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生		グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要					授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>契約とは権利変動の発生原因となる当事者間の合意をいう。講義では、各種契約類型に共通する問題として、契約が成立するための要件、債務不履行の際の債権者の救済手段等について検討する。続いて、財産権移転型契約、使用供与型契約、役務提供契約を中心に、各種契約類型に固有の諸問題についての検討を行う。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則(第3編第1章)の一部(債権の目的、債務不履行に基づく損害賠償)と契約(第3編第2章)に相当する。歴史的背景と関連付けながら現在の解釈論を伝える。</p>					<p>授業では、契約が拘束力を有するのはなぜか、契約が成立するにはいかなる事実的条件を満たさなければならないか、債務者が契約上の債務を履行しなかった場合に債権者はいかなる措置をとり得るか、契約に関連して生じる様々なリスクをどのように分配すべきか等、契約に関する諸問題を様々な観点から考察する。 この授業は、受講生が、これらの契約法上の諸制度に関して、制度趣旨や学説判例についての正確な理解をもとに説明することができるようになることを目的とする。また、比較的簡単な事案について契約法に関する規範にそくして解決を導くことができるようになることを目的とする。</p>			
教授方法		講義						
履修条件		特になし						
授 業 計 画								
実施回	授業内容							
1	はじめに							
2	契約の成立要件 契約の成立と方式、申込の誘引、合意の成立、契約の解釈について							
3	契約の効果 契約に基づく債権債務関係の発生、債権の意義と種類、債権の権能について							
4	契約不履行の場合の救済手段(1) 履行請求権、履行不能の抗弁、同時履行の抗弁について							
5	契約不履行の場合の救済手段(2) 損害賠償請求権 (損害賠償の要件について)							
6	契約不履行の場合の救済手段(2) 損害賠償請求権 (損害賠償の範囲について)、契約解除 (催告解除の要件について)							
7	契約不履行の場合の救済手段(3) 契約解除 (無催告解除の要件、契約解除の効果について)							
8	契約上のリスク分配 危険負担、事情変更の原則について							
9	財産権移転型契約 財産権移転型契約の意義、売買の意義、売買の予約、手付、売買の効力 (買主の追完請求権、代金減額請求権など)							
10	財産権移転型契約 売買の効力 (期間制限、危険負担そのほかについて)、買戻し							
11	使用供与型契約 使用供与型契約の意義、賃貸借の意義、当事者の権利義務、賃借権の対抗力、賃貸人たる地位の移転							
12	使用供与型契約 賃借権の譲渡・転賃、賃借権の修了、敷金関係							
13	役務提供契約 請負、委任、雇用							
14	まとめ							
共通の評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
期末試験	80	一定程度の理解が示されていれば60%、理解が正確であれば70%、関連規定の趣旨を理解し、事実関係を適切に評価することができていれば80%、様々な			授業への取組み	20	予め配布したケースを中心に授業の中で受講者に質問を提示する。受講生の授業参加への積極性や回答内容に応じて評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)					質問や相談への対応			
<p>予習のためのケースを配布する。1回あたりに配布するケースの分量は、おおよそ1時間で検討可能な程度である。講義はケースを検討しながら進めるため、各自、予め検討しておくこと。</p>					講義終了後に質問に対応する。			
教科書・テキスト	特になし(授業ではレジュメを使用する)。				受講生に望むこと	事前に配布するケースについて検討しておくこと。		
参考書・参考資料等	<p>2017年に民法改正があったため、改正民法に対応したものか否かに注意すること。なお、窪田充見・森田宏樹編『民法判例百選II 債権』[第8版]。(有斐閣、2018年)は改正にかかわらず価値がある。改正に対応しているものとして、平野裕之『コア・テキスト民法 債権総論』(新世社、第2版、2017年)、『コア・テキスト民法 契約』(新世社、第2版、2018年)。 その他については、授業において指示する。</p>				その他・特記事項	<p>講義には六法を持参すること。期末試験の際には、書込みのない、判例のついていない六法のみ持込み可能とする予定のため、六法には書込みをしないことを推奨する。</p>		

授業科目		労働法					
担当教員		織 英子		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルシフト	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>労働法とは、雇用の場で発生するさまざまな問題を解決するための法律です。本講義では、労働法の基本的原則を解説するとともに、労働基準法・労働組合法・労働契約法を中心に学習します。労働法の各分野が雇用社会において、どのような場面で、どのような問題を解決するために存在するのか、具体的な例をあげて労働法の意義を解説します。</p> <p>英語表記「labor law」</p>				<p>企業法務を多く取り扱う弁護士としての経験を生かし、労働問題に関する具体例に基づいた授業を行います。</p> <p>到達目標 将来、自らや同僚が労使関係の問題に直面した際に、問題の法的解決に向けて、自分で考える力を身につける。 労働問題に関する様々な法律について理解する。</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜて行います。また、随時ディスカッションを行います。						
履修条件	特になし。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	労働法の意味、憲法の基本理念を実現するために、労働法の特徴、労働法の適用される「労働者」の範囲、労働契約とは、労働条件の明示義務						
2	労働契約の成立過程、採用内定、内定の取り消し、試用期間、本採用の拒否						
3	賃金の範囲、最低賃金の保障、賃金支払いの4原則、休業手当、制裁と減給						
4	労働時間と休日・休暇、年次有給休暇の制度趣旨、時季変更権、年休自由利用の原則、計画年休協定は反対する労働者も拘束するか						
5	ハラスメント、パワーハラスメント、セクシュアルハラスメント						
6	配置転換・出向・転籍						
7	労働契約及び就業規則の変更						
8	会社を離れるとき、辞職・合意解約、雇止め、定年制						
9	解雇・懲戒処分						
10	人員削減（整理解雇）、会社が倒産したとき						
11	労働組合はどんな団体か、団体交渉とストライキ、労働協約						
12	県の労働委員会によるあっせん（1）						
13	県の労働委員会によるあっせん（2）						
14	よりよい職場環境を築いていくために（労働基準法・労働組合法・労働契約法の総括）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	基礎知識の理解度に応じて評価します。		小テスト	30	小テストを行い、理解度に応じて評価します。	
上記以外の授業評価	20	授業中の質疑応答への参加状況を考慮して評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業において、必要に応じて課題や問題を指定します。				質問は、授業中にいつでも受け付けます。積極的に質問や意見を発言してください。			
教科書・テキスト	<p>「ウォッチング労働法 第4版」有斐閣 2019年9月発売 土田 道夫（同志社大学教授）、豊川 義明（弁護士・関西学院大学教授）、和田 肇（名古屋大学名誉教授）/編著</p> <p>適宜、必要に応じ、参考資料としてプリントを配布します。</p>			受講生に望むこと	授業中、いつでも質問を受け付けます。講師からも質問し、応答を求めらるので、主体的・積極的に発言して欲しいと思います。		
参考書・参考資料等	東京都産業労働局雇用就業部労働環境課 ポケット労働法2019 東京都のホームページにPDF形式で掲載されているので、適宜、必要に応じてダウンロードのうえ、授業に持参してください。			その他・特記事項	小テストを実施した際、欠席した場合は、救済レポートの提出を認めます。		

授業科目	法政策学						
担当教員	宮森 征司			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルシフト	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>政策の策定ないし実施にあたり、法が持つ影響力を度外視することはできない。さらに広く言えば、法そのものが政策的な意味を多分に含んでいる。このような素朴な視座に立脚した上で、本講義では、行政と民間との連携が求められている個別的政策領域における課題に関して、日本と諸外国の法制度や政策を比較しながら、法と政策との関わりに着目して、講義を行う。</p>				<p>ねらい 個別的政策領域に関する問題について、法的な問題の所在を指摘し、又は、発見するための視座を養うこと。</p>			
教授方法	基本的には講義形式を想定しているが、受講生の人数に合わせて、双方向的な手法やグループワークも取り入れる。						
履修条件	特になし。ただし、本講義で扱う内容から、行政法の講義を受講しているなど、行政法に関する基礎的知識があることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス;法政策学の基礎知識						
2	法政策学の基礎知識						
3	エネルギー政策						
4	エネルギー政策						
5	エネルギー政策						
6	地域公共交通政策						
7	地域公共交通政策						
8	地域公共交通政策						
9	前半まとめ						
10	公共施設の管理・運営						
11	公共施設の管理・運営						
12	文化財保護						
13	文化財保護						
14	後半まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
コメントシート	30	授業内容に対するレスポンス等			期末レポート	70	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>新聞記事などを読んで、自分の考えをまとめてくることを予習課題とすることがある。</p>				<p>授業中、授業の前後に受け付ける。質問等に時間がかかるときには、事前にメール等でアポイントメントをとること。</p>			
教科書・テキスト	指定しない。			受講生に望むこと	政策問題の所在を探る主体的・積極的なスタンスを望む。		
参考書・参考資料等	指定はしないが、講義内容に関連する図書等については、適宜、授業内で紹介する。			その他・特記事項	シラバスに提示した政策テーマは、シラバス作成時における計画である。その後の事情や授業内における学生の希望により、変更の可能性はある。		

授業科目		商法					
担当教員	金 賢仙			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義では、今日の代表的な企業組織形態である株式会社の法制度について学習する。            学習にあたっては、法制度の趣旨（なぜ、その法制度が存在するのか）を理解することに重きを置きながら、内容（どのような法制度が存在するのか）について理解を深める。            具体的には、会社法の役割、株式、会社のガバナンス、取締役等会社役員の実務、会社法上の訴訟制度、会社の組織変更といった内容を取り扱う。このほかに、いわゆる大規模公開会社に関するルールについての理解を促すために、資本市場と会社との関係という視点からも学習をする。</p>				<p>株式会社に関する法制度を理解し、身近な生活及び時事問題の中の会社法と関連する出来事に関心及び問題意識を持ち、分析をする能力を身につけることを教育目標とする。</p>			
教授方法	原則として、講義形式とする。場合によって、グループワークを取り入れる。						
履修条件	特になし。（ただし、他の法学系科目を履修済みであれば、学習が効率的になり得る。）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス（本科目の履修にあたって。株式会社とは。会社法の役割。）						
2	会社の設立1（設立とは。設立の種類。発起人及び定款。）						
3	会社の設立2（設立に関する責任。会社の不成立及び設立無効の訴え。）						
4	株式1（株式とは）						
5	株式2（種類株式制度）						
6	ガバナンス1（総論、株主総会）						
7	ガバナンス2（取締役・取締役会、監査役・監査役会）						
8	ガバナンス3（三委員会型、監査等委員会型）						
9	計算（資本金、剰余金の配当、計算書類）						
10	資金調達1（募集株式の発行とは）						
11	資金調達2（社債とは）						
12	基礎の変更1（会社の合併及び分割）						
13	基礎の変更2（株式交換・株式移転）						
14	解散と清算						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小テスト	100	講義の内容（株式会社の法制度）を正確に理解し、把握しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
特になし。				原則として、オフィス・アワーに対応する。			
教科書・テキスト	<教科書> 特に指定しない。教員の作成するレジュメ及び資料を配布する。 <参考書> 江頭憲治郎『株式会社法（第7版）』（有斐閣、2017） 伊藤靖史ほか『リーガルクエスト会社法（第4版）』（有斐閣、2018）等 （必要に応じて、講義中に別途紹介する。）			受講生に望むこと	会社法は、現実の企業社会（特に、会社という形態を用いるビジネス全般）の動きと直結した学問領域です。普段から、経済関連の報道等に目を向けながら学習すると、理解を深めやすくなります。自身の関心（たとえば就職活動等）と絡めて情報収集しながら、楽しく学びましょう。		
	参考書・参考資料等	必要に応じて、講義中に紹介する。			その他・特記事項	1 講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。 2 インターン・シップ参加のため、講義を欠席する場合には、大学の方針にしたがって対応するので、適宜、申し出ること。	



授業科目	金融商品取引法						
担当教員	金 賢仙			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義では、金融商品取引法の内容を中心とした金融・資本市場に関する法制度について学ぶ。          学習にあたっては、法制度の趣旨（なぜ、その法制度が存在するのか）を理解することに重きを置きながら、内容（どのような法制度が存在するのか）について理解を深める。          具体的には、総論、企業の情報開示制度（発行開示・流通開示、会計・監査・内部統制、TOB制度、5%ルール制度）、不正取引の禁止（インサイダー取引等）、市場の担い手に対する規制といった内容を取り扱う。          このほかに、必要に応じて、自主規制機関（金融商品取引所、証券業協会その他）によるルールについても学び、資本市場法制全体の理解に繋げる。</p>				<p>資本市場と関連法制の仕組みについて理解をし、身近な生活及び時事問題の中の資本市場法制と関連する出来事に関心及び問題意識を持ち、分析をする能力を身につけることが本講義の教育目標である。</p>			
教授方法	講義形式で行う。						
履修条件	特になし。ただし、商法（会社法）を履修することが望ましい。（また、他の法学系科目を履修済みであれば、学習が効率的になり得る。）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	有価証券の概念						
3	発行市場の規制（総論）						
4	発行市場の規制（開示規制と行為規制）						
5	流通市場の規制（総論）						
6	流通市場の規制（開示規制と行為規制）						
7	会計・監査・内部統制						
8	公開買付け（TOB）						
9	大量保有報告書（5%ルール）						
10	不正取引の規制						
11	金融商品取引業者の規制						
12	金融商品仲介業者の規制						
13	金融商品取引所の規制						
14	自主規制と行政監督機関の役割						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小テスト	100	講義の内容（金融・資本市場の法制度）を正確に理解し、把握しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
特になし。				原則として、オフィス・アワーに対応する。			
教科書・テキスト	<教科書> 松岡啓祐『最新金融商品取引法講義（第5版）』（中央経済社、2019）			受講生に望むこと	金融商品取引法は、現実の企業社会（特に、上場企業と資本市場）の動きと直結した学問領域です。普段から、経済関連の報道等に目を向けながら学習すると、理解を深めやすくなります。自身の関心（たとえば就職活動等）と絡めて情報収集しながら、楽しく学びましょう。		
参考書・参考資料等	<参考書> 黒沼悦郎『金融商品取引法入門（第7版）』（日経文庫、2018） 近藤光男、志谷匡史ほか『基礎から学べる金融商品取引法（第4版）』（弘文堂、2018） 松尾直彦『金融商品取引法（第5版）』（商事法務、2018）等 （必要に応じて、講義中に別途紹介する。）				その他・特記事項	1 講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。 2 インターン・シップ参加のため、講義を欠席する場合には、大学の方針にしたがって対応するので、適宜、申し出ること。	

授業科目	政治学						
担当教員	駒村 哲			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
政治的現実をダイナミックにかつ実証的に分析することを課題とする政治学とはいかなる学問分野であるか、説明する。				政治学とは何か、体系的に理解する力をつける。日本だけでなく、世界の政治について理解できるようになる。			
教授方法	講義とともに各自の発表及びビデオをみる。						
履修条件	歴史学及び国際関係論の科目を履修することが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	政治の世界（1）						
2	政治の世界（2）						
3	政治体制（1）						
4	政治体制（2）						
5	政治過程（1）						
6	政治過程（2）						
7	リーダーシップと行政（1）						
8	リーダーシップと行政（2）						
9	国際政治（1）						
10	国際政治（2）						
11	近代政治の限界（1）						
12	近代政治の限界（2）						
13	政治学への期待（1）						
14	政治学への期待（2）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	25%	論理的説明がなされている。		期末試験	25%	歴史的事実を正確に理解している。	
期末試験	25%	オリジナルな見解が説得力を有している。		期末試験	25%	講義内容を踏まえて論述している。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前にテキストを読み、問題関心を高め、事後はテキストを読み返す。				講義の前後で対応する。			
教科書・テキスト	『政治学』（新川敏光ほか）有斐閣			受講生に望むこと	主体的かつ積極的に取り組む。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	公共政策学						
担当教員	田村 秀			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義は、国、地方自治体などが行う公共政策に関して、その基礎となる理論及び国、地方の具体的な政策事例を紹介することを通じて、公共経営コースの学生に、政策とはどのようなものであって、どのように立案すべきかについて考えさせることを目標としており、次に開講する公共政策演習のための事前学習の性格も有するものである。具体的には国、自治体勤務の経験を踏まえ、観光政策、まちづくり、交通政策、ふるさと創生から地方創生に至る地域活性化のための政策などを取り上げ、学生の基礎的な政策形成能力の涵養を目指している。</p> <p>英語表記「Public Policy」</p>				<p>ねらい 公共政策の理論と現実の姿を理解することを通じて課題発見力や問題解決力を涵養し、基礎的な政策形成能力を修得できるようになる。</p> <p>到達目標 公共政策の手法について説明できる。 公共政策の事例について、系統立てて説明できる。 公共政策の立案プロセスについて説明できる。</p>			
教授方法	講義形式とし、毎回学生に複数回質問するなど双方向方式で実施する。						
履修条件	原則として、公共経営コースに所属していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	講義内容の説明を行い、政策科学の振り返りを行うとともに、様々な政策手法について説明する。						
2	第2回から第13回まで、各回おおむね2つの政策事例を取り上げ、公共政策の実態について考察する。第2回では戦後の地域開発の歴史と新幹線整備について考察する。						
3	高速道路整備と企業誘致・工業団地整備について考察する。						
4	地方創生とその具体的な取組みとしてみなかみ町の事例について考察する。						
5	オリンピックとスポーツ政策全般について考察する。						
6	ゆとり教育と高校の魅力化など教育政策について考察する。						
7	観光政策について、国や地方自治体の取り組みを中心に考察する。						
8	観光政策について、PRや失敗事例などを中心に考察する。						
9	みなかみ町の観光政策とアクセス向上のための取り組みを考察する。						
10	まちづくりに関する取り組みを考察する（その1）。						
11	まちづくりに関する取り組みを考察する（その2）。						
12	まちづくりに関する取り組みを考察する（その3）。						
13	まちづくりに関する取り組みを考察する（その4）。						
14	講義のまとめを行うとともに、公共政策のあるべき姿について考察する。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	現実の政策に対して客観的な評価ができていないかを基準とする。		授業レポート	50	中間レポートを実施する。講義内容を踏まえて書かれているかを基準とする。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
政策科学の授業の内容を復習する。授業で扱った内容や資料について、自分なりに調べてみる。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・毎回授業のはじめに、前回の授業における質問や意見に対してコメントする。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。</li> </ul>			
教科書・テキスト	なし			受講生に望むこと	公共政策や経済に関するニュースを日頃から読むこと。 行政学、地方自治論、地方行財政演習を受講していることが望ましい。		
参考書・参考資料等	田村秀『自治体崩壊』（イースト新書、2014年）。このほか、資料をWEBサイトから、事前にダウンロードして入手しておくこと。			その他・特記事項	担当教員は、国、地方自治体で実際の公共政策の立案及び実施に携わっている。		

授業科目	公共政策演習					
担当教員	田村 秀・真野 毅・宮森 征司		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義は、本演習は、公共政策学で学んだ政策事例なども参考にしながら、学生がグループワークを通じて実現可能性を有する政策提案を行うことによって、政策形成能力を涵養することを目標とするものである。具体的には、文化、観光、環境の3つのテーマに関して、基調講義（1回）、グループワーク（2回ないし3回）、発表と講評（1回）の4回を1クールとして実施する。グループの構成員はクール毎に変えることによってチームワーク力の涵養も目指している。なお、第1回、第6回から第10回までを田村が、第2回から第5回までを宮森が、第11回から第14回を真野が担当する。このうち、田村、真野は公共政策の立案、実施に携わっており、実際に担当した事例などを講義で扱う。</p> <p>英語表記「Public Policy Seminar」</p>			<p>ねらい 実現可能性を有する政策をグループワークによって提案することによって、コミュニケーション・スキル、問題解決力、チームワーク・リーダーシップ、論理的思考力を修得する。</p> <p>到達目標 実現可能性を有する政策提案ができる。 他の学生と協力しながらグループワークをすることができる。 政策形成のプロセスを理解できる。</p>			
教授方法	講義と数人のグループによるグループワーク、パワーポイントのプレゼンテーションを組み合わせる。なお、グループのメンバーはテーマごとに変更する。					
履修条件	原則として、公共経営コースに所属し、公共政策学を履修していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	全体講義、公共政策の事例を通じて政策提案のポイントを考察するとともにグループワークの進め方に関する留意点を説明する。					
2	文化をテーマに、文化政策の現状と課題について基調講義を行う。					
3	文化をテーマにグループワークを行う(第1回)。					
4	文化をテーマにグループワークを行う(第2回)。					
5	グループワークの成果の発表と講評を行う。					
6	観光をテーマに、観光政策の現状と課題について基調講義を行う。					
7	観光をテーマにグループワークを行う(第1回)。					
8	観光をテーマにグループワークを行う(第2回)。					
9	観光をテーマにグループワークを行う(第3回)。					
10	グループワークの成果の発表と講評を行う。					
11	環境をテーマに、環境政策の現状と課題について基調講義を行う。					
12	環境をテーマにグループワークを行う(第1回)。					
13	環境をテーマにグループワークを行う(第2回)。					
14	グループワークの成果の発表と講評を行う。					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	25	3回のグループワークの内容等についてまとめる。	上記以外の授業評価	75	(グループワークでの各自の貢献10% + プレゼンテーションの内容15%) × 3回	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
グループワークのテーマに関する政策について各自で事前に調べる。必要に応じて、講義以外の時間に集まり、グループワークを行う。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・毎回授業のはじめに、前回の授業における質問や意見に対してコメントする。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。</li> </ul>			
教科書・テキスト	なし		受講生に望むこと	公共政策に関心を持っていること。 グループワークに積極的に参画する意欲を持っていること。		
参考書・参考資料等	なし。資料は教室で配布する。		その他・特記事項	田村は国、三重県等で、真野は豊岡市で、実際の公共政策の立案及び実施に携わっている。		

授業科目	市民参加論						
担当教員	野口 暢子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>民主的な政治体制においては、その政治過程における様々な場面において「市民参加」の機会がある。この授業では、「市民参加」という概念を幅広くとらえ、「市民参加」の歴史・理論・制度・実践の方法を講義するとともに、実際に「市民参加」を行うことを通じて、その実効性を体験できるような内容とする。また、日本国内や諸外国における「市民参加」の事例を紹介しながら、「市民参加」の意義と限界を意識できるよう受講生のディスカッションの中から受講生自らが学べるよう、授業内容を工夫する。第2回～第13回の授業内容を受け、考えたこと、疑問に思ったことをふりかえり、短いレポートをまとめることで、考察を深める。</p>				「市民参加」の意義を理解できることを目指す。			
教授方法	担当教員による講義、「市民参加」の事例紹介、ディスカッション、パブリックコメントなどの「市民参加」の実践など						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス（授業の進め方）						
2	代議制民主主義を支える「市民参加」						
3	選挙を通じて市民の民意を反映することは、可能か？						
4	全体主義と「市民参加」						
5	ソーシャル・キャピタルと「市民参加」の関係						
6	投票率の推移と若者の「市民参加」						
7	選挙制度						
8	少数意見を尊重する方法						
9	陳情・請願						
10	パブリックコメント						
11	国民投票・住民投票						
12	デモ						
13	政治に無関心な人々は増えているのか？						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	80	理解力、思考力、問題を発見する力		ディスカッション	20	授業内のディスカッションにおいて、積極的に自らの考えや疑問点を述べる事ができたか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
第2回～第13回の授業内容についてのまとめレポート				簡単な質問や相談は、野口の学内メールアドレス宛にメールをその内容を書いて、メールを送ってください。直接、話をしたい場合には、その概要と面談を希望する日時を書いたメールを野口の学内メールアドレス宛に送ってください。			
教科書・テキスト	松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる 政治過程論』ミネルヴァ書房、2018年			受講生に望むこと	ふだんから社会における問題に関心を持ち、わからないことを調べる姿勢を大切にしてください。		
参考書・参考資料等	授業内に紹介いたします。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		公共経営論					
担当教員		田村 秀		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義は、公共経営コースを総括するものである。具体的には、教科書『地方都市の持続可能性』に基づいて、国、自治体勤務の経験を踏まえ、地方都市における公共経営の変遷を歴史的に概観し、現状と課題を論じるとともに、市町村合併や道州論など自治体の適正規模に関する議論も踏まえ、ガバナンスの時代における公共経営のあり方について学生が考察を深めることを目標としている。</p> <p>英語表記「Public Management」</p>				<p>ねらい 公共経営が多様なアクターで営まれるという多面性を理解することを通じて、公共経営分野の知識が体系的に理解できるようになる。</p> <p>到達目標 公共経営が持つ多面性を説明できる。 特に地方都市における公共経営の課題を説明できる。</p>			
教授方法		講義形式とし、毎回学生に質問するなど双方向方式で進める。					
履修条件		原則として、公共経営コースに所属していて、公共政策論及び公共政策演習の単位を取得していること。					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	講義内容の説明を行うとともに、公共経営の概念について論じる。						
2	第1章「データでみる東京のひとり勝ち」について論じる。						
3	第2章「だれが都市を殺すのか」について論じる（その1）。						
4	第2章について論じる（その2）。						
5	第3章「国策と地方都市」について論じる（その1）。						
6	第3章について論じる（その2）。						
7	第4章「都市間競争の時代へ」について論じる（その1）。						
8	第4章について論じる（その2）。						
9	第5章「人口減少時代に生き残る都市の条件」について論じる。						
10	長野県内の市町村における公共経営の現状と課題について論じる。						
11	長野県外の市町村における公共経営の現状と課題について論じる。						
12	公共経営における自治体職員の果たすべき役割について考察する。						
13	公共経営における首長や地方議員の果たすべき役割について考察する。						
14	全体の振り返りを行い、公共経営の多面性を改めて論じる。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	公共経営の多面性が理解できているかを基準とする。		授業レポート	30	中間レポートを実施する。講義内容を踏まえて書かれているかを基準とする。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
公共政策学、公共政策演習の授業の内容を復習する。授業で扱った内容や資料について、自分なりに調べてみる。				"質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前回の授業における質問や意見に対してコメントする。 ・メールでの質問も受け付ける。			
教科書・テキスト	田村秀『地方都市の持続可能性』（ちくま新書、2018年）			受講生に望むこと	地方自治に関するニュースを日頃から読むこと。行政に関心を持つこと。		
参考書・参考資料等	田村秀『道州制で日本はこう変わる』（扶桑社新書、2013年）。このほか、資料をWEBサイトから事前にダウンロードして入手しておくこと。			その他・特記事項	担当教員は、国、地方自治体で公共経営の実務に携わっている。		

授業科目		地域社会学					
担当教員		築山 秀夫		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
基本的に講義形式で行うが、後半では、学生による能動的学修も組み込む。地域社会を社会的視点でとらえることのできる能力を習得することを目標とする。地域社会学の方法論について解説し、都市・農村それぞれの地域社会の構造や変動、市町村合併による地域社会の変容などについて、地域における生活・人間関係・集団などの諸次元について、多角的に解説する。さらに、少子化・過疎化による人口減少、地域計画とまちづくり、コミュニティの変容など、現代の地域社会に起きている多様な問題群について、社会的にアプローチし、履修者間で、議論しながら、その諸問題の解決策を検討する				ねらい 現代の地域社会に関する社会的知識を身につけるとともに、地域の課題を観察、分析し、自分なりの解決策を構築できるようになることをねらいとする 到達目標 地域社会の構造（都市や農村の成り立ちや仕組み）や変動に関して、理解することができる。地域社会における現代的課題の構造を理解することができる。			
教授方法	授業は講義を中心に行うが、幾つかのテーマについて、グループに分かれて議論し、発表するなど、アクティブ・ラーニングを取り入れる。						
履修条件	特になし。社会学を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をする						
2	地域社会の現在 地域社会の定義、主要統計からみた日本の地域社会の変動について解説する						
3	地域社会学前史 農村社会学・都市社会学から地域社会学に至る背景について解説する						
4	地域社会学の方法論 地域社会学の主な理論と方法について解説する						
5	第1～4回までの内容について理解度を確認するための小テスト を実施する。 地域社会の変動1 都市の構造及び都市化と地域社会の変容について解説する						
6	地域社会の変動2 農村の構造及び過疎化と地域社会の変容について解説する						
7	地域社会の変動3 市町村合併と地域社会の変容について解説する						
8	第5～7回までの内容について理解度を確認するための小テスト を実施する。 地域社会の現代的課題1 人口減少に向き合う地域社会について解説する						
9	テーマに関するレポートを提出する。 グループディスカッション1 人口減少に抗う地域社会をテーマにグループで議論する						
10	地域社会の現代的課題2 国土のグランドデザイン・地域計画と地域社会について解説する						
11	地域社会の現代的課題3 まちづくり・むらおこしと地域再生に向き合う地域社会について解説する						
12	テーマに関するレポートを提出する。 グループディスカッション2 まちづくり・むらおこしと地域再生と地域社会をテーマにグループで議論する						
13	地域社会と大学 大学や学生が地域づくりに関わる意義と方法について解説する						
14	まとめ 地域社会をとらえるリテラシーについて 受講者同士のディスカッション						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	50	地域社会を社会的に分析することができ、講義内容を踏まえて、論理的に自己の考えを説明できればAとする。試験が60点以上なければ、他の成績が良		小テスト	20	第5回と第8回の講義時に小テストを実施し、理解度に応じて評価する。	
授業レポート	20	グループディスカッションを実施する第9回と第12回に、それぞれテーマに沿ったレポートを提出して頂き、評価する。全てのレポートが提出されているこ		授業参加度	10	グループディスカッションでの参加度、リアクションペーパーの内容等で評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業時に配布した資料及びノートをよく読み、復習すること。毎回のテーマに関する予習をすること。				授業後やオフィスアワー時に直接受け付ける。また、リアクションペーパーに質問を書いて頂ければ、次回の講義時に解答する。但し、自分でできる限り調べる努力をすること。自分で考察してから質問する。			
教科書・テキスト	テキストは使用せず、毎回資料を印刷して配布する。			受講生に望むこと	授業中はノートを取ること。		
参考書・参考資料等	地域社会学会編2011『キーワード地域社会学 新版』ハーベスト社、岩崎信彦・似田貝香門・古城利明・矢澤澄子監修2006『地域社会学講座』（全3巻）東信堂			その他・特記事項	地域社会に関する関心を持ち、新聞等で、地域社会に関する動向を理解しておくこと。		

授業科目	インターンシップ						
担当教員	穴山 悌三			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	2・3学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>インターンシップは単なる「職場体験」ではなく、大学における各自の学びを基礎として、実社会においてそれらをどのように活かしていくべきかを探り、また大学で習得すべき学問のあり方についても考える機会となります。この授業は、実習先職場における実践的教育を核として、学習すべき事項や方法を学ぶ事前研修、学んだことを振り返り今後の学習に活かす事後研修とレポート提出を行います。本授業の対象とする実習先は原則として各自の選択により決定し、5～14日間にわたる現場実践プログラムを通じて様々な業務を体験します。</p>				<p>実際の企業や団体での現場・就業体験を通じて、これまでに教科等で学んだ知識・技能の活用可能性を探り、また今後の学習指針の確立等に役立てます。併せて、実務実践過程において主体的な問題発見力・問題解決力等を向上させ、社会人基礎力の習得も目指します。更に、将来の進路・方向性について主体的に考え、進路決定のヒントとなる職業観や価値観を育成します。</p>			
教授方法	事前・事後研修は講義と演習を織り交ぜた形式で行います。主たる授業は実習になります。						
履修条件	受入れ先のプログラムの全日程に参加すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	6/10 オリエンテーション:授業の位置づけ、授業の進め方、実習で何を学ぶかを理解する						
2	6/17 実習先の事前調査						
3	6/24 グループワーク						
4	7/1 ビジネスマナー実習、および実習に向けての目標設定と最終確認						
5	実習（実習日程・日数は実習先により異なる）						
6	10/14 実習成果の振り返り						
7	10/28 成果報告会での報告・質疑対応等、成果のまとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
事前・事後研修の平常点	10	事前・事後研修での積極的な発言などの平常点を評価します。			実習先での成果	50	実習先ご担当者様のご意見を参考に担当教員が実習先での学習成果について評価します。
レポート	20	実習後に提出するレポートの内容を評価します。			事後研修での振り返り・発	20	実習成果の振り返りの内容を評価します。また成果報告会での優秀な発表には加算します。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>実習先についてのリサーチなどの課題に取り組む。 実習時の記録をハンドブックに記入し提出する。 終了後、レポートを提出する。 成果を発表する。</p>				<p>質問は授業中や授業の前後に受け付けるほか、メールでの質問も可能です。アドレス：career@u-nagano.ac.jp</p>			
教科書・テキスト	使用しません。			受講生に望むこと	<p>授業では、主体的に課題やディスカッションに取り組んでください。 実習先では、ルールを順守し、前向きに取り組んでください。 自分があまり知らなかった業界・企業等の実習先では、かえって知見が大きく広がる可能性があります。積極的にチャレンジしてみてください。</p>		
参考書・参考資料等	キャリアセンター作成のハンドブックを使用します。その他は授業中に適宜指示します。				その他・特記事項	<p>実習先については、キャリアセンター指定のリストより選択することになりますが、調整の結果として各自の希望に添えない場合もあります。 実習期間は、概ね5日～10日を目安として、実習先プログラムにより異なります。 実習内容は、実習先により異なります。</p>	



授業科目	ゼミナール（野口）						
担当教員	野口 暢子			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
自治体に関する制度と公共政策の各国比較研究				諸外国の自治体に関する制度や公共政策について、情報を収集する力、レジュメやパワーポイントを使って発表する力、質問をする力などを身に付けるとともに、各国の制度や政策を比較して考察することで知識を深めることをめざします。			
教授方法	毎回、受講生が各自担当する国の制度や公共政策（各回・指定するテーマ）について、発表（5分）を行い、その内容についてお互いに質問したり、比較検討を行ったりするというスタイルでゼミナールを進めます。						
履修条件	諸外国の制度、政策に関心があること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス：ゼミナールで取り組む内容と進め方						
2	各国の人口・元首						
3	各国の地方自治制度						
4	各国の基礎的自治体（市町村など）						
5	各国の広域自治体（州・県など）						
6	各国の自治体間関係						
7	各国の産業						
8	3学期・4学期以降、担当する国を考える 興味がある国・政策（この回以降「自分が担当する国（ひとつ）」を決めます）						
9	各国の概要						
10	各国の歴史						
11	各国の政治体制						
12	各国の議会・政党						
13	各国の憲法						
14	各国の産業						
15	各国の税制						
16	各国の高齢者に関する福祉政策						
17	各国の子どもに関する福祉政策						
18	各国の男女平等に関する政策						
19	各国の移民政策						
20	各国の教育政策						
21	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
発表内容	70%	信頼できる情報をもとにして、レジュメやパワーポイントをまとめているか、わかりやすく伝えることができたか。			質問をする力	30%	問題意識を持って発表を聞き、わからないことを質問することができたか。
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		

<p>&lt;事前学習&gt; 次回の発表に向け、レジメやパワーポイントを作成し、5分間で発表できるようにすること。        &lt;事後学習&gt; 前回のゼミナールでわからなかった点、さらに知りたい・深めたいと思った点について調べること。</p>	<p>簡単な内容はメールで質問してください。面談を希望する場合は、メールで日時を決め、研究室でお話することになります。</p>		
<p>教科書・テキスト</p>	<p>なし</p>	<p>受講生に望むこと</p>	<p>できないこと、したくないことは、遠慮せず、はっきりと「できません。したくありません」と言うこと。 &lt;野口ゼミナール&gt; がついている題名のメールには必ず返信すること</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>担当する国に関する書籍・論文・データなどをできるだけたくさん集めて、参考にしてください。</p>	<p>その他・特記事項</p>	<p>日頃から、世界中の社会問題に関心を持ってください。みんながみんなから学び合うゼミにしていきたいと思います。</p>

授業科目	ゼミナール（築山）						
担当教員	築山 秀夫			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>社会学のテキストを受講生が分担して報告し、皆で討論を行うことで、社会学の方法論及び、社会学の命題に関して学び、社会的思考とは何かについて理解を深める。NIEを用い、社会問題への関心を涵養する。一方で、サブゼミとして、フィールドに出て、市民活動のアクターたちの意見を聞き、議論をする。一年間の学びの成果として、「ゼミナール 修了論文」を各自に執筆して頂き、「ゼミナール 修了論文集」を作成する。また、その成果を、地域社会に還元するために、学外で報告会を開催する。ゼミのメンバーのニーズに合わせて、講義内容の変更を行う。</p>				<p>本学部のディプロマポリシー（以下DP）のうち「グローバルな視点から、現代社会の多様な課題に対して論理的に思考する能力」を培い、公共経営コースのDP「地域社会の諸課題を的確に把握するための公共経営に関する専門的知識を持ち、その課題解決のための企画立案する能力」を培うことをねらいとする。</p> <p>社会学の命題を学ぶことで、社会的なもののみかたを修得する。社会のなかで起きている諸問題について、自ら問いを立て、分析するという研究スタイルを学ぶ。自分の問題関心から始まり、それと同時に社会問題を解き、時代や社会の診断を可能とする主体を形成する。</p>			
教授方法	<p>1.ゼミナールの本ゼミでは、社会問題研究と社会学入門テキスト輪読と各自の課題研究の3本立て構成：社会問題の関心を喚起するために、NIE(Newspaper in Education)を用い、毎回、自らの意見を述べ、皆で議論をする。社会的パースペクティブや分析手法を学ぶために、社会学の入門書の輪読を行う。そして、各ゼミ生が、個々に関心のある問いを自ら設定し、「ゼミナール 修了論文」を執筆する。これは、ゼミナール・卒業研究で、卒業論文を執筆するための作法を学ぶためのものである。</p> <p>2.本ゼミとサブゼミから成る二部構成：県立大学内で実施する社会学の手法や理論を学ぶ本ゼミ以外に、学外でサブゼミを実施する。サブゼミでは、毎週水曜日午後6時から、長野市門前小路（長野市大字長野東町146-3）の東町ベースで、市民活動リーダーの皆さんや、Town Management Organizationのまちづくり長野の方々、長野市役所都市整備部の方々などと、中心市街地活性化やまちづくりなどについてのディスカッションを行う。</p>						
履修条件	<p>1.総合教育科目「社会学」を履修していることが望ましい。</p> <p>2.担当教員による科目「コミュニティデザイン概論」「社会調査論」「地域社会学」を必ず履修すること</p>						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス：ゼミナールの進め方等について						
2	テキスト：船橋晴俊『現代社会学ライブラリー2 社会学をいかに学ぶか』（2012年、弘文堂）の輪読、毎回、テキストを読み進め、担当部分のレジュメを作製して報告し、質疑応答と議論を行い、教員が解説する。第1章 学問的ヒットを打つために（勉強と研究とはどのように						
3	第2章 社会学の牽引力と社会的想像力（社会的想像力によって、何が可能となるのか）						
4	第4章 組織社会学（組織に見いだされる「経営システムと支配システムの両義性」）						
5	第5章 社会計画論（社会制御の重層性・社会制御システムと枠組み条件）						
6	第7章 中範囲の社会学理論（社会学における実証と理論）						
7	第8章 ヴェーバーの方法論と合理性への視点（科学的認識、価値、観念の関係）						
8	社会問題研究：3学期は、1学期及び2学期中に立てた自分の問いに関するテーマについて、ゼミ前1週間の新聞の社説あるいは記事等（社会問題+執筆者の解説と見解があるもの）から、当該社会問題の要旨と記事執筆者の見解、そして、それに対するゼミ生の見解をA4（1枚）に						
9	社会学入門書の輪読：毎回、テキストを読み進め、担当部分のレジュメを作製して報告し、質疑応答と議論を行い、教員が解説する。3学期は、作田啓一・井上俊編『命題コレクション社会学』（1986年、筑摩書房）をテキストとして用い、社会学における著名な命題を学ぶことで						
10	1.社会的存在としての人間：「自我の社会性」（G・H・ミード）、「抑圧と文化の理論」（フロイト）、「文化としての性差」（M・ミード）						
11	1.社会的存在としての人間：「文化としての性差」（M・ミード）、「同様の語彙」（C・W・ミルズ）						
12	1.社会的存在としての人間：「自己呈示のドラマツルギー」（E・ゴフマン）、「ダブル・バインド」（G・ベイトソン）						
13	2.行為と関係：「ラベリングと逸脱」（H・ベッカー）、「予言の自己成就」（R・K・マートン）						
14	2.行為と関係：「欲望の模倣とモデル＝ライバル論」（R・ジラール）、「ルサンチマンと道徳」（F・W・ニーチェ）						
15	社会問題研究：4学期は、ゼミナール 修了論文の進捗状況を各自報告し、それに対する意見を述べ合う。最終的に、各自が、「ゼミナール 修了論文」（A4で15～20枚程度）を執筆し、ゼミナール 修了論文集を作成します。また、ゼミでの研究成果をパワーポイントを用い						
16	1.システムとしての社会：「互酬の不均衡と権力の発生」（P・M・ブラウ）、「贈与論」（M・モース）						
17	1.システムとしての社会：「女性の交換と近親婚の禁止」（C・レヴィ＝ストロース）、「狂気の閉じ込めと監視」（M・フーコー）						
18	1.システムとしての社会：「犯罪の潜在的機能」（E・デュルケム）、「閉じた社会と開いた社会」（H・ベルグソン）						
19	3.近代から現代へ：「権力による暴力独占と文明化」（N・エリアス）、「プロテスタンティズムの倫理と資本主義」（M・ウェーバー）						
20	3.近代から現代へ：「自由と平等との非両立性」（A・トクヴィル）、「自由からの逃走」（E・フロム）						
21	3.近代から現代へ：「高度産業社会と他人指向型」（D・リースマン）、「アイデンティティとモラトリアム」（E・H・エリクソン）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
修了論文	50	自ら問いを立て、その問いの所在を明らかにし、エビデンスに基づき、その解答が出来ておれば、優とする。		NIE	20	毎回提出して頂く、社会問題研究を評価する。	

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
レジュメ作成	20	輪読書のレジュメ(担当回)を評価する。	発言	10	毎回のディスカッションでの発言を評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
<p>毎回、ゼミ前1週間の新聞の社説あるいは記事等(社会問題+執筆者の解説と見解があるもの)から、ゼミ生が特に興味を持った社会問題のテーマを一つ選び、当該社会問題の要旨と記事執筆者の見解、そして、それに対するゼミ生の見解をA4(1枚)にまとめてくる。毎日、新聞を読んでいることが必要である。社会学入門書の輪読をするので、その回で進む部分に関して、テキストを読み、整理しておくことが必要である。文献を読むに際しては、「知らないこと」「分からないこと」は、放置せずに調べて、考えておくことが求められる。「分からないこと」については、ゼミ時間中に、ゼミメンバーとともに議論し、追及すること。また、授業内容を振り返り、整理し、理解を深めておくことが必要である。</p>			ゼミ時間内であればいつでも、時間外であれば、メールにて対応(24時間以内に回答)します。		
<b>教科書・テキスト</b> 船橋晴俊『現代社会学ライブラリー2 社会学をいかに学ぶか』弘文堂、2012年 作田啓一・井上俊編『命題コレクション社会学』筑摩書房、1989年			受講生に望むこと	授業時間外の勉強時間が毎日1時間以上、週末数時間以上は必要です。皆さん、勉強しましょう!	
			その他・特記事項	これだけ盛りだくさんのことを実施するには、100分では無理なので、毎回、時間を延長することになりますので、宜しくお願いします。	
<b>参考書・参考資料等</b> 井出英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作『大人のための社会科』有斐閣、2017年 船橋晴俊『組織の存立構造論と両義性論 社会学理論の重層的探求』東信堂、2010年					

授業科目	ゼミナール（中村文）						
担当教員	中村 文彦			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>多くの人は、企業が決算等で報告する会計数値について、おそらく「堅い」とか「動かしがたい」という印象・イメージを持っていると思われる。しかし実際には、報告の目的や、計算の仕方等、描写に際してどのようなルールを設定するかにより、描写されるビジネス活動の姿は大きく異なっている。本ゼミナールでは、企業が利害関係者との間で会計情報を授受する財務報告制度に焦点を当てて、次の二つのことを学ぶ。  企業から開示された会計情報を正しく読み取り分析するための基礎会計情報作成のルールとその設定を理解するための基礎理論</p>				<p>本ゼミナールでは、受講者が将来どのような進路に進んだ場合であっても、特定のテーマについて調査・報告という作業を一定レベルで完遂できるように、テーマの選定、資料収集、レジュメ・プレゼンテーション資料の作成、報告、討論等の基本タスクをグループあるいは各人で行ないながら、自己のスキルを高めて学習を深めていく。具体的には、2年次に業界研究と分析、3年次に企業分析を行い、4年次に各自の関心あるテーマについて調査研究を行い論文としてまとめる。</p>			
教授方法	演習形式による。						
履修条件	アカウントニング入門、財務会計入門を履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミ運営方法等に関する話し合い (ゼミ長・副ゼミ長の決定、課題の決定、担当箇所・コメンテーター等の割り当て等)						
2	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
3	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
4	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
5	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
6	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
7	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
8	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
9	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
10	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
11	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
12	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
13	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
14	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
15	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
16	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
17	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
18	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
19	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
20	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
21	学習の振り返り・今後の方向性等						
22	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
23	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
24	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
25	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
26	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
27	論文執筆指導（論文の添削等）						
28	振り返り、講評						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
テーマの選択と調査・資料	30	テキスト等から自分の担当箇所を選択し、その内容について調査を行い資料を集める	グループワーク	20	テーマに関するグループ・ディスカッションおよびグループ・ワークへの参加態度・貢献度
レジュメ報告・プレゼンテ	30	レジュメやプレゼンテーション資料の作成と報告・プレゼンテーション			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
企業のビジネス活動に関わる情報は、日常、メディア等を通じて積極的に収集すること。特に、自己の担当した企業が属する業界や将来就職を希望する業種については、常に情報収集を欠かさないこと。			基本的には授業前後、オフィスアワー等により対応する。		
教科書・テキスト	加藤健太・大石直樹『ケースに学ぶ日本の企業ビジネスストーリーへの招待』有斐閣。		受講生に望むこと	積極的にゼミ活動に参加すること。	
参考書・参考資料等	授業中に必要な資料は指示する。		その他・特記事項	有価証券報告書を用いた演習は、ゼミ生の興味に応じてアレンジしていく予定である。	

授業科目	ゼミナール（東）						
担当教員	東 俊之		必修・選択	選択	単位数	3単位	
履修年次	2年	開講学期	通年		授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格			備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）				
<p>本ゼミは、大きく2つに分かれます。前期（1学期）は、経営組織論についての基礎的なテキストを皆さんと輪読していきます。各回、グループまたは個人で担当章の内容の要約をプレゼンしてもらいます。また、プレゼンする章の内容と関連する事例を調査し、紹介してもらいます。後期（3・4学期）は「ビジネス小説」を題材に、経営組織論の基本を学んでいきます。前期で勉強した知識を活用し、経営活動を組織論の視点から分析してもらいます。こうしたプロセスによって、論理的思考力やプレゼンテーション能力も涵養していきます。</p>			<p>グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度を身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考の向上を図ることを目的とする。そのため、一年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。授業では、教員が学生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を広げる課題発見能力を養成する。</p> <p>特に「ゼミナール（東）」では、経営学の基本、特に経営組織論の知見をグループ活動やアクティブ・ラーニングによって身につける。経営組織論の知見を生かしてグローバル社会の諸課題を検討することができる、諸課題を検討する過程を通じて主体的に行動できる、ことを主目的としている。そして、問題を発見し、問題解決へとアプローチする、いわゆる「学問する力」が身につける。グループ活動を通じて協働力とリーダーシップ、創造的思考を身につけ実践の場で活用できる、ことも本ゼミでは到達目標の一つである。</p>				

教授方法	演習。場合によっては、講義の形式の時もある。また、学外での調査も予定している。
履修条件	特に履修条件はありません。ただし、2年次1学期に開講される「経営組織論」（東担当）はなるべく履修してください。

授業計画	
実施回	授業内容
第1回	【オリエンテーション】ゼミ活動の概要の紹介とメンバーの自己紹介、今後のスケジュール調整などを行います。また課外で個人面談を実施します。
第2回	【ゼミ活動準備】ゼミ活動の準備として指定図書『カモメになったペンギン』を講読し、メンバーでディスカッションを行います。またプレゼンテーションの方法についても検討します。
第3回	【経営組織論テキストの輪読（1）】：指定図書 の該当箇所を講読します。主に「なぜ組織について学ぶのか」を理解します。
第4回	【経営組織論テキストの輪読（2）】：指定図書の該当箇所をプレゼンしてもらいます。主に「組織を捉える基本的な見方」について学びます。
第5回	【経営組織論テキストの輪読（3）】：指定図書の該当箇所をプレゼンしてもらいます。主に「組織の構造とプロセス」について学びます。
第6回	【経営組織論テキストの輪読（4）】：指定図書の該当箇所をプレゼンしてもらいます。主に「変動する環境における組織」について学びます。
第7回	【自己点検授業と総合演習】：1学期の授業内容を振り返り、これまで学んできたことを再度確認します。また、2学期・夏期休業中の課題や予定なども案内します。
第8回	【3学期ガイダンス】：3・4学期の授業内容の説明、スケジュール調整、また『ビジネス小説』を使用した授業の意義と方法をレクチャーします。
第9回	【ビジネス小説の輪読（1）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。毎回、該当章の内容と関連する経営組織論のキーワードを提示します。キーワードを用いて、ビジネス小説を読み解いてください。
第10回	【ビジネス小説の輪読（2）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
第11回	【ビジネス小説の輪読（3）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
第12回	【ビジネス小説の輪読（4）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
第13回	【ビジネス小説の輪読（5）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
第14回	【ビジネス小説の輪読（6）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
第15回	【4学期ガイダンス】4学期の授業の説明、指定図書 で学ぶべきポイントの指示、など
第16回	【ビジネス小説の輪読（7）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
第17回	【ビジネス小説の輪読（8）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
第18回	【ビジネス小説の輪読（9）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
第19回	【ビジネス小説の輪読（10）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。
第20回	【総合演習】：これまで学んできたことを応用し、実際の事例を取り上げてグループでディスカッションします。
第21回	自己点検授業と総合演習：1年間の振り返りと次年度へ向けてのプランを検討します。また、課外で個人面談を行います。

共通の評価基準

共通の評価基準					
---------	--	--	--	--	--

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験	0%		小テスト	0%	
授業レポート	40%	前期レポート：10%、後期レポート：20%、その他小レポート（数回）：10% 詳細は、第1回授業時に説明	上記以外の授業評価	60%	授業内でのプレゼンテーション：30%、授業やグループ活動への参加度、また予習状況等の平常点：30%（総合的に評価する）
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		

<p>グループ討議やプレゼン準備などグループでの活動が必要です。授業時間外で集まって作業することが多々あります。グループ内で時間を調整し、多くの討議時間や作業時間を確保してください。プレゼンにあたっていない回でも、該当箇所をきちんと読んでプレゼン担当者への確かなコメントができるように準備してもらいます。そのため、わからない用語などは事前に自分で調べておくようにしましょう。</p>		<p>火曜日2限目・3限目をオフィスアワーとして設定しますが、それ以外でも在室しているときは対応します。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。</p>	
<p>教科書・テキスト</p>	<p>(1学期) ジョン・P・コッター著『カモメになったペンギン』ダイヤモンド社、2007年、高尾義明著『はじめての経営組織論』有斐閣、2019年 / (3・4学期) 稲田将人著『戦略参謀』ダイヤモンド社、2013年、榆周平著『ラストワンマイル』新潮文庫、2009年</p>	<p>受講生に望むこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ活動には、なるべく積極的に参加してほしいです。</li> <li>・グループ活動も多く、課外の時間に集まって作業してもらうこともありますので、アルバイトやサークル活動を優先しないでください。</li> <li>・ゼミに入るまで(1年次)の学力や経営学に関する知識は特に問いません。ただし、ゼミ内で勉強してもらうことも多いので、向学心を持ち続けてほしいです。</li> </ul>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>参考書・参考資料は、現時点では特に指定しません。随時、ゼミ内で紹介します。また、英語文献も参照してもらおうつもりです。</p>		<p>その他・特記事項</p> <p>学外に出かけての調査も予定しています。積極的に参加ください。</p>



授業科目		ゼミナール（大室）					
担当教員	大室 悦賀			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本ゼミは、基礎理論と現実を往復しながら、それらを自分のものとすることを目的とします。内容は学生と相談しながら進めますが、教科書としてしている本は必ず読んでもらいます。また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。</p>				<p>本ゼミでは、以下の4つの事業を展開する。第1に企業と社会に関わる基本的な知識を獲得すること。第2には学生生活内、あるいは生涯を通じて実施していきたい「マイプロジェクト」を作成すること。第3にマイプロジェクトを実施すること。第4に新規事業を作成し企業等に提案すること。上記のプロセスでは、思考方法、セルフマネジメントなどの基礎的なものを合わせて実施し、自立した個人の育成に力を注ぐ。最終的には、持続的な社会に貢献できる人材になってもらう。</p>			
教授方法	演習を基本としますが、東京や京都等への企業訪問などを取り入れることで理論と現実を往復していきます						
履修条件	2年次のゼミ合格者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーションおよび『入門企業と社会』の輪読						
2	輪読『なぜ世界は存在しないのか』（序章・1章）						
3	輪読『なぜ世界は存在しないのか』（2・3章）						
4	輪読『なぜ世界は存在しないのか』（4・5章）						
5	輪読『なぜ世界は存在しないのか』（6・7章）						
6	輪読『企業社会のリストラクション』（2・3章）						
7	輪読『企業社会のリストラクション』（4章）						
8	輪読『企業社会のリストラクション』（5章）						
9	輪読『企業社会のリストラクション』（6章）						
10	輪読『企業社会のリストラクション』（7章）						
11	輪読『企業社会のリストラクション』（8章）						
12	輪読『企業社会のリストラクション』（9章）						
13	輪読『企業社会のリストラクション』（10章）						
14	輪読『企業社会のリストラクション』（11章）						
15	輪読『企業社会のリストラクション』（12・13章）						
16	輪読『企業社会のリストラクション』（14・終章）						
17	輪読『ソーシャルイノベーションの創出と普及』（1・2章）						
18	輪読『ソーシャルイノベーションの創出と普及』（3・4章）						
19	輪読『ソーシャルイノベーションの創出と普及』（5・6章）						
20	マイプロ発表会						
21	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
その他	100	授業への参加と課題等の取組姿勢					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>事前学習：各自に割れあてられた課題をしっかりと読み込むこと        事後学習：授業中に議論したことを自分なりに再度まとめ直すこと</p>	<p>アポイントを入れ、研究室に相談に来ること</p>		
<p>教科書・ テキスト</p>	<p>授業中に指定する</p>	<p>受講生に 望むこと</p>	<p>しっかり考える習慣を獲得すること</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>授業中に指示する</p>	<p>その他・ 特記事項</p>	<p>これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識させる内容としたい。これまでの職務で知り合った企業を事例として授業を進めることを想定。</p>

授業科目		ゼミナール（衣川）					
担当教員	衣川 修平			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
主に会計学を学ぶゼミです。本年度は中でも企業分析を中心に勉強していきたいと予定しています。皆さんのニーズがあれば、随時、日商簿記検定の対策や、ライト・ワールドワークも行いたいと思います。				中級レベルの企業分析を行うことによって、社会人に求められる一通りの財務諸表の解読能力の養成を目標としています。また、プレゼン能力やディスカッション能力の向上も図っていきます。また財務諸表作成能力についても、時間の余裕に応じて、養成していきます。			
教授方法	演習						
履修条件	第2学年以降						
授業計画							
実施回	授業内容						
第1回	授業内容：イントロダクション：軽く自己紹介、役職決定。 時間があれば軽くゲームを行います						
第2回	テキスト輪読A：伊藤邦雄『新・企業価値評価』を予定しています。皆さん2年生でまだ未修の内容もありますので、随時、補講的なレクチャーも入れていきたいと思います。						
第3回	テキスト輪読A：発表＆ディスカッションしていきます。						
第4回	テキスト輪読A：発表＆ディスカッションしていきます。						
第5回	テキスト輪読A：発表＆ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。						
第6回	テキスト輪読A：発表＆ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。						
第7回	テキスト輪読A：発表＆ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。（1セメ終了、海外研修へ）						
第8回	海外研修報告 3・4セメの打ち合わせ						
第9回	テキスト輪読B：発表＆ディスカッションしていきます。						
第10回	テキスト輪読B：発表＆ディスカッションしていきます。						
第11回	テキスト輪読B：発表＆ディスカッションしていきます。						
第12回	テキスト輪読B：発表＆ディスカッションしていきます。						
第13回	テキスト輪読B：発表＆ディスカッションしていきます。						
第14回	テキスト輪読B：発表＆ディスカッションしていきます。						
第15回	講演：有識者の講演を考えていますが、原価計算が管理会計で講演をするかもしれません。その時はゼミ生は積極的に手伝ってください。						
第16回	テキスト輪読C：発表＆ディスカッションしていきます。						
第17回	テキスト輪読C：発表＆ディスカッションしていきます。						
第18回	テキスト輪読C：発表＆ディスカッションしていきます。						
第19回	テキスト輪読C：発表＆ディスカッションしていきます。						
第20回	テキスト輪読C：発表＆ディスカッションしていきます。						
第21回	テキスト輪読C：発表＆ディスカッションしていきます。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
平常点	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者の意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べる事ができたか		報告	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者の意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べる事ができたか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>課題をこなすことと、簿記に関する演習を普段から勉強することが望ましいです。またゼミ時にも、簿記の演習支援を行います。</p>		<p>ゼミの前後、メールでの質問を受け付けます。オフィスアワーは演習時に指定します。</p>	
<p>教科書・テキスト</p>	<p>伊藤邦雄（2014）『新・企業価値評価』日本経済新聞社、を予定しています。</p>	<p>受講生に望むこと</p>	<p>ゼミナールは、学生さんが中心になって作っていくものです。積極的に発現するなどして演習に参加し、フリーライダー、ボールウォッチャーにならないようにしましょう。 おとなしい人はおとなしく、元気な人は元気に、まじめな人はまじめに、まったりとした人はまったりと、自分の資質を生かして頑張ってもらえればそれでOKです！ またなるべく学びの場が楽しくなるように、様々なイベント企画を考えていきましょう。 また演習という性格上、報告時の無断欠席は厳禁です。また5回以上の欠席については、やむを得ない場合を除き、認められません。</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>随時指定します。</p>		

授業科目		ゼミナール（金）					
担当教員	金 賢仙			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>このゼミでは、金融・資本市場法を学ぶために必要となる基礎的な学習をする。領域は、主に、商法（会社法）、金融商品取引法を対象とするほか、法学と他領域（例えば、会計学、経済学）との交錯領域も射程に置く。 前半では、基礎概念を学習し、後半では事例研究を行う。</p>				<p>株式会社、金融・資本市場の基本的な仕組みを理解し、説明できるようになる。 株式会社、金融・資本市場に関する時事問題を理解し、説明できるようになる。 株式会社、金融・資本市場に関する法的な論点を理解し、分析（問題点の指摘、原因の解明、再発防止策の考案等）ができるようになるための基礎的知識を習得する。</p>			
教授方法	原則として、演習方式とする。適宜、グループ・ワークを取り入れる。						
履修条件	法学系の科目を履修済み又は同時履修予定であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	アイスブレイク・ゲーム 「株式会社をつくろう！～ミスターXからの挑戦状～」(日本証券業協会 教材)						
3	アイスブレイク・ゲーム 「株式会社をつくろう！～ミスターXからの挑戦状～」(日本証券業協会 教材)						
4	アイスブレイク・ゲーム 「株式会社をつくろう！～ミスターXからの挑戦状～」(日本証券業協会 教材)						
5	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
6	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
7	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
8	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
9	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
10	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
11	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
12	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
13	株式学習ゲーム、会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
14	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
15	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
16	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
17	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
18	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
19	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
20	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
20	まとめとふり返り						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
プレゼンテーションの内容	70	プレゼン等の内容（正確性、創造性等）、プレゼン等の出来ばえ（当日のパフォーマンス等）を基準に評価します。		コミュニケーション能力	30	ゼミの運営、共同作業、質疑応答及びその対応等に関するコミュニケーション能力について評価します。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>担当するプレゼン等の準備その他。</p>	<p>原則として、オフィス・アワーに同等する。オフィス・アワーの委細については、ガイドンスその他において案内する。</p>		
<p>教科書・テキスト</p>	<p>特になし。講義中にコピー等を配布する。</p>	<p>受講生に望むこと</p>	<p>楽しみながら、学習しましょう。</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江頭憲治郎「株式会社法」（有斐閣、第7版、2017）</li> <li>・伊藤靖史「会社法」（有斐閣、第4版、2018）</li> <li>・河本一郎ほか「新・金融商品取引法読本」（有斐閣、2014）</li> <li>・松岡啓佑「最新金融商品取引法講義」（中央経済社、第4版、2018）</li> <li>・会社法判例百選 第3版（別冊ジュリスト 229）</li> <li>・金融商品取引法判例百選（別冊ジュリスト 214） つづく</li> </ul>	<p>その他・特記事項</p>	<p>講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。</p> <p>参考書つづき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吉見宏「会計不正事例と監査（日本監査研究学会リサーチシリーズXVI）」（同文館出版、2018）</li> <li>・長島・大野・常松法律事務所その他「会計不祥事対応の実務」（商事法務、2010）</li> <li>・門脇徹雄ほか「ケースブック 上場ベンチャー企業の粉飾・不正会計失敗事例から学ぶ」（中央経済社、2008） その他、講義中に説明する。</li> </ul>

授業科目	ゼミナール（首藤）						
担当教員	首藤 聡一郎			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
株式会社マイナビ主催のビジネスプランコンテスト「キャリアインカレ」にチャレンジする。その後、企業・行政と連携し、問題解決案を提案する。				1) 経営にかかわる基礎的な知識の習得 2) 汎用的能力の育成			
教授方法	グループワーク						
履修条件	受講希望を申請し、認められている学生						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	実在の企業を元にビジネスモデル検討（1）						
3	実在の企業を元にビジネスモデル検討（2）						
4	実在の企業を元にビジネスモデル検討（3）						
5	実在の企業を元にビジネスモデル検討（4）						
6	キャリアインカレのテーマ分析・スケジュール立案						
7	情報の収集と分析（1）						
8	情報の収集と分析（2）						
9	ビジネスプランの検討（1）						
10	ビジネスプランの検討（2）						
11	プレゼンテーションとスライドの流れの検討（1）						
12	プレゼンテーションとスライドの流れの検討（2）						
13	スライドの作成とプレゼンテーション						
14	フィードバックを受けてのブラッシュアップ						
15	ビジネスプランのプレゼンテーション						
16	企業・行政に対する聞き取り調査						
17	資料の収集・分析（1）						
18	資料の収集・分析（2）						
19	提案内容の検討						
20	プレゼンテーションとスライドの流れの検討						
21	プレゼンテーション						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
ゼミへの貢献	100	発言、提案、資料収集、スライド作成、他のメンバーへの支援、リーダーシップなどを総合的に評価					
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		

期限内にプロジェクトを完遂するため、授業外でも作業やミーティングを行う必要がでできます		授業時に対応しますし、メールでの質問・相談も受け付けます	
教科書・テキスト	適宜紹介します	受講生に望むこと	楽しく、真剣に取り組みましょう
参考書・参考資料等	適宜紹介します	その他・特記事項	プロジェクトを通じて様々なことを学びましょう！



授業科目	ゼミナール（田村）						
担当教員	田村 秀			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>単に講義だけでなく、グループディスカッション、地方自治体見学や公共政策の現場でのフィールドワーク、個人研究の発表などを通して議論する機会を数多く設け、地方自治や公共政策に関する基本的なスキルを身につけ、公共経営コースに必要な能力を養います。アクティブラーニングを通じて、コミュニケーション能力も高めます。研究したいテーマや実際にフィールドワークしたい場所を学生に主体的に選んでもらいます。様々な意見に耳を傾け、自分の考えを論理的に表現することができるスキルをゼミを通じて身につけてもらいます。なお、3学期については海外経営経済演習が6限に開講されるので、弾力的に実施します。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治の基本的な仕組みが理解できる。</li> <li>・公共政策とはどのようなものかについて理解できる。</li> <li>・地域にどのような課題があるか、自ら発見することができる。</li> <li>・地域の課題の具体的な内容について、データや様々な情報を用いて説明することができる。</li> <li>・地域の課題の解決策について、一定程度の提案ができる。</li> <li>・グローバル社会の中で、地域の将来像について、海外研修の成果を踏まえ、自分の言葉で語るすることができる。</li> <li>・フィールドワークに関する基本的な事項を習得できる。</li> </ul>			
教授方法	講義も行いつつ、基本は学生と教員、学生同士の議論、プレゼンとし、フィールドワークも随時行います。						
履修条件	政策科学の単位を取得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミのオリエンテーション、自己紹介など						
2	フィールドワーク						
3	日本の地方自治講義						
4	海外の地方自治講義						
5	海外の地方自治講義						
6	フィールドワーク						
7	フィールドワーク発表（3年と合同）						
8	海外で学んだことについて（発表）						
9	海外で学んだことについて（発表）						
10	海外で学んだことについて（発表）						
11	海外で学んだことについて（発表）						
12	グローバル社会における地方自治体の役割に関するグループディスカッション（準備）						
13	グローバル社会における地方自治体の役割に関するグループディスカッション（発表）						
14	公共経営に関する講義						
15	フィールドワークに関する説明						
16	フィールドワーク						
17	フィールドワーク						
18	フィールドワークの成果報告						
19	フィールドワークの成果報告						
20	フィールドワークの成果報告						
21	ゼミの総括講義						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	50	ゼミでの議論の内容を踏まえて、自分の考えをしっかりとまとめている点を重視します。		上記以外の授業評価	50	ゼミの出席、議論への参加などを総合的に加味します。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>地域の様々なことに常に興味を持ってもらいたいと思います。具体的には新聞やインターネットで自分の関心のある地域の出来事、特に自治体の取組みなどについて調べておいてください。自分の出身地や長野県だけでなく、直接関係のない地域の出来事にもアンテナを張ってもらいたいものです。本に関しては、担当教員の著書について、少なくとも1冊以上は目を通しておいてください。</p> <p>このほか、長野市内を自分の足で回り、自分の目で見える機会を数多く作っておいてください。このゼミのモットーの一つに現場主義があります。地域を実際に自分で回り、様々な事象を見ることを通じて、問題意識を持つきっかけにもらいたいと思います。</p>		<p>随時受け付けます。</p>	
		<p>受講生に望むこと</p>	<p>地域のことを常に意識してください。</p>
<p>教科書・テキスト</p>	<p>ゼミの最初に示します。</p>		
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>ゼミの最初に示します。</p>	<p>その他・特記事項</p>	<p>3学期、4学期は3年生と一緒にゼミを行います。授業計画については仮置きで、計画にこだわらずに柔軟に実施します。</p>

授業科目	ゼミナール（永田）						
担当教員	永田 邦和			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>ファイナンスと金融論の基礎知識を身に付けるために、教科書を輪読し、その内容について議論する。また、グループに分かれて関心のある経済・社会問題を研究し、研究成果を大学生を対象にした懸賞論文（日経グランプリ，中小企業懸賞論文，日経ストックリーグ等）に応募する。</p>				<p>ファイナンスと金融論の基礎知識を身に付けることを目標とする。さらに、現実の経済・社会問題を分析することで、基礎知識の使い方を学ぶ。研究成果を懸賞論文に応募することで、発信力ゼミで身に付けたアカデミックスキルも使いこなせるようにする。</p>			
教授方法	演習形式。						
履修条件	1年次に経済学入門を履修していると、授業内容を理解しやすい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	テキストの報告と討論						
3	テキストの報告と討論						
4	テキストの報告と討論						
5	テキストの報告と討論						
6	懸賞論文のテーマについての報告						
7	懸賞論文の仮テーマの決定						
8	懸賞論文の中間報告						
9	テキストの報告と討論						
10	テキストの報告と討論						
11	懸賞論文の中間報告						
12	テキストの報告と討論						
13	テキストの報告と討論						
14	懸賞論文の中間報告						
15	テキストの報告と討論						
16	テキストの報告と討論						
17	懸賞論文の中間報告						
18	テキストの報告と討論						
19	テキストの報告と討論						
20	テキストの報告と討論						
21	懸賞論文の最終報告						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	0				小テスト	0	
授業レポート	15	ファイナンスや金融の基礎知識を用いて経済問題を分析しているかどうかを確認する。			上記以外の授業評価	85	日々の取組（報告や質疑応答，議論への参加，宿題等）と懸賞論文の成果。
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		

<p>テキストの予習・復習は必須。予習が不十分だと、授業内容も理解できず、授業中の議論にも参加できない。また、懸賞論文の執筆作業（資料収集と整理、研究発表の準備、論文の執筆等）にも時間をかけること。</p>	<p>授業中に質問すること。授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。</p>		
<p>教科書・ テキスト</p>	<p>内田浩史（2016）『金融』，有斐閣。</p>	<p>受講生に 望むこと</p>	<p>懸賞論文での好成績を目指す。</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>適宜指示する。</p>	<p>その他・ 特記事項</p>	<p>特になし。</p>

授業科目	ゼミナール（中村陽）						
担当教員	中村 陽人			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>3,4年次のゼミは研究活動をメインとしながら、民間企業や自治体との共同プロジェクト、全国レベルの各種コンテストなどに取り組む。2年次のゼミはそれらの活動のために必要な専門的知識と技術を身につける期間となる。</p> <p>1セメは毎回異なるテーマを設定し、事前準備を基にディベートを行い、3セメは統計学のテキストを使って問題演習を行い、4セメは最新の論文（日本語）を使って論文の読み方、研究の進め方を学ぶ。</p>				<p>・特定のテーマについて、論点を整理して課題を設定し、必要な情報を集めて適切に整理し、主張の客観的な根拠をそろえ、効果的に相手に伝える、という一連のスキルを身につけている。</p> <p>・統計学の基礎的な力（統計検定2級程度）を身につけている。実データを統計ソフトを用いて適切に分析し、正しく解釈することができる。</p> <p>・日本語の学術論文を読み、正しく理解できる。</p>			
教授方法	演習。						
履修条件	マーケティング入門を履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	情報収集、レジュメ作成（テーマ）						
3	ディベート（テーマ）						
4	情報収集、レジュメ作成（テーマ）						
5	ディベート（テーマ）						
6	情報収集、レジュメ作成（テーマ）						
7	ディベート（テーマ）						
8	統計学の問題演習						
9	統計学の問題演習						
10	統計学の問題演習						
11	統計学の問題演習						
12	統計学の問題演習						
13	統計学の問題演習						
14	統計学の問題演習						
15	学術論文（日本語）の精読						
16	学術論文（日本語）の精読						
17	学術論文（日本語）の精読						
18	学術論文（日本語）の精読						
19	学術論文（日本語）の精読						
20	学術論文（日本語）の精読						
21	学術論文（日本語）の精読						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業評価	100	授業や課題への取り組み状況を総合的に評価する					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>膨大な量の事前準備が前提となって授業は進められる。授業内というよりも、むしろ授業外の学習や活動がメインとなる。長期休業中も膨大な量の課題がある。</p>	<p>出張がなければ研究室にいるので、授業、会議などのない時間帯はいつでも対応する。</p>		
<p>教科書・テキスト</p>	<p>授業の中で適宜指示する。</p>	<p>受講生に望むこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミの理念を理解し、共感していること。</li> <li>・ゼミ活動に全力でコミットすること。</li> </ul>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>授業の中で適宜指示する。</p>	<p>その他・特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のゼミとの掛け持ちはできない。</li> <li>・3年次からの入ゼミはできない。</li> <li>・4年次には卒業論文を書かなければならない。</li> </ul>

授業科目		ゼミナール（中村 稔彦）					
担当教員	中村 稔彦			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
ゼミナールでは、単に知識を獲得するにとどまらず、ゼミ生自身が「望ましい財政の姿」を常に考えられるようにしたい。そのために、発表や議論、集団討論をする場面を多く設けるようにする。また、レポートだけでなく、春休みにゼミ合宿などもある。その他にも、必要に応じてサブゼミがある。				本ゼミの到達目標は、専門的な知識や思考能力を高めることはもちろん、それ以外にも公務員や民間企業の面接試験や集団討論を突破するスキルや社会に出てから即戦力として活躍するための調査力、分析力、行動力、コミュニケーション力、それに優秀なリーダーになるために必要な問題点を発見する「問題意識」とそれを解決しようとする「課題意識」を身に付けることである。			
教授方法	講義形式は一部にして、発表や議論、集団討論をする場面をできるだけ多く設けるようにする。						
履修条件	5回欠席した者は単位を付与しない。2年の1学期に地方財政論を必ず履修すること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
第1回	ガイダンス / 財政と財政学（『財政学』テキスト第1章の2、3、4） シラバスの記載事項についての確認した上で、財政とは何か、なぜ政府は必要なのかを考え議論する。						
第2回	経費論と政府部門の役割（『財政学』テキスト第2章の2、3、4） わが国の経費構造と公共財の定義及び供給等について学び考え議論する。						
第3回	社会保障の財政（『財政学』テキスト第3章の1、2、4、5） 社会保障について概観した上で、社会保障の給付と負担及び再分配効果等を学び考え議論する。						
第4回	租税の理論：入門（『財政学』テキスト第5章の1、2、3、4） 租税の根拠、転嫁と帰着等を学んだ上で、望ましい税制について考え議論する。						
第5回	個人所得税（テキスト『財政学』第6章の1、2、3、4） 所得税の理念や算定方法を学び、実際に所得税額を計算する。						
第6回	社会保険拠出（テキスト『財政学』第7章の1、2、3、4） 社会保険拠出の意義や性格、わが国の制度等を学び考え議論する。						
第7回	消費税及び相続税（『財政学』テキスト第9章の1、2、3） 付加価値税の展開や資産移転税の意義等を学び考え議論する。						
第8回	法人所得税（1）（『財政学』テキスト第8章の1、2） 法人税の算定や課税根拠を学んだ上で、現在の減税政策について考え議論する。						
第9回	法人所得税（2）（『財政学』テキスト第8章の3、4） 法人税の二重課税と企業の資金調達と投資へ影響を学んだ上で、現在の法人税制改革について考え議論する。						
第10回	予算の意義と循環（1）（『財政学』テキスト第4章の1、2） 財政の額といわれる予算の意義や原則等を学んだ上で、特別会計の問題点について考え議論する。						
第11回	予算の意義と循環（2）（『財政学』テキスト第4章の3、4） 予算の循環を学び「予算編成の基本方針（閣議決定）」を読んだ上で、制度改革論について考え議論する。						
第12回	財政政策と経済安定化（1）（『財政学』テキスト第10章の1、2） 基本的な財政政策の役割や効果等を学び考え議論する。						
第13回	財政政策と経済安定化（2）（『財政学』テキスト第10章の3、4） IS-LMモデルやマンデル・フレミング・モデルについて学び議論する。						
第14回	レポートの課題提示 さまざまな資料の使い方について学ぶ。						
第15回	財政赤字と公債論（1）（『財政学』テキスト第11章の1、2） 各国とわが国の財政赤字の状況を確認した上で、各国とわが国のとの要因の違いを学び議論する。						
第16回	財政赤字と公債論（2）（『財政学』テキスト第11章の3、4） 公債の発行の必要性と負担論を学び、財政赤字問題と財政再建について考え議論する。						
第17回	政府間財政関係（1）（『財政学』テキスト第12章の1、2） 地方政府の役割、地方税の体系と課税自主権等を学び考え議論する。						
第18回	春休みのゼミ合宿について 行先、行程等の決定						
第19回	政府間財政関係（2）（『財政学』テキスト第12章の3） 政府間財政移転について学び考え議論する。						
第20回	政府間財政関係（3）（『財政学』テキスト第12章の4、5） 地方債による資金調達と地方分権について学び考え議論する。						
第21回	財政システムの将来（2）（『財政学』テキスト第13章1、2、3、4） 福祉国家の類型等を学び、福祉国家の持続可能性等について考え議論する。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
平常点	40	毎回のゼミへの取り組み・熱意、課題への取り組み、発表等の点から総合的に評価する。 （2点×20回 初回を除く）		集団討論	30	内容、表現力、質疑への応答等の点から総合的に評価する（3点×10点）。	
レポート	30	問題意識、形式面、表現面、執筆の論理等の点から総合的に評価する（30点×1回）。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>予習は、各回の該当の章・節を読み、理解できない用語や内容について、自分なりに調べてみることである。 また、集団討論の課題は、討論する前の週（回）に与えるので、その課題についての事実関係と肯定派と否定派の意見をそれぞれ調べ、その上で自分なりの意見を持って討論に臨むことが重要である。 復習は、ゼミで説明した重要な部分の見直しとゼミで紹介した参考書や新聞、ホームページ等を調べることである。 これにより、幅広い経済社会・財政の一般常識を身につけることができるだろう。</p>	<p>随時対応。</p>
<p><b>教科書・テキスト</b></p> <p>持田信樹 [2009] 『財政学』東京大学出版会（税込3,080円）。</p>	<p><b>受講生に望むこと</b></p> <p>ゼミをより充実したものにするためには、主体的にゼミに参加することである。使用するテキストをよく読んだり、テーマについて深く調べたり、問題点や改善案を真剣に考えたりすることはもちろん、議論に活発に参加したり、レポートを納得いくまでしっかりとまとめたりすることによって、専門分野での思考能力を高めることができるので、常にそのような意識で取り組んでほしい。 また、就職活動にも対応できるように、集団討論の課題は、現在話題となっている経済社会の問題から与えるようにする。普段から経済社会に関するニュースへの関心度を高め、当該ニュースの背景や問題点、改善案等も調べたり、考えたりするようにしてほしい。</p>
<p><b>参考書・参考資料等</b></p> <p>持田信樹 [2013] 『地方財政論』東京大学出版会（税込3,080円）。 小宮敦史 [2020] 『令和元年度版 図説日本の財政』財経詳報社（税込2,860円）。 吉沢 浩二郎 [2018] 『平成30年度版 図説日本の税制』財経詳報社（税込2,310円）。 総務省 [2019] 『平成31年版 地方財政白書』日経印刷（税込3,429円）。 総務省 『各年度 都道府県決算状況調』。 総務省 『各年度 市町村決算状況調』。 総務省 『各年度 都道府県財政指数表』。 総務省 『各年度 類似団体別市町村財政指数表』。</p>	<p><b>その他・特記事項</b></p> <p>特になし。</p>



授業科目		ゼミナール（三浦）					
担当教員	三浦 正士			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>この科目では、多様化・複雑化を見せる地方自治の諸課題について、ゼミ生の問題関心に基づいた学習を行うため、学期ごとに異なる課題を設定することで、地方自治を理論と実践の双方から学ぶことをめざす。</p> <p>1学期は、教科書を輪読して議論を行うことで、地方自治の基本的なしくみと理論について理解を深める。3学期は、ゼミ生のゆかりのある自治体の政策課題について報告を課し、議論を行うことで、自治体の多様性を理解するとともに、地域が直面する政策課題に対する多角的な視点を養う。4学期は、ゼミ生の関心が高いテーマについて、実際に自治体現場に赴き、その実態と課題解決に向けた政策を考察する。</p>				<p>ねらい 地方自治の基本的なしくみと理論、今後の課題を理解するのみならず、それらをもとに今日の地域社会が直面している様々な課題を“発見”し、当該課題の解決に向けた政策の企画立案力を養う。また、本ゼミにおける学生の主体的な報告と積極的な議論を通じて、将来的な卒業論文の執筆において必要となる能力を育む。</p> <p>到達目標 地域社会の課題について自分の意見を持つことができる。 論文執筆に必要な読解力と思考力、文章力を身につける。 議論に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。</p>			
教授方法	演習形式で行う。						
履修条件	「行政学」「地方自治論」を履修していることが望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：ゼミナールの進め方について説明するほか、簡単なグループワークを行い、ゼミ生の個性を知り合う。						
2	地方自治のしくみについて学ぶ（1）地方自治を考える視点、地方自治の歴史：教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、地方自治の歴史に対する理解を深める。						
3	地方自治のしくみについて学ぶ（2）地方自治の基盤（住民参加、協働）：教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、住民参加・協働に対する理解を深める。						
4	地方自治のしくみについて学ぶ（3）地方自治を支える機構（首長、議会、行政組織）：教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、地方自治の機構に対する理解を深める。						
5	地方自治のしくみについて学ぶ（4）地方自治の課題（公民関係、自治体職員のあり方）：教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、公民関係や公務員に対する理解を深める。						
6	地方自治のしくみについて学ぶ（5）欧米諸国の自治：教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、欧米諸国の自治に対する理解を深める。						
7	地方自治のしくみについて学ぶ（6）人口減少社会への対応：教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、人口減少社会に対する考察を深める。						
8	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（1）：住んでいる自治体/ゆかりのある自治体の概要や政策課題についてゼミ生（2名程度）が報告を行い、その内容について議論を行う。						
9	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（2）：住んでいる自治体/ゆかりのある自治体の概要や政策課題についてゼミ生（2名程度）が報告を行い、その内容について議論を行う。						
10	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（3）：住んでいる自治体/ゆかりのある自治体の概要や政策課題についてゼミ生（2名程度）が報告を行い、その内容について議論を行う。						
11	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（4）：住んでいる自治体/ゆかりのある自治体の概要や政策課題についてゼミ生（2名程度）が報告を行い、その内容について議論を行う。						
12	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（5）：住んでいる自治体/ゆかりのある自治体の概要や政策課題についてゼミ生（2名程度）が報告を行い、その内容について議論を行う。						
13	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（6）：住んでいる自治体/ゆかりのある自治体の概要や政策課題についてゼミ生（2名程度）が報告を行い、その内容について議論を行う。						
14	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（まとめ）：これまでの報告内容を踏まえ、自治体の直面する政策課題とその解決策について講義を行い、議論を深める。						
15	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（1）-：ゼミ生の問題関心を踏まえてひとつのテーマ（例：地方創生、観光、公共施設再編など）を取り上げ、議論を行う。						
16	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（1）-：取り上げたテーマについて、実際に自治体現場に赴き、どのような課題に直面しているのか、その実態を学ぶ。						
17	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（1）-：自治体へのヒアリング調査を踏まえ、地域課題の解決策について、ゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行う。						
18	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（2）-：ゼミ生の問題関心を踏まえひとつのテーマ（例：議会改革、協働、地域コミュニティなど）を取り上げ、議論を行う。						
19	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（2）-：取り上げたテーマについて、実際に自治体現場に赴き、どのような課題に直面しているのか、その実態を学ぶ。						
20	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（2）-：自治体へのヒアリング調査を踏まえ、地域課題の解決策について、ゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行う。						
21	まとめ：これまでの内容について振り返るとともに、住民として地方自治にどのように関わるか、地域課題に対してどのように対応していくべきか等について、自分の意見を持つことができたか確認を行う。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業での報告	70	ゼミナールにおいて課した報告の内容について、地域課題の発見力、地域課題の解決に向けた企画立案力を評価する。			議論への参加度	30	ゼミナールにおける議論への参加度や貢献度から、コミュニケーションの積極性、主体性、能動的な学習の姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>事前学習          ・報告者は、報告内容について主体的な問題関心を持ち、適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して報告に備える。          ・報告者以外は、報告が予定されている内容について、教科書を精読するとともに、自治体の政策課題に関する情報を収集する。</p> <p>事後学習          ・ゼミナールでの学習内容について、教科書や参考書を読み、理解を深める。</p>		<p>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。          ・上記のほか、相談等は適宜メール等で受け付ける。</p>	
教科書・テキスト	初回授業時に提示する。	受講生に望むこと	ゼミナールの活動や授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。	その他・特記事項	特になし。

授業科目		ゼミナール（宮崎）					
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>ゼミナールの目的は、地域社会の様々な課題に関する調査・検討を行いそのプロセスを通じて主体的に行動する態度を身につけ、協働とリーダーシップ、創造的思考の向上を図ることである。一年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力と社会の諸課題への関心を一層高める。</p> <p>「健康生活」「健康な地域づくり」「健康経営」「ヘルスビジネス」等の言葉に代表するように、人々の生活だけでなく公共経営、会社経営、企画授業に「健康」の視点があると人々は生き生きとした幸せに近づける。保健を通じて「誰一人取り残さない」SDGsの実現を分野を超えて考えてみたい。ゼミ1では、そのための基盤づくり戸して＜地域をみる＞ことを通じ、人々の日常に触れたいと考えている。</p>				<p>追究していきたい具体的なテーマは、学生自身が自ら探求し設定していく。その過程で、＜地域をみる＞方法を学び、発信力ゼミで培ったスキルを実際に用いて科学的探求方法の基礎を学ぶ。</p> <p>自身の興味関心を広げ深める 地域をみる方法を理解する（人々を知る、ソーシャル・リソースを知るなど） 科学的探求方法の基礎を理解し、追求したい課題を発見する</p>			
教授方法	ゼミナール（討議、発表、報告、演習、地区視診等）						
履修条件	とくになし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション ゼミナール計画立案						
2	情報収集の方法と情報のありか 文献クリティーク例						
3	学生の関心事（調べた内容：既存資料）& 共通学習テーマ						
4	学生の関心事（調べた内容：既存資料）& 共通学習テーマ						
5	学生の関心事（調べた内容：既存資料）& 共通学習テーマ						
6	学生の関心事（調べた内容：既存資料）& 共通学習テーマ						
7	フィールド調査（第1次資料）の方法と計画						
8	学生の関心事とフィールド調査A計画の発表						
9	第1次資料の収集その1						
10	学生の関心事（第1次資料の調査結果）						
11	学生の関心事（第1次資料の調査結果）						
12	第1次資料の収集その2						
13	学生の関心事（第1次資料の調査結果）						
14	学生の関心事（第1次資料の調査結果）まとめ						
15	フィールド調査B計画 情報収集（第1次資料について）						
16	第1次資料の収集その3						
17	学生の関心事（試行と調査結果）						
18	第1次資料の収集その4						
19	学生の関心事（試行と調査結果）						
20	各自の成果発表 プレゼンテーション 討論会						
21	各自の成果発表 プレゼンテーション 討論会						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
提出物	50	課題レポート・成果物等の提出・内容			ゼミ内容	50	プレゼンテーションの資料・内容 ゼミ参加度（出席、事前・事後学習、発言等）
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

	<p>各自のプレゼンテーションが主な授業内容となる。このため事前準備を十分に実施し授業に臨むようにしてほしい。          普段より関心事について、図書館にて文献検索、ニュース・雑誌等で情報収集したり、近隣との会話、地域の文化等に広く触れるなどを積極的に行ってほしい。</p>	<p>オフィスアワーを活用</p>	
<p>教科書・ テキスト</p>	<p>特になし（ゼミ計画後テキストを使用する可能性あり）</p>	<p>受講生に 望むこと</p>	<p>ゼミナールの運営は学生が主体的に準備・進行する</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>参考書・参考資料は、必要時紹介する</p>	<p>その他・ 特記事項</p>	<p>ゼミ 1 では視野を広げることを心がけたい</p>

授業科目		ゼミナール（宮下）						
担当教員		宮下 清			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年		授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格			備考			
授業の概要					授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本授業では、基本書（テキスト）に基づき、経営学・ビジネス・マネジメントを理論的に、また地域・国内・海外の事業や企業の事例を通して、それらを実践的に学んでいく。</p> <p>経営学・ビジネス・マネジメントを学ぶ上では理論的枠組みや体系的な知識が必要であり、またそれらの学びでは、地域、国内、海外の事業や企業における実際を通して理解することが重要である。</p>					<p>本授業の第一の目標は、地域事業や経営に関するテキストや文献から、経営学、企業、ビジネス、マネジメントについて理論的に学び理解をすることであり、経営学の基本的な概念を説明できるようになることである。</p> <p>第二の目標は、地域、国内、海外事業の事例や現場の見聞から、経営学、企業、ビジネス、マネジメントを実践的に学び理解することであり、企業などの施策や戦略を経営学に基づき、説明できるようになることである。</p> <p>第三の目標は、経営学やマネジメントの分野で地域（ローカル）と国際（グローバル）の双方の視点が得られるようになることである。これは例えば企業など組織の戦略や施策について、また商品やサービスからどのような地域やグローバルを対象とするかを考えられるようになることである。</p>			
教授方法	教材や課題の予習と講義、また受講生の発表と討議による演習方法による学習							
履修条件	経営学入門を履修していることが望ましい							
授 業 計 画								
実施回	授業内容							
1	ゼミの概要「経営学とゼミでの学習」の説明、担当教員、ゼミメンバーの紹介							
2	. 経営学の理解を図る 1. 経営学の学習、2. 課題による学習、の進め方について							
3	経営学理解のための学習 企業とは何か							
4	地域事業・活動からの課題を探る							
5	経営学理解のための学習 起業プロセスと起業家							
6	経営学理解のための学習 株式会社とコーポレートガバナンス							
7	課題に関連した経営学の取り組み							
8	. 地域からはじまる経営学の学習 1. 経営学の理解を図る、2. 課題による学習							
9	地域と国内と海外の課題と経営学の関わりを探る							
10	経営学理解のための学習 経営管理を学ぶ							
11	地域事業・活動からの課題を調べる							
12	経営学理解のための学習 経営戦略を学ぶ							
13	地域事業・活動からの課題を調べる							
14	地域と国内と海外の課題と関連する経営学							
15	. 地域から発展する経営学の学習 1. 経営学の理解を図る、2. 課題による学習							
16	地域～海外の課題から自分の課題を決定する							
17	経営学理解のための学習 経営組織を学ぶ							
18	自分の課題を調べる							
19	経営学理解のための学習 国際経営を学ぶ							
20	自分の課題を調べる							
21	自分の課題をまとめる、発表する							
共通の評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	数回提出する課題レポートの評価			その他	50	ゼミでの発表、討議、質疑	
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応			

<p>経営学を意欲的に学び、活かすことを目指すため、事業外の学習が求められる。具体的には、必要な文献を収集し、それらを精読すること、関連する現場を訪問し、事例をできるだけ現実的に体験することに取り組む。そして、それらを理解する、自分で考える、まとめるといった一連の学習サイクルを回すことが、事前学習と事後学習となる。</p>	<p>オフィスアワー、授業前後、またメールでのアポイントにより対応する</p>		
<p>教科書・テキスト</p>	<p>『新時代の経営マネジメント』創成社、中山、丹野、宮下共著、2018年。</p>	<p>受講生に望むこと</p>	<p>ゼミでは、常に問題意識を持ち、経営学・マネジメントを理論的、実践的に学びかつ活用できるようになることを目指してください。また前提となるゼミの雰囲気は大切であり、それを理解共鳴し、お互いを信頼し尊重し協力し合えるゼミとしていきたい。</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>『日本で一番大切にしたい会社』あさ出版、坂本著、2008年。 『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣、上林他著、2018年。他</p>	<p>その他・特記事項</p>	<p>スケジュールや内容は枠組みであり、実際の取り組みは、必要に応じて修正改善していく。</p>

授業科目		ゼミナール（森本）						
担当教員		森本 博行			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング		
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考				
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）				
<p>企業社会や行政組織で活躍するために、あるいは大学院や学部で専門教育科目を学ぶにあたって、状況判断力や課題発見力などの基礎力が重要になります。</p> <p>担当教員は、広告会社の外資系部門（マッキンゼーエリクソン博報堂）、さらに製造業（ソニー）においてVP（Vice president）を経験し、広告宣伝、事業戦略、米国、英国で海外子会社経営についての実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、将来的に実務に活かすことができる能力について講義します。</p>				<p>人として幅を広げることを目標に、「こころの知能指数」であるEQ、異文化理解力、またノーベル物理学賞受賞者であるシカゴ大学のフェルミ教授は、「シカゴにピアノ調律師は何人いますか」という課題を学生に出して論理的思考力（フェルミ推定）の重要性を教えました。「ゼミ」では、論理的思考力について学びます。</p>				
教授方法	演習方式							
履修条件	経営学入門を履修していること							
授業計画								
実施回	授業内容							
1	オリエンテーション ゼミナール では何を学ぶか 自己紹介、ゼミ長選出 ゼミ活動、問題提起（学生の実態と社会で求められる力のギャップ）「社会で求められる力」を学生は獲得していない。What Your Story?（共感を生み出す自分史を語れ）							
2	ゼミ・メンバーは、共感を生み出す自分史を話す							
3	クリティカル・シンキング 何が問題なのか、論理的思考を促すための問題発見力とは何か							
4	論理的思考のためのフェルミ推定 学ぶ グループ別に考える日本の道路の長さ 日本のピアノ調律師の数（グループ別に考える）							
5	What Makes a Leader? : EQが高業績リーダーをつくる リーダーになるために求められる能力や資質とは何か							
6	人脈づくりが好きになる方法（Learn to Love Networking）							
7	異文化社会での問題発見：先輩達の異文化体験							
1	異文化とは何か：海外研修プログラムでの訪問国の日本との文化的差異を議論する							
2	空気に耳を澄ますー異文化コミュニケーション：世界を8つの指標で理解する							
3	各国間に依然として存在する4つの距離を考える：海外ポートフォリオ分析							
4	各国間の差異を利用する国際競争戦略：アビトラージ戦略：比較優位の再発見							
5	規模の経済、ローカル適応、差異の利用、グローバル戦略を見直す：トリプルA戦略							
6	トランプ時代のグローバル戦略							
7	異文化理解力まとめ							
1	地域のグローバル戦略を考える：長野県の事例にして長野県のグローバル戦略							
2	長野県のインバウンド戦略を考える：YOUは何しに信州へ? (グループ・ワーク)							
3	インバウンド戦略のために何を調査するか（グループ・ワーク）							
4	既存の資料の分析する（グループ・ワーク）							
5	フィールド・ワーク（スノーモンキー・パーク、志賀高原、野沢温泉）							
6	フィールド・ワーク調査結果まとめ							
7	長野県のインバウンド戦略の提言							
共通の評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
発表	50	課題理解力			レポート	50	問題設定 調査内容 結論	
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応			

<p>受講生は、課題について事前学習し、発表する必要があります。</p>	<p>質問や相談したいことがあれば、まずメールで問い合わせして下さい。</p>		
<p>教科書・テキスト</p>	<p>細谷 功『地頭力を鍛える』（東洋経済新報社）</p>	<p>受講生に望むこと</p>	<p>大学生活には、授業、サークル、寮生活がありますが、ゼミは大学生活を彩る楽しさを与えますので、是非ともエンジョイして下さい。</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>エリン・メイヤー『異文化理解力』（英治出版）          ダニエル・コールマン『EQ こころの知能指数』（講談社）          『FOCUS集中力』（日経ビジネス文庫）</p>	<p>その他・特記事項</p>	<p>「ゼミ」では、特に専門科目を学びません。3、4年次の「ゼミ」、「ゼミ」では、専門科目として国際経営戦略論を学びますが、演習科目としては「グローバルビジネス演習」が別にあります。</p>



授業科目		ゼミナール（尹）					
担当教員	尹 大栄			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本ゼミのテーマは、2つある。  （前半）長い歴史の中でしぶとく生き残ってきた世界の代表的な地域・地場産業について学ぶ。「企業寿命30年」説から考えると、数百年もの長い時間を存続し、いまなおそれぞれの地域経済を支えている地域産業は経営学的にとっても面白い！長野県の地域産業の活性化についても議論する。  （後半）日本企業の海外売上高比率は6割を超え、今後も拡大傾向が続くと予想される。国内市場よりも海外市場、とりわけアジア市場でいかに競争優位性を確保できるかが極めて重要な経営課題となっている。「異文化マネジメント」や「経営の現地化」の面で課題を抱えながらも、大変元気なアジアの日系企業の事例について学ぶ。機会があれば皆さんとアジアの日系企業に現地調査に出かけたい！</p>				<p>（前半）地域・地場産業の永続性要因について理解する。地域産業の永続性は各地域が生み出してきた様々な制度的仕組みや慣行に負うところが大きい。それらの制度的仕組みや慣行というのは、それぞれの地域産業に関わる人々の知恵や工夫が長い時間をかけて集約され、煮詰められ、発酵して生み出された産物であることを理解する。  （後半）日本企業のアジア進出の歴史を踏まえたうえで、海外（アジア）ビジネス特有の課題（ex. 異文化マネジメント）について理解する。また、現地の地元企業や韓・中・欧米系企業と比べて日系企業はどのような強みと弱みを持っているのかを理解する。</p>			
教授方法	各自の研究課題について発表してもらい、議論形式で進めることを基本とする。						
履修条件	ゼミでの議論に積極的に参加し、ゼミ活動に貢献すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション：ゼミの進め方について説明する。						
2	テキスト『地域産業の永続性』の輪読（第1章）						
3	テキスト『地域産業の永続性』の輪読（第2章）						
4	テキスト『地域産業の永続性』の輪読（第3章）						
5	テキスト『地域産業の永続性』の輪読（第4章）						
6	テキスト『地域産業の永続性』の輪読（第5章）						
7	地域（地場）産業に関する研究テーマについて発表する。						
8	地域（地場）産業に関する研究テーマについて発表する。						
9	地域（地場）産業に関する研究テーマについて発表する。						
10	地域（地場）産業に関する研究テーマについて発表する。						
11	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。						
12	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。						
13	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。						
14	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。						
15	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。						
16	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。						
17	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。						
18	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。						
19	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。						
20	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。						
21	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題発表	70	研究テーマについてのプレゼンテーション		レポート	30	課題成果をまとめたレポート提出	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

フィールドワーク（産地や企業訪問など）を行う。	研究室訪問や、メールでの質問・相談に対応する。
教科書・テキスト	・尹大栄『地域産業の持続性』（中央経済社、2014年）。
参考書・参考資料等	関連文献や資料などを適宜配布する。
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の研究課題に関する文献レビューをしっかりと行うこと。</li> <li>・ゼミの議論に積極的に参加すること。</li> </ul>
その他・特記事項	地域を知り、グローバルに活躍できる人材に成長してほしい！

授業科目		ゼミナール（六山）						
担当教員		六山 悌三			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次		2年	開講学期	1・3・4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生		グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）				
このゼミでは、基礎的な経済学理論を学びつつ、さまざまな産業（自動車などの製造業種はもちろん、小売・サービス業、エネルギー・通信・運輸等のネットワーク産業など）を取り上げ、各企業のシェアなどの市場構造や、企業の戦略的行動（たとえば価格付けや広告など）を分析します。一般の授業のような一方の方向の説明にとどまらず、参加者が自ら行動して学ぶ機会を多くつくります。				本ゼミでは、経済学や経営などの基本的な理論と実証の考え方を学び、現実の産業・市場・企業行動を理解する上で有用な分析の枠組みについて理解を深めます。本ゼミを履修することにより、自分が関心を持つ産業について、市場構造や市場行動（企業の戦略的行動など）を分析する力が身に付きます。また一連の討議・報告等を通じて、関連するテーマについて主体的に自分の意見を言えるようになります。				
教授方法		基本的には参加者が準備したレジュメ等を用いて演習を行います。第1回演習でガイダンスを実施します。第2回～第10回はミクロ経済学や経営の基礎、産業組織分析のいろいろなアプローチについて学びます。第11回以降は、それぞれが興味を持った産業を選び、チーム編成して初歩的な産業組織分析にチャレンジします。前半は指定されたチームで順に準備・報告を行うことが中心となり、後半は産業・テーマ別のチームによる共同研究に関する討議・報告などが中心となります。全体を通じ、ミニゲームなどのアクションラーニング要素も取り入れ、常に積極的な対話を行います。また適宜相談の上、ヒアリングや合宿形式の学習等、学外活動も行います。						
履修条件		本ゼミへの参加を希望し、担当教員が参加を認めた者。						
授 業 計 画								
実施回	授業内容							
1	4/13 イントロ、自己紹介、ゼミの進め方等							
2	4/20 ミクロ基礎（1,2章）、討議「産業の革命」（1章）、レジュメ作りの練習							
3	4/27 ミクロ基礎（3,4章）、報告・討議「戦略の展開」（2章）；A班							
4	5/11 ミクロ基礎（5,6章）、報告・討議「デジタル化と経営変化」（3章）；B班							
5	5/18 学外活動（仮）							
6	5/18 学外活動（仮）							
7	5/25 ミクロ基礎（7章等）、報告・討議「新時代のビジネス変化」（4章）；C班							
8	9/28 産業組織分析の基礎（2章）；A班							
9	10/5 独占企業の価格設定（3章）；B班							
10	10/12 自然独占と規制（4章）；C班							
11	10/19 各自希望の産業分析発表と新チーム編成							
12	11/2 仮説と目次案の発表等							
13	11/9 参入の経済効果（5章）；班							
14	11/16 製品差別化、広告（7章の一部）；班							
15	11/30 カルテル（8章）；班							
16	12/7 チーム分析中間報告							
17	12/14 集中度と市場支配力（9章）；班							
18	12/21 合併と企業結合規制（10章）；班							
19	1/18 戦略的行動と市場の独占化（11章）；班							
20	1/25 未定（学外活動/報告に向けた作業等）							
21	2/1 分析成果報告							
共通の評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
産業分析成果	30	第11回に行う新たなチームによる産業分析の成果を評価します。評価基準は、十分な調査と独自性ある分析に優れ、新たな価値を付加している成果を最も			報告・レジュメ	30	ゼミにおける各種報告・レジュメを評価します。評価基準は、豊富な文献や先行研究、事例などを意欲的に調べるなど、十分な準備と学習成果がよく反映	
平常点	40	ゼミにおける討議や発言での貢献など、平常点を評価します。価値ある発言を積極的に行うものを高く評価します。						
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応			

<p>チーム単位での討議や、授業中に報告するレポート作成などが当番制で必要になります。また自分の当番以外の回のゼミでは、あらかじめ他のチームのレポートに目を通しておき、ゼミの場で積極的に発言するための用意をしておくことが求められます。なお、第5回・第6回を除き、学外でのヒアリングなどを実施する際は、授業外での活動となります（任意参加）。また「キャリアインカレ」などの学外企画への挑戦希望がある場合は適宜サポートします。</p>	<p>質問や相談を歓迎します。メールでの質問や相談はもちろんのこと、ゼミ終了後の時間も活用ください。ゼミ開催後以外で直接話したいことなどがあれば、メールで日時約束の上、研究室を訪問してください。</p>	
<p>教科書・テキスト</p>	<p>以下を用いるので各自購入してください。  坂井豊貴[2017] 『ミクロ経済学の入門の入門』 岩波新書  三品・山口[2019] 『デジタルエコノミーと経営の未来』 東洋経済新報社  泉田・柳川[2008] 『プラクティカル産業組織論』 有斐閣アルマ  （説明会の際の指定とは異なるので注意してください）</p>	<p>受講生に望むこと</p> <p>ゼミでの学習は大学における学びの中心ともなる貴重な機会です。主体的・積極的に参加して、大いに成長してください。</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>ゼミの中で適宜指示します。</p>	<p>その他・特記事項</p> <p>参加者の希望をふまえ、合宿形式のフィールドワークを実施します。実施有無や内容等はゼミ開始後に相談して決定します。また相談の上、他の企画等も随時検討します。</p>

授業科目	ゼミナール（宮森）						
担当教員	宮森 征司			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	1・3・4学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>このゼミでは、法学ないし法律一般に興味がある学生を対象として、法学のテキスト（入門レベル）の輪読、輪読から抽出したテーマに関する文献調査、フィールドワーク、及び、ディスカッションを通じて、法学に関する基礎知識を得るとともに、法と社会との関わりという観点から、ある特定のテーマについて突き詰めて考える力を養います。履修条件は、特に設けません。法学に関心のある学生はもちろん、経済や社会について法という観点から学んでみたいと考えている学生は幅広く大歓迎です。</p>				<p>法学文献の読解方法や研究の基礎を習得する。</p>			
教授方法	輪読方式。一部、フィールドワークも取り入れる。						
履修条件	法学ないし法律学に興味のあること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	輪読						
3	輪読						
4	輪読						
5	輪読						
6	輪読						
7	輪読						
8	文献調査						
9	文献調査						
10	フィールドワーク						
11	フィールドワーク						
12	文献調査						
13	文献調査						
14	フィールドワーク						
15	フィールドワーク						
16	中間発表						
17	中間発表						
18	追加調査						
19	追加調査						
20	最終報告						
21	最終報告						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
平常点	100	中間レポート、期末レポートの提出を含む					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

	<p>輪読部分の予習は必須。報告者には特に丁寧な準備が求められる。</p>		<p>ゼミの時間以外については、メールで連絡すること。</p>
<p>教科書・テキスト</p>	<p>共通の輪読書として、さしあたり、飯田高『法と社会科学をつなぐ』（有斐閣、2016年）を指定する。</p>	<p>受講生に望むこと</p>	<p>報告者には十分な準備を求める。</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>輪読や調査を進める中で、適宜、有益と思われる文献を提示します。</p>	<p>その他・特記事項</p>	<p>法学に少しでも興味があったら、受講は大歓迎です。</p>

授業科目	ゼミナール（野口）						
担当教員	野口 暢子			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>長野市の総合計画に関する政策コンペで実効性のある提言を行えるよう、準備し、長野市に提案する。三重県南伊勢町で日本公共政策学会が開催する公共政策フォーラム・学生政策コンペで意義ある発表ができるよう、政策提言をまとめる。諸外国の公共政策について、受講生がひとり1ヶ国を担当して調査し、その内容を比較検討する。</p>				<p>前半は、2つの政策コンペで意義のある発表ができるように準備する中で、情報を収集をする力・決められた時間内にわかりやすく発表をする力・社会における課題を解決できる政策立案ができる力を身につけることを目指します。また、後半に行う公共政策の各国比較研究を通じて、知識の幅をひろげ、比較考察を通じて、思考を深めることを目指します。</p>			
教授方法	前半は、長野市における「総合計画」を考えるグループ、公共政策フォーラム・学生政策コンペに出場するグループにわかれ、それぞれのグループで「政策提言」をまとめる。後半は、受講生ひとりひとりがひとつの国を担当し、同じテーマについて公共政策の比較検討を行う。						
履修条件	ゼミナール（野口）を履修することを認められていること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス（ゼミナールの進め方、グループわけなど）						
2	どのような政策提言を行いたいのか（全員が1つずつアイデアを考えてくる）。						
3	第2回の発表を受けて、発表するテーマを考える。						
4	チームごとに各自が担当した内容について、発表を行う（1回目）						
5	チームごとに各自が担当した内容について、発表を行う（2回目）						
6	チームごとに各自が担当した内容について、発表を行う（3回目）						
7	チームごとに各自が担当した内容について、発表を行う（4回目）						
8	チームごとに各自が担当した内容について、まとめの発表を行う						
9	第8回の内容をチームごとにまとめる。						
10	第9回の内容をチームごとに発表する。						
11	第10回の発表を修正し、チームごとに発表する。						
12	第11回までに出てきた課題を分析し、よりよい発表にするための方策を考察する。						
13	模擬発表会（第1回）						
14	模擬発表会（第2回）						
15	模擬発表会（最終回）						
16	受講生それぞれがどの国を担当するかを決める。						
17	諸外国の議会制度・選挙制度・政党						
18	諸外国の大統領・首相・内閣						
19	諸外国の地方自治制度						
20	諸外国の高齢者福祉政策						
21	諸外国の教育制度・教育政策						
22	諸外国の産業政策						
23	諸外国の環境政策						
24	諸外国の防衛政策						
25	諸外国の雇用政策						
26	諸外国の外国人住民に関する政策						
27	諸外国の男女平等政策						
28	今年度後半のゼミナール・まとめ						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表の内容	70	正確な情報をもとに、わかりやすく発表できたか。	質問する力	20	他の受講生の発表について、適切な質問ができたか。
政策コンペにおける役割	10	政策コンペに関して分担した役割をしっかりと果たすことができたか。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
毎回の発表に関する準備			簡単な質問や相談は学内メールアドレス宛に送ってください。会って話をしたい場合は、その旨をメールに書き、野口の学内メールアドレス宛に送ってください。		
教科書・テキスト	なし		受講生に望むこと		日頃から、社会に存在する問題に関心を持ち、書籍・新聞・論文などを読んだり、映像をみたり、語り合ったりすることを心がけてください。
参考書・参考資料等		授業内に紹介いたします。	その他・特記事項		ゼミナールを休む際には、必ず、ゼミナールが始める時間までに野口の学内メールアドレス宛に連絡をください。



授業科目	ゼミナール（中村文）						
担当教員	中村 文彦			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>多くの人は、企業が決算等で報告する会計数値について、おそらく「堅い」とか「動かしがたい」という印象・イメージを持っていると思われる。しかし実際には、報告の目的や、計算の仕方等、描写に際してどのようなルールを設定するかにより、描写されるビジネス活動の姿は大きく異なっている。本ゼミナールでは、企業が利害関係者との間で会計情報を授受する財務報告制度に焦点を当てて、次の二つのことを学ぶ。          企業から開示された会計情報を正しく読み取り分析するための基礎会計情報作成のルールとその設定を理解するための基礎理論</p>				<p>本ゼミナールでは、受講者が将来どのような進路に進んだ場合であっても、特定のテーマについて調査・報告という作業を一定レベルで完遂できるように、テーマの選定、資料収集、レジュメ・プレゼンテーション資料の作成、報告、討論等の基本タスクをグループあるいは各人で行ないながら、自己のスキルを高めて学習を深めていく。具体的には、2年次に業界研究と分析、3年次に企業分析を行い、4年次に各自の関心あるテーマについて調査研究を行い論文としてまとめる。</p>			
教授方法	演習形式による。						
履修条件	アカウントニング入門、財務会計入門を履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミナールの進め方に関する説明、分担箇所決定、レジュメの作成の仕方、有価証券報告書を用いた演習						
2	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（2章）						
3	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（3章）						
4	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（4章）						
5	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（5章）						
6	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（6章）						
7	論文執筆指導（論文の書き方、テーマの選び方等）						
8	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（7章）						
9	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（8章）						
10	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（9章）						
11	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（10章）						
12	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（11章）						
13	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（12章）						
14	論文執筆指導（論文の書き方、執筆の基本ルールについて）						
15	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
16	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
17	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
18	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
19	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
20	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
21	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
22	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
23	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
24	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
25	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
26	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
27	論文執筆指導（論文の添削等）						
28	振り返り、講評						

共通の評価基準

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
テーマの選択と調査・資料	30	テキスト等から自分の担当箇所を選択し、その内容について調査を行い資料を集める	グループワーク	20	テーマに関するグループ・ディスカッションおよびグループ・ワークへの参加態度・貢献度
レジュメ報告・プレゼンテ	30	レジュメやプレゼンテーション資料の作成と報告・プレゼンテーション			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
企業のビジネス活動に関わる情報は、日常、メディア等を通じて積極的に収集すること。特に、自己の担当した企業が属する業界や将来就職を希望する業種については、常に情報収集を欠かさないこと。			基本的には授業前後、オフィスアワー等により対応する。		
教科書・テキスト	桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社。		受講生に望むこと	積極的にゼミ活動に参加すること。	
参考書・参考資料等	授業中に必要な資料は指示する。		その他・特記事項	有価証券報告書を用いた演習は、ゼミ生の興味に応じてアレンジしていく予定である。	

授業科目		ゼミナール（東）					
担当教員	東 俊之			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>「ゼミナール（東）」では、「組織論の視点をを用いた調査・研究」の基礎固めを行います。具体的に2つの柱に分かれます。担当教員が注目する組織（体）の課題、あるいは実際に企業やNPO等から与えられる課題を、皆さんが分析・調査し、解決策を提案する「PBL（Project/Problem-Based Learning）型ゼミナール」、皆さんが興味・関心のある対象について、自身で「課題発見 調査・研究 結論」までを考える「学術研究型ゼミナール」、の2つです。</p> <p>まず「PBL型ゼミナール」では、与えられたテーマからグループで問題を発見し、解決策を提案してもらいます。そのための勉強が不可欠です。また「学術研究型ゼミナール」では、研究活動そのものは4年次に行いますが、その準備段階として調査分析方法の理解と組織論の文献講読を3年ゼミで行います。</p>				<p>ゼミナール は、専門分野における特定のテーマに関する知識と調査研究に取り組みることによって、課題の設定、資料調査、分析そして研究成果の発表に至るまでの一連のプロセスを学修することを目的とする。受講生は、各自の問題関心に基づきテーマを選択し、考察を深める。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等を身につけさせることを目指す。</p> <p>具体的には、組織論の文献を講読し、概要を要約し説明できる、組織論の視点を理解し、それに基づいた基礎的な分析ができる、与えられたテーマに対して、組織論の視点から問題を発見できる、他者と協力し、課題の解決策を提案できる、自身の問題意識から研究テーマを設定し、計画を立て文章で報告することができる、を到達目標とする。</p>			
教授方法	<p>演習。場合によっては、講義の形式の時もあります。また、学外での調査も必須です。なお、各学期の概要は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次1学期：PBLの進め方と経営組織論の調査方法を理解する &amp; 組織論の古典的名著を輪読する</li> <li>・3年次2学期：PBLテーマの開示と予備調査を行う &amp; 組織論の最近のトピックを学習する（論文講読）</li> <li>・3年次3学期：PBLのグループ活動を進める（本格調査）&amp; 「研究計画書」の作成準備を行う</li> <li>・3年次4学期：PBLの課題解決策の検討とプレゼンテーションを行う &amp; 「研究計画書」を提出する</li> </ul>						
履修条件	「ゼミナール」で東ゼミの所属している者						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	【オリエンテーション】：ゼミナールのスケジュールの説明、自己紹介、グループ分け等を行います。また課外で個人面談を行います。						
2	【文献の読み方とPBLの進め方】：PBLの進め方と、組織論の文献の読み方を説明します。またその準備段階として、経営組織論の学説史（理論的展開）を講義します。						
3	【古典的名著の輪読】：経営組織論の古典的名著といえる書籍March & Simon『Organizations』を講読します。また、PBLについての理解を深めるために、簡単なアクティブラーニングを行います。						
4	【古典的名著の輪読】：経営組織論の古典的名著といえる書籍March & Simon『Organizations』を講読します。また、経営組織論の調査のプロセスについても理解を深めます。						
5	【古典的名著の輪読】：経営組織論の古典的名著といえる書籍March & Simon『Organizations』を講読します。また、経営組織論研究のための情報収集方法を理解します。						
6	【古典的名著の輪読】：経営組織論の古典的名著といえる書籍March & Simon『Organizations』を講読します。また、実例を用いて、経営組織論の調査方法を実践します。						
7	【古典的名著の輪読 & 1学期の自己点検授業】：経営組織論の古典的名著といえる書籍March & Simon『Organizations』を講読します。また、あらためて経営組織論の視座を学習します。さらに、1学期のまとめを行います。						
8	【プロジェクト・テーマの開示とグループ分け】：企業や行政などから提供されてプロジェクト・テーマを開示します（PBL型ゼミのテーマ）。また自身の興味関心のあるテーマを選択し、グループを作ります。先方から示されたスケジュールに従うので、テーマ開示ならびにグループ						
9	【プロジェクト活動 & 組織論の論文講読】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（授業内・課外）。また、組織論の論文を精読し、要約した内容をプレゼンテーションします（自身の興味ある論文を選択する）。						
10	【プロジェクト活動 & 組織論の論文講読】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（授業内・課外）。また、組織論の論文を精読し、要約した内容をプレゼンテーションします（自身の興味ある論文を選択する）。						
11	【プロジェクト活動 & 組織論の論文講読】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（授業内・課外）。また、組織論の論文を精読し、要約した内容をプレゼンテーションします（自身の興味ある論文を選択する）。						
12	【プロジェクト活動 & 組織論の論文講読】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（授業内・課外）。また、組織論の論文を精読し、要約した内容をプレゼンテーションします（自身の興味ある論文を選択する）。						
13	【プロジェクト活動】：プロジェクト・テーマに関して、グループで解決すべき課題を検討します（課外）。また、必要に応じて、情報収集を行います。授業担当者（東）が「海外プログラム」引率中のため、補講として実施する。						
14	【プロジェクト活動】：プロジェクト・テーマに関して、グループで取り組む課題を決定します（課外）。また、必要に応じて、情報収集を行います。さらに、夏期休暇中のゼミ活動等を指導します。授業担当者（東）が「海外プログラム」引率中のため、補講として実施する。						
15	【後学期ガイダンス】：後学期（3・4学期）のスケジュールの説明、夏季休暇中のプロジェクト活動の進捗状況の確認などを行います。						
16	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成準備】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、4学期に提出する「研究計画書」を作成する方法（プロセス）を説明します。						
17	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成準備】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、「研究計画書」を作成するために（=研究を進める上で）不可欠な「問題意識と研究意義」を発見するために、						
18	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成準備】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、自身の問題意識・研究意義を研究テーマに昇華させるために、ゼミ内で発表・議論します。						
19	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成準備】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、各自の研究テーマから、結論を導くための研究手法を検討します（ゼミ内で発表・議論）。						
20	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、自身の問題意識、研究テーマ、研究手法に関連する「先行研究」を精読し、分析していきます（授業内・課外）。						
21	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、自身の問題意識、研究テーマ、研究手法に関連する「先行研究」を精読し、分析していきます（授業内・課外）。						
22	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せますが、課題解決策の検討に入ります。また、自身の問題意識、研究テーマ、研究手法に関連する「先行研究」を精読し、分析し						
23	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せますが、課題解決策を深く検討します。また、「研究計画書」（=自身の研究したい内容）をゼミ内で発表し、他者からコメント						
24	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せますが、提案した課題解決策を評価します。場合によっては、受け入れ先に意見を求めます。また、「研究計画書」（=自身の研						
25	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せますが、課題解決策を決定する段階に入ります。また、「研究計画書」を実際に執筆します。						
26	【プロジェクト活動】：取り組んできた課題についての解決策を決定し、プレゼンテーションを行うための準備をします。						
27	【プロジェクト活動】：PBLの課題解決策について、クラス内（または、受け入れ先）でプレゼンテーションを行います。また、「研究計画書」を提出します。						
28	【自己点検授業】：1年間の振り返りと次年度へ向けてのプランを検討します。また、課外で個人面談を行います。						

共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験	0	実施しない	小テスト	0	実施しない
レポート	40	数回のレポートにより評価する。具体的には、「研究計画書」(4学期、20%)、グループ活動報告書(数回、10%)、文献輪読・講読レポート(数回)。	その他：授業態度点	60	ゼミ活動への参加度(出席・発言等)、グループ活動での貢献度、ゼミ内でのプレゼンテーション(発表内容・レジュメ等)、などを総合的に評価する
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
ゼミの授業時間(教室に集まっている時間)だけでは、当然のことながら不十分です。課外でのグループ活動や個人研究が求められます。特に「PBL型ゼミ」では、皆さん自身が足を運んで調査対象から情報を得ることが必要になりますので、課外でも十分なゼミ活動の時間を確保するように努めて下さい。 また、「学術研究型ゼミ」でも、徹底した予習(さらに復習)が不可欠です。文献講読では、少々高いレベルの学術論文を読んでもらいますし、自身の研究を発表する際にも、十分な先行研究調査を求めます。			火曜日2限目・3限目をオフィスアワーとして設定しますが、それ以外でも在室しているときは対応します。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。		
教科書・テキスト	古典的名著(文献)の講読準備として下記の書籍を3年ゼミが始まる前の春期休暇中に通読してください。 岸田民樹・田中政光『経営学説史』有斐閣アルマ、2009。 また、組織論(広く経営学)の研究方法を理解するために、以下の書籍を用います。 田村正紀『リサーチ・デザイン』白桃書房、2006。		受講生に望むこと	ゼミ全体の目標は、「『学問』するゼミ文化を構築する」ことです。その目標を実現するために、3年ゼミでは「実際の組織活動の調査分析方法を理解すること」に主眼を置いています。そのことを意識して、ゼミ活動に取り組んでください。 ゼミ活動には、なるべく積極的に参加してほしいです。課外の時間に集まってグループ活動をおこなうこともあります。アルバイトやサークル活動を優先しないでください。	
参考書・参考資料等	参考文献・参考資料は、ゼミ内で適宜紹介します。それ以上に、皆さん自身で探し出すことが求められます。		その他・特記事項	【重要】「授業計画」はゼミ生の興味関心や、到達レベルに応じて変更する場合があります。ご了承ください。また、学外に出かけての調査も予定しています。積極的に参加ください。	

授業科目	ゼミナール（大室）						
担当教員	大室 悦賀			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本ゼミは、基礎理論と現実を往復しながら、それらを自分のものとすることを目的とします。内容は学生と相談しながら進めますが、教科書としてしている本は必ず読んでもらいます。また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。</p>				<p>本ゼミでは、以下の4つの事業を展開する。第1に企業と社会に関わる基本的な知識を獲得すること。第2には学生生活内、あるいは生涯を通じて実施していきたい”マイプロジェクト”を作成すること。第3にマイプロジェクトを実施すること。第4に新規事業を作成し企業等に提案すること。上記のプロセスでは、思考方法、セルフマネジメントなどの基礎的なものを合わせて実施し、自立した個人の育成に力を注ぐ。最終的には、持続的な社会に貢献できる人材になってもらう。”</p>			
教授方法	演習を基本としますが、東京や京都等への企業訪問などを取り入れることで理論と現実を往復していきます						
履修条件	3年次のゼミ合格者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	輪読『世界標準の経営理論』（1章・2章）						
3	輪読『世界標準の経営理論』（3章・4章）						
4	輪読『世界標準の経営理論』（5章・6章）						
5	輪読『世界標準の経営理論』（7章・8章）						
6	輪読『世界標準の経営理論』（9章・10章）						
7	輪読『世界標準の経営理論』（11章・12章）						
8	輪読『世界標準の経営理論』（12章・14章）						
9	輪読『世界標準の経営理論』（15章・16章）						
10	輪読『世界標準の経営理論』（17章・18章）						
11	輪読『世界標準の経営理論』（19章・20章）						
12	輪読『世界標準の経営理論』（21章・22章）						
13	輪読『世界標準の経営理論』（23章・24章）						
14	輪読『世界標準の経営理論』（25章・26章）						
15	輪読『世界標準の経営理論』（27章・28章）						
16	輪読『世界標準の経営理論』（29章・30章）						
17	輪読『世界標準の経営理論』（31章・32章）						
18	輪読『世界標準の経営理論』（33章・34章）						
19	輪読『世界標準の経営理論』（35章・36章）						
20	輪読『世界標準の経営理論』（37章・38章）						
21	輪読『世界標準の経営理論』（39章・40章）						
22	輪読『世界標準の経営理論』（41章・終章）						
23	輪読『「私」は脳ではない』1章						
24	輪読『「私」は脳ではない』2章						
25	輪読『「私」は脳ではない』3章						
26	輪読『「私」は脳ではない』4章						
27	輪読『「私」は脳ではない』5章						
28	輪読『「私」は脳ではない』6章						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
その他	100	授業への参加と課題等の取組姿勢			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前学習：各自に割れあてられた課題をしっかりと読み込むこと 事後学習：授業中に議論したことを自分なりに再度まとめ直すこと			アポイントを入れ、研究室に相談に来ること		
教科書・テキスト	授業中に指定する		受講生に望むこと		しっかりと考える習慣を獲得すること
参考書・参考資料等	授業中に指示する		その他・特記事項		これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識させる内容としたい。これまでの職務で知り合った企業を事例として授業を進めることを想定。

授業科目	ゼミナール（衣川）						
担当教員	衣川 修平			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
主に会計学を学ぶゼミです。本年度は中でも企業分析を中心に勉強していきたいと予定しています。皆さんのニーズがあれば、ライトなフィールドワークも行いたいと思います。				中級レベルの企業分析を行うことによって、社会人に求められる一通りの財務諸表の解読能力の養成を目標としています。また、プレゼン能力やディスカッション能力の向上も図っていきます。また財務諸表作成能力についても、時間の余裕に応じて、養成していきます。			
教授方法	演習						
履修条件	第2学年以降						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	授業内容：イントロダクション：軽く自己紹介、役職決定。 時間があれば軽くゲームを行います						
第2回	テキスト輪読A：伊藤邦雄『新・企業価値評価』を予定しています。皆さん2年生でまだ未修の内容もありますので、随時、補講的なレクチャーも入れていきたいと思います。						
第3回	テキスト輪読A：発表&ディスカッションしていきます。						
第4回	テキスト輪読A：発表&ディスカッションしていきます。						
第5回	テキスト輪読A：発表&ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。						
第6回	テキスト輪読A：発表&ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。						
第7回	テキスト輪読A：発表&ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。（1セメ終了、海外研修へ）						
第8回	海外研修報告 3・4セメの打ち合わせ						
第9回	テキスト輪読B：発表&ディスカッションしていきます。						
第10回	テキスト輪読B：発表&ディスカッションしていきます。						
第11回	テキスト輪読B：発表&ディスカッションしていきます。						
第12回	テキスト輪読B：発表&ディスカッションしていきます。						
第13回	テキスト輪読B：発表&ディスカッションしていきます。						
第14回	テキスト輪読B：発表&ディスカッションしていきます。						
第15回	講演：有識者の講演を考えていますが、原価計算が管理会計で講演をするかもしれません。その時はゼミ生は積極的に手伝ってください。						
第16回	テキスト輪読C：発表&ディスカッションしていきます。						
第17回	テキスト輪読C：発表&ディスカッションしていきます。						
第18回	テキスト輪読C：発表&ディスカッションしていきます。						
第19回	テキスト輪読C：発表&ディスカッションしていきます。						
第20回	テキスト輪読C：発表&ディスカッションしていきます。						
第21回	テキスト輪読C：発表&ディスカッションしていきます。						
第22回	テキスト輪読D：発表&ディスカッションしていきます。						
第23回	テキスト輪読D：発表&ディスカッションしていきます。						
第24回	テキスト輪読D：発表&ディスカッションしていきます。						
第25回	テキスト輪読D：発表&ディスカッションしていきます。						
第26回	テキスト輪読D：発表&ディスカッションしていきます。						
第27回	テキスト輪読D：発表&ディスカッションしていきます。						
第28回	テキスト輪読D：発表&ディスカッションしていきます。						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者を尊重し、その意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べる事ができたか	報告	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者を尊重し、意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べる事ができたか
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
課題をこなすことと、簿記に関する演習を普段から勉強することが望ましいです。またゼミ時にも、簿記の演習支援を行います。			ゼミの前後、メールでの質問を受け付けます。オフィスアワーは演習時に指定します。		
教科書・テキスト	伊藤邦雄（2014）『新・企業価値評価』日本経済新聞社と、その前準備のための基礎的なテキストを読むことを予定しています。		受講生に望むこと	ゼミナールは、学生さんが中心になって作っていくものです。積極的に発現するなどして演習に参加し、フリーライダー、ボールウォッチャーにならないようにしましょう。よくコミュニケーションが全く取れない人や、ゼミに参加しようとしなない人は、他者に対して敬意が見られない人は、ゼミ自体を崩壊させますので、注意してください。しかし難しいことを要求しているわけではありません。おとなしい人はおとなしく、元気な人は元気に、まじめな人はまじめに、自分の資質を生かして頑張ってもらえればそれでOKです！またなるべく学びの場が楽しくなるように、様々なイベント企画を考えていきましょう。また演習という性格上、報告時の無断欠席は厳禁です。また5回以上の欠席については、やむを得ない場合を除き、認められません。	
参考書・参考資料等	随時指定します。				
			その他・特記事項	Email: kinugawa.shuhei u-nagano.ac.jp	



授業科目	ゼミナール（金）						
担当教員	金 賢仙			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
このゼミでは、金融・資本市場法及び会社法の領域での法的な論点、個別事例等の中から自身でテーマを選び、なぜそのテーマを検討する必要があるのか、具体的な問題点は何故か（問題意識）を整理した上で、現状はどうなっているか、それはなぜか、法制度等に改善が必要な点はあるか、あるとすれば何か、どのように改善すればよいか、といった流れで考察を行い、論文にまとめる。				金融・資本市場及び会社法の専門的なテーマについて、理解し、説明できるようにする。 株式会社、金融・資本市場に関する法的な論点を理解し、分析（問題点の指摘、原因の解明、再発防止策の考案等）を行うことができるようになる。			
教授方法	原則として、演習方式とする。						
履修条件	法学系の科目を履修済み又は同時履修予定であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
3	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
4	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
5	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
6	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
7	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
8	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
9	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
10	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
11	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
12	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
13	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
14	ふりかえり						
15	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
16	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
17	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
18	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
19	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
20	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
21	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
22	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
23	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
24	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
25	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
26	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
27	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
28	ふちかえりとまとめ						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表の内容と出来ばえ	70	プレゼン等の内容（正確性、創造性等）、プレゼン等の出来ばえ（当日のパフォーマンス等）を基準に評価します。	コミュニケーション能力	30	ゼミの運営、共同作業、質疑応答及びその対応等に関するコミュニケーション能力について評価します。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
担当する発表等の準備その他。			原則として、オフィス・アワーに同等する。オフィス・アワーの委細については、ガイダンスその他において案内する。		
教科書・テキスト	特になし。講義中にコピー等を配布する。		受講生に望むこと	楽しみながら、学習しましょう。	
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江頭憲治郎「株式会社法」（有斐閣、第7版、2017）</li> <li>・伊藤靖史「会社法」（有斐閣、第4版、2018）</li> <li>・河本一郎ほか「新・金融商品取引法読本」（有斐閣、2014）</li> <li>・松岡啓佑「最新金融商品取引法講義」（中央経済社、第4版、2018）</li> <li>・会社法判例百選 第3版（別冊ジュリスト 229）</li> <li>・金融商品取引法判例百選（別冊ジュリスト 214） つづく</li> </ul>		その他・特記事項	<p>講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。</p> <p>参考書つづき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吉見宏「会計不正事例と監査（日本監査研究学会リサーチシリーズXVI）」（同文館出版、2018）</li> <li>・長島・大野・常松法律事務所その他「会計不祥事対応の実務」（商事法務、2010）</li> <li>・門脇徹雄ほか「ケースブック 上場ベンチャー企業の粉飾・不正会計失敗事例から学ぶ」（中央経済社、2008） その他、講義中に説明する。</li> </ul>	

授業科目	ゼミナール（首藤）						
担当教員	首藤 聡一郎			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルシフト	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
卒業論文作成の準備				1) 卒業論文作成に有用な知識を身につける 2) 卒業論文の骨格を作る			
教授方法	グループワーク						
履修条件	事前に履修を希望し、認められた学生						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	経営戦略論の基礎（1）						
3	経営戦略論の基礎（2）						
4	経営戦略論の基礎（3）						
5	経営戦略論の基礎（4）						
6	論文作成の方法（1）						
7	論文作成の方法（2）						
8	論文作成の方法（3）						
9	論文作成の方法（4）						
10	先行研究の検討（1）						
11	先行研究の検討（2）						
12	先行研究の検討（3）						
13	先行研究の検討（4）						
14	卒業論文のテーマ発表						
15	調査（1）						
16	調査（2）						
17	調査（3）						
18	調査（4）						
19	分析（1）						
20	分析（2）						
21	分析（3）						
22	分析（4）						
23	リサーチクエッションと仮説のプレゼンテーション						
24	論文の構成（1）						
25	論文の構成（2）						
26	論文の構成（3）						
27	論文の構成（4）						
28	まとめ						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
グループワーク	30	グループへの貢献等	プレゼンテーション	70	内容
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
卒業論文作成のため、授業外でも学習が求められることもあります			アポイントメントをとってくれば日程を調整して対応いたします		
教科書・テキスト	ありません		受講生に望むこと	卒業論文作成という目標をしっかりと見据えて一緒に頑張りましょう	
参考書・参考資料等	適宜紹介します		その他・特記事項	要望などありましたら遠慮なくお伝えいただければ幸いです。よろしくお願いいたします	

授業科目	ゼミナール（田村）						
担当教員	田村 秀			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>単に講義だけでなく、グループディスカッション、地方自治体見学や公共政策の現場でのフィールドワーク、個人研究の発表などを通じて議論する機会を数多く設け、地方自治や公共政策に関する基本的なスキルを身につけ、公共経営コースで必要な能力を養います。アクティブラーニングを通じて、コミュニケーション能力も高めます。研究したいテーマや実際にフィールドワークしたい場所を学生に主体的に選んでもらいます。様々な意見に耳を傾け、自分の考えを論理的に表現することができるスキルをゼミを通じて身につけてもらいます。なお、3学期については海外経営経済演習が6限に開講されるので、弾力的に実施します。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治の基本的な仕組みが理解できる。</li> <li>・公共政策とはどのようなものかについて理解できる。</li> <li>・地域にどのような課題があるか、自ら発見することができる。</li> <li>・地域の課題の具体的内容について、データや様々な情報を用いて説明することができる。</li> <li>・地域の課題の解決策について、一定程度の提案ができる。</li> <li>・グローバル社会の中で、地域の将来像について、海外研修の成果を踏まえ、自分の言葉で語るすることができる。</li> <li>・フィールドワークに関する基本的な事項を習得できる。</li> </ul>			
教授方法	講義も行いつつ、基本は学生と教員、学生同士の議論、プレゼンとし、フィールドワークも随時行います。						
履修条件	政策科学の単位を取得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミの進め方について説明						
2	レポートの個別指導						
3	レポートの個別指導						
4	卒論に関する説明						
5	卒論テーマに関する発表						
6	卒論テーマに関する発表						
7	2年と合同ゼミ						
8	フィールドワークに関する説明						
9	フィールドワーク						
10	フィールドワーク						
11	フィールドワーク						
12	フィールドワーク						
13	フィールドワーク発表						
14	フィールドワーク発表						
15	フィールドワークの振り返り						
16	地域活性化に関する講義						
17	グループワーク準備						
18	グループワーク						
19	グループワーク						
20	グループワーク発表						
21	グループワーク発表						
22	ゼミの進め方について説明						
23	ミニゼミ論の作成						
24	ミニゼミ論の作成						
25	ミニゼミ論の発表						
26	ミニゼミ論の発表						
27	ミニゼミ論の発表						
28	ゼミのまとめ						

共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50	ゼミでの議論の内容を踏まえて、自分の考えをしっかりとまとめている点を重視します。	上記以外の授業評価	50	ゼミの出席、議論への参加などを総合的に加味します。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>地域の様々なことに常に興味を持っていてもらいたいと思います。具体的には新聞やインターネットで自分の関心のある地域の出来事、特に自治体の取組みなどについて調べておいてください。自分の出身地や長野県だけでなく、直接関係のない地域の出来事にもアンテナを張ってもらいたいものです。本に関しては、担当教員の著書について、少なくとも1冊以上は目を通しておいてください。</p> <p>このほか、長野市内を自分の足で回り、自分の目で見える機会を数多く作っておいてください。このゼミのモットーの一つに現場主義があります。地域を実際に自分で回り、様々な事象を見ることを通じて、問題意識を持つきっかけにってもらいたいと思います。</p>			随時受け付けます。		
			受講生に望むこと	地域のことを常に意識してください。	
			その他・特記事項	3, 4学期は2年生と合同で実施します（月曜5限）。授業計画は仮置きであり、柔軟に実施します。	
教科書・テキスト	ゼミの最初に示します。				
参考書・参考資料等	ゼミの最初に示します。				

授業科目	ゼミナール（中条）						
担当教員	中条 潮			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>中条研究会は、2019年の県大学園祭で研究発表を展示した唯一の2年ゼミでした。1年生4学期の入ゼミ合格時から週3コマのゼミでこの展示の準備をしてきました。この「エグサ」が、30期以上にもわたる中条研究会の伝統です。3年次、4年次も、時間割に拘束されことなくゼミ活動を実施します。</p> <p>研究テーマは自由です。様々な社会・経済問題について、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、問題の改善案（政策）を社会全体の利益の視点から議論します。</p> <p>過去のゼミ論文テーマは、航空自由化、観光立国、教育自由化、医療保険の民営化、農業保護の撤廃、自然保護、ゴミ処理、刑罰の経済学的考察、芸術保護、性表現、ナポレオンの経済学等々多岐に。</p> <p>論文作成の基礎として「公共経済学」の考え方を応用して、社会全体の利益の最大化について政策提言をしますが、最終的には、制度を壊すためのビジネスモデルの提示も求められます。</p>				<p>3年次はテーマを自分たちで決めて学祭発表に向けて共同論文を、4年次は個別卒論を執筆。週3コマ以上のゼミで論文発表とディスカッションすることで、ものごとを論理的に考え、自分の言葉で意見を人に伝える能力を磨きます。</p> <p>卒業時の最終目標は、「中条ゼミ34期生」として恥ずかしくない、全国ベース、世界ベースで活躍する組織のリーダーとなる人材、すなわち、経済経営の基本的メカニズムを理解した、論理的思考能力を有する人材の養成です。このために、2年次から論文の書き方を学び、3年の共同論文を経て、4年次での卒論作成へとつなぎます。</p>			
教授方法	毎回発表とディスカッション						
履修条件	入会を認められた学生のみ						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ミクロ経済学おさらい1						
2	ミクロ経済学おさらい2						
3	航空公共経済プログラム発表会準備						
4	市場の失敗の基礎発表						
5	市場の失敗の基礎発表						
6	市場の失敗の基礎発表						
7	市場の失敗の基礎発表						
8	共同論文テーマ決め						
9	共同論文テーマ決め						
10	共同論文テーマ決め						
11	共同論文発表 議論						
12	共同論文発表 議論						
13	共同論文発表 議論						
14	共同論文発表 議論						
15	共同論文発表 議論						
16	共同論文発表 議論						
17	共同論文発表 議論						
18	共同論文発表 展示準備						
19	共同論文発表 展示準備						
20	共同論文発表 展示準備						
21	共同論文発表 展示準備						
22	共同論文発表 論文作成準備						
23	共同論文発表 論文作成準備						
24	共同論文発表 論文作成						
25	共同論文発表 論文作成						
26	卒論テーマ発表1						
27	卒論テーマ発表2						
28	卒論テーマ発表3						

共通の評価基準

特にありません。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
論文執筆の貢献度	25	毎回の発表のためのグループ論文原稿やPPT原稿の用意、左記を作成するための資料収集活動、学生だけによるディスカッション、他のグループへのコメ	ゼミの運営に対する貢献度	25	さまざまなゼミイベントへの参加、準備、PR等の貢献に応じて評価
課外活動としての先輩訪問	25	先輩訪問、インターンシップ、セミナー、見学会参加の態度と貢献度に応じて評価	社会人としての行動規範	25	礼儀、マナーに応じて評価
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
発表の準備、イベントの準備、ふりかえり			いつでもアポとってください。		
教科書・テキスト	教科書はここでは指定しません。この授業は演習なので、教材を自分で探すところから勉強が始まります。また、テーマは諸君の自由ですので、テーマが決まったら、教材の探し方についてお話しします。		受講生に望むこと	たくさんあります。いつもゼミで言っていることなので省略。	
参考書・参考資料等	教科書に同じ。		その他・特記事項	特記事項が必須なのはおかしいですね。	



授業科目	ゼミナール（永田）						
担当教員	永田 邦和			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>ファイナンスと金融論の基礎知識を身に付けるために、教科書を輪読し、その内容について議論する。また、グループに分かれて関心のある経済・社会問題を研究し、研究成果を大学生を対象にした懸賞論文（日銀グランプリ、中小企業懸賞論文、日経ストックリーグ等）に応募する。</p>				<p>ファイナンスと金融論の基礎知識を身に付けることを目標とする。さらに、現実の経済・社会問題を分析することで、基礎知識の使い方を学ぶ。研究成果を懸賞論文に応募することで、発信力ゼミで身に付けたアカデミックスキルも使いこなせるようにする。</p>			
教授方法	演習形式。						
履修条件	ファイナンス入門と金融論，コーポレートファイナンス・，金融システム論，ミクロ経済学，マクロ経済学を履修すると，授業内容を深く理解できる。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	テキストの報告と討論						
3	テキストの報告と討論						
4	テキストの報告と討論						
5	テキストの報告と討論						
6	テキストの報告と討論						
7	懸賞論文のテーマについての報告						
8	懸賞論文のテーマについての報告						
9	懸賞論文のテーマについての報告						
10	テキストの報告と討論						
11	テキストの報告と討論						
12	テキストの報告と討論						
13	懸賞論文の中間報告						
14	懸賞論文の中間報告						
15	テキストの報告と討論						
16	テキストの報告と討論						
17	テキストの報告と討論						
18	テキストの報告と討論						
19	懸賞論文の中間報告						
20	懸賞論文の中間報告						
21	懸賞論文中間報告						
22	懸賞論文の中間報告						
23	テキストの報告と討論						
24	テキストの報告と討論						
25	テキストの報告と討論						
26	テキストの報告と討論						
27	卒業論文のテーマについての報告						
28	卒業論文のテーマについての報告						

共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験	0		小テスト	0	
授業レポート	15	ファイナンスや金融の基礎知識を用いて経済問題を分析しているかどうかを確認する。	上記以外の授業評価	85	日々の取組（報告や質疑応答，議論への参加，宿題等）と懸賞論文の成果。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
テキストの予習・復習は必須。予習が不十分だと，授業内容も理解できず，授業中の議論にも参加できない。また，懸賞論文の執筆作業（資料収集と整理，研究発表の準備，論文の執筆等）にも時間をかけること。			授業中に質問すること。授業時間外に質問があれば，研究室に来ること。所用がない限り，いつでも対応する。日時を指定したい場合，メール等で事前に連絡すること。		
教科書・テキスト	受講生と相談のうえ決める。		受講生に望むこと	懸賞論文での好成績を目指す。	
参考書・参考資料等	適宜指示する。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目		ゼミナール（中村陽）					
担当教員	中村 陽人			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>2年次に学んだマーケティングや統計学の専門的知識とデータ分析の技術を基に、3、4年次のゼミは研究活動をメインとしながら、民間企業や自治体との共同プロジェクト、全国レベルの各種コンテストなどに取り組む。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定のテーマについて、論点を整理して課題を設定し、必要な情報を集めて適切に整理し、主張の客観的な根拠をそろえ、効果的に相手に伝える、という一連のスキルを身につけている。</li> <li>・ 統計学の基礎的な力（統計検定2級程度）を身につけている。実データを統計ソフトを用いて適切に分析し、正しく解釈することができる。</li> <li>・ 英語のトップジャーナルに掲載された学術論文を読み、正しく理解できる。</li> </ul>			
教授方法	演習。						
履修条件	マーケティングと統計学の関連科目を履修していること、あるいは同時に履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
2	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
3	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
4	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
5	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
6	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
7	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
8	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
9	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
10	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
11	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
12	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
13	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
14	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
15	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
16	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
17	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
18	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
19	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
20	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
21	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
22	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
23	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
24	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
25	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
26	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
27	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
28	・ トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・ 適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業評価	100	授業や課題への取り組み状況を総合的に評価する			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
膨大な量の事前準備が前提となって授業は進められる。授業内というよりも、むしろ授業外の学習や活動がメインとなる。長期休業中も膨大な量の課題がある。			出張がなければ研究室にいるので、授業、会議などのない時間帯はいつでも対応する。		
教科書・テキスト	授業の中で適宜指示する。		受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミの理念を理解し、共感していること。</li> <li>・ゼミ活動に全力でコミットすること。</li> </ul>	
参考書・参考資料等	授業の中で適宜指示する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のゼミとの掛け持ちはできない。</li> <li>・3年次からの入ゼミはできない。</li> <li>・4年次には卒業論文を書かなければならない。</li> </ul>	

授業科目	ゼミナール（中村 稔彦）						
担当教員	中村 稔彦			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>ゼミナールでは、少子高齢化の下での社会保障や税収獲得のあり方、地域再生・活性化に向けた自治体の政策や財政運営等についての様々な文献（論文）を読み、議論や集団討論を行うとともに論文の書き方、文献の見つけ方等について基礎から学習する。</p> <p>また、夏休みは全国の特長のある自治体をいくつかピックアップし、当該自治体に全員で赴き、実地調査を行う（ゼミ合宿）。実地調査で得られた資料や情報をもとに、自治体ごとにグループを作って共同論文を作成し、発表する。</p> <p>それ以外にも実地調査で学んだことが、長野県や長野県内市町村、ゼミ生の生れ育った自治体等に反映できないか等についても議論する。必要に応じてサブゼミを行う他、任意参加のシーズンスポーツゼミ等もある。</p>				<p>本ゼミの到達目標は、専門的な知識や思考能力を高めることはもちろん、それ以外にも公務員や民間企業の面接試験や集団討論を突破するスキルや社会に出てから即戦力として活躍するための調査力、分析力、行動力、コミュニケーション力、それに優秀なリーダーになるために必要な問題点を発見する「課題意識」とそれを解決しようとする「課題意識」を身に付けることである。</p>			
教授方法	講義形式は一部にして、与えられたテーマに対する発表や議論、集団討論、共同論文の添削、発表等をする場面をできるだけ多く設けるようにする。						
履修条件	5回欠席した者（公欠を除く）は単位を付与しない（就職活動については要相談）。地方財政論の他、地方行政基礎演習、マクロ経済学、地方自治論、行政学、公共政策学を履修することが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	租税の理論：入門（『財政学』テキスト第5章の3、4） 共同論文の執筆と夏休みのゼミ合宿について						
第2回	個人所得税（1）（『財政学』テキスト第6章の1、2） 集団討論（1）						
第3回	個人所得税（2）（『財政学』テキスト第6章の3、4） 集団討論（2）						
第4回	社会保険拠出（1）（『財政学』テキスト第7章の1、2） 集団討論（3）						
第5回	社会保険拠出（2）（『財政学』テキスト第7章3、4） 集団討論（4）						
第6回	法人所得税（1）（『財政学』テキスト第8章1、2） 集団討論（5）						
第7回	法人所得税（2）（『財政学』テキスト第8章3、4） 集団討論（6）						
第8回	消費税及び相続税（1）（『財政学』テキスト第9章1） 集団討論（7）						
第9回	消費税及び相続税（2）（『財政学』テキスト第9章2） 集団討論（8）						
第10回	財政政策と経済安定化（1）（テキスト第10章の1、2） 集団討論（9）						
第11回	学術論文の執筆の仕方について						
第12回	共同論文への取り組み（1）テーマと目次をつくり、各節の担当を決定						
第13回	財政政策と経済安定化（2）（『財政学』テキスト第10章の3、4） 集団討論（10）						
第14回	財政赤字と公債論（1）（『財政学』テキスト第11章の1、2） 集団討論（11）						
第15回	共同論文への取り組み（2）各担当の執筆進捗状況の確認と添削						
第16回	財政赤字と公債論（2）（『財政学』テキスト第11章の3、4） 集団討論（12）						
第17回	共同論文への取り組み（3）各担当の執筆進捗状況の確認と添削						
第18回	政府間財政関係（1）（『財政学』テキスト第12章の1、2） 集団討論（13）						
第19回	共同論文への取り組み（4）各担当の執筆進捗状況の確認と添削						
第20回	政府間財政関係（2）（『財政学』テキスト第12章の3） 集団討論（14）						
第21回	共同論文発表への準備（1）						
第22回	共同論文発表への準備（2）						
第23回	共同論文の発表（質疑応答含む）						
第24回	政府間財政関係（3）（『財政学』テキスト第12章の4、5） 集団討論（15）						
第25回	財政システムの将来（1）（『財政学』テキスト第13章の1、2） 集団討論（16）						
第26回	財政システムの将来（2）（『財政学』テキスト第13章の3、4、5）						
第27回	社会保障に関する文献を読み議論する						
第28回	地域再生・活性化に向けた地域政策に関する文献を読み議論する						

共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	28	毎回のゼミへの取り組み・熱意、課題への取り組み、発表等の点から総合的に評価する。 (1点×28回 初回を除く)	集団討論	32	積極性、内容、表現力、対応力等の点から総合的に評価する(2点×16回)。
共同論文	40	論文は問題意識、形式面、表現面、執筆の論理等の点から、発表は内容、表現力、対応力等の点から総合的に評価する(論文25点・発表15点)			
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
各回の該当する内容、指示された内容について、事前に用語や理論、背景など自分なりに調べ、理解しておくこと。調べた内容について、賛否両論がある場合は、それらを比較して自分なりの結論を導き出すようにすること。ゼミで説明した重要な部分の見直しとゼミで紹介した論文や参考書、新聞、ホームページ等は事後に必ず調べること。これにより、幅広い経済社会・財政の一般常識を身につけることができるだろう。			随時対応。		
教科書・テキスト	持田信樹[2009]『財政学』東京大学出版会 戸田山和久[2012]『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス		受講生に望むこと	ゼミをより充実したものにするためには、主体的にゼミに参加することである。使用するテキストをよく読んだり、テーマについて深く調べたり、問題点や改善案を真剣に考えたりすることはもちろん、議論に活発に参加したり、論文を納得いくまでしっかりとまとめたりすることによって、専門分野での思考能力を高めることができるので、常にそのような意識で取り組んでほしい。 また、普段から経済社会に関するニュースへの関心度を高め、当該ニュースの背景や問題点、改善案等も調べたり、考えたりするようにしてほしい。	
参考書・参考資料等	持田信樹[2019]『日本の財政と社会保障 給付と負担の将来ビジョン』東洋経済新報社 生活経済研究所編[2011年]『税制改革に向けてー公平で税収調達力の高い税制をめざしてー』生活研ブックス 神野直彦等[2012]『よくわかる社会保障と税制改革ー福祉の実現に向けた税制の課題と方向』イマジン出版 佐々木茂他[2009]『地域政策を考える 2030年へのシナリオ』勁草書房 小宮敦史[2020]『図説日本の財政 令和元年度版』財経詳報社 吉沢 浩二郎[2018]『図説日本の税制 平成30年度版』財経詳報社 総務省[2019]『地方財政白書 平成31年版(平成29年度決算)』日経印刷 総務省『各年度 地方財政統計年報』 総務省『各年度 都道府県決算状況調』 総務省『各年度 市町村決算状況調』 総務省『各年度 都道府県財政指数表』 総務省『各年度 類似団体別市町村財政指数表』 その他、地域政策に関する学術論文など			特になし。	その他・特記事項

授業科目	ゼミナール（真野）						
担当教員	真野 毅			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>最初に『新版 論文の教室』を活用して、興味のある論文のテーマを設定、企画、情報収集、アウトライン作成の一連の論文執筆プロセスを学ぶ。次に『地域協働のマネジメント』の事例を活用して、異種組織間の協働の問題について幅広く理解をするとともに、各ゼミ生の興味あるテーマを掘り下げていく。3、4学期は、各ゼミ生による文献輪読やアウトライン作成指導をつうじて、協働に関する知見を深める。</p>				<p>論文のテーマを絞り、企画、情報収集、アウトライン作成という一連の論文執筆プロセスを学び、異種間協働に関する知見を深め、アウトラインの作成をできるようになること。</p>			
教授方法	ゼミナールで設定したテーマについて、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行い、考察を深める。必要に応じてフィールドワークも行う。講義はできるだけ少なくし、学生が自らが学び、発表し、議論する場を設定していく。						
履修条件	ゼミナールI						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 授業概要説明						
2	『新版 論文の教室～レポートから論文まで』 2章 論文とはなにか						
3	『新版 論文の教室～レポートから論文まで』 3章 論文執筆プロセス 各自取り組むテーマの検討・発表						
4	『新版 論文の教室～レポートから論文まで』 4章 論文の構成要素 各自取り組むテーマの検討・発表						
5	『新版 論文の教室～レポートから論文まで』 5章 アウトライン 各自取り組むテーマの検討・発表						
6	『新版 論文の教室～レポートから論文まで』 6章 論証 各自取り組むアウトラインの検討・発表						
7	『新版 論文の教室～レポートから論文まで』 7章 パラグラウライティング 各自取り組むアウトラインの検討・発表						
8	『地域協働マネジメント』 事例報告 各自取り組むアウトラインの検討・発表						
9	『地域協働マネジメント』 事例報告 各自取り組むアウトラインの検討・発表						
10	『地域協働マネジメント』 事例報告 各自取り組むアウトラインの検討・発表						
11	『地域協働マネジメント』 事例報告 各自取り組むアウトラインの検討・発表						
12	『地域協働マネジメント』 事例報告 各自取り組むアウトラインの検討・発表						
13	『地域協働マネジメント』 事例報告 各自取り組むアウトラインの検討・発表						
14	中間まとめ						
15	各自取り組むテーマに関する文献の輪読・発表						
16	各自取り組むテーマに関する文献の輪読・発表						
17	各自取り組むテーマに関する文献の輪読・発表						
18	各自取り組むテーマに関する文献の輪読・発表						
19	各自取り組むテーマに関する文献の輪読・発表						
20	各自取り組むテーマに関する文献の輪読・発表						
21	各自取り組むテーマに関する文献の輪読・発表						
22	各自取り組むテーマのアウトラインの発表						
23	各自取り組むテーマのアウトラインの発表						
24	各自取り組むテーマのアウトラインの発表						
25	各自取り組むテーマのアウトラインの発表						
26	各自取り組むテーマのアウトラインの発表						
27	各自取り組むテーマのアウトラインの発表						
28	まとめ						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
レポート	40%	論文のアウトライン	上記以外	60%	授業での発表や議論を評価
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
次回授業の事前学習を行い、授業で参加できるように準備すること。発表を担当するときは、クラスでの授業が活発に議論できるよう準備をすること。			メールで依頼があれば、速やかに対応する。		
教科書・テキスト	『地域協働のマネジメント』 佐々木利廣、中央経済社、2018 『新版 論文の教室 - レポートから論文まで』 戸田山和久、NHK BOOKS、2019		受講生に望むこと	神輿に乗るのではなく、神輿を担ぐこと。積極的な授業参加を望む。	
参考書・参考資料等	資料が必要な場合は、配布する。		その他・特記事項	特になし。	



授業科目	ゼミナール（三浦）						
担当教員	三浦 正士			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>この科目では、多様化・複雑化を見せる地方自治の諸課題について、ゼミ生の問題関心に基づいた学習を行うため、学期ごとに異なる課題を設定することで、地方自治を理論と実践の双方から学ぶことをめざす。</p> <p>1学期は、教科書を輪読して議論を行うことで、地方自治の基本的なしくみと理論について理解を深める。3学期は、ゼミ生のゆかりのある自治体の政策課題について報告を課し、議論を行うことで、自治体の多様性を理解するとともに、地域が直面する政策課題に対する多角的な視点を養う。4学期は、ゼミ生の関心が高いテーマについて、実際に自治体現場に赴き、その実態と課題解決に向けた政策を考察する。</p>				<p>ねらい 地方自治の基本的なしくみと理論、今後の課題を理解するのみならず、それらをもとに今日の地域社会が直面している様々な課題を“発見”し、当該課題の解決に向けた政策の企画立案力を養う。また、本ゼミにおける学生の主体的な報告と積極的な議論を通じて、将来的な卒業論文の執筆において必要となる能力を育む。</p> <p>到達目標 地域社会の課題について自分の意見を持つことができる。 論文執筆に必要な読解力と思考力、文章力を身につける。 議論に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。</p>			
教授方法	演習形式で行う。						
履修条件	特になし。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：ゼミナールの進め方について説明するほか、ゼミナールでの学びの振り返りを行う。						
2	地方自治のしくみについて学ぶ（1）：教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
3	地方自治のしくみについて学ぶ（2）：教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
4	地方自治のしくみについて学ぶ（3）：教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
5	地方自治のしくみについて学ぶ（4）：教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
6	地方自治のしくみについて学ぶ（5）：教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
7	地方自治のしくみについて学ぶ（6）：教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
8	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（1）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
9	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（2）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
10	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（3）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
11	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（4）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
12	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（5）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
13	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（6）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
14	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（7）：これまでの議論を踏まえ、ゼミ生によるプレゼンテーションを行う。						
15	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（1）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
16	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（2）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
17	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（3）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
18	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（4）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
19	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（5）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
20	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（6）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
21	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（7）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
22	研究テーマとアプローチ手法を考える（1）：卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。						
23	研究テーマとアプローチ手法を考える（2）：卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。						
24	研究テーマとアプローチ手法を考える（3）：卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。						
25	研究テーマとアプローチ手法を考える（4）：卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。						
26	研究テーマとアプローチ手法を考える（5）：卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマに対するアプローチ手法を考えるとともに、ゼミ生同士でディスカッションを行う。						
27	研究テーマとアプローチ手法を考える（6）：卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマに対するアプローチ手法を考えるとともに、ゼミ生同士でディスカッションを行う。						
28	まとめ：ゼミナールでの学びについて振り返りを行うとともに、卒業論文の執筆に向けた今後の課題の整理を行う。						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業での報告	70	ゼミナールにおいて課した報告の内容について、地域課題の発見力、地域課題の解決に向けた企画立案力を評価する。	議論への参加度	30	ゼミナールにおける議論への参加度や貢献度から、コミュニケーションの積極性、主体性、能動的な学習の姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告者は、報告内容について主体的な問題関心を持ち、適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して報告に備える。</li> <li>・報告者以外は、報告が予定されている内容について、教科書を精読するとともに、自治体の政策課題に関する情報を収集する。</li> </ul> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミナールでの学習内容について、教科書や参考書を読み、理解を深める。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・上記のほか、相談等は適宜メール等で受け付ける。</li> </ul>		
教科書・テキスト	初回授業時に提示する。		受講生に望むこと	ゼミナールの活動や授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	ゼミナール（宮崎）						
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>「健康生活」「健康な地域づくり」「健康経営」「ヘルスビジネス」等の言葉に代表するように、人々の生活だけでなく、公共経営、会社経営、企画事業に“健康”の視点があると人々は生き生きとした幸せに近づける。保健を通じて「誰一人取り残さない」SDGsの実現を、分野を超えて考える。</p> <p>ゼミでは、学生の関心事に沿って各自のテーマにおけるヘルスシステムの現状を調べ課題を抽出、どうあるべきかを議論する。同時に年間を通じて研究方法を学ぶ。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究方法のメソッドを理解する</li> <li>・自身の関心事とテーマ設定ができ、その現状と課題を特定する</li> <li>・フィールドワークから視野を広げる</li> </ul>			
教授方法	ゼミナール（討議、発表、報告、演習、地区視診等）一部講義						
履修条件	とくにないが、3年1学期開講の「健康マネジメント論」の受講を推奨する						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション ゼミ計画 研究計画						
2	研究とは						
3	研究疑問のつくりかた						
4	研究倫理について						
5	各自の関心事とテーマ設定 文献レビュー						
6	各自の関心事とテーマ設定 情報収集の方法						
7	各自テーマの現状把握 方法と計画						
8	各自テーマの現状把握 計画と実施						
9	各自テーマの現状把握 実施（2次資料）						
10	各自テーマの現状把握 実施（2次資料）						
11	各自テーマの現状把握 実施報告と不足情報の発見						
12	各自テーマの現状把握 不足情報の把握						
13	各自テーマの現状把握 実施（1次情報）						
14	各自テーマの現状把握 実施（1次情報）						
15	データの取り扱いと分析方法						
16	各自テーマの現状分析 実施						
17	各自テーマの現状分析 実施						
18	各自テーマの現状分析 実施報告						
19	各自テーマの現状分析 実施報告						
20	各自テーマの現状分析 見えてきた課題						
21	各自テーマの現状分析 見えてきた課題						
22	研究課題の絞りかた 優先度 重要度						
23	研究計画書の書き方						
24	研究目的の設定と仮説						
25	研究目的と方法論の選び方						
26	研究計画書作成						
27	研究計画発表と修正						
28	研究計画発表と実施に向けたスケジュール						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
研究計画書	60	研究計画書（発表を含む）の提出や内容を評価する	提出物	40	ゼミ資料、レポート等の提出や内容を評価する
授業参加度	減点および加	ゼミ参加度、意見、各自の関心事への学習態度、フィールドワーク参加等を考慮する			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
積極的に文献検索、文献レビューを行うことを推奨する 必要に応じゼミ生全員や各自、小グループで学外活動やフィールド見学を計画する			オフィスアワーを活用する		
教科書・テキスト	課題研究メソッド 啓林館		受講生に望むこと	ゼミの最後には、研究計画書の完成、発表ができ、春休みには実施開始できることを目指す	
参考書・参考資料等	参考書・参考資料は、必要時紹介する		その他・特記事項	特になし	

授業科目	ゼミナール（宮下）						
担当教員	宮下 清			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本ゼミナールでは、世界標準とされるマネジメント・テキストに基づき輪読学習を行うと共に、地域・国内・海外の事業や企業の事例を通して、経営学・ビジネス・マネジメントを理論的かつ実践的に学ぶ。経営学・マネジメント・ビジネスを学ぶには、理論的枠組み、体系的な知識、事業や企業における実践を理解することが重要となる。本ゼミナールではマネジメント・テキストでの学習と共に、企業などの情報収集や現地調査など現場訪問をプロジェクトとして行い、実際の課題を通してマネジメントの本質を理解、習得を図る。また、同時にそれらの知識理解の活用につながる能力獲得を目指す。</p>				<p>・経営学の理論・歴史を学び、実践への適用・活用を試み、また理論に戻り考えるというプロセスに沿って学ぶ。経営学は広く地域・国内・海外の事業・企業そして商品・サービス、戦略・組織、人材・育成を対象とする。  ・地域、国内、海外の経営・マネジメントについて文献から学ぶと共に、情報収集や訪問など現地現物からも学ぶ。地域事業・企業、国際経営、経営戦略、組織行動、人材マネジメント、教育訓練が本ゼミのキーワード。  ・学習の場となるゼミでは、お互いを尊重し高め合える人間関係の構築が前提。ゼミ学習・活動を通してコミュニケーションやリーダーシップなどの力を高め、良好な社会性、協力関係を構築できる人間力を高める。  ・3年生：目標＝基礎理論の習得とプロジェクトへの取り組み（ゼミ文化構築の検討と研究試行の段階）  ・4年生：目標＝理論と実践経験を活かし、事例研究・学術的分析の実施（ゼミ文化の確立、卒業研究の計画的な取り組み）</p>			
教授方法	<p>・マネジメント授業  ・プロジェクト授業</p>			<p>ゼミの時間で課題図書は輪読。各担当レジュメ提出し発表をおよび討議。ゼミ生が主体的に進めるプロジェクト研究。学内外の調査研究活動、サブ学習、学外訪問、交流などイベント活動を随時行う。</p>			
履修条件	経営学入門を履修していることが望ましい						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミ の概要「ゼミでの学習」、 . マネジメントの理解を図る						
2	1. マネジメントの学習 2. プロジェクトによる学習						
3	マネジメントの学習						
4	マネジメントの学習						
5	プロジェクト活動（地域課題）						
6	プロジェクト活動（地域課題）						
7	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認						
8	. 集中授業 取り組みの概要、スケジュール確認						
9	マネジメントの学習（集中）						
10	マネジメントの学習（集中）						
11	マネジメントの学習（集中）						
12	プロジェクト活動（地域課題）（集中）						
13	プロジェクト活動（地域課題）（集中）						
14	プロジェクト活動（地域課題）（集中）						
15	. プロジェクトによる学習						
16	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認						
17	プロジェクト活動（地域課題）						
18	プロジェクト活動（地域課題）						
19	マネジメントの学習						
20	マネジメントの学習						
21	プロジェクト活動（地域課題）						
22	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認						
23	マネジメントの学習						
24	マネジメントの学習						
25	プロジェクト活動（地域課題）						
26	マネジメントの学習						
27	マネジメントの学習						
28	プロジェクト活動（地域課題）						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験	0	実施しない	小テスト	0	実施しない
レポート	0	実施しない	その他	100	ゼミでの発表、レジュメ、討議、質疑
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>通常のゼミ発表のためには、テキストなどの文献を読む、理解する、考える、まとめるといった学習のため、事前学習、事後学習が求められる。またプロジェクトでは現場訪問やその準備や事後の整理などメンバーと協力し、積極的な活動が求められる。</p> <p>授業外のゼミ活動として、ビジネスコンペ、合同ゼミ・他大学交流、サブゼミ、企業等の訪問、ゼミ合宿などが考えられる。</p>			授業前後およびメールでのアポにより対応する。		
教科書・テキスト	S.P. ロビンズ他著、高木晴夫監訳（2014）『マネジメント入門 グローバル経営のための理論と実践』ダイヤモンド社。		受講生に望むこと	ゼミでは、常に問題意識を持ち、経営学・マネジメントを理論的、実践的に学ぶ、またプロジェクトでは主体的にかつ協力して取り組む。	
参考書・参考資料等	Stephen P. Robbins et al. Fundamentals of Management: Management Myths Debunked!, Global Edition, Pearson Education Limited., 2016. 中山、丹野、宮下『新時代の経営マネジメント』創成社, 2018. 上林他著『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣, 2018。ほか		その他・特記事項	スケジュールやおよその枠組みであり、必要に応じて修正・改善して進める。 担当教員は企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有する。	

授業科目	ゼミナール（森本）						
担当教員	森本 博行			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>21世紀にはいり、中国や韓国などのアジアの新興国企業は、希有の企業成長を誇ってきた。新興国企業の成長とともに、先行してきた日本企業の戦略も変化してきた。これまで日本企業は、アジアをはじめとしてグローバルに世界の各国に販売拠点や生産拠点を設け、自社の競争優位を活かして、各国の企業との競争を展開してきた。</p> <p>担当教員は、広告会社の外資系部門（マッキンゼー・エリクソン・ワールド）、さらに製造業（ソニー）においてVP（Vice president）を経験し、広告宣伝、事業戦略、米国、英国で海外子会社経営についての実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、将来的に実務に活かすことができる能力について講義します。</p>				<p>国際経営の企業事例を学ぶことによって、日本企業の国際経営の課題について認識する。</p>			
教授方法	演習方式（1学期、2学期は『経営戦略の思考法』を輪読します。3学期、4学期は企業事例についてディスカッションします。						
履修条件	経営学入門を履修していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 経営戦略に関する5つの考え方(沼上幹『経営戦略の思考法』より)						
2	戦略計画学派						
3	創発戦略学派						
4	ポジショニング・ビュー						
5	リソース・ベスト・ビュー						
6	ゲーム論的アプローチ						
7	5つの戦略観がもたらす反省						
8							
9	経営戦略の3つの思考法 カテゴリー適用法、 要因列挙法、 メカニズム解明法						
10	戦略的思考法の具体例						
11	顧客ダイナミクス						
12	差別化競争						
13	競争を活用する戦略						
14	シナジー戦略						
15	日米自動車産業の国際競争力（戦前・戦後の自動車摩擦問題をめぐって）						
16	日本トイレットペーパー市場での国際競争(P&Gの日本進出と日本企業との競争)						
17	新興国市場戦略の諸観点と国際経営論、						
18	新興国市場戦略論（製品戦略と組織の転換）						
19	市場戦略再構築の重要性（プリンタ産業の事例）、						
20	低価格モデルの投入と製品戦略の革新（ホンダ二輪車事業のasean戦略の事例）						
21	現地エンジニア主導の製品開発（デンソー・インドの事例）						
22	ITシステム活用によるハイエンド市場進出（コマツ製作所の事例）、						
23	自動車メーカーの環境適応戦略（BRICs自動車市場の生成）						
24	産業財の製品開発戦略、						
25	産業財のサービス、ソリューション戦略、						
26	部品メーカーの標準化とカスタマイズ（自動車用ECU事業と中国市場展開の事例、ほか）						
27	日系小売業における組織能力の構築と現地市場開拓（イトーヨーカ堂とセブンイレブンの中国市場展開の事例）						
28	ゼミ まとめ						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表	50	課題理解度	レポート	50	課題理解度
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
ゼミで発表することを事前に準備すること。			質問や相談したことがあれば、メールを下さい。対応します。		
教科書・テキスト	沼上幹『経営戦略の思考法』（日本経済新聞出版社）新宅純二郎ほか『ものづくりの国際経営戦略』（有斐閣）		受講生に望むこと	ゼミで発表することを事前に準備すること。	
参考書・参考資料等	天野論文ほか『新興市場戦略論』（有斐閣）デビッド・J・コリス他『資源ベースの経営戦略論』（東洋経済新報社）元橋一之『グローバル経営戦略』（東京大学出版会）		その他・特記事項	企業事例は、変更する場合があります。	



授業科目	ゼミナール（尹）						
担当教員	尹 大栄			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
自分の研究テーマについて研究を進め、その成果をプレゼンする				卒論研究テーマを固める			
教授方法	各自、自分の研究テーマについて発表し、ディスカッションする						
履修条件	卒論作成を目指すこと						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	各自、自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
2	自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
3	自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
4	自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
5	自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
6	自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
7	自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
8	自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
9	自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
10	自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
11	自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
12	自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
13	自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
14	自分の卒論テーマについて発表、ディスカッションを行う						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
発表	70	新奇性のある研究成果		議論に対する貢献度	30	他人の研究発表に対して積極的に質問し、意見を述べること	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
自分の研究テーマに関する関連文献・論文についてしっかりレビューすること				研究室訪問やメールなどに対応する。			
教科書・テキスト	とくになし			受講生に望むこと	自ら学ぶ（研究する）こと		
参考書・参考資料等	必要に応じて配布、紹介する。			その他・特記事項	一緒にフィールド（企業訪問など）に出かけよう！		

授業科目		Foundations of English (G1)					
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語を正確に運用する能力の基礎を身に付ける。</li> <li>NGSL 第1段階の語彙力を身に付ける。</li> </ul> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1つ1つの文(単文)を正確に理解・産出することができる。</li> <li>1つ1つの音や単語を正確に聴解・発音することができる。</li> <li>文章の内容を正確に読み取ることができる。</li> <li>NGSL第1段階の700語を正しく運用することができる。</li> </ul>			
教授方法	基本的な事項に関する必要最低限の解説を行った上で、問題演習やグループワークを中心に授業を進めます。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	NGSL学習(1-100)、英語音声(母音 1-3)、英文法(文の構造と品詞)						
3	NGSL学習(101-200)、英語音声(母音 4-7)、英文法(動詞と文型(1))						
4	NGSL小テスト(1-200)、英語音声(母音 8-10)、英文法(動詞と文型(2))						
5	英語音声(母音 11-14)、Core Reading(1)						
6	NGSL学習(201-300)、英語音声(母音 15-19)、英文法(時制(1))						
7	NGSL学習(301-400)、英語音声(母音 20-23)、Core Reading(2)						
8	NGSL小テスト(201-400)、英文法(時制(2))						
9	前半のまとめ・復習(中間テストを含む)						
10	NGSL学習(401-500)、英語音声(子音 24-26)、英文法(助動詞(1))						
11	NGSL学習(501-600)、英語音声(子音 27-30)、Core Reading(3)						
12	NGSL小テスト(401-600)、英語音声(子音 31-34)、英文法(助動詞(2))						
13	NGSL学習(601-700)、英語音声(子音 35-38)、Reading演習						
14	NGSL小テスト(601-700)、英語音声(子音 39-42)、英文法(受動態)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することができるか。</li> <li>文の構造や文と文のつながりを読み取ることができるか。</li> <li>英語の発音に関する基礎事項が身についているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	30	予習および課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。		中間・期末テスト	50	中間テスト(第9回)、期末テスト(試験期間)の得点により評価。	
NGSL小テスト	10	授業内で行う4回のNGSL小テストの平均得点により評価。		NGSL共通テスト	10	学期末のNGSL共通テストの成績により評価。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で学習した発音や文法を繰り返し練習すること。</li> <li>NGSLの語彙を継続的に学習すること。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業後に直接声をかける、大学アカウントにメールを送る、または研究室(C104)を訪問してください。</li> </ul>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声：『英語の正しい発音の仕方(基礎編)』研究社</li> <li>文法：プリント配布</li> <li>読解：Core Reading (EPGM Student Handbookに掲載)</li> </ul>			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の予習・復習を欠かさず行うこと。</li> <li>授業時の問題演習やグループワークに積極的に取り組むこと。</li> </ul>		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目		Foundations of English (G7)					
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語を正確に運用する能力の基礎を身に付ける。</li> <li>NGSL 第1段階の語彙力を身に付ける。</li> </ul> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1つ1つの文(単文)を正確に理解・産出することができる。</li> <li>1つ1つの音や単語を正確に聴解・発音することができる。</li> <li>文章の内容を正確に読み取ることができる。</li> <li>NGSL第1段階の700語を正しく運用することができる。</li> </ul>			
教授方法	基本的な事項に関する必要最低限の解説を行った上で、問題演習やグループワークを中心に授業を進めます。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	NGSL学習(1-100)、英語音声(母音 1-3)、英文法(文の構造と品詞)						
3	NGSL学習(101-200)、英語音声(母音 4-7)、英文法(動詞と文型(1))						
4	NGSL小テスト(1-200)、英語音声(母音 8-10)、英文法(動詞と文型(2))						
5	英語音声(母音 11-14)、Core Reading(1)						
6	NGSL学習(201-300)、英語音声(母音 15-19)、英文法(時制(1))						
7	NGSL学習(301-400)、英語音声(母音 20-23)、Core Reading(2)						
8	前半のまとめ・復習(中間テストを含む)						
9	NGSL小テスト(201-400)、英語音声(子音 24-26)、英文法(時制(2))						
10	NGSL学習(401-500)、英語音声(子音 27-30)、Core Reading(3)						
11	NGSL小テスト(401-500)、英語音声(子音 31-34)、英文法(助動詞(1))						
12	NGSL学習(501-600)、英語音声(子音 35-38)、Reading演習						
13	NGSL学習(601-700)、英語音声(子音 39-42)、英文法(助動詞(2))						
14	NGSL小テスト(501-700)、英文法(受動態)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することができるか。</li> <li>文の構造や文と文のつながりを読み取ることができるか。</li> <li>英語の発音に関する基礎事項が身についているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	30	予習および課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。		中間・期末テスト	50	中間テスト(第8回)、期末テスト(試験期間)の得点により評価。	
NGSL小テスト	10	授業内で行う4回のNGSL小テストの平均得点により評価。		NGSL共通テスト	10	学期末のNGSL共通テストの成績により評価。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で学習した発音や文法を繰り返し練習すること。</li> <li>NGSLの語彙を継続的に学習すること。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業後に直接声をかける、大学アカウントにメールを送る、または研究室(C104)を訪問してください。</li> </ul>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声：『英語の正しい発音の仕方(基礎編)』研究社</li> <li>文法：プリント配布</li> <li>読解：Core Reading (EPGM Student Handbookに掲載)</li> </ul>			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の予習・復習を欠かさず行うこと。</li> <li>授業時の問題演習やグループワークに積極的に取り組むこと。</li> </ul>		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目		Foundations of English (G3)					
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
英文法の基本的な知識を理解し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正しく発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				英語を正確に運用するための能力 [ accuracy ] の基礎を身に付ける。NGSL第1段階の語彙力を身に付ける。特に英文読解力、英文構造の理解力を身に付けることを目標にする。			
教授方法	Reading, Listening 中心の Surviving in a Global World と Syntax, Writing 中心の Basic Skills in English の2種類のテキストを使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。また英語の音声に慣れ、発音の基礎を学ぶ。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション Surviving in a Global World, Unit 1: Globalization and the Global Society						
2	Unit 2: How Do You Define a Global Citizen? Basic Skills in English, Chapter 1: 8品詞、第1文型、第2文型、肯定文と否定文						
3	Unit 3: You Can Become a Global Citizen Chapter 2: 第3文型、前置詞の目的語、動詞の過去形、未来時制						
4	Unit 4: Saying "Yes" or "No" Clearly Chapter 3: 平叙文、命令文、疑問文、感嘆文						
5	Unit 5: Start Conversation with a Nice Compliment Chapter 4: 第4文型、進行形、現在完了、過去完了、能動態と受動態						
6	Unit 6: Why Can't People Read the Atmosphere? Chapter 5: 第5文型、第5文型の受動態、形容詞の二用法						
7	Unit 7: Don't Be Afraid to Make Mistakes Chapter 6: 名詞の種類、準動詞、名詞句(1)、動詞の目的語 不定詞か動名詞か						
8	Unit 8: Develop the Ability to Express Your Thoughts Chapter 1~Chapter 6 の復習						
9	Unit 9: Prepare for Culture Shock Chapter 7: 形式主語と形式目的語、名詞句(2)、代名詞の種類、非人称の it						
10	Unit 10: Overcome Communication Gaps in This Way Chapter 8: 形容詞句(1)、形容詞の種類、冠詞、形容詞の位置						
11	Unit 11: Effective Ways to Reduce Stress Chapter 9: 形容詞句(2)、知覚動詞・使役動詞+目的語+準動詞、知覚動詞・使役動詞の受動態						
12	Unit 12: Have a Postitive Way of Thinking Chapter 10: 準動詞の完了と受動態、形容詞・副詞の比較変化						
13	Unit 1~Unit 6 の復習 Chapter 11: 副詞句(1)、前置詞と意味上の種類・用法、動詞+前置詞=1個の他動詞						
14	Unit 7~Unit 12 の復習 Chapter 7~Chapter 11 の復習						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することが出来ているか。</li> <li>・文の構造や文と文のつながりを読み取ることが出来ているか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身についているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加意欲・態度	35%	授業への積極的な参加意欲・態度、出席状況、提出物などを評価の対象にします。		期末テスト	50%	授業内容全般に関する理解を問う問題を出題し、理解度を評価の対象にします。	
NGSL	10%	NGSL第1段階の語彙テストの成績		e-learning	5%	e-learning の成績評価については配布プリント参照	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習・復習をして授業に臨む。NGSL と e-learning については、試験準備は原則として各自の自習とします。				何時でも質問や相談に応じます。メール可。			
教科書・テキスト	Junji Nakagawa, Justin Charlebois, Surviving in a Global World (成美堂) Kenichi Tamoto, Simon Sanada, Basic Skills in English (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介します。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Foundations of English (G5)						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正しく発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の焼く700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。				英語を正確に運用するための能力[accuracy]の基礎を身に付ける。NGSL第1段階の語彙力を身に付ける。特に英文読解力、英文構造の理解を身に付けることを目標とする。			
教授方法	Reading, Listening 中心の Surviving in a Global World と Syntax, Writing 中心の Basic Skills in English の2種類のテキストを使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。また英語の音声に慣れ、発音の基礎を学ぶ。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション Surviving in a Global World, Unit 1: Globalization and the Global Society						
2	Unit 2: How Do You Define a Global Citizen? Basic skills in English: Chapter 1: 8品詞、第1文型、第2文型、肯定文と否定文						
3	Unit 3: You Can Become a Global Citizen Chapter 2: 第3文型、前置詞の目的補、動詞の過去形、未来時制						
4	Unit 4: Saying "Yes" or "No" Clearly Chapter 3: 平叙文、命令文、疑問文、感嘆文						
5	Unit 5: Start Conversations with a Nice Complement Chapter 4: 第4文型、進行形、現在完了、過去完了、能動態と受動態						
6	Unit 6: Why Can't People Read the Atmosphere? Chapter 5: 第5文型、第5文型の受動態、形容詞の二用法						
7	Unit 7: don't Be Afraid to Make Mistakes Chapter 8: 名詞の種類、準動詞、名詞句(1)、動詞の目的語 不定詞が動名詞か						
8	Unit 8: Develop the Ability to Express Your Thoughts Chapter 1~Chapter 6 の復習						
9	Unit 9: Prepare for Culture Shock Chapter 7: 形式主語と形式目的語、名詞句(2)、代名詞の種類、非人称の it						
10	Unit 10: Overcome Communication Gaps in This Way Chapter 8: 形容詞句(1)、形容詞の種類、冠詞、形容詞の位置						
11	Unit 11: Effective Ways to Reduce Stress Chapter 9: 形容詞句(2)、知覚動詞・使役動詞+目的語+準動詞、知覚動詞・使役動詞の受動態						
12	Unit 12: Have a Posiver Way of thinking Chapter 10: 準動詞の完了と受動態、形容詞・副詞の比較変化						
13	Unit 1~Unit 6 の復習 Chapter 11: 副詞句(1)、前置詞と意味上の種類・用法、動詞+前置詞=1個の他動詞						
14	Unit 7~Unit 12 の復習 Chapter 7~Chapter 11 の復習						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することが出来ているか。</li> <li>・文の構造や文と文のつながりを読み取ることが出来ているか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身についているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加意欲・態度	35%	授業への積極的な参加意欲・態度・出席状況、提出物などを評価の対象にします。		期末テスト	50%	授業内容全般に関する理解を問う問題を出題し、理解度を評価の対象にします。	
NGSL	10%	NGSL第1段階の語彙テストの成績		e-learning	5%	e-learning の成績評価については配布プリント参照	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習・復習をして授業に臨む。NGSL と e-learning については、試験準備は原則として各自の自習とします。				何時でも質問や相談に応じます。メールも可。			
教科書・テキスト	Junji Nakagawa, Justin Chalebois, Surviving in a Global World (成美堂) Kenichi Yamoto, Simon Sanada, Basic Skills in English (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を原則として進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介します。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Foundations of English (G6)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>英語を正確に運用する能力 [accuracy]の基礎を身に付ける / NGSL 第1段階の語彙力を身に付ける。特に、単文ですばやく状況説明できる。および、ナチュラルスピードにおける音変化を把握できるようになることを目標とする。</p>			
教授方法	事前のテキスト学習によるインプットおよび授業内アウトプット活動によるフリッパーニング、アクティブラーニングを実践する						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス: シラバス、テキスト2冊『English Grammar in Use (EGU)』と『Essential Listening Skills』(ELS)、NGSL、CoreReading等の説明、セルフチェックテスト						
2	[文法]	『EGU』 Unit 1- 3,	[音声]	『ELS』 Unit 1の前半および[a]の異なる3つの音			
3	[文法]	『EGU』 Unit 4-6,	[音声]	『ELS』 Unit 2の前半および[ar]と[er]			
4	[文法]	『EGU』 Unit 7-12,	[音声]	『ELS』 Unit 3の前半および[v]と[f]			
5	[文法]	『EGU』 Unit 13-18,	[音声]	『ELS』 Unit 4の前半および[l]と[r]			
6	[文法]	『EGU』 Unit 19-25,	[音声]	『ELS』 Unit 5の前半および[s][sh][th]			
7	小テスト1と解説: 『EGU』 Unit 1-25, および、『ELS』 Unit 1-5の各ユニットの前半、NGSL1-350、1Q_Core Reading前半を範囲						
8	[文法]	『EGU』 Unit 26-30,	[音声]	『ELS』 Unit 6の前半および [law] [raw] [low] [row]			
9	[文法]	『EGU』 Unit 31-35,	[音声]	『ELS』 Unit 7, 8の前半			
10	[文法]	『EGU』 Unit 36-41,	[音声]	『ELS』 Unit 9, 10の前半			
11	[文法]	『EGU』 Unit 42-46,	[音声]	『ELS』 Unit 11, 12の前半			
12	[文法]	『EGU』 Unit 49-52,	[音声]	『ELS』 Unit 13, 14の前半			
13	[文法]	『EGU』 Unit 53-68,	[音声]	『ELS』 Unit 15の前半および[p][t][k]			
14	小テスト2と解説: 『EGU』 Unit 26-46と49-68, および、『ELS』 Unit 6-15の各ユニットの前半について、NGSL351-700、1Q_Core Reading後半を範囲とする						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することができるか。</li> <li>・文の構造や文と文のつながりを読み取ることができるか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身についているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
平常点	10	授業内発言及びオンライン投稿による貢献度を測る		小テスト	50	授業内テスト2回で学習した項目を正確に運用できる理解力を測る	
定期試験(筆記)	30	学習した項目を応用できる表現力を測る		NGSL	10	NGSL共通試験において対象語彙の習熟度を測る	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された教科書の問題を解き、事後学習として反復練習および応用練習が求められる。適宜、学習成果をOneNote(デジタルポートフォリオ)に管理することが求められる。</p>				<p>大学のOffice365アカウントから、EmailまたはTeams/Skype for Businessで連絡をください。また、学内オフィスC105にて、簡単な質問は随時、面談はアポイントメントを設定したうえで、受け付けます。</p>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ English Grammar in Use with answers, 5th Ed. (Murphy, R., Cambridge University Press, 2019)</li> <li>・ 音のルールから学ぶ大学生のリスニングドリル 資格試験対応 [Essential Listening Skills] (船田秀佳, 朝日出版社, 2020) 【以上2冊】</li> </ul>			受講生に望むこと	コツコツしっかりと取り組みましょう。		
参考書・参考資料等	OneNoteにアップされている文法および音声に関する資料を活用すること			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Foundations of English (G4)						
担当教員	高野 弘子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>英語を正確に運用する能力[accuracy]の基礎を身に付ける。/ NGSL第1段階の語彙力を身に付ける。特に、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音などを含む、総合的タスクに積極的に取り組むことを通して、英語の知識を増強し、英語を使用する能力を伸ばすことを目標とする。</p>			
教授方法	個別、ペアワーク、グループワークによる授業。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、課題、評価方法について確認する。						
第2回	Unit 1 Meeting people, exchanging personal information						
第3回	Unit 1 Describing occupations 1						
第4回	Unit 1 Describing occupation 2						
第5回	Unit 1 Video journal & Review test						
第6回	Unit 2 Talking about a typical day and free time						
第7回	Unit 2 Describing celebrations and festivals						
第8回	Unit 2 Daily life in different countries						
第9回	Unit 2 Video journal & Review test						
第10回	Unit 3 Identifying possessions and travel information						
第11回	Unit 3 Travel information and advice						
第12回	Unit 3 Travel tips						
第13回	Unit 3 Video journal & Review test						
第14回	Unit 1 ~ 3 TED Talks						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することが出来ているか。</li> <li>・文の構造や文と文のつながりを読み取ることが出来ているか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身についているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末テスト	40	授業で学習した内容が身についたか。		小テスト	30	各単元で学習した内容が身についたか。	
宿題	20	授業で学習した内容を復習できたか。		NGSL	10	NGSLの語彙力が定着できたか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
宿題は必ず行うこと。				授業前後に対応する。			
教科書・テキスト	World English 1A (Second Edition), Cengage Learning			受講生に望むこと	英語辞典を持参すること。(電子辞書可)		
参考書・参考資料等	授業中に必要に応じて提示する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Foundations of English (G2)						
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>英語を正確に運用する能力 [accuracy]の基礎を身に付ける / NGSL 第1段階の語彙力を身に付ける。特に、正しい発音で音読することができ、また文法を熟知したうえで実践的に英語を使うことができることを目標とする。</p>			
教授方法	正しい発音を学び、ペアで音読練習をする。文法を確認してから、読み物をとおしてその文法の使い方を深めたり、実際に書くことなどに取り組む。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(授業の進め方や学習方法などの説明) / 発音練習 / Lesson 1						
2	Quiz 1 / 発音練習 / Lesson 2 (Readings 1&2)						
3	発音練習 / Lesson 2 (Reading 3)						
4	Quiz 2 / 発音練習 / Lesson 3 (Readings 1&2)						
5	発音練習 / Lesson 3 (Readings 3&4)						
6	Quiz 3 / 発音練習 / Lesson 4 (Readings 1&2)						
7	発音練習 / Lesson 4 (Readings 3&4)						
8	Quiz 4 / 発音練習(復習 1/2) / Lesson 5 (Readings 1&2)						
9	発音練習 / Lesson 5 (Readings 3&4)						
10	Quiz 5 / 発音練習 / Lesson 6 (Readings 1&2)						
11	発音練習 / Lesson 6 (Readings 3&4)						
12	Quiz 6 / 発音練習 / Lesson 7 (Readings 1&2)						
13	発音練習 / Lesson 7 (Reading 3)						
14	Quiz 7 / 発音練習(復習 2/2) / Lessons 1~7 (文法の総復習)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することが出来ているか。</li> <li>・文の構造や文と文のつながりを読み取ることが出来ているか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身についているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	50	文法の理解度や短文の作文の完成度などに応じて評価する。		発音	10	正しい発音をすることがどの程度できるかにより評価する。	
小テスト	30	文法や語彙に関する小テストを行い、理解度に応じて評価する。		NGSL	10	学期末共通試験の理解度に応じて評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>事前学習: 音読(1) 内容を考えながらゆっくり読む。 (2) 次に発音を意識してゆっくり読む。 小テストの準備、読み物および文法項目の熟読。 事後学習: 発音練習、文法の見直し。</p>				<p>非常勤講師控室に来てください(火曜日と金曜日のお昼休み)。または、メールで問い合わせること。メールアドレスは後日、知らせます。</p>			
教科書・テキスト	『増補改訂版 英語発音・聴き取りの基礎』(朝日出版社、2016年) Grammar in Context 2, 6th edition (Cengage Learning, 2016)			受講生に望むこと	普段からなるべく英語にふれる機会をつくるようにしましょう(新聞、音楽、映画など)。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず辞書を持参すること(電子辞書可)。</li> <li>・遅刻しないこと(20分を超えたら欠席とします)。</li> <li>・遅刻や欠席した場合など、小テストの再試験を行いません。</li> </ul>		



授業科目	Basic English Communication (G3)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the first 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak and write about themselves and their hometown and read graded readers at their level smoothly.			
教授方法	Conversation models from the textbook will be practiced in class by students in pairs and in larger groups. There will be short individual presentations and group presentation activities. Students will be expected to do reading outside of class and be prepared to discuss these readings with other students. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and practice NGSL vocabulary.						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to Conversations in Class (Alma Publishing) and class goals; self-introductions						
2	Unit 1.1: Conversation about hometown; how to write an email; written introductions						
3	Unit 1.2: Majors, school years, and clubs; book club; Core Reading activity (1)						
4	Unit 1.3: Part-time jobs; short student presentations; writing (ideal future job)						
5	Unit 2.1: Group conversation about ideal jobs in the future; conversations about daily routines						
6	Unit 2.2: Conversations about how students spend their everyday time; first NGSL quiz; speaking test						
7	Unit 3.1: Introductions of student hometowns; Core Reading Activity (2)						
8	Unit 3.2: Students talk about where they would like to live in the future; book club						
9	Hobbies and enthusiasms; short assignment related to hobbies and enthusiasms (1); second NGSL quiz						
10	Unit 4.1: Conversation about travel experience; Core Reading Activity (3)						
11	Unit 4.2: Future travel plans; book and discussion activities						
12	Unit 4.3: Students plan trip in groups; travel writing assignment; mini presentation						
13	Group conversations about presentations; travel assignment; book club						
14	Conversation based on travel assignments; final class conversations						
共通の評価基準							
Students can smoothly introduce self and hometown. Students can smoothly read graded readers. Students can write English emails, copy and attach files.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
Speaking	40%	Conversations will be recorded and graded			Writing, email, and	40%	Students must complete all homework assignments and writing assignments on time
Fluency reading	10%	Students will read graded readers and discuss them			NGSL test	10%	80% pass or fail
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do conversation exercises outside of class in both pairs and groups. There will be reading assignments, outside assignments, and email assignments.				If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email.			
教科書・テキスト	Conversations in Class (3rd Edition), Talandis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			受講生に望むこと	Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared at the beginning of class.		
参考書・参考資料等	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Basic English Communication (G4)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the first 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak and write about themselves and their hometown and read graded readers at their level smoothly.			
教授方法	Conversation models from the textbook will be practiced in class by students in pairs and in larger groups. There will be short individual presentations and group presentation activities. Students will be expected to do reading outside of class and be prepared to discuss these readings with other students. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and practice NGSL vocabulary.						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to Conversations in Class (Alma Publishing) and class goals; self-introductions						
2	Unit 1.1: Conversation about hometown; how to write an email; written introduction						
3	Unit 1.2: Majors, school years, and clubs; book club; Core Reading activity (1)						
4	Unit 1.3: Part-time jobs; short student presentations; writing (ideal future job)						
5	Unit 2.1: Group conversation about ideal jobs in the future; conversations about daily routines						
6	Unit 2.2: Conversations about how students spend their everyday time; first NGSL quiz; speaking test						
7	Unit 3.1: Introductions of student hometowns; Core Reading Activity (2)						
8	Unit 3.2: Students talk about where they would like to live in the future; book club						
9	Hobbies and enthusiasms; short assignment related to hobbies and enthusiasms (1); second NGSL quiz						
10	Unit 4.1: Conversation about travel experience; Core Reading Activity (3)						
11	Unit 4.2: Future travel plans; book and discussion activities						
12	Unit 4.3: Students plan trip in groups; travel writing assignment; mini presentation						
13	Group conversations about presentations; travel assignment; book club						
14	Conversation based on travel assignments; final class conversations						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
Speaking	40%	Conversations will be recorded and graded			Writing, email, and	40%	Students must complete all homework assignments and writing assignments on time
Fluency reading	10%	Students will read graded readers and discuss them			NGSL test	10%	80% pass or fail
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do conversation exercises outside of class in both pairs and groups. There will be reading assignments, outside assignments, and email assignments.				If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email.			
教科書・テキスト	Conversations in Class (3rd Edition), Talendis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			受講生に望むこと	Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared at the beginning of class.		
参考書・参考資料等	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Basic English Communication (G2)						
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the first 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak and write about themselves and their hometown and read graded readers at their level smoothly.			
教授方法	Students will have listening comprehension exercises, do pair practices for dialogues, and have group and class discussions in English. They will be asked to give presentations in English, and the teacher will give feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction, course overview, class policies and procedures						
2	It's nice to meet you. Let's get to know each other.						
3	Introducing yourself.						
4	Exchanging personal information and finding out about your classmates.						
5	Describing personal appearances and personalities						
6	People - Talking about your family and friends						
7	Mini-presentation about your family						
8	Free time - Talking about your hobbies and interests						
9	Daily activities. Describing your daily routine and schedules						
10	Talking about cities and recommending places						
11	Mini-presentation about your hometown						
12	Food and drink - Describing eating habits						
13	Food around the world - Describing traditional meals						
14	Review						
共通の評価基準							
Students can smoothly introduce self and hometown. Students can write about hometown. Students can smoothly read graded readers.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking & Listenin	40%	Speaking and listening activities and tests		Reading	10%	Students will read graded readers.	
Writing	40%	Writing and other assignments		NGSL test	10%	80% pass or fail	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to prepare and review lessons. They also need to study the first 700 words of the NGSL.				I will be available for students before and after class for questions and consultation.			
教科書・テキスト	Shogo Mitsutomi, My First TOEIC Test [New Version] (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-19-255-15473-2			受講生に望むこと	As students need to use their English-English dictionary in class, please bring it to every class. Mobile phone dictionaries are not allowed. The working language of the class will be English, and students are expected to have active participation in class discussions.		
参考書・参考資料等	The teacher will distribute other handouts as well. The teacher will supply students with a list of relevant and useful articles and books in class.			その他・特記事項	Welcome to the University of Nagano.		

授業科目	Basic English Communication (G5)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the first 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak and write about themselves and their hometown and read graded readers at their level smoothly.			
教授方法	Every class is active and will include speaking with classmates about textbook topics. There will activities to use and practice NGSL words every week. Writing will be taught by the process of examining a model, writing a draft, editing in pairs and then revising. Students learn to write emails to classmates and instructors in English.						
履修条件	No pre-requisites (特になし)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Self-introductions, class orientation, textbook orientation						
2	Unit: Let's get started, email writing						
3	Unit 1, NGSL, email writing						
4	Unit 1, Reading, Core Reading						
5	Unit 1, NGSL, Core Reading, email writing						
6	Unit 2, Reading, Core Reading						
7	Unit 2, NGSL, email writing						
8	Unit 2, Reading						
9	Unit 3, NGSL, email writing						
10	Unit 3, Reading						
11	Unit 4, NGSL						
12	Unit 4, Reading						
13	Unit 4, NSGL						
14	Course evaluation and review						
共通の評価基準							
Students can smoothly introduce self and hometown. Students can write English emails, copy, and attach files. Students can write about hometown. Students can smoothly read graded readers.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	Recorded speeches, conversations, and tests		Writing	40	Writing, email, and other assignments	
Reading	10	Fluency reading, book talk		Vocabulary	10	NGSL tests; final exam is 80% pass or fail	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students need to prepare and participate actively, both in class and before/after class.				Contact by contact form, email, or office hours			
教科書・テキスト	Conversations in Class (3rd Edition), Talendis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			受講生に望むこと	Students should be willing to speak in class, volunteer answers, and ask questions.		
参考書・参考資料等	Dictionary, notebook			その他・特記事項	Welcome to the University of Nagano!		

授業科目	Basic English Communication (G1)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the first 700 words of the NGSL.			Students will be able to speak and write about themselves and their hometown and read graded readers at their level smoothly.		
教授方法	Students will learn the basics of fluent English conversation techniques, extensive reading, practising vocabulary and ways to use technology to help with studies.				
履修条件	-				
<b>授 業 計 画</b>					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, classmates and textbook				
2	Unit 1.1, How to study the NGSL, introduction to fluency reading				
3	Unit 1.2, Conversations about major, year and clubs, Writing English emails				
4	Unit 1.3 Conversations about part-time jobs, Book Talk				
5	Unit 2.1, Conversations about daily routines, Writing English emails				
6	Unit 2.2 Conversations about class schedules, Introduce Core Reading				
7	Unit 2.3 Conversation recording, writing English emails				
8	Unit 3.1 Conversations about hometown, Book Talk				
9	Unit 3.2 Conversations about hometown, Book Talk, Writing English emails				
10	Unit 3.3 Conversations about future home, Core Reading assignment				
11	Unit 4.1, Conversations about travel, Book Talk				
12	Unit 4.2 Conversations about travel plans				
13	Unit 4.3, Conversations about planning a trip, Book Talk				
14	Review lesson				
<b>共通の評価基準</b>					
Student can smoothly introduce self and hometown. Students can write English emails, copy and attach files. Students can smoothly read graded readers.					
<b>成績評価方法と基準</b>					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	In-class conversations	Writing	40	English e-mail assignments and homework
Fluency reading	10	5 Book talk assignments	Vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
Students are expected to do one hour of homework for every class.			Students can contact the instructor via e-mail mision.miguel@u-nagano.ac.jp		
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015		受講生に望むこと	Willingness to communicate with others.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Basic English Communication (G6)						
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)				
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the first 700 words of the NGSL.			Students will be able to speak and write about themselves and their hometown and read graded readers at their level smoothly.				
教授方法	Students will learn the basics of fluent English conversation techniques, extensive reading, practising vocabulary and ways to use technology to help with studies.						
履修条件	-						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, classmates and textbook						
2	Unit 1.1, How to study the NGSL, introduction to fluency reading						
3	Unit 1.2, Conversations about major, year and clubs, Writing English emails						
4	Unit 1.3 Conversations about part-time jobs, Book Talk						
5	Unit 2.1, Conversations about daily routines, Writing English emails						
6	Unit 2.2 Conversations about class schedules, Introduce Core Reading						
7	Unit 2.3 Conversation recording, writing English emails						
8	Unit 3.1 Conversations about hometown, Book Talk						
9	Unit 3.2 Conversations about hometown, Book Talk, Writing English emails						
10	Unit 3.3 Conversations about future home, Core Reading assignment						
11	Unit 4.1, Conversations about travel, Book Talk						
12	Unit 4.2 Conversations about travel plans						
13	Unit 4.3, Conversations about planning a trip, Book Talk						
14	Review lesson						
共通の評価基準							
Student can smoothly introduce self and hometown. Students can write English emails, copy and attach files. Students can smoothly read graded readers.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	Recorded conversations		Writing	40	English email assignments and homework	
Fluency reading	10	5 Book talk assignments		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to do one hour of homework for every class.				Students can contact the instructor via e-mail mision.miguel@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015			受講生に望むこと	Willingness to communicate with others.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Basic English Communication (G7)						
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)				
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the first 700 words of the NGSL.			Students will be able to speak and write about themselves and their hometown and read graded readers at their level smoothly.				
教授方法	Students will learn the basics of fluent English conversation techniques, extensive reading, practising vocabulary and ways to use technology to help with studies.						
履修条件	-1						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, classmates and textbook						
2	Unit 1.1, How to study the NGSL, introduction to fluency reading						
3	Unit 1.2, Conversations about major, year and clubs, Writing English emails						
4	Unit 1.3 Conversations about part-time jobs, Book Talk						
5	Unit 2.1, Conversations about daily routines, Writing English emails						
6	Unit 2.2 Conversations about class schedules, Introduce Core Reading						
7	Unit 2.3 Conversation recording, writing English emails						
8	Unit 3.1 Conversations about hometown, Book Talk						
9	Unit 3.2 Conversations about hometown, Book Talk, Writing English emails						
10	Unit 3.3 Conversations about future home, Core Reading assignment						
11	Unit 4.1, Conversations about travel, Book Talk						
12	Unit 4.2 Conversations about travel plans						
13	Unit 4.3, Conversations about planning a trip, Book Talk						
14	Review lesson						
共通の評価基準							
Student can smoothly introduce self and hometown. Students can write English emails, copy and attach files. Students can smoothly read graded readers.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	40	recorded conversations		writing and other	40	English email assignments and homework	
fluency reading	10	Book Talk assignments		vocabulary	10	NGSL Test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to do one hour of homework for every class.				Students can contact the instructor via e-mail <a href="mailto:mision.miguel@u-nagano.ac.jp">mision.miguel@u-nagano.ac.jp</a>			
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015			受講生に望むこと	Willingness to communicate with others.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目		Foundations of English (G1)					
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の理解をさらに確かなものとするに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>ねらい ・英語を正確に運用する能力の土台を固める。 ・NGSL 第2段階の語彙力を身に付ける。</p> <p>到達目標 ・1つ1つの文(単文・複文)を正確に理解・産出することができる。 ・句や文を正確に聴解・発音することができる。 ・文章の要旨や構成を正しく理解することができる。 ・NGSL第2段階の700語を正しく運用することができる。</p>			
教授方法	基本的な事項について必要最低限の解説を行った上で、問題演習やグループワークを中心に授業を進めます。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Foundations of English Iの復習、英文法(形容詞句・節(1))						
2	NGSL学習(701-800)、英語音声(子音 43-46)、英文法(形容詞句・節(2))						
3	NGSL学習(801-900)、英語音声(子音 47-48)、Core Reading(1)						
4	NGSL小テスト(701-900)、英語音声(リズム 1)、英文法(形容詞句・節(3))						
5	英語音声(リズム 2)、Core Reading(2)						
6	NGSL学習(901-1000)、英語音声(イントネーション 1)、英文法(副詞句・節(1))						
7	NGSL学習(1001-1100)、英語音声(イントネーション 2)、英文法(副詞句・節(2))						
8	NGSL小テスト(901-1100)、英語音声(アクセント)、英文法(副詞句・節(3))						
9	前半のまとめ・復習(中間テストを含む)						
10	NGSL学習(1101-1200)、英語音声(音変化 1)、英文法(名詞句・節(1))						
11	NGSL学習(1201-1300)、NGSL小テスト、英語音声(音変化 2)、Core Reading(3)						
12	NGSL小テスト(1101-1300)、英語音声(音変化 3)、英文法(名詞句・節(2))						
13	NGSL学習(1301-1400)、英語音声(総復習)、Reading演習						
14	NGSL小テスト(1301-1400)、英文法(まとめと補足)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な会話や作文を英語で行うことが出来ているか。</li> <li>・英文の段落展開や筆者の主張を読み取ることが出来ているか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身につけ、実践することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	30	予習および課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。		中間・期末テスト	50	中間テスト(第9回)、期末テスト(試験期間)の得点により評価。	
NGSL小テスト	10	授業内で行うNGSL小テスト4回の平均得点により評価。		NGSL共通テスト	10	学期末のNGSL共通テストの成績により評価。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学習した発音や文法を繰り返し練習すること。</li> <li>・NGSLの語彙を継続的に学習すること。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後に直接声をかける、大学アカウントにメールを送る、または研究室(C104)を訪問してください。</li> </ul>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声：『英語の正しい発音の仕方(リズム・イントネーション編)』研究社</li> <li>・文法：プリント配布</li> <li>・読解：Core Reading (EPGM Student Handbookに掲載)</li> </ul>			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の予習・復習を欠かさず行うこと。</li> <li>・授業時の問題演習やグループワークに積極的に取り組むこと。</li> </ul>		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		



授業科目		Foundations of English (G7)					
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の理解をさらに確かなものとするに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語を正確に運用する能力の土台を固める。</li> <li>NGSL 第2段階の語彙力を身に付ける。</li> </ul> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1つ1つの文(単文・複文)を正確に理解・産出することができる。</li> <li>句や文を正確に聴解・発音することができる。</li> <li>文章の要旨や構成を正しく理解することができる。</li> <li>NGSL第2段階の700語を正しく運用することができる。</li> </ul>			
教授方法	基本的な事項について必要最低限の解説を行った上で、問題演習やグループワークを中心に授業を進めます。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Foundations of English Iの復習、英文法(形容詞句・節(1))						
2	NGSL学習(701-800)、英語音声(子音 43-46)、英文法(形容詞句・節(2))						
3	NGSL学習(801-900)、英語音声(子音 47-48)、Core Reading(1)						
4	NGSL小テスト(701-900)、英語音声(リズム 1)、英文法(形容詞句・節(3))						
5	英語音声(リズム 2)、Core Reading(2)						
6	NGSL学習(901-1000)、英語音声(イントネーション 1)、英文法(副詞句・節(1))						
7	NGSL学習(1001-1100)、英語音声(イントネーション 2)、英文法(副詞句・節(2))						
8	NGSL小テスト(901-1100)、英語音声(アクセント)、英文法(副詞句・節(3))						
9	前半のまとめ・復習(中間テストを含む)						
10	NGSL学習(1101-1200)、英語音声(音変化 1)、英文法(名詞句・節(1))						
11	NGSL学習(1201-1300)、NGSL小テスト、英語音声(音変化 2)、Core Reading(3)						
12	NGSL小テスト(1101-1300)、英語音声(音変化 3)、英文法(名詞句・節(2))						
13	NGSL学習(1301-1400)、英語音声(総復習)、Reading演習						
14	NGSL小テスト(1301-1400)、英文法(まとめと補足)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な会話や作文を英語で行うことが出来ているか。</li> <li>英文の段落展開や筆者の主張を読み取ることが出来ているか。</li> <li>英語の発音に関する基礎事項が身につけ、実践することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	30	予習および課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。		中間・期末テスト	50	中間テスト(第9回)、期末テスト(試験期間)の得点により評価。	
NGSL小テスト	10	授業内で行うNGSL小テスト4回の平均得点により評価。		NGSL共通テスト	10	学期末のNGSL共通テストの成績により評価。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で学習した発音や文法を繰り返し練習すること。</li> <li>NGSLの語彙を継続的に学習すること。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業後に直接声をかける。大学アカウントにメールを送る、または研究室(C104)を訪問してください。</li> </ul>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声：『英語の正しい発音の仕方(リズム・イントネーション編)』研究社</li> <li>文法：プリント配布</li> <li>読解：Core Reading (EPGM Student Handbookに掲載)</li> </ul>			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の予習・復習を欠かさず行うこと。</li> <li>授業時の問題演習やグループワークに積極的に取り組むこと。</li> </ul>		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Foundations of English (G3)				
担当教員	高梨 良夫		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
<p>英文法の理解をさらに確実なものにすることに加えて、英語の文章における段落の展開や、著者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正しく発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>			<p>英語を正確に運用するための能力の土台を固める。NGSL第2段階の語彙力を身に付ける。特に英文読解力、文法・作文力を身に付けることを目標にする。</p>		
教授方法	Reading, Listening 中心の Across Cultures と Syntax, Writing 中心の Basic Skills in English の2種類のテキストを使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。また英語の音声に慣れ、発音の基礎を学ぶ。				
履修条件	特になし。				
<b>授 業 計 画</b>					
実施回	授業内容				
1	Across Cultures, Chapter 1: Whose English? Baic Skills in English, Chapter 12: 副詞句(2)、副詞の種類				
2	Chapter 2: "My Mother Isn't Well, Sir" Chapter 13: 副詞句(3)、分詞構文、部分否定				
3	Chapter 3: Your Variety Is Better Than Mine Chapter 14: 句と節、等位接続詞、等位節、相関接続詞				
4	Chapter 4: What Is the Culture of English? Chapter 15: 主節と従節、文の構造の種類 単文・重文・複文、名詞節(1)				
5	Chapter 5: Where Should I Go to Learn English? Chapter 16: 名詞節(2)、形式主語・形式目的語の it と that 節、強調構文の it ... that 等、非人称構文 it seems that 等				
6	Chapter 6: Writing Extremely Short Stories Chapter 17: 時制の一致、時制の一致に従わない場合、直接話法と間接話法				
7	Chapter 7: Who Makes the Best English Teachers? Chapter 18: 関係代名詞、関係副詞				
8	Chapter 8: English Is an Asian Language! Chapter 19: 前置詞+関係代名詞、関係詞の省略、制限用法と非制限用法、an, but、関係形容詞				
9	Chapter 9: What Is My First Language? Chapter 20: 時を表す節、場所を表す節、理由・原因を表す節				
10	Chapter 10: What Does It Mean to Be Bilingual? Chapter 21: 比較を表す節、比例を表す節、対照を表す節				
11	Chapter 11: When Should We Learn English? Chapter 22: 様態を表す節、譲歩を表す節				
12	Chapter 12: "You Said So!" "No, We Don't" Chapter 23: 目的を表す節、結果を表す節				
13	Chapter 13: What Do People Talk About? Chapter 24: 条件・仮定を表す節等				
14	Chapter 14: Japanese Schools, English Classes and Stereotypes: An Informal Account of a Recent Visit to Japanese Schools 総復習				
<b>共通の評価基準</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することができるか。</li> <li>・文の構造や文と文のつながりを読み取ることができるか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身に付いているか。</li> </ul>					
<b>成績評価方法と基準</b>					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業への参加・意欲	35%	授業への積極的な参加意欲・態度、出席状況、提出物などを評価の対象にします。	期末テスト	50%	授業内容全般に関する理解を問う問題を出題し、理解度を評価の対象にします。
NGSL	10%	NGSL第2段階の語彙テストの成績	e-learning	5%	e-learning の成績評価については配布プリント参照
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
予習・復習をして授業に臨む。NGSL と e-learning については、試験準備は原則として各自の自習とします。			何時でも質問・相談に応じます。メール可。		
教科書・テキスト	Nobuyuki Honna, Across Cultures: For Better English Communication and Understanding (三修社) Kenichi Tamoto, Simon Sanada, Basic Skills in English (成美堂)		受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介します。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目		Foundations of English (G5)					
担当教員		高梨 良夫		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
英文法の理解をさらに確実なものにすることに加えて、英語の文章における段落の展開や、著者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるための訓練を行う。				英語を正確に運用するための能力の土台を固める。NGSL第2段階の語彙力を身に付け、特に英文読解力、文法・作文力を身に付けることを目標とする。			
教授方法	Reading, Listening 中心の Across Cultures と Syntax, Writing 中心の Basic Skills in English の2種類のテキストを使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercices などに取り組んでもらう。また英語の音声に慣れ、発音の基礎を学ぶ。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Across Cultures, Chapter 1: Whose English? Basic Skills in English: Chapter 12: 副詞句(2)、副詞の種類						
2	Chapter 2: "My Mother Isn't Well, Sir" Chapter 13: 副詞句(3)、分詞構文、部分否定						
3	Chapter 3: Your Variety Is Better Than Mine Chapter 14: 句と節、等位接続詞、等位節、相関接続詞						
4	Chapter 4: What Is the culture of English? Chapter 15: 主節と従節、文の構造の種類 単文・重文・複文、名詞節(1)						
5	Chapter 5: Where Should I Go to Learn English? Chapter 16: 名詞節(2)、形式主語・形式目的語の it と that 節、強調構文の it ... that 等、非人称構文 it seems that 等						
6	Chapter 6: Writing Extremely Short Stories Chapter 17: 時制の一致、時制の一致に従わない場合、直接話法と間接話法						
7	Chapter 7: Who Makes the Best English Teachers? Chapter 18: 関係代名詞、関係副詞						
8	Chapter 8: English Is an Asian Language! Chapter 19: 前置詞+関係代名詞、関係詞の省略、制限用法と非制限用法、as, but、関係形容詞						
9	Chapter 9: What Is My First Language? Chapter 20: 時を表す節、場所を表す節、原因・理由を表す節						
10	Chapter 10: What Does It Mean to Be Bilingual? Chapter 21: 比較を表す節、比例を表す節、対照を表す節						
11	Chapter 11: When Should We Learn English? Chapter 22: 様態を表す節、譲歩を表す節						
12	Chapter 12: "You Said So!" "No, We Don't" Chapter 23: 目的を表す節、結果を表す節						
13	Chapter 13: What Do People Talk About? Chapter 24: 条件・仮定を表す節						
14	Chapter 14: Japanese Schools, English Classes and Stereotypes: An Informal Account of Recent Visit to Japanese Schools 総復習						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することができているか。</li> <li>・文の構造や文と文のつながりを読み取ることができているか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身についているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加意欲・態度	35%	授業への積極的な参加意欲・態度、出席状況、提出物などを評価の対象とします。		期末テスト	50%	授業内容全般に関する理解を問う問題を出題し、理解度を評価の対象とします。	
NGSL	10%	NGSL第2段階の語彙テストの成績		e-learning	5%	e-learning の成績評価については配布プリント参照	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習・復習をして授業に臨む。NGSL と e-learning については、試験準備については原則として各自の自習とします。				何時でも質問・相談に応じます。メール可。			
教科書・テキスト	Nobuyuki Honna, Across Cultures: For Better English Communication and Understanding (三修社) Kenichi Tamoto, Simon Sanada, Basic Skills in English (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介します。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		Foundations of English (G6)					
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の理解をさらに確実なものにすることに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>英語を正確に運用する能力の土台を固める / NGSL 第2段階の語彙力を身に付ける。特に、複文ですばやく状況説明できる、および、一部の音変化を自然に実践できるようになることを目標とする。</p>			
教授方法	事前のテキスト学習によるインプットおよび授業内アウトプット活動によるフリップラーニング、アクティブラーニングを実践する						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス: シラバス、テキスト2冊『English Grammar in Use (EGU)』と『Essential Listening Skills』(ELS)、学習方法等の説明、セルフチェックテスト						
2	[文法] 『EGU』 Unit 47-48と69-73, [音声] 『ELS』Unit 1の後半						
3	[文法] 『EGU』 Unit 74-81, [音声] 『ELS』Unit 2, 3の後半						
4	[文法] 『EGU』 Unit 82-86, [音声] 『ELS』Unit 4, 5の後半						
5	[文法] 『EGU』 Unit 87-91, [音声] 『ELS』Unit 6の後半						
6	[文法] 『EGU』 Unit 92-97, [音声] 『ELS』Unit 7の後半						
7	[文法] 『EGU』 Unit 98-105, [音声] 『ELS』Unit 8の後半						
8	小テスト1と解説: 『EGU』 Unit 47-48と69-105、および、『ELS』Unit 1-8の各ユニットの後半、NGSL701-1050、2Q_Core Reading前半を範囲						
9	[文法] 『EGU』 Unit 106-112, [音声] 『ELS』Unit 9の後半						
10	[文法] 『EGU』 Unit 113-120, [音声] 『ELS』Unit 10, 11の後半						
11	[文法] 『EGU』 Unit 121-128, [音声] 『ELS』Unit 12, 13の後半						
12	[文法] 『EGU』 Unit 129-136, [音声] 『ELS』Unit 14の後半						
13	[文法] 『EGU』 Unit 137-145, [音声] 『ELS』Unit 15の後半						
14	小テスト2と解説: 『EGU』 Unit 121-145、および、『ELS』Unit 9-15の各ユニットの後半、NGSL1051-1400、2Q_Core Reading後半を範囲						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な会話や作文を英語で行うことが出来ているか。</li> <li>・英文の段落展開や筆者の主張を読み取ることが出来ているか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身につけ、実践することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
平常点	10	授業内発言及びオンライン投稿による貢献度を測る		小テスト	50	授業内テスト2回で学習した項目を正確に運用できる理解力を測る	
定期試験(筆記)	30	学習した項目を応用できる表現力を測る		NGSL	10	NGSL共通試験において対象語彙の習熟度を測る	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された教科書の問題を解き、事後学習として反復練習および応用練習が求められる。適宜、学習成果をOneNote(デジタルポートフォリオ)に管理することが求められる。</p>				<p>大学のOffice365アカウントから、EmailまたはTeams/Skype for Businessで連絡をください。また、学内オフィスC105にて、簡単な質問は随時、面談はアポイントメントを設定したうえで、受け付けます。</p>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ English Grammar in Use with answers, 5th Ed. (Murphy, R., Cambridge University Press, 2019)</li> <li>・ 音のルールから学ぶ大学生のリスニングドリル 資格試験対応 [Essential Listening Skills] (船田秀佳, 朝日出版社, 2020) 【以上2冊】</li> </ul>			受講生に望むこと	正確に英文を書けるようになることを目指しましょう。		
参考書・参考資料等	OneNoteにアップされている文法および音声に関する資料を活用すること			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Foundations of English (G4)						
担当教員	高野 弘子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の理解をさらに確かなものとするに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>英語を正確に運用する能力の土台を固める。/ NGSL第2段階の語彙力を身に付ける。特に、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音などを含む、総合的タスクに積極的に取り組むことを通して、英語の知識を増強し、英語を使用する能力を伸ばすことを目標とする。</p>			
教授方法	個別、ペアワーク、グループワークによる授業。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、課題、評価方法について確認する。						
第2回	Unit 4 Giving recipe						
第3回	Unit 4 Ordering a meal and talking about diets						
第4回	Unit 4 Discuss unusual food						
第5回	Unit 4 Video journal & Review test						
第6回	Unit 5 Describing and comparing activities						
第7回	Unit 5 Talking about favorite sports						
第8回	Unit 5 Discussing adventures						
第9回	Unit 5 Video journal & Review test						
第10回	Unit 6 Discussing past vacations						
第11回	Unit 6 Describing personal experience						
第12回	Unit 6 Describing a discovery from the past						
第13回	Unit 6 Video jornal & Review test						
第14回	Unit 4 ~ 6 TED Talks						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な会話や作文を英語で行うことが出来ているか。</li> <li>・英文の段階展開や筆者の主張を読み取ることが出来ているか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身につく、実践することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末テスト	40	授業で学習した内容が身についたか。			小テスト	30	各単元で学習した内容が身についたか。
宿題	20	授業で学習した内容を復習できたか。			NGSL	10	NGSLの語彙力が定着できたか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
宿題は必ず行うこと。				授業前後に対応する。			
教科書・テキスト	World English 1B (Second Edition), Cengage Learning			受講生に望むこと	英語辞典を持参すること。(電子辞書可)		
参考書・参考資料等	授業中に必要に応じて提示する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Foundations of English (G2)						
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の理解をさらに確実なものにすることに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることを出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL 第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>英語を正確に運用する能力 [accuracy]の基礎を身に付ける / NGSL 第1段階の語彙力を身に付ける。特に、正しい発音で音読することができ、また文法を熟知したうえで実践的に英語を使うことができることを目標とする。</p>			
教授方法	正しい発音を学び、ペアで音読練習をする。文法を確認してから、読み物をとおしてその文法の使い方を深めたり、実際に書くことなどに取り組む。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	発音練習 / Lesson 8 (Readings 1&2)						
2	発音練習 / Lesson 8 (Readings 3&4)						
3	Quiz 1 / 発音練習 / Lesson 9 (Readings 1&2)						
4	発音練習 / Lesson 9 (Readings 3&4)						
5	Quiz 2 / 発音練習 / Lesson 10 (Readings 1&2)						
6	Quiz 3 / 発音練習 / Lesson 11 (Readings 1&2)						
7	発音練習 / Lesson 11 (Reading 3)						
8	Quiz 4 / 発音練習 / Lesson 12 (Readings 1&2)						
9	発音練習 / Lesson 12 (Readings 3&4)						
10	Quiz 5 / 発音練習 / Lesson 13 (Readings 1&2)						
11	発音練習 / Lesson 13 (Reading 3)						
12	Quiz 6 / 発音練習 / Lesson 14 (Readings 1&2)						
13	発音練習 / Lesson 14 (Reading 3)						
14	Quiz 7 / 発音練習(復習) / Lessons 8~14 (総復習)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な会話や作文を英語で行うことが出来ているか。</li> <li>・英文の段落展開や筆者の主張を読み取ることが出来ているか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身につけ、実践することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
期末試験	50	文法の理解度や短文の作文の完成度などに応じて評価する。	発音	10	正しい発音をすることがどの程度できるかにより評価する。		
小テスト	30	文法や語彙に関する小テストを行い、理解度に応じて評価する。	NGSL	10	学期末共通試験の理解度に応じて評価する。		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>事前学習：音読(1)内容を考えながらゆっくり読む。 (2)次に発音を意識してゆっくり読む。 小テストの準備、読み物および文法項目の熟読。 事後学習：発音練習、文法の見直し。</p>				<p>非常勤講師控室に来てください(火曜日と金曜日のお昼休み)。または、メールで問い合わせること。メールアドレスは後日、知らせます。</p>			
教科書・テキスト	*1学期のテキストを引き続き使います。 『増補改訂版 英語発音・聴き取りの基礎』(朝日出版社、2016年) Grammar in Context 2, 6th edition (Cengage Learning, 2016)			受講生に望むこと	普段からなるべく英語にふれる機会をつくるようにしましょう(新聞、音楽、映画など)。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず辞書を持参すること(電子辞書可)。</li> <li>・遅刻しないこと(20分を超えたら欠席とします)。</li> <li>・遅刻や欠席した場合など、小テストの再試験は実施しません。</li> </ul>		

授業科目	Basic English Communication (G3)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country and culture, and opinions. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the second 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak about their lifestyle and opinions, write paragraphs about their own experiences, and read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1.			
教授方法	Conversation models from the textbook will be practiced in class by students in pairs and in larger groups. Students use textbook material to talk with classmates, do writing activities, read easy-to-read books, and practice vocabulary. Students will be expected to do reading outside of class and be prepared to discuss these readings with other students. There will also be writing activities related to discussion activities. A variety of activities will give students the opportunity to use their NGSL vocabulary in class.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to Quarter 2; introduction to NGSL 701-1400; Unit 5.1; Introduce MReader						
2	Unit 5.2: Conversation about free time; mind maps for paragraph writing						
3	Unit 5.3: Group conversations related to likes and dislikes; students practice language patterns related to opinions; writing activity						
4	Unit 6.1: Conversations about music; song lyrics; Core Reading activity						
5	Unit 6.2: Conversations about movies, TV, games, manga or other media; students write short Amazon review and share						
6	Unit 6.3: Book club; Core Reading activity (the habits of successful people)						
7	Conversation tests and student discussion; writing topic sentences in a paragraph						
8	Unit 7.1: Conversation about favorite and least favorite foods; group research project about food history						
9	Unit 7.2: Group research project presentations; group research project involving food cultures of the world; paragraph writing activity						
10	Unit 7.3: Group research project presentations about world food cultures						
11	Unit 8.1: Students talk about their near-future plans						
12	Unit 8.2: Conversations about life issues; clothes and culture						
13	Unit 8.3: Clothes and culture (2)						
14	NGSL review; conversation activities; class wrap-up						
共通の評価基準							
Students can smoothly describe elements of their culture and ask about another's culture. Students can write an essay describing an element of their culture. Students will be able to smoothly read graded readers at a higher level than 1st quarter.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	Conversations and presentations will be recorded and graded			Writing and other	40	1-paragraph paper and 2-paragraph typed paper, plus other assignments
Fluency reading	10	Students will read graded readers and take tests			NGSL test	10	80% pass or fail
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do conversation exercises outside of class in both pairs and groups. Students must complete homework and writing assignments on time or there will be penalties.				If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email.			
教科書・テキスト	Conversations in Class (3rd Edition), Talandis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			受講生に望むこと	Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared at the beginning of class.		
参考書・参考資料等	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			その他・特記事項	—		

授業科目	Basic English Communication (G4)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country and culture, and opinions. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the second 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak about their lifestyle and opinions, write paragraphs about their own experiences, and read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1.			
教授方法	Conversation models from the textbook will be practiced in class by students in pairs and in larger groups. Students use textbook material to talk with classmates, do writing activities, read easy-to-read books, and practice vocabulary. Students will be expected to do reading outside of class and be prepared to discuss these readings with other students. There will also be writing activities related to discussion activities. A variety of activities will give students the opportunity to use their NGSL vocabulary in class.						
履修条件	-						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to Quarter 2; introduction to NGSL 701-1400; Unit 5.1; Introduce MReader						
2	Unit 5.2: Conversation about free time; mind maps for paragraph writing						
3	Unit 5.3: Group conversations related to likes and dislikes; students practice language patterns related to opinions; writing activity						
4	Unit 6.1: Conversations about music; song lyrics; Core Reading activity						
5	Unit 6.2: Conversations about movies, TV, games, manga or other media; students write short Amazon review and share						
6	Unit 6.3: Book club; Core Reading activity (the habits of successful people)						
7	Conversation tests and student discussion; writing topic sentences in a paragraph						
8	Unit 7.1: Conversation about favorite and least favorite foods; group research project about food history						
9	Unit 7.2: Group research project presentations; group research project involving food cultures of the world; paragraph writing activity						
10	Unit 7.3: Group research project presentations about world food cultures						
11	Unit 8.1: Students talk about their near-future plans						
12	Unit 8.2: Conversations about life issues; clothes and culture						
13	Unit 8.3: Clothes and culture (2)						
14	NGSL review; conversation activities; class wrap-up						
共通の評価基準							
Students can smoothly describe elements of their culture and ask about another's culture. Students can write an essay describing an element of their culture. Students will be able to smoothly read graded readers at a higher level than 1st quarter.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	Conversations and presentations will be recorded and graded		Writing and other	40	1-paragraph paper and 2-paragraph typed paper, plus other assignments	
Fluency reading	10	Students will read graded readers and take tests		NGSL test	10	80% pass or fail	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do conversation exercises outside of class in both pairs and groups. Students must complete homework and writing assignments on time or there will be penalties.				If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email.			
教科書・テキスト	Conversations in Class (3rd Edition), Talandis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			受講生に望むこと	Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared at the beginning of class.		
参考書・参考資料等	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			その他・特記事項	—		



授業科目	Basic English Communication (G2)						
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country, culture and opinions. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the second 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak and write about their own culture and other people's culture, and read graded readers smoothly at a higher level than 1st quarter.			
教授方法	Students will have listening comprehension exercises, do pair practices for dialogues and have group and class discussions in English. Students will be asked to give presentations in English, and the teacher will give feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction						
2	Travel and tourism - Describing past trips and discussing famous places						
3	Mini-presentation about your most memorable trip						
4	Talking about your own country and culture						
5	Mini-presentation about important festivals in your country						
6	Famous people - Talking about celebrities and their achievements						
7	How do I get there? Asking for and giving directions.						
8	Health - Discussing healthy lifestyles						
9	Good advice - Discussing problems and giving advice						
10	Occupations - Talking about types of jobs, job skills and qualifications						
11	Discussing your ambitions and future plans						
12	Mini-presentation about your future						
13	Mini-presentation about your summer holiday						
14	Review						
共通の評価基準							
Students can smoothly describe elements of their culture and ask about another's culture. Students can write an essay describing an element of their culture. Students will be able to smoothly read graded readers at a higher level than 1st quarter.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking & Listenin	40%	I will evaluate students' listening and speaking skills of English.		Reading	10%	Students will read graded readers.	
Writing	40%	Writing and other assignments		NGSL test	10%	80% pass or fail	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to prepare and review lessons. They also need to study the second 700 words of the NGSL.				I will be available for students before and after class for questions and consultation.			
教科書・テキスト	Shogo Mitsutomi, My First TOEIC Test [New Version] (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-19-255-15473-2			受講生に望むこと	As students need to use their English-English dictionary in class, please bring it to every class. Mobile phone dictionaries are not allowed. The working language of the class will be English, and students are expected to have active participation in class discussions.		
参考書・参考資料等	The teacher will distribute other handouts as well. The teacher will supply students with a list of relevant and useful articles and books in class.			その他・特記事項	-		

授業科目	Basic English Communication (G5)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country and culture, and opinions. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the second 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak and write about their own culture and other people's culture, and read graded readers smoothly at a higher level than 1st quarter.			
教授方法	Every class will be active and include speaking with classmates about textbook topics. There will activities to use NGSL words every week. Writing will be taught by the process of examining a model, writing a draft, editing in pairs and then revising.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Quarter 2 introduction, class orientation, NGSL, textbook, M-reader						
2	Unit 5, Reading, mind maps						
3	Unit 5, NGSL						
4	Unit 5, Core Reading 2						
5	Unit 6, NGSL						
6	Unit 6, Reading, Core Reading 2						
7	Unit 6, NGSL, Core Reading 2						
8	Unit 7, Reading						
9	Unit 7, NGSL						
10	Unit 7, Reading						
11	Unit 8, NGSL						
12	Unit 8, Reading						
13	Unit 8, NGSL						
14	Course evaluation and review						
共通の評価基準							
Students can smoothly describe elements of their culture and ask about another's culture. Students can write English paragraphs and type a 2-paragraph paper. Students will be able to smoothly read graded readers at a higher level than 1st quarter.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	Recorded speeches, conversations, and tests		Writing	40	1-paragraph and 2-paragraph writing and other assignments	
Reading	10	Fluency reading (MReader)		Vocabulary	10	NGSL tests; final exam is 80% pass/fail	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students need to prepare and participate actively, both in class and before/after class.				Contact by contact form, email, or office hours			
教科書・テキスト	Conversations in Class (3rd Edition), Talandis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			受講生に望むこと	Students should be willing to speak in class, volunteer answers, and ask questions.		
参考書・参考資料等	Dictionary, notebook			その他・特記事項	-		

授業科目	Basic English Communication (G1)						
担当教員	Miguel Alberto Mision			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country and culture, and opinions. They will learn to write paragraph and write two papers describing an event and a place. They will increase their reading ability by reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the second 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak about their lifestyle and opinions, write paragraphs about their own experiences, and read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	Unit 5.1, Introduce MReader						
2	Unit 5.2 Group conversations about free time, Mind maps for paragraph writing						
3	Unit 5.3 Group conversations about likes and dislikes, writing activity						
4	Unit 6.1 Conversations about music, Introduce Core Reading						
5	Unit 6.2 Conversation about movies, TV, games, and other media						
6	Unit 6.3 Core Reading assignment						
7	Conversation tests, writing topic sentences in a paragraph						
8	Unit 7.1 Conversation about foods						
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity						
10	Unit 7.3 Conversations on food culture						
11	Unit 8.1 Conversation about near-future plans						
12	Unit 8.2 Conversations about life issues						
13	Unit 8.3 NGSL review						
14	Conversation recordings						
共通の評価基準							
Student can smoothly converse about elements of their culture and lifestyle. Students can write English paragraphs and type a 2-paragraph paper. Students can smoothly read graded readers at a higher level than Quarter 1.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	recorded conversations		writing and other	40	a 1-paragraph paper and a 2-paragraph typed paper	
fluency reading	10	read extensively and prove it on MReader		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to do one hour of homework for every class.				Students can contact the instructor via e-mail mision.miguel@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015			受講生に望むこと	Willingness to communicate with others.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Basic English Communication (G6)						
担当教員	Miguel Alberto Mision			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country and culture, and opinions. They will learn to write paragraph and write two papers describing an event and a place. They will increase their reading ability by reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the second 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak about their lifestyle and opinions, write paragraphs about their own experiences, and read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	Unit 5.1, Introduce MReader						
2	Unit 5.2 Group conversations about free time, Mind maps for paragraph writing						
3	Unit 5.3 Group conversations about likes and dislikes, writing activity						
4	Unit 6.1 Conversations about music, Introduce Core Reading						
5	Unit 6.2 Conversation about movies, TV, games, and other media						
6	Unit 6.3 Core Reading assignment						
7	Conversation tests, writing topic sentences in a paragraph						
8	Unit 7.1 Conversation about foods						
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity						
10	Unit 7.3 Conversations on food culture						
11	Unit 8.1 Conversation about near-future plans						
12	Unit 8.2 Conversations about life issues						
13	Unit 8.3 NGSL review						
14	Conversation recordings						
共通の評価基準							
Student can smoothly converse about elements of their culture and lifestyle. Students can write English paragraphs and type a 2-paragraph paper. Students can smoothly read graded readers at a higher level than Quarter 1.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	40	recorded conversations		writing and other	40	a 1-paragraph paper and a 2-paragraph typed paper	
fluency reading	10	read extensively and prove it on MReader		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to do one hour of homework for every class.				Students can contact the instructor via e-mail miguel.mision@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015			受講生に望むこと	Willingness to communicate with others		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Basic English Communication (G7)						
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)				
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country and culture, and opinions. They will learn to write paragraph and write two papers describing an event and a place. They will increase their reading ability by reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the second 700 words of the NGSL.			Students will be able to speak about their lifestyle and opinions, write paragraphs about their own experiences, and read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1.				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	Unit 5.1, Introduce MReader						
2	Unit 5.2 Group conversations about free time, Mind maps for paragraph writing						
3	Unit 5.3 Group conversations about likes and dislikes, writing activity						
4	Unit 6.1 Conversations about music, Introduce Core Reading						
5	Unit 6.2 Conversation about movies, TV, games, and other media						
6	Unit 6.3 Core Reading assignment						
7	Conversation tests, writing topic sentences in a paragraph						
8	Unit 7.1 Conversation about foods						
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity						
10	Unit 7.3 Conversations on food culture						
11	Unit 8.1 Conversation about near-future plans						
12	Unit 8.2 Conversations about life issues						
13	Unit 8.3 NGSL review						
14	Conversation recordings						
共通の評価基準							
Student can smoothly converse about elements of their culture and lifestyle. Students can write English paragraphs and type a 2-paragraph paper. Students can smoothly read graded readers at a higher level than Quarter 1.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	40	recorded conversations		writing and other	40	a 1- paragraph paper and a 2-paragraph typed paper	
fluency reading	10	read extensively and prove it on MReader		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to do one hour of homework for every class				Students can contact the instructor via e-mail mision.miguel@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015			受講生に望むこと	Willingness to communicate with others.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Comprehensive English (G2)						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自主学習を通じて、NGSL第3段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>やや高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用するための基礎的な訓練を行う。また、NGSL第3段階の語彙力を身に付ける。特にやや高度な英文読解力・リスニング力・ライティング力を身に付けることを目標とする。</p>			
教授方法	異文化理解や異文化コミュニケーションについての英文テキスト Exploring Hidden Cultures を使用する。学生を主体にした演習形式で英文の読解、Listening の訓練、Exerciceses を行う。一つの Unit を前後に分けて2回行う。また英文表現用のテキスト Good Japanese into Good English を用いて Writing に取り組み、自分の意見を英語でまとめる訓練を行う。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション Exploring Hidden Culture, Part 1 Basics of Culture 1: Cultural Patterns (前半)、英語ニュース						
2	Cultural Patters (後半) Good Japanese into Good English, : 主題の選び方						
3	2: The Physical Environment (前半) : 英語特有の主語構文						
4	The Physical Environment (後半) : 名詞と冠詞の生かし方						
5	3: Religion (前半) : 表現を豊かにする形容詞						
6	Religion (後半) V: 動詞の文型(1)						
7	4: Politics (前半) : 動詞の文型(2)						
8	Politics (後半) ~ の復習						
9	Part 2: Cultural Snapshots, 5: Authority (前半) : 自動詞か他動詞か						
10	Authoruty (後半) : 使役動詞の使い方						
11	6: Time (前半) : 日本語・英語の違い						
12	Time (後半) : 助動詞による英語の発想						
13	7: Diversity (前半) : 和文英訳と英語の時制						
14	Diversity (後半) ~ の復習						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや高度な英文を正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英語で述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英文で表現することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加意欲・態度	35%	授業への積極的な参加意欲・態度、出席状況・提出物などを評価などの対象にします。		期末試験	50%	授業内容全般に関する理解を問う問題を出題し、理解度を評価の対象にします。	
語彙テスト	10%	NGSL第3段階の語彙力テストの成績		e-learning	5%	e-learning の成績評価については配布プリント参照。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習、復習をして授業に臨む。NGSL と e-learning については、試験準備は原則として各自の自習とします。				何時でも質問や相談に応じます。メール可。			
教科書・テキスト	Paul Stapleton, Exploring Hidden Culture: Deeper Values and Differences between Japan and North America (金星堂) 長谷川潔、Good Japanese into Good English (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介します。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Comprehensive English (G7)						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自主学習を通じて、NGSL第3段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>やや高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用するための基礎的な訓練を行う。また、NGSL第3段階の語彙力を身に付ける。特にやや高度な英文読解力・リスニング力・ライティング力を身に付けることを目標とする。</p>			
教授方法	衛星放送で放映された日本に関する時事的問題を扱っている英文テキスト NHK Newsline を使用する。学生を主体にした演習形式で、DVDの映像で内容を確認してから Exercises に取り組み、英文の精読を行う。一つの Unit を前後に分けて2回行う。また 英文表現用のテキスト Basic Skills in English を用いて Writing に取り組み、自分の意見を英語でまとめる訓練を行う。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション NHK Newsline, Unit 1: Tea for You (前半)、英語ニュース						
2	Tea for You (後半) Basic Skills in English, Chapter 1: 8 品詞、第1文型、第12文型、肯定文と否定文						
3	Unit 2: Small is Beautiful (前半) Chapter 2: 第3文型、前置詞の目的語、動詞の過去形、未来時制						
4	Small is Beautiful (後半) Chapter 3: 平叙文、命令文、疑問文、感嘆文						
5	Unit 3: Youth Trip for Mutual Understanding (前半) Chapter 4: 第4文型、進行形、現在完了、過去完了、能動態と受動態						
6	Youth Trip for Mutual Understanding (後半) Chapter 5: 第5文型、第5文型の受動態、形容詞の二用法						
7	Unit 4: Building a Language Bridge (前半) Chapter 6: 名詞の種類、準動詞、名詞句(1)、動詞の目的語ー不定詞か動名詞か						
8	Building a Language Bridge (後半) Chapter 1~Chapter 6 の復習						
9	Unit 5: Sizzle and the City (前半) Chapter 7: 形式主語と形式目的語、名詞句(2)、代名詞の種類、非人称の it						
10	Sizzle and the City (後半) Chapter 8: 形容詞句(1)、形容詞の種類、冠詞、形容詞の位置						
11	Unit 6: Summer Spooks (前半) Chapter 9: 形容詞句(2)、知覚動詞・使役動詞+目的語+準動詞、知覚動詞・使役動詞の受動態						
12	Summer Spooks (後半) Chapter 10: 準動詞の完了と受動態、形容詞、副詞の比較変化						
13	Unit 7: Hitmaker (前半) Chapter 7~Chapter 10 の復習						
14	Hitmaker (後半) 総復習						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや高度な英文を正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英語で述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英文で表現することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加意欲・態度	35%	授業への積極的な参加意欲・態度、出席状況、提出物などを評価の対象にします。		期末テスト	50%	授業内容全般についての理解を問う問題を出題し、理解度を評価の対象にします。	
語彙テスト	10%	NGSL第3段階の語彙力テストの成績		e-learning	5%	e-learning の成績評価については配布プリント参照	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習、復習をして授業に臨む。NGSL と e-learning については、試験準備は原則として各自の自習とします。				何時でも質問や相談に応じます。メール可。			
教科書・テキスト	Tetsuroh Yamazaki, NHK Newsline (金星堂) Kenichi Tamoto, Simon Sanada, Basic Skills in English (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介します。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Comprehensive English (G1)					
担当教員	富田 裕子		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。更には、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>			<p>やや高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用するための基礎的な訓練を行う。またNGSL第3段階の語彙力を身に付ける。特に2年次の海外プログラムに備えて、リスニングやスピーキングの基礎力を身に付けるための訓練を行い、英語のプレゼンテーションの簡単なやり方も学習してもらおうのが主な目標である。</p>			
教授方法	授業は演習形式で、授業の前半は、テキストを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認し、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くことも伝授する。					
履修条件	特になし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	ガイダンス(自己紹介、授業の進め方、学習方法、評価方法を説明する。)					
2	Textbook Unit 1 と イギリス英語とアメリカ英語の違いを学ぶ。					
3	Textbook Unit 2 と 英国紹介についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)					
4	Textbook Unit 3 と 英語のプレゼンテーションのやり方を説明する。					
5	Textbook Unit 4 と 日本紹介についてのグループプレゼンテーション					
6	Textbook Unit 5 と 英国の大学についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)					
7	Textbook Unit 6 と 日本の大学についてのグループプレゼンテーション					
8	Textbook Unit 7 と 英国の教育制度についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)					
9	Textbook Unit 8 と 英国並びに日本の教育制度の長所と短所についてのグループプレゼンテーション					
10	Textbook Unit 9 と 英国の肥満問題についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)					
11	各受講生が今学期に選んだ多読用の本の内容についてのプレゼンテーション					
12	強制婚についての記事の講読(内容確認と英語によるプレゼンテーション)					
13	日本の結婚問題についてのグループプレゼンテーション					
14	総括					
共通の評価基準						
<p>やや高度な英文を正しく読むことが出来ているか。  自分の意見を英語で述べる事が出来ているか。  自分の意見を英文で表現することが出来ているか。</p>						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
定期試験(筆記)	40%	授業で学んだことがどの程度習得されているかを確認するための試験で、その点数によって評価する。	英語によるプレゼンテーション	30%	グループ並びに個人のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。	
授業貢献、提出物、小テスト	15%	提出物、小テストの得点によって評価する。	上記以外の授業評価	15%	NGSL10%とe-learning 5% 学期末に行われるNGSL共通試験に80%以上で合格となる。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応			
<p>毎回、教員から授業中に出された課題にしっかり取り組むこと。  予習を十分してから授業に臨むこと。  授業後も復習を最低1時間はすること。</p>			質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>Shogo Mitsutomi &amp; Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2</li> <li>John H. Randle &amp; Atsushi Mukuhira, Britain at a Watershed (Tokyo: Seibido, 2018). ISBN978-4-7919-3415-7</li> </ul>		受講生に望むこと	<p>受講生の積極的な授業参加を期待する。  毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。(電子辞書可)  スマートフォンや携帯電話は授業中に使わないこと。  遅刻はしないこと。  予習、復習をよくすること。</p>		
参考書・参考資料等	プリント教材を配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。		その他・特記事項	<p>各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので、注意すること。しかし、怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取る。遅刻は30分までは出席とみなす。</p>		



授業科目	Comprehensive English (G3)						
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのレーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。更には、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>				<p>やや高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用するための基礎的な訓練を行う。またNGSL第3段階の語彙力を身に付ける。特に、2年次の海外プログラムに備えて、リスニングやスピーキングの基礎力を身に付けるための訓練を行い、英語のプレゼンテーションの簡単なやり方も学習してもらおうのが主な目標である。</p>			
教授方法	<p>授業は演習形式で、授業の前半は、テキストを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認をし、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くことも伝授する。</p>						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス(自己紹介、授業の進め方、学習方法、評価方法を説明する。)						
2	Textbook Unit 1 と イギリス英語とアメリカ英語の違いを学ぶ。						
3	Textbook Unit 2 と 英国紹介についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)						
4	Textbook Unit 3 と 英語のプレゼンテーションのやり方を説明する。						
5	Textbook Unit 4 と 日本紹介についてのグループプレゼンテーション						
6	Textbook Unit 5 と 英国の大学についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)						
7	Textbook Unit 6 と 日本の大学についてのグループプレゼンテーション						
8	Textbook Unit 7 と 英国の教育制度についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)						
9	Textbook Unit 8 と 英国並びに日本の教育制度の長所と短所についてのグループプレゼンテーション						
10	Textbook Unit 9 と 英国の肥満問題についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)						
11	各受講生が今学期に選んだ多読用の本の内容についてのプレゼンテーション						
12	強制婚についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)						
13	日本の結婚問題についてのグループプレゼンテーション						
14	総括						
共通の評価基準							
<p>やや高度な英文を正しく読むことが出来ているか。  自分の意見を英語で述べる事が出来ているか。  自分の意見を英文で表現することが出来ているか。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験(筆記)	40%	授業で学んだことがどの程度習得されているかを確認するための試験で、その点数によって評価する。		英語によるプレゼンテーション	30%	グループ並びに個人のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。	
授業貢献、提出物、小テスト	15%	提出物、小テストの得点によって評価する。		上記以外の授業評価	15%	NGSL 10%と e-learning 5% 学期末に行われるNGSL共通試験に80%以上で合格となる。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>毎回、教員から授業中に出された課題にしっかり取り組むこと。  予習を十分してから授業に臨むこと。授業後も復習を最低1時間はすること。</p>				<p>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	<p>・Shogo Mitsutomi &amp; Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2  ・John H.Randle &amp; Atsushi Mukuhira, Britain at a Watershed (Tokyo: Seibido, 2018). ISBN978-4-7919-3415-7</p>			受講生に望むこと	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講生の積極的な授業参加を期待する。</li> <li>2. 毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。(電子辞書可)</li> <li>3. スマートフォンや携帯電話は授業中には使わないこと。</li> <li>4. 遅刻はしないこと。</li> <li>5. 予習、復習をよくすること。</li> </ol>		
参考書・参考資料等	<p>プリントを配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。</p>			その他・特記事項	<p>各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので注意すること。しかし怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。遅刻は30分までは出席とみなす。</p>		

授業科目	Comprehensive English (G4)				
担当教員	並木 翔太郎		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の約500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>			<p>やや高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用するための基礎的な訓練を行う。また、NGSL第3段階の語彙力を身に付ける。特に、各自が読んだ英字新聞などの内容を組み込んだ、3分程度の英語グループプレゼンテーション動画の作成を目標とする。</p>		
教授方法	この授業は主にCALLシステムを活用した演習形式で行う。				
履修条件	特になし。				
<b>授 業 計 画</b>					
実施回	授業内容				
9/25 (Fri.)	授業ガイダンス(授業概要の説明、iPadなど機器の説明)				
9/29 (Tue.)	リスニング練習(1)/ 読解練習(1)/ NGSL確認問題(1)				
10/2 (Fri.)	Core Reading(1)/ スピーキング練習(1)/ 英作文練習(1)				
10/6 (Tue.)	リスニング練習(2)/ 読解練習(2)/ NGSL確認問題(2)				
10/9 (Fri.)	Core Reading(2)/ スピーキング練習(2)/ 英作文練習(2)				
10/13 (Tue.)	リスニング練習(3)/ 読解練習(3)/ NGSL確認問題(3)				
10/16 (Fri.)	Core Reading(3)/ スピーキング練習(3)/ 英作文練習(3)				
10/20 (Tue.)	リスニング練習(4)/ 読解練習(4)/ スピーキング練習(4)/ NGSL確認問題(4)				
10/27 (Tue.)	リスニング練習(5)/ 読解練習(5)/ NGSL確認問題(5)				
10/30 (Fri.)	Core Reading(5)/ スピーキング練習(5)/ 英作文練習(4)				
11/3 (Tue.)	リスニング練習(6)/ 読解練習(6)/ NGSL確認問題(6)				
11/6 (Fri.)	スピーキング練習(5)/ 英作文練習(5)/ プレゼン指導(1)				
11/10 (Tue.)	プレゼン指導(2)/ NGSL確認問題(7)				
11/13 (Fri.)	他グループ作成の動画内容の英文要約作成				
<b>共通の評価基準</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや高度な英文を正しく読むことができるか。</li> <li>・自分の意見を英語で述べるができるか。</li> <li>・自分の意見を英文で表現することができるか。</li> </ul>					
<b>成績評価方法と基準</b>					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験(筆記)	30%	授業内容の総合的な理解度を測る	課題提出	15%	グループプレゼン(動画 10%、要約 5%)
小テスト	20%	授業内容についての確認テスト(10回実施)	上記以外の授業評価	35%	NGSL 10%、Eラーニング 5%、授業内活動 20%
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Eラーニング学習を1日30分程度は行うこと。</li> <li>・毎回の授業で指定される資料を用いた事前・事後学習を1時間半程度は行うこと。</li> </ul>			<p>質問や相談は、大学メール(およびSkype for Business)にて対応する。また、研究室(C107)でも面談などでも対応可能(アポイントメント推奨)。</p>		
教科書・テキスト	Shishido, M.他(2019)『AFP World News Report 5: Achieving the Sustainable Development Goals (SDGs)』、成美堂。		受講生に望むこと	協同学習に積極的に参加すること。	
参考書・参考資料等	森沢洋介(2006)『どンドン話すための瞬間英作文トレーニング』 野中泉(2016)『もう一度始める英語発音入門』		その他・特記事項	なし	

授業科目		Comprehensive English (G5)					
担当教員	並木 翔太郎			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用する能力を養う。また、NGSL第4段階の語彙力を身に付ける。特に、各自が読んだ英文内容などを取り入れた4分程度の個人プレゼンテーション動画の作成と、プレゼンテーション内容についての4分間の自然な英語討論を目標とする。</p>			
教授方法	この授業は主にCALLシステムを活用した演習形式で行われる。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
11/27 (Fri.)	授業ガイダンス(授業概要の説明、機器操作方法の説明など) パラグラフ・ライティング(1:比較対照)						
12/1 (Tue.)	パラグラフ・ライティング(2:比較対照) / NGSL確認問題(1) / リスニング練習(1)						
12/4 (Fri.)	パラグラフ・ライティング(3:要約)						
12/8 (Tue.)	パラグラフ・ライティング(4:要約) / NGSL確認問題(2) / リスニング練習(2)						
12/11 (Fri.)	パラグラフ・ライティング(5:意見陳述)						
12/15 (Tue.)	パラグラフ・ライティング(6:意見陳述) / NGSL確認問題(3) / リスニング練習(3)						
12/18 (Fri.)	個人プレゼン準備(1:概要説明、英字新聞選択)						
12/22 (Tue.)	個人プレゼン準備(2:要約文作成) / NGSL確認問題(4) / リスニング練習(4)						
1/8 (Fri.)	個人プレゼン準備(3:原稿・パワーポイント作成) / 添削指導(1)						
1/12 (Tue.)	個人プレゼン準備(4:原稿・パワーポイント作成) / 添削指導(2)						
1/19 (Tue.)	個人プレゼン準備(5:原稿・パワーポイント作成) / NGSL確認問題(5) / リスニング練習(5)						
1/22 (Fri.)	個人プレゼン準備(6:ビデオ作成(パソコン持参推奨))						
1/26 (Tue.)	プレゼンビデオの内容要約						
1/29 (Fri.)	ディスカッション録画						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な英文を正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・相手の意見を理解し、自分の意見を述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英文で、確実に、分かりやすく表現出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題提出	30%	個人プレゼン(原稿10%、ビデオ10%、要約10%)		小テスト	20%	授業内容に関する小テスト(5回実施)	
ディスカッション	10%	プレゼン内容を基いた英語でのディスカッション		上記以外の評価	40%	NGSL10%、Eラーニング5%、授業内活動25%	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Eラーニング学習を1日30分程度は行うこと。</li> <li>・毎回の授業で指定される資料を用いた事前・事後学習を1時間半程度は行うこと。</li> </ul>				<p>質問や相談は、大学メール(およびSkype for Business)にて対応する。また、研究室(C107)でも面談などでも対応可能(アポイントメント推奨)。</p>			
教科書・テキスト	Shishido, M. (2019) 『AFP World News Report 5: Achieving the Sustainable Development Goals (SDGs)』, 成美堂., その他配布資料.			受講生に望むこと	協同学習に積極的に参加すること。		
参考書・参考資料等	安藤貞雄(2005)『現代英文法講義』 野中泉(2016)『もう一度始める英語発音入門』			その他・特記事項	なし		

授業科目	Comprehensive English (G6)						
担当教員	高野 弘子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>				<p>やや高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用するための基礎的な訓練を行う。また、NGSL第3段階の語彙力を身に付ける。特に、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音などを含む、総合的タスクに積極的に取り組むことを通して、英語の知識を増強し、英語を使用する能力を伸ばすことを目標とする。</p>			
教授方法	個別、ペアワーク、グループワークによる授業。						
履修条件	特になし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容						
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、課題、評価方法について確認する。						
第2回	Unit 7 Talking about personal communication						
第3回	Unit 7 Exchange contact information						
第4回	Unit 7 Comparing different types of communication						
第5回	Unit 7 Video journal & Review test						
第6回	Unit 8 Talking about plans						
第7回	Unit 8 Discussing long- and short-term plans						
第8回	Unit 8 Discussing the future						
第9回	Unit 8 Video journal & Review test						
第10回	Unit 9 Making comparison						
第11回	Unit 9 Explaining preferences						
第12回	Unit 9 Talking about clothing materials						
第13回	Unit 9 Video journal & Review test						
第14回	Unit 7 ~ 9 TED Talks						
<b>共通の評価基準</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや高度な英文を正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英語で述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英語で表現することが出来ているか。</li> </ul>							
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末テスト	40	授業で学習した内容が身についたか。		小テスト	30	各単元で学習した内容が身についたか。	
宿題	15	授業で学習した内容を復習できたか。		NGSL, e-learning	10 5	NGSLの語彙力が定着できたか。 自主学習できたか。	
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>				<b>質問や相談への対応</b>			
宿題は必ず行うこと。				授業前後に対応する。			
教科書・テキスト	World English 1B (Second Edition), Cengage Learning			受講生に望むこと	英語辞典を持参すること。(電子辞書可)		
参考書・参考資料等	授業中に必要に応じて提示する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Academic English Communication (G6)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on normal and academic topics. They will learn to write a report supporting their opinion. Students will read and summarize readings on current topics and academic topics. Students will also develop the ability to use the third group of words (500) of the NGSL.				Students will learn to describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics. They will learn to write a report supporting their opinions, and learn the third group of words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained						
2	Unit 1, What is discussion? assignment, practice discussion						
3	Unit 1, practice discussion with Discussion Card, Report writing						
4	Unit 1, practice discussion						
5	Unit 1, discussion recording test, NGSL activity						
6	Unit 3, begin Core Reading						
7	Unit 3, Report writing						
8	Unit 3, Core Reading assignment						
9	Unit 3, Report Writing						
10	Unit 3, discussion recording test						
11	Unit 4, Core Reading assignment						
12	Unit 4, Report writing						
13	Unit 4, Core Reading assignment						
14	Unit 4 discussion recording, NGSL review						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can support their opinion in an English report. Students can summarize the content of an English essay							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	35	discussion skills		Writing and other	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments	
Fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
study required before and after class				Students can visit the instructor's office any weekday or contact by email.			
教科書・テキスト	In Focus 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	A desire to express ideas in English		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G7)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on normal and academic topics. They will learn to write a report supporting their opinion. Students will read and summarize readings on current topics and academic topics. Students will also develop the ability to use the third group of words (500) of the NGSL.				Students will learn to describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics. They will learn to write a report supporting their opinions, and learn the third group of words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained						
2	Unit 1, What is discussion? assignment, practice discussion						
3	Unit 1, practice discussion with Discussion Card, Report writing						
4	Unit 1, practice discussion						
5	Unit 1 discussion recording, NGSL activity						
6	Unit 3, begin Core Reading						
7	Unit 3, Report writing						
8	Unit 3, Core Reading assignment						
9	Unit 3, Report writing						
10	Unit 3 discussion recording, NGSL activity						
11	Unit 4, Core Reading assignment						
12	Unit 4, Report writing						
13	Unit 4, Core Reading assignment						
14	Unit 4 discussion recording, NGSL review						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can support their opinion in an English report. Students can summarize the content of an English essay							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	35	discussion skills		Writing and other	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments	
Fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
study required before and after class				Students can visit the instructor's office any weekday or contact by email.			
教科書・テキスト	In Focus 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	a desire to express ideas in English		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G1)				
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
Students will learn to describe, support, and exchange opinions on normal and academic topics. They will learn to write a report supporting their opinions. Students will read and summarize readings on current topics and academic topics. Students will also develop the ability to use the third group of words (500) of the NGSL.			Students will learn to describe, support, and exchange opinions on academic and non-academic topics. They will learn to write a report supporting their opinions.		
教授方法	This class will include speaking with classmates about text topics and opinions. Writing English reports will be taught by the process of examining a model, writing a draft, editing, and re-writing the final report. There will be vocabulary activities using the NGSL. Students will read in order to prepare for classroom-based discussions, short presentations and recorded conversations.				
履修条件	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained				
2	Unit 1, What is discussion? assignment, practice discussion				
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Report Writing				
4	Unit 1, practice discussion				
5	Unit 1 discussion recording, NGSL activity				
6	Unit 3, Q3 Core Reading assignment				
7	Unit 3, Report Writing				
8	Unit 3, Core Reading assignment				
9	Unit 3, Report Writing				
10	Unit 3 discussion recording				
11	Unit 4, Core Reading assignment				
12	Unit 4, Report Writing				
13	Unit 4, Core Reading assignment				
14	Unit 4 discussion recording, NGSL review				
共通の評価基準					
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can support their opinion in an English report. Students can summarize the content of an English essay.					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Speaking	35	discussion skills	Writing	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments
Reading	10	Fluency reading (MReader)	NGSL test	10	80% pass or fail
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
There will be many assignments and vocabulary to prepare for every class.			Please contact me by email or come to my office, or talk to me before or after or during class.		
教科書・テキスト	In Focus Student's Book 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014		受講生に望むこと	Language learning is first and foremost for communication. Students should demonstrate a willingness to communicate and master the skills and structures being learned in class.	
参考書・参考資料等	Access to a good dictionary (paper, electronic, or online would be very helpful).		その他・特記事項	This course will require a lot of efforts. Work hard. Do your best as you continue to prepare for your future. Little by little, step by step.	

授業科目	Academic English Communication (G5)						
担当教員	Jean-Pierre Richard			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support, and exchange opinions on normal and academic topics. They will learn to write a report supporting their opinions. Students will read and summarize readings on current topics and academic topics. Students will also develop the ability to use the third group of words (500) of the NGSL.				Students will learn to describe, support, and exchange opinions on academic and non-academic topics. They will learn to write a report supporting their opinions.			
教授方法	This class will include speaking with classmates about text topics and opinions. Writing English reports will be taught by the process of examining a model, writing a draft, editing, and re-writing the final report. There will be vocabulary activities using the NGSL. Students will read in order to prepare for classroom-based discussions, short presentations and recorded conversations.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained						
2	Unit 1, What is discussion? assignment, practice discussion						
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Report Writing						
4	Unit 1, practice discussion						
5	Unit 1 discussion recording, NGSL activity						
6	Unit 3, Q3 Core Reading assignment						
7	Unit 3, Report Writing						
8	Unit 3, Core Reading assignment						
9	Unit 3, Report Writing						
10	Unit 3 discussion recording						
11	Unit 4, Core Reading assignment						
12	Unit 4, Report Writing						
13	Unit 4, Core Reading assignment						
14	Unit 4 discussion recording, NGSL review						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can support their opinion in an English report. Students can summarize the content of an English essay.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
Speaking	35	discussion skills			Writing	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments
Reading	10	Fluency reading (MReader)			NGSL test	10	80% pass or fail
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There will be many assignments and vocabulary to prepare for every class.				Please contact me by email or come to my office, or talk to me before or after or during class.			
教科書・テキスト	In Focus Student's Book 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Language learning is first and foremost for communication. Students should demonstrate a willingness to communicate and master the skills and structures being learned in class.		
参考書・参考資料等	Access to a good dictionary (paper, electronic, or online would be very helpful).			その他・特記事項	This course will require a lot of efforts. Work hard. Do your best as you continue to prepare for your future. Little by little, step by step.		



授業科目	Academic English Communication (G2)						
担当教員	Miguel Alberto Mision			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on normal and academic topics. They will learn to write a report supporting their opinion. Students will read and summarize readings on current topics and academic topics. Students will also develop the ability to use the third group of words (500) of the NGSL.				Students will learn to describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics. They will learn to write a report supporting their opinions and learn the third group of words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained						
2	Unit 1, What is discussion? assignment, practice discussion						
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Report Writing						
4	Unit 1, practice discussion,						
5	Unit 1 discussion recording, NGSL activity						
6	Unit 3, Begin Core Reading						
7	Unit 3, Report Writing						
8	Unit 3, Core Reading assignment						
9	Unit 3, Report Writing						
10	Unit 3 discussion recording						
11	Unit 4, Core Reading assignment						
12	Unit 4, Report Writing						
13	Unit 4, Core Reading assignment						
14	Unit 4 discussion recording, NGSL review						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can support their opinion in an English report. Students can summarize the content of an English essay							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	35	discussion skills		writing and other	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments	
fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to do one hour of homework for every class.				Students can contact the instructor via e-mail mision.miguel@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	In Focus 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students are expected to do the homework for each class, which will help them prepare to share their ideas during in class discussion activities. This class will involve sharing a lot of opinions and ideas, students must respect the thoughts of their peers.		
参考書・参考資料等	I recommend the smartphone application "Imiwa" as a guide to learning vocabulary.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G3)						
担当教員	Miguel Alberto Mision			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on normal and academic topics. They will learn to write a report supporting their opinion. Students will read and summarize readings on current topics and academic topics. Students will also develop the ability to use the third group of words (500) of the NGSL.				Students will learn to describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics. They will learn to write a report supporting their opinions and learn the third group of words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained						
2	Unit 1, What is discussion? assignment, practice discussion						
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Report Writing						
4	Unit 1, practice discussion,						
5	Unit 1 discussion recording, NGSL activity						
6	Unit 3, Begin Core Reading						
7	Unit 3, Report Writing						
8	Unit 3, Core Reading assignment						
9	Unit 3, Report Writing						
10	Unit 3 discussion recording						
11	Unit 4, Core Reading assignment						
12	Unit 4, Report Writing						
13	Unit 4, Core Reading assignment						
14	Unit 4 discussion recording, NGSL review						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can support their opinion in an English report. Students can summarize the content of an English essay							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	35	discussion skills		writing and other	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments	
fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to do one hour of homework for every class.				Students can contact the instructor via e-mail <a href="mailto:mision.miguel@u-nagano.ac.jp">mision.miguel@u-nagano.ac.jp</a>			
教科書・テキスト	In Focus 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students are expected to do the homework for each class, which will help them prepare to share their ideas during in class discussion activities. This class will involve sharing a lot of opinions and ideas, students must respect the thoughts of their peers.		
参考書・参考資料等	I recommend the smartphone application "Imiwa" as a guide to learning vocabulary.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G4)						
担当教員	Keff Kenner			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on normal and academic topics. They will learn to write a report supporting their opinion. Students will read and summarize readings on current topics and academic topics. Students will also develop the ability to use the third group of words (500) of the NGSL.				Students will learn to describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics. They will learn to write a report supporting their opinions, and learn the third group of words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? Assignment explained						
2	Unit 1, What is discussion? assignment, practice discussion						
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Report Writing						
4	Unit 1, practice discussion						
5	Unit 1 discussion recording, NGSL activity						
6	Unit 3, Begin Core Reading						
7	Unit 3, Report Writing						
8	Unit 3, Core Reading assignment						
9	Unit 3, Report Writing						
10	Unit 3 discussion recording						
11	Unit 4, Core Reading assignment						
12	Unit 4, Report Writing						
13	Unit 4, Core Reading assignment						
14	Unit 4 discussion recording, NGSL review						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can support their opinion in an English report. Students can summarize the content of an English essay.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	35	discussion skills		writing and other	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments	
fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
study required before and after class				Contact the instructor by email.			
教科書・テキスト	In Focus 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	-		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Comprehensive English (G2)						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。さらには授業時間内の学習ならびに課外の自主学習を通じてNGSL第4段階の500語を自在に使いこなせようとするための訓練を行う。</p>				<p>高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用する能力を養う。NGSL第4段階の語彙力を身に付ける。特に高度な英文読解力・リスニング力・ライティング力を身に付けることを目標とする。</p>			
教授方法	異文化理解や異文化コミュニケーションについての英文テキスト Exploring Hidden Cultures を使用する。学生を主体とした演習形式で英文の精読、Listening の訓練、Exercises を行う。一つの Unit を前後に分けて2回行う。また英文表現用のテキスト Good Japanese into Good English を用いて Writing に取り組み、自分の意見を英語でまとめる訓練を行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション Exploring Hidden Culture, 8: Appearances (前半)						
2	Appearances (後半) Good Japanese into Good English, : 仮定法の生かし方						
3	10: Housing (前半) : 他人の言葉を伝える方法						
4	Housing (後半) : 前置詞(副詞)と慣用句						
5	12: Newspapers (前半) : 副詞の位置						
6	Newspapers (後半) : 比較・程度の示し方						
7	13: Shopping and Business (前半) : 否定の構文						
8	Shopping and Business (後半) : 語句や文を結ぶ接続詞						
9	Part 3: Changing Values, 14: The New Family (前半) : 考えをまとめる関係詞						
10	The New Family (後半) : 口語表現の訳し方						
11	15: The New Student (前半) ~ の復習						
12	The New Student (後半) パラグラフ・ライティング(1)						
13	16: The New Worker (前半) パラグラフ・ライティング(2)						
14	The New Student (後半) 期末試験の準備						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な英文を正しく読むことができているか。</li> <li>・相手の意見を理解し、自分の意見を述べるできているか。</li> <li>・自分の意見を英文で、確実に、分かりやすく表現できているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加意欲・態度	35%	授業への積極的な参加意欲・態度、出席状況、提出物などを評価の対象とします。		期末テスト	50%	授業内容全般に関する理解を問う問題を出題し、理解度を評価の対象とします。	
語彙テスト	10%	NGSL第4段階の語彙力テストの成績		e-learning	5%	e-learning の成績評価については配布プリント参照	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習、復習をして授業に臨む。NGSL と e-learning については、試験準備は原則として各自の自習とします。				何時でも質問や相談に応じます。メール可。			
教科書・テキスト	Paul Stapleton, Exploring Hidden Culture: Deeper Values and Differences between Japan and North America (金星堂) 長谷川潔、Good Japanese into Good English (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介します。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Comprehensive English (G7)						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力を確かなものとする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自主学習を通じて、NGSL第4段階の約500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用する能力を養う。NGSL第4段階の語彙力を身に付ける。特に高度な英文読解力・リスニング力・ライティング力を身に付けることを目標とする。</p>			
教授方法	3学期と同様、衛星放送で放映された日本に関する時事的問題を扱っている英文テキスト NHK Newslines を使用する。学生を主体とした演習形式で、DVDの映像で内容を確認してから、Exercises に取り組み、英文の精読を行う。一つの Unit を前後に分けて2回行う。また英文表現用のテキスト Basic Skills in English を用いて Writing に取り組み、自分の意見を英語でまとめる訓練を行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	NHK Newslines, Unit 8: Daughters of the Soil (前半) Basic Skills in English, Chapter 12: 副詞句(2)、副詞の種類						
2	Daughters of the Soil (後半) Chapter 13: 副詞句(3)、分詞構文、部分否定						
3	Unit 9: Engaging Youth in Politics (前半) Chapter 14: 句と節、等位接続詞、等位節、相関接続詞						
4	Engaging Youth in Politics (後半) Chapter 15: 主節と従節、文の構造の種類—単文・重文・複文、名詞節(1)						
5	Unit 10: Magic in Moonlightening (前半) Chapter 16: 名詞節(2)、形式主語・形式目的語の it と that 等、非人称構文 it seems that 等						
6	Magic in Moonlightening (後半) Chapter 17: 時制の一致、時制の一致に従わない場合、直接話法と間接話法						
7	Unit 11: On Your Bike (前半) Chapter 18: 関係代名詞、関係副詞						
8	On Your Bike (後半) Chapter 19: 前置詞 + 関係代名詞、関係詞の省略、制限用法と非制限用法、as、but、関係形容詞						
9	Unit 12: Designing Nations (前半) Chapter 20: 時を表す節、場所を表す節、理由・原因を表す節						
10	Designing Nations (後半) Chapter 21: 比較を表す節、比例を表す節、対照を表す節						
11	Unit 13: Litter Buster (前半) Chapter 22: 様態を表す節、譲歩を表す節						
12	Litter Buster (後半) Chapter 23: 目的を表す節、結果を表す節						
13	Unit 14: Leveling the Playing Field (前半) Chapter 24: 条件・仮定を表す節						
14	Leveling the Playing Field (後半) 総復習						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な英文を正しく読むことができているか。</li> <li>・相手の意見を理解し、自分の意見を述べる事ができているか。</li> <li>・自分の意見を英文で、確実に、分かりやすく表現できているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加意欲・態度	35%	授業への積極的な参加意欲・態度、出席状況、提出物などを評価の対象にします。		期末テスト	50%	授業内容全般に関する理解を問う問題を出題し、理解度を評価の対象にします。	
語彙テスト	10%	NGSL第4段階の語彙テストの成績		e-learning	5%	e-learning の成績評価については配布プリント参照	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習、復習をして授業に臨む。NGSL と e-learning については、試験準備は原則として各自の学習とします。				何時でも質問や相談に応じます。メール可。			
教科書・テキスト	Tetsuroh Yamazaki 他編, NHK Newslines (金星堂) Kenich Tamoto, Simon Sanada, Basic Skills in English (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介します。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		Comprehensive English (G1)					
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで、自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。更には、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL・第4段階の500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>				<p>高度なリーディングに基づいて、4技能を総合的に運用する能力を養う。また、NGSL第4段階の語彙力を身に付ける。特に2年次の海外プログラムに向けて、受講生のリスニング力を更にレベルアップさせ、個人のプレゼンテーションやディスカッションの力も身に付けさせることを目標とする。</p>			
教授方法	授業は演習形式で、授業の前半は、テキストやプリントを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認し、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くことも伝授する。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Textbook Unit 10 と 少子化問題についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)						
2	Textbook Unit 11 と 日本の少子化問題の解決策についてのグループプレゼンテーション						
3	Textbook Unit 12 と 英国の階級制度についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)						
4	Textbook Unit 13 と 日本文化の特色についてのグループプレゼンテーション						
5	Textbook Unit 14 と 女性の社会進出についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)						
6	日本の働く母親たちが抱えている問題についてのグループプレゼンテーション						
7	英国の主なフェスティバルについての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)						
8	日本のフェスティバルについてのグループプレゼンテーション						
9	各受講生が今学期に選んだ多読用の本の内容についてのプレゼンテーション						
10	英国の王室についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)						
11	英国の王室と日本の皇室についての類似点並びに相違点についてのグループプレゼンテーション						
12	英国の移民問題についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)						
13	日本における外国人労働者についてのグループプレゼンテーションとディスカッション						
14	総括						
共通の評価基準							
<p>高度な英文を正しく読むことが出来ているか。 相手の意見を理解し、自分の意見を述べる事が出来ているか。 自分の意見を英文で、確実に、分かりやすく表現出来ているか。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験(筆記)	40%	授業で学んだことが、どの程度習得されているかを確認するための試験で、その点数によって評価する。		英語によるプレゼンテーション	30%	グループ並びに個人のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。	
授業貢献、提出物、小テスト	15%	提出物、小テストの得点によって評価する。		上記以外の授業評価	15%	NGSO10%とe-learning 5% 学期末に行われるNGSL共通試験に80%以上で合格となる。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>毎回、教員から授業中に出された課題にしっかり取り組むこと。 予習を十分してから授業に臨むこと。 授業後も復習を最低1時間はすること。</p>				<p>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>Shogo Mitsutomi &amp; Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2</li> <li>John H. Randle &amp; Atsushi Mukuhira, Britain at a Watershed (Tokyo: Seibido, 2018). ISBN978-4-7919-3415-7</li> </ul>			受講生に望むこと	<p>受講生の積極的な授業参加を期待する。毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。(電子辞書可) スマートフォンや携帯電話は授業中に使わないこと。 予習、復習をよくすること。</p>		
参考書・参考資料等	プリント教材を配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。			その他・特記事項	各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので、注意すること。しかし、怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。		

授業科目		Comprehensive English (G3)						
担当教員		富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング		
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考				
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)				
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで、自分の意見を英語で述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。更には、授業時間の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL・第4段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>高度なリーディングに基づいて、4技能を総合的に運用する能力を養う。また、NGSL第4段階の語彙力を身に付ける。特に2年次の海外プログラムに向けて、受講生のリスニング力を更にレベルアップさせ、個人のプレゼンテーションやディスカッションの力も身に付けさせることを目標とする。</p>				
教授方法	<p>授業は演習方式で、授業の前半は、テキストやプリントを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認し、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くことも伝授する。</p>							
履修条件	特になし。							
授 業 計 画								
実施回	授業内容							
1	Textbook Unit 10と少子化問題についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)							
2	Textbook Unit 11 と 日本の少子化問題に解決策についてのグループプレゼンテーション							
3	Textbook Unit 12 と 英国の階級制度についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)							
4	Textbook Unit 13と日本文化の特色についてのグループプレゼンテーション							
5	Textbook Unit 14 と女性の社会進出についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)							
6	日本の働く母親たちが抱えている問題についてのグループプレゼンテーション							
7	英国の主なフェスティバルについての記事の講読(内容確認と英語によるプレゼンテーション)							
8	日本のフェスティバルについてのグループプレゼンテーション							
9	各受講生が今学期に選んだ多読用の本の内容についてのプレゼンテーション							
10	英国の王室についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)							
11	英国の王室と日本の皇室の類似点と相違点についてのグループプレゼンテーション							
12	英国の移民問題についての記事の講読(内容確認と英語によるディスカッション)							
13	日本における外国人労働者についてのグループプレゼンテーション							
14	総括							
共通の評価基準								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な英文を正しく読むことができているか。</li> <li>・相手の意見を理解し、自分の意見を述べる事ができているか。</li> <li>・自分の意見を英文で、確実に、分かりやすく表現できているか。</li> </ul>								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準		
定期試験(筆記)	40%	授業で学んだことが、どの程度習得されているかを確認するための試験で、その点数によって評価する。		英語によるプレゼンテーション	30%	グループ並びに個人のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。		
授業貢献、提出物、小テスト	15%	提出物、小テストの得点によって評価する。		上記以外の授業評価	15%	NGSL10%とe-learning 5% 学期末に行われるNGSL共通試験に80%以上で合格となる。		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応				
<p>毎回、教員から授業中に出された課題にしっかり取り組むこと。 予習を十分してから授業に臨むこと。 授業後も復習を最低1時間はすること。</p>				<p>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</p>				
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Shogo Mitsutomi &amp; Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2</li> <li>・John H. Randle &amp; Atsushi Mukuhira, Britain at a Watershed (Tokyo: Seibido, 2018). ISBN978-4-7919-3415-7</li> </ul>			受講生に望むこと	<p>受講生の積極的な授業参加を期待する。 毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。(電子辞書可) スマートフォンや携帯電話は授業中に使わないこと。 予習、復習をよくすること。</p>			
参考書・参考資料等	プリント教材を配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。			その他・特記事項	各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので、注意すること。しかし、怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。			

授業科目		Comprehensive English (G4)						
担当教員		並木 翔太郎			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング		
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考				
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)				
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用する能力を養う。また、NGSL第4段階の語彙力を身に付ける。特に、各自が読んだ英文内容などを取り入れた4分程度の個人プレゼンテーション動画の作成と、プレゼンテーション内容についての4分間の自然な英語討論を目標とする。</p>				
教授方法	この授業は主にCALLシステムを活用した演習形式で行われる。							
履修条件	特になし。							
授 業 計 画								
実施回	授業内容							
11/26 (Thu.)	授業ガイダンス(授業概要の説明、機器操作方法の説明など) パラグラフ・ライティング(1:比較対照)							
11/30 (Mon.)	パラグラフ・ライティング(2:比較対照) / NGSL確認問題(1) / リスニング練習(1)							
12/3 (Thu.)	パラグラフ・ライティング(3:要約)							
12/7 (Mon.)	パラグラフ・ライティング(4:要約) / NGSL確認問題(2) / リスニング練習(2)							
12/10 (Thu.)	パラグラフ・ライティング(5:意見陳述)							
12/14 (Mon.)	パラグラフ・ライティング(6:意見陳述) / NGSL確認問題(3) / リスニング練習(3)							
12/17 (Thu.)	個人プレゼン準備(1:概要説明、英字新聞選択)							
12/21 (Mon.)	個人プレゼン準備(2:要約文作成) / NGSL確認問題(4) / リスニング練習(4)							
1/7 (Thu.)	個人プレゼン準備(3:原稿・パワーポイント作成) / 添削指導(1)							
1/14 (Thu.)	個人プレゼン準備(4:原稿・パワーポイント作成) / 添削指導(2)							
1/18 (Mon.)	個人プレゼン準備(5:原稿・パワーポイント作成) / NGSL確認問題(5) / リスニング練習(5)							
1/21 (Thu.)	個人プレゼン準備(6:ビデオ作成(パソコン持参推奨))							
1/25 (Mon.)	プレゼンビデオの内容要約							
2/1 (Mon.)	ディスカッション録画							
共通の評価基準								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な英文を正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・相手の意見を理解し、自分の意見を述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英文で、確実に、分かりやすく表現出来ているか。</li> </ul>								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準		
課題提出	30%	個人プレゼン(原稿 10%、ビデオ 10%、要約 10%)		小テスト	20%	授業内容に関する小テスト(5回実施)		
ディスカッション	10%	プレゼン内容を基いた英語でのディスカッション		上記以外の評価	40%	NGSL 10%、Eラーニング 5%、授業内活動 25%		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Eラーニング学習を1日30分程度は行うこと。</li> <li>・毎回の授業で指定される資料を用いた事前・事後学習を1時間半程度は行うこと。</li> </ul>				<p>質問や相談は、大学メール(およびSkype for Business)にて対応する。また、研究室(C107)でも面談などでも対応可能(アポイントメント推奨)。</p>				
教科書・テキスト	Shishido, M. (2019) 『AFP World News Report 5: Achieving the Sustainable Development Goals (SDGs)』, 成美堂., その他配布資料.			受講生に望むこと	協同学習に積極的に参加すること。			
参考書・参考資料等	安藤貞雄 (2005) 『現代英文法講義』 野中泉 (2016) 『もう一度始める英語発音入門』			その他・特記事項	なし			



授業科目		Comprehensive English (G5)					
担当教員		並木 翔太郎		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の約500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>				<p>やや高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用するための基礎的な訓練を行う。また、NGSL第3段階の語彙力を身に付ける。特に、各自が読んだ英字新聞などの内容を組み込んだ、3分程度の英語グループプレゼンテーション動画の作成を目標とする。</p>			
教授方法	この授業は主にCALLシステムを活用した演習形式で行う。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
9/24 (Thu.)	授業ガイダンス(授業概要の説明、iPadなど機器の説明)						
9/28 (Mon.)	リスニング練習(1)/ 読解練習(1)/ NGSL確認問題(1)						
10/1 (Thu.)	Core Reading(1)/ スピーキング練習(1)/ 英作文練習(1)						
10/5 (Mon.)	リスニング練習(2)/ 読解練習(2)/ NGSL確認問題(2)						
10/8 (Thu.)	Core Reading(2)/ スピーキング練習(2)/ 英作文練習(2)						
10/12 (Mon.)	リスニング練習(3)/ 読解練習(3)/ NGSL確認問題(3)						
10/15 (Thu.)	Core Reading(3)/ スピーキング練習(3)/ 英作文練習(3)						
10/19 (Mon.)	リスニング練習(4)/ 読解練習(4)/ スピーキング練習(4)/ NGSL確認問題(4)						
10/22 (Thu.)	Core Reading(4)/ スピーキング練習(4)/ 英作文練習(4)						
10/29 (Thu.)	プレゼン指導(1)/ 英作文練習(5)						
11/2 (Mon.)	リスニング練習(5)/ 読解練習(5)/ スピーキング練習(5)/ NGSL確認問題(5)						
11/5 (Thu.)	英作文練習(5)/ プレゼン指導(2)						
11/9 (Mon.)	リスニング練習(6)/ 読解練習(6)/ スピーキング練習(6)/ NGSL確認問題(6)						
11/16 (Mon.)	他グループ作成の動画内容の英文要約作成 / NGSL確認問題(7)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや高度な英文を正しく読むことができるか。</li> <li>・自分の意見を英語で述べるができるか。</li> <li>・自分の意見を英文で表現することができるか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
定期試験(筆記)	30%	授業内容の総合的な理解度を測る	課題提出	15%	グループプレゼン(動画 10%、要約 5%)		
小テスト	20%	授業内容についての確認テスト(10回実施)	上記以外の授業評価	35%	NGSL 10%、Eラーニング 5%、授業内活動 20%		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Eラーニング学習を1日30分程度は行うこと。</li> <li>・毎回の授業で指定される資料を用いた事前・事後学習を1時間半程度は行うこと。</li> </ul>				<p>質問や相談は、大学メール(およびSkype for Business)にて対応する。また、研究室(C107)でも面談などでも対応可能(アポイントメント推奨)。</p>			
教科書・テキスト	Shishido, M.他(2019)『AFP World News Report 5: Achieving the Sustainable Development Goals (SDGs)』、成美堂。			受講生に望むこと	協同学習に積極的に参加すること。		
参考書・参考資料等	森沢洋介(2006)『どンドン話すための瞬間英作文トレーニング』 野中泉(2016)『もう一度始める英語発音入門』			その他・特記事項	なし		

授業科目	Comprehensive English (G6)						
担当教員	高野 弘子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自主活動を通じて、NGSL第4段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用する能力を養う。また、NGSL第4段階の語彙力を身に付ける。特に、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音などを含む、総合的タスクに積極的に取り組むことを通じて、英語の知識を強化し、英語を使用する能力を伸ばすことを目標とする。</p>			
教授方法	個別、ペアワーク、グループワークによる授業。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、課題、評価方法について確認する。						
第2回	Unit 10 Giving advice on healthy habits						
第3回	Unit 10 Comparing lifestyles						
第4回	Unit 10 Evaluating your lifestyles						
第5回	Unit 10 Video journal & Review test						
第6回	Unit 11 Talking about today's chores						
第7回	Unit 11 Talking about personal accomplishments						
第8回	Unit 11 Discussing humanity's greatest achievements						
第9回	Unit 11 Video journal & Review test						
第10回	Unit 12 Talking about managing your money						
第11回	Unit 12 Making choices on how to spend your money						
第12回	Unit 12 Evaluating money and happiness						
第13回	Unit 12 Video journal & Review test						
第14回	Unit 10 ~ 12 TED Talks						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な英文を正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・相手の意見を理解し、自分の意見を述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英文で、確実に、わかりやすく表現できているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
期末テスト	40	授業で学習した内容が身についたか。	小テスト	30	各単元で学習した内容が身についたか。		
宿題	15	授業で学習した内容を復習できたか。	NGSL, e-learning	10 5	NGSLの語彙力が定着できたか。 自主学習できたか。		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
宿題は必ず行うこと。				授業前後に対応する。			
教科書・テキスト	World English 1B (Second Edition), Cengage Learning			受講生に望むこと	英語辞典を持参すること。(電子辞書可)		
参考書・参考資料等	授業中に必要に応じて提示する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Academic English Communication (G6)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on current issues and academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings related to their major. Students will also develop the ability to use the fourth group of words (500) of the NGSL.				Students will develop ability to reason for their opinions in discussion, write an expository essay and learn the fourth group of 500 words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Unit 7, practice discussion with new discussion phrases						
2	Unit 7, Expository Essay structure						
3	Unit 7, Expository Essay outline assignment						
4	Unit 7, practice discussion						
5	Discussion Test on Unit 7						
6	Unit 9, Expository Essay assignment						
7	Unit 9, practice discussion						
8	Unit 9, Expository Essay assignment						
9	Discussion Test on Unit 9						
10	Unit 10, intro to TED Talks, Core Reading						
11	Unit 10, CNBC article and Noriko Arai, Core Reading assignment						
12	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading assignment						
13	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading assignment						
14	Discussion Test on Unit 10						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about textbook-related content. Students can support their opinion in an English essay. Students can summarize the content of an English essay							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	35	discussion skills		Writing and other	45	an expository essay, Core Reading assignments	
Fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
study required before and after class				Students can visit the instructor's office any weekday or contact by email.			
教科書・テキスト	In Focus 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	a desire to express ideas in English		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G7)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on current issues and academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings related to their major. Students will also develop the ability to use the fourth group of words (500) of the NGSL.				Students will develop ability to reason for their opinions in discussion, write an expository essay and learn the fourth group of 500 words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Unit 7, practice discussion with new discussion phrases						
2	Unit 7, Expository Essay structure						
3	Unit 7, practice discussion, Expository Essay outline assignment						
4	Unit 7, practice discussion						
5	Discussion Test on Unit 7						
6	Unit 9, Expository Essay assignment						
7	Unit 9, practice discussion						
8	Unit 9, Expository Essay assignment						
9	Discussion Test on Unit 9						
10	Unit 10, intro to TED Talks, Core Reading assignment						
11	Unit 10, CNBC article and Noriko Arai, Core Reading assignment						
12	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading assignment						
13	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading assignment						
14	Discussion Test on Unit 10						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about textbook-related content. Students can support their opinion in an English essay. Students can summarize the content of an English essay							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	35	discussion skills		Writing and other	45	an expository essay and Core Reading assignments	
Fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
study required before and after class				Students can visit the instructor's office any weekday and contact by email.			
教科書・テキスト	In Focus 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	a desire to express ideas in English		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G1)				
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
Students will learn to describe, support, and exchange opinions on current and academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings related to their major. Students will also develop the ability to use the fourth group of words (500) of the NGSL.			Students will develop ability to reason for their opinions, summarize readings, and learn the fourth group of words of the NGSL.		
教授方法	This class will include speaking with classmates about text topics and opinions. Writing English essays will be taught by the process of examining a model, writing a draft, editing, and re-writing the final essay. There will be regular vocabulary activities to use the NGSL. Students will do reading homework in order to prepare for classroom-based discussions, short presentations and recorded conversations.				
履修条件	-				
<b>授 業 計 画</b>					
実施回	授業内容				
1	Introduction + Unit 7, practice discussion with new discussion skills				
2	Unit 7, Expository Essays structure				
3	Unit 7, Expository Essay outline assignment				
4	Unit 7, practice discussion				
5	Discussion Test on Unit 7				
6	Unit 9, Expository Essay assignment				
7	Unit 9, practice discussion				
8	Unit 9, Expository Essay assignment				
9	Discussion Test on Unit 9				
10	Unit 10, intro to TED Talks, Core Reading				
11	Unit 10, CNBC article and Noriko Arai, Core Reading				
12	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading				
13	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading				
14	Discussion Test on Unit 10				
<b>共通の評価基準</b>					
Students can explain and exchange opinions. Students can support their opinion in an English essay. Students can summarize the content of an English essay.					
<b>成績評価方法と基準</b>					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	35	discussion skills	writing	45	essay writing, other writing, and other assignments
reading	10	Fluency reading (MReader)	NGSL test	10	80% pass or fail
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
There will be many assignments and vocabulary to prepare for every class.			Send an email, visit my office, or talk to me before, during, or after class.		
教科書・テキスト	In Focus Student's Book 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014		受講生に望むこと	Language learning is first and foremost for communication. Students should demonstrate a willingness to communicate and master the skills and structures being learned in class.	
参考書・参考資料等	Access to a good dictionary, (paper, electronic, or online) would be helpful.		その他・特記事項	This course will require a lot of efforts. Work hard. Do your best as you continue to prepare for your future. Little by little. Step by step.	

授業科目	Academic English Communication (G5)						
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)				
Students will learn to describe, support, and exchange opinions on current and academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings related to their major. Students will also develop the ability to use the fourth group of words (500) of the NGSL.			Students will develop ability to reason for their opinions, summarize readings, and learn the fourth group of words of the NGSL.				
教授方法	This class will include speaking with classmates about text topics and opinions. Writing English essays will be taught by the process of examining a model, writing a draft, editing, and re-writing the final essay. There will be regular vocabulary activities to use the NGSL. Students will do reading homework in order to prepare for classroom-based discussions, short presentations and recorded conversations.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction + Unit 7, practice discussion with new discussion skills						
2	Unit 7, Expository Essays structure						
3	Unit 7, Expository Essay outline assignment						
4	Unit 7, practice discussion						
5	Discussion Test on Unit 7						
6	Unit 9, Expository Essay assignment						
7	Unit 9, practice discussion						
8	Unit 9, Expository Essay assignment						
9	Discussion Test on Unit 9						
10	Unit 10, intro to TED Talks, Core Reading						
11	Unit 10, CNBC article and Noriko Arai, Core Reading						
12	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading						
13	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading						
14	Discussion Test on Unit 10						
共通の評価基準							
Students can explain and exchange opinions. Students can support their opinion in an English essay. Students can summarize the content of an English essay.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	35	discussion skills		writing	45	essay writing, other writing, and other assignments	
reading	10	Fluency reading (MReader)		NGSL test	10	80% pass or fail	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There will be many assignments and vocabulary to prepare for every class.				Send an email, visit my office, or talk to me before, during, or after class.			
教科書・テキスト	In Focus Student's Book 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Language learning is first and foremost for communication. Students should demonstrate a willingness to communicate and master the skills and structures being learned in class.		
参考書・参考資料等	Access to a good dictionary, (paper, electronic, or online) would be helpful.			その他・特記事項	This course will require a lot of efforts. Work hard. Do your best as you continue to prepare for your future. Little by little. Step by step.		

授業科目	Academic English Communication (G2)						
担当教員	Miguel Alberto Mision			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on current issues and academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings related to their major. Students will also develop the ability to use the fourth group of words (500) of the NGSL.				Students will develop ability to reason for their opinions in discussion, write an expository essay and learn the fourth group of 500 words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容						
1	Unit 7, practice discussion with new discussion skills						
2	Unit 7, Expository Essays structure						
3	Unit 7, Expository Essay outline assignment						
4	Unit 7, practice discussion						
5	Discussion Test on Unit 7						
6	Unit 9, Expository Essay assignment						
7	Unit 9, practice discussion						
8	Unit 9, Expository Essay assignment						
9	Discussion Test on Unit 9						
10	Unit 10, intro to TED Talks, Core Reading						
11	Unit 10, CNBC article and Noriko Arai, Core Reading						
12	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading						
13	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading						
14	Discussion Test on Unit 10						
<b>共通の評価基準</b>							
Students can add to a discussion about textbook-related content. Students can support their opinion in an English essay. Students can summarize the content of an English essay							
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	35	discussion skills		writing and other	45	an expository essay, Core Reading assignments	
fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to do one hour of homework for every class.				Students can contact the instructor via e-mail mision.miguel@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	In Focus 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students are expected to do the homework for each class, which will help them prepare to share their ideas during in class discussion activities. This class will involve sharing a lot of opinions and ideas, students must respect the thoughts of their peers.		
参考書・参考資料等	I recommend the smartphone application "Imiwa" as a guide to learning vocabulary.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G3)						
担当教員	Miguel Alberto Mision			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on current issues and academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings related to their major. Students will also develop the ability to use the fourth group of words (500) of the NGSL.				Students will develop ability to reason for their opinions in discussion, write an expository essay and learn the fourth group of 500 words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容						
1	Unit 7, practice discussion with new discussion skills						
2	Unit 7, Expository Essays structure						
3	Unit 7, Expository Essay outline assignment						
4	Unit 7, practice discussion						
5	Discussion Test on Unit 7						
6	Unit 9, Expository Essay assignment						
7	Unit 9, practice discussion						
8	Unit 9, Expository Essay assignment						
9	Discussion Test on Unit 9						
10	Unit 10, intro to TED Talks, Core Reading						
11	Unit 10, CNBC article and Noriko Arai, Core Reading						
12	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading						
13	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading						
14	Discussion Test on Unit 10						
<b>共通の評価基準</b>							
Students can add to a discussion about textbook-related content. Students can support their opinion in an English essay. Students can summarize the content of an English essay							
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	35	discussion skills		writing and other	45	an expository essay, Core Reading assignments	
fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to do one hour of homework for every class.				Students can contact the instructor via e-mail mision.miguel@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	In Focus 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students are expected to do the homework for each class, which will help them prepare to share their ideas during in class discussion activities. This class will involve sharing a lot of opinions and ideas, students must respect the thoughts of their peers.		
参考書・参考資料等	I recommend the smartphone application "Imiwa" as a guide to learning vocabulary.			その他・特記事項	-		



授業科目	Academic English Communication (G4)						
担当教員	Keff Kenner			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on current issues and academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings related to their major. Students will also develop the ability to use the fourth group of words (500) of the NGSL.				Students will develop ability to reason for their opinions in discussion, write an expository essay and learn the fourth group of 500 words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Unit 7, practice discussion with new discussion skills						
2	Unit 7, Expository Essays structure						
3	Unit 7, Expository Essay outline assignment						
4	Unit 7, practice discussion						
5	Discussion Test on Unit 7						
6	Unit 9, Expository Essay assignment						
7	Unit 9, practice discussion						
8	Unit 9, Expository Essay assignment						
9	Discussion Test on Unit 9						
10	Unit 10, intro to TED Talks, Core Reading						
11	Unit 10, CNBC article and Noriko Arai, Core Reading						
12	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading						
13	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading						
14	Discussion Test on Unit 10						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about textbook-related content. Students can support their opinion in an English essay. Students can summarize the content of an English essay.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	35	discussion skills		writing and other	45	an expository essay, Core Reading assignments	
fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
study required before and after class				Please contact the instructor by email.			
教科書・テキスト	In Focus 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	A desire to speak ideas in English		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目		Comprehensive English (G3)					
担当教員	坂 淳一			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				さらに高度なリーディング・ライティングをいかして、論理的な思考能力と4技能を自在に運用する高度な英語力を養う。NGSL第5段階の語彙力を身に付ける。また、これまでの学習で基礎力が完成されていない部分があれば、この講座でその部分を完成する。			
教授方法	テキストに基づいて、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能演習を行う。特にプレゼンテーション、リーディングとライティング、リスニングとライティングの融合など、他技能を連携させることに力を入れる。具体的な内容は授業の中で少しずつ紹介していく。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業に関する説明、リーディング力チェック。リスニングとライティングの演習(1)。語彙学習についての説明。						
2	Core Reading に基づく4技能のトレーニング(1)、リスニングとライティングの演習(2)、NGSL小テスト(1)						
3	Core Reading に基づく4技能のトレーニング(2)、リスニングとライティングの演習(3)、NGSL小テスト(2)						
4	プレゼンテーションの技術を学ぶ。リスニングとライティングの演習(4)、NGSL小テスト(3)						
5	教科書TOPIC 1 に基づく4技能のトレーニング、リスニングとライティングの演習(5)、NGSL小テスト(4)						
6	教科書TOPIC 4 に基づく4技能のトレーニング、リスニングとライティングの演習(6)、NGSL小テスト(5)						
7	教科書TOPIC 6 に基づく4技能のトレーニング、リスニングとライティングの演習(7)、NGSL小テスト(6)						
8	教科書TOPIC 7 に基づく4技能のトレーニング、リスニングとライティングの演習(8)、NGSL小テスト(7)						
9	教科書TOPIC 8 に基づく4技能のトレーニング、リスニングとライティングの演習(9)、NGSL小テスト(8)						
10	教科書TOPIC 11 に基づく4技能のトレーニング、リスニングとライティングの演習(10)、NGSL小テスト(9)						
11	教科書TOPIC 12 に基づく4技能のトレーニング、リスニングとライティングの演習(11)、NGSL小テスト(10)						
12	教科書TOPIC 13に基づく4技能のトレーニング、リスニングとライティングの演習(12)、NGSL小テスト(11)						
13	教科書TOPIC 14 に基づく4技能のトレーニング、リスニングとライティングの演習(13)、NGSL小テスト(12)						
14	プレゼンテーション発表日						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな話題や、学部学科の専門に関する英文も正しく読むことが出来るか。</li> <li>・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を述べる事が出来るか。</li> <li>・自分の意見を論理的、説得的に英文で表現することが出来るか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験(筆記)	30	教科書のリーディングと語彙のテスト		授業レポート	30	ライティング等の課題の総合点	
小テスト	10	授業内のNGSL小テストの総計		上記以外の授業評価	30	プレゼンテーション20%、NGSLテスト 10%	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
授業で指示された予習課題、復習、レポートなどにしっかり取り組むこと。				授業時に質問するか、研究室に相談に来て下さい。			
教科書・テキスト	『CLIL 英語で学ぶ国際問題』(三修社)			受講生に望むこと	授業外でもたくさん英語に接して下さい。		
参考書・参考資料等	必要に応じて、プリントで配布するか、オンラインで配信します。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Comprehensive English (G5)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				さらに高度なリーディング・ライティングをいかして、論理的な思考能力と4技能を自在に運用する高度な英語力を養う。また、NGSL第5段階の語彙力を身に付ける。特に、比較対象型および課題解決型のエッセイの書き方を習得することを目標とする。			
教授方法	リーディングによるインプットを事前に行い、授業にてアウトプットの機会を充実させるフリッパーニング						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス(シラバス、学習方法の確認)、Core ReadingとReaction paper						
2	即興パラグラフライティングの演習_比較対照型と課題解決型(1)、教科書1章_ライティングに対する心構え、NGSL2401-2480						
3	即興パラグラフライティングの演習_比較対照型と課題解決型(2)						
4	ミニプレゼンと質疑応答の練習(1)、教科書2章_句読記号(1)-(8)、リスニングおよびリーディング演習(1)、NGSL2481-2560						
5	ショートエッセイ_比較対照型(1)						
6	ショートエッセイ_比較対照型(2)、教科書2章_句読記号(9)-(16)、リスニングおよびリーディング演習(2)、NGSL2561-2640						
7	ショートエッセイ_課題解決型(1)						
8	ショートエッセイ_課題解決型(2)、教科書3章_文法・語法(1)-(4)、リスニングおよびリーディング演習(3)、NGSL2641-2720						
9	ミニプレゼンと質疑応答の練習(2)						
10	リサーチテーマと引用文献、サマリー作成、教科書3章_文法・語法(5)-(8)、NGSL2721-2801						
11	ミニレポート：主張と根拠の提示(1)						
12	ミニレポート：主張と根拠の提示(2)						
13	プレゼンテーション技法_パワーポイントの作成とスピーチ原稿						
14	質疑応答の練習(3)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな話題や、学部学科の専門に関する英文も正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・や専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を論理的、説得的に英文で表現することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ミニレポート	30	リサーチした資料を適切にパラフレーズして、主張の根拠としながら段落を展開できる力を測る		プレゼンテーション	20	基本的なプレゼンテーション技法の習得を測る	
定期試験(筆記)	40	リサーチした資料を適切にパラフレーズして、主張の根拠としながら段落を展開できる力を測る		NGSL	10	NGSL共通試験において対象語彙の習熟度を測る	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された資料(文献や動画等)の要点を理解し、事後学習として授業で行ったパフォーマンス(スピーキング・ライティング等)をより洗練させたうえでOneNote(デジタルポートフォリオ)への投稿などが求められる。また適宜、英語トレーニングが指示される。				大学のOffice365アカウントから、EmailまたはTeams/Skype for Businessで連絡をください。また、学内オフィスC105にて、簡単な質問は随時、面談はアポイントメントを設定したうえで、受け付けます。			
教科書・テキスト	ビジネス英語ライティング・ルールズ(森田修、マルコム・ヘンドリックス、日本経済新聞出版社、ISBN 978-4-532-11336-0)【以上1冊】			受講生に望むこと	自分で書いた英文を見直すなど、復習に力を入れてください。		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『国際学会Englishスピーキング・エクササイズ口演・発表・応答』(Langham, C.S. 医歯薬出版)</li> <li>・1年次に使用した英語音声のテキスト</li> </ul>			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Comprehensive English (G6)						
担当教員	並木 翔太郎			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				さらに高度なリーディング・ライティングをいかして、論理的な思考能力と4技能を自在に運用する高度な英語力を養う。また、NGSL第5段階の語彙力を身に付ける。特に、精読した専門書の内容などを取り込んだ5分程度の英語での個人プレゼンテーションの作成と、5分程度の自然な英語での質疑応答を目標とする。			
教授方法	この授業は主にCALLシステムを活用した演習形式で行われる。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
4/10 (Fri.)	授業ガイダンス(授業概要の説明、iPad操作方法の説明など)						
4/14 (Tue.)	個人プレゼンテーションの基礎 第1回 / 小テスト(1)						
4/17 (Fri.)	個人プレゼンテーションの基礎 第2回 / リスニング練習(1)						
4/21 (Tue.)	個人プレゼンテーションの基礎 第3回 / 小テスト(2)						
4/23 (Fri.)	専門書精読の基礎 第1回 / リスニング練習(2)						
4/28 (Tue.)	専門書精読の基礎 第2回 / 小テスト(3)						
5/1 (Fri.)	専門書精読の基礎 第3回 / リスニング練習(3)						
5/5 (Tue.)	エッセイライティング 第1回 / 小テスト(4)						
5/8 (Fri.)	エッセイライティング 第2回 / リスニング練習(4)						
5/12 (Tue.)	エッセイライティング 第3回 / 小テスト(5)						
5/15 (Fri.)	個人プレゼン準備 第4回(パソコン持参推奨)						
5/19 (Tue.)	個人プレゼン(5分)発表(1) / 小テスト(6)						
5/22 (Fri.)	個人プレゼン(5分)発表(2)						
5/26 (Tue.)	個人プレゼン(5分)発表(3)、全体総括 / 小テスト(7)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな話題や、学部学科の専門に関する英文も正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を論理的、説得的に英文で表現することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
課題提出	55%	個人プレゼン(20%)、英文エッセイ(15%)、音読練習ファイル(10%)、その他(10%)	小テスト	20%	授業の内容に関する小テスト(全7回)		
ディスカッション	5%	プレゼン内容を踏まえたディスカッション	上記以外の評価	20%	NGSL 10%、授業内活動 10%		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定の課題に対して一日30分程度の学習を行うこと。</li> <li>・毎回の授業で指定される資料を用いた事前・事後学習を1時間程度行うこと。</li> </ul>				質問や相談は、大学メール(およびSkype for Business)にて対応する。また、研究室(C107)でも面談などでも対応可能(アポイントメント推奨)。			
教科書・テキスト	なし(資料配布予定)			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協同学習に積極的に参加すること。</li> <li>・授業外での学習を効果的に行うこと。</li> </ul>		
参考書・参考資料等	安藤貞雄(2005)『現代英文法講義』 野中泉(2016)『もう一度始める英語発音入門』			その他・特記事項	なし		

授業科目		Comprehensive English (G7)					
担当教員	並木 翔太郎			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				さらに高度なリーディング・ライティングをいかして、論理的な思考能力と4技能を自在に運用する高度な英語力を養う。また、NGSL第5段階の語彙力を身に付ける。特に、精読した専門書の内容などを取り込んだ5分程度の英語での個人プレゼンテーションの作成と、5分程度の自然な英語での質疑応答を目標とする。			
教授方法	この授業は主にCALLシステムを活用した演習形式で行われる。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
4/10 (Fri.)	授業ガイダンス(授業概要の説明、iPad操作方法の説明など)						
4/14 (Tue.)	個人プレゼンテーションの基礎 第1回 / 小テスト(1)						
4/17 (Fri.)	個人プレゼンテーションの基礎 第2回 / リスニング練習(1)						
4/21 (Tue.)	個人プレゼンテーションの基礎 第3回 / 小テスト(2)						
4/23 (Fri.)	専門書精読の基礎 第1回 / リスニング練習(2)						
4/28 (Tue.)	専門書精読の基礎 第2回 / 小テスト(3)						
5/1 (Fri.)	専門書精読の基礎 第3回 / リスニング練習(3)						
5/5 (Tue.)	エッセイライティング 第1回 / 小テスト(4)						
5/8 (Fri.)	エッセイライティング 第2回 / リスニング練習(4)						
5/12 (Tue.)	エッセイライティング 第3回 / 小テスト(5)						
5/15 (Fri.)	個人プレゼン準備 第4回(パソコン持参推奨)						
5/19 (Tue.)	個人プレゼン(5分)発表(1) / 小テスト(6)						
5/22 (Fri.)	個人プレゼン(5分)発表(2)						
5/26 (Tue.)	個人プレゼン(5分)発表(3)、全体総括 / 小テスト(7)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな話題や、学部学科の専門に関する英文も正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を論理的、説得的に英文で表現することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題提出	55%	個人プレゼン(20%)、英文エッセイ(15%)、音読練習ファイル(10%)、その他(10%)		小テスト	20%	授業の内容に関する小テスト(全7回)	
ディスカッション	5%	プレゼン内容を踏まえたディスカッション		上記以外の評価	20%	NGSL 10%、授業内活動 10%	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定の課題に対して一日30分程度の学習を行うこと。</li> <li>・毎回の授業で指定される資料を用いた事前・事後学習を1時間程度行うこと。</li> </ul>				質問や相談は、大学メール(およびSkype for Business)にて対応する。また、研究室(C107)でも面談などでも対応可能(アポイントメント推奨)。			
教科書・テキスト	なし(資料配布予定)			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協同学習に積極的に参加すること。</li> <li>・授業外での学習を効果的に行うこと。</li> </ul>		
参考書・参考資料等	安藤貞雄(2005)『現代英文法講義』 野中泉(2016)『もう一度始める英語発音入門』			その他・特記事項	なし		

授業科目	Comprehensive English (G4)						
担当教員	宮崎 ひろ美		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)				
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。			さらに高度なリーディング・ライティングをいかして、論理的な思考能力と4技能を自在に運用する高度な英語力を養う。また、NGSL第5段階の語彙力を身に付ける。特に、与えられたトピックについて調べて発表したり、ショート・エッセイを書く力をつけることを目標とする。				
教授方法	グループ・リーディング、スキルを使った読解、速読練習(WPMを気にしながら黙読したり、オーバーラッピングをする)、プレゼンテーション、ショート・エッセイ(複数のパラグラフで構成されたライティング)などに取り組む。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(授業の進め方や学習方法などの説明)						
2	Unit 1(Reading 1) / プレゼンテーションについて(1/4)						
3	Unit 1(Writing) / プレゼンテーションについて(2/4)						
4	Unit 2(Reading 1) / プレゼンテーションについて(3/4)						
5	Unit 2(Writing) / プレゼンテーションについて(4/4)						
6	プレゼンテーション						
7	Unit 3(Reading 1)						
8	Unit 3(Writing)						
9	Unit 4(Reading 1)						
10	Unit 4(Writing)						
11	プレゼンテーション						
12	Unit 5(Reading 1)						
13	Unit 5(Writing)						
14	リーディング・スキルとライティングの復習						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな話題や、学部学科の専門に関する英文も正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を論理的、説得的に英文で表現することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
期末試験	40	リーディング・スキルを使った読解の理解度に応じて評価する。	プレゼンテーション	20	グループによるプレゼンテーションにより評価する。		
オンライン学習・ライティ	30	MyELT学習(15%)、ライティング課題(15%)	NGSL	10	学期末共通試験の理解度に応じて評価する。		
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応				
事前学習: 音読(1)内容を考えながらゆっくり読む。 (2)発音を意識してゆっくり読む。 教科書の読み物を熟読する。プレゼンテーションの準備をする。 事後学習: オンライン学習で復習をする。読み物をシャドーイングする。			非常勤講師控室に来てください(火曜日と金曜日のお昼休み)。または、メールで問い合わせること。メールアドレスは後日、知らせます。				
教科書・テキスト	Pathways 2A(2nd edition), Cengage Learning		受講生に望むこと	普段からなるべく英語にふれる機会をつくるようにしましょう(新聞、音楽、映画など)。			
参考書・参考資料等	特になし。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず辞書を持参すること(電子辞書可)</li> <li>・遅刻しないこと(20分を超えたら欠席とします)。</li> </ul>			

授業科目	Comprehensive English (G1)						
担当教員	中澤 はるみ			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
世界の様々な文化や社会に関する事柄についての文章を読みグローバルな視点と分析的な思考能力を養う。自分の意見を述べる練習としてディスカッションをグループで行う。				高度なリーディング、ライティングを英語でできるように4技能を自在に運用する英語力を養う。語彙力を伸ばし、コミュニケーションができるようにする。			
教授方法	文章読解の速度を上げ、読み物の内容について、自分の意見をまとめ、発表する。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション。授業方法、課題、試験などについて説明。						
2	色、迷信について。パラグラフ・ライティングについて学ぶ。						
3	自分の性格について書く。パラグラフをエッセイに発展させることを学ぶ。						
4	人物の伝記を読む。物語の構造について学ぶ。						
5	プレゼンテーション。テーマの決め方。						
6	食べ物について話す。和食と各国料理を比較する。						
7	食事、及びマナーについて考える。英語での比較対比の仕方を学ぶ。						
8	プレゼンテーション。聞き手を惹きつける話し方。						
9	言語について考える。英語で因果関係の説明ができるようになる。						
10	プレゼンテーション。仕上げ。						
11	ライティング。手紙、メールの書き方。						
12	ライティング。報告書の書き方。						
13	リーディング、リスニングのまとめ。						
14	まとめと総括。						
共通の評価基準							
グローバルな話題、学部、学科の専門に関する英文を正しく読むことができているか。やや専門的な内容においても英語で意見を聞き自分の意見を述べることができているか。自分の意見を論理的に説得力を持って英文で表現することができているか。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験	60%	授業内容の理解度に応じて評価する。		平常点	10%	授業の参加状況を評価する。	
授業レポート	20%	授業の中で与えられたレポートの成果を評価する。		上記以外の授業評価	10%	N G S L	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
毎回指定された課題の予習に取り組む。理解しきれなかった内容を授業後に復習する。				質問は授業中、及び授業前後に、またメールでも受ける。			
教科書・テキスト	VOCABULARY IN PRACTICE 6 GRAMMAR IN PRACTICE 6 Cambridge UP 他プリント教材。			受講生に望むこと	必ず英語の辞書を持参すること。英語の検定試験を受け自分の英語力を確認し、さらにスキルアップすること。		
参考書・参考資料等	必要に応じて指示する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Comprehensive English (G2)						
担当教員	中澤 はるみ			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルコースメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
世界の様々な文化や社会に関する事柄についての文章を読みグローバルな視点と分析的な思考能力を養う。自分の意見を述べる練習としてディスカッションをグループで行う。				高度なリーディング、ライティングを英語でできるように4技能を自在に運用する英語力を養う。語彙力を伸ばし、コミュニケーションができるようにする。			
教授方法	文章読解の速度を上げ、読み物の内容について、自分の意見をまとめ、発表する。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション。授業方法、課題、試験などについて説明。						
2	色、迷信について。パラグラフ・ライティングについて学ぶ。						
3	自分の性格について書く。パラグラフをエッセイに発展させることを学ぶ。						
4	人物の伝記を読む。物語の構造について学ぶ。						
5	プレゼンテーション。テーマの決め方。						
6	食べ物について話す。和食と各国料理を比較する。						
7	食事、及びマナーについて考える。英語での比較対比の仕方を学ぶ。						
8	プレゼンテーション。聞き手を惹きつける話し方。						
9	言語について考える。英語で因果関係の説明ができるようになる。						
10	プレゼンテーション。仕上げ。						
11	ライティング。手紙、メールの書き方。						
12	ライティング。報告書の書き方。						
13	リーディング、リスニングのまとめ。						
14	まとめと総括。						
共通の評価基準							
グローバルな話題、学部、学科の専門に関する英文を正しく読むことができているか。やや専門的な内容においても英語で意見を聞き自分の意見を述べることができているか。自分の意見を論理的に説得力を持って英文で表現することができているか。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験	60%	授業内容の理解度に応じて評価する。		平常点	10%	授業の参加状況を評価する。	
授業レポート	20%	授業の中で与えられたレポートの成果を評価する。		上記以外の授業評価	10%	N G S L	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
毎回指定された課題の予習に取り組む。理解しきれなかった内容を授業後に復習する。				質問は授業中、及び授業前後に、またメールでも受ける。			
教科書・テキスト	VOCABULARY IN PRACTICE 6 GRAMMAR IN PRACTICE 6 Cambridge UP 他プリント教材。			受講生に望むこと	必ず英語の辞書を持参すること。英語の検定試験を受け自分の英語力を確認し、さらにスキルアップすること。		
参考書・参考資料等	必要に応じて指示する。			その他・特記事項	特になし。		



授業科目	Academic English Communication (G3)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentation language, how to make the most of an overseas experience, and reviewing conversation strategies. Fluency in reading and speaking will be practiced. The fifth group of words (400) of the NGSL will be used.				Students will learn academic presentation language for individual and group presentations, discuss how to make the most of an overseas experience, practice conversation strategies, and learn the fifth group of words of the NGSL. Students will practice fluency in reading and speaking.			
教授方法	Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授 業 内 容						
1	Introduction to class, Presentation A explanation, model, language card and template						
2	Practice presentation language with outline, fluency reading and book talk						
3	Presentation A slide explanation, Conversation Strategies I practice and assignment, NGSL review						
4	Presentation A, fluency reading and book talk						
5	Presentation Phrases Test, Conversation Strategies II and assignment, Core Reading discussion						
6	Core Reading discussion, fluency reading and book talk						
7	Core Reading discussion, Conversation Strategies III practice and assignment, Presentation B explanation						
8	Presentation B outline and reporting to group, fluency reading and book talk						
9	Overseas Program destination group work, Conversation Strategies IV practice and assignment						
10	Overseas Program destination group work, fluency reading and book talk						
11	Overseas Program destination group work, Presentation Phrases practice, Conversation Strategies V practice and assignment						
12	Presentation C Group presentations on Overseas Program destination						
13	Presentation C Group presentations on Overseas Program destination						
14	Conversation Strategies test, fluency reading and book talk						
共通の評価基準							
Students will learn to give presentations in English using appropriate language, they will read and discuss the Core Reading and master conversation strategies and the fifth group of NGSL words (400).							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Presentations	40	1 group and 2 individual presentations		Writing assignments	30	Conversation Strategies assignments and Core Reading Assignments	
language skills	20	Conversation Strategies test and Presentation Phrases test		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
study is required before and after class				Students can visit the instructor's office any weekday or contact by email.			
教科書・テキスト	-			受講生に望むこと	A desire to express ideas in English.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G5)				
担当教員	Cheryl Kirchoff		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentation language, how to make the most of an overseas experience, and reviewing conversation strategies. Fluency in reading and speaking will be practiced. The fifth group of words (400) of the NGSL will be used.			Students will learn academic presentation language for individual and group presentations, discuss how to make the most of an overseas experience, practice conversation strategies, and learn the fifth group of words of the NGSL. Students will practice fluency in reading and speaking.		
教授方法	Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件	-				
<b>授 業 計 画</b>					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, Presentation A explanation, model, language card and template				
2	Practice presentation language with outline, fluency reading and book talk				
3	Presentation A slide explanation, Conversation Strategies I practice and assignment, NGSL review				
4	Presentation A, fluency reading and book talk				
5	Presentation Phrases Test, Conversation Strategies II and assignment, Core Reading discussion				
6	Core Reading discussion, fluency reading and book talk				
7	Core Reading discussion, Conversation Strategies III practice and assignment, Presentation B explanation				
8	Presentation B outline and reporting to group, fluency reading and book talk				
9	Overseas Program destination group work, Conversation Strategies IV practice and assignment				
10	Overseas Program destination group work, fluency reading and book talk				
11	Overseas Program destination group work, Presentation Phrases practice, Conversation Strategies V practice and assignment				
12	Presentation C Group presentations on Overseas Program destination				
13	Presentation C Group presentations on Overseas Program destination				
14	Conversation Strategies test, fluency reading and book talk				
<b>共通の評価基準</b>					
Students will learn to give presentations in English using appropriate language, they will read and discuss the Core Reading and master conversation strategies and the fifth group of NGSL words (400).					
<b>成績評価方法と基準</b>					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Presentations	40	1 group presentation and 2 individual presentations	Writing Assignments	30	Conversation Strategies assignments and Core Reading assignments
language skills	20	Conversation Strategies Test and Presentation Phrases Test	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
Study required before and after class			Students can visit the instructor's office any weekday or contact by email.		
教科書・テキスト	-		受講生に望むこと	A desire to express ideas in English.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English Communication (G2)						
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentation language, how to make the most of an overseas experience, and reviewing conversation strategies. Fluency in reading and speaking will be practiced. The fifth group of words (4000) of the NGSL will be used.				Students will learn academic presentation language for individual and group presentations, discuss how to make the most of an overseas experience, practice conversation strategies, and learn the fifth group of words of the NGSL. Students will practice fluency in reading and speaking.			
教授方法	Students will have listening comprehension exercises, do pair practices, and have group and class discussions in English. They will be asked to give presentations in English, and the teacher will give feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction, course overview, class policies and procedures						
2	Textbook Unit 1 and useful knowledge for English presentations						
3	Textbook Unit 2 and group presentations about students' study abroad programmes						
4	Textbook Unit 3 and group presentations about students' study abroad programmes						
5	Textbook Unit 4 and discussions about a 'global' person						
6	Textbook Unit 5 and discussions about global businessmen/businesswomen Case study 1: Anita Roddick						
7	Textbook Unit 6 and giving a presentation about a global businessman/businesswoman particularly respected by a student						
8	Textbook Unit 7 and giving a presentation about a global businessman/businesswoman particularly respected by a student						
9	Textbook Unit 8 and discussions about global companies Case study 1: The Body Shop						
10	Textbook Unit 9 and giving a presentation about a global company that interests a student most						
11	Textbook Unit 10 and giving a presentation about a global company that interests a student most						
12	Textbook Unit 11 and discussions about London, the financial centre of Britain						
13	Textbook Unit 12 and discussions about Brexit						
14	Textbook Unit 13 and Review						
共通の評価基準							
Students will learn to give presentations in English using appropriate language. They will read and discuss the Core Reading and master conversation strategies and the fifth group of NGSL words (400).							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
Presentations	40%	1 group and 2 individual presentations			listening exercise	20%	I will evaluate students' listening, reading and writing skills of English.
one exam	30%	Students' reading, listening and writing skills of English will be evaluated.			NGSL test	10%	80% pass or fail of the NGSL
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to prepare and review lessons. They also need to study the fifth group of 400 words of the NGSL.				I will be available for students before and after class for questions and consultation.			
教科書・テキスト	Takayuki Ishii & Joe Ciunci, All-Powerful Steps for The TOEIC Listening and Reading Test (Tokyo: Seibido, 2018). ISBN978-4-7919-6029-3.			受講生に望むこと	Perfect or near perfect attendance and active participation in class discussions are vital. Students are also expected to come to class on time. As they need to use their English-English dictionary constantly in class, please bring it to every class. Mobile phone dictionaries are not allowed. The working language of the class is English, so students must use it as much as possible.		
参考書・参考資料等	The teacher will distribute other handouts as well. She will supply students with a list of relevant and useful articles and books in class.						

その他・  
特記事項

If a student is late or absent more than three times without a valid written excuse, his/her grade will fall. Any student who has been absent for more than one third of the classes, cannot get a credit for this course. Please note that this permitted number of absences gives a student a reasonable allowance for any absences due to illnesses, injuries, compassionate leave and emergencies.

授業科目	Academic English Communication (G1)				
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
This class will prepare students for their overseas program by teaching academic presentation language, how to make the most of an overseas experience, and reviewing conversation strategies. Fluency reading and speaking will be practiced. The fifth group of words (401) words of the NGSL will be used.			Students will learn academic presentation language for individual and group presentations, discuss how to make the most of an overseas experience, practice conversation strategies, and learn the fifth group of words of the NGSL. Students will practice fluency in reading and speaking.		
教授方法	Every class will include be active and include discussion activities. There will also be regular writing, reading, and listening activities, as well as NGSL study.				
履修条件	-				
<b>授 業 計 画</b>					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, Presentation A explanation, model, language card and template				
2	Practice presentation language with outline, fluency reading and book talk				
3	Presentation A slide explanation, Conversation Strategies I practice and assignment, NGSL review				
4	Presentation A, fluency reading and book talk				
5	Presentation Phrases Test, Conversation Strategies II and assignment, Core Reading discussion				
6	Core Reading discussion, fluency reading and book talk				
7	Core Reading discussion, Conversation Strategies III practice and assignment, Presentation B explanation				
8	Presentation B outline and reporting to group, fluency reading and book talk				
9	Overseas Program destination group work, Conversation Strategies IV practice and assignment				
10	Overseas Program destination group work, fluency reading and book talk				
11	Overseas Program destination group work, Presentation Phrases practice, Conversation Strategies V practice and assignment				
12	Presentation C Group presentations on Overseas Program destination				
13	Presentation C Group presentations				
14	Conversation Strategies test, fluency reading and book talk				
<b>共通の評価基準</b>					
Students will learn to give presentations in English using appropriate language, they will read and discuss the Core Reading and master conversation strategies and the fifth group of NGSL words (400).					
<b>成績評価方法と基準</b>					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Presentations	40	1 group and 2 individual presentations	Writing and other	30	Conversation Strategies assignments, Core Reading assignments
language skills	20	tests on conversation strategies and presentation phrases	Vocabulary	10	80% Pass or Fail of the NGSL
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
Much studying before and after class, and active participation are required.			Contact me before or after class, or send email or contact me at my office.		
教科書・テキスト	There is no required text.		受講生に望むこと	Students should show a willingness to communicate in English.	
参考書・参考資料等	Access to a good dictionary (paper, electronic, or online).		その他・特記事項	I am excited for you to be going overseas. Work hard. Good luck.	

授業科目	Academic English Communication (G4)						
担当教員	Keff Kenner			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentation language, how to make the most of an overseas experience, and reviewing conversation strategies. Fluency in reading and speaking will be practiced. The fifth group of words (400) of the NGSL will be used.				Students will learn academic presentation language for individual and group presentations, discuss how to make the most of an overseas experience, practice conversation strategies, and learn the fifth group of words of the NGSL. Students will practice fluency in reading and speaking.			
教授方法	Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Presentation A explanation, model, language card and template						
2	Practice presentation language with outline, fluency reading and book talk						
3	Presentation A slide explanation, Conversation Strategies I practice and assignment, NGSL review						
4	Presentation A, fluency reading and book talk						
5	Presentation Phrases Test, Conversation Strategies II and assignment, Core Reading discussion						
6	Core Reading discussion, fluency reading and book talk						
7	Core Reading discussion, Conversation Strategies III practice and assignment, Presentation B explanation						
8	Presentation B outline and reporting to group, fluency reading and book talk						
9	Overseas Program destination group work, Conversation Strategies IV practice and assignment						
10	Overseas Program destination group work, fluency reading and book talk						
11	Overseas Program destination group work, Presentation Phrases practice, Conversation Strategies V practice and assignment						
12	Presentation C Group presentations on Overseas Program destination						
13	Presentation C Group presentations						
14	Conversation Strategies test, fluency reading and book talk						
共通の評価基準							
Students will learn to give presentations in English using appropriate language, they will read and discuss the Core Reading and master conversation strategies and the fifth group of NGSL							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
Presentations	40	1 group and 2 individual presentations			Writing and other	30	Conversation Strategies assignments, Core Reading assignments
Language Skills	20	tests on conversation strategies and presentation phrases			vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
study required before and after class				Please contact instructor by email.			
教科書・テキスト	In Focus 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	A desire to express ideas in English		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G6)						
担当教員	高橋 ユウエン			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルコースメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentation language, how to make the most of an overseas experience, and reviewing conversation strategies. Fluency in reading and speaking will be practices. The fifth group of words (400) of the NGSL will be used.				Students will learn academic presentation language for individual and group presentations, discuss how to make the most of an overseas experience, practice conversation strategies, and learn the fifth group of words of the NGSL. Students will practice fluency in reading and speaking.			
教授方法	Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Presentation A explanation, model, language card and template						
2	Practice presentation language with outline, fluency reading and book talk						
3	Presentation A slide explanation, Conversation Strategies I practice and assignment, NGSL review						
4	Presentation A, fluency reading and book talk						
5	Presentation Phrases Test, Conversation Strategies II and assignment, Core Reading discussion						
6	Core Reading discussion, fluency reading and book talk						
7	Core Reading discussion, Conversation Strategies III practice and assignment, Presentation B explanation						
8	Presentation B outline and reporting to group, fluency reading and book talk						
9	Overseas Program destination group work, Conversation Strategies IV practice and assignment						
10	Overseas Program destination group work, fluency reading and book talk						
11	Overseas Program destination group work, Presentation Phrases practice, Conversation Strategies V practice and assignment						
12	Presentation C Group presentations on Overseas Program destination						
13	Presentation C Group presentations						
14	Conversation Strategies test, fluency reading and book talk						
共通の評価基準							
Students will learn to give presentations in English using appropriate language, they will read and discuss the Core Reading and master conversation strategies and the fifth group of NGSL words (400).							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
presentation	40	1 group and 2 individual presentations			writing and other	30	Conversation Strategies assignments, Core Reading assignments
language skills	20	tests on conversation strategies and presentation phrases			vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
study required before and after class				Students can ask questions after class or make an appointment. Contact by e-mail. is also okay.			
教科書・テキスト	-			受講生に望むこと	Have an open mind and respect for each other		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G7)						
担当教員	高橋 ユウエン			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentation language, how to make the most of an overseas experience, and reviewing conversation strategies. Fluency in reading and speaking will be practiced. The fifth group of words (400) of the NGSL will be used.				Students will learn academic presentation language for individual and group presentations, discuss how to make the most of an overseas experience, practice conversation strategies, and learn the fifth group of words of the NGSL. Students will practice fluency in reading and speaking.			
教授方法	Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Presentation A explanation, model, language card and template						
2	Practice presentation language with outline, fluency reading and book talk						
3	Presentation A slide explanation, Conversation Strategies I practice and assignment, NGSL review						
4	Presentation A, fluency reading and book talk						
5	Presentation Phrases Test, Conversation Strategies II and assignment, Core Reading discussion						
6	Core Reading discussion, fluency reading and book talk						
7	Core Reading discussion, Conversation Strategies III practice and assignment, Presentation B explanation						
8	Presentation B outline and reporting to group, fluency reading and book talk						
9	Overseas Program destination group work, Conversation Strategies IV practice and assignment						
10	Overseas Program destination group work, fluency reading and book talk						
11	Overseas Program destination group work, Presentation Phrases practice, Conversation Strategies V practice and assignment						
12	Presentation C Group presentations on Overseas Program destination						
13	Presentation C Group presentations						
14	Conversation Strategies test, fluency reading and book talk						
共通の評価基準							
Students will learn to give presentations in English using appropriate language; they will read and discuss the Core Reading and master conversation strategies and the fifth group of NGSL words (400).							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
presentations	40	1 group and 2 individual presentations			writing and other	30	Conversation Strategies assignments, Core Reading assignments
language skills	20	tests on conversation strategies and presentation phrases			vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Study required before and after class.				Students can ask questions after class or make an appointment. Contact by e-mail is also okay.			
教科書・テキスト	-			受講生に望むこと	Have an open mind and respect for each other.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		



授業科目		Career English (G5)					
担当教員	坂 淳一			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEIC、英検その他の英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶことによって、仕事の舞台でもグローバルに活躍する英語力の基礎を身に付ける。				TOEIC、英検などで高いスコアを取る力を養い、検定試験に必要な語彙力を身に付ける。各種英語検定で安定的に一定の得点が取れるよう、文法と語彙に重点を置きつつ、その他の技能やビジネスライティングの基礎力の確立も目指す。			
教授方法	文法解説、TOEIC練習問題、音読やリスニングの演習、各種小テストなど、様々な方法で4技能を鍛えてゆく。また、e-learning も活用する。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	TOEIC L&R テストの解説と基礎演習。英文法解説(1)						
2	TOEIC リーディング演習(1)、英文法解説(2)						
3	TOEIC リーディング演習(2)、英文法解説(3)						
4	TOEIC リーディング演習(3)、英文法解説(4)						
5	TOEIC リーディング演習(4)、英文法解説(5)、TOEIC語彙と訳小テスト(1)						
6	TOEIC リーディング演習(5)、英文法解説(6)						
7	TOEIC リーディング演習(6)、TOEIC リスニングセクションの解説、TOEIC語彙と訳小テスト(2)						
8	TOEIC リーディング演習(7)、TOEIC リスニング(1)						
9	TOEIC リーディング演習(8)、TOEIC リスニング(2)、英文手紙の基礎(1)、TOEIC語彙と訳小テスト(3)						
10	TOEIC リーディング演習(9)、TOEIC リスニング(3)、英文手紙の基礎(2)						
11	TOEIC リーディング演習(10)、TOEIC リスニング(4)、英文メールの基礎(1)、TOEIC語彙と訳小テスト(4)						
12	TOEIC リーディング演習(11)、TOEIC リスニング(5)、英文メールの基礎(2)						
13	TOEIC リーディング演習(12)、TOEIC リスニング(6)、英文メールの基礎(3)、TOEIC語彙と訳小テスト(5)						
14	復習と総合演習						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ TOEICにおいて500点程度を取る実力があるか。</li> <li>・ 英語で履歴書や手紙が書けるか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験(筆記)	30	学期末試験の点数		授業レポート	30	ライティング、授業中の課題や練習問題の評価	
小テスト	30	TOEIC語彙と訳小テストの合計		上記以外の授業評価	10	e-learning の学習量	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
指示された予習を毎回きちんと行い、小テストやライティングレポートにしっかり取り組むこと。				授業時に教室で質問するか、研究室に聞きに来てください。			
教科書・テキスト	TOEIC(R)テスト 新形式精選模試 リーディング(ジャパンタイムズ社)、TOEIC(R)テスト 新形式精選模試 リスニング(CD-ROM1枚つき)(ジャパンタイムズ社)			受講生に望むこと	日頃から様々な形で出来るだけたくさん英語に接して下さい。		
参考書・参考資料等	プリントで配布するか、OneNoteで配信します。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		Career English (G1)					
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEIC、英検その他の英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶことによって、仕事の舞台でもグローバルに活躍する英語力の基礎を身に付ける。				TOEIC、英検などで高いスコアを取る力を養う/検定試験に必要な語彙力を身に付ける。特に、ビジネス英語において役立つ基本表現および文法運用力を習得することを目標とする。			
教授方法	ペア・グループワークへの参加やメディアシステムへの録音等、アウトプットが積極的に求められる。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス(シラバス、TOEIC L&R等)、セルフチェックなど						
2	語彙確認テスト(No. 1-40)、Listening Part 1の問題検討(写真のチェック)、Part 5の問題演習(1)						
3	Listening Part 1の問題検討(動作、状態)、Part 6の問題演習(1)、Part 7の問題演習(1. 前半)						
4	語彙確認テスト(No. 41-80)、Listening Part 2の問題検討(キーワードを避ける)、Part 7の問題演習(1. 後半)						
5	Listening Part 2の問題検討(WH疑問文、決まり文句)、Part 5の問題演習(2)、Part 6の問題演習(2)						
6	語彙確認テスト(No. 81-120)、Listening Part 2の問題検討(OR選択疑問文)、Part 7の問題演習(2. 前半)						
7	TOEICのミニテスト(1)と解説						
8	語彙確認テスト(No. 121-160)、Listening Part 2の問題検討(各種疑問文)、Part 7の問題演習(2. 後半)						
9	Listening Part 3の問題検討(設問の先読み、大まかな背景情報)、Part 5の問題演習(3)、Part 6の問題演習(3)						
10	Listening Part 3の問題検討(do next問題)、Listening Part 4の問題検討(話の流れをつかむ)、Part 7の問題演習(3. 前半)						
11	語彙確認テスト(No. 161-200)、Listening Part 3の問題検討(各種疑問文)、英文カバーレター・レジユメの書き方(1)						
12	Listening Part 4の問題検討(話し手)、Listening Part 4の問題検討(ピンポイント問題)、Part 7の問題演習(3. 後半)						
13	語彙確認テスト(No. 201-240)、Listening Part 4の問題検討(トークの目的)、英文カバーレター・レジユメの書き方(2)						
14	TOEICのミニテスト(2)と解説						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEICにおいて500点程度を取る実力があるか。</li> <li>・英語で履歴書や手紙が書けるか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
語彙確認テスト	20	ビジネス英語表現の習得を測る		ミニテスト	20	TOEIC L&R, Wに対応する英語力を測る	
定期試験(筆記)	40	TOEIC L&R, Wに対応する英語力を測る		その他	20	カバーレター・レジユメ(10%)、E-learning(10%)	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定範囲の教材の通読および演習を行い、事後学習として指定される関連範囲の反復練習を行うこと。授業時間外のALC E-learningの取り組みは計画的に進めてください。				大学のOffice365アカウントから、EmailまたはTeams/Skype for Businessで連絡をください。また、学内オフィスC105にて、簡単な質問は随時、面談はアポイントメントを設定したうえで、受け付けます。			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEIC®テスト新形式精選模試リーディング2(中村紳一郎 監修、ジャパンタイムズ出版、ISBN 978-4-7890-1720-6)</li> <li>・TOEIC®L&amp;R TEST出る単特急 金のセンテンス(TEX 加藤、朝日新聞出版、ISBN 978-4-02-331765-9)</li> <li>【以上2冊】</li> </ul>			受講生に望むこと	TOEIC IPテストの「リーディング」において420点を目標してください。		
参考書・参考資料等	OneNoteにアップされている資料を活用すること			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English (G2)						
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEIC、英検その他の英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶことによって、仕事の舞台でもグローバルに活躍する英語力の基礎を身に付ける。				TOEIC、英検などで高いスコアを取る力を養う/検定試験に必要な語彙力を身に付ける。特に、シャドーイングによりリスニング力を確実にアップさせたり、emailを書く、会議の設定をするなど、さまざまなビジネス・シーンで役立つ英語を適切に使いこなせるようになることを目標とする。			
教授方法	はじめに語彙・文法に関する小テストをする(週一回)。続けて授業の前半は教科書付属のTOEIC L&R対策、後半はさまざまなビジネス・シーンについてペアまたはグループで取り組む。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(授業の進め方などについて説明) / Unit 1(Welcome to the company, 1/2)						
2	TOEIC練習(1) / Unit 1(Welcome to the company, 2/2)						
3	小テスト(1) / TOEIC練習(2) / Unit 2(An important visitor, 1/2)						
4	TOEIC練習(3) / Unit 2(An important visitor, 2/2)						
5	小テスト(2) / TOEIC練習(4) / Unit 3(What's on the agenda?, 1/2)						
6	TOEIC練習(5) / Unit 3(What's on the agenda?, 2/2)						
7	小テスト(3) / TOEIC練習(6) / Unit 4(That's a great idea!, 1/2)						
8	TOEIC練習(7) / Unit 4(That's a great idea!, 2/2)						
9	小テスト(4) / TOEIC練習(8) / Review: Units 1-4						
10	TOEIC練習(9) / Unit 5(I'll call you back, 1/2)						
11	TOEIC練習(10) / Unit 5(Unit 5(I'll call you back, 2/2)						
12	小テスト(5) / TOEIC練習(11) / Unit 6(Can I get there on foot?, 1/2)						
13	TOEIC練習(12) / Unit 6(Can I get there on foot?, 2/2)						
14	小テスト(6) / シャドーイングの確認 / まとめ						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEICにおいて500点程度を取る実力があるか。</li> <li>・英語で履歴書や手紙が書けるか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
期末試験	50	ビジネス・シーンでの対応が適切かどうかに応じて評価する。	課題	20	課題に真摯に取り組み、提出したかどうかに応じて評価する。		
小テスト	20	語彙や文法に関する小テストを行い、理解度に応じて評価する。	その他	10	e-learning		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習:小テストの準備。教科書の該当Unitを熟読すること。 事後学習:シャドーイングでリスニングの復習をする。課題やe-learningに取り組む。				非常勤講師控室に来てください(火曜日と金曜日のお昼休み)。または、メールで問い合わせること。メールアドレスは後日、知らせます。			
教科書・テキスト	Get Ready for International Business (MACMILLAN, 2013)			受講生に望むこと	普段からなるべく英語にふれる機会をつくるようにしましょう(新聞、音楽、映画など)。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず辞書を持参すること(電子辞書可)。</li> <li>・遅刻しないこと(20分を超えたら欠席とします)。</li> <li>・遅刻や欠席した場合など、小テストの再試験を行いません。</li> </ul>		

授業科目	Career English (G7)						
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEIC、英検その他の英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶことによって、仕事の舞台でもグローバルに活躍する英語力の基礎を身に付ける。				TOEIC、英検などで高いスコアを取る力を養う/検定試験に必要な語彙力を身に付ける。特に、シャドーイングによりリスニング力を確実にアップさせたり、emailを書く、会議の設定をするなど、ビジネス・シーンで役立つ英語を適切に使いこなせるようになることを目標とする。			
教授方法	はじめに語彙・文法に関する小テストをする(週一回)。続けて授業の前半は教科書付属のTOEIC L&R対策、後半はさまざまなビジネス・シーンについてペアまたはグループで取り組む。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(授業の進め方などについて説明)/Unit 1(Welcome to the company, 1/2)						
2	TOEIC練習(1)/Unit 1(Welcome to the company, 2/2)						
3	小テスト(1)/TOEIC練習(2)/Unit 2(An important visitor, 1/2)						
4	TOEIC練習(3)/Unit 2(An important visitor, 2/2)						
5	小テスト(2)/TOEIC練習(4)/Unit 3(What's on the agenda?, 1/2)						
6	TOEIC練習(5)/Unit 3(What's on the agenda?, 2/2)						
7	小テスト(3)/TOEIC練習(6)/Unit 4(That's a great idea!, 1/2)						
8	TOEIC練習(7)/Unit 4(That's a great idea!, 2/2)						
9	小テスト(4)/TOEIC練習(8)/Review: Units 1-4						
10	TOEIC練習(9)/Unit 5(I'll call you back, 1/2)						
11	TOEIC練習(10)/Unit 5(I'll call you back, 2/2)						
12	小テスト(5)/TOEIC練習(11)/Unit 6(Can I get there on foot?, 1/2)						
13	TOEIC練習(12)/Unit 6(Can I get there on foot?, 2/2)						
14	小テスト(6)/シャドーイングの確認/まとめ						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEICにおいて500点程度を取る実力があるか。</li> <li>・英語で履歴書や手紙が書けるか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
期末試験	50	ビジネス・シーンでの対応が適切かどうかに応じて評価する。	課題	20	課題に真摯に取り組み、提出したかどうかに応じて評価する。		
小テスト	20	語彙や文法に関する小テストを行い、理解度に応じて評価する。	その他	10	e-learning		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習:小テストの準備。教科書の該当Unitを熟読すること。 事後学習:シャドーイングでリスニングの復習をする。課題やe-learningに取り組む。				非常勤講師控室に来てください(火曜日と金曜日のお昼休み)。または、メールで問い合わせること。メールアドレスは後日、知らせます。			
教科書・テキスト	Get Ready for International Business (MACMILLAN, 2013)			受講生に望むこと	普段からなるべく英語にふれる機会をつくるようにしましょう(新聞、音楽、映画など)。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず辞書を持参すること(電子辞書可)。</li> <li>・遅刻しないこと(20分を超えたら欠席とします)。</li> <li>・遅刻や欠席した場合など、小テストの再試験を行いません。</li> </ul>		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G5)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル人材育成	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.				Students will develop their English comprehension skills and communication skills.			
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, text and Trade Show, Crowdfunding lesson						
2	Textbook Unit 1, Trade Show Crowdfunding discussion, Product Development explanation						
3	Textbook Unit 1, Trade Show Product Proposal assignment						
4	Textbook Unit 2, TOEIC Speaking and Writing practice						
5	Textbook Unit 2, TOEIC Speaking and Writing practice						
6	Textbook Unit 3, Trade Show Product Proposal evaluation						
7	Textbook Unit 3, Trade Show team formation						
8	Unit 3, Trade Show team formation						
9	Unit 4, Trade Show team customer profile discussion						
10	Unit 4, Trade Show Elevator Pitch explanation						
11	Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show poster planning						
12	Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show poster planning						
13	Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice						
14	Text listening test, Trade Show team and self-evaluation						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can write a proposal and a speech about a new product.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Textbook	40%	Discussion, vocabulary, listening tests. Homework checks.		Trade Show preparat	40%	Students will make a product proposal, Elevator Pitch, team poster, and more.	
TOEIC Speaking and	20%	TOEIC related assignments similar to the TOEIC test.		-	-	-	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do Trade Show preparation outside of class both individually and in groups. There will be regular homework checks and homework must be finished before class.				If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email.			
教科書・テキスト	Business Plus 2, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared before class begins.		
参考書・参考資料等	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G6)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.				Students will develop their English comprehension skills and communication skills.			
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, text and Trade Show, Crowdfunding lesson						
2	Textbook Unit 1, Trade Show Crowdfunding discussion, Product Development explanation						
3	Textbook Unit 1, Trade Show Product Proposal assignment						
4	Textbook Unit 2, TOEIC Speaking and Writing practice						
5	Textbook Unit 2, TOEIC Speaking and Writing practice						
6	Textbook Unit 3, Trade Show Product Proposal evaluation						
7	Textbook Unit 3, Trade Show team formation						
8	Unit 3, Trade Show team formation						
9	Unit 4, Trade Show team customer profile discussion						
10	Unit 4, Trade Show Elevator Pitch explanation						
11	Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show poster planning						
12	Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show poster planning						
13	Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice						
14	Text listening test, Trade Show team and self-evaluation						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can write a proposal and a speech about a new product.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Textbook	40%	Discussion, vocabulary, listening tests. Homework checks.		Trade Show preparat	40%	Students will make a product proposal, Elevator Pitch, team poster, and more.	
TOEIC Speaking and	20%	TOEIC related assignments similar to the TOEIC test.		-	-	-	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do Trade Show preparation outside of class both individually and in groups. There will be regular homework checks and homework must be finished before class.				If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email.			
教科書・テキスト	Business Plus 2, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared before class begins.		
参考書・参考資料等	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G7)				
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.			Students will develop their English comprehension skills and communication skills.		
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.				
履修条件	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Orientation. Textbook Unit 10, Trade Show Preparation				
2	Textbook Unit 1, Trade Show Crowdfunding discussion, Product Development explanation				
3	Textbook Unit 1, Trade Show Product Proposal assignment				
4	Textbook Unit 2, TOEIC Speaking and Writing practice				
5	Textbook Unit 2, TOEIC Speaking and Writing practice				
6	Textbook Unit 3, Trade Show Product Proposal evaluation				
7	Textbook Unit 3, Trade Show team formation				
8	Unit 3, Trade Show team formation				
9	Unit 4, Trade Show team customer profile discussion				
10	Unit 4, Trade Show Elevator Pitch explanation				
11	Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show poster planning				
12	Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show poster planning				
13	Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice				
14	Text listening test, Trade Show team and self-evaluation				
共通の評価基準					
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can write a proposal and a speech about a new product.					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Textbook	40	discussion, vocabulary and listening tests	Trade show preparat	40	write a product proposal, elevator pitch, team poster
TOEIC Speaking and	20	assignments similar to the test	-	-	-
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
Much study is required before, during, and after class.			Send me email, come to my office, or talk to me before, during, or after class.		
教科書・テキスト	Business Plus 2, Helliwell, Cambridge University Press, 2014		受講生に望むこと	Students need to demonstrate willingness to communicate.	
参考書・参考資料等	Access to a good dictionary (paper, electronic, or online) would be helpful.		その他・特記事項	Work hard. Use English. Little by little. Step by step.	

授業科目	Academic English for Global Mobility (G2)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル人材育成	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.				Students will develop their English comprehension skills and communication skills.			
教授方法	Students' academic English language skills (speaking, listening, reading, writing) and pragmatic skills will be developed. By the end of this course, students will be able to: communicate and repair communication effectively; read about and discuss current global issues and product development; locate and use resources for independent learning.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Course orientation, syllabus, introductions, textbook, trade show						
2	Trade Show Crowdfunding discussion, product development explanation						
3	Trade show product proposal						
4	TOEIC						
5	TOEIC						
6	Trade show product proposal evaluation						
7	TOEIC						
8	Trade show team work						
9	Trade show customer profiles						
10	Trade show elevator pitch						
11	Trade show poster						
12	Trade show poster						
13	TOEIC						
14	TOEIC, course evaluation and review						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can write a proposal and a speech about a new product.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Textbook assignments	40	Recorded speeches, discussion, and listening tests		Trade show preparat	40	Product proposal, elevator pitch, poster	
TOEIC Speaking and	20			-	-	-	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Before class, read, write, and prepare materials. This includes the text, relevant vocabulary, reports, trade show assignments, and online documents. After class, review material that we have learned, and reflect on what you can and cannot do yet.				Contact by Google Form, email and office hours.			
教科書・テキスト	Instructor- and student-provided materials			受講生に望むこと	Work hard, complete all tasks, collaborate with classmates, formulate and ask questions, be curious and critical and creative.		
参考書・参考資料等	Digital literacy skills and cloud-based computing will be used.			その他・特記事項	Students must miss no more than 4 classes in order to achieve a passing grade.		



授業科目	Academic English for Global Mobility (G4)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.			Students will develop their English comprehension skills and communication skills.		
教授方法	Classes are focused on practical business English. Students will prepare themselves for real world English situations as well as all their trade show project.				
履修条件	-				
<b>授 業 計 画</b>					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, text and Trade Show, Crowdfunding lesson				
2	Textbook Unit 1, Trade Show Crowdfunding discussion, Product Development explanation				
3	Textbook Unit 1, Trade Show Product Proposal assignment				
4	Textbook Unit 2, TOEIC Speaking and Writing practice				
5	Textbook Unit 2, TOEIC Speaking and Writing practice				
6	Textbook Unit 3, Trade Show Product Proposal evaluation				
7	Textbook Unit 3, Trade Show team formation				
8	Unit 3, Trade Show team formation				
9	Unit 4, Trade Show team customer profile discussion				
10	Unit 4, Trade Show Elevator Pitch explanation				
11	Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show poster planning				
12	Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show poster planning				
13	Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice				
14	text listening test, Trade Show team and self-evaluation				
<b>共通の評価基準</b>					
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can write a proposal and a speech about a new product.					
<b>成績評価方法と基準</b>					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
textbook assignments	40	discussion, vocabulary and listening tests	Trade Show Preparat	40	write a product proposal, Elevator Pitch, team poster
TOEIC Speaking and	20	assignments similar to the test	-	-	-
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
Students are expected to do one hour of homework for every class.			Students can contact the instructor via e-mail mision.miguel@u-nagano.ac.jp		
教科書・テキスト	Business Plus 2, Helliwell, Cambridge University Press, 2014		受講生に望むこと	This class will focus on a lot of listening exercises, students are expected to practice listening outside of class as well. The trade show project will involve a lot of group work, it is expected students behave in a co-operative and respectful manner to their group members.	
参考書・参考資料等	It is hoped students familiarize themselves with current events in the news for this class.			その他・特記事項	-

授業科目	Academic English for Global Mobility (G1)				
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.			Students will develop their English comprehension skills and communication skills.		
教授方法	Classes are active and student-centered. Students will discuss topics from the textbook, prepare a product presentation for the Trade Show, and refine their presentation skills.				
履修条件	-				
<b>授 業 計 画</b>					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, text and Trade Show, Crowdfunding lesson				
2	Textbook Unit 1, Trade Show Crowdfunding discussion, Product Development explanation				
3	Textbook Unit 1, Trade Show Product Proposal assignment				
4	Textbook Unit 2, TOEIC Speaking and Writing practice				
5	Textbook Unit 2, TOEIC Speaking and Writing practice				
6	Textbook Unit 3, Trade Show Product Proposal evaluation				
7	Textbook Unit 3, Trade Show team formation				
8	Textbook Unit 3, Trade Show team formation				
9	Textbook Unit 4, Trade Show team customer profile discussion				
10	Textbook Unit 4, Trade Show Elevator Pitch explanation				
11	Textbook Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show poster planning				
12	Textbook Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show poster planning				
13	Textbook Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice				
14	Textbook exam, Trade Show team and self-evaluation				
<b>共通の評価基準</b>					
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can write a proposal and a speech about a new product.					
<b>成績評価方法と基準</b>					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Textbook assignments	40	discussion, vocabulary and listening tests	Trade Show Preparat	40	write a product proposal, Elevator Pitch, team poster
TOEIC Speaking and	20	assignments similar to the test	-	-	-
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
Review target language and complete any assigned homework			Students can email me or meet me before or after scheduled classes		
教科書・テキスト	Business Plus 2, Helliwell, Cambridge University Press, 2014		受講生に望むこと	Students should work hard inside and outside of the classroom, as well as help and support each other in the learning process.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English for Global Mobility (G3)				
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.			Students will develop their English comprehension skills and communication skills.		
教授方法	Classes are active and student-centered. Students will discuss topics from the textbook, prepare a product presentation for the Trade Show, and refine their presentation skills.				
履修条件	-				
<b>授 業 計 画</b>					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, text and Trade Show, Crowdfunding lesson				
2	Textbook Unit 1, Trade Show Crowdfunding discussion, Product Development explanation				
3	Textbook Unit 1, Trade Show Product Proposal assignment				
4	Textbook Unit 2, TOEIC Speaking and Writing practice				
5	Textbook Unit 2, TOEIC Speaking and Writing practice				
6	Textbook Unit 3, Trade Show Product Proposal evaluation				
7	Textbook Unit 3, Trade Show team formation				
8	Textbook Unit 3, Trade Show team formation				
9	Textbook Unit 4, Trade Show team customer profile discussion				
10	Textbook Unit 4, Trade Show Elevator Pitch explanation				
11	Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show poster planning				
12	Textbook Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show poster planning				
13	Textbook Unit 4, TOEIC Speaking and Writing practice				
14	Textbook exam, Trade Show team and self-evaluation				
<b>共通の評価基準</b>					
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can write a proposal and a speech about a new product.					
<b>成績評価方法と基準</b>					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Textbook Assignments	40	discussion, vocabulary and listening tests	Trade Show Preparat	40	write a product proposal, Elevator Pitch, team poster
TOEIC Speaking and	20	assignments similar to the test	-	-	-
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
Review target language and complete any assigned homework.			Students can email me or meet me before or after scheduled classes.		
教科書・テキスト	Business Plus 2, Helliwell, Cambridge University Press, 2014		受講生に望むこと	Students should work hard inside and outside of the classroom, as well as help and support each other in the learning process.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Career English (G5)						
担当教員	坂 淳一			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEIC、英検その他の英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね600点台から700点台以上のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行う。				TOEIC、英検などで高いスコアを取る力を養う/検定試験に必要な語彙力をさらに高める。特に、L&R 試験のための受け身の技能だけではなく、S&W テストも意識して、スピーキングやライティングの力も高めることを目標とする。			
教授方法	文法解説、TOEIC練習問題、音読やリスニングの演習、各種小テストなど、様々な方法で4技能を鍛えてゆく。また、e-learning も活用する。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	TOEIC S&W テストの解説と基礎演習。						
2	TOEIC L&R 演習(1)、S&W 演習(1)、ビジネスライティング演習(1)						
3	TOEIC L&R 演習(2)、S&W 演習(3)、ビジネスライティング演習(2)						
4	TOEIC L&R 演習(3)、S&W 演習(4)、ビジネスライティング演習(3)、TOEIC L&R 小テスト(語彙と訳を含む)(1)						
5	TOEIC L&R 演習(4)、S&W 演習(5)、ビジネスライティング演習(4)						
6	TOEIC L&R 演習(5)、S&W 演習(6)、ビジネスライティング演習(5)、TOEIC L&R 小テスト(語彙と訳を含む)(2)						
7	TOEIC L&R 演習(6)、S&W 演習(7)、ビジネスライティング演習(6)						
8	TOEIC L&R 演習(7)、S&W 演習(8)、英語履歴書とカバーレター解説(1)、TOEIC L&R 小テスト(語彙と訳を含む)(3)						
9	TOEIC L&R 演習(8)、S&W 演習(9)、英語履歴書とカバーレター解説(2)						
10	TOEIC L&R 演習(9)、S&W 演習(10)、英語履歴書とカバーレター解説(3)、TOEIC L&R 小テスト(語彙と訳を含む)(4)						
11	TOEIC L&R 演習(10)、英語面接演習(1)						
12	TOEIC L&R 演習(11)、英語面接演習(2)、TOEIC L&R 小テスト(語彙と訳を含む)(20)、TOEIC L&R 小テスト(語彙と訳を含む)(5)						
13	TOEIC L&R 演習(12)、英語面接演習(3)						
14	総復習と総合演習、復習テスト						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEICにおいて600点程度を取る実力があるか。</li> <li>・英語でビジネスレターを書き、面接に対応することが出来るか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験(英語面接)	20	英語面接の評価		授業レポート	30	ライティング、授業中の課題や練習問題の評価	
小テスト	40	TOEIC L&R 小テストと復習テストの合計		上記以外の授業評価	10	e-learning の学習量	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
指示された予習を毎回きちんと行い、宿題やライティングレポートにしっかり取り組むこと。				授業時に教室で質問するか、研究室に聞きに来てください。			
教科書・テキスト	TOEIC(R)テスト 新形式精選模試 リーディング(ジャパンタイムズ社)、TOEIC(R)テスト 新形式精選模試 リスニング(CD-ROM1枚つき)(ジャパンタイムズ社)			受講生に望むこと	日頃から様々な形で出来るだけたくさん英語に接して下さい。		
参考書・参考資料等	プリントで配布するか、OneNoteで配信します。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English (G1)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEIC、英検その他の英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね600点台から700点台以上のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行う。				TOEIC、英検などで高いスコアを取る力を養う/検定試験に必要な語彙力をさらに高める。特に、ビジネス英語に必要な表現力および大意と詳細を短時間でつかめる読解力を習得することを目標とする。			
教授方法	ペア・グループワークへの参加やメディアシステムへの録音等、アウトプットが積極的に求められる。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	TOEIC Speaking & Writingの傾向の説明、練習問題						
2	語彙確認テスト(No. 241-280)、Listening Part 1の問題検討(前半)、Part 5の問題演習(4)						
3	Listening Part 1の問題検討(後半)、Part 6の問題演習(4)、Part 7の問題演習(4. 前半)						
4	語彙確認テスト(No. 281-320)、Listening Part 2の問題検討(前半)、Part 7の問題演習(4. 後半)						
5	Listening Part 2の問題検討(後半)、Part 5の問題演習(5)、Part 6の問題演習(5)						
6	語彙確認テスト(No. 321-360)、Listening Part 3の問題検討(前半)、Part 7の問題演習(5. 前半)						
7	TOEICのミニテスト(1)と解説						
8	Listening Part 3の問題検討(後半)、Part 7の問題演習(5. 後半)						
9	Listening Part 4の問題検討(1)、Eメール ライティング(1)						
10	Listening Part 4の問題検討(2)、Eメール ライティング(2)						
11	Listening Part 4の問題検討(3)、Eメール ライティング(3)						
12	300-word エッセーライティング(1)						
13	300-word エッセーライティング(2)						
14	TOEICのミニテスト(2)と解説						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEICにおいて600点程度を取る実力があるか。</li> <li>・英語でビジネスレターを書き、面接に対応することが出来るか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ミニテスト	20	TOEIC L&R, Wに対応する英語力を測る		語彙確認テスト	20	ビジネス英語表現の習得を測る	
TOEIC IP	30	TOEIC IPのスコアに応じて評価する		その他	30	メール・エッセイライティング (20%)、E-learning (10%)	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定範囲の教材の通読および演習を行い、事後学習として指定される関連範囲の反復練習を行うこと。授業時間外のALC E-learningの取り組みは計画的に進めてください。				大学のOffice365アカウントから、EmailまたはTeams/Skype for Businessで連絡をください。また、学内オフィスC105にて、簡単な質問は随時、面談はアポイントメントを設定したうえで、受け付けます。			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEIC®テスト新形式精選模試リーディング2(中村紳一郎 監修、ジャパンタイムズ出版、ISBN 978-4-7890-1720-6)</li> <li>・TOEIC®L&amp;R TEST出る単特急 金のセンテンス(TEX 加藤、朝日新聞出版、ISBN 978-4-02-331765-9)</li> <li>【以上2冊】</li> </ul>			受講生に望むこと	TOEIC IPテストの「リーディング」において420点を目標してください。		
参考書・参考資料等	OneNoteにアップされている資料を活用すること			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English (G2)						
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEIC、英検その他の英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね600点台から700点台以上のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行う。				TOEIC、英検などで高いスコアを取る力を養う/検定試験に必要な語彙力をさらに高める。特に、さまざまなビジネス・シーンでの対応が適切にできるようになること、またTOEIC S&Wにも応用できることを目標とする。			
教授方法	はじめに語彙・文法に関する小テストをする(週一回)。続けて授業の前半は TOEIC S&W対策を行い、後半はさまざまなビジネス・シーンについてペアまたはグループで取り組む。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(授業の進め方や習方法などの説明)/Unit 7(Best wishes, Thomas Kale, 1/2)						
2	Unit 1(音読)/Unit 7(Best wishes, Thomas Kale, 2/2)						
3	小テスト(1)/Unit 2(写真描写)/Unit 8(That's a good question!, 1/2)						
4	Unit 3(応答)/Unit 8(That's a good question!, 2/2)						
5	小テスト(2)/Unit 4(提示された情報に基づく応答)/Unit 9(What was his major?, 1/2)						
6	Unit 5(解決策を提案する)/Unit 9(What was his major?, 2/2)						
7	小テスト(3)/Unit 6-1(意見を述べる, その1)/Unit 10(Tell me about yourself, 1/2)						
8	Unit 6-2(意見を述べる, その2)/Unit 10(Tell me about yourself, 2/2)						
9	小テスト(4)/Unit 7(写真描写)/Unit 11(They're too expensive, 1/2)						
10	Unit 8(メール作成)/Unit 11(They're too expensive, 2/2)						
11	小テスト(5)/Unit 9-1(意見を記述する, その1)/Unit 12(I need to work harder, 1/2)						
12	Unit 9-2(意見を記述する, その2)/Unit 12(I need to work harder, 2/2)						
13	小テスト(6)/TOEIC S&W(復習)						
14	Units 7-12(復習)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEICにおいて600点程度を取る実力があるか。</li> <li>・英語でビジネスレターを書き、面接に対応することが出来るか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
期末試験	50	ビジネス・シーンでの対応が適切かどうかに応じて評価する。	課題	20	課題に真摯に取り組み、提出したかどうかに応じて評価する。		
小テスト	20	語彙と文法に関する小テストを行い、理解度に応じて評価する。	その他	10	e-learning		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習:教科書の該当Unitを熟読すること。 事後学習:シャドーイングでリスニングの復習をする。課題やe-learningに取り組む。				非常勤講師控室に来てください(火曜日と金曜日のお昼休み)。または、メールで問い合わせること。メールアドレスは後日、知らせます。			
教科書・テキスト	Get Ready for International Business, MACMILLAN(3学期から引き続き使用) The Essential Guide to the TOEIC S&W Tests(松柏社、2020年)			受講生に望むこと	普段からなるべく英語にふれる機会をつくるようにしましょう(新聞、音楽、映画など)。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず辞書を持参すること(電子辞書可)。</li> <li>・遅刻しないこと(20分を超えたら欠席とします)。</li> <li>・遅刻や欠席した場合など、小テストの再試験を行いません。</li> </ul>		

授業科目	Career English (G7)						
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEIC、英検その他の英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね600点台から700点台以上のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行う。				TOEIC、英検などで高いスコアを取る力を養う/検定試験に必要な語彙力をさらに高める。特に、さまざまなビジネス・シーンでの対応が適切にできるようになること、またTOEIC S&Wにも応用できることを目標とする。			
教授方法	はじめに語彙・文法に関する小テストをする(週一回)。続けて授業の前半は TOEIC S&W対策を行い、後半はさまざまなビジネス・シーンについてペアまたはグループで取り組む。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(授業の進め方や学習方法などの説明)/Unit 7(Best wishes, Thomas Kale, 1/2)						
2	Unit 1(音読)/Unit 7(Best wishes, Thomas Kale, 2/2)						
3	小テスト(1)/Unit 2(写真描写)/Unit 8(That's a good question!, 1/2)						
4	Unit 3(応答)/Unit 8(That's a good question!, 2/2)						
5	小テスト(2)/Unit 4(提示された情報に基づく応答)/Unit 9(What was his major?, 1/2)						
6	Unit 5(解決策を提案する)/Unit 9(What was his major?, 2/2)						
7	小テスト(3)/Unit 6-1(意見を述べる, その1)/Unit 10(Tell me about yourself, 1/2)						
8	Unit 6-2(意見を述べる, その2)/Unit 10(Tell me about yourself, 2/2)						
9	小テスト(4)/Unit 7(写真描写)/Unit 11(They're too expensive, 1/2)						
10	Unit 8(メール作成)/Unit 11(They're too expensive, 2/2)						
11	小テスト(5)/Unit 9-1(意見を記述する, その1)/Unit 12(I need to work harder, 1/2)						
12	Unit 9-2(意見を記述する, その2)/Unit 12(I need to work harder, 2/2)						
13	小テスト(6)/TOEIC S&W(復習)						
14	Units 7-12(復習)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEICにおいて600点程度を取る実力があるか。</li> <li>・英語でビジネスレターを書き、面接に対応することが出来るか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
期末試験	50	ビジネス・シーンでの対応が適切かどうかに応じて評価する。	課題	20	課題に真摯に取り組み、提出かどうかに応じて評価する。		
小テスト	20	語彙や文法に関する小テストを行い、理解度に応じて評価する。	その他	10	e-learning		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習:小テストの準備。教科書の該当 Unit を熟読すること。 事後学習:シャドーイングでリスニングの復習をする。課題やe-learningに取り組む。				非常勤講師控室に来てください(火曜日と金曜日のお昼休み)。または、メールで問い合わせること。メールアドレスは後日、知らせます。			
教科書・テキスト	Get Ready for International Business, MACMILLAN(3学期から引き続き使用) The Essential Guide to the TOEIC S&W Tests(松柏社、2020年)			受講生に望むこと	普段からなるべく英語にふれる機会をつくるようにしましょう(新聞、音楽、映画など)。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず辞書を持参すること(電子辞書可)。</li> <li>・遅刻しないこと(20分を超えたら欠席とします)。</li> <li>・遅刻や欠席した場合など、小テストの再試験を行いません。</li> </ul>		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G5)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.				Students will develop their English comprehension skills and communication skills.			
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Textbook Unit 10, Trade Show Preparation						
2	Textbook Unit 10, Trade Show team Presentation video planning						
3	Textbook Unit 10 Trade Show team Presentation video planning						
4	Textbook Unit 5, Trade Show answering customer questions assignment						
5	Textbook Unit 5 Trade Show Useful Phrases practice						
6	Textbook Unit 5, Trade Show Customer Question Test, Trade Show rehearsal						
7	Trade Show Day						
8	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show team and self-evaluation						
9	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice						
10	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice						
11	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice						
12	TOEIC Speaking and Writing practice						
13	TOEIC Speaking and Writing practice						
14	Textbook listening test						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Textbook assignments	40%	Discussion, vocabulary and listening tests		Trade Show Preparat	40%	Write a product proposal, elevator pitch, group poster	
TOEIC Speaking and	20%	Assignments related to TOEIC test		-	-	-	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Study will be required outside of class. Assignments must be turned in before class or there will be late penalties.				Students can visit the instructor's office any time, or make an appointment. Please send emails with questions at any time.			
教科書・テキスト	Business Plus 2, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students should participate actively in all classroom activities and have assignments fully prepared before class.		
参考書・参考資料等	Electronic dictionary with English sentence models			その他・特記事項	-		



授業科目	Academic English for Global Mobility (G6)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.				Students will develop their English comprehension skills and communication skills.			
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Textbook Unit 10, Trade Show Preparation						
2	Textbook Unit 10, Trade Show team Presentation video planning						
3	Textbook Unit 10 Trade Show team Presentation video planning						
4	Textbook Unit 5, Trade Show answering customer questions assignment						
5	Textbook Unit 5 Trade Show Useful Phrases practice						
6	Textbook Unit 5, Trade Show Customer Question Test, Trade Show rehearsal						
7	Trade Show Day						
8	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show team and self-evaluation						
9	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice						
10	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice						
11	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice						
12	TOEIC Speaking and Writing practice						
13	TOEIC Speaking and Writing practice						
14	Textbook listening test						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Textbook assignments	40%	Discussion, vocabulary and listening tests		Trade Show Preparat	40%	Write a product proposal, elevator pitch, group poster	
TOEIC Speaking and	20%	Assignments related to TOEIC test		-	-	-	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Study will be required outside of class. Assignments must be turned in before class or there will be late penalties.				Students can visit the instructor's office any time, or make an appointment. Please send emails with questions at any time.			
教科書・テキスト	Business Plus 2, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students should participate actively in all classroom activities and have assignments fully prepared before class.		
参考書・参考資料等	Electronic dictionary with English sentence models			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G2)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル人材育成	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.				Students will develop their English comprehension skills and communication skills.			
教授方法	Students' academic English language skills (speaking, listening, reading, writing) and pragmatic skills will be developed. By the end of this course, students will be able to: communicate and repair communication effectively; read about and discuss current global issues and product development; locate and use resources for independent learning.						
履修条件	-						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容						
1	Course orientation, syllabus, introductions, textbook, trade show						
2	Trade Show presentation video						
3	Trade show presentation video						
4	TOEIC						
5	TOEIC						
6	Trade Show answering questions						
7	Trade Show						
8	TOEIC						
9	TOEIC						
10	TOEIC						
11	TOEIC						
12	TOEIC						
13	TOEIC						
14	TOEIC, course evaluation and review						
<b>共通の評価基準</b>							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can write a proposal and a speech about a new product.							
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Textbook assignments	40	Recorded speeches, discussion, and listening tests		Trade show preparat	40	Product presentation	
TOEIC Speaking and	20			-	-	-	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Before class, read, write, and prepare materials. This includes the text, relevant vocabulary, reports, trade show assignments, and online documents. After class, review material that we have learned, and reflect on what you can and cannot do yet.				Contact by Google Form, email and office hours.			
教科書・テキスト	Instructor- and student-provided materials			受講生に望むこと	Work hard, complete all tasks, collaborate with classmates, formulate and ask questions, be curious and critical and creative.		
参考書・参考資料等	Digital literacy skills and cloud-based computing will be used.			その他・特記事項	Students must miss no more than 4 classes in order to achieve a passing grade.		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G7)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル人材育成	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.				Students will develop their English comprehension skills and communication skills.			
教授方法	Students' academic English language skills (speaking, listening, reading, writing) and pragmatic skills will be developed. By the end of this course, students will be able to: communicate and repair communication effectively; read about and discuss current global issues and product development; locate and use resources for independent learning.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Course orientation, syllabus, introductions, textbook, trade show						
2	Trade Show presentation video						
3	Trade show presentation video						
4	TOEIC						
5	TOEIC						
6	Trade Show answering questions						
7	Trade Show						
8	TOEIC						
9	TOEIC						
10	TOEIC						
11	TOEIC						
12	TOEIC						
13	TOEIC						
14	TOEIC, course evaluation and review						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can write a proposal and a speech about a new product.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Textbook assignments	40	Recorded speeches, discussion, and listening tests		Trade show preparat	40	Product presentation	
TOEIC Speaking and	20			-	-	-	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Before class, read, write, and prepare materials. This includes the text, relevant vocabulary, reports, trade show assignments, and online documents. After class, review material that we have learned, and reflect on what you can and cannot do yet.				Contact by Google Form, email and office hours.			
教科書・テキスト	Instructor- and student-provided materials			受講生に望むこと	Work hard, complete all tasks, collaborate with classmates, formulate and ask questions, be curious and critical and creative.		
参考書・参考資料等	Digital literacy skills and cloud-based computing will be used.			その他・特記事項	Students must miss no more than 4 classes in order to achieve a passing grade.		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G4)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.			Students will develop their English comprehension skills and communication skills.		
教授方法	Classes are focused on practical business English. Students will prepare themselves for real world English situations as well as all their trade show project.				
履修条件	-				
<b>授 業 計 画</b>					
実施回	授業内容				
1	Textbook Unit 10, Trade Show Preparation				
2	Textbook Unit 10, Trade Show team Presentation video planning				
3	Textbook Unit 10 Trade Show team Presentation video planning				
4	Textbook Unit 5, Trade Show answering customer questions assignment				
5	Textbook Unit 5 Trade Show Useful Phrases practice				
6	Textbook Unit 5, Trade Show Customer Question Test, Trade Show rehearsal				
7	Trade Show Day				
8	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show team and self-evaluation				
9	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice				
10	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice				
11	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice				
12	TOEIC Speaking and Writing practice				
13	TOEIC Speaking and Writing practice				
14	Textbook listening test				
<b>共通の評価基準</b>					
Students can add to a discussion about textbook-related content. Students can do a team presentation about a new product and respond to questions in a Trade Show role-play event.					
<b>成績評価方法と基準</b>					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
textbook assignments	40	discussion, vocabulary and listening tests	Trade Show Preparat	40	write a product proposal, elevator pitch, group poster
TOEIC Speaking and	20	assignments similar to the test	-	-	-
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
Students are expected to do one hour of homework for every class.			Students can contact the instructor via e-mail mision.miguel@u-nagano.ac.jp		
教科書・テキスト	Business Plus 2, Helliwell, Cambridge University Press, 2014		受講生に望むこと	This class will focus on a lot of listening exercises, students are expected to practice listening outside of class as well. The trade show project will involve a lot of group work, it is expected students behave in a co-operative and respectful manner to their group members.	
参考書・参考資料等	It is hoped students familiarize themselves with current events in the news for this class.			その他・特記事項	-

授業科目	Academic English for Global Mobility (G1)				
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.			Students will develop their English comprehension skills and communication skills.		
教授方法	Classes are active and student-centered. Students will discuss topics from the textbook, prepare a product presentation for the Trade Show, and refine their presentation skills.				
履修条件	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Textbook Unit 10, Trade Show Preparation				
2	Textbook Unit 10, Trade Show team Presentation video planning				
3	Textbook Unit 10 Trade Show team Presentation video planning				
4	Textbook Unit 5, Trade Show answering customer questions assignment				
5	Textbook Unit 5 Trade Show Useful Phrases practice				
6	Textbook Unit 5, Trade Show Customer Question Test, Trade Show rehearsal				
7	Trade Show Day				
8	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show team and self-evaluation				
9	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice				
10	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice				
11	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice				
12	TOEIC Speaking and Writing practice				
13	TOEIC Speaking and Writing practice				
14	Textbook exam				
共通の評価基準					
Students can add to a discussion about textbook-related content. Students can do a team presentation about a new product and respond to questions in a Trade Show role-play event.					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Textbook Assignments	40	discussion, vocabulary and listening tests	Trade Show Preparat	40	write a product proposal, elevator pitch, group poster
TOEIC Speaking and	20	assignments similar to the test	-	-	-
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
Review target language and complete any assigned homework.			Students can email me or meet me before or after scheduled classes.		
教科書・テキスト	Business Plus 2, Helliwell, Cambridge University Press, 2014		受講生に望むこと	Students should work hard inside and outside of the classroom, as well as help and support each other in the learning process.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English for Global Mobility (G3)				
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.			Students will develop their English comprehension skills and communication skills.		
教授方法	Classes are active and student-centered. Students will discuss topics from the textbook, prepare a product presentation for the Trade Show, and refine their presentation skills.				
履修条件	-				
<b>授 業 計 画</b>					
実施回	授業内容				
1	Textbook Unit 10, Trade Show Preparation				
2	Textbook Unit 10, Trade Show team Presentation video planning				
3	Textbook Unit 10 Trade Show team Presentation video planning				
4	Textbook Unit 5, Trade Show answering customer questions assignment				
5	Textbook Unit 5 Trade Show Useful Phrases practice				
6	Textbook Unit 5, Trade Show Customer Question Test, Trade Show rehearsal				
7	Trade Show Day				
8	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice, Trade Show team and self-evaluation				
9	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice				
10	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice				
11	Textbook Unit 6, TOEIC Speaking and Writing practice				
12	TOEIC Speaking and Writing practice				
13	TOEIC Speaking and Writing practice				
14	Textbook exam				
<b>共通の評価基準</b>					
Students can add to a discussion about textbook-related content. Students can do a team presentation about a new product and respond to questions in a Trade Show role-play event.					
<b>成績評価方法と基準</b>					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Textbook Assignments	40	discussion, vocabulary and listening tests	Trade Show Preparat	40	write a product proposal, elevator pitch, group poster
TOEIC Speaking and	20	assignments similar to the test	-	-	-
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
Review target language and complete any assigned homework.			Students can email me or meet me before or after scheduled classes.		
教科書・テキスト	Business Plus 2, Helliwell, Cambridge University Press, 2014		受講生に望むこと	Students should work hard inside and outside of the classroom, as well as help and support each other in the learning process.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	情報リテラシー (G1)						
担当教員	萱津 理佳			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標 (ねらい・到達目標)			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 PC利用および情報知識等に関するアンケート、PC/CALL教室および学内情報システムの使い方・注意等						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピングOffice365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	Word編(1) 基本操作						
6	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
7	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
8	Word編(4) 画像や図形						
9	Word編(5) 表とグラフ 【Word レポート】						
10	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
11	PowerPoint編(2) スライドの作成						
12	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
13	PowerPoint編(4) 課題作成						
14	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践 【Word レポート】						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
レポート 小テスト	30	レポートおよび小テストを課し、理解度に応じて評価する。	授業 課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。
上記以外の 授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp</li> </ul>		
教科書・ テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に 望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・ 参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・ 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。</li> <li>・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!</li> </ul>	



授業科目	情報リテラシー (G2)						
担当教員	萱津 理佳			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標 (ねらい・到達目標)			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 PC利用および情報知識等に関するアンケート、PC/CALL教室および学内情報システムの使い方・注意等						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピングOffice365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	Word編(1) 基本操作						
6	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
7	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
8	Word編(4) 画像や図形						
9	Word編(5) 表とグラフ 【Word レポート】						
10	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
11	PowerPoint編(2) スライドの作成						
12	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
13	PowerPoint編(4) 課題作成						
14	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践 【Word レポート】						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
レポート 小テスト	30	レポートおよび小テストを課し、理解度に応じて評価する。	授業 課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。
上記以外の 授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： kawahara@cs.shinshu-u.ac.jp</li> </ul>		
教科書・ テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に 望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・ 参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・ 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。</li> <li>・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!</li> </ul>	

授業科目	情報リテラシー (G5)						
担当教員	萱津 理佳			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標 (ねらい・到達目標)			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 PC利用および情報知識等に関するアンケート、PC/CALL教室および学内情報システムの使い方・注意等						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピングOffice365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	Word編(1) 基本操作						
6	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
7	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
8	Word編(4) 画像や図形						
9	Word編(5) 表とグラフ 【Word レポート】						
10	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
11	PowerPoint編(2) スライドの作成						
12	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
13	PowerPoint編(4) 課題作成						
14	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践 【Word レポート】						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
レポート 小テスト	30	レポートおよび小テストを課し、理解度に応じて評価する。	授業 課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。
上記以外の 授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp</li> </ul>		
教科書・ テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に 望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・ 参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・ 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。</li> <li>・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!</li> </ul>	

授業科目	情報リテラシー (G6)						
担当教員	萱津 理佳			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標 (ねらい・到達目標)			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 PC利用および情報知識等に関するアンケート、PC/CALL教室および学内情報システムの使い方・注意等						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピングOffice365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	Word編(1) 基本操作						
6	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
7	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
8	Word編(4) 画像や図形						
9	Word編(5) 表とグラフ 【Word レポート】						
10	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
11	PowerPoint編(2) スライドの作成						
12	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
13	PowerPoint編(4) 課題作成						
14	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践 【Word レポート】						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
レポート 小テスト	30	レポートおよび小テストを課し、理解度に応じて評価する。	授業 課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。
上記以外の 授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp		
教科書・ テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に 望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・ 参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・ 特記事項	・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。 ・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!	

授業科目	情報リテラシー (G3)						
担当教員	宮尾 秀俊			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標 (ねらい・到達目標)			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 PC利用および情報知識等に関するアンケート、PC/CALL教室および学内情報システムの使い方・注意等						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピングOffice365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	Word編(1) 基本操作						
6	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
7	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
8	Word編(4) 画像や図形						
9	Word編(5) 表とグラフ 【Word レポート】						
10	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
11	PowerPoint編(2) スライドの作成						
12	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
13	PowerPoint編(4) 課題作成						
14	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践 【Word レポート】						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
レポート 小テスト	30	レポートおよび小テストを課し、理解度に応じて評価する。	授業 課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。
上記以外の 授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： miyao@cs.shinshu-u.ac.jp		
教科書・ テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に 望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・ 参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・ 特記事項	・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。 ・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!	



授業科目	情報リテラシー (G7)						
担当教員	宮尾 秀俊			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標 (ねらい・到達目標)			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 PC利用および情報知識等に関するアンケート、PC/CALL教室および学内情報システムの使い方・注意等						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピングOffice365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	Word編(1) 基本操作						
6	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
7	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
8	Word編(4) 画像や図形						
9	Word編(5) 表とグラフ 【Word レポート】						
10	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
11	PowerPoint編(2) スライドの作成						
12	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
13	PowerPoint編(4) 課題作成						
14	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践 【Word レポート】						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
レポート 小テスト	30	レポートおよび小テストを課し、理解度に応じて評価する。	授業 課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。
上記以外の 授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： miyao@cs.shinshu-u.ac.jp</li> </ul>		
教科書・ テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に 望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・ 参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・ 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。</li> <li>・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!</li> </ul>	

授業科目	情報リテラシー (G4)						
担当教員	浦上 法之			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標 (ねらい・到達目標)			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 PC利用および情報知識等に関するアンケート、PC/CALL教室および学内情報システムの使い方・注意等						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピングOffice365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	Word編(1) 基本操作						
6	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
7	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
8	Word編(4) 画像や図形						
9	Word編(5) 表とグラフ 【Word レポート】						
10	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
11	PowerPoint編(2) スライドの作成						
12	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
13	PowerPoint編(4) 課題作成						
14	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践 【Word レポート】						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
レポート 小テスト	30	レポートおよび小テストを課し、理解度に応じて評価する。	授業 課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。
上記以外の 授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： urakami@shinshu-u.ac.jp</li> </ul>		
教科書・ テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に 望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・ 参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・ 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。</li> <li>・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!</li> </ul>	

授業科目		健康と運動科学 (G)					
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
本講義では講義・実技の統合型の方法で健康に関連する文化的側面を様々な角度から取り上げ、身体観、健康観の基礎を築き、身体、健康、スポーツへの理解を高め、健康に対する見方、考え方を広げ、アクセスの方法を学ぶ。				様々なスポーツを体験し、心身共に充実した大学生活を送り、生涯にわたって自己の健康を守り創っていくさまざまな方法や技能を学ぶ。また生活に運動を取り入れる喜びを味わい、積極的な健康づくりの態度を養う。生涯スポーツの基礎づくりとなる授業である。			
教授方法	授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。						
履修条件	定員：30名 毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育<公用掲示板>にて知らせるので注意すること。また単位取得には3回以上の出席が必要。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	(講義) 授業の概要と進め方(課題説明) 東西身体の多様な見方を理解する						
第2回	(講義) エスニックスポーツと近代化を考える 実技：インディアカ(遊戯の原点を理解する)						
第3回	授業内容：(実技) インディアカ(遊戯における現在を考える)						
第4回	授業内容：講義：東洋の身体技法原点・東洋ウエルネスを考える 実技：体操・カパディ・呼吸法						
第5回	講義：生涯スポーツを理解する 実技：スロー運動・太極拳・呼吸法・瞑想法						
第6回	講義：健康と運動を考える 実技：バレ-ボール						
第7回	授業内容：講義：生活習慣病と運動を理解する 実技：バレ-ボール						
第8回	授業内容：講義：肥満について理解する 実技：バスケットボール						
第9回	講義：有酸素運動と無酸素運動 運動効果について理解する 実技：バスケットボール						
第10回	講義：肥満について理解する 実技：バスケットボール						
第11回	講義：気をめぐる身体文化を理解する 実技：卓球						
第12回	授業内容：講義：健康づくりについて考える 実技：卓球						
第13回	授業内容：講義：スポーツを理解する 実技：卓球						
第14回	授業内容：授業のまとめ						
共通の評価基準							
全ての授業を通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
積極的な授業参加姿勢	30	講義・実技5回以上出席すること			授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと
上記以外の授業評価	30	授業時間外の運動を促すこと					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
【実践】最終レポートを課す。また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学習を達成する。 【理論】理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。さらに、将来の健康管理にどのように役立てていこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学習を達成する。				e-mailで対応：zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。		
参考書・参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月			その他・特記事項	(受講者6名以下の場合は、休講とする)		

授業科目	健康と運動科学 (G2)					
担当教員	張 勇		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)			
本講義では講義・実技の統合型の方法で健康に関連する文化的側面を様々な角度から取り上げ、身体観、健康観の基礎を築き、身体、健康、スポーツへの理解を高め、健康に対する見方、考え方を広げ、アクセスの方法を学ぶ。			様々なスポーツを体験し、心身共に充実した大学生活を送り、生涯にわたって自己の健康を守り創っていくさまざまな方法や技能を学ぶ。また生活に運動を取り入れる喜びを味わい、積極的な健康づくりの態度を養う。生涯スポーツの基礎づくりとなる授業である。			
教授方法	授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。					
履修条件	定員：30名 毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育<公用掲示板>にて知らせるので注意すること。また単位取得には3回以上の出席が必要。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
第1回	(講義)授業の概要と進め方(課題説明) 東西身体の多様な見方を理解する					
第2回	(講義)エスニックスポーツと近代化を考える 実技：インディアカ(遊戯の原点を理解する)					
第3回	授業内容:(実技)インディアカ(遊戯における現在を考える)					
第4回	授業内容:講義:東洋の身体技法原点・東洋ウエルネスを考える 実技:体操・カパディ・呼吸法					
第5回	生涯スポーツを理解する 実技:スロー運動・太極拳・呼吸法・瞑想法					
第6回	講義:健康と運動を考える 実技:バレ-ボール					
第7回	授業内容:授業内容:講義:生活習慣病と運動を理解する 実技:バレ-ボール					
第8回	授業内容:講義:肥満について理解する 実技:バスケットボール					
第9回	授業内容:講義:有酸素運動と無酸素運動 運動効果について理解する 実技:バスケットボール					
第10回	授業内容:講義:チームスポーツについて理解する 実技:バスケットボール					
第11回	授業内容:講義:気をめぐる身体文化を理解する					
第12回	授業内容:授業内容:講義:健康づくりについて考える 実技:卓球					
第13回	授業内容:講義:スポーツを理解する 実技:卓球					
第14回	授業内容:授業のまとめ					
共通の評価基準						
全ての授業を通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
積極的な授業参加姿勢	30	講義・実技5回以上出席すること		授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと
上記以外の授業評価	30	授業時間外の運動を促すこと				
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応		
【実践】最終レポートを課す。また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学修を達成する。 【理論】理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。さらに、将来の健康管理にどのように役立てていこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学修を達成する。				e-mailで対応: zhang.yong@u-nagano.ac.jp		
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。	
参考書・参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月			その他・特記事項	(受講者6名以下の場合は、休講とする)	

授業科目		健康と運動科学 (G)					
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
本講義では講義・実技の統合型の方法で健康に関連する文化的側面を様々な角度から取り上げ、身体観、健康観の基礎を築き、身体、健康、スポーツへの理解を高め、健康に対する見方、考え方を広げ、アクセスの方法を学ぶ。				様々なスポーツを体験し、心身共に充実した大学生活を送り、生涯にわたって自己の健康を守り創っていくさまざまな方法や技能を学ぶ。また生活に運動を取り入れる喜びを味わい、積極的な健康づくりの態度を養う。生涯スポーツの基礎づくりとなる授業である。			
教授方法	授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。						
履修条件	履修条件 定員：30名 <b>【実践】</b> 毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育<公用掲示板>にて知らせるので注意すること。また単位取得には3回以上の出席が必要。 <b>【理論】</b> 毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には5回以上の出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	(講義) 授業の概要と進め方(課題説明) 東西身体の多様な見方を理解する						
第2回	講義：エスニックスポーツと近代化を考える 実技：インディアカ(遊戯の原点を理解する)						
第3回	実技：インディアカ(遊戯における現在を考える)						
第4回	講義：東洋の身体技法原点・東洋ウエルネスを考える 実技：体操・カパディ・呼吸法						
第5回	講義：生涯スポーツを理解する 実技：スロー運動・太極拳・呼吸法・瞑想法						
第6回	講義：健康と運動を考える 実技：バレ-ボール						
第7回	講義：生活習慣病と運動を理解する 実技：バレ-ボール						
第8回	講義：ダイエットと健康を理解する 実技：バスケットボール						
第9回	講義：肥満について理解する 実技：バスケットボール						
第10回	講義：有酸素運動と無酸素運動 運動効果について理解する 実技：バスケットボール						
第11回	講義：気をめぐる身体文化を理解する 実技：卓球・パドミントン						
第12回	講義：健康づくりについて考える 実技：卓球・パドミントン						
第13回	講義：スポーツを理解する 実技：卓球・パドミントン						
第14回	授業内容:授業のまとめ						
共通の評価基準							
全ての授業を通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
積極的な授業参加姿勢	30	評価基準:講義・実技5回以上出席すること		授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと	
上記以外の授業評価	30	授業時間外の運動を促すこと					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<b>実践</b> 最終レポートを課す。また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学習を達成する。 <b>【理論】</b> 理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。さらに、将来の健康管理にどのように役立てていこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学習を達成する。				e-mailで対応する。E-mail:zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。		

参考書・ 参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月	その他・ 特記事項	受講生6名以下の場合は、休講とする
---------------	---	--------------	-------------------



授業科目		健康と運動科学 (G2)					
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
本講義では講義・実技の統合型の方法で健康に関連する文化的側面を様々な角度から取り上げ、身体観、健康観の基礎を築き、身体、健康、スポーツへの理解を高め、健康に対する見方、考え方を広げ、アクセスの方法を学ぶ。				様々なスポーツを体験し、心身共に充実した大学生活を送り、生涯にわたって自己の健康を守り創っていくさまざまな方法や技能を学ぶ。また生活に運動を取り入れる喜びを味わい、積極的な健康づくりの態度を養う。生涯スポーツの基礎づくりとなる授業である。			
教授方法	授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。						
履修条件	定員：30名 【実践】 毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育<公用掲示板>にて知らせるので注意すること。また単位取得には3回以上の出席が必要。 【理論】 毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には5回以上の出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。						
授業計画							
実施回	授業内容						
第1回	授業の概要と進め方(課題説明) 講義：東西身体の様々な見方を理解する						
第2回	講義：エスニックスポーツと近代化を考える 実技：インディアカ(遊戯の原点を理解する)						
第3回	実技：インディアカ(遊戯における現在を考える)						
第4回	講義：東洋の身体技法原点・東洋ウエルネスを考える 実技：体操・カパディ・呼吸法						
第5回	講義：生涯スポーツを理解する 実技：スロー運動・太極拳・呼吸法・瞑想法						
第6回	講義：健康と運動を考える 実技：バレ・ボール						
第7回	講義：生活習慣病と運動を理解する 実技：バレ・ボール						
第8回	講義：ダイエットと健康を理解する 実技：バスケットボール						
第9回	講義：肥満について理解する 実技：バスケットボール						
第10回	講義：有酸素運動と無酸素運動 運動効果について理解する 実技：バスケットボール						
第11回	講義：気をめぐる身体文化を理解する 実技：卓球・パドミントン						
第12回	講義：健康づくりについて考える 実技：卓球・パドミントン						
第13回	講義：スポーツを理解する 実技：卓球・パドミントン						
第14回	授業内容：授業のまとめ						
共通の評価基準							
全ての授業を通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
積極的な授業参加姿勢	30	評価基準：講義・実技5回以上出席すること		授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと	
上記以外の授業評価	30	評価基準：授業時間外の運動を促すこと					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
【実践】最終レポートを課す。 また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学習を達成する。 【理論】 理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。 さらに、将来の健康管理にどのように役立てたいこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学習を達成する。				e-mailで対応する。E-mail: zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。		

参考書・ 参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月	その他・ 特記事項	(受講者6名以下の場合は、休講とする)
---------------	---	--------------	---------------------

授業科目	健康発達概論				
担当教員	中澤 弥子・稲山 貴代・加藤 孝士・太田 光洋・中	必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	講義
対象学生	健康発達	関連資格		備考	科目ナバリング
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
人間の発達について社会・文化的な文脈の中で身体的、精神的な健康を基盤として生涯にわたって発達するという観点から、各ライフステージに注目して、基礎的な知識を学ぶ。具体的には、社会文化的アプローチから各発達段階における発達の主導的活動、人間関係を中心とする社会的環境の機能と役割について学ぶとともに、発達の基礎をつくる幼児期の教育と環境のあり方、健康発達の基盤となる食と栄養、健康を増進する支援、メンタルヘルスのあり方についてディベートを通じて自身の経験を振り返りながら学びを深める。また、エコロジカルな観点から健康で豊かな発達を保证する地域コミュニティのあり方について考える。担当教員の太田は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めており、学習内容を保育の実際と結びつけながら理解を深められるようにする。			ねらい 人間の発達について社会・文化的な文脈の中で身体的、精神的な健康を基盤として生涯にわたって発達するという観点から学ぶ。特に、各ライフステージを充実して生きるための環境とその支援、健康の基盤となる食、社会のあり方についての基礎的な知識の習得を目的とする。 到達目標 健康発達についての基本的知識を習得する。 事例にもとづくグループディスカッション等を通し、各発達段階における健康発達を支える要件について理解する。		
教授方法	講義を中心とするが、テーマに応じて、身近な事例をもとにしたグループによるディスカッションを取り入れる。				
履修条件	特になし				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	健康発達とは何か (太田)				
2	発達と環境 (太田)				
3	妊娠授乳期の発達、環境と支援のあり方、メンタルヘルス (中山)				
4	乳幼児期の発達、環境と保育、支援のあり方、メンタルヘルス (中山)				
5	学童期の発達、環境と教育、支援のあり方、メンタルヘルス (加藤)				
6	思春期・青年期の発達、環境と教育、支援のあり方、メンタルヘルス (加藤)				
7	成人期・高齢期の発達、環境と支援のあり方、メンタルヘルス (加藤)				
8	特別な支援を必要とする人の環境と支援 (加藤)				
9	妊娠授乳期・乳幼児期における食と健康 (稲山)				
10	学童期・思春期・青年期における食と健康 (稲山)				
11	成人期における食と健康 (稲山)				
12	高齢期における食と健康 (稲山)				
13	特別な支援を必要とする人・家族の食と健康 (稲山)				
14	長野県の食と健康、まとめ (中澤)				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業レポート	80	授業担当者ごとに評価する。レポート課題等の詳細については授業時に担当者が説明する。	授業態度	20	グループワークでの主体的参加度によって評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
・各担当者から提示された課題に各自取り組む。 ・前の授業内容を理解した上で、授業に臨むこと。			オムニバス形式であるため、担当者ごとに質問等は授業中や授業の前後に受け付ける。		
教科書・テキスト	教科書は指定しない。担当者ごとに必要に応じて資料を配付する。		受講生に望むこと	主体的に課題やディスカッションに取り組むこと	
参考書・参考資料等	担当者ごとに、授業内で紹介する。		その他・特記事項	オムニバス形式で、授業内容により講義担当者は変わる。 担当教員の太田は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めるなどの実務経験を有している。	

授業科目	長野県健康社会史						
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
日本の公衆衛生の歴史や健康の考え方の変遷等を基盤として、長野県で展開されてきた健康長寿に向けた活動を学ぶ。健康の定義、公衆衛生の概念、保健医療福祉や組織活動の変遷と、その健康生活を支援する様々な職種の役割を、先人の活躍と共に理解する。授業を通し、長寿県とされる長野県の強み、弱み、これからの課題を知り、自らの専門性と結びつけ発展へつなげる礎を築く。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本となる健康の捉え方・考え方（健康の定義、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション）、公衆衛生の変遷を学ぶ。</li> <li>・長野県の健康長寿に向けた活動の変遷とその特徴が理解できる。</li> <li>・長野県の強み・弱みとこれからの課題を元に、地域の特徴を活かした地域活性の展開を考えられる。</li> </ul>			
教授方法	講義、グループワーク・発表、健康まつりへの参加						
履修条件	とくになし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 健康って何？						
2	健康課題の今昔						
3	長野県の健康の歴史（保健活動）						
4	長野県の健康の歴史（組織活動）						
5	フィールドワークの方法と活動計画						
6	フィールドワーク						
7	フィールドワーク						
8	フィールドワーク						
9	フィールドワーク						
10	グループワーク（FW学びの共有）						
11	長野県民の健康の現状						
12	地域医療の歴史						
13	長野県はなぜ長寿県なのか？						
14	未来に向けた自分たちの役割を考える						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	60	フィールドワーク（30%） 最終レポート（30%）		グループ発表	40	グループワーク及び発表20% 2回	
授業態度	減点	欠席、遅刻、提出物					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
時間割以外の日程で地域で開催される健康のイベントに参加する予定です。				月曜授業終了時に質問や相談の対応をする			
教科書・テキスト	必要に応じ資料を提示します			受講生に望むこと	なぜだろうという疑問を持って実際にみてください		
参考書・参考資料等	必要に応じ紹介します			その他・特記事項	須坂健康まつりを見学予定だが、日程が未定（土曜開催）のため、実施回が前後する可能性が高い		

授業科目		Foundations of English (H3)					
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語を正確に運用する能力の基礎を身に付ける。</li> <li>NGSL 第1段階の語彙力を身に付ける。</li> </ul> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1つ1つの文(単文)を正確に理解・産出することができる。</li> <li>1つ1つの音や単語を正確に聴解・発音することができる。</li> <li>文章の内容を正確に読み取ることができる。</li> <li>NGSL第1段階の700語を正しく運用することができる。</li> </ul>			
教授方法	基本的な事項に関する必要最低限の解説を行った上で、問題演習やグループワークを中心に授業を進めます。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	NGSL学習(1-100)、英語音声(母音 1-3)、英文法(文の構造と品詞)						
3	NGSL学習(101-200)、英語音声(母音 4-7)、英文法(動詞と文型(1))						
4	NGSL小テスト(1-200)、英語音声(母音 8-10)、英文法(動詞と文型(2))						
5	英語音声(母音 11-14)、Core Reading(1)						
6	NGSL学習(201-300)、英語音声(母音 15-19)、英文法(時制(1))						
7	NGSL学習(301-400)、英語音声(母音 20-23)、Core Reading(2)						
8	NGSL小テスト(201-400)、英文法(時制(2))						
9	前半のまとめ・復習(中間テストを含む)						
10	NGSL学習(401-500)、英語音声(子音 24-26)、英文法(助動詞(1))						
11	NGSL学習(501-600)、英語音声(子音 27-30)、Core Reading(3)						
12	NGSL小テスト(401-600)、英語音声(子音 31-34)、英文法(助動詞(2))						
13	NGSL学習(601-700)、英語音声(子音 35-38)、Reading演習						
14	NGSL小テスト(601-700)、英語音声(子音 39-42)、英文法(受動態)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することができるか。</li> <li>文の構造や文と文のつながりを読み取ることができるか。</li> <li>英語の発音に関する基礎事項が身についているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	30	予習および課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。		中間・期末テスト	50	中間テスト(第9回)、期末テスト(試験期間)の得点により評価。	
NGSL小テスト	10	授業内で行う4回のNGSL小テストの平均得点により評価。		NGSL共通テスト	10	学期末のNGSL共通テストの成績により評価。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で学習した発音や文法を繰り返し練習すること。</li> <li>NGSLの語彙を継続的に学習すること。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業後に直接声をかける、大学アカウントにメールを送る、または研究室(C104)を訪問してください。</li> </ul>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声：『英語の正しい発音の仕方(基礎編)』研究社</li> <li>文法：プリント配布</li> <li>読解：Core Reading (EPGM Student Handbookに掲載)</li> </ul>			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の予習・復習を欠かさず行うこと。</li> <li>授業時の問題演習やグループワークに積極的に取り組むこと。</li> </ul>		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Foundations of English (H2)						
担当教員	高野 弘子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>英語を正確に運用する能力[accuracy]の基礎を身に付ける。/ NGSL第1段階の語彙力を身に付ける。特に、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音などを含む、総合的タスクに積極的に取り組むことを通して、英語の知識を増強し、英語を使用する能力を伸ばすことを目標とする。</p>			
教授方法	個別、ペアワーク、グループワークによる授業。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、課題、評価方法について確認する。						
第2回	Unit 1 Meeting people, exchanging personal information						
第3回	Unit 1 Describing occupations 1						
第4回	Unit 1 Describing occupation 2						
第5回	Unit 1 Video journal & Review test						
第6回	Unit 2 Talking about a typical day and free time						
第7回	Unit 2 Describing celebrations and festivals						
第8回	Unit 2 Daily life in different countries						
第9回	Unit 2 Video journal & Review test						
第10回	Unit 3 Identifying possessions and travel information						
第11回	Unit 3 Travel information and advice						
第12回	Unit 3 Travel tips						
第13回	Unit 3 Video journal & Review test						
第14回	Unit 1 ~ 3 TED Talks						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することが出来ているか。</li> <li>・文の構造や文と文のつながりを読み取ることが出来ているか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身についているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末テスト	40	授業で学習した内容が身についたか。		小テスト	30	各単元で学習した内容が身についたか。	
宿題	20	授業で学習した内容を復習できたか。		NGSL	10	NGSLの語彙力が定着できたか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
宿題は必ず行うこと。				授業前後に対応する。			
教科書・テキスト	World English 1A (Second Edition), Cengage Learning			受講生に望むこと	英語辞典を持参すること。(電子辞書可)		
参考書・参考資料等	授業中に必要に応じて提示する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		Foundations of English (H1)					
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>英語を正確に運用する能力 [accuracy]の基礎を身に付ける / NGSL 第1段階の語彙力を身に付ける。特に、正しい発音で音読することができ、また文法を熟知したうえで実践的に英語を使うことができることを目標とする。</p>			
教授方法	正しい発音を学び、ペアで音読練習をする。文法を確認してから、読み物をとおしてその文法の使い方を深めたり、実際に書くことなどに取り組む。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(授業の進め方や学習方法などの説明) / 発音練習 / Lesson 1						
2	Quiz 1 / 発音練習 / Lesson 2 (Readings 1&2)						
3	発音練習 / Lesson 2 (Reading 3)						
4	Quiz 2 / 発音練習 / Lesson 3 (Readings 1&2)						
5	発音練習 / Lesson 3 (Readings 3&4)						
6	Quiz 3 / 発音練習 / Lesson 4 (Readings 1&2)						
7	発音練習 / Lesson 4 (Readings 3&4)						
8	Quiz 4 / 発音練習(復習 1/2) / Lesson 5 (Readings 1&2)						
9	発音練習 / Lesson 5 (Readings 3&4)						
10	Quiz 5 / 発音練習 / Lesson 6 (Readings 1&2)						
11	発音練習 / Lesson 6 (Readings 3&4)						
12	Quiz 6 / 発音練習 / Lesson 7 (Readings 1&2)						
13	発音練習 / Lesson 7 (Reading 3)						
14	Quiz 7 / 発音練習(復習 2/2) / Lessons 1~7(文法の総復習)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することが出来ているか。</li> <li>・文の構造や文と文のつながりを読み取ることが出来ているか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身についているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	50	文法の理解度や短文の作文の完成度などに応じて評価する。		発音	10	正しい発音をすることがどの程度できるかにより評価する。	
小テスト	30	文法や語彙に関する小テストを行い、理解度に応じて評価する。		NGSL	10	学期末共通試験の理解度に応じて評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>事前学習: 音読(1) 内容を考えながらゆっくり読む。 (2) 次に発音を意識してゆっくり読む。 小テストの準備、読み物および文法項目の熟読。 事後学習: 発音練習、文法の見直し。</p>				<p>非常勤講師控室に来てください(火曜日と金曜日のお昼休み)。または、メールで問い合わせること。メールアドレスは後日、知らせます。</p>			
教科書・テキスト	『増補改訂版 英語発音・聴き取りの基礎』(朝日出版社、2016年) Grammar in Context 2, 6th edition (Cengage Learning, 2016)			受講生に望むこと	普段からなるべく英語にふれる機会をつくるようにしましょう(新聞、音楽、映画など)。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず辞書を持参すること(電子辞書可)。</li> <li>・遅刻しないこと(20分を超えたら欠席とします)。</li> <li>・遅刻や欠席した場合など、小テストの再試験を行いません。</li> </ul>		

授業科目	Basic English Communication (H1)						
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the first 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak and write about themselves and their hometown and read graded readers at their level smoothly.			
教授方法	Students will have listening comprehension exercises, do pair practices for dialogues, and have group and class discussions in English. They will be asked to give presentations in English, and the teacher will give feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction, course overview, class policies and procedures						
2	It's nice to meet you. Let's get to know each other.						
3	Introducing yourself.						
4	Exchanging personal information and finding out about your classmates						
5	Describing personal appearances and personalities						
6	People - Talking about your family and friends						
7	Mini-presentation about your family						
8	Free time - Talking about your hobbies and interests						
9	Daily activities. Describing your daily routine and schedules						
10	Talking about cities and recommending places						
11	Mini-presentation about your hometown						
12	Food and drink - Describing eating habits						
13	Food around the world - Describing traditional meals						
14	Review						
共通の評価基準							
Students can readily introduce self and home town. Students can write about home town. Students can easily read graded readers.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking & Listenin	40%	Speaking and listening activities and tests		Reading	10%	Students will read graded readers.	
Writing	40%	Writing and other assignments		NGSL test	10%	80% pass or fail	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to prepare and review lessons. They also need to study the first 700 words of the NGSL by themselves.				I will be available for students before and after class for questions and consultation.			
教科書・テキスト	Shogo Mitsutomi, My First TOEIC Test [New Version] (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-19-255-15473-2			受講生に望むこと	As students need to use their English-English dictionary in class, please bring it to every class. Mobile phone dictionaries are not allowed. The working language of the class will be English, and students are expected to have active participation in class discussions.		
参考書・参考資料等	The teacher will distribute other handouts as well. The teacher will supply students with a list of relevant and useful articles and books in class.			その他・特記事項	Welcome to the University of Nagano.		



授業科目	Basic English Communication (H3)						
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)				
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the first 700 words of the NGSL.			Students will be able to speak and write about themselves and their hometown and read graded readers at their level smoothly.				
教授方法	Classes are active. Every class includes speaking with classmates about textbook topics. There will be activities to use NGSL words every week and learn to write emails to classmates and their professor in English.						
履修条件	特に無し。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to the class and class goals; self-introductions						
2	Unit 1.1: Conversation about hometown; written introductions						
3	Unit 1.2: Majors, school years, and clubs; book club; how to write an email; Core Reading activity (1)						
4	Unit 1.3: Part-time jobs; short student presentations; writing (ideal future job)						
5	Unit 2.1: Group conversation about ideal jobs in the future; how to write an email; conversations about daily routines						
6	Unit 2.2: Conversations about how students spend their everyday time; speaking test						
7	Unit 3.1: Introductions of student hometowns; how to write an email; Core Reading Activity (2)						
8	Unit 3.2: Students talk about where they would like to live in the future; book club						
9	Hobbies and enthusiasms; writing assignment related to hobbies and enthusiasms; how to write an email; (1)						
10	Unit 4.1: Conversation about travel experience; hobbies/enthusiasms writing assignment (2); Core Reading Activity (3)						
11	Unit 4.2: Future travel plans; hobbies/enthusiasms writing assignment (3)						
12	Unit 4.3: Students plan trip in groups; travel writing assignment; presentations due						
13	Group conversations about presentations; travel writing assignment due; book club						
14	Conversation based on travel writing assignments; final class conversation						
共通の評価基準							
Students can smoothly introduce self and hometown. Students can write English emails, copy, and attach files. Students can smoothly read graded readers.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	Multiple (recorded) speaking activities and speaking tests		Writing	40	Writing, email, and other writing assignments	
Reading	10	Fluency reading and book talk		NGSL	10	80% pass or fail	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students need to study and participate actively in and out of class.				Contact me by email, come to my office, or speak to me before or after class.			
教科書・テキスト	Conversations in Class (3rd Edition), Talandis & Vannieu, Alma Publishing, 2015			受講生に望むこと	Students must show a willingness to communicate in English. Good luck.		
参考書・参考資料等	Access to a good dictionary (paper, electronic, or online) would be very useful.			その他・特記事項	Welcome to the University of Nagano. Work hard and enjoy.		

授業科目	Basic English Communication (H2)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	健康発達	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the first 700 words of the NGSL.			Students will be able to speak and write about themselves and their hometown and read graded readers at their level smoothly.		
教授方法	Students will learn the basics of fluent English conversation techniques, extensive reading, practising vocabulary and ways to use technology to help with studies.				
履修条件	-				
<b>授 業 計 画</b>					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, classmates and textbook				
2	Unit 1.1, How to study the NGSL, introduction to fluency reading				
3	Unit 1.2, Conversations about major, year and clubs, Writing English emails				
4	Unit 1.3 Conversations about part-time jobs, Book Talk				
5	Unit 2.1, Conversations about daily routines, Writing English emails				
6	Unit 2.2 Conversations about class schedules, Introduce Core Reading				
7	Unit 2.3 Conversation recording, writing English emails				
8	Unit 3.1 Conversations about hometown, Book Talk				
9	Unit 3.2 Conversations about hometown, Book Talk, Writing English emails				
10	Unit 3.3 Conversations about future home, Core Reading assignment				
11	Unit 4.1, Conversations about travel, Book Talk				
12	Unit 4.2 Conversations about travel plans				
13	Unit 4.3, Conversations about planning a trip, Book Talk				
14	Review lesson				
<b>共通の評価基準</b>					
Student can smoothly introduce self and hometown. Students can write English emails, copy and attach files. Students can smoothly read graded readers.					
<b>成績評価方法と基準</b>					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	40	recorded conversations	writing and other	40	English email assignments
fluency reading	10	5 Book Talk assignments	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
Students are expected to do one hour of homework for every class.			Students can contact the instructor via e-mail mision.miguel@u-nagano.ac.jp		
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015		受講生に望むこと	Willingness to communicate with others.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目		Foundations of English (H3)					
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の理解をさらに確かなものとするに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語を正確に運用する能力の土台を固める。</li> <li>NGSL 第2段階の語彙力を身に付ける。</li> </ul> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1つ1つの文(単文・複文)を正確に理解・産出することができる。</li> <li>句や文を正確に聴解・発音することができる。</li> <li>文章の要旨や構成を正しく理解することができる。</li> <li>NGSL第2段階の700語を正しく運用することができる。</li> </ul>			
教授方法	基本的な事項について必要最低限の解説を行った上で、問題演習やグループワークを中心に授業を進めます。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Foundations of English Iの復習、英文法(形容詞句・節(1))						
2	NGSL学習(701-800)、英語音声(子音 43-46)、英文法(形容詞句・節(2))						
3	NGSL学習(801-900)、英語音声(子音 47-48)、Core Reading(1)						
4	NGSL小テスト(701-900)、英語音声(リズム 1)、英文法(形容詞句・節(3))						
5	英語音声(リズム 2)、Core Reading(2)						
6	NGSL学習(901-1000)、英語音声(イントネーション 1)、英文法(副詞句・節(1))						
7	NGSL学習(1001-1100)、英語音声(イントネーション 2)、英文法(副詞句・節(2))						
8	NGSL小テスト(901-1100)、英語音声(アクセント)、英文法(副詞句・節(3))						
9	前半のまとめ・復習(中間テストを含む)						
10	NGSL学習(1101-1200)、英語音声(音変化 1)、英文法(名詞句・節(1))						
11	NGSL学習(1201-1300)、NGSL小テスト、英語音声(音変化 2)、Core Reading(3)						
12	NGSL小テスト(1101-1300)、英語音声(音変化 3)、英文法(名詞句・節(2))						
13	NGSL学習(1301-1400)、英語音声(総復習)、Reading演習						
14	NGSL小テスト(1301-1400)、英文法(まとめと補足)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な会話や作文を英語で行うことが出来ているか。</li> <li>英文の段落展開や筆者の主張を読み取ることが出来ているか。</li> <li>英語の発音に関する基礎事項が身につけ、実践することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	30	予習および課題提出状況、授業時の演習やグループワークへの取り組みなどにより評価。		中間・期末テスト	50	中間テスト(第9回)、期末テスト(試験期間)の得点により評価。	
NGSL小テスト	10	授業内で行うNGSL小テスト4回の平均得点により評価。		NGSL共通テスト	10	学期末のNGSL共通テストの成績により評価。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で学習した発音や文法を繰り返し練習すること。</li> <li>NGSLの語彙を継続的に学習すること。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業後に直接声をかける、大学アカウントにメールを送る、または研究室(C104)を訪問してください。</li> </ul>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声：『英語の正しい発音の仕方(リズム・イントネーション編)』研究社</li> <li>文法：プリント配布</li> <li>読解：Core Reading (EPGM Student Handbookに掲載)</li> </ul>			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の予習・復習を欠かさず行うこと。</li> <li>授業時の問題演習やグループワークに積極的に取り組むこと。</li> </ul>		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Foundations of English (H2)						
担当教員	高野 弘子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の理解をさらに確かなものとするに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>英語を正確に運用する能力の土台を固める。/ NGSL第2段階の語彙力を身に付ける。特に、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音などを含む、総合的タスクに積極的に取り組むことを通して、英語の知識を増強し、英語を使用する能力を伸ばすことを目標とする。</p>			
教授方法	個別、ペアワーク、グループワークによる授業。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、課題、評価方法について確認する。						
第2回	Unit 4 Giving recipe						
第3回	Unit 4 Ordering a meal and talking about diets						
第4回	Unit 4 Discuss unusual food						
第5回	Unit 4 Video journal & Review test						
第6回	Unit 5 Describing and comparing activities						
第7回	Unit 5 Talking about favorite sports						
第8回	Unit 5 Discussing adventures						
第9回	Unit 5 Video journal & Review test						
第10回	Unit 6 Discussing past vacations						
第11回	Unit 6 Describing personal experience						
第12回	Unit 6 Describing a discovery from the past						
第13回	Unit 6 Video journal & Review test						
第14回	Unit 4 ~ 6 TED Talks						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な会話や作文を英語で行うことが出来ているか。</li> <li>・英文の段階展開や筆者の主張を読み取ることが出来ているか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身につく、実践することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末テスト	40	授業で学習した内容が身についたか。			小テスト	30	各単元で学習した内容が身についたか。
宿題	20	授業で学習した内容を復習できたか。			NGSL	10	NGSLの語彙力が定着できたか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
宿題は必ず行うこと。				授業前後に対応する。			
教科書・テキスト	World English 1B (Second Edition), Cengage Learning			受講生に望むこと	英語辞典を持参すること。(電子辞書可)		
参考書・参考資料等	授業中に必要に応じて提示する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		Foundations of English (H1)					
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>英語を正確に運用する能力 [accuracy]の基礎を身に付ける / NGSL 第1段階の語彙力を身に付ける。特に、正しい発音で音読することができ、また文法を熟知したうえで実践的に英語を使うことができることを目標とする。</p>			
教授方法	正しい発音を学び、ペアで音読練習をする。文法を確認してから、読み物をとおしてその文法の使い方を深めたり、実際に書くことなどに取り組む。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	発音練習 / Lesson 8 (Readings 1&2)						
2	発音練習 / Lesson 8 (Readings 3&4)						
3	Quiz 1 / 発音練習 / Lesson 9 (Readings 1&2)						
4	発音練習 / Lesson 9 (Readings 3&4)						
5	Quiz 2 / 発音練習 / Lesson 10 (Readings 1&2)						
6	Quiz 3 / 発音練習 / Lesson 11 (Readings 1&2)						
7	発音練習 / Lesson 11 (Reading 3)						
8	Quiz 4 / 発音練習 / Lesson 12 (Readings 1&2)						
9	発音練習 / Lesson 12 (Readings 3&4)						
10	Quiz 5 / 発音練習 / Lesson 13 (Readings 1&2)						
11	発音練習 / Lesson 13 (Reading 3)						
12	Quiz 6 / 発音練習 / Lesson 14 (Readings 1&2)						
13	発音練習 / Lesson 14 (Reading 3)						
14	Quiz 7 / 発音練習(復習) / Lessons 8~14 (総復習)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することができるか。</li> <li>・文の構造や文と文のつながりを読み取ることができるか。</li> <li>・英語の発音に関する基礎事項が身についているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	50	文法の理解度や短文の完成度などに応じて評価する。		発音	10	正しい発音をすることがどの程度できるかにより評価する。	
小テスト	30	文法や語彙に関する小テストを行い、理解度に応じて評価する。		NGSL	10	学期末共通試験の理解度に応じて評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>事前学習：音読(1)内容を考えながらゆっくり読む。 (2)次に発音を意識してゆっくり読む。 小テストの準備、読み物および文法項目の熟読。 事後学習：発音練習、文法の見直し。</p>				<p>非常勤講師控室に来てください(火曜日と金曜日のお昼休み)。または、メールで問い合わせること。メールアドレスは後日、知らせます。</p>			
教科書・テキスト	*1学期のテキストを引き続き使用します。 『増補改訂版 英語発音・聴き取りの基礎』(朝日出版社、2016年) Grammar in Context 2, 6th edition (Cengage Learning, 2016)			受講生に望むこと	普段からなるべく英語にふれる機会をつくるようにしましょう(新聞、音楽、映画など)。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず辞書を持参すること(電子辞書可)。</li> <li>・遅刻しないこと(20分を超えたら欠席とします)。</li> <li>・遅刻や欠席した場合など、小テストの再試験は実施しません。</li> </ul>		

授業科目	Basic English Communication (H1)						
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country, culture and opinions. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the second 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak and write about their own culture and other people's culture, and read graded readers smoothly at a higher level than 1st quarter.			
教授方法	Students will have listening comprehension exercises, do pair practices for dialogues, and have group and class discussions in English. Students will be asked to give presentations in English, and the teacher will give feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction						
2	Travel and tourism - Describing past trips and discussing famous places						
3	Mini-presentation about your most memorable trip						
4	Talking about your own country and culture						
5	Mini-presentation about important festivals in your country						
6	Famous people - Talking about celebrities and their achievements						
7	How do I get there? Asking for and giving directions.						
8	Health - Discussing healthy lifestyles						
9	Good advice - Discussing problems and giving advice						
10	Occupations - Talking about types of jobs, job skills and qualifications						
11	Discussing your ambitions and future plans						
12	Mini-presentation about your future						
13	Mini-presentation about your summer holiday						
14	Review						
共通の評価基準							
Students can smoothly describe elements of their culture and ask about another's culture. Students can write an essay describing an element of their culture. Students will be able to smoothly read graded readers at a higher level than 1st quarter.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking & Listenin	40%	I will evaluate students' listening and speaking skills of English.		Reading	10%	Students will read graded readers.	
Writing	40%	Writing and other assignments		NGSL test	10%	80% pass or fail	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to prepare and review lessons. They also need to study the second 700 words of the NGSL.				I will be available for students before and after class for questions and consultation.			
教科書・テキスト	Shogo Mitsutomi, My First TOEIC Test [New Version] (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-19-255-15473-2			受講生に望むこと	As students need to use their English-English dictionary in class, please bring it to every class. Mobile phone dictionaries are not allowed. The working language of the class will be English, and students are expected to have active participation in class discussions.		
参考書・参考資料等	The teacher will distribute other handouts as well. The teacher will supply students with a list of relevant and useful articles and books in class.			その他・特記事項	-		

授業科目	Basic English Communication (H3)						
担当教員	Jean-Pierre Richard			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country and culture, and opinions. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the second 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak and write about their own culture and other people's culture, and read graded readers smoothly at a higher level than 1st quarter.			
教授方法	Class are active. Every class includes speaking with classmates about textbook topics. There will be activities to use NGSL words every week. There will be writing activities about students' own experiences. Students will also read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1.						
履修条件	-						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	Unit 5.1, Class orientation and Introduction to MReader						
2	Unit 5.2 Group conversations about free time, Mind maps for paragraph writing						
3	Unit 5.3: Group conversations related to likes and dislikes; students practice language patterns related to opinions, writing activity						
4	Unit 6.1 Conversations about music, Introduce Core Reading						
5	Unit 6.2 Conversation about movies, TV, games, and other media						
6	Core Reading assignment						
7	Conversation tests, writing topic sentences in a paragraph						
8	Unit 7.1 Conversation about foods						
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity						
10	Unit 7.3 Conversations on food culture						
11	Unit 8.1 Conversation about near-future plans						
12	Unit 8.2 Conversations about life issues						
13	Unit 8.3 NGSL review						
14	Conversation recordings						
共通の評価基準							
Students can smoothly describe elements of their culture and ask about another's culture. Students can write an essay describing an element of their culture. Students can smoothly read graded readers at a higher level than 1st quarter.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	Multiple (recorded) speaking activities and speaking tests		Writing	40	Writing paragraphs and other assignments	
Reading	10	Fluency reading (MReader)		NGSL	10	80% Pass or Fail	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students need to study and participate actively in and out of class.				Contact me by email, come to my office, or speak to me before or after class.			
教科書・テキスト	Conversations in Class (3rd Edition), Talendis & Vannieu, Alma Publishing, 2015			受講生に望むこと	Students must be willing to communicate in English.		
参考書・参考資料等	A good dictionary (paper, electronic, or online) would be very useful.			その他・特記事項	Work hard and do your best. Little by little, step by step.		

授業科目	Basic English Communication (H2)						
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)				
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country and culture, and opinions. They will learn to write paragraph and write two papers describing an event and a place. They will increase their reading ability by reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the second 700 words of the NGSL.			Students will be able to speak about their lifestyle and opinions, write paragraphs about their own experiences, and read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1.				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Unit 5.1, Introduce MReader						
2	Unit 5.2 Group conversations about free time, Mind maps for paragraph writing						
3	Unit 5.3 Group conversations about likes and dislikes, writing activity						
4	Unit 6.1 Conversations about music, Introduce Core Reading						
5	Unit 6.2 Conversation about movies, TV, games, and other media						
6	Unit 6.3 Core Reading assignment						
7	Conversation tests, writing topic sentences in a paragraph						
8	Unit 7.1 Conversation about foods						
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity						
10	Unit 7.3 Conversations on food culture						
11	Unit 8.1 Conversation about near-future plans						
12	Unit 8.2 Conversations about life issues						
13	Unit 8.3 NGSL review						
14	Conversation recordings						
共通の評価基準							
Student can smoothly converse about elements of their culture and lifestyle. Students can write English paragraphs and type a 2-paragraph paper. Students can smoothly read graded readers at a higher level than Quarter 1.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	recorded conversations		Writing and other	40	a 1-paragraph paper and a 2-paragraph typed paper	
fluency reading	10	read extensively and prove it on MReader		Vocabulary	10	NGSL Test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to do one hour of homework for every class.				Students can contact the instructor via e-mail mision.miguel@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015			受講生に望むこと	Willingness to communicate with others.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		



授業科目	Comprehensive English (H2)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の約500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>				<p>やや高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用するための基礎的な訓練を行う。また、NGSL第3段階の語彙力を身に付ける。特に、モデルとなる英文を読み、目的に応じたパラグラフを書くことが出来るライティングスキルを習得することを目標とする。</p>			
教授方法	ペア・グループワークへの参加やメディアシステムへの録音等、アウトプットが積極的に求められるアクティブラーニング						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス(授業の進め方、スケジュール、成績評価等)、ウォームアップ、セルフチェックテスト、Core Readingの読解						
2	Textbook Unit 1. Cause & Effectのパラグラフリーディング・ライティング						
3	Cause & Effectのレビューとミニプレゼン						
4	Textbook Unit 2. Compare & Contrastのパラグラフリーディング・ライティング						
5	Compare & Contrastのレビューとミニプレゼン						
6	Textbook Unit 3. Giving an Opinionのパラグラフリーディング・ライティング						
7	Giving an Opinionのレビューとミニプレゼン						
8	Textbook Unit 4. Classification Writingのパラグラフリーディング・ライティング						
9	Classification Writingのレビューとミニプレゼン						
10	Textbook Unit 5. Describing a Processのパラグラフリーディング・ライティング						
11	Describing a Processのレビューとミニプレゼン						
12	Textbook Unit 6. Descriptive Writingのパラグラフリーディング・ライティング						
13	Descriptive Writingのレビューとミニプレゼン						
14	即興パラグラフ・ライティングの練習						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや高度な英文を正しく読むことができるか。</li> <li>・自分の意見を英語で述べることができるか。</li> <li>・自分の意見を英文で表現することができるか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ライティング課題	50	語彙、文法、構文等の英語表現および情報伝達の適切性を測る		ミニプレゼン	10	プレゼンにおける発音の正確性、イントネーションの適切性を測る	
定期試験(筆記)	30	4技能統合型の基本問題においてライティングスキルを測る		NGSL	10	NGSL共通試験において対象語彙の習熟度を測る	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された資料(文献や動画等)の要点を理解し、事後学習として授業で行ったパフォーマンス(スピーキング・ライティング等)をより洗練させたくうえでOneNote(デジタルポートフォリオ)への投稿などが求められる。また適宜、英語トレーニングが指示される。</p>				<p>大学のOffice365アカウントから、EmailまたはTeams/Skype for Businessで連絡をください。また、学内オフィスC105にて、簡単な質問は随時、面談はアポイントメントを設定したうえで、受け付けます。</p>			
教科書・テキスト	Jigsaw: Insightful Reading to Successful Writing (Hickling, R., & Yashima, J., Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-369-4)			受講生に望むこと	協同学習の機会に積極的に参加すること。また自律的に学習を進められるように努めること。各自に必要な英語トレーニングに継続的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『国際学会Englishスピーキング・エクササイズ口演・発表・応答』(Langham, C.S. 医歯薬出版)</li> <li>・1年次前期使用した英語音声のテキスト</li> </ul>			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Comprehensive English (H1)					
担当教員	並木 翔太郎		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生	健康発達	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の約500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>			<p>やや高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用するための基礎的な訓練を行う。また、NGSL第3段階の語彙力を身に付ける。特に、各自が読んだ英字新聞などの内容を組み込んだ、3分程度の英語グループプレゼンテーション動画の作成を目標とする。</p>			
教授方法	この授業は主にCALLシステムを活用した演習形式で行う。					
履修条件	特になし。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容					
9/25 (Fri.)	授業ガイダンス(授業概要の説明、iPadなど機器の説明)					
9/29 (Tue.)	リスニング練習(1)/ 読解練習(1)/ NGSL確認問題(1)					
10/2 (Fri.)	Core Reading(1)/ スピーキング練習(1)/ 英作文練習(1)					
10/6 (Tue.)	リスニング練習(2)/ 読解練習(2)/ NGSL確認問題(2)					
10/9 (Fri.)	Core Reading(2)/ スピーキング練習(2)/ 英作文練習(2)					
10/13 (Tue.)	リスニング練習(3)/ 読解練習(3)/ NGSL確認問題(3)					
10/16 (Fri.)	Core Reading(3)/ スピーキング練習(3)/ 英作文練習(3)					
10/20 (Tue.)	リスニング練習(4)/ 読解練習(4)/ スピーキング練習(4)/ NGSL確認問題(4)					
10/27 (Tue.)	リスニング練習(5)/ 読解練習(5)/ NGSL確認問題(5)					
10/30 (Fri.)	Core Reading(5)/ スピーキング練習(5)/ 英作文練習(4)					
11/3 (Tue.)	リスニング練習(6)/ 読解練習(6)/ NGSL確認問題(6)					
11/6 (Fri.)	スピーキング練習(5)/ 英作文練習(5)/ プレゼン指導(1)					
11/10 (Tue.)	プレゼン指導(2)/ NGSL確認問題(7)					
11/13 (Fri.)	他グループ作成の動画内容の英文要約作成					
<b>共通の評価基準</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや高度な英文を正しく読むことができるか。</li> <li>・自分の意見を英語で述べるができるか。</li> <li>・自分の意見を英文で表現することができるか。</li> </ul>						
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
定期試験(筆記)	30%	授業内容の総合的な理解度を測る	課題提出	15%	グループプレゼン(動画 10%、要約 5%)	
小テスト	20%	授業内容についての確認テスト(10回実施)	上記以外の授業評価	35%	NGSL 10%、Eラーニング 5%、授業内活動 20%	
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Eラーニング学習を1日30分程度は行うこと。</li> <li>・毎回の授業で指定される資料を用いた事前・事後学習を1時間半程度は行うこと。</li> </ul>			<p>質問や相談は、大学メール(およびSkype for Business)にて対応する。また、研究室(C107)でも面談などでも対応可能(アポイントメント推奨)。</p>			
教科書・テキスト	Shishido, M.他(2019)『AFP World News Report 5: Achieving the Sustainable Development Goals (SDGs)』、成美堂。		受講生に望むこと	協同学習に積極的に参加すること。		
参考書・参考資料等	森沢洋介(2006)『どンドン話すための瞬間英作文トレーニング』 野中泉(2016)『もう一度始める英語発音入門』		その他・特記事項	なし		

授業科目	Comprehensive English (H3)						
担当教員	高野 弘子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>				<p>やや高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用するための基礎的な訓練を行う。また、NGSL第3段階の語彙力を身に付ける。特に、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音などを含む、総合的タスクに積極的に取り組むことを通して、英語の知識を増強し、英語を使用する能力を伸ばすことを目標とする。</p>			
教授方法	個別、ペアワーク、グループワークによる授業。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、課題、評価方法について確認する。						
第2回	Unit 7 Talking about personal communication						
第3回	Unit 7 Exchange contact information						
第4回	Unit 7 Comparing different types of communication						
第5回	Unit 7 Video journal & Review test						
第6回	Unit 8 Talking about plans						
第7回	Unit 8 Discussing long- and short-term plans						
第8回	Unit 8 Discussing the future						
第9回	Unit 8 Video journal & Review test						
第10回	Unit 9 Making comparison						
第11回	Unit 9 Explaining preferences						
第12回	Unit 9 Talking about clothing materials						
第13回	Unit 9 Video journal & Review test						
第14回	Unit 7 ~ 9 TED Talks						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや高度な英文を正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英語で述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英語で表現することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末テスト	40	授業で学習した内容が身についたか。		小テスト	30	各単元で学習した内容が身についたか。	
宿題	15	授業で学習した内容を復習できたか。		NGSL, e-learning	10 5	NGSLの語彙力が定着できたか。 自主学習できたか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
宿題は必ず行うこと。				授業前後に対応する。			
教科書・テキスト	World English 1B (Second Edition), Cengage Learning			受講生に望むこと	英語辞典を持参すること。(電子辞書可)		
参考書・参考資料等	授業中に必要に応じて提示する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Academic English Communication (H3)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on normal and academic topics. They will learn to a report supporting their opinions. Students will read and summarize readings on current topics and academic topics. Students will also develop the ability to use the third group of words (500) of the NGSL.				Students will learn to describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics. They will learn to write a report supporting their opinions, and learn the third group of words of the NGSL.			
教授方法	Students' academic English language skills (speaking, listening, reading, writing) will be developed. By the end of this course, students will be able to: independently read 60 minutes of graded/authentic text per week; outline ideas and paragraphs; write an essay according to English-language conventions regarding format, genre, and mechanics; and be familiar with the NGSL and identify its third group of words and meanings (700 words).						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Course orientation, syllabus, introductions, textbook, discussion assignment						
2	Unit 1, NGSL						
3	Unit 1, Reading, Report Writing						
4	Unit 1, NGSL						
5	Unit 3, Reading						
6	Unit 3, NGSL, Core Reading 3						
7	Unit 3, Report Writing						
8	Core Reading 3, NGSL						
9	Core Reading 3, Report Writing						
10	Core Reading 3, NGSL						
11	Unit 4, Reading						
12	Unit 4, NGSL						
13	Unit 4, Reading						
14	Course evaluation and review						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can support their opinion in an English essay. Students can summarize the content of an English essay.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
Speaking	35	Discussion skills			Writing	45	Report, Core Reading assignments
Reading	10	Fluency reading (MReader)			NGSL	10	NGSL tests; final exam is 80% pass/fail
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There is 90 minutes of homework per week. You will need to read approximately 30 minutes plus 60 minutes for homework.				Contact by Google Form, email, office hours.			
教科書・テキスト	In Focus Students' Book 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2013.			受講生に望むこと	Be willing to communicate.		
参考書・参考資料等	Dictionary, notebook			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (H1)						
担当教員	Miguel Alberto Mision			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on normal and academic topics. They will learn to write a report supporting their opinion. Students will read and summarize readings on current topics and academic topics. Students will also develop the ability to use the third group of words (500) of the NGSL.				Students will learn to describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics. They will learn to write a report supporting their opinions, and learn the third group of words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained						
2	Unit 1, What is discussion? assignment, practice discussion						
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Report Writing						
4	Unit 1, practice discussion,						
5	Unit 1 discussion recording, NGSL activity						
6	Unit 3, Begin Core Reading						
7	Unit 3, Report Writing						
8	Unit 3, Core Reading assignment						
9	Unit 3, Report Writing						
10	Unit 3 discussion recording						
11	Unit 4, Core Reading assignment						
12	Unit 4, Report Writing						
13	Unit 4, Core Reading assignment						
	Unit 4 discussion recording, NGSL review						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can support their opinion in an English report. Students can summarize the content of an English essay							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	35	discussion skills		writing and other	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments	
fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to do one hour of homework for every class.				Students can contact the instructor via e-mail mision.miguel@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	In Focus 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students are expected to do the homework for each class, which will help them prepare to share their ideas during in class discussion activities. This class will involve sharing a lot of opinions and ideas, students must respect the thoughts of their peers.		
参考書・参考資料等	I recommend the smartphone application "Imiwa" as a guide to learning vocabulary.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (H2)						
担当教員	Keff Kenner			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on normal and academic topics. They will learn to write a report supporting their opinion. Students will read and summarize readings on current topics and academic topics. Students will also develop the ability to use the third group of words (500) of the NGSL.				Students will learn to describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics. They will learn to write a report supporting their opinions, and learn the third group of words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained						
2	Unit 1, What is discussion? assignment, practice discussion						
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Report Writing						
4	Unit 1, practice discussion						
5	Unit 1 discussion recording, NGSL activity						
6	Unit 3, Begin Core Reading						
7	Unit 3, Report Writing						
8	Unit 3, Core Reading assignment						
9	Unit 3, Report Writing						
10	Unit 3 discussion recording						
11	Unit 4, Core Reading assignment						
12	Unit 4, Report Writing						
13	Unit 4, Core Reading assignment						
14	Unit 4 discussion recording, NGSL review						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can support their opinion in an English report. Students can summarize the content of an English essay.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	35	discussion skills		writing and other	34	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments	
fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
study required before and after class.				Please contact the instructor by email.			
教科書・テキスト	n Focus 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	A desire to express ideas in English		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目		Comprehensive English (H2)					
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の約500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用する能力を養う。また、NGSL第4段階の語彙力を身に付ける。特に、高度な英文について、情報を吟味しながら、要点を理解できる聴解力と読解力、および、様々なコミュニケーションの状況に応じて、自分の意見を適切かつ即座に伝えられる表現力を習得することを目標とする。</p>			
教授方法	ペア・グループワークへの参加やメディアシステムへの録音等、アウトプットが積極的に求められるアクティブラーニング						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Textbook Unit 7. Persuasive Writingのパラグラフリーディング・ライティング						
2	Textbook Unit 8. Writing to Evaluateのパラグラフリーディング・ライティング						
3	Persuasive Writing, Writing to Evaluateのレビューとミニプレゼン						
4	Textbook Unit 9. Pros & Consのパラグラフリーディング・ライティング						
5	Textbook Unit 10. Writing to Adviseのパラグラフリーディング・ライティング						
6	Pros & Cons, Writing to Adviseのレビューとミニプレゼン						
7	Textbook Unit 11. Writing to Clarifyのパラグラフリーディング・ライティング						
8	Textbook Unit 12. Reflective Writingのパラグラフリーディング・ライティング						
9	Writing to Clarify, Reflective Writingのレビューとミニプレゼン						
10	Textbook Unit 13. Problem Solvingのパラグラフリーディング・ライティング						
11	Textbook Unit 14. Writing to Entertainのパラグラフリーディング・ライティング						
12	Textbook Unit 15. Writing to Inspireのパラグラフリーディング・ライティング						
13	Problem Solving, Writing to Entertain, Writing to Inspireのレビューとミニプレゼン						
14	3-paragraphライティングの練習						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な英文を正しく読むことができているか。</li> <li>・相手の意見を理解し、自分の意見を述べるができているか。</li> <li>・自分の意見を英文で、確実に、分かりやすく表現できているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ライティング課題	50	語彙、文法、構文等の英語表現および情報伝達の適切性を測る		ミニプレゼン	10	英語の正確性およびノンバーバルスキルの応用力を測る	
定期試験(筆記)	30	4技能統合型の基本問題においてライティングスキルを測る		NGSL	10	NGSL共通試験において対象語彙の習熟度を測る	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された資料(文献や動画等)の要点を理解し、事後学習として授業で行ったパフォーマンス(スピーキング・ライティング等)をより洗練させたうえでOneNote(デジタルポートフォリオ)への投稿などが求められる。また適宜、英語トレーニングが指示される。</p>				<p>大学のOffice365アカウントから、EmailまたはTeams/Skype for Businessで連絡をください。また、学内オフィスC105にて、簡単な質問は随時、面談はアポイントメントを設定したうえで、受け付けます。</p>			
教科書・テキスト	Jigsaw: Insightful Reading to Successful Writing (Hickling, R., & Yashima, J., Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-369-4)			受講生に望むこと	協同学習の機会に積極的に参加すること。また自律的に学習を進められるように努めること。各自に必要な英語トレーニングに継続的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『国際学会Englishスピーキング・エクササイズ公演・発表・応答』(Langham, C.S. 医歯薬出版)</li> <li>・1年次前期使用した英語音声のテキスト</li> </ul>			その他・特記事項	特になし		

授業科目		Comprehensive English (H1)					
担当教員	並木 翔太郎			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用する能力を養う。また、NGSL第4段階の語彙力を身に付ける。特に、各自が読んだ英文内容などを取り入れた4分程度の個人プレゼンテーション動画の作成と、プレゼンテーション内容についての4分間の自然な英語討論を目標とする。</p>			
教授方法	この授業は主にCALLシステムを活用した演習形式で行われる。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
11/27 (Fri.)	授業ガイダンス(授業概要の説明、機器操作方法の説明など) パラグラフ・ライティング(1:比較対照)						
12/1 (Tue.)	パラグラフ・ライティング(2:比較対照) / NGSL確認問題(1) / リスニング練習(1)						
12/4 (Fri.)	パラグラフ・ライティング(3:要約)						
12/8 (Tue.)	パラグラフ・ライティング(4:要約) / NGSL確認問題(2) / リスニング練習(2)						
12/11 (Fri.)	パラグラフ・ライティング(5:意見陳述)						
12/15 (Tue.)	パラグラフ・ライティング(6:意見陳述) / NGSL確認問題(3) / リスニング練習(3)						
12/18 (Fri.)	個人プレゼン準備(1:概要説明、英字新聞選択)						
12/22 (Tue.)	個人プレゼン準備(2:要約文作成) / NGSL確認問題(4) / リスニング練習(4)						
1/8 (Fri.)	個人プレゼン準備(3:原稿・パワーポイント作成) / 添削指導(1)						
1/12 (Tue.)	個人プレゼン準備(4:原稿・パワーポイント作成) / 添削指導(2)						
1/19 (Tue.)	個人プレゼン準備(5:原稿・パワーポイント作成) / NGSL確認問題(5) / リスニング練習(5)						
1/22 (Fri.)	個人プレゼン準備(6:ビデオ作成(パソコン持参推奨))						
1/26 (Tue.)	プレゼンビデオの内容要約						
1/29 (Fri.)	ディスカッション録画						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な英文を正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・相手の意見を理解し、自分の意見を述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英文で、確実に、分かりやすく表現出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題提出	30%	個人プレゼン(原稿 10%、ビデオ 10%、要約 10%)		小テスト	20%	授業内容に関する小テスト(5回実施)	
ディスカッション	10%	プレゼン内容を基いた英語でのディスカッション		上記以外の評価	40%	NGSL 10%、Eラーニング 5%、授業内活動 25%	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Eラーニング学習を1日30分程度は行うこと。</li> <li>・毎回の授業で指定される資料を用いた事前・事後学習を1時間半程度は行うこと。</li> </ul>				<p>質問や相談は、大学メール(およびSkype for Business)にて対応する。また、研究室(C107)でも面談などでも対応可能(アポイントメント推奨)。</p>			
教科書・テキスト	Shishido, M. (2019) 『AFP World News Report 5: Achieving the Sustainable Development Goals (SDGs)』, 成美堂., その他配布資料.			受講生に望むこと	協同学習に積極的に参加すること。		
参考書・参考資料等	安藤貞雄 (2005) 『現代英文法講義』 野中泉 (2016) 『もう一度始める英語発音入門』			その他・特記事項	なし		



授業科目	Comprehensive English (H3)						
担当教員	高野 弘子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自主活動を通じて、NGSL第4段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>高度なリーディング・ライティングに基づいて、4技能を総合的に運用する能力を養う。また、NGSL第4段階の語彙力を身に付ける。特に、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、文法、発音などを含む、総合的タスクに積極的に取り組むことを通じて、英語の知識を強化し、英語を使用する能力を伸ばすことを目標とする。</p>			
教授方法	個別、ペアワーク、グループワークによる授業。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、課題、評価方法について確認する。						
第2回	Unit 10 Giving advice on healthy habits						
第3回	Unit 10 Comparing lifestyles						
第4回	Unit 10 Evaluating your lifestyles						
第5回	Unit 10 Video journal & Review test						
第6回	Unit 11 Talking about today's chores						
第7回	Unit 11 Talking about personal accomplishments						
第8回	Unit 11 Discussing humanity's greatest achievements						
第9回	Unit 11 Video journal & Review test						
第10回	Unit 12 Talking about managing your money						
第11回	Unit 12 Making choices on how to spend your money						
第12回	Unit 12 Evaluating money and happiness						
第13回	Unit 12 Video journal & Review test						
第14回	Unit 10 ~ 12 TED Talks						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な英文を正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・相手の意見を理解し、自分の意見を述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を英文で、確実に、わかりやすく表現できているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
期末テスト	40	授業で学習した内容が身についたか。	小テスト	30	各単元で学習した内容が身についたか。		
宿題	15	授業で学習した内容を復習できたか。	NGSL, e-learning	10 5	NGSLの語彙力が定着できたか。 自主学習できたか。		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
宿題は必ず行うこと。				授業前後に対応する。			
教科書・テキスト	World English 1B (Second Edition), Cengage Learning			受講生に望むこと	英語辞典を持参すること。(電子辞書可)		
参考書・参考資料等	授業中に必要に応じて提示する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Academic English Communication (H3)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on current issues and academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings related to their major. Students will also develop the ability to use the fourth group of words (500) of the NGSL.				Students will develop ability to reason for their opinions, summarize readings and learn the fourth group of words of the NGSL.			
教授方法	Students' academic English language skills (speaking, listening, reading, writing) will be developed. By the end of this course, students will be able to: independently read 60 minutes of graded/authentic text per week; outline ideas and paragraphs; write an essay according to English-language conventions regarding format, genre, and mechanics; and be familiar with the NGSL and identify its fourth group of words and meanings (700 words).						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Course orientation, syllabus, introductions, textbook, discussion explanation						
2	Unit 7, NGSL, essay						
3	Unit 7, Reading, essay outline						
4	Unit 7, NGSL, discussion						
5	Unit 9, Reading						
6	Unit 9, NGSL, essay						
7	Unit 9, Reading						
8	Core Reading 4, NGSL, essay						
9	Core Reading 4, Reading						
10	Core Reading 4, NGSL						
11	Unit 10, Reading						
12	Unit 10, NGSL						
13	Unit 10, Reading, discussion						
14	Course evaluation and review						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about textbook-related content. Students can support their opinion in an English essay. Students can summarize the content of an English essay.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	35	Recorded speeches, conversations, and tests		Writing	45	Essay, writing and other Core Reading assignments	
Reading	10	Fluency reading (MReader)		Vocabulary	10	NGSL tests; final exam is 80% pass/fail	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
You will have 90 minutes per week of homework. You will read 30 minutes plus 60 minutes of homework.				Contact by Google Form, email and office hours.			
教科書・テキスト	In Focus Students' Book 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2013.			受講生に望むこと	Be willing to communicate.		
参考書・参考資料等	Dictionary, notebook			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (H1)						
担当教員	Miguel Alberto Mision			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on current issues and academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings related to their major. Students will also develop the ability to use the fourth group of words (500) of the NGSL.				Students will develop ability to reason for their opinions in discussion, write an expository essay and learn the fourth group of 500 words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容						
1	Unit 7, practice discussion with new discussion skills						
2	Unit 7, Expository Essays structure						
3	Unit 7, Expository Essay outline assignment						
4	Unit 7, practice discussion						
5	Discussion Test on Unit 7						
6	Unit 9, Expository Essay assignment						
7	Unit 9, practice discussion						
8	Unit 9, Expository Essay assignment						
9	Discussion Test on Unit 9						
10	Unit 10, intro to TED Talks, Core Reading						
11	Unit 10, CNBC article and Noriko Arai, Core Reading						
12	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading						
13	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading						
14	Discussion Test on Unit 10						
<b>共通の評価基準</b>							
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	35	discussion skills		writing and other	45	an expository essay, Core Reading assignments	
fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Students are expected to do one hour of homework for every class.				Students can contact the instructor via e-mail mision.miguel@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	In Focus 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students are expected to do the homework for each class, which will help them prepare to share their ideas during in class discussion activities. This class will involve sharing a lot of opinions and ideas, students must respect the thoughts of their peers.		
参考書・参考資料等	I recommend the smartphone application "Imiwa" as a guide to learning vocabulary.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (H2)						
担当教員	Keff Kenner			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
Students will learn to describe, support and exchange opinions on current issues and acaClasses are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.demic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings related to their major. Students will also develop the ability to use the fourth group of words (500) of the NGSL.				Students will develop ability to reason for their opinions in discussion, write an expository essay and learn the fourth group of 500 words of the NGSL.			
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Unit 7, practice discussion with new discussion skills						
2	Unit 7, Expository Essays structure						
3	Unit 7, Expository Essay outline assignment						
4	Unit 7, practice discussion						
5	Discussion Test on Unit 7						
6	Unit 9, Expository Essay assignment						
7	Unit 9, practice discussion						
8	Unit 9, Expository Essay assignment						
9	Discussion Test on Unit 9						
10	Unit 10, intro to TED Talks, Core Reading						
11	Unit 10, CNBC article and Noriko Arai, Core Reading						
12	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading						
13	Dr. Arai's TED Talk, Core Reading						
14	Discussion Test on Unit 10						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about textbook-related content. Students can support their opinion in an English essay. Students can summarize the content of an English essay.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	35	discussion skills		writing and other	45	an expository essay, Core Reading assignments	
fluency reading	10	extensive reading that is proved by MReader quizzes		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
study required before and after class				Contact the instructor by email.			
教科書・テキスト	In Focus 1, Browne, Culligan, & Phillips, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	A desire to express ideas in English		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目		Comprehensive English (F)					
担当教員		坂 淳一		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				さらに高度なリーディング・ライティングをいかして、論理的な思考能力と4技能を自在に運用する高度な英語力を養う。NGSL第5段階の語彙力を身に付ける。また、海外プログラムに備えて、栄養学で使われる英語についても学ぶ。			
教授方法	テキストに基づいて、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能演習を行う。また、栄養学について書かれた英語のテキストを読み、栄養学に関するTEDのスピーチによるリスニングを行い、最終日にはプレゼンテーションも行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業に関する説明。テキスト Chapter 1-1、リスニングとライティングについての解説。語彙学習についての説明。						
2	テキスト Chapter 1-2、Core Reading に基づく4技能のトレーニング(1)、NGSL小テスト(1)						
3	テキスト Chapter 1-3、Core Reading に基づく4技能のトレーニング(2)、NGSL小テスト(2)、TEDリスニング(1) "Calorie"						
4	テキスト Chapter 1-4、プレゼンテーションの技術を学ぶ。PEN の紹介とプレゼン指導について。NGSL小テスト(3)						
5	テキスト Chapter 2-1、2、リスニングとライティングの演習(1)、NGSL小テスト(4)						
6	テキスト Chapter 2-3、リスニングとライティングの演習(2)、NGSL小テスト(5)						
7	テキスト Chapter 3-1、リスニングとライティングの演習(3)、NGSL小テスト(6)						
8	テキスト Chapter 3-2、リスニングとライティングの演習(4)、NGSL小テスト(7)、TEDリスニング(2) "Fat"						
9	テキスト Chapter 3-3、4、リスニングとライティングの演習(5)、NGSL小テスト(8)						
10	テキスト Chapter 3-5、6、リスニングとライティングの演習(6)、NGSL小テスト(9)						
11	テキスト Chapter 4-1、リスニングとライティングの演習(7)、NGSL小テスト(10)						
12	テキスト Chapter 4-2、リスニングとライティングの演習(8)、NGSL小テスト(11)						
13	テキスト Chapter 4-3、4、リスニングとライティングの演習(9)、NGSL小テスト(12)、TED リスニング(3) "Carbohydrates"						
14	プレゼンテーション日						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな話題や、学部学科の専門に関する英文も正しく読むことが出来るか。</li> <li>・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を述べる事が出来るか。</li> <li>・自分の意見を論理的、説得的に英文で表現することが出来るか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験(筆記)	30	教科書のリーディングと語彙のテストの点数		授業レポート	30	ライティング等の課題の総合点	
小テスト	10	授業内のNGSL小テストの総点		上記以外の授業評価	30	プレゼンテーション20%、NGSLテスト 10%	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
授業で指示された予習課題、復習、レポートなどにしっかり取り組むこと。				授業時に質問するか、研究室に相談に来て下さい。			
教科書・テキスト	はじめての栄養英語(講談社)			受講生に望むこと	授業外でもたくさん英語に接して下さい。		
参考書・参考資料等	必要に応じて、プリントで配布するか、OneNoteで配信します。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Comprehensive English (C2)						
担当教員	並木 翔太郎			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				さらに高度なリーディング・ライティングをいかして、論理的な思考能力と4技能を自在に運用する高度な英語力を養う。また、NGSL第5段階の語彙力を身に付ける。特に、精読した専門書の内容などを取り込んだ5分程度の英語での個人プレゼンテーションの作成と、5分程度の自然な英語での質疑応答を目標とする。			
教授方法	この授業は主にCALLシステムを活用した演習形式で行われる。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
4/10 (Fri.)	授業ガイダンス(授業概要の説明、iPad操作方法の説明など)						
4/14 (Tue.)	個人プレゼンテーションの基礎 第1回 / 小テスト(1)						
4/17 (Fri.)	個人プレゼンテーションの基礎 第2回 / リスニング練習(1)						
4/21 (Tue.)	個人プレゼンテーションの基礎 第3回 / 小テスト(2)						
4/23 (Fri.)	専門書精読の基礎 第1回 / リスニング練習(2)						
4/28 (Tue.)	専門書精読の基礎 第2回 / 小テスト(3)						
5/1 (Fri.)	専門書精読の基礎 第3回 / リスニング練習(3)						
5/5 (Tue.)	エッセイライティング 第1回 / 小テスト(4)						
5/8 (Fri.)	エッセイライティング 第2回 / リスニング練習(4)						
5/12 (Tue.)	エッセイライティング 第3回 / 小テスト(5)						
5/15 (Fri.)	個人プレゼン準備 第4回(パソコン持参推奨)						
5/19 (Tue.)	個人プレゼン(5分)発表(1) / 小テスト(6)						
5/22 (Fri.)	個人プレゼン(5分)発表(2)						
5/26 (Tue.)	個人プレゼン(5分)発表(3)、全体総括 / 小テスト(7)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな話題や、学部学科の専門に関する英文も正しく読むことが出来ているか。</li> <li>・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を述べる事が出来ているか。</li> <li>・自分の意見を論理的、説得的に英文で表現することが出来ているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
課題提出	55%	個人プレゼン(20%)、英文エッセイ(15%)、音読練習ファイル(10%)、その他(10%)	小テスト	20%	授業の内容に関する小テスト(全7回)		
ディスカッション	5%	プレゼン内容を踏まえたディスカッション	上記以外の評価	20%	NGSL 10%、授業内活動 10%		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定の課題に対して一日30分程度の学習を行うこと。</li> <li>・毎回の授業で指定される資料を用いた事前・事後学習を1時間程度行うこと。</li> </ul>				質問や相談は、大学メール(およびSkype for Business)にて対応する。また、研究室(C107)でも面談などでも対応可能(アポイントメント推奨)。			
教科書・テキスト	なし(資料配布予定)			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協同学習に積極的に参加すること。</li> <li>・授業外での学習を効果的に行うこと。</li> </ul>		
参考書・参考資料等	安藤貞雄(2005)『現代英文法講義』 野中泉(2016)『もう一度始める英語発音入門』			その他・特記事項	なし		

授業科目	Comprehensive English (C1)						
担当教員	中澤 はるみ			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
世界の様々な文化や社会に関する事柄についての文章を読みグローバルな視点と分析的な思考能力を養う。自分の意見を述べる練習としてディスカッションをグループで行う。				高度なリーディング、ライティングを英語でできるように4技能を自在に運用する英語力を養う。語彙力を伸ばし、コミュニケーションができるようにする。			
教授方法	文章読解の速度を上げ、読み物の内容について、自分の意見をまとめ、発表する。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション。授業方法、課題、試験などについて説明。						
2	色、迷信について。パラグラフ・ライティングについて学ぶ。						
3	自分の性格について書く。パラグラフをエッセイに発展させることを学ぶ。						
4	人物の伝記を読む。物語の構造について学ぶ。						
5	プレゼンテーション。テーマの決め方。						
6	食べ物について話す。和食と各国料理を比較する。						
7	食事、及びマナーについて考える。英語での比較対比の仕方を学ぶ。						
8	プレゼンテーション。聞き手を惹きつける話し方。						
9	言語について考える。英語で因果関係の説明ができるようになる。						
10	プレゼンテーション。仕上げ。						
11	ライティング。手紙、メールの書き方。						
12	ライティング。報告書の書き方。						
13	リーディング、リスニングのまとめ。						
14	まとめと総括。						
共通の評価基準							
グローバルな話題、学部、学科の専門に関する英文を正しく読むことができているか。やや専門的な内容においても英語で意見を聞き自分の意見を述べることができているか。自分の意見を論理的に説得力を持って英文で表現することができているか。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験	60%	授業内容の理解度に応じて評価する。		平常点	10%	授業の参加状況を評価する。	
授業レポート	20%	授業の中で与えられたレポートの成果を評価する。		上記以外の授業評価	10%	NGSL	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
毎回指定された課題の予習に取り組む。理解しきれなかった内容を授業後に復習する。				質問は授業中、及び授業前後に、またメールでも受ける。			
教科書・テキスト	VOCABULARY IN PRACTICE 6 GRAMMAR IN PRACTICE 6 Cambridge UP 他プリント教材。			受講生に望むこと	必ず英語の辞書を持参すること。英語の検定試験を受け自分の英語力を確認し、さらにスキルアップすること。		
参考書・参考資料等	必要に応じて指示する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Academic English Communication (C1)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentation language, how to make the most of an overseas experience, and reviewing conversation strategies. Fluency in reading and speaking will be practiced. The fifth group of words (400) of the NGSL will be used.				Students will learn academic presentation language for individual and group presentations, discuss how to make the most of an overseas experience, practice conversation strategies, and learn the fifth group of words of the NGSL. Students will practice fluency in reading and speaking.			
教授方法	Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Presentation A explanation, model, language card and template						
2	Practice presentation language with outline, fluency reading and book talk						
3	Presentation A slide explanation, Conversation Strategies I practice and assignment, NGSL review						
4	Presentation A, fluency reading and book talk						
5	Presentation Phrases Test, Conversation Strategies II and assignment, Core Reading discussion						
6	Core Reading discussion, fluency reading and book talk						
7	Core Reading discussion, Conversation Strategies III practice and assignment, Presentation B explanation						
8	Presentation B outline and reporting to group, fluency reading and book talk						
9	Overseas Program destination group work, Conversation Strategies IV practice and assignment						
10	Overseas Program destination group work, fluency reading and book talk						
11	Overseas Program destination group work, Presentation Phrases practice, Conversation Strategies V practice and assignment						
12	Presentation C Group presentations on Overseas Program destination						
13	Presentation C Group presentations on Overseas Program destination						
14	Conversation Strategies test, fluency reading and book talk						
共通の評価基準							
Students will learn to give presentations in English using appropriate language, they will read and discuss the Core Reading and master conversation strategies and the fifth group of NGSL words (400).							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Presentations	40	1 group presentation and 2 individual presentations		Writing Assignments	30	Conversation Strategies assignments and Core Reading assignments	
language skills	20	Conversation Strategies test and Presentation Phrases test		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Study is required before and after class				Students can visit the instructor's office any weekday or contact by email.			
教科書・テキスト	-			受講生に望むこと	A desire to express ideas in English.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		



授業科目	Academic English Communication (F)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
This class will prepare student for their overseas program by teaching academic presentation language, how to make the most of an overseas experience, and reviewing conversation strategies. Fluency in reading and speaking will be practiced. The fifth group of words (400) of the NGSL will be used.				Students will learn academic presentation language for individual and group presentations, discuss how to make the most of an overseas experience, practice conversation strategies, and learn the fifth group of words of the NGSL. Students will practice fluency in reading and speaking.			
教授方法	Every class will be active and include speaking with classmates about textbook topics. There will activities to use and practice NGSL words every week. The ability to summarize readings and discussions effectively will be emphasized.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Course orientation, syllabus, introductions, textbook, presentation A, language card and template						
2	Practice presentation language with outline, fluency reading and book talk						
3	Presentation A slide explanation, conversation strategies I, NGSL review						
4	Presentation A, fluency reading, and book talk						
5	Presentations phrases test, conversation strategies II, Core Reading discussion						
6	Core Reading discussion, fluency reading, and book talk						
7	Core Reading discussion, conversation strategies III, Presentation B						
8	Presentation B outline, fluency reading and book talk						
9	Overseas Program destination group explanation, conversation strategies IV						
10	Overseas Program destination group, fluency reading and book talk						
11	Overseas Program destination group work, presentation phrases, conversation strategies V						
12	Presentation C						
13	Presentation C						
14	Course evaluation and review						
共通の評価基準							
Students will learn to give presentations in English using appropriate language, they will read and discuss the Core Reading and master conversation strategies and the fifth group of NGSL words (400 words).							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
Presentations	40	Group and 2 individual			Writing	40	Conversation Strategies, Core Reading, and other assignments
Language skills	10	Tests on conversation strategies and presentation phrases			Vocabulary	10	NGSL tests; final exam is 80% pass/fail
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Before class, read, write, and prepare materials. This includes the text, relevant vocabulary, reports, and online documents. After class, review material that we have learned, and reflect on what you can and cannot do yet. Studying in pairs or small groups is highly encouraged.				Contact by Google Form, email and office hours.			
教科書・テキスト	Instructor- and student-provided materials			受講生に望むこと	Work hard, complete all tasks, collaborate with classmates, formulate and ask questions, be curious and critical and creative.		
参考書・参考資料等	Digital literacy skills and cloud-based computing will be used.			その他・特記事項	Students must miss no more than 4 classes in order to achieve a passing grade.		

授業科目	Academic English Communication (C2)						
担当教員	Keff Kenner			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentation language, how to make the most of an overseas experience, and reviewing conversation strategies. Fluency in reading and speaking will be practiced. The fifth group of words (400) of the NGSL will be used.				Students will learn academic presentation language for individual and group presentations, discuss how to make the most of an overseas experience, practice conversation strategies, and learn the fifth group of words of the NGSL. Students will practice fluency in reading and speaking.			
教授方法	Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Presentation A explanation, model, language card and template						
2	Practice presentation language with outline, fluency reading and book talk						
3	Presentation A slide explanation, Conversation Strategies I practice and assignment, NGSL review						
4	Presentation A, fluency reading and book talk						
5	Presentation Phrases Test, Conversation Strategies II and assignment, Core Reading discussion						
6	Core Reading discussion, fluency reading and book talk						
7	Core Reading discussion, Conversation Strategies III practice and assignment, Presentation B explanation						
8	Presentation B outline and reporting to group, fluency reading and book talk						
9	Overseas Program destination group work, Conversation Strategies IV practice and assignment						
10	Overseas Program destination group work, fluency reading and book talk						
11	Overseas Program destination group work, Presentation Phrases practice, Conversation Strategies V practice and assignment						
12	Presentation C Group presentations on Overseas Program destination						
13	Presentation C Group presentations						
14	Conversation Strategies test, fluency reading and book talk						
共通の評価基準							
Students can add to a discussion about common and textbook-related content. Students can support their opinion in an English report. Students can summarize the content of an English essay.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
presentations	40	1 group and 2 individual presentations		writing and other	30	Conversation Strategies assignments, Core Reading assignments	
language skills	20	tests on conversation strategies and presentation phrases		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
Study required before and after class				Please contact the instructor by email.			
教科書・テキスト	In Focus 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	A desire to express ideas in English		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目		Career English for Global Mobility (C1)					
担当教員	坂 淳一			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEICなどの英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、ビジネス英語の語彙や表現、学科の専門分野の語彙や表現を身につけ、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶ。さらには、英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力の基礎を固める。				"各種英語検定試験で高いスコアを取り、専門分野で学んだ知識を活かして世界で活躍出来る英語力を養う。TOEICに加えて、幼保英検準1級対策も行い、さらに保育現場を訪問しての英語によるプレゼンテーション、英語の歌や音声による芝居なども行い、保育現場で役立つ英語力を多角的に養成する。			
教授方法	TOEIC、幼保英検準1級はテキストに基づく練習問題やペアワークなどを行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス(シラバス、幼保英検、TOEIC L&R テスト)、TOEICドリル(U1. 人物の動作と状態、U2. 疑問詞を使った疑問文)、単語集例文録音(動詞: 1-44)						
2	幼保の現場英語(1章: 園バスによる通園)、TOEICドリル(U3. 日常場面での会話、U4. アナウンス・ツアー)、単語集例文録音(動詞: 45-88)						
3	幼保の現場英語(1章: 雪の日の登園)、TOEICドリル(U5. 物の状態と位置、U6. 基本構文と応答の決まり文句)、単語集例文録音(動詞: 89-132)						
4	幼保の現場英語(2章: 七夕)、TOEICドリル(U7. 電話での会話、U8. ラジオ放送・宣伝)、単語集例文録音(動詞: 133-172)						
5	映像による情報伝達の手法を学ぶ(日本の幼保施設紹介ビデオ作成)、幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)、単語集例文録音(動詞: 173-200、形容詞・副詞: 1-16)						
6	映像による情報伝達の手法を学ぶ(日本の幼保施設紹介ビデオ作成)、幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)、単語集例文録音(形容詞・副詞: 17-60)						
7	映像による情報伝達の手法を学ぶ(日本の幼保施設紹介ビデオ作成)、幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)、単語集例文録音(形容詞・副詞: 61-104)						
8	映像による情報伝達の手法を学ぶ(日本の幼保施設紹介ビデオ作成)、幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)、単語集例文録音(形容詞・副詞: 105-148)						
9	映像による情報伝達の手法を学ぶ(日本の幼保施設紹介ビデオ作成)、幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)、単語集例文録音(形容詞・副詞: 149-192)						
10	幼保の現場英語(2章: プール、鉄棒)、TOEICドリル(U9. Yes/No疑問文、U10. オフィスでの会話)、単語集例文録音(形容詞・副詞: 193-200、名詞: 1-36)						
11	幼保の現場英語(2章: 運動会の準備)、TOEICドリル(U11. 留守番電話、U12. オフィスでの会話)、単語集例文録音(名詞: 37-80)						
12	幼保の現場英語(2章: 運動会)、TOEICドリル(U13. Part 1とPart 2の復習)、単語集例文録音(名詞: 81-124)						
13	幼保の現場英語(3章: 発表会)、TOEICドリル(U14. トーク・スピーチ・会議の一部)、単語集例文録音(名詞: 125-168)						
14	幼保の現場英語(3章: 餅つき、節分、ひなまつり)、TOEICドリル(U15. Part 3とPart 4の復習)、単語集例文録音(名詞: 167-200)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEICにおいて500点程度を取る実力があるか。</li> <li>・英語で履歴書や手紙が書けるか。</li> <li>・英語の4技能をバランスよく身につけているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験(筆記)	40	保育英語復習テスト、単語集からのテスト		授業レポート	20	プロフィールシート及び自己紹介スピーチ10%、歌と物語10%	
小テスト	20	TOEIC リスニング・テストの総点		上記以外の授業評価	20	単語集例文録音10%、e-learning 10%	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
指示された予習・復習を毎回きちんと行い、単語集録音や様々な課題にしっかりと取り組むこと。				授業時に教室で質問するか、研究室に聞きに来てください。			
教科書・テキスト	幼保英検準1級テキスト(幼児教育・保育英語検定協会、ISBN 978-4909846273)、Mastery Drills for the TOEIC® L&R Test All in One [New Edition](桐原書店、ISBN 978-4342550157)、TOEIC(R)L&R TEST英単語スピードマスター(第3版)(Jリサーチ出版、ISBN 978-4863923744)			受講生に望むこと	専門分野に生かすことが出来る英語力を身につけて欲しい。		
参考書・参考資料等	必要に応じて、プリントで配布するか、オンラインで配信する			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English for Global Mobility (F)						
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEICなどの英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、ビジネス英語の語彙や表現、学科の専門分野の語彙や表現を身につけ、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶ。さらには、英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力の基礎を固める。				各種英語検定試験で高いスコアを取り、専門分野で学んだ知識を活かして世界で活躍出来る英語力を養う。特に専門分野に関するトピックについて、英語で読み・書き・聞き・話すことのできる力を身につけることを目標とする。			
教授方法	TOEIC対策については問題演習を中心に、専門分野に関する学習についてはグループワークを中心に授業を行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、TOEICテキスト Introduction						
2	『はじめての栄養英語』Chapter 5						
3	TOEICテキスト UNIT 1						
4	小テスト(1)、英文履歴書の書き方(1)						
5	TOEICテキスト UNIT 2						
6	『はじめての栄養英語』Chapter 6						
7	TOEICテキスト UNIT 3						
8	小テスト(2)、英文履歴書の書き方(2)						
9	TOEICテキスト UNIT 4						
10	『はじめての栄養英語』Chapter 7						
11	TOEICテキスト UNIT 5						
12	小テスト(3)、英文メールの書き方(1)						
13	TOEICテキスト UNIT 6						
14	学期のまとめ(期末テストを含む)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ TOEICにおいて500点程度を取る実力があるか。</li> <li>・ 英語で履歴書や手紙が書けるか。</li> <li>・ 英語の4技能をバランスよく身につけているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	30	予習、課題提出、授業時のグループワーク等への取り組みについて評価する。		期末テスト	40	TOEIC(L&R)形式の問題の得点力と専門分野に関する英語の運用能力を評価する。	
小テスト	20	TOEICテキストの演習問題および『はじめての栄養英語』の語彙・表現の理解度を評価する。		e-learning	10	e-learningの学習状況について、全クラス共通の基準により評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回テキストの予習をして授業にのぞみ、授業後は小テストに向けて復習すること。</li> <li>・ e-learning学習を計画的に進めること。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業後に声をかける、メールを送る、または研究室(C104)を訪問してください。</li> </ul>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『はじめての栄養英語』講談社(2年1学期のComprehensive English IIIから引き続き使用)</li> <li>・ 『SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L&amp;R TEST』金星堂</li> </ul>			受講生に望むこと	目的意識を持って、主体的に学習に取り組んでください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目		Career English for Global Mobility (C2)					
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEICなどの英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、ビジネス英語の語彙や表現、学科の専門分野の語彙や表現を身につけ、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶ。さらには、英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力の基礎を固める。</p>				<p>各種英語検定試験で高いスコアを取り、専門分野で学んだ知識を活かして世界で活躍出来る英語力を養う。特に、TOEIC および幼保英検準1級対策などの各種場面で状況把握ができる対応力、文化背景の違いを意識できるプレゼンテーション能力、英語の歌や芝居など保育現場で役立つパフォーマンス力を多角的に養成する。</p>			
教授方法	事前のインプットを充実させ、授業内では練習問題やペア/グループワークなどアウトプット活動を中心にするフリップラーニング						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス(シラバス、幼保英検、TOEIC L&R テスト、『幼保英検準1級テキスト』(幼保の現場英語)、『Mastery Drills for the TOEIC® L&R Test』(TOEICドリル)、TOEICドリル(U1. 人物の動作と状態、U2. 疑問詞を使った疑問文)						
2	幼保の現場英語(1章: 園バスによる通園)、TOEICドリル(U3. 日常場面での会話、U4. アナウンス・ツアー)						
3	幼保の現場英語(1章: 雪の日の登園)、TOEICドリル(U5. 物の状態と位置、U6. 基本構文と応答の決まり文句)						
4	幼保の現場英語(2章: 七夕)、TOEICドリル(U7. 電話での会話、U8. ラジオ放送・宣伝)						
5	映像による情報伝達の手法を学ぶ(日本の幼保施設紹介ビデオ作成)、幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)						
6	映像による情報伝達の手法を学ぶ(日本の幼保施設紹介ビデオ作成)、幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)						
7	映像による情報伝達の手法を学ぶ(日本の幼保施設紹介ビデオ作成)、幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)						
8	映像による情報伝達の手法を学ぶ(日本の幼保施設紹介ビデオ作成)、幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)						
9	映像による情報伝達の手法を学ぶ(日本の幼保施設紹介ビデオ作成)、幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)						
10	幼保の現場英語(2章: プール、鉄棒)、TOEICドリル(U9. Yes/No疑問文、U10. オフィスでの会話)						
11	幼保の現場英語(2章: 運動会の準備)、TOEICドリル(U11. 留守番電話、U12. オフィスでの会話)						
12	幼保の現場英語(2章: 運動会)、TOEICドリル(U13. Part 1とPart 2の復習)						
13	幼保の現場英語(3章: 発表会)、TOEICドリル(U14. トーク・スピーチ・会議の一部)						
14	幼保の現場英語(3章: 餅つき、節分、ひなまつり)、TOEICドリル(U15. Part 3とPart 4の復習)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEICにおいて500点程度を取る実力があるか。</li> <li>・英語で履歴書や手紙が書けるか。</li> <li>・英語の4技能をバランスよく身につけているか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
語彙習得	15	語彙学習の取り組み及び成果を評価する		学習ノート の作成	10	インプットすべき情報を効果的に整理できているか 評価する	
定期試験	30	TOEICテストおよび幼保英検への対応力を測る		共通項目	45	自己紹介(10%)、歌と物語(10%)、幼保現場紹介ビデオ(15%)、e-Learning(10%)	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEIC対策として、Eラーニング学習を一日30分程度行うこと。</li> <li>・毎回の授業で指定される資料を用いた事前・事後学習を1時間程度行うこと。</li> </ul>				大学のOffice365アカウントから、EmailまたはTeams/Skype for Businessで連絡をください。また、学内オフィスC105にて、簡単な質問は随時、面談はアポイントメントを設定したうえで、受け付けます。			
教科書・ テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保英検準1級テキスト(幼児教育・保育英語検定協会、ISBN 978-4909846273)</li> <li>・Mastery Drills for the TOEIC® L&amp;R Test All in One [New Edition](桐原書店、ISBN 978-4342550157)</li> <li>・TOEIC(R)L&amp;R TEST英単語スピードマスター(第3版)(Jリサーチ出版、ISBN 978-4863923744)</li> </ul> 【以上3冊】			受講生に 望むこと	TOEICスコアの高得点や幼保英検準1級の合格など関心のある検定試験を目標にすえて英語学習に取り組んでください。		
				その他・ 特記事項	特になし		

参考書・  
参考資料等

OneNote等にアップされている文法および音声に関する資料を活用すること

授業科目		Career English for Global Mobility (C1)					
担当教員	坂 淳一			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEICなどの英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC600点台から700点台以上のスコアを取ることを目標とする。また、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行うほか、国際的な話題に関する英文を読み、ディスカッションやレポート作成を行うなど、これまでに学んだ英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力を完成させる。</p>				<p>各種英語検定試験でより高いスコアを取り、専門分野で学んだ知識を活かして世界で活躍出来る英語力を完成する。幼保英検準1級に対応できる英語力と TOEIC にも対応できる社会的な英語力の両立を目指す。</p>			
教授方法	保育現場で想定される英語を学ぶほか、TOEICの練習問題、各種小テストなど、様々な方法を通じて4技能を鍛えてゆく。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	幼保の現場英語(4章:シーン1:乳児(0~2か月頃))、TOEICドリル(U1.表・用紙)、単語集音読と小テスト(ビジネス語:1-4)、TOEIC S&W解説と演習(1)						
2	幼保の現場英語(4章:シーン2:乳児(3~5か月頃))、TOEICドリル(U2.広告)、単語集音読と小テスト(ビジネス語:5-8、イディオム:1-15)、TOEIC S&W解説と演習(2)						
3	幼保の現場英語(4章:シーン1:乳児保育)、TOEICドリル(U3.品詞)、単語集音読と小テスト(ビジネス語:9-12、イディオム:16-30)、TOEIC S&W解説と演習(3)						
4	幼保の現場英語(5章:シーン1:虫歯が痛みず)、TOEICドリル(U4.動詞)、単語集音読と小テスト(ビジネス語:13-16、イディオム:31-45)、TOEIC S&W解説と演習(4)						
5	幼保の現場英語(5章:シーン2:インフルエンザの流行)、TOEICドリル(U5.チャット)、単語集音読と小テスト(ビジネス語:17-20、イディオム:46-60)、TOEIC S&W解説と演習(5)						
6	幼保の現場英語(5章:シーン3:臨時休園のお知らせ)、TOEICドリル(U6.手紙・Eメール)、単語集音読と小テスト(ビジネス語:21-24、イディオム:61-75)、英文手紙の書き方						
7	幼保の現場英語(6章:シーン1:引取訓練の連絡)、TOEICドリル(U7.代名詞・関係代名詞)、単語集音読と小テスト(ビジネス語:25-28、イディオム:76-90)、英文e-mailの書き方						
8	幼保の現場英語(6章:シーン2:引き取り訓練)、TOEICドリル(U8.接続詞・前置詞)、単語集音読と小テスト(ビジネス語:29-30:生活語:1-2、イディオム:91-105)、英文カバーレターの書き方						
9	幼保の現場英語(6章:シーン3:避難訓練)、TOEICドリル(U9.ダブルパッセージ)、単語集音読と小テスト(生活語:3-6、イディオム:106-120)、英文履歴書の書き方						
10	幼保の現場英語(7章:シーン1:話を聞いて...)、TOEICドリル(U10.Part5の復習)、単語集音読と小テスト(生活語:7-10、イディオム:121-135)、英語面接の練習(1)						
11	幼保の現場英語(7章:シーン2:ひらがな...)、TOEICドリル(U11.トリプルパッセージ)、単語集音読と小テスト(生活語:11-14、イディオム:136-150)、英語面接の練習(2)						
12	幼保の現場英語(7章:シーン3:時計を学習しましょう)、TOEICドリル(U12.Part7の復習)、単語集音読と小テスト(生活語:15-18、イディオム:151-165)、英語面接の練習(3)						
13	幼保の現場英語(7章:シーン4:数学のお勉強)、TOEICドリル(U13.時制・代名詞・語い問題)、単語集音読と小テスト(生活語:19-20、イディオム:166-180)、TOEIC S&W総合演習(1)						
14	保育英語復習テスト、TOEICドリル(U14.つなぎ言葉・文の挿入、U15.Part6の復習)、TOEIC S&W総合演習(2)、単語集音読と小テスト(イディオム181-200)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEICにおいて600点程度を取る実力があるか。</li> <li>・英語でビジネスレターを書き、面接に対応することが出来るか。</li> <li>・英語の4技能をバランスよく身につけ、十分に活用出来るか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験(筆記)	20	英語面接試験		授業レポート	20	ライティング課題の評価	
小テスト	50	保育英語復習テスト、単語集小テストの合計		上記以外の授業評価	10	e-learningの達成度	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
指示された予習・復習を毎回きちんと行い、単語集音読や様々な課題にしっかりと取り組むこと。				授業時に教室で質問するか、研究室に聞きに来てください。			
教科書・テキスト	幼保英検準1級テキスト(幼児教育・保育英語検定協会、ISBN 978-4909846273)、Mastery Drills for the TOEIC® L&R Test All in One [New Edition](桐原書店、ISBN 978-4342550157)、TOEIC(R)L&R TEST英単語スピードマスター(第3版)(Jリサーチ出版、ISBN 978-4863923744)			受講生に望むこと	専門分野に生かすことが出来る英語力も TOEIC に対応する力も、しっかり身につけて欲しい。		
参考書・参考資料等	必要に応じて、プリントで配布するか、オンラインで配信する			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English for Global Mobility (F)						
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEICなどの英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC600点台から700点台以上のスコアを取ることを目標とする。また、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行うほか、国際的な話題に関する英文を読み、ディスカッションやレポート作成を行うなど、これまでに学んだ英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力を完成させる。</p>				<p>各種英語検定試験でより高いスコアを取り、専門分野で学んだ知識を活かして世界で活躍出来る英語力を完成する。特に専門分野に関するトピックについて、英語で読み・書き・聞き・話すことのできる力を高めることを目標とする。</p>			
教授方法	TOEIC対策については問題演習を中心に、専門分野に関する学習についてはグループワークを中心に授業を行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、英文メールの書き方(2)						
2	『はじめての栄養英語』Chapter 8						
3	TOEICテキスト UNIT 7						
4	小テスト(1)、TOEIC S&W演習(1)						
5	TOEICテキスト UNIT 8						
6	『はじめての栄養英語』Chapter 9						
7	TOEICテキスト UNIT 9						
8	小テスト(2)、TOEIC S&W演習(2)						
9	TOEICテキスト UNIT 10						
10	『はじめての栄養英語』Chapter 10						
11	TOEICテキスト UNIT 11						
12	小テスト(3)、TOEIC S&W演習(3)						
13	TOEICテキスト UNIT 12						
14	学期のまとめ(期末テストを含む)						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEICにおいて600点程度を取る実力があるか。</li> <li>・英語でビジネスレターを書き、面接に対応することが出来るか。</li> <li>・英語の4技能をバランスよく身につけ、十分に活用出来るか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	30	予習、課題提出、授業時のグループワーク等への取り組みについて評価する。		期末テスト	20	専門分野に関する英語の運用能力を評価する。	
小テスト	20	TOEICテキストの演習問題および『はじめての栄養英語』の語彙・表現の理解度を評価する。		その他	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEIC(L&amp;R)のスコア: 20%</li> <li>・e-learning学習状況: 10%</li> </ul>	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回テキストの予習をして授業にのぞみ、授業後は小テストに向けて復習すること。</li> <li>・e-learning学習を計画的に進めること。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後に声をかける、メールを送る、または研究室(C104)を訪問してください。</li> </ul>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『はじめての栄養英語』講談社</li> <li>・『SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L&amp;R TEST』金星堂(いずれも3学期のCareer English Iから引き続き使用)</li> </ul>			受講生に望むこと	目的意識を持って、主体的に学習に取り組んでください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		



授業科目		Career English for Global Mobility (C2)					
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEICなどの英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC600点台から700点台以上のスコアを取ることを目標とする。また、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行うほか、国際的な話題に関する英文を読み、ディスカッションやレポート作成を行うなど、これまでに学んだ英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力を完成させる。</p>				<p>各種英語検定試験でより高いスコアを取り、専門分野で学んだ知識を活かして世界で活躍出来る英語力を完成する。特に、保育現場で役立つ実践的な英語コミュニケーション力、高度な質疑応答ができる対応力の習得を目標とする。</p>			
教授方法	事前のインプットを充実させ、授業内では練習問題やペア/グループワークなどアウトプット活動を中心にするフリッパーニング						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス(シラバス、『幼保英検準1級テキスト』(幼保の現場英語)、『Mastery Drills for the TOEIC® L&R Test』(TOEICドリル)の学習計画)、TOEIC S&Wの試験概要とサンプル問題、キャリアアップのためのライティング 第1回(カバーレター・英文レジュメ作成)						
2	キャリアアップのためのライティング 第2回(カバーレター・英文レジュメ)						
3	カバーレター&レジュメ にもとづく面接(自己PRと質疑応答)						
4	幼保の現場英語(4章:赤ちゃんの成長と乳児保育_前半)、TOEICドリル(U1.表、用紙(各種書式)、U2.広告)						
5	幼保の現場英語(4章:赤ちゃんの成長と乳児保育_後半)、TOEICドリル(U3.品詞、U4.動詞)						
6	幼保の現場英語(5章:病気と休園_前半)、TOEICドリル(U5.チャット、U6.手紙、Eメール)						
7	幼保の現場英語(5章:病気と休園_後半)、TOEICドリル(U7.代名詞・関係代名詞、U8.接続詞・前置詞)						
8	幼保現場の英語遊びのパフォーマンス/プレゼンテーション(1)、および、教材の復習						
9	幼保の現場英語(6章:緊急時対応の訓練_前半)、TOEICドリル(U9.ダブルパッセージ、U10.Part 5の復習)						
10	幼保の現場英語(6章:緊急時対応の訓練_後半)、TOEICドリル(U11.トリプルパッセージ、U12.Part 7の復習)						
11	幼保の現場英語(7章:就学前教育_前半)、TOEICドリル(U13.時制・代名詞・語い問題、U14.つなぎ言葉・文の挿入)						
12	幼保の現場英語(7章:就学前教育_後半)、TOEICドリル(U15.Part 6の復習)、就職活動の面接(自己PRと質疑応答)						
13	幼保現場の英語遊びのパフォーマンス/プレゼンテーション(2)、および、教材の復習						
14	TOEIC L&R、S&Wに関する授業内確認テスト						
共通の評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEICにおいて600点程度を取る実力があるか。</li> <li>・英語でビジネスレターを書き、面接に対応することが出来るか。</li> <li>・英語の4技能をバランスよく身につけ、十分に活用出来るか。</li> </ul>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
語彙習得	15	語彙学習の取り組み及び成果を評価する		学習ノートの作成	10	インプットすべき情報を効果的に整理できているか評価する	
授業内確認テスト	25	TOEICテストおよび幼保英検への対応力を測る		その他	50	TOEIC IPテスト(20%)、パフォーマンス&プレゼンテーション(20%)、e-Learning(10%)	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEIC対策として、Eラーニング学習を一日30分程度行うこと。</li> <li>・毎回の授業で指定される資料を用いた事前・事後学習を1時間程度行うこと。</li> </ul>				大学のOffice365アカウントから、EmailまたはTeams/Skype for Businessで連絡をください。また、学内オフィスC105にて、簡単な質問は随時、面談はアポイントメントを設定したうえで、受け付けます。			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保英検準1級テキスト(幼児教育・保育英語検定協会、ISBN 978-4909846273)</li> <li>・Mastery Drills for the TOEIC® L&amp;R Test All in One [New Edition](桐原書店、ISBN 978-4342550157)</li> <li>・TOEIC(R)L&amp;R TEST英単語スピードマスター(第3版)(Jリサーチ出版、ISBN 978-4863923744)</li> </ul> 【以上3冊】			受講生に望むこと	TOEICスコアの高得点や幼保英検準1級の合格など関心のある検定試験を目標にすえて英語学習に取り組んでください。		
	参考書・参考資料等	OneNote等にアップされている文法および音声に関する資料を活用すること。			その他・特記事項	特になし	

授業科目		海外プログラム（アメリカ）					
担当教員	中澤 弥子・草間 かおる			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>管理栄養士として先駆的な活動を推進している海外（アメリカ合衆国またはニュージーランド）に滞在し、その養成制度と活躍の現状を理解する。また、海外の食習慣や生活習慣を体験するとともに、日本食の海外での普及の現状を知り、視野を広げる。その事前指導として、研修国の社会制度や教育制度、歴史や文化、生活習慣などについて学び、個々人の目標を設定する。事後指導では、滞在先で学んだ学習内容の省察と個人課題について整理と検討を行い、報告会での発表や意見交換を通して、専門領域への理解を深め、さらなる関心を高める。</p> <p>担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>				<p>ねらい 海外の栄養士・管理栄養士養成の教育制度を理解し、管理栄養士が専門職として権限と義務を持ち、責任を持って仕事を果たしている現状を知る。海外の食習慣や生活習慣、宗教と食規制やその背景となる文化や思想の実際を知り、また、日本食の海外での普及の現状を体験し、健康観や食文化に関する視野を広げる。異なる文化や価値観に触れ、問題解決を実践的に体験することにより、自らの問題解決能力やコミュニケーション能力を育成し自己省察能力を高める。</p> <p>到達目標 海外の栄養士・管理栄養士の活動の現状を説明できる。 海外と日本の食習慣や生活習慣の違いを説明できる。 英語プレゼンテーション能力を向上する。</p>			
教授方法	事前事後指導（第1回～第5回、第13回、第14回）は演習形式で随時ディスカッションを行う。現地研修（第6回～第12回）では、ミズーリ大学コロンビア校での講義や大学施設の見学、実習や管理栄養士が活躍する現場でのフィールドワークを行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	海外プログラムの概要と意義						
2	アメリカ合衆国、ミズーリ州、ニュージーランド及びクライストチャーチの概説						
3	アメリカ合衆国、ミズーリ州、ニュージーランド及びクライストチャーチの歴史と文化、社会制度						
4	アメリカ合衆国及びニュージーランドの健康福祉行政及び管理栄養士の教育制度						
5	海外プログラムの心構えと準備（個人課題の計画づくり及び文化交流活動）						
6	現地講義（ミズーリ大学コロンビア校のオリエンテーション及び栄養士・管理栄養士の教育制度）						
7	現地講義（ミズーリ大学コロンビア校 Department of Nutrition & Exercise Physiology の教員）と同学部施設見学						
8	現地講義とフィールドワーク（ミズーリ州）						
9	現地講義とフィールドワーク（ミズーリ州）						
10	現地講義とフィールドワーク（ミズーリ州）						
11	現地講義とフィールドワーク（ミズーリ州）						
12	ミズーリ大学コロンビア校の学生との文化交流活動						
13	現地での体験の振り返りと個人課題の整理と検討、グループでの検討会・意見交換会						
14	体験報告会						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
提出物	50	事前指導、現地研修、事後指導で課された提出物の提出状況及び内容に応じて評価する。		英語の評定	30	ミズーリ大学コロンビア校による評価を参考にして評価する。	
授業への積極的な参加度	20	事前指導、現地研修、事後指導への参加度に応じて評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前指導、現地研修、事後指導で課された課題に取り組む。				質問等は授業中や授業の前後に受け付け、回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。 中澤 弥子 nakazawa.hi.roko@u-nagano.ac.jp 草間 かおる kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	随時知らせる。			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では積極的に課題やディスカッションに取り組むこと。</li> <li>・説明会やメール等による連絡内容をきちんと確認すること。</li> <li>・課題の提出締め切りを厳守すること。</li> </ul>		
参考書・参考資料等	随時知らせる。			その他・特記事項	全学のオリエンテーションや説明会には必ず参加すること。 担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しております。		

授業科目		海外プログラム（ニュージーランド）					
担当教員	中澤 弥子・草間 かおる			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>管理栄養士として先駆的な活動を推進している海外（アメリカ合衆国またはニュージーランド）に滞在し、その養成制度と活躍の現状を理解する。また、海外の食習慣や生活習慣を体験するとともに、日本食の海外での普及の現状を知り、視野を広げる。その事前指導として、研修国の社会制度や教育制度、歴史や文化、生活習慣などについて学び、個々人の目標を設定する。事後指導では、滞在先で学んだ学習内容の省察と個人課題について整理と検討を行い、報告会での発表や意見交換を通して、専門領域への理解を深め、さらなる関心を高める。担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>				<p>ねらい 海外の栄養士・管理栄養士養成の教育制度を理解し、管理栄養士が専門職として権限と義務を持ち、責任を持って仕事を果たしている現状を知る。海外の食習慣や生活習慣、宗教と食規制やその背景となる文化や思想の実際を知り、また、日本食の海外での普及の現状を体験し、健康観や食文化に関する視野を広げる。異なる文化や価値観に触れ、問題解決を実践的に体験することにより、自らの問題解決能力やコミュニケーション能力を育成し自己省察能力を高める。</p> <p>到達目標 海外の栄養士・管理栄養士の活動の現状を説明できる。 海外と日本の食習慣や生活習慣の違いを説明できる。 英語プレゼンテーション能力を向上する。</p>			
教授方法	事前事後指導（第1回～第5回、第13回、第14回）は演習形式で随時ディスカッションを行う。現地研修（第6回～第12回）では、Ara クライストチャーチ工科大学の英語学習とHealth Careの教員によるセミナーや大学施設の見学、実習や管理栄養士が活躍する現場でのフィールドワークを行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	海外プログラムの概要と意義						
2	アメリカ合衆国、ミズーリ州、ニュージーランド及びクライストチャーチの概説						
3	アメリカ合衆国、ミズーリ州、ニュージーランド及びクライストチャーチの歴史と文化、社会制度						
4	アメリカ合衆国及びニュージーランドの健康福祉行政及び管理栄養士の教育制度						
5	海外プログラムの心構えと準備（個人課題の計画づくり及び文化交流活動）						
6	現地講義（Ara クライストチャーチ工科大学のオリエンテーション及び栄養士・管理栄養士の教育制度）						
7	現地講義（Ara クライストチャーチ工科大学の英語学習とHealth Careの教員によるセミナー）とAraの施設見学						
8	現地講義とフィールドワーク（クライストチャーチ）						
9	現地講義とフィールドワーク（クライストチャーチ）						
10	現地講義とフィールドワーク（クライストチャーチ）						
11	現地講義とフィールドワーク（クライストチャーチ）						
12	Ara クライストチャーチ工科大学の学生との文化交流活動						
13	現地での体験の振り返りと個人課題の整理と検討、グループでの検討会・意見交換会						
14	体験報告会						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
提出物	50	事前指導、現地研修、事後指導で課された提出物の提出状況及び内容に応じて評価する。		英語の評定	30	Ara クライストチャーチ工科大学による評価を参考にして評価する。	
授業への積極的な参加度	20	事前指導、現地研修、事後指導への参加度に応じて評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前指導、現地研修、事後指導で課された課題に取り組む。				質問等は授業中や授業の前後に受け付け、回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。 中澤 弥子 nakazawa.hi.roko@u-nagano.ac.jp 草間 かおる kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	随時知らせる。			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では積極的に課題やディスカッションに取り組むこと。</li> <li>・説明会やメール等による連絡内容をきちんと確認すること。</li> <li>・課題の提出締め切りを厳守すること。</li> </ul>		
参考書・参考資料等	随時知らせる。			その他・特記事項	全学のオリエンテーションや説明会には必ず参加すること。 担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しております。		

授業科目		管理栄養士活動論					
担当教員	笠原 賀子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>保健・医療・介護・福祉ならびに教育分野など、さまざまな職域で専門職として活躍する、次代を担う管理栄養士を養成するための導入科目である。社会のニーズに応えるための管理栄養士の役割と使命、関連法規、職業倫理、歴史的背景、他職種との連携など、多岐にわたる内容について理解を深めるとともに、管理栄養士の職務に対する学びの意欲を醸成する。</p> <p>さらに、各職域で活躍する管理栄養士の生の声を聞いて、これからの時代に活躍する、新しい管理栄養士の可能性を模索し、理想の管理栄養士像を構築する。</p>				<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理栄養士の役割と使命について理解する。</li> <li>理想の管理栄養士像を構築する。</li> </ul> <p>到達目標</p> <p>管理栄養士の役割と使命を理解し、必要な資質を身につけようとする。自分なりの理想の管理栄養士像を構築することができる。</p>			
教授方法	講義、プレゼンテーション、ディスカッション（事前学習に基づいたゲストスピーカーとのディスカッションと振り返り）。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、管理栄養士の職務の基本 管理栄養士課程で学ぶということ						
2	行政（県・市町村）で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
3	他職種連携により活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
4	幼稚園・福祉施設（保育所）等で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
5	学校で活躍する管理栄養士（栄養教諭）の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
6	企業で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）海外で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
7	医療施設で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（プレゼンテーション）	30	観点（管理栄養士の職務や使命に対する考え、関連付け、可能性など）		ポートフォリオ	60	締切厳守、提出回数、文体や構成、内容（理解度、論理性、解り易さ、自己表現など）	
その他	10	主体的態度（他者の意見の聴き方、積極的な発言、課題の発見と取り組み方など）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：それぞれのゲストスピーカーの活躍する分野について調べる</li> <li>事後：ポートフォリオをまとめる（締切厳守）</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中や授業の前後に随時受け付ける。</li> <li>メールでの質問も受け付ける。</li> </ul> <p>アドレス： 笠原賀子（kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp）</p>			
教科書・テキスト	「管理栄養士・栄養士必携」（公社）日本栄養士会編 第一出版 「七訂 食品成分表2020」女子栄養大学出版部 「日本人の食事摂取基準（2020年度版）」第一出版			受講生に望むこと	・ゲストスピーカーの話や、クラスメートの意見・考えをもとに、自らの生き方や管理栄養士としてのキャリア形成について思考を深めましょう。		
参考書・参考資料等	・授業中に、適宜、参考書を紹介したり、資料を配布する。			その他・特記事項	・必ず1度は、ゲストスピーカーに質問すること。 ・授業の順番は、ゲストスピーカーの都合により前後することがある。		

授業科目		食文化論					
担当教員	中澤 弥子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録される等、日本の伝統的な食文化への関心が高まっている。食文化論では、日本の食文化とはなにか、外国からきた食材や料理を巧みに日本化して取り入れていった歴史、米と魚を主軸に、多様な発酵技術を生かした独自性、郷土料理の広がり等、日本の食文化について学ぶ。食品の種類別にその歴史を通史的に学び、世界や地域の食文化や家庭内・家庭外の食文化について、その特徴とともに、食と健康との関係について学ぶ。自らの食生活や食文化について理解する。</p>				<p>ねらい 日本の食文化とはなにか、外国からきた食材や料理を巧みに日本化して取り入れ、米と魚を主軸に、多様な発酵技術を生かした独自性、郷土料理の広がり等、日本の食文化についての理解を深める。世界や地域の食文化についても事例を通して理解を深め、多様な食文化の背後にあるものの見方・考え方を身につける。食と健康との関係についての理解を深め、日本の食文化を絶対化せず、異文化を柔軟に受けとめる姿勢を養い、多文化共生時代に必要な基礎知識を身につける。</p> <p>到達目標 日本の食文化の特徴とはなにか、世界や地域の食文化についても事例を通して理解を深め、多様な食文化の背後にあるものの見方・考え方を修得する。</p> <p>食と健康との関係についての理解を深め、異文化を柔軟に受けとめる姿勢を養い、多文化共生時代に必要な基礎知識を修得する。</p>			
教授方法	講義において、教科書のみならず、参考書、新聞、映像資料等食文化に関する様々な情報を補足資料として用い、パワーポイントによる視覚資料を活用し、食文化についての理解を深める。講義の前半で学生各自の育ってきた食生活・食文化についてまとめるレポート課題を課しておき、第7回の報告会で発表し意見交換を行い、食文化についての理解や関心を深める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、食文化の定義、食文化研究、「和食」日本人の伝統的な食文化、日本料理の形成と発展、異文化接触と受容						
2	世界の食文化形成、食に関する思想、主食の文化						
3	主食と副食の文化						
4	副食の文化、台所・食器・食卓の文化						
5	調味料・油脂・香辛料・菓子・茶・酒の文化						
6	和食と健康、日常の食生活、非常の食生活、外食文化の成立と変化						
7	行事と地域の食文化、食生活・食文化についての報告会とまとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記試験）	60	講義で学んだ日本や世界の食文化の特徴に関する基本的知識の理解度に応じて評価する。			小テスト	40	毎回の授業の中で学んだ食文化に関する基本的知識について小テストを行い、理解度に応じて評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習としては、毎回指定する課題（教科書等の関係する資料を確認する）に取り組む。事後学習としては、授業で学んだ内容について教科書や配布プリントを使用して整理し、理解を深める。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・毎回の小テストに感想・意見・質問等も記して提出してもらう。</li> <li>・メールでの質問についても受け付ける。</li> <li>・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。</li> </ul>			
教科書・テキスト	『日本の食文化 新版「和食」の継承と食育』江原絢子・石川尚子編著 アイ・ケイ コーポレーション 2016 ISBN：978-4-87492-343-6			受講生に望むこと	日本や世界や地域の食文化について、各自がこれまでに見知ってきた知識や事例と比較し、多様な食文化の背後にあるものの見方・考え方について理解を深め主体的に学んでほしい。		
参考書・参考資料等	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、適宜、印刷資料等を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		経営学入門					
担当教員		森本 博行		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生		食健康	関連資格		備考		
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>経営学全般についての概要            担当教員は、ソニーにおいてVP（Vice president）を経験し、事業戦略、海外子会社経営についての実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p> <p>担当教員は、広告会社の外資系部門（マッキンゼーエリクソン博報堂）、さらに製造業（ソニー）においてVP（Vice president）を経験し、広告宣伝、事業戦略、米国、英国で海外子会社経営についての実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、将来的に実務に活かすことができる能力について講義します。</p>				経営学の基礎知識の修得			
教授方法		講義形式とミニレポートによるアクティブラーニング					
履修条件		特になし					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：経営学とは何か						
2	市場の不確実性と戦略発想						
3	マクロ組織論：人や集団を動かし、目標を実現するための組織デザイン						
4	ミクロ組織論：個人のモチベーションと組織を動かすリーダーシップ						
5	会計学：企業や行政組織の経営を評価する財務会計と管理会計						
6	競争戦略論：ポジショニング・アプローチとゲーム論アプローチ						
7	資源ベースの戦略論：企業間で利益格差はなぜ生まれるのか						
8	創発戦略論：事業環境の変化と経営戦略						
9	マーケティング：顧客価値の追求と市場創造						
10	技術戦略・イノベーションと技術開発						
11	意思決定理論と認知バイアス						
12	海外進出と国際経営						
13	日本企業の海外進出と異文化マネジメント						
14	日本企業の経営課題						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	経営学の基礎となる考え方を理解するだけの基礎知識の修得度を評価する				40	毎回の授業の理解度を評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎回の授業では、提示した課題に対するミニ・レポートを提出する必要がある。				研究室を訪ねて質問すること			
教科書・テキスト	・特になし			受講生に望むこと	・継続的に授業に出席すること		
参考書・参考資料等	榊原清則『経営学入門(上下)』（日本経済新聞出版社）、米倉誠一郎『勇気の出る経営学』（筑摩書房）、加護野忠男・伊丹敬之『ゼミナール経営学入門』（日本経済新聞出版社）ステイブ P.ロビンソン『マネジメント入門』（ダイヤモンド社）			その他・特記事項	健康発達学部食健康学科の選択科目		

授業科目		アカウントティング入門					
担当教員		中村 文彦		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>変容し続ける現代の社会生活では、食の視点から人の健康を管理することがますます重要になっています。本授業では、受講生の皆さんが、将来携わる様々な領域において、運営計画から評価までの一連のプロセスをマネジメントするのに役立つ「会計」というスキルを学びます。</p>				<p>給食等の運営を行うに際して必要となる一連の基礎的な会計知識を身につけることを目標とします。具体的には、原価管理、損益分岐点分析、利益管理と予算管理、その他の管理手法、簿記と財務諸表、経営分析、それぞれの論点について基本的な事項を学びます。これらを学ぶことによって、様々な領域における運営計画から評価までの一連のプロセスを財務的な視点から効果的にマネジメントし得るようになります。</p>			
教授方法	一方的に講ずるのではなく、適宜、演習を織り交ぜながら授業を進める予定です。						
履修条件	特に指定しない。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	学習事項：会計知識の必要性、問題演習						
1	主に、食と健康を考える上で会計の知識が何故必要となるのかを理解する。						
2	学習事項：前回の学習内容の確認テストおよび解説、原価管理、問題演習						
2	給食をはじめ、食を提供する活動において必要となる原価管理という考え方について学ぶ。特に、原価の構成等に注意しながら、コントロールが可能な原価とコントロールが不可能あるいは難しい原価とはどのように異なっているのかを理解する。						
3	学習事項：前回の学習内容の確認テストおよび解説、損益分岐点、問題演習						
3	給食等を提供する各業務を運営する上で必要となる状況判断がいつでも行えるように、判断の拠り所となる損益分岐点に関する基本事項を学習する。						
4	学習事項：前回の学習内容の確認テストおよび解説、利益管理、予算管理、問題演習						
4	利益を管理するという視点からどのような会計コントロール手法があるか、あるいは予算という概念を用いて運営活動をどのように管理・コントロールをするのかを学習する。						
5	学習事項：前回の学習内容の確認テストおよび解説、管理会計の様々な手法						
5	給食等の業務を運営する上で役に立つようなその他の管理会計上の手法について学習する。						
6	学習事項：前回の学習内容の確認テストおよび解説、複式簿記と財務諸表、問題演習						
6	財務データを会計帳簿に記録する複式簿記という計算体系の基本について学び、そのアウトプットとして作成される財務諸表について学習する。						
7	学習事項：前回の学習内容の確認テスト及び解説、経営分析、問題演習						
7	経営分析の手法を身につけ、実際の例を分析することを通じて、給食等を効果的にかつ安全に提供するための基本的な条件を考察する。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
出席等	50	出席および受講態度		確認テスト	50	前回の学習事項の理解度	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
日々のニュース、新聞等の経済領域に関心を持つようにして下さい。				授業後に受け付けます。			
教科書・テキスト	特に指定しない			受講生に望むこと	楽しみながらしっかり学んで将来役立てて下さい。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	予習は不要ですが、学習したことは、その日のうちにすぐ復習し、次回までに身に付けるよう心がけて下さい。		

授業科目		リーダーシップ論							
担当教員		宮下 清		必修・選択		選択	単位数	2単位	
履修年次		3年	開講学期		4 学期	授業形態		講義	科目ナバ <sup>®</sup> リング
対象学生		食健康	関連資格			備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）					
<p>授業では、リーダーとリーダーシップの意味、リーダーシップ研究、リーダーシップのスタイル、経営環境とリーダーシップ、メンバーとフォロワー、現在と今後のリーダーシップのあり方などのリーダーシップの論点を取り上げる。授業は講義に加えて、課題や事例についてのグループ討議、発表など主体的かつ双方向的が学びを進める。担当教員は企業での人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有し、リーダーシップの発揮などの説明や事例で実務経験を活かしていきたい。</p>				<p>リーダーシップとは「組織の目的や目標の達成に向けて、個人および集団を働かせるための影響力」を意味する。マネジメント分野で関心が高く、重要なリーダーシップについて、その働きや理論を学び、リーダー、マネジャー、フォロワーやメンバーについて理解することを目標とする。またリーダーシップを実践的に理解し、組織の問題や課題に対応する力も高めたい。</p>					
教授方法		講義に演習的な授業形態を加え、課題・事例研究、グループ討議、発表・質疑等により双方向の授業とする。読書や講義で知識・概念を、共同学習やグループ討議から多様で実践的な理解が得られるようにしたい。							
履修条件		経営学入門、組織論、組織行動論を履修していることが望ましい。							
授 業 計 画									
実施回	授業内容								
1	第1回：ガイダンス：リーダーシップ論の概要、リーダーシップ論を学ぶことの意義								
2	第2回：マネジメントについて：組織とは、組織の共通目的、貢献意欲、コミュニケーション								
3	第3回：マネジャーの人間観：合理的経済人モデル、社会人モデル、自己実現モデル、複雑人モデル								
4	第4回：リーダーシップの基本：リーダーとは、リーダーシップの定義、サーバントリーダーシップ								
5	第5回：リーダーシップの持論：演習：持論としてのリーダーシップを探る								
6	第6回：リーダーシップ論の展開(1)：リーダーシップの資質、リーダーシップの行動特性、リーダーシップと状況								
7	第7回：リーダーシップ論の展開(2)：カリスマ的リーダーシップ、変革型リーダーシップ								
8	第8回：フォロワーからのリーダーシップ：リーダーとフォロワーの信頼関係、フォロワーのリーダーシップ、リーダーシップの幻想								
9	第9回：フォロワーシップとは何か(1)：フォロワーのルーツ、フォロワーシップの定義、ボス・マネジメント								
10	第10回：フォロワーシップとは何か(2)：模範的フォロワー、勇敢なフォロワー、頼れるフォロワー、フォロワーシップの定性的研究								
11	第11回：リーダーシップを高める：演習：自分のリーダーシップをどう高めるか								
12	第12回：マネジャーに求められるもの(1)：ゼネラル・マネジャーの行動、マネジャーの仕事								
13	第13回：マネジャーに求められるもの(2)：マネジャーの実像、マネジャーの3つの課題								
14	第14回：総合事例：課題と事例の考察（リーダーシップ）								
共通の評価基準									
成績評価方法と基準									
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準		
定期試験（筆記）	40	授業内容の理解度の全体的な評価			課題レポート	30	授業中や授業外に課される提出物・レポートの評価		
上記以外の評価	30	授業への積極的な参加（発言、質疑、発表、討議）による評価							
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応				
テキストや課題の資料を理解し、課題を考え作成（提出）する「事前学習」および、講義や討議で学んだ内容を整理し、学習を定着させる「事後学習」が求められる。					オフィスアワー、授業前後、メールでアボ後の面談により対応				
教科書・テキスト	小野善生『リーダーシップ徹底講座』中央経済社、2018年。				受講生に望むこと	リーダーシップについて学び、考え、実践してみようという意欲的なスタンスが大切になる。			
参考書・参考資料等	『リーダーシップの名著を読む（日経文庫）』日本経済新聞社、2015。 『リーダーシップの教科書』HBRリーダーシップ論文ベスト10、ダイヤモンド社、2018。				その他・特記事項	自分の体験や記事からリーダーシップに関する知見や情報がリーダーシップの理解に役立つものとなる。担当教員は企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有している。			



授業科目	公衆衛生学				
担当教員	野見山 哲生		必修・選択	必修	単位数 2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義 科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）		
個及び集団において、疾病を予防し健康の増進をいかに図っていくか、という公衆衛生的な知識と考え方を身につけることを目的とする。目的達成のため、1)健康、疾病、障害などの基本的な概念、2)人を取り巻く社会状況、環境がどのように健康に影響するか、3)環境や社会にあるリスクと健康との因果関係を明らかにする疫学的方法、4)疾病の予防と健康を増進するための具体的、実践的な方法について学修する。			個及び集団において、疾病を予防し健康の増進をいかに図っていくか、という公衆衛生学の基本的知識と考え方を理解する。		
教授方法	各回、講義テキスト、事前配布または当日配布プリントを元にスライド、板書を併用して講義を実施する。				
履修条件	全講義の2/3以上(10回以上)の出席者を履修者として期末試験受験を可とする				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
第1回	公衆衛生学とは				
第2回	保健統計				
第3回	社会保障制度				
第4回	疫学				
第5回	環境保健				
第6回	国民栄養				
第7回	地域保健・保健行政				
第8回	親子保健				
第9回	学校保健				
第10回	産業保健				
第11回	老人保健・福祉				
第12回	国際保健				
第13回	食品衛生				
第14回	精神保健				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	試験（筆記及び選択肢）の採点による	授業レポート	20	公衆衛生学の理解を深めるため、不定期でレポートを課し、秀（満点）、優（満点×3/4）、良（満点×2/4）、可（満点×1/4）、不可（0点）
小テスト	10	不定期に実施する小テスト（回数未定）の点数。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>毎回指定された課題・問題に取り組む。          苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集（指定図書のカギ参照）に取り組む。</p>			<p>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。          ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。          ・メールでの質問も受け付ける。          アドレス：nomiyama@shinshu-u.ac.jp（野見山哲生）</p>		
教科書・テキスト	シンプル衛生公衆衛生学2020（南江堂）		受講生に望むこと	教科書、参考書以外のメディア媒体等からも公衆衛生学の実態を知り、学習する姿勢。	
参考書・参考資料等	国民衛生の動向（厚生労働統計協会）		その他・特記事項	特になし	

授業科目	公衆衛生学実習						
担当教員	野見山 哲生			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
公衆衛生学で学修した、環境・産業保健、地域保健等の領域から、テーマを選択し調査実習を行う。その際、社会の中での栄養学や関連する保健の位置づけを考えたテーマを設定する。調査実習では、1)文献調査を行い、現在の状況把握と今後の展望について公衆衛生的視点でまとめること、2)実態を把握するための調査を行い、公衆衛生的な観点で今後の対策を考えること、3)疫学的な調査を行い原因と結果の因果関係を明らかにすること、とする。				公衆衛生学で学習した各領域について、より理解を深めるため、実践をまとめた文献について触れ、公衆衛生学をテーマとした調査を実践する。			
教授方法	演習、実習：文献検索、文献のまとめと考察、調査（疫学的手法を用いて）とまとめ						
履修条件	全実習の3/4以上（10回以上）の出席者を履修者としてレポートの評価を実施する						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	疫学調査の実際						
第2回	文献調査（1）興味のある領域について、どのような実践活動がなされているか、文献を検索する。						
第3回	文献調査（2）						
第4回	文献調査（3）						
第5回	現状と今後の展望（1）興味のある領域について、調べた文献を元に現状と今後の展望をまとめる						
第6回	統計学の基本（1）統計学の基本を学ぶ						
第7回	統計学の基本（2）統計学の基本を学ぶ						
第8回	統計学の基本（3）統計学を応用し、分析をする						
第9回	統計学の基本（4）						
第10回	統計学の基本（5）						
第11回	調査研究（1）現状を今後の展望に関するテーマで、今後必要な疫学調査計画を立案する						
第12回	調査研究（2）						
第13回	調査研究発表（1）調査研究で立案した計画を発表する						
第14回	調査研究発表（2）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業レポート	100	文献検索とそのまとめ、調査研究のまとめを評価する					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回指定された課題・問題に取り組む。          苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集（指定図書のカギ参照）に取り組む。</p>				<p>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。          ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。          ・メールでの質問も受け付ける。アドレス：nomiyama@shinshu-u.ac.jp（野見山哲生）</p>			
教科書・テキスト	シンプル衛生公衆衛生学2020（南江堂）			受講生に望むこと	教科書、参考書以外のメディア媒体等からも公衆衛生学の実践を知り、学習する姿勢。		
参考書・参考資料等	国民衛生の動向（厚生労働統計協会）			その他・特記事項	特になし		

授業科目	食事調査法					
担当教員	草間 かおる		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>対象者（個人および集団）の栄養評価を行う際の基本的な情報となる、食事摂取量の測定としての食事調査法を学ぶ。食事記録法、24時間思い出し法、食物摂取頻度調査法等についての意義、目的、特徴（長所・短所）について、さらに各種食事調査法の妥当性や精度について学修する。講義と演習を通して、食事調査法の基礎技術や留意点を理解し、対象者を取り巻く社会・環境や目的に合わせた食事調査を選択することができるようになるとともに、食事を通して人間や生活について理解を深めることを目的とする。</p> <p>担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>			<p>（ねらい） 栄養評価の基礎データとなる食事調査法について、その種類と特徴を理解し、対象者の状況や目的に応じた調査法を選択・適用する能力を養う。</p> <p>（到達目標） 食事記録法、24時間思い出し法、食物摂取頻度調査法等についての意義、目的、特徴が説明できる。 対象者の状況や目的に合わせた食事調査を選択することができる。</p>			
教授方法	講義および小グループによる演習、食事調査を実際に行う。					
履修条件	特になし。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
第1回	オリエンテーション 食事調査の意義・目的					
第2回	食事調査 (1) 食物摂取頻度調査法					
第3回	食事調査 (2) 24時間思い出し法					
第4回	食事調査 (3) 食事記録法					
第5回	食事調査データの収集・処理					
第6回	食事調査結果による評価					
第7回	食事調査法のまとめ					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60%	科目の教育目標やねらいが達成できたかどうかを確認する。授業で用いた教科書、ノート等を復習しておく。		課題への取り組み	20%	提出期限、内容（丁寧に取り組んでいるか、分かりやすいか、論理的か）
主体的態度	20%					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
事前に次回内容に該当するテキストの箇所を読んでくること。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。</li> </ul> アドレス：kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp		
教科書・テキスト	食事調査マニュアル、日本栄養改善学会監修、南江堂（教科書）			受講生に望むこと	積極的に課題やグループワークに取り組むこと。事前課題は必ず取り組んでくること。	
参考書・参考資料等	授業において随時知らせます。			その他・特記事項	担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しております。	

授業科目	社会福祉学						
担当教員	尾島 豊			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>広い範囲に渡る社会福祉の各分野の現状と制度の概要を学ぶ。社会保障制度の中で、医療保障、所得保障、公衆衛生と並んで社会福祉を位置づける。そして社会福祉の戦後の流れを押さえた上で、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉の概要を整理する。制度としての社会福祉の意義を理解し、利用者の保護に関わる制度(情報提供、第三者評価、権利擁護、苦情解決)を学ぶ。</p>				<p>講義の目的は、福祉施設や病院などで管理栄養士として仕事をする上で必要最低限の知識を修得すること。</p>			
教授方法	講義形式で、広範囲の社会福祉の各分野をダイジェスト版で紹介していく。各回にポイントと簡潔なまとめを示したレジュメを用意する。						
履修条件	特になし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容						
1	社会保障と社会福祉の概念						
2	社会福祉の歴史 - イギリス・戦前日本						
3	社会福祉の歴史 - 戦後の社会福祉の沿革						
4	児童家庭福祉 - 児童福祉から児童家庭福祉へ						
5	障害者福祉 - 発達障害・知的障害・身体障害・精神障害						
6	高齢者福祉 - 介護保険制度を中心に						
7	地域福祉と利用者保護・権利擁護						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題レポート	80	自らの関心領域に関する現状や課題			出席等	20	出欠状況、授業への参加度
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
自らの関心分野の探求				リアクションペーパーに記載して、翌週に回答する。			
教科書・テキスト	社会福祉概論 [第4版]: 現代社会と福祉			受講生に望むこと	自らの関心分野を調べておくこと		
参考書・参考資料等	社会福祉概論 [第4版]: 現代社会と福祉			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	臨床医学概論						
担当教員	石井 陽子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の導入として、疾病の概要を学修し、段階的に理解を深めていく。健康の維持・増進、疾病の予防・治療の中で食事・栄養が果たす役割の概要を理解する。管理栄養士が適切な栄養管理を行い、チーム医療の一員として積極的に医療現場で活躍できるように臨床医学の基礎を修得する。医療人に必要な生命・医療倫理の基礎を学修する。</p>				現代医学の概要を理解する。			
教授方法	講義・グループ討論・演習						
履修条件	健康発達学部・食健康学科の学生であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	序論：医療における管理栄養士の役割						
2	生活習慣病、WHO 非感染性疾患（NCDs: Non-communicable diseases）						
3	糖尿病						
4	脂質異常症、メタボリックシンドローム、肥満症						
5	メタボリックドミノと関連疾患						
6	加齢に関連する主な疾患						
7	がんの概論						
8	免疫・感染症概論、食物アレルギー						
9	生命・医療倫理 1						
10	生命・医療倫理 2						
11	生命・医療倫理 3						
12	検査値の読み方と演習 1						
13	検査値の読み方と演習 2						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	60	学修のねらい・到達目標の達成度、構成・論理性を評価する。		小テスト・演習	30	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する。	
その他	10	グループ課題や授業における主体的態度など。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書等を用いて自主学習すること。提出物の期限を守ること。				質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。			
教科書・テキスト	「臨床医学 疾病の成り立ち（改訂第2版）」 田中明・宮坂京子・藤岡由夫著 羊土社			受講生に望むこと	主体的に課題や討論に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、参考資料を配布する。			その他・特記事項	教科書「臨床医学 疾病の成り立ち」は、2年次の病理学でも使用する。		

授業科目	人体機能（生理）学						
担当教員	石井 陽子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
生命現象において調和のとれた個体を作り上げている細胞、組織、器官などの各要素の機能と、それらの相互の関係について学修する。人体における恒常性の維持機構を、神経性調節、内分泌性調節、免疫による生体防御機構などの観点から学ぶ。疾病の病理・病態を学ぶための基本となる人体の機能を学習し、恒常性の破綻が疾病へ発展することや、恒常性維持に対する食事・栄養の役割を理解する。				人体の細胞、組織、器官などの各要素の機能と、恒常性の維持機構を理解する。			
教授方法	講義・演習						
履修条件	健康発達学部・食健康学科の学生であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：管理栄養士養成課程における本科目の位置づけ						
2	細胞の生理とエネルギー代謝						
3	神経系調節機構：中枢神経・末梢神経・自律神経						
4	内分泌系調節機構						
5	消化吸収機構						
6	肝機能、腎機能						
7	呼吸・循環の生理機能						
8	血液・免疫系の生理機能						
9	感覚器の生理機能：目・耳・鼻・皮膚						
10	骨代謝、筋肉						
11	男性生殖器・泌尿器の生理機能						
12	女性生殖器・乳腺の生理機能						
13	高次脳機能、摂食行動制御、概日リズム、睡眠と健康、腸脳相関						
14	まとめ、復習						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する			演習・小テスト	20	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する
課題レポート	10	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書等を用いて自主学習し、演習・小テストにて到達点を確認すること。				質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。			
教科書・テキスト	「解剖生理学 人体の構造と機能（改訂第3版）」志村二三夫・岡純・山田和彦著 羊土社			受講生に望むこと	主体的に学習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、参考資料を配布する。			その他・特記事項	教科書「解剖生理学 人体の構造と機能」は人体構造（解剖）学でも使用する。		

授業科目	生理学実習						
担当教員	石井 陽子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>人体機能（生理）学で学修した知識を実習を通して確認し、理解を深める。人体の基本的な生理機能に関する臨床検査、栄養状態の評価方法を体験し、その意義を理解する。</p>				<p>人体の基本的な生理機能を、実習を通して理解する。</p>			
教授方法	実習						
履修条件	健康発達学部・食健康学科の学生であること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：記録・解析方法、レポートの書き方						
2	各種の測定：心拍数、経皮的動脈血酸素飽和度、血圧、聴診（心音・呼吸音・腹部音）、反射（対光反射・膝蓋腱反射）						
3	栄養状態の評価方法とその意義：身体計測・体組成測定・骨密度測定・最終糖化産物測定						
4	血糖測定：簡易血糖測定器の使用法、注意点						
5	血糖測定：食物摂取前後の変化 1						
6	血糖測定：食物摂取前後の変化 2						
7	血糖測定：食物摂取と運動負荷前後の変化						
8	心電図検査、AED（自動体外式除細動器）トレーニング						
9	呼吸機能検査						
10	視野計測、皮膚知覚機能検査						
11	唾液の機能、齲歯リスク評価方法						
12	嚥下機能評価方法、オーラルフレイル評価方法						
13	誤嚥防止方法：ポジショニング、嚥下補助食品						
14	各種計測記録のまとめ、発表						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習レポート	80	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。		その他	20	主体的授業態度、グループ実習における貢献度等について評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書等を用いて自主学習し、実習にて確認すること。				質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。			
教科書・テキスト	「解剖生理学 人体の構造と機能（改訂第3版）」志村二三夫・岡純・山田和彦著 羊土社 「臨床医学 疾病の成り立ち（改訂第2版）」 田中明・宮坂京子・藤岡由夫著 羊土社			受講生に望むこと	主体的に課題に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、参考資料を配布する。			その他・特記事項	教科書「解剖生理学 人体の構造と機能」「臨床医学 疾病の成り立ち」は、1年次に人体構造学（解剖学）、人体機能学（生理学）、臨床医学概論にて使用した。		

授業科目	人体構造（解剖）学						
担当教員	石井 陽子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>人体の形態・構造を、細胞、組織、器官のレベルで学び、またそれらの相互の関係について理解する。肉眼による観察を主とする肉眼解剖学と、顕微鏡を用いて組織や細胞を観察する組織学との両方のレベルで学び、巧妙かつ精緻につくられた身体のしくみを学ぶ。人体の生理機能や疾病の病態生理を学ぶための基本となる人体の構造を理解する。</p>				<p>人体の形態・構造を細胞、組織、器官のレベルで理解する。</p>			
教授方法	講義・演習						
履修条件	健康発達学部・食健康学科の学生であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：管理栄養士養成課程における本科目の位置づけ						
2	細胞・組織・器官の概要						
3	消化器：口腔・唾液腺・食道・胃						
4	消化器：小腸・大腸						
5	消化器：肝臓・膵臓・胆嚢						
6	内分泌器：下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎						
7	循環器：心臓・血管						
8	呼吸器：気管支・肺						
9	皮膚・血液・脾臓・リンパ節						
10	泌尿生殖器：腎臓・尿管・膀胱・男性生殖器						
11	女性生殖器・乳腺						
12	神経系組織：中枢神経・末梢神経・自律神経						
13	骨・関節・筋肉・感覚器						
14	まとめ、復習						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する。			演習・小テスト	30	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書等を用いて自主学習し、演習・小テストにて到達点を確認すること。				質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。			
教科書・テキスト	解剖生理学 人体の構造と機能（改訂第3版）志村二三夫・岡純・山田和彦著 羊土社			受講生に望むこと	主体的に学習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、参考資料を配布する。			その他・特記事項	教科書「解剖生理学 人体の構造と機能」は人体機能（生理）学でも使用する。		



授業科目		解剖学実習					
担当教員	石井 陽子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2・3学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>人体構造（解剖）学で学んだ知識を、実習を通して確認し、理解を深める。マクロ解剖学実習として、人体解剖モデルを用いて各臓器・器官の形態、体内での位置を確認する。ミクロ解剖学実習として、主要臓器（肝臓、腎臓、心臓、消化器、内分泌腺など）の組織像を顕微鏡にて観察する。正常組織像と病理組織像とを比較することにより、臨床医学概論で学んだ疾患について正常から逸脱した病的構造変化をとらえ、病態理解につなげる。</p>				<p>人体の基本的な構造を、実習を通して理解する。</p>			
教授方法	実習						
履修条件	健康発達学部・食健康学科の学生であること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：課題の取り組み方、人体解剖モデルによる臓器・器官の観察						
2	人体解剖モデルによる臓器・器官の観察、主な検査画像との対比						
3	人体骨格模型の作成（1）						
4	人体骨格模型の作成（2）						
5	人体骨格模型の作成（3）						
6	顕微鏡の使い方・観察方法						
7	顕微鏡による正常組織・細胞の観察（1）						
8	顕微鏡による正常組織・細胞の観察（2）						
9	顕微鏡による正常組織・細胞の観察（3）						
10	顕微鏡による正常組織・細胞の観察（4）						
11	顕微鏡による正常組織・細胞の観察（5）						
12	顕微鏡による病理組織・細胞の観察（1）						
13	顕微鏡による病理組織・細胞の観察（2）						
14	まとめ：復習・確認						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	80	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。		その他	20	授業態度、グループ実習における貢献度等について評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書等を用いて自主学習し、実習にて確認すること。				質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。			
教科書・テキスト	「解剖生理学 人体の構造と機能（改訂第3版）」志村二三夫・岡純・山田和彦著 羊土社			受講生に望むこと	主体的に課題に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、参考資料を配布する。			その他・特記事項	教科書「臨床医学 人体の構造と機能」は、人体構造学（解剖学）、人体機能学（生理学）でも使用する。		

授業科目	病理学						
担当教員	石井 陽子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>疾病の原因、発症機序、病態生理を学修し、疾病の症候に関連づけて理解する。細胞レベルから組織レベルにおける構造変化および機能破綻が器官から個体に及び、疾病として顕在化するしくみを学修する。人体構造（解剖）学と人体機能（生理）学で学修した知識をもとに疾病の病態生理を理解し、医学概論で学修した臨床医学の基礎的知識を補充する。病状に応じて適切な栄養教育・栄養指導を行うために、主要な疾患の治療指針に対する基礎的知識および、主な医薬品と栄養・食事との相互作用について学修する。</p>				<p>疾病の原因、発症機序、病態生理を理解する。</p>			
教授方法	講義・演習						
履修条件	健康発達学部・食健康学科の学生であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	病理学的概念：死・適応・炎症・損傷・修復						
2	栄養・代謝性疾患						
3	内分泌系疾患						
4	消化管疾患						
5	肝・胆・膵疾患						
6	循環器系疾患						
7	腎・尿路系疾患						
8	神経・精神系疾患						
9	呼吸器系疾患						
10	血液・造血器系疾患						
11	免疫・アレルギー性疾患						
12	運動器系疾患、皮膚疾患						
13	生殖器系疾患、乳腺疾患						
14	感染症・薬						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。			演習・小テスト	20	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書等を用いて自主学習し、演習・小テストにて到達点を確認すること。				質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。			
教科書・テキスト	「臨床医学 疾病の成り立ち（改訂第2版）」 田中明・宮坂京子・藤岡由夫著 羊土社			受講生に望むこと	主体的に学習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、参考資料を配布する。			その他・特記事項	教科書「臨床医学 疾病の成り立ち」は、1年次に臨床医学概論にて使用した。		

授業科目	生化学						
担当教員	杉山 英子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>生物を構成する糖質、脂質、タンパク質、核酸など代表的な生体成分の化学的特徴や構造、及び分析法の概略を学修する。そして、それら生体分子の細胞や組織・器官における“ふるまい”や様々な調節機能を理解する。具体的には、発生、分化、細胞内・細胞間情報伝達、免疫などのヒトの健康と密接に関わる生命現象を分子レベルで学修する。また、生体内化学反応に欠かせない機能タンパク質としての酵素の一般的性質についての理解を深める。</p>				<p>生体の細胞、組織、器官を構成する物質の構造と機能を理解し、栄養素を含めた生体物質と個体の恒常性維持（ホメオスタシス）との関わりを的確に説明できるようにする。</p>			
教授方法	講義。授業の冒頭に、前回の復習と当日の予習となる内容のクイズを実施。授業終了前にはリアクションペーパー作成。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション（生命の成り立ち、細胞構造と細胞内小器官の機能、細胞を構成する主な生体物質）						
2	生体成分の分析（細胞分画、糖、脂質、タンパク質、核酸の抽出・精製・定量法）						
3	糖質の構造と機能（糖質の定義、糖質の分類とそれぞれの機能）						
4	脂質の構造と機能（脂質の定義、脂質の分類とそれぞれの機能）						
5	アミノ酸・タンパク質の構造と機能（アミノ酸・タンパク質の定義、アミノ酸・タンパク質の分類とそれぞれの機能）						
6	核酸の構造と機能（核酸、DNA、RNA分子の特徴と機能）						
7	酵素の構造と機能及びその調節						
8	生体の恒常性維持（ホメオスタシス）の重要性と細胞内・細胞間情報伝達						
9	恒常性維持（ホメオスタシス）とホルモン						
10	恒常性維持（ホメオスタシス）と消化・吸収						
11	血液と尿、酸・塩基平衡、水						
12	免疫系の成り立ち						
13	免疫系の異常（アレルギーと免疫不全）						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	理解力、思考力、表現力			授業レポート	20	理解したことをまとめて表現する力
上記以外の授業評価	20	主体的態度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
予習・復習に努めてほしい。				授業時に回答する。			
教科書・テキスト	石堂一巳・福渡 努編 健康・栄養科学シリーズ『生化学 人体の構造と機能呼び疾病の成り立ち』（南江堂）			受講生に望むこと	授業に集中すること。		
参考書・参考資料等	随時紹介する。			その他・特記事項	遅刻厳禁。		

授業科目	生化学						
担当教員	杉山 英子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>栄養の基盤である生体物質の代謝とその調節のしくみ、物質代謝における酵素反応の重要性を理解する。すなわち、酵素反応速度論や酵素活性調節機構、生体エネルギー学、糖代謝（解糖、TCA回路、電子伝達系と酸化的リン酸化、糖新生、グリコーゲン合成・分解等）、脂質代謝（脂肪酸の合成・分解、ケトン体産生、トリアシルグリセロールの合成・分解、コレステロール代謝等）、タンパク質・アミノ酸代謝、核酸代謝、薬物代謝ならびに代謝制御機構や生体調節機構について分子レベルで学修し、病態理解の礎とする。</p>				<p>栄養の基盤である三大栄養素（糖質、脂質、タンパク質）や関連生体物質の代謝とその調節機構及び、物質代謝における酵素反応の重要性を理解し、代謝経路相互の連関の概要を説明できるようにする。</p>			
教授方法	講義。授業の冒頭に、前回の復習と当日の予習となる内容のクイズを実施。授業終了前にはリアクションペーパー作成。						
履修条件	生化学 を習得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション（物質代謝とは）						
2	酵素反応と補酵素						
3	エネルギー産生と調節機構						
4	糖質の代謝（解糖、TCA回路）						
5	糖質の代謝（電子伝達系と酸化的リン酸化、酸化ストレス）						
6	糖質の代謝（糖新生、グリコーゲン合成・分解）						
7	糖質の代謝IV（ペントースリン酸経路、ウロン酸経路等）						
8	脂質の代謝（脂肪酸の酸化とケトン体産生）						
9	脂質の代謝（脂肪酸の合成、伸長、不飽和化、トリアシルグリセロールの合成・分解）						
10	脂質の代謝（コレステロールの代謝、脂質の輸送機構、複合脂質の合成経路、脂質異常症）						
11	生理活性物質の合成（エイコサノイドの代謝）						
12	タンパク質・アミノ酸代謝						
13	ヌクレオチドの代謝、糖質、脂質、アミノ酸代謝の相互連関						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	70	理解力、思考力、表現力			上記以外の授業評価	30	主体的態度
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
予習、復習に努めること。				授業時に回答する。			
教科書・テキスト	健康・栄養科学シリーズ 「生化学 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」南江堂			受講生に望むこと	代謝は生化学の中でも難しい内容かもしれないが、わかるようになると、疾病の成り立ちを理解できるようになります。根気よく付き合ってください。		
参考書・参考資料等	授業時に適宜紹介する。			その他・特記事項	遅刻厳禁。		

授業科目	生化学実験						
担当教員	杉山 英子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>生化学の講義で学習した知識の理解を深めるため、基本的な生体成分分子（糖質、脂質、タンパク質、核酸、ミネラル）の化学的性質及び扱い方（抽出、分離、精製）について、実験を通して修得する。また、物質代謝において重要な役割を果たす酵素の生化学的特徴や性質に関する実験を行い、生体内における酵素の代謝調節について学修するため、代表的な栄養素の消化過程を試験管内で再現する。これらの実験を通じて、栄養という生命現象についての理解を深める。</p>				<p>生化学の講義で学んだ生体成分分子の化学的性質や機能的特徴を実験を通じて深く理解するとともに、それらを扱う基本的な技術を修得する。また、実験過程の観察、実験レポート作成を通して科学的思考力、論理的思考力、文章表現力、データ処理能力などを身に付ける。</p>			
教授方法	実験						
履修条件	生化学 を習得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション（生化学実験のねらい、授業の進め方、実験レポートの書き方説明・実験で汎用する器具とその操作法 など）						
2	糖の分析：清涼飲料中の糖の定量（還元法） 加水分解 及び 血糖の定量（酵素法）						
3	糖の分析：清涼飲料中の糖の定量（還元法） 定量						
4	脂質の分析：トリグリセリドの抽出						
5	脂質の分析：トリグリセリドの定量						
6	酵素に関する実験 トリプシン活性に及ぼす pH, 温度の影響						
7	酵素に関する実験 トリプシン活性に及ぼす基質濃度, 時間の影響						
8	酵素に関する実験 唾液アミラーゼの活性測定						
9	タンパク質の分析：タンパク質の抽出と定量（ローリー法）						
10	タンパク質の分析：タンパク質の抽出と定量（紫外吸収法）						
11	タンパク質の分析：タンパク質の分離精製法（電気泳動法）						
12	タンパク質の分析：タンパク質の分離精製法（電気泳動法）						
13	核酸の分析：核酸の抽出・精製（ゲノムDNAの抽出・精製）						
14	核酸の分析：核酸の定量・同定（ゲノムDNAの定量と同定）まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業レポート	70	論理構成、文章表現、データ処理・提示など			上記以外の授業評価	30	主体的態度、実験ノート
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
レポート作成のために文献で調べることが望ましい				随時受け付ける			
教科書・テキスト	田代操編著『生化学実験』（化学同人）			受講生に望むこと	失敗を恐れずに、積極的に手を出して欲しい		
参考書・参考資料等	適宜紹介する			その他・特記事項	レポートの締め切りを守ること		

授業科目	運動生理学						
担当教員	吉武 康栄			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
身体活動、運動に伴い変化する人の身体特性（形態，生理，機能，精神）や生理学的応答について学修し，健康と運動について理解する。				運動器系（骨格系、筋系）の構造と機能を説明できる。 運動によって生じる身体の生理学的適応について説明できる。 運動による健康効果を説明できる。			
教授方法	主に，pptファイルの映写や板書を行いながら，教科書を活用して，講義形式で授業をすすめる。 その前の回の授業で提示する「事前学習のポイント」の理解の確認を兼ね，講義の中でも質疑応答等、積極的に行う。						
履修条件	1年次の基礎栄養学，人体機能（解剖）学、人体機能（生理）学を復習し，確実に理解しておくこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 健康と運動						
2	運動と骨格筋（1）						
3	運動と骨格筋（2）						
4	運動と神経・ホルモン						
5	運動と循環・呼吸（1）						
6	運動と運動と循環・呼吸（2）						
7	運動とエネルギー（1）						
8	運動とエネルギー（2）						
9	運動と身体組成						
10	運動と筋肉づくり						
11	運動と骨づくり						
12	運動と体温調節・水分補給						
13	身体活動と健康						
14	総括						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	60	学習のねらい・目標（学習のポイント）が達成できているかについて評価する。 教科書ならびに講義ノートを参考に復習しておく。		ミニ課題	40	随時，授業内で，ミニレポートを課す。詳細は第1回のオリエンテーションで説明する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習では，授業の最後に，次の回での学習に必要な「事前学習のポイント」を提示するので，必要な学習をしておく。 事後学習では，毎回の授業開始時に提示する「学習のポイント」の習得に努める。 詳細は第1回授業で説明する。				授業終了後に対応します。			
教科書・テキスト	『運動生理学』麻見直美，川中健太郎／編 羊土社 ISBN：978-4-7581-1356-4			受講生に望むこと	1年次の基礎栄養学，人体機能（解剖）学、人体機能（生理）学を復習し，確実に理解しておくこと。		
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配付する。			その他・特記事項	本科目は，応用栄養学 と関連する科目である。 本科目の理解は，運動生理学実習の基礎となる。		

授業科目	運動生理学実習						
担当教員	吉武 康栄			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>運動によって生じる身体の生理学的適応や運動機能について、自らの測定を通して評価し、考究する。また、健康づくりや体力の維持増進を目的とした日常の身体活動、トレーニング、運動処方について、実習を通して、学習する。それらの成果をまとめて、身体活動・運動の効果について情報発信し、議論する技術を習得する。</p>				<p>運動によって生じる身体の生理学的適応について、運動生理学の知識と自らの測定を通して、説明できる。 トレーニング効果、運動処方について説明できる。</p>			
教授方法	グループ単位での実習である。講義にもとづき、学生が主体となって測定を行い、考察し、客観的に評価し、まとめる。						
履修条件	運動生理学の単位を取得しておくこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：身体活動・運動を科学する						
2	運動負荷によって生じる生理学的応答の理解（1）						
3	運動負荷によって生じる生理学的応答の理解（2）						
4	運動負荷によって生じる生理学的応答の理解（3）						
5	身体の評価と身体活動量						
6	身体活動量の評価（1）						
7	身体活動量の評価（2）						
8	身体活動量の評価（3）						
9	中間のまとめ						
10	運動処方とトレーニング（1）						
11	運動処方とトレーニング（2）						
12	運動処方とトレーニング（3）						
13	実習成果のまとめ						
14	実習成果のまとめ発表と質疑応答。総括						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題	40	実習の学習のねらいの達成度について実習成果のまとめ発表で評価する			その他	60	実習課題への取り組み状況について評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習，事後学習の詳細は第1回授業で説明する。				授業日に対応します。			
教科書・テキスト	『運動生理学』麻見直美，川中健太郎 / 編 羊土社 ISBN：978-4-7581-1356-4			受講生に望むこと			
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配付する。			その他・特記事項		実習の詳細（実習にあたっての準備も含む）については、第1回の授業で説明する。本科目は、運動生理学を基盤とし、応用栄養学実習と関連する科目である。	

授業科目		食品学					
担当教員		小木曾 加奈		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
食品成分、特に五大栄養素である炭水化物、タンパク質(アミノ酸、ペプチド、酵素)、油脂、水溶性及び脂溶性ビタミン、ミネラルに対し、その構造を含めた化学的特徴、機能、性質を重点的に学修するとともに、それらの基本的な分析方法について学修する。また、食品の嗜好性成分について学修し、食品中の水の役割や食品中成分の成分変化から食品の保存方法についても学修する。				ねらい 食の基本は、安全で嗜好性に富み、かつ、栄養学的にバランスの取れた食事ができることである。ここでは、食品成分の化学的性質や加工・調理に伴う物理的、化学的、生物学的変化を学習することで、食物の本質を正しく理解することを目標とする。 到達目標 食品の代表的な化合物の化学特性を理解でき、構造を書くことができる。食品の安全性、嗜好性について説明できる。加工・調理における変化を化学的に説明できる。			
教授方法	講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。						
履修条件	特になし						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(基礎的な化学、食品とは何か?食品の種類と分類)						
2	食品成分表と食品の分析法						
3	食品中の水の役割と食品衛生						
4	糖類の構造と化学的性質(単糖類、少糖類)						
5	糖類の構造と化学的性質(多糖類、誘導糖類等)						
6	アミノ酸の構造と化学的性質(アミノ酸とペプチド)						
7	タンパク質・酵素、役割とその構造						
8	脂肪酸・各種脂質の構造と化学的性質						
9	油脂の乳化、酸化、加工油脂食品						
10	ビタミンの構造と化学的性質						
11	ミネラルの化学的性質						
12	食品の嗜好性成分(味、香り、色)						
13	食品の成分変化(酵素的褐変、非酵素的褐変)と保存方法						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。		小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。	
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
化学構造が前提の講義となるため、化学が苦手な方は事前、事後に学習を望む。指定された課題・問題に取り組む。苦手な分野の克服に向けて努力する。				質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。			
教科書・テキスト	「栄養管理と生命科学シリーズ 食品の科学総論」川上美智子・高野克己編著 理工図書社 適宜印刷物を配布。			受講生に望むこと	高校の化学・生物の教科書あるいは参考書を用意し、復習しておくことが望ましい。		
参考書・参考資料等	高校の化学・生物の教科書あるいは参考書			その他・特記事項	特になし		



授業科目	食品学						
担当教員	小木曾 加奈			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義では食品学を踏まえた上での応用的学問として、各種食品の成分特徴と種類、加工方法や貯蔵方法等について学修する。主食である穀物（米、小麦、トウモロコシ）から始まり、植物性食品（豆、芋、野菜、果実、海藻類）、動物性食品（卵、畜肉、鶏肉、乳、水産品）、嗜好飲料や嗜好食品、アルコール飲料、油脂、調味料、発酵食品、新しい加工食品までを網羅的にその特性と利用方法について学修する。またこれらの食品の機能性のほか、表示や規格基準についても学修する。</p>				<p>ねらい 食品学で学んだ食品成分の化学的性質に対し、本講義では具体的な食品の種類や化学的特徴について学修する。また、食品の物性、加工方法や機能性食品についても触れ、食品の本質を正しく理解することを目標とする。</p> <p>到達目標 具体的な食品の種類や化学的特徴を説明できる。 食品中に有する成分を踏まえながら、それぞれに合わせた加工方法や機能性を説明できる。</p>			
教授方法	講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。						
履修条件	食品学を習得していること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：日本の食生活（歴史的な背景）と食糧自給率、地産地消						
2	植物性食品の成分特性と利用方向（穀物・芋類）						
3	植物性食品の成分特性と利用方向（豆類・種実類）						
4	植物性食品の成分特性と利用方向（野菜類・果実類）						
5	植物性食品の成分特性と利用方向（海藻類、きのこ類）						
6	動物性食品の成分特性と利用方向（卵・肉類）						
7	動物性食品の成分特性と利用方向（乳類・水産品）						
8	嗜好食品と嗜好飲料、調味料、油脂、香辛料等の成分特性と利用方向						
9	微生物利用食品の成分特性と利用方向						
10	食品の物性						
11	食品の加工方法と新しい加工食品						
12	食品の機能性（一次機能・二次機能）						
13	食品の機能性（三次機能）						
14	食品の表示と規格基準、まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。		小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。	
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された課題・問題に取り組む。苦手な分野の克服に向けて努力する。				質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。			
教科書・テキスト	「栄養管理と生命科学シリーズ 食品の科学総論」川上美智子・高野克己編著 理工図書社 適宜印刷物を配布。			受講生に望むこと	食品学の内容が頻出するので復習をしながら食品学に励むこと。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目		食品学実験					
担当教員	小木曾 加奈			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本実験では、食品成分の化学的・物理的性質を理解するために、それぞれ具体的な食品を用いて定量及び定性実験、ならびに物性に関する実験を行う。まず試薬調製法、試薬濃度の表し方について学修し、その知識や技術を身につけた上で、食品成分の分析を行い、食品成分表と比較検討する等、考察を深める。</p>				<p>ねらい 食品学実験は、食品成分についての化学実験である。食品学 ． の講義をふまえて、食品成分の化学的・物理的性質を実験を通して理解し、自ら説明することができるようになることを目標とする。</p> <p>到達目標 器具類や、試薬の性質を踏まえながら取り扱うことができる。文献を引用しながら科学系のレポートの作成ができる。レポートを通じて各食品成分の特徴を化学的に説明できる。</p>			
教授方法	講義（説明）、実験はグループ（2人または4人）で行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：実験上の留意事項（実験に際しての諸注意）						
2	実験の基本操作について（実験器具の使用上の注意、試薬の調整法）						
3	糖質の定性（フェーリング反応ほか）						
4	デンプンの定量（ヨウ素比色法）						
5	タンパク質の定性（ビウレット反応ほか）						
6	タンパク質の定量（Bradford法）						
7	脂質の定性（アクロレイン反応ほか）						
8	脂肪酸の分析（GC分析または薄層クロマトグラフィ）						
9	油脂の酸化（過酸化物質、TBA値の測定）						
10	油脂の酸化と分子量（酸価、ケン化値の測定）						
11	食品の物性（ウペローデ型毛细管粘度計による粘度測定）						
12	有機酸の定量（牛乳と食酢の酸度）						
13	沈殿滴定（醤油の食塩濃度の定量）						
14	ポリフェノールの定量（Folin-Denis法）、まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実験レポート	80	書いたレポートをA+～Cまで評価し、点数化を行う。		上記以外の授業評価	20	積極的に実験に取り組んだかなどの貢献度を点数化する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>化学の基礎が必要となるため、事前に基礎知識（濃度、構造）を予習すること。事後は図書館などで文献を引用しながらレポートを作成すること。</p>				<p>質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。</p>			
教科書・テキスト	「要説 栄養・食品学実験 - 5 0」大西正三編 医歯薬出版 適宜印刷物を配布。			受講生に望むこと	一番は事故がないようにすること。危険な試薬などを扱うため、慎重に手際よく進めること。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目	食品衛生学						
担当教員	小木曾 加奈			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>食品を衛生的に取り扱うために必要な手段について学修する。食品を安全に摂取するためには、その安全性を確保しなければならない。食品衛生行政、食中毒、食品添加物、器具・容器包装、食品成分の有毒化などを学ぶことで、自らの食の安全を検討する機会となる。さらに、各人が実際に食品を扱うとき、何が危険か危険でないのか、何をどうすると危険なのかを理解できるようになる。食の安全性を守るのは我々自身である、と常に念頭に置くことで安全管理（食のリスクマネジメント）を学修する。</p>				<p>ねらい 本講義では食品の安全性という、人類にとって非常に重要な項目を取り扱う。食品は安全を確保しなければ、食べられないものや毒が混入する可能性がある。では一体誰が私達を守るのか？それは政府（法律）であり、企業（会社）であり、消費者（我々自身）なのである。これらを認識し、食の安全性とリスク、許容性を学ぶことが本講義の目標である。</p> <p>到達目標 実際に食品を扱うとき、何が危険か危険でないのかわかる。 の危険性から食品の衛生が理解できる。 食のリスクマネジメントができる。</p>			
教授方法	講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：分野で活躍している方のお話、総論						
2	食品衛生関連法規、HACCP方式、食中毒の概略と食中毒の分類						
3	細菌性食中毒1：サルモネラ、腸炎ピブリオ等						
4	細菌性食中毒2：ブドウ球菌、病原大腸菌等						
5	ウイルス性食中毒						
6	寄生虫・衛生動物						
7	自然毒食中毒1：動物性自然毒						
8	自然毒食中毒2：植物性自然毒						
9	化学性食中毒1：有害化学物質、重金属等						
10	化学性食中毒2：農薬、カビ毒、毒性学						
11	食品添加物1：甘味料、着色料、保存料						
12	食品添加物2：その他の食品添加物						
13	器具・容器包装						
14	食品成分の変性・有毒化、まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。			小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>化合物がここでも頻出するため、化学が苦手な方は努力しよう。 指定された課題・問題に取り組む。 苦手な分野の克服に向けて努力する。</p>				<p>質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。 毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。</p>			
教科書・テキスト	「新訂原色食品衛生図鑑」細貝祐太郎編 建帛社 適宜印刷物を配布。			受講生に望むこと	身の回りのことをよく観察し、自分自身の食の安全性を鑑みてみよう。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目	食品衛生学実験						
担当教員	小木曾 加奈			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>前半に微生物試験を連続して行う。その試験特性を理解し、食品や調理器具、自らの手や空間における汚染の現状を把握する。後半は水道水の汚染や、食品中の食品添加物や食品の鮮度を把握するために、それぞれ具体的な食品を用いて化学実験を行う。これらの実験によって実際に試薬や器具の適切な取り扱いができ、自ら試薬調製が可能になると共に、食品の安全性を確保するのに必要な手段を学修する。</p>				<p>ねらい 本実験は微生物の取り扱いや試薬の調製法から始まり、さらに、食品中の食品添加物の定量、食品の鮮度について取り上げる。これら食品の安全性と健全性を確保するために必要な手段について、実験を通じ考えることを目標としている。</p> <p>到達目標 手技を通じて微生物の取り扱いができる。食品の鮮度がわかる。試薬の調整ができ、化学分析ができる。</p>			
教授方法	講義(説明)、実験はグループ(4人)で行う。						
履修条件	食品衛生学を習得していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：実験上の留意事項(実験に際しての諸注意)						
2	実験の基本操作について(滅菌と消毒、微生物の取り扱い)						
3	一般生菌の検査：標準寒天培地						
4	コロニーカウンターの使用法と大腸菌群の検査1(デスオキシコーレート培地)						
5	大腸菌群の検査2(BGLB培地)						
6	大腸菌群の検査3(確認試験としてのEMB培地)						
7	グラム染色法・検鏡						
8	調理器具の検査：空中落下菌・手指の細菌検査・調理器具(まな板)の汚染検査						
9	飲料水の検査：酸化還元滴定						
10	食品添加物の検査：発色剤の定量						
11	食品添加物の検査：着色料の抽出						
12	食品添加物の検査：着色料の同定						
13	食品の鮮度検査1：揮発性塩基窒素の定量						
14	食品の鮮度検査2：ヒスタミンの検出/皿の汚染検査、まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実験レポート	80	書いたレポートをA+~Cまで評価し、点数化を行う。			上記以外の授業評価	20	極的に実験に貢献したかなど貢献度を点数として加味する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
自分の調べてみたいこと、ものを持ってきてもらうかもしれませんが、事前によく内容を把握しよう。				質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。			
教科書・テキスト	「新訂原色食品衛生図鑑」細貝祐太郎編 建帛社 適宜印刷物を配布。			受講生に望むこと	積極的に実験に参加し、手技を身につけよう。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目		食品開発・品質管理論					
担当教員	小木曾 加奈			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2・3学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>実際の企業ではどのような組織活動が行われているかを筆頭に食品開発の研究から工場での品質管理、価格の算出、製品販売までの立ち上げ、営業と販売促進方法など今までの加工食品から今後の目的まで概説する。後半では特に作成された製品をどのようにして安心安全に品質良く届けられるかについて品質管理の手法について解説する。データの取り方や統計に至るまでどのように品質を管理しているか、また管理方法についても学修する。</p>				<p>ねらい 食の外部化とともに食品産業は日本人の食生活に重要な位置を占めている。食品学、食品衛生学を踏まえた上でのさらなる応用的学問として説明し、食品産業と、生活者である消費者との両方の立場から食品開発に関連する知識を深め、品質管理に関わる諸課題を学び理解することを本講義の目標とする。</p> <p>到達目標 日本の食品産業について概要を述べることができる。 食品開発について説明できる。 品質管理について説明できる。</p>			
教授方法	講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。						
履修条件	特になし						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：分野で活躍している方のお話、企業とその組織活動						
2	「食品開発」の研究から製造販売までの過程						
3	先人の知恵を利用した食品						
4	食品開発の目的						
5	マーケティングとは？						
6	食品開発の実践方法1：工業化と実例						
7	食品開発の実践方法2：商品化のための基本価格の算出と製品販売まで						
8	知的所有権						
9	食品の安全性と工場での品質管理（HACCP、ISO、TQM）、管理と改善、工程と検査、標準化：データの取り方の基礎						
10	QC7つ道具1（グラフ、パレート図等）						
11	QC7つ道具2（管理図、チェックシート等）						
12	新QC7つ道具1（親和図法、連関図法等）						
13	新QC7つ道具2（マトリックス図法、PDPC法等）						
14	より良い製品づくりのための心構えと行動（工場見学等含む。）、まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。		小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。	
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された課題・問題に取り組む。苦手な分野の克服に向けて努力する。				質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。			
教科書・テキスト	大学生・新入社員・主婦のための食品開発ガイドブック（片岡榮子、片岡二郎）地人書館 適宜印刷物を配布。			受講生に望むこと	自分が社会人になったときのことを考えて積極的に講義に取り組んで欲しい。現在販売されているものを良く見てみよう。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目		食品・メニュー開発実習					
担当教員	小木曾 加奈			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	1・2学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本実習では、大学生を中心としたニーズ調査を行い、その意見から食品の対象を目標として設定する。その食品を実際に試作し、最終製品として作成すると共に、パッケージデザインや内容（栄養表示）も全て自分たちで検討を行う。実際に既製品に近い製品を開発、プレゼンテーションを行い、投票で最優秀製品を決定する。</p>				<p>ねらい これまで食品開発に関連する基礎知識、開発の実際と背景、消費者ニーズ等を広範囲にわたり学び、食品の諸性質を生かした安全で健康的な調理加工食品について学習してきた。これらの知識を生かし実際に「売れる」商品開発を行うことを目標とする。</p> <p>到達目標 販売するための内容表示やパッケージデザインを作成できる。 実際の商品を最終製品として作成・販売できる。</p>			
教授方法	講義（説明）、実習はグループ（4人）で行う。ニーズの調査等で学外に出ることもある。						
履修条件	食品開発・品質管理論を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、県内で活躍している方のお話						
2	目標の検討とニーズ調査（学外での活動を含む）						
3	調査（実現可能か等の検討）/開発のための基礎知識1						
4	開発食品の対象・目標設定/開発のための基礎知識2						
5	試作1/開発のための基礎知識3						
6	試作2						
7	試作3と試作の改良点抽出、品質保持のための工夫						
8	改良						
9	パッケージ等（シズル）・内容表示の決定、販売促進方法の検討						
10	最終商品の決定						
11	プレゼンテーションの検討と最終製品の制作						
12	プレゼンテーション1・試食会（前半）、投票						
13	プレゼンテーション2・試食会（後半）、投票						
14	総括と反省（コンテスト等に提出も含む。）、まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習レポート	80	書いたレポートをA+～Cまで評価し、点数化を行う。		上記以外の授業評価	20	積極的に実験に取り組んだかなどの貢献度を点数化する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
作成する品について予習すること。 事後は図書館などで文献などを引用しながらレポートを作成すること。				質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。 毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。			
教科書・テキスト	特になし、適宜印刷物を配布。			受講生に望むこと	一番は事故がないようにすること。安全のための食品づくりを基本に手際よく進めること。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目		調理学						
担当教員		中澤 弥子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期		授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格			備考			
授業の概要					授業目標（ねらい・到達目標）			
理論体系に裏付けされた講義を通して、食品の衛生・安全面、栄養面、嗜好面の各特性を高める食品の調理理論及び調理操作の方法を理解する。おいしい料理を作ることに役立つ食品の調味や、非加熱調理と加熱調理の原理、代表的な調理器具・設備の使用法、調理操作過程における食品の物理化学的変化、調理による食品の栄養特性の変化、食事設計の基礎、献立作成、食事の配膳、供食に関する知識や技術を修得する。また、食品のレオロジーやおいしさの評価について学修する。					ねらい 食品の衛生・安全面、栄養面、嗜好面の各特性を高める食品の調理理論及び調理操作の方法を理解し修得する。おいしい料理を作ることに役立つ食品の調味や、非加熱調理と加熱調理の原理、代表的な調理器具・設備の使用法、調理操作過程における食品の物理化学的変化、調理による食品の栄養特性の変化、食事設計の基礎、献立作成、食事の配膳、供食に関する知識や技術を修得し、あわせて健康や食文化に関する幅広い知識を身につける。 到達目標 食品の調味や、非加熱調理と加熱調理の原理、代表的な調理器具・設備の使用法、調理操作過程における食品の物理化学的変化、調理による食品の栄養特性の変化に関する基本的知識や技術について理解する。 食事設計の基礎、献立作成、食事の配膳、供食に関する基本的知識や技術について修得する。 健康や食文化に関する幅広い知識を修得する。			
教授方法	講義において、実際の食品や料理、調理機器の回覧や、映像資料、パワーポイントによる視覚資料を活用して、日常生活において見知っている調理の現象と、トピックとして学んでいる食品の調理に関する知識や基本技術を結びつけ、食品の調味や調理性、調理操作中の成分の変化、代表的な調理器具の使用法等、調理についての理解を深める。毎回の授業で小テストを実施し、感想・意見・疑問等も記して提出してもらい、関心や理解度を確認しながら授業を進める。							
履修条件	「調理学実習」を同時に履修すること。							
授業計画								
実施回	授業内容							
1	オリエンテーション、食事の意義、調理の意義と目的、調理学について学ぶ。							
2	食事設計の基礎、献立作成、食事の配膳、供食について学ぶ。							
3	調理操作の分類、非加熱操作と調理器具について学ぶ。							
4	加熱操作と調理用熱源、調理器具、調理設備について学ぶ。							
5	加熱操作と調味、食具・食器の種類と特徴について学ぶ。							
6	食べ物の嗜好性と官能評価について学ぶ。							
7	炭水化物の種類と調理性、米類の調理性について学ぶ。							
8	小麦類の調理性について学ぶ。							
9	イモ類、豆類、砂糖類の調理性について学ぶ。							
10	たんぱく質の種類と調理性、食肉類、魚介類の調理性について学ぶ。							
11	卵類、牛乳・乳製品、大豆類の調理性について学ぶ。							
12	ビタミン、無機質の種類と調理性、野菜・果実類、きのこ・藻類、種実類の調理性について学ぶ。							
13	成分抽出素材の調理について学ぶ。							
14	調味料、嗜好飲料、嗜好食品の調理について学ぶ。まとめ							
共通の評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記試験）	60	毎回の講義で学んできた食品の調理理論や調理操作に関する基礎的知識や技術についての理解度および知識や技術を正しく用いて現実の課題に適用して理			小テスト	40	毎回の授業の中で身につけた食品の衛生・安全面、栄養面、嗜好面の各特性を高める食品の調理理論や調理操作の基礎的知識や技術について小テストを行	
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応			
事前学習としては、毎回指定する課題（授業に係る食品の調理性や調理操作の特徴を教科書で確認する）に取り組む。事後学習としては、教科書の記入式ノートにより授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。					<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・毎回の小テストに感想・意見・質問等も記して提出してもらう。</li> <li>・メールでの質問についても受け付ける。</li> <li>・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。</li> </ul>			
教科書・テキスト	『栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学』吉田恵子・綾部園子編著 理工図書株式会社 2020 ISBN: 978-4-8446-0894-3 『七訂 食品成分表 2020』女子栄養大学出版部 2020 ISBN: 978-4-7895-1020-2 『日本の食文化 新版「和食」の継承と食育』アイ・ケイコーポレーション 2016 ISBN: 978-4-87492-343-6				受講生に望むこと	「調理学」で学ぶ知識と調理の基本技術と、各自が日常生活において見知っている調理の現象、さらに「調理学実習」で取り扱う食品の調理性および調理操作等と結びつけながら理解を深めるとともに知識や技術を応用できるよう主体的に学んで欲しい。		
	その他・特記事項	教科書『七訂 食品成分表 2020』と電卓を使用して授業中または事前・事後学習において栄養計算等を行うことがある。						

参考書・  
参考資料等

授業の中で随時紹介する。必要に応じて、印刷資料等を配布する。



授業科目		調理科学実験					
担当教員	中澤 弥子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
調理学の理論の根拠について実験を通して科学的に理解する。調理の過程で生じる食品の様々な科学的変化について観察し、物理化学的性質の測定や組織学的方法および統計学的手法を用いて、食品組織や成分の変化について学修する。調理科学に関する基礎実験、基礎調理操作に関する実験および食品の調理性に関する実験を通して、科学的に調理理論について理解する。食品素材や加工品の品質評価や嗜好性の評価について、機器測定と官能評価による総合的な分析方法を修得する。				ねらい 調理学の理論の根拠について実験を通して科学的に理解する。調理の過程で生じる食品の様々な科学的変化について観察し、食品組織や成分がどのような変化をするのか、物理化学的性質の測定や組織学的方法および統計学的手法を用い、科学的に理解する。調理科学に関する基礎実験、基礎調理操作に関する実験および食品の調理性に関する実験方法を理解し、食品素材や加工品の品質評価や嗜好性の評価について、機器測定と官能評価による総合的な分析方法を修得する。 到達目標 調理科学に関する基礎実験、基礎調理操作に関する実験および食品の調理性に関する実験方法を理解する。 食品素材や加工品の品質評価や嗜好性の評価について、機器測定と官能評価による総合的な分析方法を修得する。			
教授方法	実験は教科書と実験プリントに沿って行い、実験テーマにより3～5名のグループで行う。第9回には中間報告会、第14回にまとめと報告会を行う。最初に実験のポイントを学生に発表させ、内容を確認して実験に取り組ませる。記録用プリントの提出や、報告会での発表や質疑応答を通して、実験のねらいや方法、結果についての理解を深める。						
履修条件	「調理学」および「調理学実習」の履修を終えていること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション。調理科学に関する基礎実験。調理科学の基礎的事項について学ぶ。						
2	味覚に関する実験。官能評価の手法と統計解析について学ぶ。						
3	千曲市内食品工場の見学により、食品素材や加工品の機器分析、官能評価について学ぶ。						
4	千曲市内食品工場の見学により、食品素材や加工品の機器分析、官能評価について学ぶ。						
5	米の調理性に関する実験。米の調理性について学ぶ。						
6	小麦粉の調理性に関する実験。小麦粉の調理性について学ぶ。						
7	野菜・いもの実験。野菜・いもの調理性について学ぶ。						
8	卵の実験。卵の調理性について学ぶ。						
9	中間報告会。第1回～第6回の実験について発表とまとめ。						
10	砂糖の実験。砂糖の調理性について学ぶ。						
11	ゲル化剤、とろみ調整食品に関する実験。ゲル化剤の調理性およびとろみ調整食品の特徴について学ぶ。						
12	牛乳・乳製品の実験。牛乳・乳製品の調理性について学ぶ。						
13	でんぷんとだしに関する実験。でんぷんとだしに関する調理性について学ぶ。						
14	最終報告会。第7回～第13回の実験について発表とまとめ。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	30	実験の内容を調理理論に基づき科学的に正しく理解しているか、食品の品質評価や嗜好性の評価について正しく理解しているかに応じて評価する。		提出物	50	提出物の内容（課題を理解し、適切に表現しているか）に応じて評価する。	
プレゼンテーション	20	中間・最終報告会でのプレゼンテーションの内容（課題を理解し、適切に説明しているか）に応じて評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習としては、実験記録用プリントに実験に必要な備品や機器名を記載し、およびその実験手順を理解しておく。 事後学習としては、実験記録用プリントに実験結果や考察をまとめる。				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問についても受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。			
教科書・テキスト	『調理科学実験 第2版』長尾慶子・香西みどり著 建帛社 2019 ISBN:978-4-7679-0623-2 『栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学』吉田恵子・綾部園子編著 理工図書株式会社 2020 ISBN:978-4-8446-0894-3 『七訂 食品成分表 2020』女子栄養大学出版部 2020 ISBN:978-4-7895-1020-2			受講生に望むこと	「調理科学実験」で学ぶ食品の調理性等と各自が日常生活において見知っている調理の現象と「調理学」、「調理学実習」および「調理学実習」で学んだ食品の調理性や調理操作等を結びつけながら理解を深めるとともに、知識や技術を応用できるよう主体的に学んで欲しい。		
参考書・参考資料等	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、印刷資料等を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		調理学実習					
担当教員	中澤 弥子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
調理の基礎的な知識と技術を系統的に修得する。日常用いられる非加熱調理操作、加熱調理操作に関する基礎的事項を理解し、さらに、調味、食器の取り扱い、盛りつけ等の基本調理を系統的に学修する。日本料理様式、西洋料理様式および中国料理様式の系統の実習によって、必要な調理の知識や基本技術について実践を通して修得する。また、安全面・衛生面に関する正しい知識、さらに環境を配慮したエコクッキングの実践力を修得する。				ねらい 日常用いられる非加熱調理操作、加熱調理操作に関する基礎的事項を理解し、さらに、対象にあわせておいしく作るために、調味、食器の取り扱い、盛りつけ、管理栄養士として必要な基本調理の知識と技術を修得する。日本料理様式、西洋料理様式および中国料理様式の系統の実習によって、必要な調理の知識や基本技術を実習を通して身につける。また、安全面・衛生面に関する正しい知識を身につけ、さらに環境を配慮したエコクッキングの実践力を養う。 到達目標 日本料理様式、西洋料理様式および中国料理様式の系統の実習によって、必要な調理の知識や基本技術を修得する。 基本調理における安全面・衛生面に関する正しい知識を修得し、さらに環境を配慮したエコクッキングの実践力を養う。			
教授方法	調理実習は実習プリントに沿って行い、3～5人のグループで3～5品を協力して調理する。説明および実演の後、調理実習、試食、片付けを行う。						
履修条件	「調理学」を同時に履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、調理器具・食器の種類と取り扱い、計量・温度の測定について学ぶ。						
2	日本料理様式実習 和風だしの取り方、炊飯とおにぎり、味噌汁、厚焼き卵、青菜のお浸し、日本茶の調理について学ぶ。						
3	日本料理様式実習 えんどう飯、かきたまご汁、いり鶏、きゅうりとわかめの酢の物の調理について学ぶ。						
4	日本料理様式実習 親子どんぶり、鰯のつみれ入りすまし汁、鰯の付け焼き、菊花かぶ、水ようかんの調理について学ぶ。						
5	日本料理様式実習 赤飯、吉野鶏のすまし汁、煮魚、あさりとねぎの辛子酢味噌和えの調理について学ぶ。						
6	西洋料理様式実習 クリームスープ、ムニエル、サラダ、ワインゼリーの調理について学ぶ。						
7	西洋料理様式実習 コンソメスープ、ハンバーグステーキ、サラダ、ブランマンジェの調理について学ぶ。						
8	献立と調理様式、調理様式別調理器具・食器の種類と取り扱い、盛り付けと配膳、刃物の手入れ（包丁研ぎ）について学ぶ。						
9	西洋料理様式実習 サンドイッチ、カスタードプリン、紅茶、マヨネーズの調理について学ぶ。						
10	西洋料理様式実習 オードブル、バターライスと魚介のクリームソース、魚のプレゼのラビゴットソース添え、レモンスカッシュの調理について学ぶ。						
11	中華料理様式実習 冷拌什錦、醬蒸魚、青梗菜豆腐湯、折口菓の調理について学ぶ。						
12	中華料理様式実習 酢豚、玉米湯、鶏蛋糕、中国茶の調理について学ぶ。						
13	中華料理様式実習 魚丸子湯、蕃茄溜魚片、花形蒸しパンの調理について学ぶ。						
14	日本料理様式実習 ちらし寿司、吸い物の調理について学ぶ。まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
調理の実技試験	60	日常用いられる調理操作、調味、食器の取り扱い、盛りつけなどの基本調理の知識と技術および安全面・衛生面に関する正しい知識や環境を配慮したエコ		提出物	40	提出物の内容（課題を理解し、適切に表現しているか）に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習としては、実習記録用プリントに使用材料名と量を記載する。事後学習としては、調理過程や調理のポイント等を実習記録用プリントにまとめ、実施献立について食品成分表を用いて栄養計算を行う。				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問についても受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。			
教科書・テキスト	『栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学』吉田恵子・綾部園子編著 理工図書株式会社 2020 ISBN：978-4-8446-0894-3 『七訂 食品成分表 2020』女子栄養大学出版部 2020 ISBN：978-4-7895-1020-2 『日本の食文化 新版 「和食」の継承と食育』アイ・ケイコーポレーション 2016 ISBN：978-4-87492-343-6			受講生に望むこと	「調理学実習」で身に付ける調理の知識と基本技術と、各自が日常生活において見知っている調理の現象、さらに「調理学」で学ぶ食品の調理性等の知識とを結びつけながら理解を深めるとともに、知識や技術を応用できるように主体的に学んで欲しい。		
参考書・参考資料等	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、印刷資料等を配布する。			その他・特記事項	教科書『七訂 食品成分表 2020』と電卓を使用して授業中または事前・事後学習において栄養計算等を行うことがある。		

授業科目	調理学実習						
担当教員	中澤 弥子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
調理学や調理学実習 で学修した調理に関する基礎知識や基礎的な調理技術を基に、食の嗜好性や地域性など多角的な視点から食事をとらえ、それらを取り扱うための総合的であり高度な応用技術や知識について学修し、創造力を養成する。日本や諸外国の供応食、行事食、郷土食等の調理実習や食事マナーの学修を通して、世界の食事文化や食事形式について文化的理解を深め、調理操作と調味、献立構成など、種々の知識を実践に活用する総合的な応用力を修得する。				ねらい 調理学や調理学実習 で学んだ調理に関する基礎知識や基礎的な調理技術を基に、食の嗜好性や地域性など多角的な視点から食事をとらえ、それらを取り扱うための総合的であり高度な応用技術、知識と創造力を身につける。日本や諸外国の供応食、行事食、郷土食などの調理実習や食事マナーの実践を通して、世界の食事文化や食事形式について文化的理解を深め、調理操作と調味、献立構成などの種々の知識を実践に活用する総合的な応用力を身につける。 到達目標 食の嗜好性や地域性など多角的な視点から食事をとらえ、調理に関する総合的であり高度な応用技術と知識および創造力を修得する。 日本および世界の食事文化や食事形式について文化的理解を深め、調理操作と調味、献立構成などの種々の知識を実践に活用する総合的な応用力を修得する。			

教授方法	調理実習は実習プリントに沿って行い、3～5人のグループで3～5品を協力して調理する。説明および実演の後、調理実習、試食、片付けを行う。6回目の授業は学外の施設で西洋料理のテーブルマナーを学習する。
履修条件	「調理学実習」の履修を終えていること。

授 業 計 画	
実施回	授業内容
1	日本の行事食：餅類、饅頭類、類類の調理および日本の行事食の食文化について学ぶ。
2	日本の行事食：おはぎ、土瓶蒸し、白和えの調理および日本の行事食の食文化について学ぶ。
3	日本の供応食：季節のこはん、天ぷら、茶碗蒸、かぼちゃのそぼろあんかけの調理および日本の供応食の食文化について学ぶ。
4	日本の供応食：巻き寿司、いなり寿司の調理および日本の供応食の食文化について学ぶ。
5	日本の供応食：日煮椀、照焼き、炊き合わせ、塩いかの黄味酢和え、淡雪かん等の調理および日本の供応食の食文化について学ぶ。
6	西洋コース料理のテーブルマナーについて学ぶ。
7	西洋の朝食：オムレツ、オートミールのポリッジ、マフィン、コーヒーの調理および西洋の朝食の食文化について学ぶ。
8	西洋の供応食：ミネストローネ、マカロニグラタン、ワルドルフ風サラダの調理および西洋の供応食の食文化について学ぶ。
9	西洋の行事食（クリスマス料理）：ブッシュドノエル、クラレットパンチの調理およびクリスマスの食文化について学ぶ。
10	西洋の行事食（パーティー料理）：パーティー料理の調理および西洋の行事食の食文化について学ぶ。
11	日本の行事食（正月料理）：雑煮、田作り、なます、梅花かん、黒豆、昆布巻きの調理および日本の行事食の食文化について学ぶ。
12	西洋の供応食：ビーフシチュー、サラダ、シュークリーム等の調理および西洋の供応食の食文化について学ぶ。
13	韓国と東南アジアの料理：ビビムバブ（韓国）、ゴイ・クオン（ベトナム）、トム・ヤン・クン（タイ）の調理およびアジアの食文化について学ぶ。
14	長野県の郷土料理の調理と松花堂弁当の盛り付け、郷土料理および弁当の食文化について学ぶ。まとめ。

共通の評価基準	

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
調理の実技試験	60	調理操作と調味に関するより高度な応用技術の修得度、知識を実践に活用する力および創造力の修得度に応じて評価する。	提出物	40	提出物の内容（課題を理解し、適切に表現しているか）に応じて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前学習としては、実習記録用プリントに使用材料名と量を記載する。事後学習としては、調理過程や調理のポイント等を実習記録用プリントにまとめ、実施献立について食品成分表を用いて栄養計算を行う。行事食に関するレポートに取り組む。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・メールでの質問についても受け付ける。</li> <li>・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。</li> </ul>		
教科書・テキスト	『栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学』吉田恵子・綾部園子編著 理工図書株式会社 2020 ISBN: 978-4-8446-0894-3 『七訂 食品成分表 2020』女子栄養大学出版部 2020 ISBN: 978-4-7895-1020-2 『日本の食文化 新版「和食」の継承と食育』アイ・ケイコーポレーション 2016 ISBN: 978-4-87492-343-6	受講生に望むこと	「調理学実習」で身につける総合的であり高度な調理の応用技術や知識と、各自が日常生活において見知っている調理の現象、「調理学」や「調理学実習」で学んだ調理の知識や基礎技術等および「調理科学実験」で学ぶ食品の調理性等とを結びつけながら理解を深めるとともに、知識や技術を応用できるように主体的に学んで欲しい。		
参考書・参考資料等	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、印刷資料等を配布する。	その他・特記事項	教科書『七訂 食品成分表 2020』と電卓を使用して授業中または事前・事後学習において栄養計算等を行うことがある。		

授業科目		国際食文化論実習					
担当教員	中澤 弥子			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
世界中の人々が風土や歴史の中で、どのような食べ物をどのように食べてきたか（産物の入手・準備、調理法・調理技術、調理道具、食器、食具、供食：食卓構成・演出、食事習慣など）を、地域ごとに文献資料や統計資料、DVDを通して学び、世界の食文化に関する基礎知識を身につける。代表的な外国料理の調理実習や報告会での発表および意見交換を通して、時代とともに多面的に展開してきた世界の食文化についての理解を深め、多文化共生時代に必要な基礎知識を身につける。				ねらい 世界の人々が風土や歴史の中で、どのような食べ物をどのように食べてきたか（産物の入手・準備、調理法・調理技術、調理道具、食器、食具、供食、食卓構成、食事習慣など）を、地域ごとに文献資料や統計資料、映像資料を通して学修する。代表的な外国料理の調理実習をグループで行い、世界各国の料理によるビュッフェパーティーの計画・実施を通して、諸外国の多彩な食文化の特徴について理解を深める。報告会での発表や意見交換を通して、世界の多様な食文化について幅広い視点から理解し、多文化共生時代に必要な基礎知識を修得する。 到達目標 世界の多様な食文化について幅広い視点から理解する。 多文化共生時代に必要な食文化に関する基礎知識を修得する。			
教授方法	調理実習は3～5名のグループで行う。第11回～13回ではビュッフェパーティーの計画・実施をクラス全体で協力して行う。第14回には報告会とまとめを行う。						
履修条件	「調理学実習」、「調理学実習」および「食文化論」の履修を終えていること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、世界と日本の食文化について学ぶ。						
2	西ヨーロッパ、南ヨーロッパの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。実習準備。						
3	西ヨーロッパ、南ヨーロッパの代表的な料理の実習。						
4	北ヨーロッパ、東ヨーロッパの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。実習準備。						
5	北ヨーロッパ、東ヨーロッパの代表的な料理の実習。						
6	アメリカ、オセアニアの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。実習準備。						
7	アメリカ、オセアニアの代表的な料理の実習。						
8	東アジア、東南アジア、南アジアの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。実習準備。						
9	東アジア、東南アジア、南アジアの代表的な料理の実習。						
10	中央アジア・西アジア・アフリカの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。実習準備。						
11	ビュッフェ形式の食事の計画、グループ毎に取り組み外国料理の準備。						
12	ビュッフェ形式の食事会の準備、グループ毎に外国料理を試作・試食。						
13	ビュッフェ形式の食事会の実施、グループ毎に外国料理を調理・配膳・立食・片付け。						
14	世界の食文化についての報告会とまとめ。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
平常点（取り組み度）	40	実習への主体的な参加度合いに応じて評価する。		提出物	40	提出物の内容（課題を理解し、適切に表現しているか）に応じて評価する。	
プレゼンテーション	20	報告会でのプレゼンテーションの内容（課題を理解し、適切に説明しているか）に応じて評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習としては、毎回指定する課題（配布プリントや教科書等の関係する資料を確認する）に取り組む。 事後学習としては、授業で学んだ内容について教科書や配布プリントを使用して整理し、理解を深める。実習内容について調理過程や調理のポイントなどを実習記録用プリントにまとめる。				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問についても受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。			
教科書・テキスト	『日本の食文化 新版「和食」の継承と食育』江原絢子・石川尚子編著 アイ・ケイ コーポレーション 2016 ISBN：978-4-87492-343-6			受講生に望むこと	多様な食文化の特徴とその背後にあるものの見方・考え方について、各自がこれまでに見知ってきた知識や事例と比較し理解を深め、主体的に学んでほしい。		
参考書・参考資料等	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、適宜、印刷資料等を配布する。			その他・特記事項	食材費として6,000円を徴収します。		

授業科目		食ビジネス概論					
担当教員		田中 浩子		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
この科目では、外食・中食産業および卸売業、食品を扱う小売業を取り上げる。食品消費の変化や中食産業や小売業の発展の基礎となった「チェーンストア理論」を説明し、前半では、外食・中食産業の各業態の特徴、シェアやトップ企業の戦略について取り上げ、後半では食品を取り扱う小売業の業態特性、卸売市場と卸売業の役割、食品製造業と流通の関係を解説する。この科目を通じて日本の食ビジネスの第二次産業、第三次産業の全体像が把握できるようになる。				食品流通の変化が食生活にどのような影響を与えているかを理解する。流通に関する基本的な用語や役割・仕組みを理解し、商業統計などの資料を基に、各業態の動向を把握する。 食品・飲料製造業の役割や商品の市場占有率について理解する。			
教授方法		講義。随時ディスカッションを行う。					
履修条件		特になし					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	食市場の発展と食生活の変化 / チェーンストア理論						
2	外食産業 ファストフード・ファミリーレストラン						
3	外食産業 居酒屋・回転寿司・高価格業態						
4	外食産業 給食・定食屋						
5	中食産業 持ち帰り						
6	中食産業 宅配						
7	小売業 食品スーパーマーケットと総合スーパーマーケット						
8	小売業 コンビニエンスストア						
9	小売業 百貨店						
10	小売業 生活協同組合						
11	小売業 無店舗販売						
12	卸売市場・卸売業						
13	食品製造業						
14	飲料製造業						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	58	授業内容の理解度および、形式・書式。		小テスト	42	毎回の提出物を3点満点（14回）で採点する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎回指定された課題に取り組む。				質問は、授業中、授業の前後、メールでも受け付ける。授業のはじめに、前回の授業に対する質問や意見についてコメントする。			
教科書・テキスト	特に指定せず、毎回講義資料を配布する。			受講生に望むこと	自身の購買行動を客観的にとらえる習慣をつける。		
参考書・参考資料等	授業中に参考書および参考資料を紹介する。			その他・特記事項	総合成績60点以上の者に単位を与える。		

授業科目		基礎栄養学					
担当教員		白神 俊幸		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次		1年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生		食健康	関連資格		備考		
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>栄養の概論に始まり、食物の摂取（中枢制御、日内リズム）、消化・吸収と栄養素の体内動態（消化器系の構造・機能、栄養素の消化・吸収過程と調節、栄養素の体内動態、生物学的利用度）、たんぱく質の栄養（たんぱく質・アミノ酸の体内代謝、アミノ酸の臓器間輸送、たんぱく質の量と質の評価、他の栄養素との関係）、炭水化物の栄養（糖質の体内代謝、血糖調節、エネルギー源としての作用、他の栄養素との関係、食物繊維・難消化性糖質）について理解する。</p> <p>英語表記 「Basic Nutrition I」</p>				<p>ねらい          摂取された食物（食品）は消化を受けて吸収され、その後体内で代謝されて成長や生命・健康の維持に用いられている。本講義では、栄養の大まかな全体像を掴んだうえで、まずエネルギー産生（三大）栄養素のうちたんぱく質・糖質に関するこれら一連の過程について理解することを目標とする。</p> <p>到達目標          栄養の基本に始まり、エネルギー産生栄養素のたんぱく質と糖質の消化・吸収のメカニズム、食物繊維に関して説明できる。</p>			
教授方法		講義（毎回ランダムに質疑応答を実施） 小テストの実施後に、質疑応答による復習を実施する。					
履修条件		特になし。					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、栄養の概念						
2	栄養素と健康・疾患						
3	遺伝子と栄養						
4	空腹と食欲						
5	食事のリズムとタイミング						
6	消化器系の構造と機能						
7	消化・吸収過程と調節						
8	栄養素別の消化・吸収（たんぱく質、炭水化物）						
9	栄養素別の消化・吸収（脂質、ビタミン、ミネラル）						
10	栄養素の体内動態と生物学的利用度						
11	たんぱく質・アミノ酸の体内代謝とアミノ酸の臓器間輸送						
12	たんぱく質の質・量の評価、他の栄養素との関係						
13	糖質の体内代謝、臓器間輸送、血糖調節						
14	糖質のエネルギー源としての作用、他の栄養素との関係、食物繊維・難消化性糖質、まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。			小テスト	30	3回程度実施し、その合計を30点分とする。
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。				オフィスアワーは、別途指示する。			
教科書・テキスト	木戸康博・桑波田雅士・原田永勝 編 『栄養科学シリーズNEXT 基礎栄養学 第4版』 講談社サイエンティフィック			受講生に望むこと	食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学の内容と関連付けて考えること。		
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。			その他・特記事項	小テストは、必ずすべて受けておくこと。		

授業科目		基礎栄養学					
担当教員		白神 俊幸		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次		1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生		食健康	関連資格		備考		
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>基礎栄養学の後編としての位置づけである。脂質の栄養（脂質の体内代謝、臓器間輸送、貯蔵エネルギーとしての作用、コレステロール代謝、脂質の量と質の評価、他の栄養素との関係）、ビタミンの栄養（ビタミンの構造・機能、栄養学的機能、生物学的利用度、他の栄養素との関係）、ミネラル（無機質）の栄養（ミネラルの分類と栄養学的機能、生体機能の調節作用、生物学的利用度、他の栄養素との関係）、水・電解質の栄養学的意義（水分・電解質の出納、電解質代謝と栄養）、エネルギー代謝（概念、エネルギー消費量、臓器別エネルギー代謝、エネルギー代謝の測定法）、分子栄養学について理解する。</p> <p>英語表記 「Basic Nutrition II」</p>				<p>ねらい 本講義では、基礎栄養学 に続き、エネルギー産生栄養素の脂質のほか、各種ビタミンやミネラルの吸収・代謝および成長や生命・健康の維持との関わりについて理解するとともに、水分・電解質、エネルギー代謝、各種栄養素による遺伝子発現調節や遺伝子多型に起因する個人差等を考慮した栄養管理の重要性についても理解することを目標とする。</p> <p>到達目標 脂質の消化・吸収のメカニズム、各種ビタミンやミネラルの吸収・代謝・生理作用、水分・電解質調節、エネルギー代謝、遺伝子と栄養に関して説明できる。</p>			
教授方法		講義（毎回ランダムに質疑応答を実施） 小テストの実施後に、質疑応答による復習を実施する。					
履修条件		基礎栄養学 を修得済みであること。					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	脂質の体内代謝、臓器間輸送、貯蔵エネルギー源としての作用						
2	コレステロール代謝の調節、脂質の質・量の評価、他の栄養素との関係						
3	ビタミンの構造と機能（脂溶性ビタミン）						
4	ビタミンの構造と機能（水溶性ビタミン）						
5	ビタミンの栄養学的機能・生物学的利用度、他の栄養素との関係						
6	ミネラルの分類と栄養学的機能、硬組織とミネラル						
7	ミネラルの生体調節作用、酵素の賦活作用、鉄代謝、生物学的利用度、他の栄養素との関係						
8	水分・電解質の出納と代謝						
9	エネルギー代謝の概念、エネルギー消費量						
10	臓器別エネルギー代謝、エネルギー代謝の測定法						
11	分子栄養学（個人差と栄養）						
12	分子栄養学（生活習慣病と遺伝子多型）						
13	分子栄養学（栄養素による遺伝子発現調節）						
14	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。			小テスト	30	3回程度実施し、その合計を30点分とする。
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。				オフィシアワーは、別途指示する。			
教科書・テキスト	木戸康博・桑波田雅士・原田永勝 編 『栄養科学シリーズNEXT 基礎栄養学 第4版』 講談社サイエンティフィック			受講生に望むこと	食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学、人体機能（生理）学の内容と関連付けて考えること。		
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。			その他・特記事項	小テストは、必ずすべて受けておくこと。		

授業科目	基礎栄養学実験				
担当教員	白神 俊幸		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
<p>大きく3つのテーマに関して実施する。具体的には、遺伝子多型と体内栄養素代謝能の差異(アルコール代謝関連遺伝子を例に)、食事内容(たんぱく質の質と量)の違いによる尿中代謝マーカー(尿中尿素窒素および尿酸)排泄への影響、尿中塩分濃度測定による一日塩分摂取量の把握について、実験を通して日常の食生活・個人差と体内栄養素代謝との関わりを学修する。</p> <p>英語表記 「Experiments in Basic Nutrition」</p>			<p>ねらい 本実験では、遺伝子多型と体内代謝能の差異、たんぱく質の消化吸収後の体内代謝と尿中に排泄された窒素代謝産物の関係、尿中塩分量と一日塩分摂取量の関係、味覚の感受メカニズムと変化について理解することを目標とする。</p> <p>到達目標 遺伝子多型と体内代謝の関係、食事内容と尿中排泄物質の関係、味覚の感受メカニズムと変化について説明できる。</p>		
教授方法	実験 毎回実験前に説明を十分行い、意義と実施内容について理解度を確認する。 実験中も適宜質疑応答により、疑問点を解消する。				
履修条件	特になし。				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	オリエンテーション				
2	アルコール代謝関連遺伝子の遺伝子多型と体内代謝能の差異(内容把握、実験手法とステップの確認、実験準備)				
3	試料調整とPCR反応				
4	PCR増幅産物の確認(電気泳動、染色、画像撮影)				
5	試料調整と制限酵素消化反応				
6	電気泳動、染色、画像撮影				
7	データ解析と評価、まとめ				
8	食事中たんぱく質の質・量と尿中窒素代謝マーカーの評価(被検食の立案)				
9	実験手法とステップの確認、実験準備				
10	試料調整と測定				
11	評価とまとめ				
12	尿中塩分濃度測定による一日塩分摂取量の算出(内容把握、実験手法とステップの確認、被検食の立案)				
13	尿中塩分濃度測定と一日塩分摂取量の算出、データ解析と評価、まとめ				
14	味覚実験、総まとめ				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験(筆記)	40	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。	実験レポート	40	実施した実験に関するレポートの内容を評価する。
平常点	20	取り組み度を平常点として評価する。			
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
実験内容の理解を深めるために、毎回事前学習として実験書を読んで下調べをしておき、事後学習として各回の実施内容を整理し、実験レポート作成のための文献調査・情報収集などを行う。			オフィスアワーは、別途指示する。		
教科書・テキスト	実験書を配布する。		受講生に望むこと	興味をもって実験すること。 何が明らかになるのか予測しながら実験を行うこと。 出てきた結果から何が考えられるか、自分なりの考察をすること。	
参考書・参考資料等	特になし。		その他・特記事項	実験に関する手引きと実験書を熟読すること。	



授業科目		食事摂取基準					
担当教員	稲山 貴代			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>管理栄養士が個人および集団に対して栄養アセスメントや適切な栄養計画、食事計画を立てる際の科学的根拠となる食事摂取基準について学ぶ。その策定の背景や基礎的理論を学ぶとともに、各指標の科学的根拠を理解し、個人または集団を対象とした健康の保持・増進、生活習慣病の発症予防及び重症化予防のための食事改善における活用について学修する。</p>				<p>食事摂取基準の基礎的理論を説明できる。 科学的根拠に基づき、食事摂取基準（各論）を正しく理解し、説明できる。 食事摂取基準の活用について理解し、栄養マネジメントで活用できる。</p>			
教授方法	pptファイルの映写や板書を行いながら、教科書を活用して、講義形式で授業をすすめる。食事摂取基準の活用のためのワークシートを使った学習を取り入れる。						
履修条件	1年次の基礎栄養学を理解しておく。 事前学習では、授業の最後に、次の回での学習に必要な「事前学習のポイント」を提示するので、必要な学習をしておく。 事後学習では、毎回の授業開始時に提示する「学習のポイント」の習得に努める。 詳細は第1回授業で説明する。						
授 業 計 画							
実施回	授 業 内 容						
1	食事摂取基準策定の基礎的理論・総論（1）						
2	食事摂取基準の策定の基礎的理論・総論（2）						
3	食事摂取基準の策定の基礎的理論・総論（3）。小テスト1						
4	食事摂取基準の科学的根拠・各論：エネルギー						
5	エネルギーの測定と基礎代謝						
6	エネルギー摂取基準の活用と身体活動						
7	エネルギー必要量						
8	たんぱく質						
9	脂質						
10	炭水化物とエネルギー産生栄養素バランス。小テスト2						
11	脂溶性ビタミン・水溶性ビタミン						
12	多量ミネラル・微量ミネラル						
13	ビタミン・ミネラルの振り返り						
14	食事摂取基準の活用。総括						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	40	学習のねらい・目標（学習のポイント）が達成できているかについて評価する。 教科書ならびに講義ノートを参考に復習しておく。			小テスト	40	講義での学習のねらいの達成度の評価のため、中間に小試験を2回実施する。
ミニ課題（授業レポート）	20	随時、授業内で、授業ごとに提示する「学習目標」の理解度を確認するミニ課題を課す。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習では、授業の最後に、次の回での学習に必要な「事前学習のポイント」を提示するので、必要な学習をしておく。 事後学習では、毎回の授業開始時に提示する「学習のポイント」の習得に努める。 詳細は第1回授業で説明する。				授業終了後に対応します。あるいは、事前にメールでアポイントメントをとって研究室まで来てください。			
教科書・テキスト	『日本人の食事摂取基準 [2020年版]』伊藤・佐々木監修（第一出版）、ISBN：978-4-8041-1408-8			受講生に望むこと	1年次の基礎栄養学を理解しておく。		
参考書・参考資料等	参考書：基礎栄養学の指定教科書 必要に応じて資料を配付する。			その他・特記事項	本科目は、栄養管理の実践のための基礎科学を学ぶものである。 本科目は、応用栄養学、給食経営管理論、公衆栄養学での食事摂取基準の活用で展開される。		

授業科目		応用栄養学					
担当教員	福山 貴代			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>栄養管理の意義や、栄養ケア（PDCAマネジメントサイクル）を学修し、食事摂取基準の活用、ライフステージ別の栄養管理につなげて考えることを理解する。青年期、妊娠・授乳期、新生児期・乳児期をとりあげ、加齢（成長・発達）に伴い変化する人の特性（形態、生理、機能、精神）、ライフステージの変化に伴う環境やライフスタイルの変化について学修し、栄養アセスメントから、健康・栄養・生活・食生活の課題、栄養マネジメントについて理解する。</p>				<p>栄養マネジメントと栄養ケアのプロセス（PDCAサイクル）について説明できる。            ライフステージに応じた身体的・生理的特徴、ライフスタイルと食生活、健康課題（病態）・栄養課題について説明できる。            ライフステージに応じた個人や集団の栄養アセスメントを理解し、健康・栄養・食生活の課題・介入目標を設定し、評価できる。</p>			
教授方法	<p>主に、pptファイルの映写や板書を行いながら、教科書を活用して、講義形式で授業をすすめる。その前の回の授業で提示する「事前学習のポイント」の理解の確認を兼ね、講義の中でも質疑応答を積極的に行う。各ライフステージの「栄養管理プロセス」の回では、ワークシートや実践事例を用いたグループワークやグループディスカッションも取り入れる。</p>						
履修条件	2年次1学期の食事摂取基準の単位を取得しておくこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	栄養マネジメント（1）概要						
2	栄養マネジメント（2）栄養アセスメント						
3	栄養マネジメント（3）栄養計画						
4	栄養マネジメント（4）栄養ケアの実施と評価						
5	食事摂取基準における活用とPDCAサイクル。小テスト1						
6	加齢、成長・発達、老化						
7	成人期（青年期）の栄養管理（1）						
8	成人期（青年期）の栄養管理（2）。小テスト						
9	妊娠期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴、ライフスタイル、健康・栄養課題						
10	妊娠期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
11	授乳期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴、ライフスタイル、健康・栄養課題						
12	授乳期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
13	新生児期・乳児期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴、ライフスタイル、健康・栄養課題						
14	新生児期・乳児期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	40	学習のねらい・目標（学習のポイント）が達成できているかについて評価する。教科書ならびに講義ノートを参考に復習しておく。		小テスト	40	講義での学習のねらいの達成度の評価のため、中間に小試験を2回実施する。	
ミニ課題	20	随時、授業内で、授業ごとに提示する「学習目標」の理解度を確認するミニレポートを課す。詳細は第1回のオリエンテーションで説明する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習では、授業の最後に、次の回での学習に必要な「事前学習のポイント」を提示するので、必要な学習をしておく。事後学習では、毎回の授業開始時に提示する「学習のポイント」の習得に努める。詳細は第1回授業で説明する。				授業終了後に対応します。あるいは、事前にメールでアポイントメントをとって研究室まで来てください。			
教科書・テキスト	『ライフステージ栄養学』福山貴代・小林三智子編、建帛社、『日本人の食事摂取基準〔2020年版〕』伊藤・佐々木監修（第一出版）			受講生に望むこと	1年次の基礎栄養学、2年次1学期の食事摂取基準を理解しておくこと。		
参考書・参考資料等	基礎栄養学の指定教科書『栄養管理プロセス』木戸康博・中村丁次・小松龍史編、第一出版 必要に応じて資料を配付する。			その他・特記事項	本科目は、ライフステージ別の栄養管理の実践のための基礎となるものである。本科目の理解は、特に、栄養教育、公衆栄養学、ライフステージ別の臨床栄養管理の基礎となる。		

授業科目	応用栄養学						
担当教員	稲山 貴代			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバ <sup>®</sup> リング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>青年期、妊娠・授乳期、新生児期・乳児期をとりあげ、加齢（成長・発達、老化）に伴い変化する人の特性（形態、生理、機能、精神）、ライフステージの変化に伴う環境やライフスタイルの変化について学修し、栄養アセスメントから、健康・栄養・生活・食生活の課題、栄養マネジメントについて理解する。そのうえで、望ましい栄養状態・食生活の実現、生活の質（QOL）の向上を目指した栄養管理について総合的に考察する。</p>				<p>ライフステージに応じた身体的・生理的特徴、ライフスタイルと食生活、健康課題（病態）・栄養課題について説明できる。ライフステージに応じた個人や集団の栄養アセスメントを理解し、健康・栄養・食生活の課題・介入目標を設定し、評価できる。</p>			
教授方法	主に、pptファイルの映写や板書を行いながら、教科書を活用して、講義形式で授業をすすめる。その前の回の授業で提示する「事前学習のポイント」の理解の確認を兼ね、講義の中でも質疑応答を積極的に行う。各ライフステージの「栄養管理プロセス」の回では、ワークシートや実践事例を用いたグループワークやグループディスカッションも取り入れる。						
履修条件	2年次3学期の応用栄養学 の単位を取得しておくこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	応用栄養学 振り返り						
2	幼児期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴、ライフスタイル、健康・栄養課題						
3	幼児期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
4	学童期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴、ライフスタイル、健康・栄養課題						
5	学童期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
6	思春期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴、ライフスタイル、健康・栄養課題						
7	思春期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア。小テスト1						
8	成人期（中年期）の栄養管理（1）身体的・生理的特徴、ライフスタイル、健康・栄養課題						
9	成人期（中年期）の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
10	閉経期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴、ライフスタイル、健康・栄養課題						
11	閉経期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
12	小テスト2。高齢期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴、ライフスタイル						
13	高齢期の栄養管理（2）健康・栄養課題						
14	高齢期の栄養管理（3）栄養アセスメントと栄養ケア。総括						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	40	学習のねらい・目標（学習のポイント）が達成できているかについて評価する。教科書ならびに講義ノートを参考に復習しておく。			小テスト	40	講義での学習のねらいの達成度の評価のため、中間に小試験を2回実施する。
ミニ課題	20	随時、授業内で、授業ごとに提示する「学習目標」の理解度を確認するミニレポートを課す。詳細は第1回のオリエンテーションで説明する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習では、授業の最後に、次の回での学習に必要な「事前学習のポイント」を提示するので、必要な学習をしておく。事後学習では、毎回の授業開始時に提示する「学習のポイント」の習得に努める。詳細は第1回授業で説明する。				授業終了後に対応します。あるいは、事前にメールでアポイントメントをとって研究室まで来てください。			
教科書・テキスト	『ライフステージ栄養学』稲山貴代・小林三智子編、建帛社、『日本人の食事摂取基準〔2020年版〕』伊藤・佐々木監修（第一出版）			受講生に望むこと	1年次の基礎栄養学、2年次の食事摂取基準、応用栄養学 を理解しておくこと。		
参考書・参考資料等	基礎栄養学の指定教科書 『栄養管理プロセス』木戸康博・中村丁次・小松龍史編、第一出版 必要に応じて資料を配付する。			その他・特記事項	本科目は、ライフステージ別の栄養管理の実践のための基礎となるものである。本科目の理解は、特に、栄養教育、公衆栄養学、ライフステージ別の臨床栄養管理の基礎となる。		

授業科目		応用栄養学					
担当教員	稲山 貴代			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>ストレス、低温・高温環境などの特殊環境や身体活動などによって生じる人の身体特性（形態、生理、機能、精神）の変化や適応、それに伴う環境やライフスタイルの変化について学修し、栄養アセスメントから、健康・栄養・生活・食生活の課題、栄養マネジメントについて理解する。さらには、災害時、特別な配慮が必要な場合の身体特性や健康・栄養・生活・食生活の課題を学修し、栄養マネジメントについて理解する。</p>				<p>ストレス下、特殊環境下、身体活動に応じた身体的・生理的特徴の変化、ライフスタイルと食生活、健康課題（病態）・栄養課題について説明できる。ストレス下、特殊環境下、身体活動に応じた個人や集団の栄養アセスメントを理解し、健康・栄養・食生活の課題・介入目標を設定し、評価できる。災害時、特別な配慮が必要な場合に応じた身体的・生理的特徴の変化、健康課題（病態）・栄養課題、栄養アセスメントと介入について説明できる。</p>			
教授方法	<p>主に、pptファイルの映写や板書を行いながら、教科書を活用して、講義形式で授業をすすめる。その前の回の授業で提示する「事前学習のポイント」の理解の確認を兼ね、講義の中でも質疑応答を積極的に行う。各ライフステージの「栄養管理プロセス」の回では、ワークシートや実践事例を用いたグループワークやグループディスカッションも取り入れる。</p>						
履修条件	2年次の応用栄養学 ・ の単位を取得しておくこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	応用栄養学 ・ （栄養マネジメント）振り返り						
2	身体活動と栄養管理（1）身体活動における身体的・生理的变化						
3	身体活動と栄養管理（2）身体活動における身体的・生理的变化						
4	身体活動と栄養管理（3）身体活動と健康						
5	身体活動と栄養管理（4）栄養アセスメントと栄養ケア						
6	身体活動と栄養管理振り返り。小テスト1						
7	ストレス条件下における栄養管理、生体リズムと健康						
8	特殊条件下における栄養管理（1）高温環境下における身体的・生理的变化と健康障害、栄養ケア						
9	特殊条件下における栄養管理（2）低温環境下における身体的・生理的变化と健康障害、栄養ケア						
10	特殊条件下における栄養管理（3）高圧・低圧、宇宙環境下における身体的・生理的变化と健康障害、栄養ケア。小テスト2						
11	災害時の栄養管理（1）災害時における身体的・生理的变化、健康・栄養課題						
12	災害時の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
13	特別な配慮が必要な人への栄養管理						
14	応用栄養学総括						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	40	学習のねらい・目標（学習のポイント）が達成できているかについて評価する。教科書ならびに講義ノートを参考に復習しておく。		小テスト	40	講義での学習のねらいの達成度の評価のため、中間に小試験を2回実施する。	
ミニ課題	20	随時、授業内で、授業ごとに提示する「学習目標」の理解度を確認するミニレポートを課す。詳細は第1回のオリエンテーションで説明する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習では、授業の最後に、次の回での学習に必要な「事前学習のポイント」を提示するので、必要な学習をしておく。事後学習では、毎回の授業開始時に提示する「学習のポイント」の習得に努める。詳細は第1回授業で説明する。				授業終了後に対応します。あるいは、事前にメールでアポイントメントをとって研究室まで来てください。			
教科書・テキスト	2年次の応用栄養学 ・ で使用した教科書			受講生に望むこと	1年次の基礎栄養学、2年次の食事摂取基準、応用栄養学 ・ を理解しておくこと。		
参考書・参考資料等	基礎栄養学の指定教科書『栄養管理プロセス』木戸康博・中村丁次・小松龍史編、第一出版 必要に応じて資料を配付する。			その他・特記事項	本科目は、ライフステージ別の栄養管理の実践のための基礎となるものである。本科目の理解は、特に、栄養教育、公衆栄養学、ライフステージ別の臨床栄養管理の基礎となる。また、運動生理学と関連する。		

授業科目	応用栄養学実習					
担当教員	稲山 貴代		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	2・3学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>ライフステージ別の栄養改善について、実践的な栄養マネジメントに展開することをめざした科目である。</p> <p>提示された事例について、栄養アセスメントの項目の選定と方法、栄養・食生活課題の抽出と選定、栄養介入のための計画・立案を演習で学修する。計画に基づき、具体的な栄養計画・食事計画をたて、調理・供食し、評価する実習を行い、プロセスを学修する。さらに、栄養ケアプランを修正し、多領域の理解を促し連携を推進する文書作成、プレゼンテーションスキルを習得する。</p>			<p>ライフステージ別に提示された事例について、栄養マネジメントのプロセスにそって、栄養アセスメントから改善目標を選定し、栄養ケアプランをたてることができる。</p> <p>栄養介入の実践について、食事計画や調理（実践）、多領域との連携も含め説明できる。</p> <p>栄養ケアプランを評価し、次のプランの改善点について説明できる。</p>			
教授方法	<p>グループに分かれ、提示された課題について、PDCAサイクルにそって、演習、実習を行う。</p> <p>Plan：その課題に必要なアセスメントを考え、評価項目を設定し、栄養ケアプランを作成する。〔演習〕</p> <p>Do：献立と作業指示書を作成し、調理、供食を行う。〔実習〕</p> <p>Check・Action：評価を行い、その結果から栄養ケアプランを修正し、グループ発表する。〔演習〕</p>					
履修条件	応用栄養学・・・の単位が取得できていること					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	ライフステージ別の栄養管理プロセスについて（1）					
2	妊娠・授乳期の栄養マネジメント（1）：栄養アセスメントにもとづく栄養介入計画、栄養・食事計画（演習）					
3	妊娠・授乳期の栄養マネジメント（2）：栄養・食事計画に基づく調理・供食実習（実習）					
4	乳児期の栄養マネジメント（1）：栄養アセスメントにもとづく栄養介入計画、栄養・食事計画（演習）					
5	乳児期の栄養マネジメント（2）：栄養・食事計画に基づく調理・供食実習（実習）					
6	幼児期・学童期の栄養マネジメント（1）：栄養アセスメントにもとづく栄養介入計画、栄養・食事計画（演習）					
7	幼児期・学童期の栄養マネジメント（2）：栄養・食事計画に基づく調理・供食実習（実習）					
8	ライフステージ別の栄養管理プロセスについて（2）					
9	成人期の栄養マネジメント（1）：栄養アセスメントにもとづく栄養介入計画、栄養・食事計画（演習）					
10	成人期の栄養マネジメント（2）：栄養・食事計画に基づく調理・供食実習（実習）					
11	高齢期の栄養マネジメント（1）：栄養アセスメントにもとづく栄養介入計画、栄養・食事計画（演習）					
12	高齢期の栄養マネジメント（2）：栄養・食事計画に基づく調理・供食実習（実習）					
13	災害時の栄養マネジメント（演習・実習）					
14	ライフステージに応じた栄養マネジメント：総括					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
期末課題（レポート）	25	本実習の学修のねらいの達成度をみるために、レポート（総括）で評価する。詳細は第1回のオリエンテーションで説明する。	授業課題レポート	75	課題ごとの実習レポート、調理・供食評価票、授業の参加態度を総合して評価する。詳細は第1回のオリエンテーションで説明する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
<p>実習課題ごとに提示するので、必要な学習をしておく。</p> <p>実習後は、課題ごとに、レポートを提出する。そのさい、学修のねらいの達成度を自己評価する。詳細は第1回授業で説明する。</p>			<p>原則は、授業前後での対応、あるいは、事前にメールでアポイントメントをとっての対応ですが、課題については臨機応変にいたします。</p>			
教科書・テキスト	『三訂 応用栄養学実習』五関正江・小林三智子編著、建帛社		受講生に望むこと	<p>食事摂取基準、食事計画論、給食経営管理論、応用栄養学・・・を理解しておくこと。</p> <p>課題に取り組む時間が多くなるので、体調管理、スケジュール管理をしっかりと行うこと。</p>		
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配付する。		その他・特記事項	本科目は、ライフステージ別の栄養管理の実践のための科目である。		

授業科目	栄養教育論					
担当教員	新保 みさ・笠原 賀子		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義では、栄養や食に関する知識を学修するだけでなく、科学的根拠に基づいた栄養教育を実践するための栄養教育の定義や目的、行動科学の理論やモデルを学修する。</p> <p>さらに、栄養教育をマネジメントするために、栄養教育のアセスメント・計画・実施・評価の方法を栄養ケア・プロセスにおける栄養介入に基づいて学修する。</p>			<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教育の定義や目的、行動科学の理論やモデルの基礎的知識を学修する。</li> <li>・栄養教育のアセスメント・計画・実施・評価の方法を学修する。</li> </ul> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教育とはなにかを理解する。</li> <li>・行動科学の理論やモデルの基礎的知識を習得する。</li> <li>・栄養教育のアセスメント、計画、実施、評価の方法を理解する。</li> </ul>			
教授方法	講義。グループディスカッションを含む。					
履修条件	栄養教育論 の単位を取得していない者は、栄養教育論 を受講できない。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容					
1	オリエンテーション、栄養教育の概念（定義、目的・目標、対象と機会）					
2	栄養教育と行動科学（1）行動変容、刺激 - 反応理論					
3	栄養教育と行動科学（2）社会的認知理論、計画的行動理論					
4	栄養教育と行動科学（3）ソーシャルサポート、ヘルスビリーフモデル					
5	栄養教育と行動科学（4）トランスセオレティカルモデル、行動変容技法など					
6	栄養教育と行動科学（5）認知行動療法、動機づけ面接法					
7	栄養教育と行動科学（6）コミュニケーション理論、イノベーション普及理論など					
8	栄養教育と行動科学（7）グループダイナミクス、エンパワメントなど					
9	栄養教育マネジメント（1）栄養教育マネジメント					
10	栄養教育マネジメント（2）アセスメント・計画・実施・評価					
11	栄養教育マネジメント（3）教育の方法					
12	栄養教育と食環境整備					
13	栄養教育に関する生活指導					
14	まとめ					
<b>共通の評価基準</b>						
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているかを評価する。	小テスト	20	小テストを行い、授業内容を理解しているかを評価する。	
ポートフォリオ	20	授業レポートを評価する。	授業態度	10	主体的態度を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
小テストや定期試験に向けて授業内容の復習に取り組む。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。</li> </ul> <p>アドレス： 笠原賀子 (kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp)、 新保みさ (shimpo.misa@u-nagano.ac.jp)</p>			
教科書・テキスト	栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論第4版」笠原賀子、斎藤トシ子編（講談社）		受講生に望むこと	ディスカッションへ主体的に参加すること。		
参考書・参考資料等	適宜、指示・配布する。		その他・特記事項	栄養教育論、栄養教育論実習、栄養カウンセリングにおいてもテキストを継続して使用する。		

授業科目	栄養教育論					
担当教員	新保 みさ・笠原 賀子		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
生涯を通じた健康づくりには、ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育が必要である。対象者に応じた栄養教育を実施するために、各ライフステージ・ライフスタイル別の特徴を把握し、実践と結びつけながら栄養教育を行う際のポイントを学修する。さらに、栄養教育論で履修した行動科学の理論やモデルを、個人や集団の対象者に応じた栄養教育に活用する方法について理解する。			<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各ライフステージ・ライフスタイルの特徴を把握し、対象者に応じた栄養教育の実践に向けた基礎知識を学修する。</li> <li>対象者に応じた栄養教育に行動科学の理論やモデルを活用する方法を学修する。</li> </ul> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各ライフステージ・ライフスタイルの特徴を理解する。</li> <li>対象者に応じた栄養教育の内容や方法を選択できる。</li> <li>対象者に応じた栄養教育に行動科学の理論やモデルを活用できる。</li> </ul>			
教授方法	講義。グループディスカッションを含む。					
履修条件	栄養教育論 の単位を取得していない者は、栄養教育論 を受講できない。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	オリエンテーション					
2	栄養教育実施のための書き方、話し方、プレゼンテーション技術					
3	ライフステージごとの栄養教育の検討（1）					
4	ライフステージごとの栄養教育の検討（2）					
5	乳幼児期における栄養教育の実践例					
6	学童期における栄養教育の実践例					
7	障がい者に対する栄養教育の実践例					
8	傷病者に対する栄養教育の実践例					
9	高齢者に対する栄養教育の実践例					
10	栄養教育における教材の活用					
11	学校における食育の評価					
12	特定健康診査・特定保健指導における栄養教育					
13	味覚教育					
14	ライフステージごとの栄養教育の実践・まとめ					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
レポート	80	授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているかを評価する。	授業態度	20	主体的態度を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
レポートをまとめる。			<ul style="list-style-type: none"> <li>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>メールでの質問も受け付ける。</li> </ul> アドレス： 笠原賀子 (kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp)、 新保みさ (shimpo.misa@u-nagano.ac.jp)			
教科書・テキスト	栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論第4版」笠原賀子、斎藤トシ子編（講談社）		受講生に望むこと	ディスカッションへ主体的に参加すること。		
参考書・参考資料等	適宜、指示・配布する。		その他・特記事項	栄養教育論実習においてもテキストを継続して使用する。		

授業科目	栄養教育論実習					
担当教員	新保 みさ・笠原 賀子		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>栄養教育論、で得た知識をもとに、栄養教育プログラムの作成や対象者や場面に適した栄養教育のアセスメント、計画、実施、評価の実施を通して、栄養教育の実践力を養う。また、栄養アセスメントの結果のまとめ方に関する実習や栄養教育プログラムごとの教材作成を通して、栄養教育を実施するための総合的なスキルを習得する。</p>			<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教育における栄養アセスメントのスキルを養う。</li> <li>・栄養教育プログラムの計画、実施、評価を実施し、栄養教育の実践力を養う。</li> <li>・栄養教育を行うための総合的なスキルを養う。</li> </ul> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教育における栄養アセスメントを実践できる。</li> <li>・栄養教育プログラムの計画、実施、評価を実践できる。</li> <li>・栄養教育を行うための総合的なスキルを習得する。</li> </ul>			
教授方法	グループワーク、模擬実習					
履修条件	栄養教育論、栄養教育論の単位を取得していない者は、栄養教育論実習を受講できない。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	オリエンテーション、栄養教育における栄養アセスメント（食事調査の計画・実施・まとめ方）					
2	栄養教育における教材作成（食事調査結果のまとめ）					
3	効果的な教材作成の実践					
4	調理デモンストレーションの実践					
5	妊娠・授乳期、幼児期の栄養教育（1）栄養教育プログラムの計画、立案					
6	妊娠・授乳期、幼児期の栄養教育（2）指導案・教材作成					
7	妊娠・授乳期、幼児期の栄養教育（3）模擬実習					
8	学童期・思春期の栄養教育（1）栄養教育プログラムの計画、立案					
9	学童期・思春期の栄養教育（2）指導案・教材作成					
10	学童期・思春期の栄養教育（3）模擬実習					
11	成人期、高齢期の栄養教育（1）栄養教育プログラムの計画、立案					
12	成人期、高齢期の栄養教育（2）指導案・教材作成					
13	成人期、高齢期の栄養教育（3）模擬実習					
14	成人期、高齢期の栄養教育（4）模擬実習、まとめ					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
レポート	80	グループワークや模擬実習の内容とその成果（学んだことなど）を評価する。	授業態度	20	主体的態度、グループにおける貢献度を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートをまとめる。</li> <li>・模擬実習の準備をする。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。</li> </ul> <p>アドレス： 笠原賀子(kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp)、 新保みさ(shimpo.misa@u-nagano.ac.jp)</p>			
教科書・テキスト	栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論第4版」笠原賀子、斎藤トシ子編（講談社）		受講生に望むこと	ディスカッションへ主体的に参加すること。		
参考書・参考資料等	適宜、指示・配付する。		その他・特記事項	なし		



授業科目		栄養カウンセリング演習					
担当教員	笠原 賀子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>管理栄養士の職務は、「人」を対象として、人々が望ましい食行動や生活習慣へと自発的に変容することを支援し、協働して歩むものであり、修得した食に関する高度な専門的知識や技術を真に生かすためには、対象者と豊かなコミュニケーションを構築することが不可欠である。そのため、コーチングを中心とした基礎理論を学修しつつ、演習やロールプレイを通して、個々の対象者に応じた、きめ細かな対応ができる栄養指導スキルを身につける。さらに、職務を円滑に遂行するための多職種との連携に必要なコミュニケーション能力を高める。</p>				<p>ねらい 栄養教育・指導や他職種との連携等にコーチングを活用して、管理栄養士としてのスキルの向上を図りコミュニケーション能力を高める。</p> <p>到達目標 栄養教育・指導におけるコミュニケーションの大切さについて理解する。 栄養教育・指導を実施する際のコーチングのスキルについて理解する。 対象者に寄り添った栄養教育・指導ができるようになる。</p>			
教授方法	講義、演習、グループワークなど。基礎理論の修得とロールプレイを組み合わせて実施する。						
履修条件	栄養教育論 〃 の単位を修得していること。 総合教育科目群の「心理学」「コミュニケーション論」等を受講していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、自己の振り返りと気づき						
2	カウンセリング・コーチングの基本と環境設定						
3	基本的態度と傾聴						
4	基本的態度と傾聴						
5	質問のスキルとGROWモデル						
6	タイプ別コーチング						
7	提案と承認（自分の強み）						
8	承認（他者からの承認）						
9	栄養カウンセリング（コーチング等含む）の実践例						
10	栄養カウンセリング（コーチング等含む）の実践例						
11	実践演習						
12	実践演習						
13	実践演習						
14	リフレ ミングとまとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	30	授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているかについて評価する。		授業レポート	50	毎回の授業レポートについて評価する。	
主体的態度	20	主体的に授業に取り組んでいるかについて評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 シラバスにそって必ず予習をし、疑問点や不明な事項を把握して授業に臨む。</li> <li>事後学習 本時の学びを日常生活に活かすことを意識し、実践する。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>メールでの質問も受け付ける。</li> <li>アドレス： 笠原賀子(kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp)</li> </ul>			
教科書・テキスト	・栄養科学NEXTシリーズ「栄養教育論 第4版」笠原賀子、斎藤トシ子編（講談社サイエンティフィック）			受講生に望むこと	・予習・復習に積極的に臨むこと。 ・ロールプレイやディスカッションへ主体的に参加すること。		
参考書・参考資料等	・適宜、プリントを配布する			その他・特記事項	・毎回、グループ分けをしてロールプレイを実施するため、遅刻厳禁。 ・レポートは締切り厳守のこと。		

授業科目	臨床栄養管理学						
担当教員	白神 俊幸・川島 由起子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>臨床栄養学がなぜ大切なのか、どのような知識が必要なのか、臨床の現場で何が必要とされているのかなど、臨床栄養学を学ぶにあたっての心構えを学修する。総論として、臨床栄養の概念（意義と目的、医療・介護制度、医療・福祉・介護と臨床栄養）、傷病者・要介護者（要支援者）の栄養管理、栄養管理プロセス（栄養ケアプロセス）[栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養診断、栄養介入（栄養ケアプラン）、栄養・食事療法と栄養補給法、栄養教育、栄養カウンセリング]、モニタリングと（再）評価]、食事・栄養成分と医薬品の相互作用について理解する。</p> <p>川島は、大学病院における臨床栄養管理の実務経験を有しており、事例を挙げながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p> <p>英語表記 「Clinical Nutrition I」</p>				<p>ねらい 本講義では、臨床栄養学への導入に始まり、総論として、臨床栄養学の概念、傷病者・要介護者（要支援者）の栄養管理、栄養スクリーニング・アセスメント、栄養管理プロセス、食事・栄養成分と医薬品の相互作用について理解することを目標とする。</p> <p>到達目標 臨床栄養学の基本、傷病者・要介護者（要支援者）の栄養管理、栄養スクリーニング・アセスメント、栄養管理プロセス、食事・栄養成分と医薬品の相互作用について説明できる。</p>			
教授方法	講義（毎回ランダムに質疑応答を実施） 小テスト時には、直後に質疑応答による復習を実施する。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション（臨床栄養とは？～意義と目的～）（白神）						
2	医療・福祉・介護における臨床栄養と管理栄養士の役割（川島）						
3	医療制度・介護制度、診療報酬体系（川島）						
4	栄養スクリーニング、栄養アセスメント						
5	臨床検査値と栄養マーカーの読み方・考え方（白神）						
6	臨床兆候と栄養障害（白神）						
7	栄養補給法の選択、経口栄養法（川島）						
8	経腸栄養法、経静脈栄養法、モニタリング（川島）						
9	薬物の吸収・代謝・作用（白神）						
10	食事・栄養素と医薬品の相互作用（白神）						
11	傷病者・要介護者の栄養管理（川島）						
12	クリニカルパスと栄養管理プロセスの記録（川島）						
13	NSTと栄養サポート（川島）						
14	まとめ（白神）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。			小テスト	30	複数回実施し、その合計を30点分とする。
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。				オフィスアワーは、別途指示する。			
教科書・テキスト	竹谷豊・塚原丘美・桑波田雅士・坂上浩 編 『栄養科学シリーズ NEXT 新・臨床栄養学』 講談社サイエンティフィック			受講生に望むこと	食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学、基礎栄養学、人体機能（生理）学、生化学、応用栄養学等の内容と関連付けて考えること。		
参考書・参考資料等	適宜指示、または配布する。			その他・特記事項	小テストは、必ずすべて受けておくこと。 川島は、大学病院における臨床栄養管理の実務経験を有している。		

授業科目	臨床栄養管理学						
担当教員	白神 俊幸			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>疾患・病態別栄養管理の前編として、栄養・代謝・内分泌系疾患（栄養障害、肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症（痛風）、甲状腺・副甲状腺・副腎等の機能亢進症・低下症）、消化器系疾患（口腔、食道、胃・十二指腸、小腸、大腸、肝臓、胆のう、膵臓の各疾患）、循環器系疾患（高血圧、動脈硬化症、脳心血管疾患）について理解する。特に、成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法をそれぞれ関連付けて理解する。</p>				<p>ねらい 本講義では、各論の病態別栄養管理の前編として、栄養・代謝・内分泌系疾患、消化器系疾患、循環器系疾患について、それぞれ成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法を関連付けて理解することを目標とする。</p> <p>到達目標 各種疾患における成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法について説明できる。</p>			
教授方法	講義（毎回ランダムに質疑応答を実施） 小テスト時には、直後に質疑応答による復習を実施する。						
履修条件	臨床栄養管理学 を修得済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	栄養障害、ビタミン・ミネラルの欠乏と過剰、電解質異常						
2	肥満症、メタボリックシンドローム、糖尿病						
3	脂質異常症、高尿酸血症、痛風						
4	甲状腺、副甲状腺、副腎、下垂体の内分泌異常						
5	口内炎・舌炎、消化性潰瘍						
6	胃炎、胃食道逆流症						
7	胃切除後症候群						
8	炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）、たんぱく漏出性胃腸症						
9	下痢、便秘、過敏性腸症候群						
10	肝炎、肝硬変						
11	脂肪肝、アルコール性肝障害、非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）						
12	胆石症、胆のう炎、膵炎						
13	高血圧症、動脈硬化症、脳血管障害						
14	虚血性心疾患、心不全、妊娠高血圧症候群、まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。			小テスト	30	3回程度実施し、その合計を30点分とする。
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。				オフィスパワーは、別途指示する。			
教科書・テキスト	竹谷豊・塚原丘美・桑波田雅士・坂上浩 編 『栄養科学シリーズ NEXT 新・臨床栄養学』 講談社サイエンティフィック			受講生に望むこと	食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学、基礎栄養学、人体機能（生理）学、生化学、応用栄養学等の内容と関連付けて考えること。		
参考書・参考資料等	適宜指示、または配布する。			その他・特記事項	小テストは、必ずすべて受けておくこと。		

授業科目	臨床栄養管理学					
担当教員	白神 俊幸		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>疾患・病態別栄養管理の後編として、腎・尿路系疾患（腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、糖尿病性腎症、慢性腎臓病、透析）、精神・神経疾患（認知症、神経性食欲不振症・大食症等）、呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、喘息、肺炎）、血液系疾患（貧血等）、筋・骨格系疾患（骨粗鬆症、サルコペニア等）、免疫・アレルギー疾患（食物アレルギー、自己免疫疾患等）、癌・術前術後、クリティカルケア、摂食機能障害、ライフステージ別の疾患について理解する。特に、成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法をそれぞれ関連付けて理解する。</p>			<p>ねらい 本講義では、各論の病態別栄養管理の後編として、腎・尿路系疾患、精神・神経疾患、呼吸器疾患、血液系疾患、筋・骨格系疾患、免疫・アレルギー疾患、悪性腫瘍、術前・術後、クリティカルケア、ライフステージ別の疾患について、それぞれ成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法を関連付けて理解することを目標とする。</p> <p>到達目標 各種疾患における成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法について説明できる。</p>			
教授方法	講義（毎回ランダムに質疑応答を実施） 小テスト時には、直後に質疑応答による復習を実施する。					
履修条件	臨床栄養管理学 を修得済みであること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	急性・慢性糸球体腎炎					
2	ネフローゼ症候群					
3	急性・慢性腎不全					
4	糖尿病性腎症、慢性腎臓病（CKD）					
5	尿路結石、血液透析、腹膜透析					
6	精神・神経疾患					
7	呼吸器疾患、血液系疾患					
8	筋・骨格系疾患					
9	v免疫・アレルギー疾患					
10	悪性腫瘍、術前・術後、クリティカルケア、摂食機能障害					
11	乳幼児・小児疾患（消化不良症、周期性嘔吐症、先天性代謝異常症）					
12	乳幼児・小児疾患（肥満、糖尿病、腎疾患）					
13	妊産婦疾患					
14	老年症候群、まとめ					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。	小テスト	30	3回程度実施し、その合計を30点分とする。	
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。			オフィシアワーは、別途指示する。			
教科書・テキスト	竹谷豊・塚原丘美・桑波田雅士・坂上浩 編 『栄養科学シリーズ NEXT 新・臨床栄養学』 講談社サイエンティフィク		受講生に望むこと	食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学、基礎栄養学、人体機能（生理）学、生化学、応用栄養学等の内容と関連付けて考えること。		
参考書・参考資料等	適宜指示、または配布する。		その他・特記事項	小テストは、必ずすべて受けておくこと。		

授業科目	臨床栄養管理学実習						
担当教員	川島 由起子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
臨床栄養管理学、の基礎として、傷病者・要介護者(要支援者)に対する栄養管理を行うための栄養ケアプランに基づき、栄養介入に必要な栄養補給法、特に経口栄養法について理解する。モデル献立の調理実習を踏まえ、献立作成、作成献立の調理実習を通して、医療施設や介護施設で行われている知識や技術を習得する。				臨床栄養管理学、の基礎として、傷病者・要介護者(要支援者)に対する栄養管理を行うための栄養ケアプランに基づき、特に栄養介入で行う栄養補給法(経口栄養法)について理解する。			
教授方法	個人およびグループによる実習(調理実習含む)						
履修条件	臨床栄養管理学						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1回	授業オリエンテーション 栄養ケアの概要、栄養介入						
2回	調理実習 経口栄養法 一般治療食/形態別 : 常食・軟食・流動食 : モデル献立						
3回	献立作成 経口栄養法 一般治療食/常食・軟食・流動食 献立作成 6回 実施						
4回	調理実習 経口栄養法 特別治療食/IHP-調整食・塩分制限食 : モデル献立						
5回	献立作成 経口栄養法 特別治療食/IHP-調整食・塩分調整食 献立作成 9回実施						
6回	調理実習 経口栄養法 一般治療食/常食・軟食 : 第3回 学生作成献立						
7回	調理実習 経口栄養法 特別治療食/脂質調整食 : モデル献立						
8回	献立作成 経口栄養法 特別治療食/脂質調整食 献立作成 12回実施						
9回	調理実習 経口栄養法 特別治療食/IHP-調整食・塩分調整食 献立作成 : 第5回 学生作成献立						
10回	調理実習 経口栄養法 特別治療食/たんぱく質調整食・塩分調整食 : モデル献立						
11回	献立作成実習 経口栄養法 特別治療食/たんぱく質調整食・塩分調整食 14回実施						
12回	調理実習 経口栄養法 特別治療食/脂質調整食 : 第7回 学生作成献立						
13回	調理実習 経口栄養法/嚥下障害対応食						
14回	調理実習 経口栄養法 特別治療食/たんぱく質調整食・塩分調整食 : 第11回 学生作成献立						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習への取り組み	50	実習班内での取り組み(積極性、協調性等)、理解力			主体的態度	20	実習に主体的に取り組んでいるか否か
課題への取り組み	30	課題への理解、提出内容、提出時期、提出方法					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
各実習に沿った臨床栄養管理学 の理解、特に栄養療法について理解しておく				授業時間内および時間外での対応可能			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>第6巻臨床栄養管理学実習 傷病者の栄養管理プロセス演習/医歯薬出版</li> <li>糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編/日本糖尿病協会・文光堂</li> </ul>			受講生に望むこと	各実習内容に沿った病院食や食事療法を理解しておくこと		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食経営管理論実習/建邦社</li> <li>給食経営管理論1. で使用の教科書</li> </ul>			その他・特記事項	特になし		

授業科目	臨床栄養管理学実習					
担当教員	川島 由起子		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
臨床栄養管理実習 で習得した知識を踏まえ、臨床栄養管理学、 で対応する各種病態やライフステージ別の栄養管理を行うための栄養ケアプランに基づき、栄養補給法（経口栄養法・経腸栄養法）について理解する。モデル献立の調理実習、献立作成（展開食・食品交換表）、作成献立の調理実習を通して、医療施設や介護施設で行われている知識や技術を習得する。			臨床栄養管理実習 で習得した知識を踏まえ、臨床栄養管理学、 に対応する各種病態やライフステージ別の栄養管理を行うための栄養ケアプランに基づき、特に栄養介入で行う栄養補給法（経口栄養法、経腸栄養法）について理解する。			
教授方法	個人およびグループによる実習（調理実習含む）					
履修条件	臨床栄養管理学、					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	展開食 糖尿病食品交換表について理解する					
2	献立作成 代謝疾患 / 肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病の栄養管理 : エネルギー調整食の献立作成 ( 糖尿病食品交換表を使用 ) 5回 実施					
3	調理実習 消化器疾患					
4	調理実習 消化器疾患					
5	調理実習 糖尿病食品交換表を用いた献立 : 第2回 学生作成献立					
6	調理実習 循環器疾患					
7	献立作成 腎臓疾患 / 慢性腎不全 献立作成 12回 実施					
8	調理実習 腎臓疾患 / 慢性腎不全、透析療法 ( 血液透析、腹膜透析 )					
9	献立作成 腎臓疾患 / 糖尿病性腎症 12回 実施					
10	献立作成 アレルギー疾患 献立 13回 実施					
11	調理実習 血液疾患 / 貧血					
12	調理実習 腎臓疾患 / 慢性腎不全、糖尿病性腎症 献立 : 第7回 学生作成献立					
13	調理実習 アレルギー疾患 献立作成 : 第11回 学生作成献立					
14	調理実習 経口栄養法 / 嚥下障害対応食、経腸栄養製品					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習への取り組み	50	実習班内での取り組み方 ( 積極性、協調性 )		主体的態度	20	主体的に取り組んでいるか否か
課題への取り組み	30	課題への理解、提出内容、提出期日、提出方法				
授業外における学習 ( 事前・事後学習等 )				質問や相談への対応		
臨床栄養管理学、 を理解しておく				授業時間内および時間外		
教科書・テキスト	・臨床栄養学実習 傷病者の栄養管理プロセス 建帛社 ・糖尿病療養のための糖尿病食品交換表第7版 日本糖尿病学会編 日本糖尿病協会 文光堂			受講生に望むこと	各実習内容に沿った臨床栄養管理学、 の栄養療法を理解しておく	
参考書・参考資料等	給食経営管理論実習 建帛社			その他・特記事項	料理本を参考に、アレンジすることも可能	

授業科目	臨床栄養管理学演習						
担当教員	川島 由起子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
臨床栄養管理学、および臨床栄養管理実習、で習得した知識を踏まえ、医療施設で実施されている栄養管理を行うために必要な「栄養ケア・マネジメント」「栄養ケア・プロセス」の実際について理解する。各疾患の症例を題材として栄養アセスメント、栄養診断、栄養介入(計画と実施)、栄養モニタリング・評価、アウトカム管理システム、栄養食事指導の知識や技術を習得する。				臨床栄養管理学、および臨床栄養管理実習、で習得した知識を踏まえ、医療施設で行われる栄養管理を行うために必要な「栄養ケア・マネジメント」「栄養ケア・プロセス」の実際について理解する。			
教授方法	個人およびグループによる実習						
履修条件	臨床栄養管理学、						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業オリエンテーション 栄養ケア・マネジメント、栄養ケア・プロセスの概要						
2	フィジカルアセスメントの方法						
3	栄養診断、PES報告						
4	傷病者への栄養管理 / 肥満・代謝疾患栄養障害						
5	傷病者への栄養管理 / 栄養障害						
6	病者への栄養管理 / 消化器疾患						
7	傷病者への栄養管理 / 術前・術後						
8	傷病者への栄養管理 / 循環器疾患						
9	傷病者への栄養管理 / 腎臓疾患						
10	傷病者への栄養管理 / 老年症候群						
11	傷病者への栄養食事指導 / 個人指						
12	傷病者への栄養食事指導 / 個人指導						
13	傷病者への栄養食事指導 / 集団指導						
14	傷病者への栄養食事指導 / 集団指導						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
演習への取り組み	50	演習班内での取り組み(積極性、協調性)			主体的態度	20	演習に主体的に取り組んでいるか否か
課題への取り組み	30	課題に対する理解、提出内容、提出期日、提出方法					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
臨床栄養管理学、を理解しておく。				授業時間内および時間外			
教科書・テキスト	・臨床栄養学実習 傷病者の栄養管理プロセス ・糖尿病食事療法のための食品交換			受講生に望むこと	演習内容に沿った臨床栄養管理学、の栄養療法を理解しておく。		
参考書・参考資料等	各疾患のガイドライン(最新版) 臨床栄養学の教科書			その他・特記事項	栄養カウンセリング演習で学んだことを活かして行う		

授業科目		公衆栄養学					
担当教員	草間 かおる			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>国・地域レベルでの健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した栄養政策について理解する。地域や集団の健康・栄養問題の現状と課題の理解として、国民健康・栄養調査結果、食育に関する意識調査などから国民の健康状態、食生活、食環境について学修する。さらに健康・栄養問題解決の方向に向けた健康・栄養政策として、管理栄養士・栄養士制度、行政栄養士の役割、健康増進、食育および関連法規を理解する。担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>				<p>（ねらい） 人々の生活の場（地域、学校、国、地球）での食生活、特に栄養と健康との関わりについて、過去から現在に至るまでの状況の把握を行い、そこから抽出された健康・栄養問題やニーズの解決の方向に向けた取り組みとしての健康・栄養政策について学ぶ。“集団”に対する栄養マネジメント能力の基礎を習得する。 （到達目標） 公衆栄養学の意義と目的について説明できる。 日本や諸外国の健康・栄養問題について説明できる。 日本や諸外国の健康・栄養政策について説明できる。</p>			
教授方法	講義および小グループによる演習						
履修条件	特になし。						
授業計画							
実施回	授業内容						
第1回	オリエンテーション 公衆栄養学の概念						
第2回	健康・栄養問題の現状と課題（1） 国民健康・栄養調査結果						
第3回	健康・栄養問題の現状と課題（2） 健康状態の変化						
第4回	健康・栄養問題の現状と課題（3） 食事・食生活の変化						
第5回	健康・栄養問題の現状と課題（4） 食環境の変化						
第6回	健康・栄養問題の現状と課題（5） 世界が直面する健康・栄養問題						
第7回	健康づくり施策と公衆栄養活動（*） 日本の管理栄養士の最前線、米国登録栄養士事情						
第8回	健康づくり施策と公衆栄養活動（1） 公衆栄養活動の歴史、管理栄養士・栄養士制度						
第9回	健康づくり施策と公衆栄養活動（2） 地域保健法と地域における栄養・食生活の改善の基本指針						
第10回	健康づくり施策と公衆栄養活動（3） 食生活指針と食事バランスガイド						
第11回	健康づくり施策と公衆栄養活動（4） 食育基本法と食育推進基本計画						
第12回	健康づくり施策と公衆栄養活動（5） 健康増進法と健康増進計画						
第13回	健康づくり施策と公衆栄養活動（6） 生活習慣病対策と特定健康診査・特定保健指導						
第14回	健康づくり施策と公衆栄養活動（7） 世界の健康・栄養政策						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60%	科目の教育目標やねらいが達成できたかどうかを確認する。授業で用いた教科書、ノート等を復習しておく。			課題への取り組み	20%	提出期限、内容（丁寧に取り組んでいるか、分かりやすいか、論理的か）
主体的態度	20%						
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前に次回内容に該当するテキストの箇所を読んでくること。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。</li> </ul> アドレス：kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	社団法人全国栄養士養成施設協会・公益財団法人日本栄養士会監修、井上浩一、草間かおる、村山伸子著：サクセス管理栄養士講座 公衆栄養学。第一出版株式会社 2019			受講生に望むこと	積極的に課題やグループワークに取り組むこと。事前課題は必ず取り組んでくること。		
参考書・参考資料等	授業内で随時知らせる。			その他・特記事項	担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しております。		



授業科目	公衆栄養学					
担当教員	草間 かおる		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>地域社会の健康・栄養問題の解決に向けて、関係者や関係機関の横断的な連携・協働を促し、地域の状況に即した計画の立案、実践、評価、フィードバックを行うために必要な一連のマネジメントについて学修する。具体的には、地域診断、プログラムの課題抽出、目標設定、計画策定、事業計画作成、プログラムの実施、評価を学修する。また地域における健康・栄養活動の実践と展開として、母子保健、危機管理と食支援、食環境整備、介護予防支援についても学修する。担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>			<p>（ねらい） 地域社会の健康・栄養問題および関連要因の把握と分析を通じて、関係者や関係機関の横断的な連携・協働を促し、地域の状況に即した計画の立案、実践、評価、フィードバックを行うマネジメント能力を習得する。</p> <p>（到達目標） 公衆栄養マネジメントについて説明できる。 公衆栄養プログラム計画で目標設定ができる。 地域の健康・栄養活動の実践と展開について説明できる。</p>			
教授方法	講義および小グループによる演習					
履修条件	公衆栄養学 を履修した者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
第1回	オリエンテーション・地域における健康・栄養・食生活改善活動事例から学ぶ					
第2回	公衆栄養マネジメントとは					
第3回	公衆栄養マネジメント（1） アセスメント・地域診断					
第4回	公衆栄養マネジメント（2） プログラムの課題抽出					
第5回	公衆栄養マネジメント（3） プログラムの目標設定					
第6回	公衆栄養マネジメント（4） プログラムの計画策定					
第7回	公衆栄養マネジメント（5） プログラムの事業計画作成					
第8回	公衆栄養マネジメント（6） プログラムの実施					
第9回	公衆栄養マネジメント（7） プログラムの評価					
第10回	食事摂取基準の地域集団への活用					
第11回	地域における健康・栄養活動の実践と展開（1） 母子保健					
第12回	地域における健康・栄養活動の実践と展開（2） 危機管理と食支援					
第13回	地域における健康・栄養活動の実践と展開（3） 食環境整備					
第14回	地域における健康・栄養活動の実践と展開（4） 介護予防支援					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60%	科目の教育目標やねらいが達成できたかどうかを確認する。授業で用いた教科書、ノート等を復習しておく。		課題への取り組み	20%	提出期限、内容（丁寧に取り組んでいるか、分かりやすいか、論理的か）
主体的態度	20%					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
事前に次回内容に該当するテキストの箇所を読んでくること。				質問は授業中および授業前後に受け付ける。質問の回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。 kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp		
教科書・テキスト	公衆栄養学 に同じ。			受講生に望むこと	積極的に課題やグループワークに取り組むこと。事前課題は必ず取り組んでくること。	
参考書・参考資料等	授業において随時知らせます。			その他・特記事項	担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しております。	

授業科目		公衆栄養学実習					
担当教員	草間 かおる			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
公衆栄養学 および公衆栄養学 等において学んだことを基盤として、実践への展開（臨地実習）のための具体的な技能や姿勢を身に付ける。担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。				（ねらい） 公衆栄養学 および で学修したことを踏まえ、臨地実習（保健所）へのつながりを視野に入れて実習する。食事調査に関わる技能の修得と地域集団の評価を目的とした解析（食事摂取基準の活用を含む）、地域における健康・栄養に関する計画の立案などを中心に、グループ演習、発表（口頭、レポート）等を通して学修する。 （到達目標） 国民健康・栄養調査方式の食事調査（調査員として）を理解し、実際に行動することができる。 集団の食事摂取量データを適切に処理・解析することができる。 地域における健康・栄養活動計画が立てられる。			
教授方法	パソコン演習、グループ演習、口頭発表						
履修条件	食事調査法、栄養疫学、公衆栄養学 および を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	オリエンテーション 課題の確認						
第2回	食事調査の実際 (1) 食事記録のコード化トレーニング						
第3回	食事調査の実際 (2) 対象者への確認面接						
第4回	食事調査の実際 (3) パソコン入力と栄養価計算						
第5回	集団の摂取量データの処理・解析 (1) データのエラー確認、個人内変動と習慣的摂取量						
第6回	集団の摂取量データの処理・解析 (2) エネルギー調整						
第7回	集団の摂取量データの処理・解析 (3) 食事摂取基準による評価						
第8回	地域診断のための疫学調査の設計 (1) 地域診断						
第9回	地域診断のための疫学調査の設計 (2) プリント・プロシードモデルを用いた課題整理						
第10回	地域診断のための疫学調査の設計 (3) 調査計画立案						
第11回	質問紙調査法とデータ解析						
第12回	地域における健康・栄養活動の計画立案						
第13回	地域における健康・栄養活動の計画発表						
第14回	まとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題への取り組み	20%	提出期限、内容（丁寧に取り組んでいるか、分かりやすいか、論理的か）		主体的態度	20%		
口頭試問	60%	公衆栄養学分野に関しての設問に関して口頭で解答する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された課題をする。				質問は授業中および授業前後に受け付ける。質問の回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。 kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	実習の手引きを配布する。			受講生に望むこと	積極的に課題やグループワークに取り組むこと。事前課題は必ず取り組んでくること。		
参考書・参考資料等	授業において随時知らせます。			その他・特記事項	担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しております。		

授業科目		給食経営管理論					
担当教員	松崎 政三			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>特定給食施設の意義、特定給食における関連法規、特定給食施設の対象者別、経営形態別、規模や食事回数などの給食施設の特徴を理解し、給食施設の目標に沿った栄養・食事計画、栄養アセスメント、給与目標栄養量の設定などの計画立案と評価などの運営方法について学習する。さらにマーケティングの原理、会計・原価管理、献立作成と給食における作業工程、給食の事務管理、給食帳票の作成と利用、給食設備、機器の点検と管理、安全・衛生管理、食中毒予防、危機管理体制、リスクマネジメント、災害時の危機管理など特定給食施設の運営や計画から実施について学ぶ。</p>				<p>給食運営や給食の提供に関わる資源を総合的に判断し、評価して安全面、栄養面、経済面など全般的なマネジメントを行う実践能力を養い、特定給食施設の栄養・食事管理と経営管理を学ぶ。</p>			
教授方法	給食経営管理の教科書を中心に現場で実践している帳票を使い事例などを紹介して、現場に対応出来る実践的な知識を修得する。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1回	特定給食における関連法規、その他、業務に関連する法規、医療、保健、福祉、教育に関する法規について、給食施設と関係する監督官庁について解説する。						
2回	管理栄養士が活躍する場はどのような施設があるか調べる。給食の概念、保育所、学校、病院、高齢者福祉施設などの管理栄養士の役割と業務について解説する。						
3回	経営管理や給食施設におけるマネジメントピラミットの用語、給食管理の概念、給食の組織、フードサービスのシステムの管理をはじめとするフードサービスについて解説する。						
4回	マーケティングの原理、会計・原価管理に関する用語、人事・労務管理の目的と概念、従業員の多様化の対応、人事考課の仕組みなどの人事・労務管理について解説する。また、財務管理、損益分岐点などを用いた経営分析、原価管理を解説。マーケティングと給食サービスについて、						
5回	我が国の食生活の現状と国民健康調査などを参考に問題点をまとめ、栄養・食事計画、栄養アセスメント、給与栄養目標量の決定について解説する。						
6回	施設別の特定給食施設とその対象者の食生活や身体的特徴を理解し、特定給食施設の対象者別、経営形態別、規模や食事回数など栄養管理、給食の運営方法の違いについて解説する。						
7回	病院食の種類や自己負担金額などの病院給食の概要、医療法、入院時療養制度、栄養管理、調理・配膳作業、オーダリングシステムについて解説する。						
8回	福祉施設の種類と特徴、事業所の種類と対象者の特徴と栄養管理、給食の提供方法、給食の経営について解説する。						
9回	小学生の身体的特徴と食生活の現状と問題点、学校給食の位置づけ、給食形態や調理方式の種類、学校給食の運営と組織を解説する。						
10回	献立作成から食事提供に至るまでの作業工程について、喫食後の調査などの方法とそのポイントについて解説する。						
11回	事務管理の意義・目的を解説し、経営管理、人事・労務管理、栄養・食事管理、施設・設備管理、品質管理、安全・衛生管理、会計・原価管理などの事務処理を理解する。						
12回	施設・設備管理の目的、施設・設備に関する法規、施設・設備計画、点検、保守管理について解説する。						
13回	給食給食施設の安全・衛生管理の目的と方法、食中毒の予防対策について解説する。						
14回	危機管理体制、リスクマネジメント、災害時、食中毒発生時の対応について解説する。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
テスト	100	授業内容の理解度、目標達成度を評価する。		テスト	100	授業内容の理解度、目標達成度を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
シラバスに従い事前学習をする。				授業のはじめと終わりに質問時間を設ける。			
教科書・テキスト	Nブックス給食経営管理論 第5版 編著 松崎政三その他 建帛社 給食経営管理用語辞典 日本給食経営管理学会編 第一出版 日本人の食事摂取基準（2020年）の運用・実践 第一出版			受講生に望むこと	管理栄養士を目指す学生にとって実践的な授業となり、給食経営管理は栄養管理と並ぶ管理栄養士の業務の柱の1つです。前向きに取り組んでほしいと思います。		
参考書・参考資料等	映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス 編著 松崎政三 その他 学際企画			その他・特記事項	なし		

授業科目		給食経営管理論					
担当教員	松崎 政三			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>特定給食施設運営について、食事計画、食品構成と献立作成、食事摂取基準に基づき給与栄養量の算出、また、生産管理、大量調理の特性、生産工程における標準化と管理を学ぶ。衛生管理については、大量調理施設管理マニュアルに基づく安全、食中毒予防、発生時対応など給食施設における給食運営、計画、実施、評価まで学ぶ。</p>				<p>給食運営や資源、食品流通の状況を把握し、給食提供に関わる組織や経費を総合的に判断し、安全面、栄養面、経済面等全般的なマネジメントを行う実践的な能力を養う。本講義では生産管理、大量調理による食事計画・栄養管理・衛生管理を中心とした給食サービスのための基礎的な知識を学ぶ。</p>			
教授方法	給食経営管理の教科書を中心に現場で実践している帳票を使い事例などを紹介して、現場に対応出来る実践的な知識を修得する。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1回	食事計画（1）食事計画のための食品に関する基礎知識、食品の分類と食品成分表の構成と活用を学習する。						
2回	食事計画（2）食事計画のための食品に関する基礎知識、食品の分類と食品成分表の構成と活用を学習する。						
3回	栄養管理（1）栄養管理のための基礎知識、食事摂取基準と給与栄養量、施設の特徴と栄養管理の関係。食事摂取基準の考え方と活用方法、給与栄養量について解説する。						
4回	栄養管理（2）栄養管理のための基礎知識、食事摂取基準と給与栄養量、施設の特徴と栄養管理の関係。食事摂取基準の考え方と活用方法、給与栄養量について解説する。						
5回	献立立案（1）食品群別荷重平均栄養量の構成と活用について解説する。						
6回	献立立案（2）食品群別荷重平均成分表の構成と活用と、食品構成表への展開を解説する。						
7回	献立立案（3）集団給食施設における献立の種類、安全面、栄養面、経済面を考慮した献立作成の方法を解説する。						
8回	8献立立案（4）各様式料理、食事形態とその対象者の特性、集団給食施設の行事食や食文化を考慮した配食サービスについて解説する。						
9回	給食の生産管理（1）食材管理、食材流通と購買管理、食品の流通を学習する。食材管理の流れである、発注・検収・保管管理のマネジメントについて解説する。						
10回	給食の生産管理（2）食材管理、食材流通と購買管理、食品の流通を学習する。食材管理の流れである、発注・検収・保管管理のマネジメントについて解説する。						
11回	給食の生産管理（3）生産管理、生産工程における標準化と管理、給食サービスにおける生産工程について学習する。生産管理の目標、生産時間・生産能力・調理技術・衛生管理等を考慮した生産管理における標準化について解説する。						
12回	衛生管理（1）食中毒の予防と発生時の対応について学習する。授業では食中毒の発生から終息までの対応、施設内の体制、保健所への届け出、事故時の食事対応について解説する。						
13回	衛生管理（2）HACCPに基づく衛生管理について学習する。						
14回	衛生管理（3）HACCPに基づく衛生管理について学内給食施設の見学により実践的に学習する。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
テスト	100	授業内容の理解度、目標達成度を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
シラバスに従い事前学習を行う				授業のはじめと終わりに質問時間を設ける			
教科書・テキスト	Nブックス給食経営管理論 第5版 編著 松崎政三他 建帛社 給食経営管理用語辞典 日本給食経営管理学会編 第一出版 日本人の食事摂取基準（2020年）の実践・運用 第一出版			受講生に望むこと	管理栄養士を目指す学生にとって実践的な授業となり、給食経営管理は栄養管理と並ぶ管理栄養士の業務の1つの柱です。前向きに取り組んでほしいと思います。		
参考書・参考資料等	映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス 編著 松崎政三 その他 学際企画			その他・特記事項	なし		

授業科目		食事設計論					
担当教員	上延 麻耶			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
<b>授業の概要</b>				<b>授業目標（ねらい・到達目標）</b>			
<p>年齢、性別、身体および栄養状態の異なる個人や集団を対象に、目的に応じて適切な食事設計を行い、管理栄養士の関わる給食経営において、食事設計に必要な事項を専門的に深め、実践することを目的とする。食事設計の目的、給与栄養目標量の設定、食品構成表、献立表、作業指示書の作成、食事の提供および食事環境の整備、評価の具体的方法、食事摂取基準および食品成分表の活用方法を学修する。</p>				<p>ねらい            事摂取基準、食品成分表の活用方法、食事設計の目的、給与栄養目標量の設定、食品構成表・献立表の作成など基礎的な知識と技術を修得し、個々に応じた適切な食事設計ができる力を養う。また、計画に基づき実施、評価・検討するために必要な基本的事項を理解し、実践につなげる力を養う。</p> <p>到達目標            給与栄養目標量、喫食者の嗜好等をふまえ、給食の条件に応じた食品構成の立案、献立の作成ができる。            対象者の栄養評価に基づいた食事管理の目標について説明できる。            食事摂取基準を活用して、個人および特定給食施設の給与栄養目標量を決定する方法を説明できる。            食環境整備における給食の意義とその機能を説明し、具体的な方法を説明できる。            ライフステージ別（給食施設別）の食事計画や具体的な調理特性を概説できる。</p>			
教授方法	教科書および配布資料を用いて講義形式で行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	食事設計の目的						
2	食事摂取基準の活用による個人を対象とした栄養計画						
3	食事摂取基準の活用による個人を対象とした栄養計画						
4	食事摂取基準の活用による個人を対象とした栄養計画						
5	食事摂取基準の活用による集団を対象とした栄養・食事計画						
6	食事摂取基準の活用による集団を対象とした栄養・食事計画						
7	食事摂取基準の活用による集団を対象とした栄養・食事計画						
8	食事設計における食品構成の役割と作成方法						
9	食事設計における食品構成の役割と作成方法						
10	献立作成の実際						
11	献立作成の実際						
12	献立作成の実際 食事設計の評価						
13	対象者のライフステージ、特定給食施設の種類に応じた食事設計						
14	対象者のライフステージ、特定給食施設の種類に応じた食事設計						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	基礎知識の理解度に応じて評価する。			小テスト	20	基礎知識の理解度に応じて評価する。
授業レポート	10	課題に沿って内容がまとめられているか、内容を正確に理解しているかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された課題に取り組む。				質問は講義の前後や講義中に受け付ける。 授業のはじめに、前時の講義内容に関する質問や意見に対するコメントをする。			
教科書・テキスト	給食経営管理論実習、石田裕実他、建帛社、2018 給食経営管理論 ・ で使用した教科書			受講生に望むこと	分からない点や疑問点は授業毎に解決する。		
参考書・参考資料等	調理のためのベーシックデータ第5版、松本 伸子、女子栄養大学出版部、2018 給食経営管理論 ・ で使用した参考書			その他・特記事項	特になし		

授業科目		給食経営管理実習					
担当教員	上延 麻耶			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1・2学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
<b>授業の概要</b>				<b>授業目標（ねらい・到達目標）</b>			
<p>PDCAサイクルに基づく給食の全体業務を理解し、給食経営を総合的にマネジメントできる基本的知識と技術を獲得する。給食経営管理論・その他各分野で学習した理論を応用し、給食の計画・実施・評価に至る一切の業務を学生が主体的に実践する。グループは調理、配膳、食堂、洗浄班に分かれ、給食のテーマに基づき班ごとに給食を計画し、調理班の給食計画に基づき、給食を生産、喫食、評価する。</p>				<p>ねらい 給食経営管理論・その他各分野で学習した理論を応用し、給食の計画・実施・評価に至る一連の業務を学生が主体的に実践することにより、PDCAサイクルに基づく給食経営の全体業務を理解する。また、給食施設のレイアウト、大量調理機器の特徴や扱い方、大量調理や衛生管理の手法を理解し、安全・衛生的に給食を実施できる技術を体得する。</p> <p>到達目標 「給食の運営」の評価のために必要なデータ収集と帳票の作成ができる。 献立と食数に応じた食材料の発注・購入・検収・保管ができる。 給与栄養目標量、喫食者の嗜好等をふまえ、給食の条件（設備、食材料費、調理従事者の技術と人数）に応じた食品構成の立案、期間献立の作成ができる。 摂取量を把握し、食事計画の改善案を作成できる。 衛生管理の方法を理解し、実施とその記録（帳票管理）が作成できる。 設備条件および献立に応じた重要管理点（critical control point; CCP）の設定と管理ができる。 定められた作業区域・時間・作業人員内で献立内容と食数（100食以上）に応じた調理作業を計画できる。 生産および提供サービスにおける品質管理ができる。 給食施設の種類の給食経営管理の特徴を理解し、運営計画を立てることができる。 給食施設の種類の栄養管理の特徴を理解し、食事提供ができる。</p>			
教授方法	実習形式で実施する。グループに分かれ、給食の対象者・テーマに応じた給食計画を立案し、学内給食施設において生産、喫食、評価を行う。実習は、同学期に開講する食事設計論の講義と連動させて進行する。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	栄養・献立計画						
3	栄養・献立計画						
4	栄養・献立計画 試作						
5	栄養・献立計画 献立決定、献立表、作業工程表、帳票・資料類の作成						
6	給食の生産、提供サービス 評価、検討、次回の打ち合わせ						
7	給食の生産、提供サービス 評価、検討、次回の打ち合わせ						
8	給食の生産、提供サービス 評価、検討、次回の打ち合わせ						
9	栄養・献立計画、帳票類の作成						
10	計画に基づく給食の生産・提供サービス 評価・検討、次回の打ち合わせ						
11	計画に基づく給食の生産・提供サービス 評価・検討、次回の打ち合わせ						
12	計画に基づく給食の生産・提供 評価・検討、次回の打ち合わせ						
13	計画に基づく給食の生産・提供 評価・検討、次回の打ち合わせ						
14	まとめ・報告会						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習態度	60	実習への参加態度、取組む姿勢を評価する。			上記以外の授業評価	40	実習記録（帳票類）等について評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
帳票類の記録、資料作成				実習のおわりに、前時および当日の実習内容に関する質問や意見を受け付ける。			
教科書・テキスト	給食経営管理論実習、石田裕実他、建帛社、2018			受講生に望むこと	給食経営管理論・の内容を復習しておく。各人が責任を持って主体的に取り組む。		

参考書・ 参考資料等	給食経営管理用語辞典 第2版, 日本給食経営管理学会編, 第一出版, 2015 調理のためのベーシックデータ第5版, 松本 仲子, 女子栄養大学出版部, 2018 給食経営管理論 ・ で使用した教科書および参考書	その他・ 特記事項	特になし
---------------	--	--------------	------

授業科目		給食経営管理実習					
担当教員	上延 麻耶			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
給食経営管理に関わる一連の業務を学生が主体的に実践することにより、PDCAサイクルに基づく給食経営の総合的マネジメント能力と技術を体得する。給食経営管理論実習において獲得した基本的知識と技術を応用し、テーマに基づきグループごとに給食計画を立案する。調理班を中心に給食を生産し、実際に学内の教職員や学生を対象に提供サービス業務を行う。また、喫食者に対して給食を媒体とした栄養教育発表を行う。給食利用者からの評価をもとに、喫食者の満足のいく給食のあり方、給食サービスの方法について考察する。				ねらい 設定した各々の施設ごとの給食をPDCAサイクルに基づき提供し、対象者の特性を理解した給食の提供について、高度な実践力と、臨機応変に対応できる応用力を涵養する。 到達目標 定められた作業区域・時間・作業人員内で献立内容と食数（100食以上）に応じた調理作業を計画し実施できる。 モデル施設の対象集団および経営資源に合わせた給食の計画、生産・提供、評価（判定）のサイクルを一巡することができる。 顧客管理（サービスと情報提供）ができる。 給食施設の想定条件に応じて、給食の目的、目標を理解するためにマーケティングの手法を用いた分析、給食運営に関わる費用分析ができる。 基本食から目的に応じた献立展開ができ、複数の食種の生産管理と品質管理の計画ができる。			
教授方法	実習形式で実施する。グループに分かれ、給食の対象者・テーマに応じた給食計画を立案し、学内給食施設において給食を生産し提供する。						
履修条件	給食経営管理実習 を履修済であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 栄養・献立計画						
2	栄養・献立計画						
3	試作						
4	予定献立の決定と資料作成						
5	計画に基づく給食の生産、提供サービス、嗜好調査集計、会計管理、実習の評価・検討、次回実習内容の確認						
6	計画に基づく給食の生産、提供サービス、嗜好調査集計、会計管理、実習の評価・検討、次回実習内容の確認						
7	計画に基づく給食の生産、提供サービス、嗜好調査集計、会計管理、実習の評価・検討、次回実習内容の確認						
8	計画に基づく給食の生産、提供サービス、嗜好調査集計、会計管理、実習の評価・検討、次回実習内容の確認						
9	生産、提供サービス ~ のまとめ ~ の計画と打ち合わせ						
10	計画に基づく給食の生産、提供サービス、嗜好調査集計、会計管理、実習の評価・検討、次回実習内容の確認						
11	計画に基づく給食の生産、提供サービス、嗜好調査集計、会計管理、実習の評価・検討、次回実習内容の確認						
12	計画に基づく給食の生産、提供サービス、嗜好調査集計、会計管理、実習の評価・検討、次回実習内容の確認						
13	計画に基づく給食の生産、提供サービス、嗜好調査集計、会計管理、実習の評価・検討、次回実習内容の確認						
14	報告会						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習態度	60%	実習態度、取り組み状況を評価する。			授業レポート	40%	帳票類、課題の内容と提出状況を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
帳票類の記録、資料作成				実習のおわりに、前時および当日の実習内容に関する質問や意見を受けつける。			
教科書・テキスト	給食経営管理論実習、石田裕実他、建帛社、2018			受講生に望むこと	各人が責任を持って主体的に取り組む。		
参考書・参考資料等	給食経営管理用語辞典 第2版、日本給食経営管理学会編、第一出版、2015 調理のためのベーシックデータ第5版、松本 伸子、女子栄養大学出版部、2018 給食経営管理論 で使用した教科書および参考書			その他・特記事項	特になし		



授業科目	臨地実習事前事後指導				
担当教員	上延 麻耶・白神 俊幸・川島 由起子・草間 かおる	必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2・3・4年	開講学期	4 学期	授業形態	演習
対象学生	食健康	関連資格		備考	科目ナバリング
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）		
<p>給食経営管理論、臨床栄養学、公衆栄養学及び食育の各分野における臨地実習を行うにあたり、実習前は、実習の心構えを理解し、社会人として適切な身だしなみや礼儀等を身に付け、各実習の目的・目標を達成するために必要な事前学習や課題検討を行う。また、実習後には目的・目標が達成されたかどうかの確認を行い、実習報告会の開催により、管理栄養士の役割と現場に必要な知識・技術に関する総合的な理解を深める。</p> <p>担当の川島は、大学病院における臨床栄養管理の実務経験を有しており、事例を挙げながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p> <p>担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>			<p>ねらい 実践活動の場を通して、給食経営に関連する様々な資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面等全般のマネジメントを行う能力（給食経営管理論）、疾病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理を行うための能力（臨床栄養学）、地域や職場等における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力（公衆栄養学）を養う臨地実習に対して、積極的に取り組むことができるように、実習前の準備と課題検討、実習後のまとめを行う。</p> <p>到達目標 管理栄養士の使命や役割、協働する関連職種との関わりを説明できる。 協働する関連職種を例挙し、それぞれの役割を説明できる。 対象者の基本的権利、インフォームド・コンセント、個人情報の保護（守秘義務）について説明できる。 対象者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を説明できる。 社会人として適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀について実践できる。</p>		

教授方法	講義、演習
履修条件	別途、説明する

授 業 計 画	
実施回	授業内容
1	ガイダンス
2	臨地実習（学校給食センター）・臨地実習（給食施設）における事前指導
3	臨地実習（学校給食センター）・臨地実習（給食施設）の実習施設の指導者による事前指導
4	臨地実習（病院）・臨地実習（福祉施設）における事前指導
5	臨地実習（病院）・臨地実習（福祉施設）の実習施設の指導者による事前指導
6	臨地実習（保健所）・臨地実習（保健所）・臨地実習（保育所・特別支援学校）における事前指導
7	臨地実習（保健所）・臨地実習（保健所）・臨地実習（保育所・特別支援学校）の実習施設の指導者による事前指導
8	臨地実習（学校給食センター）・臨地実習（給食施設）における事後指導
9	臨地実習（学校給食センター）・臨地実習（給食施設）の報告会
10	臨地実習（病院）・臨地実習（福祉施設）における事後指導
11	臨地実習（病院）・臨地実習（福祉施設）の報告会
12	臨地実習（保健所）・臨地実習（保健所）・臨地実習（保育所・特別支援学校）における事後指導
13	臨地実習（保健所）・臨地実習（保健所）・臨地実習（保育所・特別支援学校）の報告会
14	次年度生への伝達講習

共通の評価基準	

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業レポート	60%	事前および事後の課題提出物を合わせて評価する。また、その他の評価と合計し、60点以上を合格とする。	上記以外の授業評価	40%	授業への取り組み度（20%）、発表・討論（20%）

授業外における学習（事前・事後学習等）		質問や相談への対応	
実習課題に取り組む。		授業中や授業前後に質問や意見を受け付ける。	
教科書・テキスト	適宜資料を配布する。	受講生に望むこと	主体的に取り組むこと。
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する。	その他・特記事項	オムニバス方式・共同（一部） 担当の川島は、大学病院における臨床栄養管理の実務経験を有しております。 担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しております。

授業科目	臨地実習（学校給食センター）						
担当教員	上延 麻耶			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>学校給食センターにおいて、栄養食事管理、食材管理、生産管理、衛生管理、施設・設備管理、原価管理、事務管理等の給食経営管理に関わる実務の実際を体験し学修する。また、組織管理等マネジメントの基本的な考え方や方法、給食従事者の役割やコミュニケーションの取り方などを学修するとともに、給食の関連資源を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントする能力を養う。</p>				<p>ねらい：給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントする能力を養う。また、マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。</p> <p>到達目標  管理栄養士の使命や役割、協働する関連職種との関わりを説明できる。  協働する関連職種を例挙し、それぞれの役割を説明できる。  社会人として適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀について、実践できる。  HACCP システム等に基づく大量調理の理論と実際に食事が提供されるまでの一連のプロセスを理解できる。  業務日誌、報告書作成等の基本事項を理解し、作成できる。  学校における食育の一環としての給食の意義、目的等を説明できる。  子どもの発育段階に応じた栄養介入のための献立作成ができる。</p>			
教授方法	学校給食センターにおいて、グループごとに実習を行う。						
履修条件	給食経営管理論 ・ 、給食経営管理実習 ・ 、食事設計論、食事摂取基準の単位を修得していること（一部見込み含む）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	実習施設の概要						
3	実習課題の計画						
4	実習施設での課題への取り組み1						
5	実習施設での課題への取り組み2						
6	実習施設での課題への取り組み3						
7	実習施設での課題への取り組み4						
8	実習施設での課題への取り組み5						
9	実習施設での課題への取り組み6						
10	実習施設での課題への取り組み7						
11	実習施設での課題への取り組み8						
12	まとめ・自己評価						
13	実習報告会1						
14	実習報告会2						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	30%	実習先および実習課題に関する事前学習（15%）、実習の事後学習（15%）		上記以外の授業評価	70%	実習先からの評価（30%）、巡回指導教員からの評価（20%）、報告会での発表・討論（20%）	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された課題に取り組む。				実習事前事後指導の時間に質問や意見を受けつける。			
教科書・テキスト	適宜資料を配布する。			受講生に望むこと	主体的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	臨地実習（病院）						
担当教員	川島 由起子・白神 俊幸			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>医療施設において管理栄養士等の指導・監督のもと、医療における栄養ケア・マネジメントを理解し、症例検討をとおして、栄養ケアに関わる知識・技術を体験することにより、医療現場の管理栄養士の専門性を学ぶ。また、NSTや褥瘡回診、カフアルシ等に参加し、多職種とのコミュニケーションや他職種連携による栄養ケアについて理解する。</p>				<p>臨床現場における管理栄養士の業務を観察・体験することにより、医療における栄養ケア・マネジメントを理解し、管理栄養士の役割および対象者に適した栄養管理の意義や方法を学ぶ。現場の業務を一つのシステムとして理解し、栄養管理と給食管理の相互関係、各種疾患の食事療法、栄養補給法、栄養・食品と薬剤の相互作用、栄養食事指導等の方法を学習し、それぞれの業務が果たす役割と機能を理解する。</p>			
教授方法	医療施設における管理栄養士等による講義・実践						
履修条件	臨床栄養学、給食経営管理論、栄養教育論						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	医療施設の概要 現場における基本的な態度 実習内容の説明等						
2	医療施設における管理栄養士その他スタッフの役割について解説						
3	他職種連携、チーム医療について解説						
4	給食管理の実際						
5	給食管理の実際						
6	給食管理の実際						
7	給食管理の実際						
8	給食管理の実際						
9	栄養管理の実際						
10	栄養管理の実際						
11	栄養管理の実際						
12	栄養管理の実際						
13	栄養管理の実際						
14	栄養管理の実際						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習の出席状況	80	医療施設管理栄養士による評価			実習への取り組み	10	医療施設管理栄養士による評価
臨地実習ノート	10	自己評価も含め総合的に評価する					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
臨床栄養学、給食経営管理論、栄養教育論、事前・事後指導				臨地実習ノートに記載の大学担当者の連絡先で対応			
教科書・テキスト	臨床栄養学、給食経営管理論、栄養教育論関連の教科書 臨地実習ノート			受講生に望むこと	医療現場における栄養管理と給食管理の相互関係の実際を観察・体験し、その連携方法等について理解すること		
参考書・参考資料等	施設からの配布資料等			その他・特記事項	実習期間が長いので体調管理に十分注意すること		

授業科目	臨地実習（保健所）					
担当教員	草間 かおる		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	2・3学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
保健所または保健センターなどにおいて、地域におけるQOLの向上や健康状態の改善を考えた公衆栄養活動や栄養改善事業を理解し、管理栄養士の役割および業務について実習する。また、栄養・食生活情報を収集・分析し、総合的な評価・判定について学ぶ。担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。			県内の保健所等において、講義、演習などを通じ、1)地域における健康・栄養問題の現状、2)衛生行政組織と業務の概要、3)管理栄養士業務の概要、栄養関連法令(法的根拠)、4)地域保健における栄養・食生活支援体制の整備等について学修する。			
教授方法	各実習施設において講義、見学、演習等を行う。					
履修条件	公衆栄養学、公衆栄養学実習、食事調査法、社会福祉学、公衆衛生学、公衆衛生学実習、栄養疫学を履修した者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
第1回	組織体制・管内の現況					
第2回	公衆衛生行政の概要（保健所、保健センターの役割）					
第3回	管理栄養士の業務の概要、関連法規					
第4回	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（1） 地域における実態把握、分析、課題の明確化					
第5回	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（2） 課題の解決に向けた計画の立案・施策化					
第6回	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（3） 政策を評価するための目標設定・評価の実施					
第7回	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（1） 専門的な栄養指導、食生活支援					
第8回	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（2） 食生活改善推進員等に係るボランティア組織の育成や活動の支援					
第9回	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（3） 関係機関および団体との連例					
第10回	食を通じた社会環境の整備（1） 特定給食施設における栄養管理状況の把握および評価に基づく指導・支援					
第11回	食を通じた社会環境の整備（2） 飲食店におけるヘルシーメニューの提供等の促進（食環境整備）					
第12回	食を通じた社会環境の整備（3） 地域栄養ケア等の拠点の整備					
第13回	食を通じた社会環境の整備_保健、医療、福祉および介護用域における管理栄養士・栄養士の育成					
第14回	実習指導者を招いての実習報告会					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習ノート	60%	提出期限、内容（丁寧に取り組んでいるか、分かりやすいか、論理的か）		実習指導者による評価、実	40%	
授業外における学習（事前・事後学習等）						
実習先からの事前課題への取り組みなど				質問は授業中および授業前後に受け付ける。質問の回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。 kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp		
教科書・テキスト	随時知らせます。			受講生に望むこと	積極的な態度で臨むこと。	
参考書・参考資料等	随時知らせます。			その他・特記事項	担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しております。	

授業科目	臨地実習（福祉施設）						
担当教員	川島 由起子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
福祉施設において管理栄養士の指導・監督のもと、現場における栄養ケアマネジメントを理解し、実際の症例検討をとおして、栄養ケアに関わる知識・技術を体験することにより、福祉施設の管理栄養士の専門性を学ぶ。また、NST、カワルナ等に参加し、多職種とのコミュニケーションや他職種連携による栄養ケアについて理解する。				福祉施設における管理栄養士の業務を観察・体験することにより、福祉施設の栄養ケア・マネジメントを理解し、管理栄養士の役割および対象者に適した栄養管理の意義や方法を学ぶ。現場の業務を一つのケアとして理解し、栄養管理と給食管理の相互関係、栄養管理方法、栄養・食事提供方法、栄養食事指導等の方法を学習し、それぞれの業務が果たす役割と機能を理解する。			
教授方法	福祉施設における管理栄養士等の講義・実践						
履修条件	臨床栄養学、給食経営管理論、栄養教育論						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	福祉施設の概要、現場における基本的な態度・心構え、実習内容の説明等						
2	福祉施設における管理栄養士その他スタッフの役割について説明						
3	他職種連携、チーム医療について説明						
4	給食管理の実際						
5	給食管理の実際						
6	給食管理の実際						
7	給食管理の実際						
8	給食管理の実際						
9	給食管理の実際						
10	栄養管理の実際						
11	栄養管理の実際						
12	栄養管理の実際						
13	栄養管理の実際						
14	栄養管理の実際						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習の出席状況	80	福祉施設管理栄養士による評価			実習への取り組み	10	福祉施設管理栄養士による評価
臨地実習ノート	10	自己評価も含め総合的に評価する					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
臨床栄養学、給食経営管理論、栄養教育論、事前・事後指導				臨地実習ノートに記載の大学担当者の連絡先で対応			
教科書・テキスト	臨床栄養学、給食経営管理論、栄養教育論関連の教科書 臨地実習ノート			受講生に望むこと	福祉施設における栄養管理と給食管理の相互関係の実際を観察・体験し、その連携方法等について理解すること。管理栄養士の役割について学ぶ。		
参考書・参考資料等	施設からの配布資料等			その他・特記事項	対象者が高齢者になるので、自身の体調管理に十分注意をすること		

授業科目	臨地実習（保育所・特別支援学校）						
担当教員	新保 みさ			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>保育所または特別支援学校において、保育や教育・食育活動の参観、給食の調理・配膳、喫食状況の参観などの実習を通して、子どもの発達段階や障がいに応じた食育を行うための能力を養う。</p>				<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心身の発達と生活に基づいた食の提供と食育について学修する。</li> <li>・食育における管理栄養士・栄養士の役割を学び、実習する。</li> <li>・家庭、地域、他職種等と連携しながら食育を推進する能力を養う。</li> </ul> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心身の発達と生活に基づいた食の提供と食育について理解する。</li> <li>・食育における管理栄養士・栄養士の役割を理解する。</li> <li>・家庭、地域、他職種等と連携しながら食育を推進する能力を高める。</li> </ul>			
教授方法	実習						
履修条件	臨地実習 と の単位を修得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	施設の概要（教育方針や特色）						
3	管理栄養士・栄養士の業務の概要						
4	保育や教育活動の参観						
5	保育や教育活動の参観						
6	食育の実践に関わる課題への取り組み						
7	発達段階や障がいに応じた給食の実態						
8	発達段階や障がいに応じた給食の実態						
9	給食の喫食状況の参観						
10	食育活動の参観						
11	食育活動の参観						
12	食育活動の参観						
13	食育活動の参観						
14	実習の振り返り						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	50	臨地実習ノートや課題への取り組みを評価する。			実習施設の評価	50	実習施設からの評価を点数化する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に取り組む。</li> <li>・臨地実習ノートを記入する。</li> </ul>				<p>質問や相談は随時受け付ける。 新保みさ(居室：H408、メールアドレス：shimpo.misa@u-nagano.ac.jp)</p>			
教科書・テキスト	臨地実習ノート、臨地実習の手引きを配布する。			受講生に望むこと	積極的な姿勢で実習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	適宜、指示・配付する。			その他・特記事項	実習内容や課題は実習受け入れ施設によって異なる。		

授業科目	臨地実習（給食施設）						
担当教員	上延 麻耶			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
給食施設において、栄養食事管理、食材管理、生産管理、衛生管理、施設・設備管理、原価管理、事務管理等の給食経営管理に関わる実務の実践を体験し学修する。組織管理等マネジメントの基本的な考え方、給食施設における管理栄養士の役割や業務について理解を深め、給食の関連資源を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントできる能力を養う。				給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントする能力を養う。また、マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。 到達目標 ・給食施設における管理栄養士の使命や役割、業務を説明できる。 ・協働する関連職種との関わりとそれぞれの役割を説明できる。 ・業務日誌、報告書作成等の基本事項を理解し、作成できる。			
教授方法	給食施設において、グループごとに実習を行う。						
履修条件	臨地実習 ～ の単位を取得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	実習施設の概要						
3	実習課題の計画						
4	実習施設での課題への取り組み1						
5	実習施設での課題への取り組み2						
6	実習施設での課題への取り組み3						
7	実習施設での課題への取り組み4						
8	実習施設での課題への取り組み5						
9	実習施設での課題への取り組み6						
10	実習施設での課題への取り組み7						
11	実習施設での課題への取り組み8						
12	まとめ・自己評価						
13	実習報告会1						
14	実習報告会2						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	30%	実習先および実習課題に関する事前学習（15%）、実習の事後学習（15%）		上記以外の授業評価	70%	実習先からの評価（30%）、巡回指導教員からの評価（20%）、報告会での発表・討論（20%）	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された課題に取り組む。				実習事前事後指導の時間に質問や意見を受けつける。			
教科書・テキスト	適宜資料を配布する。			受講生に望むこと	主体的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	臨地実習（保健所）						
担当教員	草間 かおる			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	2・3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
保健所等において、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報の一つである国民健康・栄養調査や国民健康・栄養調査の計画・実施・評価より、それらを総合的に評価、判定（地域診断）することについて学ぶ。担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。				保健所等において、講義、演習などを通じ、1）地域における健康・栄養問題の現状、2）国民健康・栄養調査や国民健康・栄養調査の計画・実施・評価等について学修する。			
教授方法	各実習施設において講義、見学、演習等を行う。						
履修条件	臨地実習 ・ を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	組織体制・管内の現況						
第2回	公衆衛生行政の概要（保健所、保健センターの役割）						
第3回	管理栄養士の業務の概要、関連法規						
第4回	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（1） 地域における実態把握、分析、課題の明確化						
第5回	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（2） 課題の解決に向けた計画の立案・施策化						
第6回	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（3） 政策を評価するための目標設定・評価の実施						
第7回	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（1） 専門的な栄養指導、食生活支援						
第8回	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（2） 食生活改善推進員等に係るボランティア組織の育成や活動の支援						
第9回	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（3） 関係機関および団体との連例						
第10回	食を通じた社会環境の整備（1） 特定給食施設における栄養管理状況の把握および評価に基づく指導・支援						
第11回	食を通じた社会環境の整備（2） 飲食店におけるヘルシーメニューの提供等の促進（食環境整備）						
第12回	食を通じた社会環境の整備（3） 地域栄養ケア等の拠点の整備						
第13回	食を通じた社会環境の整備_保健、医療、福祉および介護用域における管理栄養士・栄養士の育成						
第14回	実習のまとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習ノート	60%	提出期限、内容（丁寧に取り組んでいるか、分かりやすいか、論理的か）			実習担当者による評価、主	40%	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
実習先からの事前課題への取り組みなど				質問は授業中および授業前後に受け付ける。質問の回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。 kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	随時知らせます。			受講生に望むこと	積極的な態度で臨むこと。		
参考書・参考資料等	随時知らせます。			その他・特記事項	担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しております。		



授業科目	ゼミナール				
担当教員	中澤 弥子・石井 陽子・稲山 貴代・川島 由起子・	必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	1・2学期	授業形態	演習
対象学生	食健康	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
3年次3学期からの卒業研究の準備のため、担当教員の指導のもと、少人数のゼミ形式により、学生同士・教員の交流を深めるとともに、さまざまなスタディスキルを修得する。具体的には、ゼミごとに、一定のテーマに沿って、ディスカッションやプレゼンテーションを行い、論理的思考を涵養し、コミュニケーション能力を高める。また、状況によって卒業研究に向けた事前の予備研究や予備調査を実施する。			ねらい 3年次3学期からの卒業研究の準備のため、担当教員の指導のもと、さまざまなスタディスキルを修得する。ゼミごとに、一定のテーマに沿って、論文抄読、ディスカッションやプレゼンテーションを行い、論理的思考を涵養し、コミュニケーション能力を高める。また、管理栄養士としての資質向上をめざすために、自主的な学習習慣を身につけ、互いに切磋琢磨する場を創造する。 到達目標 研究テーマに沿って調査研究、実験研究、文献研究等を行うための基本を修得する。 基本的な文章作成のルールを身につけ、読み手にわかりやすい文章を作成できる。 聞き手にわかりやすい図表や発表スライドを作成できるとともに、わかりやすく説明できる。 論理的思考に基づき、意見や質問を積極的に述べる力を養う。		

教授方法	演習形式。一部時間割上での実施ができない場合は、担当教員とゼミ生との間で日程を柔軟に調整して実施する。
履修条件	特になし

授業計画	
実施回	授業内容
1	3年次3学期からの卒業研究の準備のための基本的な学修を行う。オリエンテーションとして、自分の研究に対する考えをアピールするとともに、相手のことを知る。また、ゼミナールの意義・位置づけ、進め方、何を学ぶか、卒業研究の入り口までの流れを知る。
2	研究題材の選び方、学術論文等の検索の仕方、実験・調査の方法、まとめ方、上手なスライド作成・プレゼンテーションの仕方について学ぶ。
3	論文抄読とディスカッション(基礎編)
4	論文抄読とディスカッション(応用編)
5	担当教員が指示するテーマについて論文等を検索し、情報収集を行う。
6	テーマに関して収集した情報について、まとめる。
7	プレゼンテーションの準備
8	まとめた内容に関してプレゼンテーションし、ディスカッションする。
9	個人で興味のあるテーマについて論文等を検索し、情報収集を行う。あるいは、予備実験・調査の立案・計画
10	テーマに関して収集した情報について、まとめる。あるいは、予備実験・調査の実施準備
11	プレゼンテーションの準備、あるいは、予備実験・調査の実施
12	まとめた内容に関してプレゼンテーションし、ディスカッションする(前半)。あるいは、予備実験・調査の実施
13	まとめた内容に関してプレゼンテーションし、ディスカッションする(後半)。あるいは、予備実験・調査の結果の解析とまとめ、プレゼンテーションの準備
14	総まとめ、あるいは、プレゼンテーションとディスカッション、総まとめ

共通の評価基準	
到達目標に掲げる思考力やスキルに関して、十分達成できている、概ね達成できている、達成度としては普通である、もう少しの努力が欲しい、一層の努力が必要である、十分な達成度に達していない・評価の対象にならない、を評価基準とする。	

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点(取り組み度)	40	実施内容やディスカッションへの主体的な参加度合いをみる。	課題	60	担当教員からの提示課題や個人の課題に対する取り組みとその内容、また提出状況等を総合的に判断する。

授業外における学習(事前・事後学習等)		質問や相談への対応	
担当教員から適宜提示された事前・事後の課題に、個人またはグループで取り組む。		質問や相談は、原則として授業中(前後を含む)に受け付ける。担当教員が必要に応じた対応を指示する。	
教科書・テキスト	担当教員が必要に応じて指定する、あるいはプリントの配布を行う。	受講生に望むこと	主体的に課題に取り組み、ディスカッション等に積極的に参加すること。また、一部実施日程が変動的になる場合があることを理解しておくこと。
参考書・参考資料等	担当教員が必要に応じて指定する、あるいはプリントの配布を行う。	その他・特記事項	正当な理由を除き、学生の個人的な理由により極端に参加度が低いとみなされる場合、評価対象外になり、単位が不認定になる場合がある。

授業科目	卒業研究				
担当教員	中澤 弥子・石井 陽子・稲山 貴代・川島 由起子・	必修・選択	必修	単位数	3単位
履修年次	3年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習
対象学生	食健康	関連資格		備考	科目ナバリング
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）		
<p>担当教員の指導と助言のもとに、3年3学期から1年半をかけて卒業研究を行う。選択した興味ある研究テーマにそって、卒論研究のための導入・準備、情報収集、論文抄読会、実験・調査の構想・計画・実施、ディスカッション、まとめ、卒業論文の作成、卒業論文発表会の準備、発表会における成果発表と質疑応答審査を行う。</p>			<p>ねらい 研究テーマにそって、調査研究、実験研究、文献研究等の研究方法を駆使し、主体的に研究活動を進めることにより、論理的、科学的なものの見方を修得する。さらに、管理栄養士として、実践に役立つ企画力、創造力、洞察力、問題解決能力等を涵養し、科学的エビデンスに基づく食を通じた健康のプロフェSSIONALとしての総合的な能力を養う。</p> <p>到達目標 論理的、科学的に考察する力を修得する。 科学的エビデンスに基づき健康問題を解決する総合力を修得する。 卒業研究を通じて、解析してまとめる能力と結果を発信する能力を養う。</p>		
教授方法	担当教員の指導と助言のもと、学生が個人またはグループで研究テーマに基づき、実験、調査、文献研究を行う。適宜、担当教員の助言により、内容の追加・変更などの軌道修正を行ったり、さらに派生・発展させる。実験・調査の実施に関しては、担当教員とゼミ生との間で日程を柔軟に調整して実施する。				
履修条件	特になし				
授業計画					
実施回	授業内容				
1	オリエンテーション： 卒業研究の意義・位置づけ、進め方、何を学ぶか、卒業研究の流れについて理解する。				
2～	担当教員の指導や助言を通して、3学年3学期から1年半をかけて以下の～の内容について学ぶとともに、研究活動の一連の基本スキルを身につける。				
～40	プレゼンテーションや他者とのディスカッションを通じ、論理的な思考力を身に付ける。 ゼミ内で互いにデータや情報に関する報告やディスカッションを繰り返し行い、課題や問題点を見つけ考察することで学びを深める。				
41～42	卒業研究発表会				
共通の評価基準					
到達目標に掲げる思考力やスキルに関して、十分達成できている、概ね達成できている、達成度としては普通である、もう少しの努力が欲しい、一層の努力が必要である、十分な達成度に達していない・評価の対象にならない、を評価基準とする。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点（取り組み度）	50	卒業研究テーマに対する全般的な取り組み姿勢やディスカッションへの主体的な参加度合いを評価する。	卒業論文	50	卒業論文提出、発表会、論文審査の結果を総合的に評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
担当教員から適宜提示された事前・事後の課題に、個人またはグループで取り組む。			質問や相談は、原則として授業中（前後を含む）に受け付ける。担当教員が必要に応じた対応を指示する。		
教科書・テキスト	各担当教員が必要に応じて指定する、あるいはプリントの配布を行う。		受講生に望むこと	主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。また、実際に実験や調査を行う際は、その特性上実施日程が変則的・不定期になると考えておくこと。	
参考書・参考資料等	各担当教員が必要に応じて指定する、あるいはプリントの配布を行う。		その他・特記事項	正当な理由を除き、学生の個人的な理由により極端に参加度が低いとみなされる場合、評価対象外になり、単位が不認定になる場合がある。	

授業科目	学校栄養教育論					
担当教員	笠原 賀子・市場 祥子		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>栄養教諭としての職務を行うために必要な知識を身につけ、実践的な指導力の必要性を学ぶ。児童および生徒を取り巻く食環境や食生活の実態を把握して、栄養教諭に期待される使命と役割や食に関する指導の教材となる学校給食の献立作成を中核とした管理の重要性を理解し、学校や学校と家庭・地域が連携して取り組む望ましい食習慣を培う食に関する指導及び健康課題を抱える児童生徒に対する個別的相談指導の必要性やその指導方法について正しく学修する。</p>			<p>ねらい ・栄養教諭として必要な知識や技術について学修する。 ・子どもの理解を深め、地域、家庭との連携協力の方法を学修する。</p> <p>到達目標 栄養教諭創設の歴史と職務を理解し、子どもの理解を深める。 栄養教諭として必要な知識を身につけ、実践的な指導力を養う。 栄養教諭としての強い使命感と向上心を醸成する。</p>			
教授方法	講義。グループディスカッションを含む。					
履修条件	栄養教育論 〃 の単位を取得していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	オリエンテーション、栄養教諭制度創設と法的根拠、栄養教諭の職務内容、使命、役割					
2	学校組織の理解と栄養教諭の位置づけ					
3	食生活の変遷と学校給食の歴史、教育的意義					
4	学校給食における地場産物の活用と地域の食文化					
5	子供の発育・発達と食生活の諸課題、社会的事情					
6	学校給食の管理と実際					
7	生きた教材として学校給食の具体的な活用					
8	学習指導要領の徹底理解					
9	食に関する指導の全体計画の必要性、作成					
10	食に関する指導の実際と展開、推進					
11	給食の時間における食に関する指導					
12	ブレインストーミング「食育の教材として活かすための献立作成の配慮」					
13	個別的な相談指導（偏食、肥満、痩身傾向等）の基本					
14	まとめ					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているかについて評価する。	授業レポート	30	授業レポートについて評価する。	
主体的態度	10	主体的態度について評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
<p>・事前学習 シラバスにそって必ず予習をして、疑問点や不明な事項を把握して授業に臨む。</p> <p>・事後学習 栄養教諭資格取得のための必須科目である。授業内容の復習に取り組み、知識や実践力を培う。</p>			<p>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： 笠原賀子(kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp) 市場祥子(sachiko26@po11.ueda.ne.jp)</p>			
教科書・テキスト	『四訂栄養教諭-理論と実際』金田雅代編（建帛社） 『食に関する指導の手引 -第2次改訂版-』（文部科学省）		受講生に望むこと	・予習・復習を積極的に臨むこと。 ・ディスカッションへ主体的に参加すること。		
参考書・参考資料等	食に関する指導に係る『学習指導要領解説』（文部科学省） 食に関する指導に係る『教科書』（文部科学省）		その他・特記事項	・レポートの提出締め切り厳守のこと。		

授業科目	学校栄養教育実践論					
担当教員	笠原 賀子・市場 祥子		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>食に関する指導の具体的な指導内容について実践演習し、その手法を取得する。栄養教諭に課せられている食に関する3つの職務のうち、児童生徒への教科、特別活動等における教育指導については、指導案（年間計画、関連教科、特別活動等）を作成し（plan）、模擬授業を行い（do）、相互評価を行う（check、act）。また、連携指導（校内と家庭・地域等）についての食に関する指導のスキルを学修する。</p>			<p>ねらい ・栄養教諭が行う食に関する指導の内容及び方法について理解し、実践力を培う。</p> <p>到達目標 食に関する指導の具体的な内容について理解する。 食に関する指導に必要なさまざまな手法について理解する。 食に関する指導を実施することができる。</p>			
教授方法	講義。グループディスカッションを含む。					
履修条件	学校栄養教育論の単位を取得していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	オリエンテーションと「学校栄養教育論」の振り返り					
2	学校教育の仕組みと学校教育計画					
3	教科における食に関する指導					
4	教科外の教育活動における食に関する指導					
5	ブレインストーミング「学校、家庭、（地域）の連携指導の進め方」					
6	学習指導案の作成方法（教科および教科外指導について）					
7	1単位時間の授業の進め方と教員としての在り方					
8	授業演習の準備					
9	実践演習（模擬授業と相互評価）1					
10	実践演習（模擬授業と相互評価）2					
11	実践演習（模擬授業と相互評価）3					
12	実践演習（模擬授業と相互評価）4					
13	実践演習（模擬授業と相互評価）5					
14	まとめとグループワーク「理想の栄養教諭をめざして」					
共通の評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	70	各自作成全体計画及び学習指導案、演習記録（教科、特別活動等）、地産物活用献立、連携指導への取り組み等）	主体的態度	30	主体的態度について評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 レポートの作成等、期日を守って仕上げ、授業に臨む。</li> <li>事後学習 授業内容の復習を徹底し、自律した実践力を培う。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>メールでの質問も受け付ける。</li> </ul> アドレス： 笠原賀子 (kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp) 市場祥子 (sachiko26@po11.ueda.ne.jp)			
教科書・テキスト	『四訂栄養教諭-理論と実際』金田雅代編（建帛社） 『食に関する指導の手引 -第2次改訂版-』（文部科学省）		受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭資格取得のための必須科目である。事前事後の学習に積極的に臨むこと。</li> <li>・ディスカッションへ主体的に参加すること。</li> </ul>		
参考書・参考資料等	食に関する指導に係る『学習指導要領解説』（文部科学省） 食に関する指導に係る『教科書』（文部科学省）		その他・特記事項	・授業レポートの提出締め切り厳守のこと。		

授業科目		教職論					
担当教員	木山 徹哉			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本授業は主に3つの内容で構成する。第一に、日本における教職の歴史を辿りながら教職の意義・職責・専門性について考える。第二に、教師の日常の仕事をも具体的に描きつつ、子どもや保護者、あるいは他の教師との関係性、授業・活動の企画立案・運営・評価、授業・活動における教師の表現力、教師集団あるいは教師文化の在りよう、について考える。そして第三に、これらのことを踏まえつつ教師養成の現状と課題、並びに今後の養成の在り方を考える。</p>				<p>本授業は、以下の目標に到達するために授業を展開する。第一に、教職の意義や職責・専門性を簡潔に述べることができる。第二に、教師の具体的教育活動を明示できる。第三に、授業実践について、指導計画、指導案作成、授業実践、及び評価の流れを理解する。そして第四に子どもや保護者、さらにはほかの教師との関係構築の方法について基本的な事柄を理解する。</p>			
教授方法	講義を中心に展開するが、適宜質疑応答や討論を取り入れる。						
履修条件	栄養教諭の免許状を取得希望の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション:授業の概要、評価方法などを説明する。						
2	教職の意義、法令で定められる教師の職責、教師の専門性を中心に解説する。						
3	日本の社会の変化と教師の歴史について解説する。						
4	教師の仕事について(1) 教師の一日の具体的職務						
5	教師の仕事について(2) 教師間の協働、コミュニケーション、教師間及び他機関等との連携(チームとしての学校)などを中心に解説する。						
6	第2回～第5回の授業内容について小テストを実施する(30分)。教師と子どもの関係(1)教師の子ども理解を中心に解説する。						
7	前回テストの講評、質疑応答、及び討論を実施する(40分)。教師と子どもとの関係(2)多様な子どもへの配慮を中心に解説する。						
8	教師の授業運営について(1)指導計画案作成と展開を中心に解説する。						
9	教師の授業運営について(2)授業評価を中心に解説する。						
10	教師の表現力(1)コミュニケーション能力を中心に						
11	教師の表現力(2)パフォーマンス						
12	第6回～第11回の内容について的小テストを実施する(30分)。教師集団－教職文化とその継承・変革、及びジェンダーについて						
13	前回の小テストの講評、質疑応答及び討論を実施する(40分)。教師になるプロセス(1)教師養成制度を中心に解説する。						
14	教師になるプロセス(2)教師の採用、配置及び研修。全体のまとめ。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	授業全体で習得した基本的内容を確認する。100点満点で60点以上を可とする。		小テスト	30	各テーマ(単元)ごとに習得した基本的知識を確認する。20点満点で12点以上を可とする。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
テキストを事前・事後に読むこと。				授業中はもちろん、授業以外でもメール等に対応する。			
教科書・テキスト	『教職論』(木山・太田編著)ミネルヴァ書房			受講生に望むこと	質疑応答及び討論に積極的に参加すること。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		教育原論					
担当教員	木山 徹哉・寺川 直樹			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本授業は、第一に教育という営みの意義及び機能について学ぶ。第二に、教育という営みが実践された家庭、地域社会、および学校の歴史的展開について学ぶ。第三に、教育という営みの歴史的展開において、各時代の教育思想家がどのような役割を果たしたか、また彼らが子どもや家庭をどのように位置づけてきたかについて学ぶ。そしてさらに第四に、以上の教育の理念と教育の歴史的展開を踏まえて、今日の教育課題への対応を考える。</p>				<p>本授業の到達目標及びテーマは、以下の5点である。            (1) 教育の意義及び機能（基本的概念）について理解する。            (2) 教育という営みの成立と展開について、主な教育思想家の思想を学ぶことを通じて基本的に理解する。            (3) 国や地域社会及び家族が子どもをどのように捉え位置づけてきたかについて、その歴史や今日の状況について理解する。            (4) 各時代における学校教育の展開（変遷）を教育理念と関連づけて理解する。            (5) 学校及び教育機関が今日の社会の変化のなかで果たすことのできる役割・機能について考えを述べる事ができる。</p>			
教授方法	オムニバス講義を中心とするが、各テーマごとに小テストを実施し、その結果やキーワードについて質疑応答や討論を取り入れる。						
履修条件	栄養教諭の教員免許状を取得希望の者						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション。授業の概要、目標、及び評価について説明する。						
2	教育とは何かや、教育の意義及び機能について解説する。						
3	教育の思想（1）ソクラテス、プラトン、コメニウス、ロックなどの教育思想を中心に解説する。						
4	教育の思想（2）ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトなどの教育思想を中心に解説する。						
5	第1回～4回までの内容に関する小テストを実施（20分）。学校教育の思想と歴史（1） 学校教育の成立と発展の諸要因について、産業革命、フランス革命、モントリオールシステムなどについて解説する。						
6	前回の小テストの講評と質疑応答、並びに討論を実施する（40分）。学校教育の思想と歴史（2） 学校教育の展開 -日本の戦前期を中心に、明治後期～大正・昭和にかけての学校教育の普及と展開、さらに戦争と教育との関係などについて解説する。						
7	学校教育の思想と歴史（3） 学校教育の展開-日本の戦後～現在を中心に、こんにちの教育の基盤を作り上げてきた経緯と、今後の教育の課題などについて解説する。						
8	子ども、家族の歴史 学校以外の教育の場として家族や地域社会を視野に入れ、子ども観及び子ども-大人関係、並びに家族の変遷などについて解説する。						
9	第5回～第7回の内容に関する小テストを実施する（20分）。教育を支えるしくみ（1） 今日の教育理念とそれを支える法規について解説する。						
10	前回の小テストの講評と質疑応答、並びに討論を実施する（40分）。教育を支えるしくみ（2） 今日の教育理念とそれを支える制度について解説する。						
11	子どもは何を学ぶか（1） 主として学校の教育内容及び方法の変遷について解説する。						
12	子どもは何を学ぶか（2） 「学力」をどのように捉えるかを中心に解説する。アクティブラーニングの意義などについて質疑応答、及び討論を実施する。						
13	現代の教育課題（1） 学力問題や教育格差等への対応を考える。質疑応答及び討論も含む。						
14	現代の教育課題（2） 今後学校教育が果たすべき役割機能を考える。質疑応答及び討論も含む。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	授業全体を通じて習得した知識の状況を確認する。100点満点で60点以上を可とする。		小テスト	30	各テーマ（単元）ごとに習得した知識の状況を確認する。20点満点で12点以上を可とする。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキスト、並びに参考図書を読むこと。また、新聞報道など教育時事について情報を収集しておくこと。				授業中はもちろん、授業以外でもメール等に対応する。			
教科書・テキスト	『教育原論』（木山・太田編著）ミネルヴァ書房			受講生に望むこと	テキストを事前・事後に読むこと。質疑や討論に積極的に参加すること。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	発達と教育の心理学						
担当教員	加藤 孝士			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義では、乳幼児期から青年期に至る心身の発達を概説し、それに応じた学習のプロセスと学校教育及び子育て、家庭教育の基礎となる理論について学ぶ。また、障害等のある幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習のプロセスに言及する。それにより、個に応じた教育の在り方を学び、教育活動における基礎的・実践的な力量を養うことを目指す。</p>				<p>1.生涯にわたる子どもの発達と学習の特徴を理解する。 2.各発達段階でどのような関わり（教育）がよりよい成長・発達を導くのかを理解する。 3.講義の内容を基に、自らの興味あるテーマを探究するための基礎的知識を身に付ける。</p>			
教授方法	講義、及びグループワーク						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	発達と教育の心理学とは？（心理学における発達心理学・教育心理学の位置づけとその関係）						
2	発達過程の理解（発達の原理と基礎的事項）						
3	学習についての理解（人間の学びに関する基礎理論、教育心理学の基礎的事項）						
4	学習についての理解（人間の学びに関する基礎理論、教育心理学の基礎的事項）						
5	教育の在り方、教師の役割（よりよい発達を支える教師の在り方）						
6	胎児期・新生児期・乳児期の発達・学習の特徴とその支援						
7	幼児期の発達の特徴						
8	幼児期の学びと支援						
9	児童期の発達の特徴						
10	児童期の学びと教育						
11	障がいのある子どもの発達・学習の特徴						
12	障がいのある子どもの支援と教育						
13	社会変化に応じた幼稚園、小学校における教育の在り方						
14	発達・教育の知識は、栄養教諭にどのように役立つのか？（まとめとして、授業で得られた知識をどのように生かしているのかをディスカッションし、理念を共有する。）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	論述及び選択型テスト			小テスト	20	確認テスト
レポート	20	課題レポート			授業参加	10	授業態度、ディスカッションの参加度
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		
適宜、課題を出します。					授業後に質問を受けつけます。また、研究室（H404）にも相談に来てください。		
教科書・テキスト	特になし				受講生に望むこと	疑問を持ちながら、受講してください。	
参考書・参考資料等	『やさしく学ぶ発達心理学-出逢いと別れの心理学-』浜崎隆司・田村隆宏 編（ナカニシヤ出版）				その他・特記事項	特になし	

授業科目		教育制度論					
担当教員	荒井 英治郎			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>現代日本の教育制度改革の特徴は、戦後形成された教育制度のみならず、その制度を支える制度原理それ自体の再編を企図するものであるが、いかなる政策理念に基づいて、いかなる政策対象に、いかなる政策手法を講じていくか、多様な選択肢を検討していくことが求められている。そこで、本授業では、個々の法制度・法文の理解に留まることなく、現代日本の教育課題に即した制度的・経営的事項の構造的課題の分析を行い、今後の制度構想や教育政策のあり方を考察していく能力を習得していく。</p>				<p>本授業では、教育に関する制度的・経営的事項に着目しながら、教育制度改革の諸動向と論争点・課題を理解し、教育改革の理論（理念）と実際（現実）を読み解く資質を修得することを目的とする。具体的には、教育実践に関する教育法規の知識として、日本の教育制度の法的構造、現行制度の概要、法制度の運用上の留意点を確認しながら、教育制度と教育実践との関係を具体的に理解するものとする。</p>			
教授方法	授業のスタイルとしては「講義方式」を採用するが、グループワークも併用し、主体的に学習できるような授業を展開するものとする。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、社会環境の変化と教育・子育てと福祉（人口減少社会の到来、学校・家庭・地域の役割分担、子どもが抱える課題の複雑化・困難化など）						
2	現代日本の教育課題と教育政策過程（学力・学習意欲・自己肯定感、教育政策の決定過程、教育政策の諸動向など）						
3	公教育の原理・理念と構造（産業革命と近代国民国家の誕生、近代公教育の原則：義務性、無償性、中立性、就学義務と就学援助など）						
4	公教育制度と教育基本法の改正（教育基本法改正、教育関係法規の改正動向など）						
5	中央教育行政制度改革（政治主導型教育改革、文部科学省・中央教育審議会、義務教育の構造改革、義務教育費国庫負担制度、県費負担教職員制度、教育振興基本計画、中央・地方関係の変化など）						
6	地方教育行政制度改革（教育委員会制度改革動向、総合教育会議と教育大綱、設置者管理・負担主義、学校管理規則、指導主事制度と学校支援など）						
7	学校経営・学級経営と学校評価制度（学校組織マネジメント、学級編制と教職員定数、校務分掌と主任制度・「新しい職」、職員会議の法的位置付け、自己評価・学校関係者評価・第三者評価など）						
8	教職員制度改革（教職の特殊性、教員の資質・能力の向上、免許更新制度、養成・採用・研修の制度、教職員の研修体系、教職大学院制度など）						
9	学校関係者の働き方改革（教員の多忙化と業務改善、服務義務・処分、人事評価制度、メンタルヘルス、「チーム学校」論、学校事務職員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・部活動指導員など）						
10	学校・家庭・地域の連携協力（開かれた学校づくり、家庭教育支援チーム、学校評議員、学校運営協議会、放課後子供教室、学校支援ボランティア、学校支援地域本部、地域学校協働本部、地域未来塾など）						
11	教育内容・教科書をめぐる制度改革（教育課程と学習指導要領の改訂、教科書と補助教材、教科書検定・採択制度など）						
12	学校健康教育の現状と課題（学校安全：災害安全・交通安全・生活安全、学校保健計画、健康診断、感染症予防、学校安全計画と学校事故、災害共済給付、学校給食とアレルギー対応など）						
13	子どもをめぐる法的対応（いじめ対策、不登校支援、児童虐待防止、少年法制、懲戒と体罰、出席停止、指導要録など）						
14	多様な学びとセーフティ・ネット（フリー・スクール、夜間学級、性の多様性・外国人児童生徒への対応、子どもの貧困対策など）						
共通の評価基準							
授業中の発言や態度、毎授業提出することを求める「リアクションペーパー」等の平常点（5割）、学期末レポート（5割）などから総合的に評価する。詳しくは、初回授業時に説明する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業中の発言や態度、毎授業	50			レポート	50		
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定テキストの該当ページの熟読（ガイダンス時及び毎授業時に該当ページを指示）</li> <li>グループ内でのディスカッションのための論点整理メモの作成</li> <li>グループ間でのディスカッションのためのプレゼンテーション準備</li> <li>グループ間でのディスカッションを踏まえた上での考察レポートの作成</li> </ul>				<p>簡単な質問については講義中に随時受け付け、講義中・講義後・次回授業時に説明を行う。その他、初回授業時に伝えるメールアドレスにて随時質問を受け付けるものとする。</p>			
教科書・テキスト	伊藤良高・大津尚志・永野典詞・荒井英治郎編『改訂 教育と法のフロンティア』晃洋書房、2020年、1400円 教育フロンティア研究会編『ポケット教育小六法』晃洋書房、2020年、1900円			受講生に望むこと	<p>授業は、教員による講義を基本とするが、履修者は、積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することを望む。 初回授業では、授業計画・概要、授業方法と評価に関する説明を行うため、履修予定者は、必ず出席すること。 毎授業前にレジュメ等をアップロードする。履修者は必要に応じて各自ダウンロード・プリントアウトして授業に参加すること。 なお、必要に応じて、ビデオ・DVDなどの視聴覚教材を活用する。</p>		
参考書・参考資料等	特になし						



その他・  
特記事項

特になし

授業科目		教育課程論					
担当教員	伏木 久始			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>国際的な視野から日本の教育課程の特色と課題について理解し、最新の教育課程政策を踏まえて、自分なりの考えをもってグループディスカッションに参加して考え合う授業になる。国内外の様々な特色ある教育課程の事例を紹介し、自分自身が受けてきた学校教育を「かつう」と判断する認識の枠組みを乗り越え、次代を生きる子どもたちにとって真に必要な教育を考え合う時間が中心となる。</p>				<p>日本の教育課程の特色と課題について、現行の学習指導要領の基本的構造と性格を踏まえて国際的な視野から説明できる。 特色ある教育課程の事例をもとに、幼小連携に求められる視点、小中一貫や中高一貫の課題などを説明できる。 学校教育における教科や特別活動の指導、総合的な学習の時間の指導などを学ぶ側から捉え直し、多面的にカリキュラムマネジメントに取り組む考え方を身に付ける。</p>			
教授方法	授業担当者は最新の情報や専門的知識を提供するだけです。それをもとに自分がどう考えるか、学生同士でどのように学びを深めるかは、受講生一人ひとりの参加意識・課題意識の質に左右されます。完全なる受身姿勢で学ぶのではなく、自分なりに主体的に探究する努力をして、学びを深めるスタイルで授業は進行する。						
履修条件	教育実践を「授業」というレベルではなく「教育課程」という次元で考えていくことに興味があれば誰でも歓迎する。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：「教育課程」という考え方						
2	これからの教育課程を考える～少子・人口減少問題と学校教育～						
3	小中一貫の教育課程						
4	個に応じた教育と異学年混合の教育課程						
5	諸外国の教育課程						
6	カリキュラム・マネジメント						
7	講義のまとめのテストとリフレクション						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	30	テキストの内容を理解しているかどうかを5段階評価する。		ディスカッション	20	授業における発言内容や協働的な取り組みを積極的にプラス評価する。	
理解度テスト	50	講義内容を理解しているかどうかを理解度テストにより評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：指定したテキストの該当部分を事前に精読すること。 事後学習：関連した参考文献等を精読すること。				メールにて随時質問等を受け付ける hfusegi@shinshu-u.ac.jp			
教科書・テキスト	伏木久始・峯村均『山と湖の小さな町の大きな挑戦』学文社、2000円（税別）			受講生に望むこと	しばしばグループ・ディスカッションを行うため、欠席すると他の履修学生に迷惑がかかる場合がある。無断欠席をしないこと。		
参考書・参考資料等	・加藤幸次『教育課程編成論』玉川大学出版部、2011年、2200円 ・森山賢一『教育課程編成論』学文社、2013年、2000円 ・その他、授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	授業者が指導講師として出張する学校現場へのフィールドワークを希望する学生を歓迎する。学校現場へ連れて行きます。		

授業科目	道徳教育論						
担当教員	高柳 充利			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義では、以下の四点を軸に、道徳教育についての理論と指導法を習得することを目的とする。1. 現在の我が国の初等・中等教育における道徳教育の制度的位置づけ。2. 道徳教育を吟味するための理論的背景となる道徳思想ならびに教育思想。3. 今日の道徳教育のあり方について考察するうえで不可欠な、我が国における道徳教育の歴史の変遷。4. 道徳教育の実践をめぐる課題と、それへのアプローチ。以上を学生による発表やディスカッションを適宜取り入れながら講義形式で学ぶ。</p>				道徳教育についての理論と指導法を習得することを目的とする			
教授方法	発表やディスカッションを含む講義形式						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	導入・道徳教育の制度						
2	道徳教育の思想（古代）						
3	道徳教育の思想（近代）						
4	道徳教育の歴史（明治以前・以後）						
5	道徳教育の歴史（大正・昭和・平成）						
6	道徳教育の現代的課題						
7	まとめ						
-	-						
-	-						
-	-						
-	-						
-	-						
-	-						
-	-						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	授業全体を通して示した重要事項が適切に整理・共有されているか		小テスト	30	授業各回を通して示した重要事項が適切に整理・共有されているか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前学習：授業計画で示された事項について、日常的に好奇心をもって観察・思索すること。 事後学習：授業で扱われた事項について、生活のなかで読書や討議の機会をみつけ、思考を深めること。</p>				授業後等に受け付ける			
教科書・テキスト	指定しない			受講生に望むこと	授業への積極的な参加		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介する			その他・特記事項	特になし		

授業科目		特別活動論					
担当教員	越智 康詞			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義では、単に特別活動の目標や実践方法（マニュアル）の紹介にとどまるのではなく、教育学の諸理論、学校の組織特性、現代社会の子どもの事実などと関連させながら、特別活動という実践＝カリキュラムを自ら創造していくために不可欠な基礎を学ぶ。その際、導きの糸となるのは、「食育と特別活動の関連」と「民主主義の実現を目指した問題解決活動を通して、民主主義社会の一員にふさわしい倫理・実践能力を身に付ける」というデューイ的な視点である。共に問題を解決し、開かれた学級を創造する実践が、まさに学びのプロセスでもある、という相互循環的なプロセスを念頭に置きながら、教育現場の諸問題に応答し、状況に応じたプランを構想し、自らの実践を批判的に振り返る力を養うことが、本講義のねらいである。</p>				<p>特別活動の理念、活動の特徴および方法について理解する。学級活動や学校生活について、「隠れたカリキュラム」の視点から反省的なまなざしを向けられるようになる。「民主的で開かれた学級」を生み出す活動プランを構想し、市民的スキルの獲得を支援できるようになる。食育の観点とかがかわらせながら、自分で特別活動を構想できるようになる。</p>			
教授方法	前半5回は講義。講義形式ではあるが、できうる限り皆さんと対話をしながら進める予定。後半2回は、特別活動のプラン報告で受講生の皆さんが主体となる。自分でプランをたて、調べ、まとめて、報告する。アイデア、方法の理解、プレゼンの仕方の三方向から評価する。報告者のみならず、聞き手の皆さんにも、質問や意見や感想なども求める。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス（学校とは、特別活動の歴史・理論背景）						
2	特別活動の目的・理念・方法の特徴（学習指導要領を読む）						
3	学級の諸問題（いじめ・不登校・学級崩壊）						
4	生徒理解の方法						
5	民主的な学校づくりを深める（哲学対話・リーダー＆ファシリテーターとしての教師）						
6	授業プランの構想発表						
7	授業プランの構想発表						
8	試験						
9	なし						
10	なし						
11	なし						
12	なし						
13	なし						
14	なし						
共通の評価基準							
<p>レポート4割、テスト6割  ・得点率による評価基準は次のとおりとする。  90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	アイデア（内容の面白さ・実現可能性）、基礎的な学習の成果（基本事項の理解）、プレゼン（質疑応答含む）		試験	60	基礎的事項の理解、自分の言葉で自分の考えを深めているかどうか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎回、配布したプリントの復習をする。レポートの作成に向け準備。				授業中、授業終了後ならいつでも対応可能。それ以外は、電話かメールをお願いします。授業担当者の連絡先（研究室電話番号026-238-4218、メールアドレス：yasushi@shinshu-u.ac.jp）			
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	毎回の「授業」において、教科書等の指定範囲について予習をしておく。また、授業で扱ったテーマについて、関連する文献や事例について自ら調べ、考えを深めておく。また、レポート（発表会）のための準備を進めておく。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		教育方法論					
担当教員		小山 茂喜		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次		3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生		食健康	関連資格		備考		
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>学習指導要領の変遷を整理した後、伝統的な学習理論の特徴と歴史的変遷を学ぶことを通して、学力観や授業観等の変遷について学ぶとともに、どのように子どもたちが学ぶことが、もっとも教育効果を上げることができるかについて、すぐれた実践者の授業から教育内容と教育方法を学ぶ。また、ICTの活用を含めた模擬授業演習を通して、わかる授業の授業設計と実践に向けての基礎・基本的知識と技能を習得する。さらに、教師の意思決定の視点から学習と評価との関係を追及し、「わかる授業」を構想する視座や基礎を習得する。</p>				<p>授業を展開するには、どのような内容を、どのように子どもたちが学ぶことが、もっとも教育効果を上げることができるかについて理解する。伝統的な学習理論の特徴と教育観の歴史的変遷を学ぶことを通して、学力観や授業観等の多様性を知ったり、授業実践記録等を分析することで、教育活動における経験法則を学んだりすることを通して、教育内容と子供の実態に対応した教材を開発したり教育方法を選択したりして、授業が設計できるようになる。</p>			
教授方法		講義(対話を含む)や演習(グループワークを含む)を織り交ぜた形式					
履修条件		教職課程履修者は必修					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	教育方法学をめぐる諸問題について学ぶ(「学力とは何か」)						
2	伝統的な学習理論について学ぶ						
3	我が国における学習理論の展開について学ぶ						
4	教材研究と教材開発について、授業実践例から基本的要素を学ぶ(デジタル教材等の活用も含む)						
5	子ども理解と授業設計について、授業実践例から学ぶ						
6	授業参観と授業分析の基本を学ぶ(ICTを活用した授業分析を含む)						
7	教材開発の手法について、情報機器を活用し具体的な作業を通して学ぶ(ICT活用を含む)						
共通の評価基準							
授業内で扱った内容について概要を理解し、自分の考えで内容を評価しているか。話し合い等に積極的に参加することができたか。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50	授業内で扱った内容について概要を理解し、自分の考えで内容を評価し、他者にわかるようにまとめることができているかで評価する。			グループワーク	30	協働で課題に対して追究し、根拠のある結論を導き出しているかで評価する。
学習指導案作成	20	最も学習効果が上がるであろうと考える学習理論・方法論に基づき学習指導計画が作成できたかで評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
webポータルに扱う内容を示すので、事前に確認する。教材開発等、事後学習を充実させて、子供が興味関心を示す内容を探求する。				授業の前後で質問等受け付ける。メールでの質問も受け付ける。 shigeiki@shinshu-u.ac.jp			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	教育は経験法則に依る部分が大いなので、より多くの実践を学ぶことと、人間関係を深めるよう主体的に活動するように心がける事。 pcを毎時間持参すること。		
参考書・参考資料等	授業の中で紹介する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	教育相談論						
担当教員	中山 智哉			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義では臨床心理学諸理論を基盤としつつ、学校現場における児童・思春期・青年期前期の子どもたちの発達とそれに伴う心理的諸問題を取り扱う。子どもたちのアセスメント、心理的諸問題の発生機序、問題に対応するためのカウンセリングスキル、チームでの対応方法などを講義と演習を通して学習し、実例を通して対応を学んでいく。なお、小グループでのチーム会議やディスカッションも取り入れ、個人だけの学習では得られない協調的問題解決スキル、コミュニケーションスキルも身につける。</p>				<p>学校現場における教育相談業務を独力でできるようになるための基礎理論習得が目標である。具体的には、さまざまな心理学諸理論を基盤とした児童生徒の理解と困難状況のアセスメント、保護者との円滑な面談、指導場面での円滑なコミュニケーションと適切な対応、以上を身につけることが目標である。</p>			
教授方法	講義および事例検討などの演習を行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 教育相談の必要性						
2	教育相談の発展史						
3	教育相談における関係性と絆						
4	アセスメントと児童理解						
5	特徴をもった子どもの理解と対応						
6	カウンセリングの理論						
7	精神分析の理論と展開						
8	行動主義と認知理論						
9	カウンセリングの基礎技術						
10	不登校・引きこもり問題の理解と対応						
11	虐待問題の理解と対応						
12	非行問題の理解と対応						
13	いじめ問題の理解と対応						
14	予防的援助に関する最新知見						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	点数で評価する			授業レポート	30	演習に関するレポート内容から評価する
出席	10	出席状況を考慮し評価する					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回指定された課題・問題に取り組む。 配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。</p>				<p>質問等がある場合は、授業内もしくは研究室で受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	使用しない			受講生に望むこと	本講義の理解を深めるには、講義で習得した相談支援技術を日常生活の中でも実践することが大切である。		
参考書・参考資料等	授業の中で紹介する			その他・特記事項	なし		

授業科目		道徳教育と総合的な学習論					
担当教員		高柳 充利		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次		2年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバ <sup>®</sup> リング
対象学生		食健康	関連資格		備考		
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本講義では、以下の四点を軸に、道徳教育ならびに総合的な学習の時間についての理論と指導法を習得することを目的とする。1．現在の我が国の初等・中等教育における道徳教育ならびに総合的な学習の時間の制度的位置づけ。2．道徳教育ならびに総合的な学習の時間を吟味するための理論的背景となる道徳思想ならびに教育思想。3．今日の道徳教育のあり方について考察するうえで不可欠な、我が国における道徳教育の歴史の変遷と総合的な学習との関連性。4．道徳教育の実践をめぐる課題へ向けた総合的な学習の時間を関連させたアプローチ。以上を学生による発表やディスカッションを適宜取り入れながら講義形式で学ぶ。</p>				<p>道徳教育ならびに総合的な学習の時間についての理論と指導法を習得することを目的とする。</p>			
教授方法		発表やディスカッションを含む講義形式					
履修条件		特になし					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	導入・道徳教育の制度—総合的な学習の時間の観点も交えて—						
2	道徳教育の思想（古代）—総合的な学習の時間の観点も交えて—						
3	道徳教育の思想（近代）—総合的な学習の時間の観点も交えて—						
4	道徳教育の歴史（明治以前・以後）—総合的な学習の時間の観点も交えて—						
5	道徳教育の歴史（大正・昭和・平成）—総合的な学習の時間の観点も交えて—						
6	道徳教育の現代的課題と読み物資料の活用—総合的な学習の時間の観点も交えて—						
7	模擬授業とまとめ						
-	-						
-	-						
-	-						
-	-						
-	-						
-	-						
-	-						
-	-						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70%	授業全体を通して示した重要事項が適切に整理・共有されているか		小テスト	30%	授業各回を通して示した重要事項が適切に整理・共有されているか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前学習：授業計画で示された事項について、日常的に好奇心をもって観察・思索すること。 事後学習：授業で扱われた事項について、生活のなかで読書や討議の機会をみつけ、思考を深めること。</p>				授業後の時間等に受け付ける			
教科書・テキスト	特に指定しない			受講生に望むこと	授業への積極的な参加		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介する			その他・特記事項	特になし		

授業科目	情報リテラシー (F)						
担当教員	鈴木 彦文			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標 (ねらい・到達目標)			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 PC利用および情報知識等に関するアンケート、PC/CALL教室および学内情報システムの使い方・注意等						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピング Office365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	Word編(1) 基本操作						
6	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
7	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
8	Word編(4) 画像や図形						
9	Word編(5) 表とグラフ 【Word レポート】						
10	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
11	PowerPoint編(2) スライドの作成						
12	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
13	PowerPoint編(4) 課題作成						
14	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践 【Word レポート】						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の評価基準							



成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
レポート 小テスト	30	レポートおよび小テストを課し、理解度に応じて評価する。	授業 課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。
上記以外の 授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： h-suzuki@shinshu-u.ac.jp</li> </ul>		
教科書・ テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に 望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・ 参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・ 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。</li> <li>・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!</li> </ul>	

授業科目	健康と運動科学 (F)						
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
実技の統合型の方法で健康に関連する文化的側面を様々な角度から取り上げ、身体観、健康観の基礎を築き、身体、健康、スポーツへの理解を高め、健康に対する見方、考え方を広げ、アクセスの方法を学ぶ。				様々なスポーツを体験し、心身共に充実した大学生活を送り、生涯にわたって自己の健康を守り創っていくさまざまな方法や技能を学ぶ。また生活に運動を取り入れる喜びを味わい、積極的な健康づくりの態度を養う。生涯スポーツの基礎づくりとなる授業である。			
教授方法	授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。						
履修条件	毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育<公用掲示板>にて知らせるので注意すること。また単位取得には5回以上の出席が必要。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	授業内容: (講義) 授業の概要と進め方(課題説明)						
第2回	(講義) 東西身体の多様な見方を考える 実技: プラインドボール						
第3回	(講義) エスニックスポーツと近代化を考える 実技: プラインドボール						
第4回	(実技) インディアカ(遊戯の原点を理解する)						
第5回	(実技) インディアカ(遊戯における現在を考える)						
第6回	(実技) ニュースポーツ・ユニホック						
第7回	(実技) ユニホック(地域再創造のためのスポーツを理解する)						
第8回	講義: 東洋の身体技法原点・東洋ウエルネスを考える 実技: 体操・カバディ・呼吸法						
第9回	天人合一の身体を考える 実技: スロースポーツ・太極拳・体操・瞑想法						
第10回	天人合一の身体を考える 実技: スロースポーツ・太極拳・体操・瞑想法						
第11回	講義: 気をめぐる身体文化を理解する 実技: 卓球						
第12回	講義: 健康づくりについて考える 実技: 卓球						
第13回	スポーツを理解する 実技: 卓球						
第14回	授業のまとめ						
共通の評価基準							
全ての授業を通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
積極的な授業参加姿勢	30	実践・講義5回以上出席すること			授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと
上記以外の授業評価	30	授業時間外の運動を促すこと					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
【実践】最終レポートを課す。また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学習を達成する。 【理論】理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。さらに、将来の健康管理にどのように役立てていこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学習を達成する。				e-mailで対応する。E-mail: zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。		
参考書・参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月			その他・特記事項	特になし		

授業科目		健康と運動科学 (F)					
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>学生自分のからだどこころへの理解は、知識だけではなく「からだを動かす」ということを通しても広がり、深まってゆく。そのため、できるだけ幅広い分野の教材を取り上げたい。健康・運動・スポーツは、分かる・理解するなどの「知識」を身につけるだけでは不十分で、「実践」につながってこそ始めて完結する。ここに健康と運動科学授業の意味と重要さがある。自分自身でやってみることで、自分自身のからだを実感し、その中の客観的・科学的理論を抽出し、これを再意識して「からだ」についての知識とからだそのものを結び付ける授業としたい。</p>				<p>西洋的価値観から生まれた「より高く、強く、速く」を競うことから観点を換え、大学生も生老病死の人生を生きる人間であるから、「もっとゆっくり・もっと深く・もっと柔軟に」と、こころやからだを動かすことの価値を学ぶことも意味がある。これまでの大学体育では、あまり行われていなかったが、こうした視点を取り入れた授業を積極的に進めたい。</p>			
教授方法	授業では、様々な身体技法、健康法、スポ・ツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポ・ツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。						
履修条件	毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育<公用掲示板>にて知らせるので注意すること。また単位取得には3回以上の出席が必要。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	授業の概要と進め方(課題説明)						
第2回	講義：健康観と健康づくりの変遷について考える 実技：ハレボール						
第3回	体力とは(体力について理解する) 実技：ハレボール						
第4回	健康と運動を考える 実技：ハレボール						
第5回	生活習慣病と運動を理解する 実技：ハレボール						
第6回	講義：ダイエットと健康を理解する 実技：バスケットボール						
第7回	講義：肥満について理解する 実技：バスケットボール						
第8回	講義：有酸素運動と無酸素運動 運動効果について理解する 実技：バスケットボール						
第9回	講義：運動の原則を理解する 実技：ウォーキング、ジョギング						
第10回	講義：トレーニング原則について理解する 実技：バドミントン						
第11回	トレーニング原則について理解する 実技：バドミントン						
第12回	講義：身体活動強度とエネルギーについて理解する 実技：バドミントン						
第13回	講義：健康づくりについて考える 実技：バドミントン						
第14回	授業のまとめ						
共通の評価基準							
全ての授業を通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
積極的な授業参加姿勢	30	実践・講義5回以上出席すること			授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと
記以外の授業評価	30	授業時間外の運動を促すこと					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>【実践】小テストの予習とおよび最終レポートを課す。また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学習を達成する。 【理論】理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。さらに、将来の健康管理にどのように役立てていこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学習を達成する。</p>				e-mailで対応する。E-mail: zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。		
参考書・参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月			その他・特記事項	特になし		

授業科目		保育原理							
担当教員		太田 光洋		必修・選択		必修	単位数	2単位	
履修年次		1年	開講学期		1 学期	授業形態		講義	科目ナバリング
対象学生		こども	関連資格			備考			
授業の概要					授業目標（ねらい・到達目標）				
現代の保育実践がどのような子ども観や発達観、保育観を基礎として構築されているかについて、保育の歴史、先人の教育思想から学ぶ。また、学んだことをもとに現代の子どもや家族、保育を取り巻く状況や保育制度を捉え、今後の保育のあり方について考える。 担当教員は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めており、学習内容を保育の実際と結びつけながら理解を深められるようにする。					現代の保育（幼児教育）の根拠となっている保育理論について、これまでの教育・保育に関する歴史や思想から学び、保育の意義について考え、現代の保育が抱える問題と結びつけて今後の保育のあり方を展望するための基礎的知識を習得する。				
教授方法		講義。内容理解のために、一部実技やDVD視聴などを含む。							
履修条件		特になし							
授 業 計 画									
実施回	授業内容								
1	講義概要とオリエンテーション 現代の子どもと保育施設の概要								
2	「保育」とは何か 「保育」観の歴史の変遷と意義								
3	保育の場 子どもの生活の実際								
4	現代の保育の基礎となる保育思想 コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリを中心に								
5	現代の保育の基礎となる発達・教育観 ヴィゴツキー、ピアジェを中心に								
6	保育の歴史(1) 欧米の保育 幼児学校(オウエン)、幼稚園(フレーベル)を中心に								
7	保育の歴史(2) 欧米の保育 モンテッソーリ法、進歩主義教育、レジオエミアを中心に								
8	保育の歴史(3) 日本の保育 幼稚園・保育所の成立と発展(明治期)								
9	保育の歴史(4) 日本の保育 新しい保育の潮流と展開 - 児童中心主義、社会中心主義の保育を中心に(大正期～昭和初期)								
10	保育の歴史(5) 戦後の日本の保育 戦後の幼稚園教育の諸改革 - 学校教育体系をふまえて								
11	保育の歴史(6) 戦後の日本の保育 幼稚園教育要領の成立と展開(現在まで)								
12	保育の基本と方法的原理 環境による教育と子どもらしい生活								
13	社会構造、家族機能の変化と保育制度								
14	授業のまとめ(保育の現代的課題と展望)								
共通の評価基準									
成績評価方法と基準									
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準		
定期試験(筆記)	70	授業全体を通じて習得した知識の状況を確認する。			授業レポート	30	授業内小レポート		
授業外における学習(事前・事後学習等)					質問や相談への対応				
授業開始までにテキストを通読しておくこと。また、毎時、当該部分を事前に読んで授業に臨むこと。					授業の前後、オフィスアワーに対応				
教科書・テキスト	『保育原論』太田光洋(保育出版会)、幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説(以上、文部科学省)、保育所保育指針、保育所保育指針解説書(以上、厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書(以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省)				受講生に望むこと	授業に関心を持って臨めるように工夫するので能動的に参加し、知識や技能を習得するように努めること。			
参考書・参考資料等	最新保育資料集2018(ミネルヴァ書房)				その他・特記事項	担当教員は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めるなどの実務経験を有している。			

授業科目	こどもの文化						
担当教員	山本 直樹			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>こどもたちの生活と遊びについての考えを言葉を中心に深めるために、こどもの言語的発達を促し、生きる喜びを育むものとしての「こどもの文化」と「こどものための文化」の果たす役割を理解する。また、こどもの言葉を育むカルタやすごろく等の伝承遊びや児童文化財の種類とその活用についてを概観し、それらに関する各自の体験を掘り起して、実際に活用しながらその楽しさと遊びとしての機能を考え、それらを通してこどもの話す力、聞く力、表現する力がどう育つかを実践的に学んでいく。</p>				<p>乳幼児期の言葉の発達を踏まえ、絵本や紙芝居、口演童話をこどもに伝える力、内容を理解する力、こどもと共に楽しむことができる力を身につける。また、伝承遊びや幼児教育の中で取り上げられること多いこどもの言葉を育む文化財についてを演習し、その楽しさを体験するとともに、その特徴を考える。</p>			
教授方法	講義形式を基本とするが、遊びや児童文化財に関する内容は演習課題を積極的に取り入れる。プレゼンテーションソフトによる講義を中心に、DVD映像や玩具の現物等、豊富な視聴覚教材を活用して授業を実施する。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本講義のガイダンス 社会変容とこどもの遊びの変化						
2	乳幼児期の言葉の発達						
3	こどもの文化と言葉の発達						
4	子どもと文化の関係性：「こどもの文化」と「こどものための文化」						
5	こどもの文化としての伝承遊びと行事						
6	こどもの文化としての遊び コマ・けん玉・たこあげ・あやとり						
7	こどもの文化としての遊び すごろく・カルタ						
8	こどものための文化としての児童文化財 絵本						
9	こどものための文化としての児童文化財 紙芝居						
10	こどものための文化としての児童文化財 口演童話						
11	こどものための文化としての児童文化財 パネルシアター						
12	こどものための文化としての児童文化財 人形劇						
13	こどものための文化としての児童文化財 影絵・劇遊び						
14	本講義のまとめと確認						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
1	20	小テスト：タームの終了ごとに10点満点の小テストを計2回実施し、体験したことの意味を自分なりに考えることができるかどうかを評価する。		2	80	授業内レポート：授業内容全体の理解にもとづき、課題を主体的、発展的に深めることができているかを評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回の授業終了時に示す事後課題（経験した授業内容と日常生活や自分自身とのつながり）と、予習課題（予告された授業テーマに関する調査や疑問点の整理）についてを合わせて取り組み、次回の授業時にレポートとして提出する。</p>				授業後に対応する。			
教科書・テキスト	太田光洋編『子どもの生活と遊びを創る保育の内容と方法』保育出版会、2016			受講生に望むこと	演習形式も交えるので、動きやすい服装を望む。		
参考書・参考資料等	小川清美他『演習 児童文化』萌文書林、2010			その他・特記事項	なし		

授業科目		教育原理					
担当教員	木山 徹哉・寺川 直樹			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>保育・教育の営みの歴史、理念、制度等について、基礎的・基本的な内容を学ぶ。具体的には、保育機関及び学校の成り立ち、保育・教育に関する思想、基本的法律と制度、保育及び学校教育の内容・方法、教育の今日的課題、などについて学び、今後の保育・教育の果たすべき、あるいは果たすことのできる役割機能について考え、保育者・教育者となる私たちが修得すべき知識や技能について一定の提案をする。</p>				<p>本授業の具体的な教育目標は、今日に至る保育・教育の営みの歴史（特に近代教育以降）に関する基礎的・基本的知識を習得すること、「児童の福祉」としての保育、教育の機会均等や義務教育、教育の理念や制度に関する基礎的・基本的知識を習得すること、保育・教育機関が今日の社会の変化のなかで果たすことのできる役割機能について自分の意見を述べること、以上の3点である。</p>			
教授方法	オムニバス講義を中心とするが、各テーマ（単元）ごとに質疑応答や討論を実施する。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：授業の概要、目標、及び評価について説明する。						
2	教育の思想（1） 近代以前の教育思想について解説する。ソクラテス、プラトン、コメニウス、ロックなどの教育思想を中心に。						
3	教育の思想（2） 近代以降の教育思想について解説する。ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトなどの教育思想を中心に。						
4	学校や保育機関の歴史（1） 世界や日本の学校や保育機関の成立から普及の経緯を中心に概説する。						
5	学校や保育機関の歴史（2） 日本の学校や保育機関の成立と展開 戦後から現在までを中心に						
6	第2回～5回までの内容を確認する小テストを実施する（30分）。子どもの歴史 - 子ども観、子どもの状態などに焦点を当てた歴史について解説する。						
7	前回の小テストの講評と質疑応答、並びに討論を実施する（40分）。保育・教育理念・目的を支えるしくみ（1） 学ぶ権利を保障する基本的法制度を中心に解説する。						
8	保育・教育理念・目的を支えるしくみ（2） 諸外国の教育制度との比較で、保育・教育における平等性や公平性を中心に解説する。						
9	子どもは何を学ぶか（1） 戦後の学力観及び教育課程の変遷について、幼稚園教育要領、保育所保育指針、並びに学習指導要領を中心に解説する。						
10	子どもは何を学ぶか（2） 生涯学習の理念と今後の学力保障を考える。アクティブラーニングのねらいや具体的方法、並びに課題などについても考える。						
11	第7回～第10回までの内容を確認する小テストを実施する（30分）。現代の保育・教育の課題（1） いじめ、不登校、教育格差等への対応を考える。質疑応答や討論を取り入れる。						
12	前回の小テストの講評と質疑応答、並びに討論を実施する（40分）現代の保育・教育の課題（2） 今後保育・教育が果たすべき役割機能を考える。質疑応答や討論を取り入れる。						
13	現代の保育・教育課題（3） 子ども - 大人関係をどのように捉えるか。これまでの授業内容を踏まえつつ、質疑応答や討論を行う。						
14	本授業の総まとめ。主たるキーワード（基本的知識）を確認するとともに、今後の保育・教育の課題（第11回～13回）を整理する。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	授業全体で習得した基本的知識を確認する。100点満点で60点以上を可とする。		小テスト	30	各テーマ（単元）ごとに習得した基本的知識を確認する。20点満点で12点以上を可とする。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストを事前・事後に読むこと。新聞報道などの教育時事の情報を収集すること。				授業中はもちろん、授業以外でもメール等で対応する。			
教科書・テキスト	『教育原論』（木山・太田編著）ミネルヴァ書房			受講生に望むこと	質疑応答や討論に積極的に参加すること。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		発達心理学					
担当教員	藤田 勉			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>ヒトの発達段階（胎生期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期）を知り、各発達段階における発達・成熟過程やそれぞれの段階でみられる特徴的な行動や学習、心理的な問題を学ぶ。特に、保育を实践する上で必要な乳幼児期の発達に関する知識を習得し、子どもへの理解を深めるとともに、子どもが他者との相互的にかかわりを通して発達していくことや初期経験の重要性について保育との関連でとらえる。</p>				<p>発達段階ごとの特徴を理解し、授業全体を通してヒトの発達と学習というものを総合的に考えることができる力を養う。本講義を受講することで、受講生には保育者（保育士、幼稚園教諭、母親、父親等）が留意すべき点を理解するとともに、受講生自身の保育者像を確立するための一助としてもらいたい。</p>			
教授方法	<p>原則的には講義形式で進められるが、口頭による説明だけではわかりにくいと思われる事項については視聴覚教材を用いて説明する。また、授業の中で新聞記事等の資料を紹介し、受講生に最新の情報を提供するとともに、受講生の感想・意見を発表してもらい討議の材料とする。受講生は授業時間以外で講義内容に関して予習・復習を行うことが求められる。今年度は学期中数回の小テストを実施する予定である。</p>						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	キックオフ（授業の目的、授業の概要、授業の形式、使用テキスト、成績評価の方法、授業のスケジュールなど）						
第2回	発達とはなにか（発達と発達段階、発達の原理）、発達と保育（保育者が発達について学ぶ意義）、子どもの発達の特徴						
第3回	胎生期から新生児期の発達の特徴（胎児期から新生児期の成長と影響する要因、知覚の発達、原始反射と原始行動）						
第4回	乳児期の発達の特徴（乳児期の発達と人間関係、愛着の発達、マターナルデプレッション、運動機能の発達、乳児期の言語発達）						
第5回	幼児期の発達の特徴（幼児期の発達と学習、学習としての遊び、自我のめざめ、第1反抗期）						
第6回	幼児期の身体発育と運動発達（身体発育機序、運動機能の発達と環境）						
第7回	幼児期の認知発達（中心化、三つ山課題、保存課題、アニミズム、相貌的知覚、実念論、人工論、幼児の数量観他）						
第8回	幼児期の思考と言語の発達（自己中心的思考、自己中心語、幼児音、書きことばの発達、鏡映文字、ことばの遅れ他）						
第9回	幼児期の社会性の発達（幼児の発達と人間関係、遊びと人間関係、学級集団での育ち合い）						
第10回	幼児期の発達の発達の特徴を踏まえた保育方法と評価（動機づけ、遊びの発達、保育における評価）						
第11回	児童期以降の発達（幼児期から児童期の接続、児童期の発達と学習、発達加速現象、発達勾配現象、徒党時代、青年期の発達）						
第12回	児童期以降の発達（成人期、老年期）						
第13回	子どもの発達障害の特徴とその対応について						
第14回	授業全体のまとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験（筆記）	50	筆記試験により授業内容の理解度を総合的に評価する。		小テスト（筆記）	35	筆記試験により授業内容の理解度を評価する（数回実施する予定）。	
授業貢献度	15	受講態度等により評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>この授業は60時間の授業外学習が必要である。授業に臨むにあたり、指定された教科書の該当箇所や参考資料等を事前に読んでおくこと。授業の中で配付する資料は専用サイトにアップロードする予定なので、授業時間外での学習の補助として利用してもらいたい。</p>				<p>質問・相談については、原則的には授業時間内で受け付け、当日もしくは後日回答する。その他必要な場合は、初回授業時間に伝えるメール・アドレスにて受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	『新版行動科学序説（新版5刷）』 藤田勉・藤田直子 世音社 2019 ISBN：4-921012-12-1			受講生に望むこと	本授業を受講することで、受講生には保育・幼児教育を心理学的にとらえる視点をもってもらいたい。		
参考書・参考資料等	『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《行動編》』藤田勉 ほおずき書籍 2012 ISBN：978-4-434-17206-9 『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《見方の“クセ”と“思い込み”編》』藤田勉 ほおずき書籍 2012 ISBN：978-4-434-17309-7			その他・特記事項	出席は授業開始時に確認する。授業開始後30分までは遅刻、それ以降は欠席とする。		

授業科目	こどもと音楽						
担当教員	大南 匠			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
ボディパーカッションの演奏、動きのアレンジを経て、オリジナル曲の制作を行う。また、ハンドベルや打楽器によるアンサンブルも行う。				1) 音楽表現活動の制作プロセスを「遊び」から体験し、保育現場で必要な音楽表現に関する知識や技術を習得する。 2) 領域「表現」を活動を通して理解する。			
教授方法	演習授業。グループ活動が中心となるが、グループの人数は活動内容によって異なる。第3～8回は1グループ8名、第9～13回は5名の活動を予定している。*状況により人数配分の変更あり。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	音楽ゲーム						
3	音と動きによる活動（ボディパーカッション）1						
4	音と動きによる活動（ボディパーカッション）2						
5	音と動きによる活動（ボディパーカッション）3						
6	音と動きによる活動（ボディパーカッション）4						
7	音と動きによる活動（ボディパーカッション）5						
8	音と動きによる活動（ボディパーカッション）発表						
9	ハンドベルによる活動1						
10	ハンドベルによる活動2						
11	ハンドベルによる活動 発表						
12	打楽器アンサンブル1						
13	打楽器アンサンブル2						
14	打楽器アンサンブル 発表						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	音楽ゲーム、ボディパーカッション制作ノート（プリント）		発表	50	ボディパーカッション（第8回）、ハンドベル（第11回）、打楽器アンサンブル（第14回）の発表を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業内で課題を制作できない場合は授業外に実施すること。楽器が必要な場合は事前に使用申請をすること。				授業内外で質問や相談を受け付ける。メールでも可。			
教科書・テキスト	プリントを適宜配布する。			受講生に望むこと	グループワークが中心となるため、グループで協力をして制作を行うこと。		
参考書・参考資料等	各自の状況に合わせて適宜、提示する。			その他・特記事項	なし		



授業科目		こどもと自然					
担当教員	前田 泰弘			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>こどもは自らを取り巻く環境とのかかわりの中から、さまざまなことを学んでいく。特に、自然とのかかわりはそれがもつ可塑性の高さから情操や思考を育む上で優れた教材である。本講では、保育者自身が自然を感じる力を養うとともに、こどもが自然とのかかわることによる発達への効果について考えていく。また、こどもが主体的な遊びの中で見せる環境とのかかわり方やとらえ方、またそれらを促す保育者の配慮や役割について、自然を中心とした受講生自身の直接体験と、その結果のグループ討議を基に考えていく。さらに、国内外で行われる自然を通じた保育・教育の実際や、小学校教科科目である生活科を理解することにより、それへの滑らかな連携としての就学前における自然の教育的取り扱いについて理解を深める。</p> <p>担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。授業では事例を交えることで、実践的な理解が促されるようにしている。</p>				<p>○自然が子どもの育ちに与える効果について考え、それを保育の中で効果的に実践するための知識と方法を実践的に学ぶことをねらいとする。</p> <p>○子どもの興味・関心や育ちに応じて、適宜自然を素材として提示するための基礎的知識を習得することを到達目標とする。</p>			
教授方法	ICTによる提示資料を用いた講義のほか、自然を中心とした受講生自身の体験やそれをもとにしたワークなどを通して授業を進めていく。						
履修条件	生活科・理科を中心とした小学校での学習教科の内容について、改めて確認をしておくことが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	子どもの育ちと自然環境 -自然を利用した保育活動-						
2	かかわる力をはぐくむ -主体的な環境とのかかわり-						
3	環境としての自然（1） -身近な環境にある自然-						
4	環境としての自然（2） -園内環境における自然-						
5	身体感覚を利用した自然とのかかわり -自然を感じる活動を楽しむ-						
6	環境としての自然（3） -栽培活動の理解-						
7	環境としての自然（4） -植物の生育と条件-						
8	環境としての自然（5） -小動物の理解-						
9	季節を感じる -自然を感じる活動を楽しむ-						
10	小学校「生活科」を知る -小学校「生活科」の内容の理解-						
11	環境としての自然（6） -自然の素材を利用した保育活動-						
12	特徴のある保育・教育方法と自然 -野外環境や自然を用いた保育・教育-						
13	自然を利用した保育（1） -自然を用いた保育活動の検討-						
14	自然を利用した保育（2） -園内環境を用いた保育計画の立案-						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
試験	80	授業を通して学んだ知識と援助技術について習得状況を確認する。			課題	20	授業内におけるグループワークへの参加状況をもとに評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
自身がこれまでに体験してきた自然に関するあそびや活動を思い出し、整理しておいて欲しい。				授業前後を中心に適宜受け付ける。			
教科書・テキスト	『子どもが育つ環境と保育の指導法』（保育出版会）			受講生に望むこと	季節を感じて生活することを意識して欲しい。		
参考書・参考資料等	『子どもと自然』（岩波新書）			その他・特記事項	野外で活動をすることもある。準備物は適宜伝える。 担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。		

授業科目		児童家庭福祉					
担当教員	中山 智哉			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>わが国の児童福祉は、すべての子どもがよりよく生きられ、自己実現が保証されることを目指し、その時代に応じた法制度や実践の展開がなされている。しかし一方で、子ども家庭をめぐる諸問題は依然として生じており、児童福祉の一翼である保育現場が担う役割も大きい。本講義では、児童福祉の理念と意義、子ども家庭の現状、児童福祉各分野の課題把握を基礎とし、現代社会における子ども家庭を支援するための保育者として必要な児童福祉に関する知識を体系的・構造的に理解することを目的とする。</p>				<p>ねらい 児童福祉の理念と意義、子どもたちの現状、児童福祉各分野の現状把握を基礎とし、現代社会における児童の位置づけを全体的に把握すること。</p> <p>到達目標 児童福祉の理念と意義、子どもたちの現状、児童福祉各分野の現状を理解する。 保育者として必要な児童福祉に関する知識及び考え方を体系的・構造的に理解する。 児童家庭福祉を担う専門職と支援技術について理解する。</p>			
教授方法	講義を中心に行う。毎回レジュメを配布する。児童福祉の実情を理解するため視覚教材を用いる回もある。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	児童福祉の理念、意義について解説する。						
第2回	児童福祉の歴史的展開、また現在の子どもの家庭を取り巻く環境について解説する。						
第3回	児童福祉の法体系、制度について解説する。						
第4回	児童福祉にかかわる機関、施設の概要について解説する。						
第5回	児童虐待問題について、その実態の理解および虐待防止のための施策と課題について解説する。						
第6回	子どもの養護について考える。関連する児童福祉施設について解説する。						
第7回	子どもの養護について考える。里親制度等の家庭的養護について解説する。						
第8回	障がい福祉について考える。制度や関連施設について解説する。						
第9回	少年非行と児童福祉施策、情緒障がいと児童福祉施策について解説する。						
第10回	保育・子育て支援・次世代育成支援について解説する。						
第11回	児童福祉の人材について解説する。併せて、専門職間のネットワークについて解説する。						
第12回	児童福祉援助活動における専門技術について、事例検討を含み解説する。						
第13回	児童福祉における保育者の位置づけについて、今後の課題や展開を含め考える。						
第14回	授業総括、試験						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	筆記試験の点数			中間レポート	10	レポートの内容
出席	10	出席状況					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回指定された課題・問題に取り組む。 配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。</p>				<p>質問等がある場合は、授業内もしくは研究室で受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	なし			受講生に望むこと	本講義の理解を深めるためには、新聞やテレビで日々の子どもの家庭に関するニュースに触れることが効果的である。		
参考書・参考資料等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目	こどもと運動						
担当教員	白澤 舞			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
乳幼児期における運動機能の発達と習熟過程について理解するとともに、子どもたちが心と身体を積極的に動かして生活したり遊んだりすることを支える保育者の役割と指導方法を学ぶ。そのために、自らの身体を使ってさまざまな環境下での多様な活動を体験し、身体を動かすことの意味を理解する。また、事例検討や教材研究、指導計画の立案を行うことで、どのような内容を組み立て、どのような配慮を持って環境の設定や援助をしたらよいかについて具体的な実践の方法を学ぶ。				1) 乳幼児期の運動機能の発達の特徴を理解し、説明することができる。 2) 子どもの運動能力を育てる保育者の援助について理解し、説明することができる。 3) 運動能力の育ちを安全に支え、豊かにするための方策について思考することができる。 4) 運動能力の育ちに関わる教材の制作、活用ができる。			
教授方法	実技を伴う演習形式の授業である。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	子どもの運動機能の発達と習熟過程						
2	子どもの生活と運動（子どもの活動を観察する）						
3	身体を動かすことを知る～いろいろな環境下で動いてみる～						
4	身体を動かすことを知る～人・物と一緒に動いてみる～						
5	ルールのある遊びの実践と留意点						
6	物を使った遊びの実践と留意点（既成の遊具・用具を使って）						
7	物を使った遊びの実践と留意点（身近な物を使って）						
8	戸外での遊びの実践と留意点（園庭・公園での遊び）						
9	戸外での遊びの実践と留意点（自然の中での遊び）						
10	運動会への展開を意識した実践と工夫						
11	保育の展開（年齢に応じたねらいを考え、教材研究を行う）						
12	保育の展開（導入・展開・まとめの流れ、環境の設定と留意点を明確にし、指導計画を組み立てる）						
13	保育の展開（相互に指導計画を共有し、討議を行う）						
14	まとめと総括						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	0			小テスト	0		
授業レポート	30	期末レポート課題		上記以外の授業評価	70	授業内の活動への取り組み（活動記録・討議）30% 指導計画・実施・評価記録40%	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教材研究や指導計画の作成、発表準備、記録の作成など。				授業時およびオフィスアワーに受け付けます。メールでも対応します。連絡先については授業内にお知らせします。			
教科書・テキスト	特に定めなし。必要に応じてプリントを配布する。			受講生に望むこと	運動の得意不得意、好き嫌いにかかわらず、どのようにしたら楽しく身体を動かせるかを毎時考えながら受講してください。		
参考書・参考資料等	参考書：『幼児期における運動発達と運動遊びの指導』杉原隆、河邊貢子著（ミネルヴァ書房） その他、授業の中で紹介する。			その他・特記事項	3回～13回の授業は、運動のできる服装で参加してください。		

授業科目	保育者論				
担当教員	荒井 聡史・太田 光洋		必修・選択	必修	単位数 2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義 科目ナバリング
対象学生	こども	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）		
教職（保育者）の意義、保育者養成制度の概略、保育者の役割と倫理、専門性と職務内容、保育者の研修・専門性向上、地域との連携の重要性と必要性等、保育者としてのあり方について学ぶ。担当教員の太田は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めており、学習内容を保育の実際と結びつけながら理解を深められるようにする。			教職・保育職の意義、保育者としての役割と倫理、具体的な職務内容などについて理解を深め、保育者としてのあり方について主体的に考え、判断し、行動できるようになる		
教授方法	講義。一部ディスカッションを含む。				
履修条件					
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	講義概要とオリエンテーション				
2	教職、保育職の意義と重要性 教育基本法、学校教育法、児童福祉法から教職、保育職の重要性を考える				
3	現代の保育制度と保育職 現代の保育制度における保育者の位置づけ				
4	保育者養成制度 保育者養成、資格・免許、任用の仕組み				
5	保育者の仕事（1） 保育者の職務、責任と倫理				
6	保育者の仕事（2） 教えることと学ぶこと				
7	保育者の資質向上と研修、服務、身分保障				
8	保育者の専門性（1） 保育と教育				
9	保育者の専門性（2） 保育の計画・実践・評価				
10	保育者の専門性（3） 学級経営、保護者支援				
11	保育者の専門性（4） 地域支援、地域・関係機関との連携と協働				
12	保育者観と理想の保育者像				
13	保育者の成長とキャリア形成				
14	保育職への期待と課題 グループディスカッションとまとめ				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50	授業全体を通じて習得した知識の状況を確認する。	授業レポート	50	授業内小レポート
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>次回の授業内容に関連する教科書該当部分、事前配布資料を読み、予習カードを作成する。</p> <p>毎回指定された課題・問題に取り組む。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。</li> </ul>		
教科書・テキスト	木山徹哉 / 太田光洋 編著『教職論』ミネルヴァ書房、2017年。		受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭免許、保育士資格という社会的地位の取得に関わる授業であるため、受講生には主体的・積極的な受講態度を望む。</li> </ul>	
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。また、授業中に適宜資料を配布する。		その他・特記事項	<p>実践記録・新聞記事等を読み、保育・幼児教育の現状を把握する。また、テキスト、資料、参考図書などを活用し、保育者のあり方について深く考えること。</p> <p>担当教員の太田は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めるなどの実務経験を有している。</p>	

授業科目	社会福祉概論						
担当教員	尾島 豊			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>社会保障の体系を概観した上で、母子保健を例に主な人口動態の指標を学ぶ。次に福祉の歴史を概観してから、各論として、児童福祉（子育て支援と養護問題を中心に）、障害児・者福祉、高齢者福祉（介護保険を中心に）の各サービスを検討して、最後に生活保護と貧困の現状を学ぶ。</p>				<p>主な社会福祉サービスの各分野の現状と主な制度を概観する。理解の目標は、保育士として仕事をする上で最低限の知識を修得することにある。</p>			
教授方法	講義形式で、各分野のダイジェストを伝え、また簡単なレジュメを配布する。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	社会保障の体系と社会福祉の概念						
2	主な人口動態の指標と母子保健						
3	社会福祉の歴史 - 戦前のイギリスと日本						
4	社会福祉の歴史 - 戦後の流れ						
5	社会福祉の歴史 - 1990年代以後						
6	児童家庭福祉 - 児童福祉から児童福祉へ						
7	児童家庭福祉 - 社会的養護と児童虐待						
8	児童家庭福祉 - 障害児福祉と母子福祉						
9	障害者福祉 - 身体障害者・知的障害者・精神障害者の各福祉と障害者総合支援法						
10	障害者福祉 - 発達障害について						
11	高齢者福祉 - 介護保険制度について						
12	地域福祉と利用者保護、権利擁護						
13	生活保護制度						
14	子どもの貧困問題						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題レポート	80	関心のある分野についての現状と課題			出席等	20	出席状況と授業への参加度
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
関心のある領域の学習、ワークショップ等への参加				リアクションペーパーに記載、翌週に回答する。			
教科書・テキスト	社会福祉概論（第4版）- 現代社会と福祉			受講生に望むこと	関心のある領域の学習、ワークショップ等への参加		
参考書・参考資料等	講義をまとめたレジュメを配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	こども学				
担当教員	荒井 聡史・木山 徹哉・山本 直樹		必修・選択	必修	単位数 2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義 科目ナバリング
対象学生	こども	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）		
<p>多様な視点から子どもという存在を捉え直し、従来の子どもをめぐる言説の批判的再検討を行う中で、保育実践の基礎となる子ども観を深めていく。</p> <p>セッション1では心性史と呼ばれる歴史学の視点にもとづき、絵画や映画などの多種多様な資料を通して、人々の日常生活の中に潜在している子どもという存在についての意識を描き出す。</p> <p>セッション2では日本における子ども論の展開および、教育思想の潮流を紹介し、子どもの生活世界から子どもという存在を捉え直す。</p> <p>セッション3では子どもの表現活動に着目し、個々の子どもたちの表現が織り成す文化のなかで自己形成する子どもの姿を描き出す。</p>			<p>従来の子どもをめぐる言説を批判的に再検討することを通して、受講者が保育実践の基礎となる子ども観を子どもの具体的な生活に即して深めることができるようになることを目標とする。</p>		
教授方法	講義、オムニバス形式。プレゼンテーションソフトによる講義を中心に、豊富な視聴覚教材を活用して授業を実施する。				
履修条件	特になし。				
<b>授 業 計 画</b>					
実施回	授業内容				
1	本講義のガイダンス				
2	(セッション1) 歴史の中の子ども 絵画や映画に描かれる「子ども」(子どもの歴史や現状を見る方法)				
3	(セッション1) 歴史の中の子ども ph.アリエスの子ども期を題材に				
4	(セッション1) 歴史の中の子ども 日本の子どもの歴史(1) - 近代以前				
5	(セッション1) 歴史の中の子ども 日本の子どもの歴史(2) - 近代~現代				
6	(セッション2) 子ども学の理論的枠組み 子ども論の誕生と展開				
7	(セッション2) 子ども学の理論的枠組み 「子どもの人間学」と臨床教育学				
8	(セッション2) 子ども学の理論的枠組み 「子どもの生活世界」という視点				
9	(セッション2) 子ども学の理論的枠組み 現代社会における子どもの生活世界の課題				
10	(セッション3) 子どもの文化から見た子ども 表現の発達: 表れと表し				
11	(セッション3) 子どもの文化から見た子ども ごっこの世界				
12	(セッション3) 子どもの文化から見た子ども 劇的本能: 坪内逍遙の児童教育論より				
13	(セッション3) 子どもの文化から見た子ども 遊びとコミュニケーション				
14	本講義のまとめと確認				
<b>共通の評価基準</b>					
<b>成績評価方法と基準</b>					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
小テスト	90	各セッション終了後に行う筆記試験(30点満点)3回を通じて授業内容の理解度を評価する。	授業レポート	10	授業内容全体の理解にもとづき、課題を主体的、発展的に深めることができているかを評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
<p>次回の授業内容に関連する資料等を読み、授業内容についての問題意識を持つ。毎回指定された課題・問題に取り組む。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・毎回授業内で前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。</li> </ul>		
教科書・テキスト	使用しない。		受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士資格という社会的地位の取得に関わる授業であるため、受講生には主体的・積極的な受講態度を望む。</li> </ul>	
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。また、授業中に適宜資料を配布する。		その他・特記事項	日頃からテキスト、資料、参考図書、新聞記事等を読み、子どもをめぐる問題についての知識と理解を深めるとともに、自己の持つ子ども観について深く考えること。	

授業科目		こどもと造形					
担当教員	宮城 正作			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本授業では、こどもの造形活動の発達や展開、保育者としての支援のあり方について学ぶ。とくに、「色彩・形態・材質」、「材料・用具」、「安全・衛生面」、「言葉掛け」などについて、幼児造形活動を支援するという観点から理解を深めていく。また、講義による知識の獲得を最終目標とするのではなく、学んだ知識を実制作を通して活用することで、受講者が知識や技術を技能として定着できるように授業を進行する。くわえて、実制作から知識を引き出すような展開も重視する。</p>				<p>保育者としてこどもの造形活動を支援する際に必要な知識と技術を、技能として身に付ける。</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式でおこなう。						
履修条件	とくになし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	<p>「花冠をつくろう！ 基本編」 ・配色に着目して、お花紙を用いた花冠作りに取り組む。</p>						
2	<p>「花冠をつくろう！ 応用編」 ・基本の紙花の作り方をもとに、オリジナルの花冠を制作する。</p>						
3	<p>「花冠をつくろう！ 完成編」 ・基本の紙花の作り方をもとにオリジナルの花冠を完成させ、できた作品の撮影をおこなう。</p>						
4	<p>「オリジナルシールをつくろう！ シール制作編」 ・シールを用いた幼児造形活動の展開方法について学ぶ。</p>						
5	<p>「オリジナルシールをつくろう！ シール活用編」 ・前回制作した手作りシールを、グリーティングカードの装飾材料として活用することで、</p>						
6	<p>「描画材の基礎知識 絵の具編」 ・こどもの造形活動に適した描画材について、こどもの発達段階や安全・衛生面、基底材との関係に着目して学ぶ。</p>						
7	<p>「描画材の基礎知識 クレヨン・マーカー編」 ・こどもの造形活動に適した描画材について、こどもの発達過程や安全・衛生面、基底材との関係に着目して学ぶ。</p>						
8	<p>「こどもの平面表現の発達過程」 ・こどもの平面表現の発達過程について講義を中心に解説する。</p>						
9	<p>「こどもの立体表現の発達過程」 ・こどもの立体表現の発達過程について講義を中心に解説する。</p>						
10	<p>「色の基礎知識 色水遊び編」 ・色の三要素である「色相・彩度・明度」について、「色水遊び」とおして学ぶ。</p>						
11	<p>「色の基礎知識 名札づくり編」 ・こどもの色彩感覚に着目しつつ、配色について「名札づくり」を通して学ぶ。</p>						
12	<p>「モダンテクニックとコラージュA」 ・コラージュに使用する手づくり色紙を、モダンテクニックを用いて制作する。</p>						
13	<p>「モダンテクニックとコラージュB」 ・手づくりの色紙を用いて、コラージュ作品を制作する。</p>						
14	<p>「モダンテクニックとコラージュC」 ・手づくりの色紙を用いて、コラージュ作品を制作する。</p>						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
筆記試験	60	講義で解説した内容、配布したプリントの内容、制作をおして得られた知識や技術に関する問題を出題する。		課題作品の提出	40	授業内で制作した課題作品を「記録シート」とともに評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
各作品を完成させるための時間は、授業時間のみでは確保できませんので、授業外の時間も利用して制作してください。				質問は随時受け付ける。 miyagi.masanari@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	とくに使用しない。			受講生に望むこと	あなたの「好き」「楽しい」「面白い」という気持ちを、造形活動をおして表現してください。そのことが、子どもの造形活動を支える一歩目です。		
参考書・参考資料等	プリントを毎回配布します。			その他・特記事項	とくになし。		

授業科目	小児保健				
担当教員	宮崎 紀枝		必修・選択	選択	単位数 2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	講義 科目ナバリング
対象学生	こども	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）		
こどもの健康課題の歴史の変遷、こどもを取り巻く法的根拠を確認し、母子保健や児童福祉の理念を理解する。新生児から思春期までの成長・発達を学び、発達段階に必要な養護を理解する。また、こどもの日常生活を理解し、生活環境がこどもの成長発達に及ぼす影響を理解する。担当教員は、地域における保健師・助産師の実務経験を有しており、多職種間連携等の実務に活かすことのできる視点を教授できる。			<ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの健康課題の歴史の変遷、こどもを取り巻く法的根拠等から母子保健や児童福祉の理念を学ぶ。</li> <li>健康なこどもの発育・発達の知識を修得する。</li> <li>健やかなこどもの発達のために整える環境を理解する</li> </ul>		
教授方法	講義（一部グループワーク、演習を含む）				
履修条件	とくになし				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	こどもの健康課題とその対策のあゆみ				
2	日常生活の重要性と母子保健や児童福祉の理念				
3	こどもの成長発達と健康生活				
4	こどもの成長発達と健康生活				
5	こどもの成長発達と健康生活				
6	こどもの成長発達と健康生活				
7	こどもの成長発達と健康生活				
8	こどもの成長発達と健康生活				
9	こどものこころの健康				
10	こどものこころの健康				
11	子育てを支援する社会資源（母子保健サービス）				
12	子育てを支援する社会資源（保護者会や自主グループの活動）				
13	健やかなこどもを育てる社会づくりを考えよう（グループワーク、エコマップづくり）				
14	健やかなこどもを育てる社会づくりを考えよう（グループ発表）・まとめ				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	本学の成績評価基準に準ずる（定期試験・発表等の合計点）	グループ発表	20	グループ参加度、資料、発表等
授業態度	減点	欠席、遅刻、提出物等			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
図書館にある文献・視聴覚教材を活用し、事前・事後学習で授業内容を深めることを推奨する			オフィシアワーにて対応		
教科書・テキスト	松田博雄・金森三枝：子どもの保健.中央法規		受講生に望むこと	根拠に基づく保育のための基礎的な知識です。「なぜ？」を考え学びを深めよう。	
参考書・参考資料等	鈴木美枝子編：子どもの保健1.創成社 村松十和・岡本美和子：子どもの保健.樹村房 その他、学習資源については順次紹介する		その他・特記事項	とくになし	



授業科目		海外プログラム			
担当教員	前田 泰弘・小笠原 明子・安氏 洋子・渡邊 望	必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習
対象学生	こども	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）		
<p>子育てや子どもの発達支援および自然保育について先進的な取り組みを行うフィンランド共和国に滞在し、その取り組みを実際・実践的に理解する。本講では、その事前指導として北欧地域における社会福祉や教育の制度、子育てに関する思想や文化、渡航に関して必要な文化や習慣、生活技術などについて理解する。滞在中は、フィンランド共和国の子育てや保育、保育者の役割の理解などについての講義を受けるほか、一般保育施設における参加実習、自然保育の体験実習などを行う。事後指導では、滞在中で学んだ学習内容の省察と報告書の作成、報告会を行い、自らの保育技能への昇華を図るとともに、本邦の保育の現状に対する俯瞰的な視野からの理解とその改善に対する考察を行う。</p> <p>担当教員の前田は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。授業では事例を交えることで、実践的な理解が促されるようにしている。</p> <p>担当教員の小笠原は、保育現場における保育の実務経験を有しており、子どもの発達状況や保育士のかかわり方など、実践での事例を交えながら授業を展開し、学生自身が様々な面から子どもを考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>			<p>国外の保育事情やその背景となる文化や思想の実際を知り、子どもの発達支援・保育に関する視野を広げる。また、海外での滞在経験から問題解決を実践的に体験する。このことにより、自らの問題解決能力やコミュニケーション能力を省察するとともに、保育観や保育に対する意欲・態度を深化させることをねらいとする。</p>		
教授方法	事前事後指導（第1回～第4回、第12回～第14回）は講義形式で行う。現地（第5回～第11回）では、現地保育者養成校での講義や演習、現地保育施設での実習などを行う。				
履修条件	本プログラム参加のための所定の手続きを完済していること。				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	海外プログラムの概要と意義				
2	フィンランド共和国の文化・思想				
3	フィンランド共和国の社会福祉と教育制度				
4	海外プログラムの心構えと準備				
5	現地講義 -フィンランド共和国の保育・幼児教育の実際-				
6	現地講義 -フィンランド共和国の子育て・社会福祉の実際-				
7	現地講義 -フィンランド共和国の保育者養成課程の実際-				
8	参加実習 -一般保育所での保育体験-				
9	参加実習 -一般保育所での保育体験-				
10	参加実習 -自然保育体験-				
11	参加実習 -自然保育体験-				
12	現地での体験の振り返り				
13	体験報告書、報告会の準備				
14	体験報告会				
共通の評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
課題	50	事前指導および現地研修への参加の様子、現地で日々提出を課す振り返りシート（日報）の内容を評価する。	課題	50	帰国後に提出を課す報告書、体験報告会の内容を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
フィンランド共和国の文化、教育・保育等について、積極的に事前学習を行うこと。			授業の前後を中心として、適宜受け付ける。		
教科書・テキスト	資料を配布する。		受講生に望むこと	本邦の保育・幼児教育・社会福祉（児童福祉）についても、事前に十分理解しておいて欲しい。	

参考書・ 参考資料等	授業時に紹介する。	その他・ 特記事項	簡単なフィンランド語を学んでおく、現地での生活や子どもとかかわる際に活用できる。 担当教員の前田は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。 担当教員の小笠原は、保育現場における保育の実務経験を有しております。
---------------	-----------	--------------	--

授業科目	社会的養護						
担当教員	尾島 豊			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
社会的養護の意義、制度や実施体系及び児童や利用者の権利擁護について、児童福祉施設の今日的動向にふれながら学ぶ。社会的養護を要する児童や家庭等の現代的な背景、児童養護施設・乳児院等の児童福祉施設・里親制度等の歴史、現状、課題等を学ぶことにより、保育士の役割等を考え、理解する。				社会的養護問題（障害児・者を含む）の歴史と現状、そして課題を学び、社会的養護の意義と必要性について理解することが目的。虐待ケースの支援過程や、児童相談所の運営、児童福祉施設の実際を学びながら理解する。学習の目標は、保育士として必要な社会的養護の知識を習得することにある。			
教授方法	講義形式と場合によってDVD等視覚教材を使用。また現場の職員を呼んで各分野における現状と課題について話を聞き、議論する。						
履修条件	児童福祉論を聞いていること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	社会的養護の基礎的な概念と分野、及び本講義で扱う分野について						
2	社会的養護の意義の理解 - 家庭問題と社会的養護						
3	社会的養護の意義の理解 - 児童の権利と社会的養護						
4	社会的養護の意義の理解 - 子どもの貧困と社会的養護						
5	社会的養護の歴史 - 明治・大正期						
6	社会的養護の歴史 - 昭和・戦後期						
7	社会的養護の歴史（現状） - 児童虐待防止法とその改正 -						
8	社会的養護の分野で働くということ（外部研修を予定）						
9	社会的養護の分野で働くということ（外部研修を予定）						
10	社会的養護の課題 - 小規模ケア・リーピングケア・自立支援・家族統合-						
11	社会的養護の課題 - 児童養護施設における処遇の現状と課題-						
12	社会的養護の課題 - 乳児院における処遇の現状と課題-						
13	障がい児・者施設における支援の現状と課題						
14	テスト						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
最終講義でのテスト	50%	基礎的な概念の理解度			課題レポート	40%	講義で扱った各施設・機関の理解度
授業への参加度	10%	出欠席、授業への参加度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
紹介する外部研修への参加。ゲスト講師の話に関する理解を深める。				リアクションペーパーに記載。翌週に回答。			
教科書・テキスト	「社会的養護（ ）みらい			受講生に望むこと	紹介する外部研修への参加。ゲスト講師の話に関する理解を深める		
参考書・参考資料等	ゲスト講師の配布資料			その他・特記事項	時になし。		



授業科目		こどもの食と栄養						
担当教員		上延 麻耶		必修・選択	選択	単位数	2単位	
履修年次		3年	開講学期	3 学期		授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生		こども	関連資格					備考
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）				
<p>子どもの健全な成長・発達に欠かすことができない栄養に関する基本的事項を学習する。また、子どもの成長・発達と栄養・食生活との関係を理解し、発育段階に応じて適切な食生活の支援ができる知識と技術を修得する。さらに、特別な配慮を必要とする子どもの栄養、児童福祉施設における食事、食育の基本的事項などについて理解し、実践につなげる力を養う。</p>				<p>栄養に関する基本的知識を修得し、子どもの成長・発達における栄養・食生活の意義や特徴、関連性を理解し、発育段階に応じた食生活の支援ができる知識と技術を獲得する。また、特別な配慮を必要とする子どもの栄養や児童福祉施設における食事、食育の基本的事項などについて学び、実践につなげる力を養う。</p>				
教授方法		講義および実習形式で行う。						
履修条件		特になし						
授 業 計 画								
実施回	授業内容							
1	子どもの健康と食生活の意義							
2	栄養に関する基本的知識							
3	栄養に関する基本的知識							
4	栄養に関する基本的知識							
5	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活							
6	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活							
7	幼児期の心身の発達と食生活							
8	幼児期の心身の発達と食生活							
9	学童期の心身の発達と食生活							
10	食育の基本と内容							
11	地域や家庭と連携した食育の展開							
12	家庭や児童福祉施設における食事と栄養							
13	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養							
14	特別な配慮を必要とする子どもの食事							
共通の評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	60	授業内容の理解度、目標到達度を評価する。			小テスト	20	単元ごとに学習内容の理解度を評価する。	
授業レポート	20	テーマに沿って内容がまとめられているか、調べた内容を正確に理解しているかを評価する。						
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応				
指定された課題に取り組む。				質問は講義の前後や講義中に受け付ける。授業のはじめに、前時の講義内容に関する質問や意見に対するコメントをする。				
教科書・テキスト	最新子どもの食と栄養－食生活の基礎を築くために－、飯塚美和子他、学健書院、2020			受講生に望むこと	主体的に取り組むこと。			
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する。			その他・特記事項	特になし			

授業科目	小児保健						
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
こどもの健康課題の歴史の変遷、こどもを取り巻く法的根拠を確認し、母子保健や児童福祉の意義を理解する。新生児から思春期までの成長・発達を学び、発達段階に必要な養護を理解する。また、こどもの病気・事故・ケガなどに関する知識を学び、予防方法や対処方法の知識、こどもの健康状態の把握方法について学ぶ。				<ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの健康課題の歴史の変遷、こどもを取り巻く法的根拠等から母子保健や児童福祉の理念を理解する。</li> <li>健康なこどもの発育・発達の知識を修得する。</li> <li>健やかなこどもの発達のために整える環境を理解する</li> <li>乳幼児がかかりやすい病気・事故・ケガを、その予防方法や対処方法と共に知識を学ぶ</li> </ul>			
教授方法	講義、演習、グループワーク、グループ発表						
履修条件	とくになし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 健康の概念と指標 母子保健のあゆみ						
2	こどもの身体発育について						
3	こどもの運動機能の発達						
4	こどもの生理的機能の発達						
5	健康状態の観察と早期発見						
6	こどもの主な疾病と予防						
7	こどもの主な疾病と予防						
8	障がいをもつこどもとの関わりの実際（合同6/25）						
9	こどもが遭遇しやすい事故とその予防						
10	児童相談所からみえる家庭環境の実際（合同）						
11	こどものこころの健康						
12	健やかなこどもを育む社会資源 グループ発表						
13	健やかなこどもを育む社会 グループワーク（エコマップづくり）						
14	健やかなこどもを育む社会 グループ発表とまとめ						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	グループ発表と合計し100点満点とし大学の基準に準ずる			グループ発表と資料	20	定期試験と合計し100点満点とし大学の基準に準ずる
授業態度	減点	欠席、遅刻、提出物					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
グループ発表のための学習及び資料づくりなど				質問や相談は授業終了後確保する			
教科書・テキスト	松田博雄、金森三枝編 子どもの保健 中央法規			受講生に望むこと	積極的に事前事後学習し発言してほしい		
参考書・参考資料等	参考書は随時紹介する			その他・特記事項	一部、3年生と合同で行う		

授業科目	自然保育論					
担当教員	小笠原 明子		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	子ども	関連資格		備考		
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>自然の中には子どもの動機づけや創造性を高める素材が多く存在しており、子どもの興味や状況に応じた活動の設定が可能である。このような条件を備えた自然環境を生かした保育は、子どもが潜在的にもつ感覚を自らの感性とベースで発揮することを可能としていく。自然とのかかわりの中で実際にどのような活動が行なわれるのか考え、さらに、それらを促す保育者の配慮や役割について考える。</p> <p>担当教員は、保育現場における保育の実務経験を有しており、子どもの発達状況や保育士のかかわり方など、実践での事例を交えながら授業を展開し、学生自身が様々な面から子どもを考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>			<p>子どもは自然の中で過ごすことで、その変化を自らの感覚を通して感じ取り、自発的にかかわるようになる。このような自然を通じた保育は子どもの育ちを支える基盤になると言える。本講では自然を保育の教材とし、それを保育の中で豊かに生かせるよう、自身の経験も踏まえて探求することを目標とする。</p>			
教授方法	講義形式で実施し、各講義において演習課題を設け授業の内容の理解を深め、実践に結びつくようにする					
履修条件	特になし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容					
1	保育所保育指針・幼稚園教育要領における「自然」とは					
2	自然環境を生かした保育（自然活動を通じた子どもの学び：乳児期・幼児期）					
3	自然環境を生かした保育（保育の実践方法：乳児期・幼児期）					
4	自然環境を生かした保育（自然体験学習の内容：乳児期・幼児期）					
5	保育の計画に基づいた自然体験学習と方法					
6	小学校への連携（小学校学習指導要領における「自然」とは）					
7	総括（知識の確認とまとめ）					
<b>共通の評価基準</b>						
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	70%	講義内容を理解できているか		授業レポート	30%	自身の考えを述べているか
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
今後の実習に繋げる（目標と課題の明確化）				随時対応する		
教科書・テキスト	講義において適宜紹介する			受講生に望むこと	自然に興味をもち受講してほしい	
参考書・参考資料等	適宜資料を配付する			その他・特記事項	担当教員は、保育現場における保育の実務経験を有しております。	

授業科目	音楽表現演習						
担当教員	大南 匠			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
読譜のための必要な基礎的な音楽理論とコードを理解する。また、キーボードを使った子どもの歌の弾き歌いがスムーズにできるように練習し、人前で演奏することに慣れる。				楽語、記号などの基礎的な記譜法、音程を踏まえた上でダイアトニック、7th、6th、sus4などのコードを取り上げる。弾き歌いについては、コード譜による子どもの歌の弾き歌いの他、簡易伴奏、正規伴奏に触れる。さらに、ハンドベル、トーンチャイムによるアンサンブルも実施する。			
教授方法	第1回～第7回までは全体、第8回から第14回までは音楽歴確認アンケートを基にしたグルーブレッスンを実施する。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 記譜法1						
2	音楽理論1 記譜法2						
3	音楽理論2 幹音間の音程						
4	音楽理論3 派生音を含む音程						
5	音楽理論4 ダイアトニックコード						
6	音楽理論5 7thコード、6thコード						
7	理論まとめ・試験						
8	子どものうたの弾き歌い11						
9	子どものうたの弾き歌い12						
10	子どものうたの弾き歌い10						
11	子どものうたの弾き歌い11						
12	子どものうたの弾き歌い12						
13	子どものうたの弾き歌い13						
14	子どものうたの弾き歌い14						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
筆記試験	50	音楽理論の筆記試験			実技試験	50	コード譜による弾き歌いの演奏技術の評価する。楽譜の指示通りに演奏しているか、歌唱と伴奏のバランスを考えているか、演奏の丁寧さなどを総合的に
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
15曲を目標にレパートリーを作る。課題を準備することだけでなく、復習もすること。				授業内でも、授業外でも質問や相談を受け付ける。メールでも可。			
教科書・テキスト	プリントを適宜配布する。			受講生に望むこと	理論については段階的に進めていくのでわからないことがあれば授業外でもいいので遠慮せずに質問すること。弾き歌いについては短い時間でいいので毎日、演奏する時間を作って欲しい。		
参考書・参考資料等	各自の状況に合わせて適宜、提示する。			その他・特記事項	なし		



授業科目		保育内容（言葉）					
担当教員	渡邊 望			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>保育内容（言葉）では、他の領域との関連性をふまえながら、生きる力の基礎としての言葉の役割について理解するとともに、養育者（母親・家族・保育者）や、仲間との豊かなことばの環境の中で言葉を獲得していくことを学ぶ。また、それらをもとに言葉の豊かな育ちにかかわる保育内容と指導法について、絵本や紙芝居などの、実際の児童文化財などに触れながら理解を深め、言葉に対する感覚を養つための実践力を育む。</p>				<p>1．ことばの機能や言葉の持つ意味について理解する。 2．ことばの発達過程について理解するとともに、それを支える保育者の在り方を身に付ける。 3．領域「言葉」の内容及び他領域との関わりを理解する。 4．児童文化財に積極的に触れ教材研究を行うとともに、活用する力を身に付ける。</p>			
教授方法	講義で行う部分と、受講者が実際に読んだり、演じたり、発表したりする部分を設け、実際の保育現場での展開方法についても検討していきます。積極的に参加するように心がけてください。						
履修条件	「保育原理」や「発達心理学」で学んだこと、保育の基本的な考え方や育ちの道筋について、理解していることを前提に授業を進めます。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 授業のねらいと内容、進め方について						
2	領域「言葉」のねらい、内容、内容の取扱い、領域保育内容言葉における、ことばの機能、ことばが持つ意味の理解						
3	領域保育内容言葉の変容と他の領域との関係						
4	保育内容言葉と子どもの育ちの関係						
5	絵本の機能と読み聞かせの方法について						
6	紙芝居の歴史と演じ方の理解と実演						
7	ことばを育てる活動とその具体的な指導法の理解						
8	ことばの発達的特徴とその援助方法についての計画と評価のあり方						
9	ペープサートの作り方および、演じる際の注意点と実演						
10	ことばを豊かにするごっこ遊びについての展開と方法						
11	教材研究（情報機器の活用を含む） こどものことばを育てる遊びと指導						
12	指導案作成 こどものことばを育てる遊びと指導						
13	模擬保育と討議 こどものことばを育てる遊びと指導						
14	授業総括						
共通の評価基準							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
確認テスト（筆記試）	40	ことばの発達と保育者のかかわりについて筆記試験を行う。授業内容を理解しているかで評価します。		レポート	20	「私が推奨する絵本とその特徴」絵本の紹介レポートを作成する。	
レポート	20	「ことばを豊かにする遊びの展開」子どもの姿をイメージしながら「遊び」を計画する。		課題発表	20	「ICTを活用した保育教材の制作」グループで制作・発表を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回の授業の内容をプリントやテキストで振り返り、理解を深めてください。絵本などの児童文化財は「知っている」だけでなく、子ども達の前で「できる」ことが大切です。授業で紹介された内容を参考に各自で取り組んでください。</p>				<p>・質問などは授業中、授業の前後で受け付けます。 ・即応が必要なものはその時に対応しますが、基本的には次回の講義時に質問内容も含め全体に周知します。</p>			
教科書・テキスト	『保育内容（言葉）』太田光洋編著（同文書院）			受講生に望むこと	意見交換や質疑応答を通して、全体で学び合えるクラスにしたいと思っていますので、積極的に質問や発言をして参加してください。		
参考書・参考資料等	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』（以上、厚生労働省）			その他・特記事項	毎回テキストを持参してください。		

授業科目	地域子育て支援論						
担当教員	金山 美和子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>家庭支援が必要となった背景、機能や変遷、現状について学び、今日の家庭支援に求められるあり方を考える。家庭の意義とその機能をふまえて子育て家庭を取り巻く社会的状況について子どもや親の育ちという観点から家庭支援の現代的課題について理解する。主として保育者による家庭支援の具体的事例を取りあげて子育て家庭の支援体制について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開や関連機関との連携などのアプローチを学び、保育者という立場からの具体的な支援について考える。</p> <p>担当教員は私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有しており、保育現場で得られた知見をもとに実践事例の検討をふまえて授業を実施し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p> <p>英語表記「The Theory of Community-Based Child-Rearing Support」</p>				<p>家庭の意義、その機能と変遷について理解する。</p> <p>子育て家庭の支援体制について理解する。</p> <p>子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関の連携について理解する。</p>			
教授方法	講義科目であるが、ディスカッションや体験ワーク、施設体験を取り入れて授業を行う。						
履修条件	保育士資格取得に関する科目である。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	家族を取り巻く社会状況						
2	結婚と家族の状況						
3	家族と子育ての状況						
4	子育て支援の必要性						
5	保育所における子育て支援の役割と機能						
6	幼稚園における子育て支援の役割と機能						
7	認定こども園における子育て支援の役割と機能						
8	地域における多様な子育て支援 地域子ども子育て支援事業						
9	地域における多様な子育て支援 企業、市民団体等による取り組み						
10	地域子育て支援の内容と方法 地域子育て支援拠点における実践を手掛かりとした理解						
11	地域子育て支援の内容と方法 支援者の役割						
12	地域子育て支援の内容と方法 「気になる子ども」「気になる保護者」への支援						
13	地域における子育て支援体制 子どもや親の育ちを支える視点						
14	地域における子育て支援体制 専門機関との連携による支援						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	試験期間に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価する。			授業レポート	20	地域子育て支援論を概観する課題について評価する
上記以外の授業評価	30	毎回授業時に課す課題への回答について評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習としてテキストを熟読する。毎回指定された課題・問題に取り組む。授業で学んだことをもとに地域子育て支援の実践を体験し理論と実践から理解を深める。				質問は、授業中や授業の前後に受け付ける他、授業コミュニケーションカードを活用し毎回授業の始めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。メールでの質問も受け付ける。			
教科書・テキスト	テキスト 太田光洋編（2016）「子育て支援の理論と実践」保育出版会			受講生に望むこと	新聞報道等から関連情報を得て課題意識をもつこと。自主的な体験学習の機会を得ること。		
参考書・参考資料等	「家庭支援の理論と方法」渡辺頭一郎・金山美和子著（金子書房）			その他・特記事項	担当教員は、私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有している。		

授業科目	保育内容（健康）						
担当教員	白澤 舞			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」についてのねらいと内容を理解するとともに、実際の保育場面における保育者の役割について学ぶ。乳幼児期の心と身体の発達の特徴をふまえ、子どもの心身の健やかな成長のために、適切な指導方法のあり方を学ぶ。また、事例検討や教材研究、指導計画の立案を行うことで、どのような内容を組み立て、どのような配慮を持って環境の設定や援助をしたらよいのかについて具体的な実践の方法を学ぶ。				1) 乳幼児期における健康の概念について説明することができる。 2) 領域「健康」のねらいと内容を理解し、説明することができる。 3) 領域「健康」のねらいに沿った援助について説明することができる。 4) 領域「健康」の内容を具体的な保育活動に結びつけて教材を制作し、それを活用することができる。			
教授方法	演習形式の授業である。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	健康の捉え方を考える（わたしたちの健康と子どもにとっての健康）						
2	保育の基本的な考え方と領域「健康」（領域「健康」のねらいと内容）						
3	保育の基本的な考え方と領域「健康」（領域「健康」の内容の取扱い）						
4	心と身体の健やかな育ちにおける保育者の役割						
5	子どもの身体機能の発達と運動能力						
6	子どもの生活リズムと生活習慣						
7	子どもの安全と保健指導のあり方						
8	健康の領域に関わる保育事例（遊びにおける身体活動）						
9	健康の領域に関わる保育事例（基本的生活習慣の獲得）						
10	子どもの健康における今日的課題						
11	教材研究（年齢に応じたねらいを考え、教材研究を行う）						
12	指導計画作成（導入・展開・まとめの流れ、環境と配慮を明確にし立案する）						
13	模擬保育と討議（模擬保育を実施し、討議を行う）						
14	領域「健康」のまとめと総括						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末課題	40	筆記テスト20%、レポート課題20%			その他の評価	60	指導計画・実施・評価記録40%、授業内の活動への取り組み20%
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
配布資料の読み込み、教材研究・指導計画の立案・発表準備などを行うこと。				授業時およびオフィスアワーに受け付けます。メールでも対応します。連絡先については授業内にお知らせします。			
教科書・テキスト	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』（以上、厚生労働省） この他、必要に応じてプリントを配布する。			受講生に望むこと	授業時のディスカッションや模擬保育等に積極的に参加できるように、予習と復習を行うこと。		
	参考書・参考資料等	授業の中で紹介する。			その他・特記事項	特になし	

授業科目	器楽基礎						
担当教員	安氏 洋子・大南 匠			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1・2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
ソルフェージュ課題により、リズム感、音程感を身につけ、読譜力を向上させる。 授業形態は習熟度に合わせた9グループによるグループレッスンとする。 ピアノに関してはバイエルを中心とした課題、弾き歌いに関しては共通テキストにある楽曲を課題とする。				保育現場における音楽活動に必要なピアノ演奏の基礎的知識と技術を修得し、弾き歌いのレパートリーを広げることを目標とする。 また、他の履修者のレッスンに立ち会うことで演奏表現の幅の広さを理解するとともに、自分の演奏を客観的に捉える視点を持てるようにする。			
教授方法	習熟度別にグループ分けを行い、個人レッスン						
履修条件	選択						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション及びピアノ曲を課題としたレッスン1 以下全て習熟度に応じたグループレッスン						
2	ピアノ曲を課題としたレッスン2						
3	ピアノ曲を課題としたレッスン3						
4	ピアノ曲を課題としたレッスン4						
5	ピアノ曲を課題としたレッスン5						
6	ピアノ曲を課題としたレッスン6						
7	ピアノ曲を課題としたレッスン7						
8	ピアノ曲を課題としたレッスン8						
9	ピアノ曲を課題としたレッスン9						
10	ピアノ曲を課題としたレッスン10						
11	ピアノ曲を課題としたレッスン11						
12	ピアノ曲を課題としたレッスン12						
13	ピアノ曲を課題としたレッスン13						
14	ピアノ曲を課題としたレッスン14						
共通の評価基準							
履修者全員の演奏を2名の講師が採点し、平均化したものが試験評価となる。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実技テスト	80%	履修者全員の演奏を2名の講師が採点し、平均化したものが試験評価となる。		その他	20%	授業意欲や練習量を担当教員が評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
課題曲の事前練習				各教員がメールでの相談対応、また音楽室や研究室にてピアノを用い、実技への相談に対応する。			
教科書・テキスト	ピアノ課題：バイエル等各自のレベルに応じたテキストを使用する。 弾き歌い課題：小林美実編著「こどものうた200」チャイルド社			受講生に望むこと	ピアノ実技習得は日々の練習が大切であるため、レッスン前日だけでなく毎日練習に取り組んでほしい。		
参考書・参考資料等	弾きたい曲があれば各自楽譜を準備すること。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	保育の指導法						
担当教員	金山 美和子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>幼稚園教育要領に基づき、「環境を通しての教育」「遊びを通しての総合的な指導」の方法的特質について理解する。幼児が自ら興味や関心をもって環境に取り組み、試行錯誤を経て、環境へのふさわしいかわり方を身につけていくことをふまえ、5領域のねらい及び内容の関連と総合的な指導のあり方について実践的に学ぶ。実践事例の記録、保育指導案などから指導法の実際や指導のあり方について考えるとともに、基本的な指導計画を作成する力を身につける。</p> <p>担当教員は私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有しており、保育現場で得られた知見をもとに実践事例の検討をふまえ授業を実施し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p> <p>英語表記「Teaching Methods in Early Childhood Education」</p>				<p>幼稚園教育要領の各領域におけるねらい及び内容の関連と遊びによる総合的な指導について理解する。</p> <p>乳幼児期の発達過程をふまえた保育内容の指導法を理解する。</p> <p>幼稚園教育の指導計画の作成を理解する。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	幼稚園教諭						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	幼稚園教育、保育の基本						
2	幼稚園教育要領における「環境を通しての教育」						
3	幼稚園教育要領における「遊びを通しての総合的な指導」						
4	幼稚園教育の基礎となる子ども理解						
5	幼児期のふさわしい生活の展開と援助						
6	環境を通しての教育 環境を通しての学び						
7	環境を通しての教育 自発的な遊びと環境						
8	環境を通しての教育 環境構成の実際						
9	遊びを通しての指導 乳幼児の発達過程と遊び						
10	遊びを通しての指導 乳幼児の遊びと仲間関係						
11	遊びを通しての指導 乳幼児の遊びに対する援助						
12	保育計画の実際（教育課程・長期計画・短期計画）						
13	幼稚園教育における家庭・地域との連携のあり方						
14	保育実践を高める省察・カンファレンス						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	試験期間に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価する。		授業レポート	30	保育の指導法を概観する課題について評価する。	
上記以外の授業評価	30	毎回授業時に課す課題への回答について評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前学習としてテキストを熟読する。</p> <p>毎回指定された課題・問題に取り組む。</p> <p>授業で学んだことをもとに幼稚園、認定こども園等の保育実践を体験し理論と実践から理解を深める。</p>				<p>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける他、授業コミュニケーションカードを活用し毎回授業の始めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。メールでの質問も受け付ける</p>			
教科書・テキスト	テキスト 太田光洋編（2016）「子どもが育つ環境と保育の指導法」保育出版会 幼稚園教育要領			受講生に望むこと	新聞報道等から関連情報を得て課題意識をもつこと。自主的な体験学習の機会を得ること。		
参考書・参考資料等	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説			その他・特記事項	担当教員は、私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有している。		

授業科目		保育内容（環境）					
担当教員	前田 泰弘			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>子どもは身近な環境とのかかわりを通じて、生活の知識や技術などを身に付けていく。本講では、子どもが環境(自然・もの・人・できごと)とのかかわりを通じて周囲への興味・関心を広げていく過程を、実際と理論の側面から学習するとともに、保育者がそれに対して行い得る援助について考える。特に、子どもが「感じる力」「考える力」「判断する力」「実行する力」を自発的に発揮できることをねらいとして、保育者自身がどのような環境構成をできるかについて考える。また、授業は、季節や子どもの発達に合わせた指導計画を立てられることをねらいとする。担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。授業では事例を交えることで、実践的な理解が促されるようにしている。</p>				<p>子どもが日常生活でかかわる環境とそこから身に付ける知識や技能等について理解を深める。このことにより、子どもの育ちのねらいに合わせた環境とのかかわりを保育の中で計画し実践できるようになることをねらいとする。</p>			
教授方法	ICTを用いた講義の他、体験活動や演習を行う。						
履修条件	こどもと自然、自然保育論						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	保育における「環境」とは -保育内容（環境）のねらいと内容の理解-						
2	子どもの育ちと環境 -子どもの育ちの流れと環境とのかかわりの拡大過程-						
3	遊びの発達と環境 -遊びを通じた環境とのかかわりとその発達-						
4	環境としての自然 -自然環境と子どもの育ち-						
5	子どもの自発性と保育環境 -子どもの自発性を高める保育環境とその整備-						
6	観察しかかわる力をはぐくむ -自然に親しむ、植物や生き物に触れる-						
7	季節による自然や生活の変化（1）春の環境と子どもの様子・行事と保育のねらい・教材						
8	季節による自然や生活の変化（2）夏の環境と子どもの様子・行事と保育のねらい・教材						
9	季節による自然や生活の変化（3）秋の環境と子どもの様子・行事と保育のねらい・教材						
10	季節による自然や生活の変化（4）冬の環境と子どもの様子・行事と保育のねらい・教材						
11	数量や図形、文字への関心をはぐくむ -日常生活の中での数量・図形・文字-						
12	事物の性質や仕組みへの関心をはぐくむ -さまざまな物や道具にかかわって遊ぶ-						
13	保育内容「環境」に関連する指導計画の考え方と指導案の作成						
14	保育内容「環境」に関連する模擬保育の実施						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験	70	授業を通して学んだ知識と援助技術について習得状況を確認する。		演習への参加状況	30	グループワークへの参加状況やその成果に対して評価を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
子どもが自発的なかかわりを示す環境（もの・こと）や季節・行事等について、日頃から関心をもって欲しい。				授業の前後を中心に、適宜受け付ける。			
教科書・テキスト	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省）、『子どもが育つ環境と保育の指導法』（保育出版会）			受講生に望むこと	身近な環境に興味をもって生活をして欲しい。		
参考書・参考資料等	授業時に紹介する。			その他・特記事項	担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。		

授業科目		幼児理解の理論と方法					
担当教員	前田 泰弘			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>就学前の子どもとその保護者、家庭を理解するための理論と方法を学ぶ。具体的には、子どもの発達を客観的に評価する方法や、日常において生起する臨床的問題の実際を、臨床発達心理学の観点から理解できるようにする。また、多様な保護者やさまざまな困難を抱える子どもの理解や援助の仕方の原則を理解し、保育現場の内外の資源と連携をしながら援助を行っていくための知識と技能を習得する。子どもやその保護者をめぐる多様な問題に対して、客観的な根拠に基づいて多面的かつ柔軟に援助ができるようになることをねらいとする。</p> <p>担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。授業では事例を交えることで、実践的な理解が促されるようにしている。</p>				<p>保育現場では、さまざまな発達課題や生活の課題を有する子どもや保護者がいる。それらの人々を対人援助者として客観的な根拠を元に理解し、効果的な技術をもって援助を行うための知識と技能を身に付けることをねらいとする。</p>			
教授方法	ICTを用いた講義およびグループワークなどの演習を行う。						
履修条件	発達心理学						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	幼児理解の理論						
2	幼児教育における幼児理解 -幼稚園教諭としての幼児理解のあり方-						
3	幼児理解の方法 -発達評価の理論と実際-						
4	幼児理解の方法 -生育環境の評価の理論と実際-						
5	幼児理解と評価 -幼児の評価の考え方と指導記録の記入-						
6	特別な支援が必要な幼児と保護者の理解						
7	幼児理解と保育計画						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
試験	100	授業を通して学んだ知識と援助技術について習得状況を確認する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
児童家庭福祉や発達心理学で学んだ内容を復習（確認）しておくこと。				授業の前後を中心に、適宜受け付ける。			
教科書・テキスト	「実践にいかず障害児保育・特別支援教育」（明文書林）			受講生に望むこと	子どもや保護者・家族を取り巻く問題や施策等について、日々関心をもって生活して欲しい。		
参考書・参考資料等	「幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法」（建帛社） 「保育・教育相談支援」（建帛社）			その他・特記事項	担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。		

授業科目		保育内容（表現）					
担当教員	安氏 洋子・宮城 正作・白澤 舞		必修・選択	必修	単位数	2単位	
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標（ねらい・到達目標）				
音楽表現、造形表現、身体表現について、指導や援助方法をオムニバス形式で学ぶ。乳幼児の発達を理解し、身近にあるものやことに興味を持てるような環境設定及び指導法について学ぶ。音楽表現では「聴く力」を育む実践を行い、音を創造する活動を通して、やわらかな感性を育むことを目指す。造形表現では動かすことのできる造形物の制作を通して、造形表現における「動き」について理解を深める。身体表現では、自己のからだところや他者（人・モノ）とのかかわりについて体験を通して理解を深める。また、指導計画の立案、模擬保育とその振り返りを行い、全体を通して保育内容表現についての総合的理解を深め、乳幼児の生活と遊びにおける表現について学ぶ。			日常生活の中にある事柄に留意し、心を動かす豊かな感性を育み、感じたことや考えたことを様々な方法で表現することを学ぶ。 また乳幼児の些細な表現に気づき、豊かな表現活動を引き出せるような指導や援助法について、指導計画の立案、模擬保育と振り返りを行い、音楽、造形、身体表現を通して総合的に修得することを目標とする。				
教授方法	担当形態：オムニバス・複数						
履修条件	教員の免許取得のための必修科目						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	領域「表現」とはなにか。（安氏・白澤・宮城） 「表現」のねらい、内容、内容の取扱いについて学ぶ。						
2	【造形表現】「なんでも、どこでも、アニミズム！」 ・ICT機器を用いた表現とその注意点について学ぶ。						
3	「動くペープサートを作ろう！A」（宮城） ・「基本のペープサート」を制作し、動く仕組みを理解する。						
4	「動くペープサートを作ろう！B」（宮城） ・「基本のペープサート」の仕組みを応用し、「オリジナルのペープサート」を制作する。						
5	「動くペープサートを作ろう！C」（宮城） ・前回に引き続き、「オリジナルのペープサート」を制作し、完成させる。						
6	【音楽表現】（安氏）サウンド・エデュケーション ・領域「表現」と音楽的な発達について。「聴く力」を育む。図形楽譜・イメージサウンド。音をかたちで表現する。音を創造する。						
7	絵本と音楽1（安氏） 絵本の中の音を創造する。オリジナル曲の創作。指導案について説明。						
8	絵本と音楽2（安氏） 楽器の種類と取扱方法、奏法について。オリジナル曲の創作。図形楽譜、スコア譜の作成方法。指導案を考え作成する。						
9	絵本と音楽3（安氏） 創作曲の発表とふりかえり。指導案に基づいた模擬保育の実施。指導案の提出。						
10	【身体表現】（白澤）からだ探求：からだところ ・自己のからだところのかかわりを感じる。・他者とのコミュニケーションにおけるからだところのかかわりを感じる。						
11	五感を使った体験と表現：からだと他者（白澤） ・「人」や「モノ」いろいろな素材（身近な物・場・音・リズム）をからだで感じる。						
12	五感を使った体験と表現：教材開発と指導案の作成（白澤） ・の体験を生かした手遊び・からだ遊びの制作と指導案の作成を行う。						
13	五感を使った体験と表現：模擬保育と考察（白澤） ・模擬保育を通して子どもの表現に気づき、豊かな表現を引き出す保育について考える。						
14	まとめ・ふりかえり（安氏、宮城、白澤） 子どもの生活と遊びにおける表現と保育者の役割						
共通の評価基準							
小テスト80%（各オムニバスの最後の授業内で、各担当者による試験を行う。）、その他の評価方法20%（授業意欲などを担当教員が評価する。）							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
小テスト 課題提出	80%	各オムニバスの最後の授業内で、各担当者による試験を行う。	その他	20%	授業意欲などを担当教員が評価する。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応				
各教員より事前に学生に課題を伝え、課題について考えたり、事前準備を行う。			各教員がメールや研究室等で質問や相談へ対応する。				
教科書・ テキスト	『子どもが育つ環境と保育の指導法』太田光洋編著（保育出版会） 『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』神原雅之 ・鈴木恵津子編著（教育芸術社） 『保育内容「表現」-からだで感じる・表す・伝える-』池田裕恵 ・猪崎弥生編著（杏林書院） 『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省）			受講生に 望むこと	日々の気づきや日常生活の些細な出来事に注目しながら、さまざまな経験を積み重ね、感性を研ぎ澄ませてほしい。		
				その他・ 特記事項	特になし		



参考書・ 参考資料等	特になし
---------------	------

授業科目	ドラマ表現演習						
担当教員	山本 直樹			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
他者と共に自己表現を楽しむドラマの体感を基礎として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な資質・能力である、自分を表現する力、自分なりに工夫して行動する力、感じる力、想像・創造する力の研ぎ澄ましをテーマとした活動や、子どもを対象とする語りと最小限の演技で構成されるリーダーシアターに取り組み、単なる専門的・芸術的表現とは異なる保育者の「豊かな表現」を意識しながら、子どもの表現を見る目を養っていく。				自分の経験をもとに、感じたことや考えたことを、自分のやり方で、楽しく、全身で表現するドラマの基本を理解する。そして、個人やグループで創意工夫をしながら自己表現をすることを楽しみ、自分が子どもの頃に遊んだ時の感覚である「遊び心」を再経験をすることを目標とする。			
教授方法	演習を基本とするが、講義も行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本講義のガイダンス ルール（まじめに遊ぶ、アイコンタクト、人の話を聴く、チャレンジ精神）、グループ身体表現体験						
2	ドラマへのウォームアップ（自己表現） コミュニケーションをテーマに						
3	ドラマへのウォームアップ（自己表現） 集中・感覚をテーマに						
4	ドラマへのウォームアップ（自己表現） 身体・言葉をテーマに						
5	ドラマであそぶ 物の見立てから						
6	ドラマであそぶ 身体の見立てから						
7	ドラマであそぶ 言葉のイメージから						
8	ドラマをつくる 日常生活を題材に						
9	ドラマをつくる 詩やショートストーリーを題材に						
10	ドラマをつくる 絵本を題材に						
11	ドラマをえんじる リーダースシアターの体験						
12	ドラマをえんじる リーダースシアターの練習						
13	ドラマをえんじる リーダースシアターの授業内発表						
14	本講義のまとめと確認						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
1	20	5点満点の小テストを計4回実施し、体験したことの意味を自分なりに考えたかを評価する。		2	50	授業内容全体の理解にもとづき、課題を主体的、発展的に深めることができているかを評価する。	
3	30	授業への参加態度や、グループ活動における参加態度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎回の授業終了時に示す事後課題（経験した授業内容と日常生活や自分自身とのつながり）と、予習課題（予告された授業テーマに関する調査や疑問点の整理）についてを合わせて取り組み、次回の授業時にレポートとして提出する。				授業後に対応する			
教科書・テキスト	なし			受講生に望むこと	演習形式も交えるので、動きやすい服装を望む		
参考書・参考資料等	『ドラマによる表現教育』ブライアン・ウェイ著／岡田陽訳（玉川大学出版部） 『表現あそび』太宰久夫著（全国児童館連合会／今人舎） 『遊びからはじまる学び 今、幼児の表現活動を問い直す』花輪充著（大学図書出版）			その他・特記事項	なし		

授業科目	身体表現演習						
担当教員	白澤 舞			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>領域「表現」におけるねらいと内容をふまえ、子どもの表現の捉え方について理解するとともに、子どもの豊かな表現をとらえ、育むための保育者の役割と指導方法を学ぶ。そのために、自己の感覚を十分に働かせて多様な自由な表現を体験し、自己の身体と心の関わりや身体による他者（人・モノ）との関わりについて理解する。また、事例検討や教材研究、指導計画の立案を行うことで、どのような内容を組み立て、どのような配慮を持って環境の設定や援助をしたらよいかについて具体的な実践の方法を学ぶ。</p>				<p>1) 子どもの表現の捉え方を理解し、説明することができる。  2) 子どもの表現の実態を理解し、それを受け止め、支え育む援助とは何かを思考することができる。  3) 子どもの表現を豊かにする教材を制作し、それを活用することができる。</p>			
教授方法	実技を伴う演習形式の授業である						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	からだを感じる、からだで感じる（自己と他者の身体と心の状態と、その関わりを感じ取る）						
2	からだを感じる、からだで感じる（受信と発信、受け止めることと受け取られること、その関わりを感じ取る）						
3	子どもの生活と表現（子どもの表現を見取る）						
4	自然の中での体験と表現						
5	多様な動きで遊ぶ ～からだと言・リズム・言葉～						
6	多様な動きで遊ぶ ～からだと身近なもの～						
7	多様な動きで遊ぶ ～からだと言空間・時間・力～						
8	身体表現の技術 ～動きのきっかけ・発見～						
9	身体表現の技術 ～動きの応用・発展～						
10	表現活動教材の作成						
11	表現活動教材の作成						
12	表現活動教材の作成						
13	発表と討議						
14	身体表現のまとめと総括						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	30	レポート課題		その他	70	授業への取り組み（参加態度・意欲、活動記録）、グループ課題（制作、発表）	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
配布資料の読み込み、活動記録の作成、グループでの制作や発表準備など				授業時およびオフィスアワーに受け付けます。メールでも対応します。連絡先については授業内にお知らせします。			
教科書・テキスト	『保育内容「表現」-からだで感じる・表す・伝える-』池田裕恵・猪崎弥生編著（杏林書院）その他、適宜プリントを配付する。			受講生に望むこと	からだの状態や感覚に意識を向け、実際に動くことを通して表現について考えます。先入観にとらわれず子どものおもしろいと感じたまま動いてみたり、体験を振り返って言葉にすることで表現への理解を深めてください。		
参考書・参考資料等	『乳幼児のダンスABC』猪崎弥生・山田悠莉（一二三書房）その他、授業の中で紹介する。			その他・特記事項	からだの感覚を意識しやすい、動きやすい服装で参加してください。裸足で動くこともあります。		

授業科目	保育内容総論						
担当教員	太田 光洋			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>保育内容と総合的指導の意義について理解したうえで、幼児期の特性と領域の観点から子どもを総合的に捉える視点を養い、子どもの発達の実態や個性に適した保育内容の継続的で具体的な展開を行うために必要な知識や技能を身につける  担当教員は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めており、学習内容を保育の実際と結びつけながら理解を深められるようにする。</p>				<p>保育内容の歴史の変遷と意義及び保育の全体構造における内容と方法について学び、園生活全体を通して総合的に指導・援助を行うという考え方と指導に必要な実践的能力を習得する。特に幼児期の特性とプロセスをふまえ、遊びを通しての指導を中心とする保育の構想力と実践力を身につける</p>			
教授方法	講義。内容理解のために、一部実技やDVD視聴などを含む。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業概要とオリエンテーション 保育内容総論を学ぶ目的と内容、進め方						
2	保育の基本と保育内容 保育の基本、ねらいと保育内容、方法						
3	保育内容の構造 保育内容の構造、子どもの生活構造の特徴と保育内容						
4	保育内容の歴史 保育内容の変遷とその理念						
5	子どもの活動と保育内容、保育環境 環境を通しての指導法						
6	子どもの活動と援助 保育者の援助のあり方						
7	子どもの活動と保育方法 遊びを通しての総合的な指導法						
8	保育内容の計画と評価 保育計画の必要性と計画の実際（教育課程と指導計画）						
9	保育内容の実践 「保育内容としての遊び」とは何か						
10	保育内容の実践 「保育内容としての遊び」の構想と展開（環境、情報機器、教材の具体的活用を含む）						
11	保育内容の実践 模擬保育に向けた指導案の作成（子ども理解、目標、保育者の役割、評価）						
12	保育内容の実践 模擬保育の実践と振り返り						
13	保育内容の実践 幼稚園における保育内容の具体的展開（長期的活動、行事の事例を中心に）						
14	保育内容の現代的課題と展望 保育内容の現代的な問題と今後の保育（小学校への接続ほか）、試験						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
筆記試験	50	授業全体を通じて習得した知識の状況を確認する			レポート	50	授業内小レポート、ディベートのまとめ
授業外における学習（事前・事後学習等）							
テキストの通読。教材の作成や整理をしておくこと				授業の前後に行う			
教科書・テキスト	『保育内容総論』太田光洋編（同文書院） 『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省）			受講生に望むこと	能動的に学びましょう		
参考書・参考資料等	『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』（以上、厚生労働省）			その他・特記事項	担当教員は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めるなどの実務経験を有している。		



授業科目	発達支援論						
担当教員	前田 泰弘			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>保育所や幼稚園に在籍する障害のある子や、集団生活に困難を示すいわゆる発達に気になる子について、その行動・発達の理解と豊かな生活を送るための保育的配慮のあり方について解説を行う。また、家庭的養護を十分に受けることができないために、日常生活に困難を示す子どもについても、本講の対象とする。講義では、子どもの定型発達と学習のプロセスを概観した上で、心身に障害のある児の特徴と育ちについて解説し、これを基に、障害の態様に応じた保育と援助の実例を事例を通して理解する。また、十分な家庭的養護が受けられない子どもの成長や発達の特徴についても事例を通して理解する。これらをもとに、発達に配慮が必要な子どもにたいする保護者の支援や社会資源を用いた包括的な援助について学習することをねらいとする。</p>				<p>子どもの定型発達と学習のプロセスをふまえ、保育実践において特別な発達援助が必要な子どもの発達と学習のあり方について理解する。また、その客観的理解の方法や援助（保育）の方法について考える基礎的事項を理解することをねらいとする。</p>			
教授方法	ICTを用いた講義およびグループワークなどの演習を行う。						
履修条件	発達心理学・幼児理解の理論と方法						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	発達支援とは - 障害児および特別な配慮を必要とする子どもの理解						
2	気になる発達と評価の方法 - 発達の理解と評価の視点 -						
3	発達の問題と評価の方法 - 気になる発達の考え方と評価の方法 -						
4	乳児・乳幼児期の発達と学習 - 知的発達・運動発達・社会性の発達・あそびの発達 -						
5	発達と学習を支える基盤 - 環境の大切さ・愛着関係を中心に -						
6	愛着関係の築きにくい子どもと家庭（保護者）の理解 - 質的因子と環境因子の視点から -						
7	知的障害児の発達と保育 - 知的発達に遅れのある子どもの理解と保育 -						
8	自閉症スペクトラム障害児の発達と保育 - 自閉症スペクトラム障害のある子どもの理解と保育 -						
9	肢体不自由児の発達と保育 - 肢体不自由児の理解と保育 -						
10	聴覚障害児の発達と保育 - 聴覚障害児の理解と保育 -						
11	重複障害児の発達と保育 - 重複障害児の理解と保育 -						
12	低出生体重児の発達と保育 - 低出生体重児の理解と保育 -						
13	発達支援を要する子どもを支える資源（１） - 発達リスクの発見の機会と相談機関の理解 -						
14	発達支援を要する子どもを支える資源（２） - 療育機関や社会的養護施設の理解 -						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
試験	100	授業を通して学んだ知識と援助技術について習得状況を確認する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
幼児理解の理論と方法や発達心理学で学んだ内容を復習（確認）しておくこと。				授業の前後を中心に、適宜受け付ける。			
教科書・テキスト	「実践にいかず障害児保育・特別支援教育」（萌文書林）			受講生に望むこと	子どもや保護者・家族を取り巻く問題や施策等について、日々関心をもって生活して欲しい。		
参考書・参考資料等	適宜紹介する。			その他・特記事項	担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。		

授業科目	保育内容（人間関係）						
担当教員	金山 美和子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>幼児が周囲の人々に親しみをもち、支え合って生活するために、自立心と人とかかわる力を養うための保育内容と方法について学ぶ。幼児の人への信頼感や人とかかわる力、自己のあり方、社会生活に望ましい習慣や態度が、充実感のある他者との関係のなかで育っていくことに留意し、保育者の役割と援助について理解する。幼児の人間関係は保育の場における遊びや生活を通して豊かに育つことから、演習を通して保育の場での人間関係をめぐる具体的な事例、人間関係を豊かにする遊びや活動について指導計画の立案や模擬保育の検討などを通して実践的に理解する。</p> <p>英語表記「Activities in Early Childhood Education :Human Relationships」</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。</li> <li>・乳幼児期の人間関係を捉える基本的な考え方を理解する。</li> <li>・保育実践における保育内容「人間関係」の指導のあり方を理解する。</li> </ul>			
教授方法	講義科目であるが、ディスカッションや体験ワーク、保育実践の参与観察を取り入れて授業を行う。						
履修条件	幼稚園教諭						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い						
2	乳幼児期の人間関係 子どもと養育者の人間関係						
3	乳幼児期の人間関係 乳幼児期の人間関係をめぐる今日の課題						
4	子どもと保育者の信頼関係						
5	自立心と自己有用感						
6	子ども同士の人間関係とその援助						
7	環境による教育で育てる人間関係						
8	遊びにおける仲間関係への援助 指導案作成						
9	遊びにおける仲間関係への援助 指導案および模擬保育の検討						
10	遊びにおける協同的活動と援助 指導案作成						
11	遊びにおける協同的活動と援助 指導案および模擬保育の検討						
12	気になる子どもの理解と援助 人とかかわりにおいて子どもが抱える困難						
13	気になる子どもの理解と援助 家庭に対する支援						
14	人とかかわりを育てる保育者の役割						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	試験期間に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価する。		授業レポート	30	保育内容（人間関係）の指導法を概観する課題について評価する。	
上記以外の授業評価	30	毎回授業時に課す課題への回答について評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前学習としてテキストを熟読する。          毎回指定された課題・問題に取り組む。          授業で学んだことをもとに幼稚園、認定こども園等の保育実践を体験し理論と実践から理解を深める。</p>				<p>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける他、授業コミュニケーションカードを活用し毎回授業の始めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。メールでの質問も受け付ける</p>			
教科書・テキスト	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』			受講生に望むこと	新聞報道等から関連情報を得て課題意識をもつこと。自主的な体験学習の機会を得ること。		
参考書・参考資料等	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』、『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』			その他・特記事項	担当教員は、私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有している。		

授業科目		保育課程論					
担当教員	渡邊 望			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>カリキュラムの基礎理論を理解し、保育における計画と評価の意義と必要性について、計画・実践・省察・評価・改善の課程の循環の中で質の向上が図られていくことを学ぶ。また、保育の計画の基準となる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」の基本を理解したうえで、実際の保育課程と保育計画がどのように日常の保育の中に活かされているのか、日々の保育からつながる保育の連続性を感じ、保育課程と保育計画の作成および、作成の留意事項について理解を深める。</p>				<p>1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。  2. の保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。  3. 計画、実践、省察・評価、改善の課程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する。</p>			
教授方法	講義で行う部分と、受講者が実際に考えたり、発表したりする部分を設け、実際の保育現場での展開方法についても検討していきます。積極的に参加するように心がけてください。						
履修条件	「子ども主体」や「環境を通して」など保育の基本を理解したうえで受講してください。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	「教育課程」「保育課程」の理解						
2	保育内容の変遷と教育課程、保育課程について						
3	保育における計画及び評価の意義（役割・機能）と必要性について						
4	計画、実践、省察・評価、改善の課程の循環および保育の連続性について（カリキュラム・マネジメント含む）						
5	幼稚園教育要領、保育所保育指針における基本的事項						
6	教育課程・保育課程と指導計画の関連性						
7	教育課程・保育課程の編成						
8	長期計画と短期計画の作成と作成上の留意点						
9	指導計画と実際の保育の展開						
10	日案の様式例と記入方法						
11	実際の一日の保育の展開と、保育上の留意点						
12	保育記録・省察と、保育計画の関係						
13	保育記録の記入方法と留意点						
14	まとめ・授業総括						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
協議と発表	40	「季節を感じられる保育活動」についてグループで検討し、発表する。（30） 発表を聞いて評価レポートを作成する。（10）		指導計画と発表	40	「コーナーあそび」についてグループで指導案を作成し発表する。（30） 発表に参加し評価レポートを作成する。（10）	
指導案作成	20	「コーナーあそび」について個人で指導案を作成する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎回の授業の内容をプリントやテキストで振り返り、理解を深めてください。指導計画やレポート作成などの時間は授業内で十分確保できないため、授業時間外で計画的に作成してください。				・質問などは授業中、授業の前後で受け付けます。 ・即応が必要なものはその時に対応しますが、基本的には次回の講義時に質問内容も含め全体に周知します。			
教科書・テキスト	『子どもが育つ環境と保育の指導法』太田光洋編著（保育出版会）			受講生に望むこと	意見交換や質疑応答を通して、全体で学び合えるクラスにしたいと思っていますので、積極的に質問や発言をして参加してください。		
参考書・参考資料等	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』（以上、厚生労働省）			その他・特記事項	皆さんの豊かな発想に期待しています。		



授業科目	社会的養護内容						
担当教員	尾島 豊			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>前半では専門書を講読しながら施設養護実践に関する主な諸概念の理解を深める。後半では、児童養護施設と乳児院以外の各分野の現場の先生をゲスト講師に迎えて、実際の現場での現状と支援について学ぶ。児童養護施設、乳児院、障害児施設、母子生活支援施設、児童自立支援施設や里親制度などで実際に働く職員を呼んで実際の養護実践の現状と課題を考える。</p>				<p>社会的養護が必要となる養護問題の現状を、様々な機関や施設の理解を通して学ぶ。社会的養護対策の体系、主眼点と児童福祉施設の意義などを理解する。学習の目標は、保育士として必要な養護の知識と技術を習得することにある。</p>			
教授方法	講義形式：専門書の購読と、現場の施設職員等呼び、講義とディスカッションを行う。						
履修条件	2年次の児童福祉論と社会的養護を聞いた者が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	社会的養護に関する各機関・施設ーこの授業のねらいと目的						
2	施設養護の基本的諸概念 - リーピングケア・小規模化・自立支援・家族再統合 -						
3	施設養護の実際 - 母子生活支援施設ー						
4	施設養護の実際 - 児童自立支援施設ー						
5	施設養護の実際 - 情緒障害児短期治療施設						
6	施設養護の実際 - 児童養護施設						
7	里親制度の実際 - 児童相談所						
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
前半の課題レポート	40	社会的養護に関する基礎概念の理解度		後半の課題レポート	50	様々な分野の機関・施設などの機能や役割の理解度	
授業への参加度	10	出席状況と授業への参加度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
2年次の社会的養護の復習				リアクションペーパーに記載、翌週に回答			
教科書・テキスト	施設養護実践とその内容			受講生に望むこと	2年次の社会的養護の復習とワークショップ等への参加		
参考書・参考資料等	2年次の教科書			その他・特記事項	特になし		

授業科目		器楽応用					
担当教員	大南 匠・安氏 洋子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1・2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>保育現場における音楽活動に必要なピアノの演奏、および弾き歌いの演奏技術を修得し、様々な表現活動や遊びに展開できる基礎を学ぶ。授業形態は習熟度に合わせたグループレッスンとする。ピアノの演奏に関してはバイエル、ブルグミュラー、ソナチネアルバムなど練習曲を中心としたレッスン、弾き歌いに関してはオリジナルな伴奏譜だけでなく、コード譜も教材として用い、簡易伴奏から複雑なアレンジによる伴奏まで各自のレベルに応じた伴奏を体験し、器楽基礎で習得した読譜力、演奏技術をさらに高める。</p>				<p>器楽基礎で習得した読譜力、演奏技術をさらに高める。又、トライアドコード、7thコードなどのコードを実践を通じて理解し、保育活動に応じたピアノ演奏技術を習得する。また、他の履修者のレッスンに立ち会うことで演奏表現の幅の広さを理解するとともに、自分の演奏を客観的に捉える視点を持つようにする。</p>			
教授方法	音楽表現演習で実施した音楽歴確認アンケートを基にグループ分けを実施する。グループレッスンによる演習授業になるため、他の履修者のレッスンにも立ち会うことで互いに学び合う。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーションおよびピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン1						
2	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン2						
3	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン3						
4	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン4						
5	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン5						
6	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン6						
7	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン7						
8	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン8						
9	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン10						
10	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン10						
11	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン11						
12	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン12						
13	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン13						
14	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン14						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実技試験	80	ピアノ、歌唱など演奏技術を評価する。楽譜の指示通りに演奏しているか、歌唱と伴奏のバランスを考えているか、演奏の丁寧さなどを総合的に判断する		平常点	20	課題の取り組み、毎回の授業の様子を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
15曲を目標にレパートリーを作る。課題を準備することだけでなく、復習もすること。				授業内でも、授業外でも質問や相談を受け付ける。メールでも可。			
教科書・テキスト	小林美実編著「続こどものうた200」 チャイルド社			受講生に望むこと	短くてもいいので出来るだけ毎日、演奏する時間を作って欲しい。		
参考書・参考資料等	各自の状況に合わせて適宜、提示する。			その他・特記事項	なし		

授業科目	小児保健						
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
こどもの病気・事故・ケガなどに関する知識を学び、予防方法や対処方法の基本的な知識に基づいて、実践に役立つ保健活動を考える。こどもに関わる保護者・保育者の健康の保持増進、地域に存在する様々な社会資源との連携等について学び、健やかなこどもの成長発達を促進する仕組みを理解する				<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児がかかりやすい病気・事故・ケガを、その予防方法や対処方法と共に知識を修得する。</li> <li>・保育現場におけるより良い環境管理を、乳幼児・保育者の双方から理解する</li> <li>・予防のための指導方法を理解する</li> </ul>			
教授方法	講義、演習、グループワーク、グループ発表						
履修条件	小児保健 を修了していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション こどもの疾病と事故の保健統計						
2	こどもによくある病状と観察						
3	主な疾病の特徴						
4	主な疾病の特徴						
5	こどもの事故とその予防						
6	こどもの事故とその予防						
7	保育環境と安全対策						
8	保育環境と安全対策						
9	病気・事故の予防のまとめ						
10	障がいをもつこどもとの関わりの実際（合同6/25）						
11	職員の健康管理						
12	児童相談所からみえる家庭環境の実際（合同7/3）						
13	健康教育発表						
14	健康教育発表						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	本学の成績評価基準に準ずる（定期試験・発表等の合計点）			健康教育発表	20	媒体、発表内容
授業態度	減点	欠席、遅刻、提出物					
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		
グループ発表（健康教育発表）の準備の学習を要す					質問および相談は授業中および終了後対応する時間を確保する		
教科書・テキスト	小児保健1で使用した教科書を用いる（松田博雄、金森三枝編 子どもの保健 中央法規）				受講生に望むこと	積極的に学んでほしい	
参考書・参考資料等	必要時紹介する				その他・特記事項	一部、2年生と合同で2学期に行う	

授業科目	相談援助						
担当教員	尾島 豊			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
ソーシャルワーク（社会福祉援助技術）の基礎知識と技術の修得を目的とする。特に保育・養護場面におけるソーシャルワークの視点を学び、保育・福祉現場で支援する際に必要な知識と態度を修得する。				保育・養護場面におけるソーシャルワーク（社会福祉援助技術）の基本的な知識と視点の修得を目的とする。ソーシャルワーク論の基本的な知識と考え方の講義を通じてソーシャルワークの知識と視点を修得する。			
教授方法	講義形式と後半の事例研究では演習形式で行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	基本となる概と、福祉・保育実践の3つの要素－価値・知識・技術について						
2	社会福祉援助技術の体系						
3	対人社会サービスの基礎 - バイステックの7原則						
4	社会福祉援助技術の専門性 - 支援のプロセスと関係性 -						
5	保育・養護場面とソーシャルワーク - 養護施設、障害者施設での事例の捉え方						
6	社会福祉の資格と専門職の現状						
7	社会福祉援助技術の理論史						
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	80	基礎概念の理解度		授業への参加度	20	出席状況と授業への参加度	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
原理原則を実習などで経験した事例と照らし合わせて考える。				リアクションペーパーに記載、翌週に回答			
教科書・テキスト	『社会福祉援助技術 第2版 相談援助の基盤と方法			受講生に望むこと	原理原則を実習などで経験した事例と照らし合わせて考える。		
参考書・参考資料等	授業のポイントを示したレジユメを配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	造形表現演習						
担当教員	宮城 正作			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>本授業では、保育者として必要な造形知識や技術を、実制作をおし技能として身に付けていく。とくに、「紙による表現」、「粘土による表現」、「版表現」について主に取り組み、その際、各活動において、材料や用具の選定が表現効果に与える影響について着目し、各技法と材料・用具との関係について理解を深められるようにする。また、本授業の最終活動では、受講者が理想とする保育者像、保育環境を具体化することで、受講者が身に付けてきた技能が、自身の将来の職業と有機的に関連していることを実感できるように構成している。</p>				<p>保育者として必要な造形知識や技術を技能として身に付け、その技能と将来の自身の職業とを強く結びつけることができる。</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式でおこなう。						
履修条件	「こどもと造形」を履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	「石塑粘土でキーホルダーづくり！」 ・石塑粘土を材料とするキーホルダーを制作する。						
2	「石塑粘土でキーホルダーづくり！」 ・乾燥させた型抜き後の石塑粘土を、紙やすりを用いて研磨する。						
3	「石塑粘土でキーホルダーづくり！」 ・研磨した石粘土をアクリル絵の具等で彩色する。						
4	「石塑粘土でキーホルダーづくり！」 ・前回は引き続き、研磨した石粘土をアクリル絵具等で色付けする。						
5	「ステンシルでプリントしよう！A トートバッグ編」 ・各種版画技法と幼児造形活動における版表現の展開方法について概説する。						
6	「ステンシルでプリントしよう！B トートバッグ編」 ・前回は引き続き、下描きを制作する。						
7	「ステンシルでプリントしよう！C トートバッグ編」 ・前回は引き続き、下描きをもとにした版制作（ステンシルシートの切り抜き）。						
8	「ステンシルでプリントしよう！D トートバッグ編」 ・完成した版を用いてトートバッグにプリントし、作品を完成させる。						
9	「プレゼントボックスをつくろう！A」 ・プレゼントボックスの構造の解説。						
10	「プレゼントボックスをつくろう！B」 ・プレゼントボックスの仕掛けを受講者自身が調べて制作する。						
11	「プレゼントボックスをつくろう！C」 ・プレゼントボックスの仕掛けを受講者自身が調べて制作する。						
12	「プレゼントボックスをつくろう！D」 ・プレゼントボックスの仕掛けを受講者自身が調べて制作する。						
13	「プレゼントボックスをつくろう！E」 ・プレゼントボックスの仕掛けを受講者自身が調べて制作する。						
14	「プレゼントボックスをつくろう！F」 ・プレゼントボックスの仕掛けを受講者自身が調べて制作し、完成させる。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
筆記試験	60	講義で解説した内容、配布したプリントの内容、制作をおして得られた知識や技術に関する問題を出題する。		課題作品の提出	40	授業内で制作した課題作品を「記録シート」とともに評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
各作品を完成させるための時間は授業時間のみでは確保できませんので、授業外の時間も利用して制作してください。				随時受け付けます。 miyagi.masanari@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	とくになし。			受講生に望むこと	あなたの「好き」「楽しい」「面白い」という気持ちを、造形活動をおして表現してください。そのことが、子どもの造形活動を支える一歩目です。		
参考書・参考資料等	授業でプリントを配布する。			その他・特記事項	とくになし。		

授業科目	器楽応用						
担当教員	大南 匠・安氏 洋子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>保育現場における音楽活動に必要なピアノの演奏、および弾き歌いの演奏を通して様々な表現活動や遊びに展開できる技能を学ぶ。授業形態は習熟度に合わせたグループレッスンとする。ピアノの演奏に関してはバイエル、ブルグミュラー、ソナチネアルバムなど練習曲を中心したレッスン、弾き歌いに関してはオリジナルな伴奏譜を使用し、器楽応用で習得した読譜力、演奏技術をさらに高める。</p>				<p>器楽応用 で習得した読譜力、演奏技術をさらに高める。弾き歌いに関してはコード譜ではなくオリジナルの伴奏譜を使用することで作曲者の意図を考察していく。</p>			
教授方法	器楽応用 で実施したグループにて授業を行う。						
履修条件	器楽応用 の履修者に限る。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーションおよびピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン1						
2	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン2						
3	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン3						
4	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン4						
5	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン5						
6	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン6						
7	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン7						
8	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン8						
9	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン9						
10	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン10						
11	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン11						
12	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン12						
13	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン13						
14	ピアノ曲、および子どもの歌を課題としたレッスン14						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実技試験	80	ピアノ、歌唱など演奏技術を評価する。楽譜の指示通りに演奏しているか、歌唱と伴奏のバランスを考えているか、演奏の丁寧さなどを総合的に判断する			平常点	20	課題の取り組み、毎回の授業の様子を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
15曲を目標にレパートリーを作る。課題を準備することだけでなく、復習もすること。				授業内でも、授業外でも質問や相談を受け付ける。メールでも可。			
教科書・テキスト	小林美実編著「続こどものうた200」 チャイルド社			受講生に望むこと	短くてもいいので出来るだけ毎日、演奏する時間を作って欲しい。		
参考書・参考資料等	各自の状況に合わせて適宜、提示する。			その他・特記事項	なし		

授業科目	教育史						
担当教員	木山 徹哉			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>幼児教育及び初等教育を中心として保育・教育という営みが今日までどのような経緯を辿ってきたかを、各時代における保育・教育へのさまざまな需要、各時代における「子ども」の捉え方や処遇などを中心に考える。</p> <p>具体的には、日本の明治以降の保育・教育機関の成立・普及・展開の過程を、欧米の教育思想や制度の導入、日本の政治的・経済的・社会的変化と保育・教育との関係、さらに社会や大人と子どもとの関係を主な視点にして整理するとともに、今後の保育・教育の課題について検討する。</p>				<p>本授業では、以下の4点を主たる目標とする。日本の近現代の保育・教育の歴史について、その基本的な流れを説明することができる。欧米の教育思想や教育制度ととの関連について説明することができる。子ども観や親子関係の変化について、またその変化が保育・教育に与える影響について説明することができる。教育の歴史を踏まえて、今後の保育・教育の課題について自分の意見を述べるすることができる。</p>			
教授方法	講義が中心となるが、授業内容のなかの重要なテーマについていくつか討論を行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 授業概要、到達目標、並びに評価方法の説明						
2	保育・教育機関の成立・・・幼稚園（保育園も含む、以下同じ）や学校の成立要因について考える						
3	保育・教育機関の受容と普及・・・幼稚園や学校が民衆に受容され普及する要因について考える						
4	保育・教育機関の多様な展開・・・幼稚園や学校に対する需要と機能について考える						
5	欧米の保育・教育思想と制度の導入・・・保育・教育の目的、内容、方法、あるいは子どもの捉え方などに関する思想について解説する						
6	戦時下の保育・教育・・・戦争中の子どもの生活、保育、教育について考える						
7	戦後教育の開始（1）・・・新学制、教育法規等、戦後の新教育の特徴と子どもの生活の変化について考える						
8	戦後教育の開始（2）・・・教育基本法、学校教育法、児童福祉法など主な法規の理念等を解説する						
9	高度経済成長期の保育・教育（1）・・・教育機会の拡大と「教育の平等」、ジェンダーと保育などについて考える						
10	高度経済成長期の保育・教育（2）・・・経済成長と保育・教育の機能について考える						
11	教育要領、保育指針、及び学習指導要領の変遷・・・戦後の各時期における幼稚園および学校の教育内容について考える						
12	学校教育の動揺と家庭教育及び保育（1）・・・学校教育が抱える課題との関連で家庭教育や保育の在り方について考える						
13	学校教育の動揺と家庭教育及び保育（2）・・・学校教育に対して向けられる批判の意味とその背景について考える						
14	今後の保育・教育の在り方・・・少子化、多様な学び、グローバル化、情報化等の進展の中での保育・教育の役割について考える						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	70	授業全体で習得した基本的知識を確認するとともに、重要なテーマについて客観的な意見を表明する。100点満点で60点以上を可とする。			小テスト	30	基礎的な知識の定着度を測る。20点満点で12点以上を可とする。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業中に紹介する資料や書籍を読んでほしい。				授業中でもそのほかの時間でも、可能な限り対応する。			
教科書・テキスト	特に定めない。			受講生に望むこと	現在および今後の課題を考えようとするとき、これまでの歴史を振り返ることの重要性を理解してほしい。		
参考書・参考資料等	木村元『学校の戦後史』岩波新書			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		教育の方法と技術					
担当教員	山本 直樹			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>幼児期の教育の基本を踏まえた上で、保育方法の基本として子どもの側や保育者の側から捉える保育方法とその原理、保育形態の種類と活用法を概観する。その上で、「幼稚園教育要領」で示されている具体的指導法の4項目「環境を通して行う教育」「幼児期にふさわしい生活の展開」「遊びを通しての総合的指導」「一人一人の特性に応じた指導」について解説し考える。保育方法としての情報機器や視聴覚教材の活用法についても具体的な演習活動を展開する。</p>				<p>「幼稚園教育要領」等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をめざす保育内容の指導法の理解を目標とする。それと同時に、幼児期の発達特性をふまえた教育の方法および技術について、情報機器及び視聴覚教材の活用法も含めて理解することを目標とする。</p>			
教授方法	講義形式を基本とするが、具体的方法を扱う内容では演習課題を積極的に取り入れる。プレゼンテーションソフトによる講義を中心に、DVD映像等、豊富な視聴覚教材を活用して授業を実施する。						
履修条件	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本講義のガイダンス 教育と保育の方法、目標と内容						
2	教育方法の意義と課題						
3	教育理論・方法の変遷 伝統的な学習理論						
4	教育理論・方法の変遷 学習形態・学習指導法の類型						
5	授業の設計と評価						
6	保育方法とその原理						
7	保育形態の種類と活用						
8	具体的指導技術 話法・板書						
9	具体的指導技術 環境構成						
10	保育と指導案						
11	幼児期における情報機器の活用と課題						
12	視聴覚教材の種類と活用						
13	情報機器を活用した教材作成						
14	本講義のまとめと確認						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
1	80	筆記試験を通じて授業内容の理解度を評価する。		2	20	2回ほど小テストを実施し理解度を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回の授業内容に関する終了時に示す事後課題と予習課題（予告された授業テーマに関する調査や疑問点の整理）についてを合わせて取り組む。</p>				授業後に対応する			
教科書・テキスト	『子どもの生活と遊びを創る保育の内容と方法』太田光洋編（保育出版会）			受講生に望むこと	授業への主体的な参加を望む		
	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『幼稚園教育要領解説』（平成30年2月 文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）						
参考書・参考資料等	『幼児教育の方法』小田豊・青井倫子他（北大路書房） 『幼児教育の指導法』師岡章編（放送大学教育振興会）			その他・特記事項	なし		







授業科目	保育臨床特殊講義						
担当教員	関 裕子			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>教育改革の一環として保育・幼児教育が重要視され、乳幼児期の教育のあり方に関心が高まりつつある一方で、保育政策や子育ての社会的無理解が、保育の質や保育者の社会的評価に影響を及ぼしている。本授業では、子どもの最善の利益を保障するための要件は何か、また、危機的状況においてそれを補完するにはどのような思考が求められるか、「制度」「メディア」等様々なキーワードを切り口に、ピンチをチャンスに変えた県内外の保育現場の事例やデータから考察を深め、子どもの理解者を増やす社会構築のヒントを見出していく。</p> <p>英語表記「Nursery chical special lecture」</p>				<p>ねらい 保育の臨床的課題とその対応、子どもや保護者を取り巻く地域社会や環境と保育のあり方について様々な視点から理解を深める。</p> <p>到達目標 保育課題を考えるための基本的な知識を習得する。 保育問題に対する自分なりの問題意識と思考方法を獲得する。 保育課題を分析する際にどのような点に着目すべきかを学ぶ。</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。随時ディスカッションやプレゼンテーションを行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	保育と格差 ～保育現場のリアル～ 多様な保育現場の画像から現状や課題を把握し、授業の位置づけを理解する。						
2	保育と制度 ～データの裏側～ 国内外のデータを読み取り、その背景を具体的な施策の事例から理解する。						
3	保育とコミュニティ ～子育て・親育ちは社会総がかり～ 地域をつくる仕事という視点から保育のあり方について思考を深める。						
4	保育と療育・特別支援教育 ～望まれる相互理解～ 課題を把握し、それぞれの専門性の理解と接近・関与の具体を考える。						
5	保育とマスメディア ～子ども理解に基づく様々な発信～ 子どもを取り巻き方向づけているメディアについて知り、子どもの声にならない声を代弁するためには何ができるか、思考を深める。						
6	保育と義務教育 ～互いにアプローチ～ 『教育改革』をキーワードに、相互理解のヒントを見い出す。						
7	保育のパラドックス ～本質を見直す～ 『生を支える専門家』として社会と子どもの間に立ち、産民官学それぞれの視点からあり方を考える。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小レポート	50%	毎回の授業内容の理解度を評価する。			レポート	50%	創意工夫・独自性をもち思考を深めているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業のテーマ「保育と〇〇」をメディアで検索し、上位表示をチェックしてから授業に臨んでください。				質問は授業の前後に対応します。			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	保育・子育ての課題に対する多様な切り口をつかみとってください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	幼稚園教諭・保育士 長野県こども家庭課 保育専門相談員・保育専門推進員・幼保連携推進員 長野県教育委員会 学びの改革支援課 信州幼児教育支援センター 幼児教育コーディネーター 松本短期大学 幼児保育学科 専任講師		

授業科目	保育臨床特殊講義						
担当教員	福岡 寿			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
平成8年度より、長野県内の保育園・幼稚園等の巡回訪問支援を実施しているが、近年、保育園では、発達特性等を踏まえ、様々な配慮を必要とする園児の増加がみられ、クラス活動を進めていく保育士は、配慮を要する園児に対応する加配保育士等と緊密な連携を図りつつ、クラスづくりを進めていくことが必要になってきている。そのため、本講義では多くの保育園・幼稚園を巡回指導してきた現場での実践を踏まえ、発達特性のある園児のいるクラスにおいて、クラス活動の進め方、配慮を要する園児への対応、主活動を進める保育士と加配保育士との連携、発達特性のある子の家族との連携、また、関係機関との多職種連携のあり方について学ぶ。				ねらい 保育園・幼稚園等において、クラスの園児が主体的に行動し、夢中で真剣に活動するクラスづくりを通じて、発達特性のある園児もその特性に配慮しつつも、集団適応を無理なく進めていけるためのクラス運営の力を養う。 到達目標 保育園・幼稚園等の現場で働く専門職として、園児との関係づくり（対応の仕方、信頼関係の作り方等）を理解する 発達特性のある子の集団適応を進めるためには、特性のある子を取り巻くクラスの環境因子（クラスの環境、園児の活動、保育士の対応等）が重要であることを理解する 発達特性のある子の行動の特性および必要とされる配慮を理解する 発達特性のある園児の卒園に向けて、家族の不安感に寄り添いつつ、保育園として、保健・福祉・教育等の関係機関と連携していくことの重要性と連携の仕組みについて学ぶ			

教授方法	講義を中心とするが、講義の理解をより深めるために、事例に基づくグループディスカッションを行う。
履修条件	特にありません

授 業 計 画	
実施回	授業内容
1	授業の位置づけ、授業の進め方を理解する。授業を通じて何を学ぶかを知る。講義の開始にあたり、第一回目の講義では、県内外の保育園巡回指導からみられる現在の保育園・幼稚園現場の実情を理解する。
2	クラス作りのためには、園児との信頼関係づくりが重要であり、そのための関わり方の基本を学ぶ。 園児との関係を強化していく中で、クラスの環境づくりにも配慮しつつ、保育士の過剰な指示や声かけ、対応が無くとも園児が主体的に行動で
3	発達特性のある子が集団に適応していくためには、対象児を取り巻くクラスの環境づくりが重要であることを学ぶ。その際、最も重要なクラス環境は、園児が自主的に行動し、夢中で真剣に活動するクラスをプロデュースしていくことが重要であることを理解する。
4	発達特性のある子が、クラスでどのような行動特性を示すかを理解した上で、行動特性に対して、どのような配慮をしていくことが重要であるかを理解する。
5	主活動を進める保育士と特性のある子に対応する加配等の保育士の連携のあり方を理解する。その中で、発達特性のある園児も不適応になることなく、むしろ持っている特性の強みをクラスづくりに活かしていくことの大切さを理解する。
6	これまでの講義を通じて理解してきた内容を踏まえ、事例に基づき、どのようにクラス活動を進め、あわせて、発達特性のある子に適切な配慮をしていくかについて、グループディスカッションを行う。
7	発達特性のある子の卒園に向け、家族との信頼関係を構築の進め方と保健・福祉・教育等多職種との連携のあり方を学ぶ。

共通の評価基準	

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	講義を通じて習得した理解度に応じて評価する。	レポート	30%	講義とグループディスカッションを通じて学んだことについてレポート提出を求め、理解度に応じて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）		質問や相談への対応	
全ての講義を終えたのにレポート提出を求める。		講義の終了15分前に質問タイムを設ける。	

教科書・テキスト	講義はパワーポイント等の資料で進める。	受講生に望むこと	講義内容の理解度を確認するために、全講義終了後レポート提出を求めます。主体的に講義・グループディスカッションに取り組むこと
参考書・参考資料等	参考図書として ・「こうすればできる！発達障害の子がいる保育園での集団づくり・クラスづくり」 ・「すぐに役立つ！発達障害の子がいる保育園での集団づくり・クラス作りQ&A」（ともにエンバワメント研究所） ・「気になる子が活きるクラスづくり」（中央法規）の購読を勧める。	その他・特記事項	実務経験 平成2年度より障害児とその家族の支援業務に携わってきた。平成8年度からは長野県北信圏域（中野市等）の保育園巡回を開始し、平成26年度からは、長野県の事業に基づき、県内広く保育園・幼稚園巡回に取り組んでいる。

授業科目	保育臨床特殊講義						
担当教員	菱田 隆昭			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
この科目は、保育に関する現代的課題や子ども・保護者を取り巻く地域・社会・環境と保育のあり方について、歴史的な掘り下げを行うことで、理解を深めるものである。長野県で行われてきた学校教育・幼児教育・保育の歴史について、その概観を理解するとともに、人々の熱意や願い、様々な工夫を知り、地域と人々の関わり等が今日の保育にどのように結びついているかを学ぶ。その際、史料を読み解いたり、意見交換をしたりして、考え方の幅を広げられるようにする。				ねらい 長野県を中心として、我が国の学校教育・幼児教育・保育の歴史の概観を理解するとともに、それらに懸けた人々の熱意・願い・工夫等を知ることができる。史料の読解を通して、当時の幼児教育・保育の状況を考えるとともに、今日の教育・保育にどのように結びついているかを考察することができる。 到達目標 日本の近代から今日までの学校教育・幼児教育・保育の主な流れを理解できる。 長野県の学校教育・幼児教育・保育の歴史を概観し、特徴的な出来事を取り上げ、その意義を理解できる。 明治期の史料等を読み、当時の幼児教育・保育を考えるとともに、分かったことを発表することができる。 幼稚園保母養成機関について、基本的事項の理解とともに、今日的課題との関連性を考えることができる。			

教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。調べ学習、発表、意見交換等を行う。
履修条件	特になし

授 業 計 画	
実施回	授業内容
1	オリエンテーション：授業の進め方を理解する。教育の歴史を学ぶ意義を理解する。
2	近代日本の教育史の概要を理解する。明治期の教科書等の史料を読む。
3	長野県の教育史の概要を理解する。特徴的な出来事を調べ発表する。授業時レポート を作成する。
4	長野県の幼児教育・保育の歴史を理解する。代表的な保育や幼稚園を取り上げ、理解を深める。
5	明治期の保育関連資料を読み、当時の保育の状況を考える。意見交換を通して多様な考えを知る。
6	幼稚園保母養成の歴史の概要を理解する。上田保母伝習所を取り上げ、教育内容や地域との関連性を考える。
7	梅花幼稚園・上田保母伝習所の史料を読み解き、発表資料を作成し、発表する。授業時レポート を作成する。

共通の評価基準	
---------	--

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表資料	50%	史料を読み解き、正確にわかりやすくまとめることができたかを評価する。	授業時レポート	30%	問題意識をもって課題に取り組んだかを評価する。
積極的な受講態度	20%	発表、意見交換等の積極的な受講態度や課題の提出状況によって評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）		質問や相談への対応	
授業時に配布した資料を熟読し、関連事項を調べる。授業内で紹介した参考文献等を読み、ノートにまとめる。		・質問は、授業中や授業の前後で受け付ける。 ・授業の初めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。	
教科書・テキスト	特になし。	受講生に望むこと	集中講義ですので、体調を整え、集中力をもって授業に臨みましょう。積極的な受講態度を期待しています。
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。 『信州教育事始め』駒込幸典著 信濃毎日新聞社 1999年	その他・特記事項	長野県は、教育熱心で、全国的にも「教育県」といわれています。その源流の一端を、一緒に探ってみましょう。

授業科目		教育実習 事前事後指導					
担当教員	渡邊 望			必修・選択	選択	単位数	0.5単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>事前指導では、教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園理解を深めるとともに、実習前・実習中の留意点と対策、訪問指導教員の指導の受け方について学ぶ。また、見学実習の際の子どもの観察記録、指導計画の立案、実践と評価の内容と方法等、実際に現場で幼稚園、幼稚園教諭の役割を学ぶための基本的な知識を得て、最初の実習に臨めるよう必要な準備を整える。</p> <p>事後指導では、実習先の評価をもとにした総括と学びの振り返り、実習での自らの課題、また、次の教育実習に向けた新たな課題について、省察と課題発見を行う。</p>				<p>教育実習の目的や意義について理解し、実習の内容や方法が分かり、子どもを見る視点や保育者の意図を推察することができる。実習での保育を省察し、教育実習に向けた自己課題を明らかにする。</p>			
教授方法	講義を中心に行うが、実習中に困難が生じないように演習を行ったり、受講者の質問に答えたりしながら進める。						
履修条件	幼稚園と幼稚園教諭に関心があり、その役割について学びたい意思があること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	教育実習の意義と目的を理解し、自分の課題の明確化。						
2	実習先でのオリエンテーションの受け方の理解。						
3	実習記録の意味を理解し、記入方法の確認。						
4	実習生の心構えと実習中の取り組み方の理解。						
5	実習前後の手続きを理解し、実習資料の作成。						
6	教育実習の振り返りと省察および教材研究。						
7	教育実習に向けた今後の課題の検討。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
事前レポート	50	実習園について調査し概要をまとめる。実習に向けても自己課題を明らかにし、実習での取り組みを具体的に検討する。		事後レポート	50	実習を振り返り、学んだことをまとめる。自己評価を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>実習園に関する調査を行う。 絵本などの児童文化財や保育教材などについて各自で調べる。 実習を振り返り省察し、気づきや学びをまとめる。</p>				<p>授業の前後に対応するほか、適宜研究室でも対応する。 緊急の場合には電話での相談にもこたえる。</p>			
教科書・テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著 ミネルヴァ書房			受講生に望むこと	外部での実習をより有意義な時間にするためには、自ら課題を見つけ、思考しながら取り組むことが必要です。実習指導以外の授業で学んだことも、適宜振り返りながら実習の準備を進めていきましょう。		
参考書・参考資料等	「保育者になるための国語表現」、田上貞一郎、萌文書林 「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」長島和代ほか、わかば社 その他、シアター遊びや折り紙など保育関連書籍			その他・特記事項	教育実習の準備を進めていきます。毎回必ず出席してください。 2学期にも数回事前指導を行います。担当者のアナウンスを確認してください。		

授業科目	教育実習						
担当教員	渡邊 望			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>幼稚園の生活に参加することで、幼児理解を深めるとともに、幼稚園の役割と機能、保育の内容、子どもの生活、記録、幼稚園教諭の役割、職務内容について、実践的、具体的に理解する。観察実習と部分参加実習を中心として幼児の発達および発達過程と、それに応じた保育の実践について学ぶ。記録の意義や子どものとらえ方、幼稚園教諭の役割など、教師としての視点や考え方を指導教諭の指導の下で学び、実践的理解を深めるとともに以後の学習に向けた課題を明らかにする。</p>				<p>幼稚園教育について、観察実習・参加実習を通して実践的な理解を深める。また、部分実習を通して、子どもの個人差や教師に求められる資質に気づく。</p>			
教授方法	指定された幼稚園で2週間連続して実習を行う。						
履修条件	幼稚園と幼稚園教諭に関心があり、その役割について学びたい意思があること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション（於：学内） 教育実習 についての理解。						
2	オリエンテーション（於：実習園） 各園での実習オリエンテーションに訪問し、実習内容および注意事項の確認。						
3	観察実習 1 園の概要、1日の流れの理解。						
4	観察実習 2 学級活動や子どもの様子を観察しおよび理解。						
5	観察実習 3 子どもの様子の観察からの、遊びや興味関心、発達特徴の理解。						
6	観察実習 4 子どもの様子の観察からの、遊びや興味関心、発達特徴の理解。						
7	観察実習 5 子どもの様子の観察からの、遊びや興味関心、発達特徴の理解。 1週間の流れの理解。						
8	観察実習 6 教師の動きや言葉かけからの、配慮や意図の推察と理解						
9	観察実習 7 教師の動きや言葉かけからの、配慮や意図の推察と理解						
10	観察実習 8 教師の動きや言葉かけからの、配慮や意図の推察と理解						
11	部分実習 1 保育の一部分を担当し、子どもの個人差や教師に求められる資質への気づき						
12	部分実習 2 保育の一部分を担当し、子どもの個人差や教師に求められる資質への気づき						
13	部分実習 3 保育の一部分を担当し、子どもの個人差や教師に求められる資質への気づき						
14	実習のまとめ 反省会を通して、学内での取り組みや次の実習に向けての課題の明確化。						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習評価		実習園の評価と実習記録の内容から総合的に評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>実習前は絵本や手遊び、簡単な遊びのアイデアなどの準備を行いましょう。実習後は、実習での気づきを参考に今できることを考えて取り組んでください。</p>				<p>巡回指導訪問教員が訪れた際に相談する、もしくは実習担当者にメールが電話で直接相談してください。</p>			
教科書・テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著 ミネルヴァ書房、			受講生に望むこと	現場で学べる貴重な機会ですので、幼稚園の先生に相談しながら、積極的に取り組んでください。		
参考書・参考資料等	「保育者になるための国語表現」、田上貞一郎、萌文書林 「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」長島和代ほか、わかば社 その他、シアター遊びや折り紙など保育関連書籍			その他・特記事項	教育実習 事前事後指導の授業をすべて受講していることが必要です。必ず出席してください。		

授業科目		保育所実習 事前事後指導					
担当教員	小笠原 明子			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	1・2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>保育実践の場を理解するためには、保育所の役割や機能を理解するとともに、子どもの理解や保育士の専門性を学ぶことが重要となってくる。そのために、講義と実践を結びつけることができるよう、知識・意識・技術などを実践的に準備を行う。授業は講義だけでなく、学生自身が考え表現し学ぶことができるよう演習（グループワーク）の形態をとることもある。実習後は、実習録などを基に振り返りをおこなうことで、保育所実習に向けた課題や学習目標を明確にし、保育所実習と保育所実習が連続性のあるものとする。</p>				<p>・保育所実習の目標を明確にし、実習施設の方針・日課等、また子どもの実態（発達や経験）に合わせて指導計画案をたて、教材準備をおこなう実践力を育む。 ・実習後は、実習の振り返りを踏まえ、改善のための課題や学習目標を明確にする。</p>			
教授方法	講義形式で実施する						
履修条件	保育士資格に必要な講義を履修済みであることが好ましい						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	保育所実習 指導ガイダンス（実習の目的と概要の理解、実習の心構えと留意事項の理解）						
2	保育所実習 の意義と目的（実習の手引きの内容の理解、実習前後の手続きについての確認）						
3	保育所実習 に向けて（保育所の役割と機能の理解）						
4	保育所実習 に向けて（保育所実習 実習録の意味と書き方）						
5	保育所実習 に向けて（子どもを理解するための視点を学ぶ）						
6	保育所実習 に向けて（子どもに合わせた保育の考え方の理解）						
7	保育所実習 に向けて（部分実習の教材準備と指導計画案作成）						
8	保育所実習 に向けて（指導計画案による模擬保育）						
9	保育所実習 に向けて（実習前後の手続き）						
10	保育所実習 事後指導（保育所実習 を振り返り省察と報告をおこなう）						
11	保育所実習 事後指導（保育所実習 を振り返り観察の方法、実習録の書き方を確認する）						
12	保育所実習 事後指導（保育所実習 を振り返り指導計画案の立案方法を確認する）						
13	保育所実習 事後指導（保育所実習 を振り返り教材の研究をおこなう）						
14	保育所実習 総括（保育所実習 に向け課題を明確にする）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への参加および取り組み	100	実習の手引き参照					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
実習先の施設について事前に調べておく。				随時受け付ける。			
教科書・テキスト	実習テキストにより進める。			受講生に望むこと	主体的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	担当教員の小笠原は、保育現場における保育の実務経験を有しております。		



授業科目		保育所実習					
担当教員	小笠原 明子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>実習は各自が指定された保育所で3年生の2学期に10日～11日間実施する。主に観察・参加実習が主となり、子どもの様子を把握することを通して指導案の作成および部分実習を行い、さらに、振り返りを実施することで自身の実習を深めていく。また、実習の不安や不明な点の改善、実習の見直し等の助言のため、実習期間中は教員が巡回指導をおこなう。</p>				<p>実習施設について理解をし、保育者の役割や子どものかかわりを観察の視点から学ぶ。さらに、実際に子どものかかわりを通して発達理解を深める。保育所の役割（地域との連携等）を学ぶ。</p>			
教授方法	実践						
履修条件	保育所実習 事前指導を全て受講していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	保育所での実習オリエンテーション（保育所の方針・日課の理解、配属クラス・持ち物・勤務時間などの確認）						
2	観察・参加実習1（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
3	観察・参加実習2（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
4	観察・参加実習3（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
5	観察・参加実習4（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
6	観察・参加実習5（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
7	巡回教員の指導（巡回教員による実習指導をおこなう）						
8	指導案の作成（これまでの観察・参加実習を基に部分実習の指導を立案し、担当の先生に指導していただく）						
9	部分実習・振り返り（指導案に基づき部分実習をおこなう。終了後、担当の先生と振り返りを実施することで自身の課題を見つける）						
10	観察・参加実習6（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
11	部分実習・振り返り（指導案に基づき部分実習をおこなうが、前回の課題について改善できるよう意識し取り組むようにする）						
12	観察・参加実習7（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
13	保育所での反省会（先生方から実習全体についての反省会をおこなっていただく）						
14	実習録の提出と受け取り（実習録を書き上げ提出し、その後、実習録を受け取りに行く、実習終了後、お礼状を作成する）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習評価	100	実習の手引き参照					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
実習先の施設について事前に調べておく 教材の準備をおこなう				随時、受け付ける			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	積極的に取り組むこと		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	担当教員の小笠原は保育現場における保育の実務経験を有しております（保育現場での実習担当の経験あり）。		

授業科目		保育所実習 事前事後指導					
担当教員	小笠原 明子			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>保育所実習の学びと課題を基に保育所実習の目標を明確にする。実習時期にあわせた保育所のカリキュラムや子どもの姿を想定した指導計画案をたて、教材研究と準備、模擬保育を通して実践力を培う。授業は講義だけでなく、学生自身が考え表現し学ぶことができるよう演習（グループワーク）の形態をとることもある。実習後は、自己評価や面談、レポート等を通して実習を振り返り、今後の学習の課題や目標を明確にする。</p>				<p>・保育所実習の目標を明確にし、子どもの実態（発達や経験）に合わせて指導計画案をたて、教材準備をおこなう実践力を身につける。 ・実習後には、実習の振り返りや自己評価・面談などを通して、今後の学習の課題や目標を明確にする。</p>			
教授方法	講義形式、および演習形式で実施する						
履修条件	保育実習 を修得済みのこと						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	保育所実習 指導ガイダンス（実習の目的と概要の理解、実習の心構えと留意事項の理解）						
2	保育所実習 の意義と目的（実習の意義と目的について理解し自分の課題を明確にする）						
3	保育所実習 に向けて（保育所実習 実習録の意味と書き方）						
4	保育所実習 に向けて（保育の展開の理解）						
5	保育所実習 に向けて（実技指導）						
6	保育所実習 に向けて（責任実習の教材準備と指導計画案作成）						
7	保育所実習 に向けて（指導計画案の添削）						
8	保育所実習 に向けて（指導計画案による模擬保育）						
9	保育所実習 に向けて（実習前後の手続き）						
10	保育所実習 事後指導（保育所実習 を振り返り自己評価をおこなう）						
11	保育所実習 事後指導（保育所実習 を振り返り省察と報告をおこなう）						
12	保育所実習 事後指導（保育所実習 を振り返り省察と報告をおこなう）						
13	保育所実習 事後指導（保育所実習 を振り返り保育士の専門性を考える）						
14	保育所実習 総括（自己評価、振り返りを基に課題を明確にする）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への参加および取り組み	100	実習の手引き参照					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
実習先の施設について事前に調べておく 教材準備を行う				随時、受け付ける			
教科書・テキスト	実習テキストにより進める 適宜、資料を配付する			受講生に望むこと	積極的にディスカッションに取り組むこと		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	担当教員の小笠原は保育現場における保育の実務経験を有しております		

授業科目	保育所実習						
担当教員	小笠原 明子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>実習は各自が指定された保育所で3年生の3学期に10日～11日間実施する。保育所実習を踏まえ部分実習や責任実習をおこなう。子どもの実態（発達・経験）に合わせ指導案の作成および部分実習・責任実習をおこない、さらに、振り返りを実施することで自身の実習を深めていく。また、実習の不安や不明な点の改善、実習の見通し等の助言のため、実習期間中は教員が巡回指導をおこなう。</p>				<p>・実習施設について理解をし、保育所の役割・機能や保育士の専門性、乳幼児の発達を理解を深め、総合的に学ぶ。 ・子どもの実態（発達・経験）を基に保育の計画について理解を深め、部分実習や責任実習を実施する。</p>			
教授方法	実践						
履修条件	保育実習 を修得済み 保育所実習 事前指導を全て受講						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	保育所での実習オリエンテーション（保育所の方針・日課の理解、配属クラス・持ち物・勤務時間などの確認）						
2	観察・参加実習1（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
3	観察・参加実習2（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
4	指導案の作成（これまでの観察・参加実習を基に部分実習の指導を立案し、担当の先生に指導していただく）						
5	部分実習・振り返り（指導案に基づき部分実習をおこなう。終了後、担当の先生と振り返りを実施することで自身の課題を見つける）						
6	観察・参加実習3（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
7	巡回教員の指導（巡回教員による実習指導をおこなう）						
8	指導案の作成（これまでの観察・参加実習と部分実習を基に責任実習の指導を立案し、担当の先生に指導していただく）						
9	指導案の修正・準備（所長先生、実習担当の先生の指示に従い指導案を修正し、教材の準備をおこなう）						
10	責任実習（指導案に基づき責任実習をおこなう。終了後、担当の先生と振り返りを実施することで自身の課題を見つける）						
11	責任実習反省会（責任実習終了後、所長先生、実習担当の先生、担当の先生と反省会をおこなっていただく）						
12	観察・参加実習4（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
13	保育所での反省会（先生方から実習全体についての反省会をおこなっていただく）						
14	実習録の提出と受け取り（実習録を書き上げ提出し、その後、実習録を受け取りに行く、実習終了後、お礼状を作成する）						
共通の評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習評価	100	実習の手引き参照					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
実習先の施設について事前に調べておく				随時、いけつける			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	積極的に取り組むこと		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	担当教員の小笠原は保育現場における保育の実務経験を有しております（保育現場での実習担当の経験あり）。		

授業科目		施設実習 事前事後指導					
担当教員	尾島 豊・中山 智哉			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	1・2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>保育士資格の取得には「施設実習」の履修が必修科目。この「施設実習」の事前と事後に実習を効果的に実施できるようにフォローする。実習先の居住型施設、児童や利用者の理解を深めるとともに、施設の機能と福祉専門職、保育士の職務について学び、実習後にその学びを深める。</p>				<p>児童福祉施設または障害支援施設の福祉施設（主に居住型）の生活に参加して、その経験から児童や利用者の理解を深め、実習の経験を深めることが目的。</p>			
教授方法	<p>実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を徹底して行う。</p>						
履修条件	施設実習 を履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	施設実習の意義と オリエンテーション・具体的手続き						
2	施設実習の概要 - DVD教材、先輩の日誌を読みながら						
3	施設実習の選択に向けて - 施設実習で行く施設の概要・養護系障害系施設						
4	施設実習の選択に向けて - アンケートと調整						
5	施設実習の選択に向けて - 実習希望の決定						
6	施設実習に向けて - 実習施設の決定、事前訪問、						
7	施設実習に向けて - 実習の目的の明確化						
8	施設実習に向けて - 実習日誌について-						
9	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
10	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
11	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
12	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
13	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
14	実習後の学習 - 実習の振り返り（個別に評価伝達）-						
共通の評価基準							
<p>実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を徹底して行う。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習レポート（事前）	30	実習課題を明確に表現しているか		実習レポート（事後）	30	実習の学びを深めているか	
出席	60	授業への参加度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
施設実習 を履修				授業時または個別に相談に乗る			
教科書・テキスト	必要な資料を配布予定。			受講生に望むこと	実習先施設の理解を深める。		
参考書・参考資料等	必要な資料を配布予定。			その他・特記事項	なし		

授業科目		施設実習					
担当教員	尾島 豊・中山 智哉			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
保育士資格の取得には「施設実習」の履修が必修科目。11日間の実習。主に居住型施設の生活に参加し、児童や利用者の理解を深めるとともに、施設の機能と福祉専門職、保育士の職務について学ぶ。				児童福祉施設または障害支援施設の福祉施設（主に居住型）の生活に参加して、その経験から児童や利用者の理解を深め、支援の実際を習得することが目的。			
教授方法	実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を行う。						
履修条件	事前事後施設実習指導の科目を必ず履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	児童福祉施設等での実習、原則は11日間（1日8時間）、主に居住型の福祉施設で実習を実施する。時期は7月中に実施予定。						
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
共通の評価基準							
* 実習前、実習期間中、実習後の期間を通じての態度と実習先の施設の評価を踏まえた総合評価。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習前の学習				実習期間中の学習			
実習後の学習							
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
実習先の施設で実習を実施すること。				授業時、または個別に相談にのる。			
教科書・テキスト	必要な資料を配布。			受講生に望むこと	施設への関心を持ち、深めること。		
参考書・参考資料等	必要な資料を配布。			その他・特記事項	なし		

授業科目		施設実習 事前事後指導					
担当教員	尾島 豊・中山 智哉			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
施設実習を円滑かつ効果的に進めるために必要な知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にする共に、実習体験を深化することが目的。特に施設実習の選択は進路との関連もあり、実習先を自分で調べて決定することが重要となる。事前学習は、実習先の理解、実習への心構え、実習のねらいと内容の理解、事後は振り返っての自己洞察などが課題となる。				児童福祉施設または障害支援施設等の福祉施設で実習を行い、その経験から児童や利用者の理解を深め、実習の経験を深めて就職できることが目標。			
教授方法	実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を徹底して行う。						
履修条件	施設実習を履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	施設実習の意義と オリエンテーション・具体的手続き						
2	施設実習の概要 - DVD教材、先輩の日誌を読みながら						
3	施設実習の選択に向けて - 施設実習で行く施設の概要・養護系障害系施設						
4	施設実習の選択に向けて - アンケートと調整						
5	施設実習の選択に向けて - 実習希望の決定						
6	施設実習に向けて - 実習施設の決定、事前訪問、						
7	施設実習に向けて - 実習の目的の明確化						
8	施設実習に向けて - 実習日誌について-						
9	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
10	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
11	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
12	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
13	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
14	実習後の学習 - 実習の振り返り（個別に評価伝達）-						
共通の評価基準							
実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を行う。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習レポート（事前）	30	実習課題がどれだけ明確化しているか		実習レポート（事後）	30	実習の経験の学びがどれだけ深まっているか	
出席	40	授業への参加度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
施設実習の履修が前提				授業時または個別に相談に乗る			
教科書・テキスト	資料を配布予定。			受講生に望むこと	施設実習とこの授業を履修する者は福祉系の就労を目指していることが望ましい。		
参考書・参考資料等	資料を配布予定。			その他・特記事項	なし		

授業科目		施設実習					
担当教員	尾島 豊・中山 智哉			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標（ねらい・到達目標）			
<p>「施設実習」に比べて、障害、養護系の福祉施設（通所も含む）での実習を行う。福祉関係の就労を希望する学生が選択する。児童福祉施設、社会福祉施設における養護・支援活動に実際に参加し、必要な知識・能力・技術を習得する。さらに家庭や地域の生活実態にふれて、子どもや利用者の家庭に対する理解力・判断力を養うとともに地域で支援するために必要とされる能力を養い、施設の機能と福祉専門職、保育士の職務について学ぶ。</p>				<p>学生の進路を踏まえて、児童福祉施設または障害支援施設の福祉施設の経験から児童や利用者の理解を深め、実習の経験を深めることが目的。</p>			
教授方法	<p>実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を徹底して行う。</p>						
履修条件	事前事後指導（施設実習）を必ず履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	原則11日間（1日8時間）、個々の関心のある福祉施設での実習を実施する。						
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
共通の評価基準							
実習前、実習期間中、実習後の期間を通じての態度と実習先の施設の評価を踏まえた総合評価。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習前学習				実習期間中			
実習後学習							
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
実習先施設での11日間の実習				授業時、または個別に相談にのる。			
教科書・テキスト	必要な資料を配布。			受講生に望むこと	将来の就職を福祉系の仕事を目指している者。		
参考書・参考資料等	必要な資料を配布。			その他・特記事項	なし		

授業科目	こども学ゼミ				
担当教員	中山 智哉・太田 光洋・荒井 聡史・藤田 勉・大南	必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習
対象学生	こども	関連資格		備考	
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)		
乳幼児期の子どもと体の発達を総合的にとらえ、成長によりよい教育や環境を考えることを目的に、保育学、教育学、心理学、福祉学、芸術学など様々な学問領域を通して学びを深める。実施方法は、専門の異なる12名の教員が行うゼミ活動に、数名のグループに分かれ、オムニバス形式で受講する。内容は実地調査や行動観察、文献研究、実技演習など教員それぞれの専門に応じたゼミ活動によって進められる。受講生はグループのメンバーと互いに理解・協力をしながら演習を行う。その中で受講生は、乳幼児期の子どもと体の発達、発達を促進する環境、子どもに関する諸問題についての理解を深め、自分自身がより深めていきたいテーマを探ることで、3年次に開講される「こども学ゼミ」の学びを明確化できるようにする。			子どもの発達と環境との関係について、保育分野にとどまらず幅広い知識を獲得するとともに、発達と環境が相互に影響を与え合う関係であることを知る。 子どもの育ちにかかわる様々な学問領域の基礎的概念や考え方についての知識を獲得するとともに、子どもと社会との境界で生じる諸問題について学んだ概念を用いて説明することができる。 様々な学問領域を通じた学びから、受講生自身が深めたいテーマを設定する。		
教授方法	演習				
履修条件	なし				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	オリエンテーション こども学ゼミ の進め方				
2	様々な学問領域から子どもと環境を捉えることの意義				
3	保育・幼児教育学からの学び				
4	保育・幼児教育学からの学び				
5	心理学からの学び				
6	心理学からの学び				
7	教育学からの学び				
8	教育学からの学び				
9	福祉学からの学び				
10	福祉学からの学び				
11	芸術学(造形)からの学び				
12	芸術学(造形)からの学び				
13	芸術学(劇活動)からの学び				
14	芸術学(劇活動)からの学び				
15	中間まとめ 各専門領域からの学びを統合する				
16	保育・幼児教育学からの学び				
17	保育・幼児教育学からの学び				
18	福祉学からの学び				
19	福祉学からの学び				
20	芸術学(音楽)からの学び				
21	芸術学(音楽)からの学び				
22	教育学からの学び				
23	教育学からの学び				
24	芸術学(身体表現)からの学び				
25	芸術学(身体表現)からの学び				
26	心理学からの学び				
27	心理学からの学び				
28	最終まとめ 各専門領域からの学びを統合する				
共通の評価基準					



成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
受講態度	50	活動・話し合い等に積極的に参加している	レポート	25	レポートの内容
小テスト	25	小テストの点数			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
毎回指定された課題・問題に取り組む。 事後学習を通して知識の定着を図ること。			各回の教員に個別に相談する		
教科書・テキスト	使用しない		受講生に望むこと	演習活動に積極的に参加する	
参考書・参考資料等	別途指示する		その他・特記事項	なし	

授業科目	情報リテラシー (C)						
担当教員	浦上 法之			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標 (ねらい・到達目標)			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 PC利用および情報知識等に関するアンケート、PC/CALL教室および学内情報システムの使い方・注意等						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピングOffice365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	Word編(1) 基本操作						
6	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
7	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
8	Word編(4) 画像や図形						
9	Word編(5) 表とグラフ 【Word レポート】						
10	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
11	PowerPoint編(2) スライドの作成						
12	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
13	PowerPoint編(4) 課題作成						
14	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践 【Word レポート】						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
レポート 小テスト	30	レポートおよび小テストを課し、理解度に応じて評価する。	授業 課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。
上記以外の 授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： urakami@shinshu-u.ac.jp</li> </ul>		
教科書・ テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に 望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・ 参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・ 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。</li> <li>・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう!</li> </ul>	

授業科目	健康と運動科学 (C)						
担当教員	張 勇		必修・選択	選択	単位数	1単位	
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要			授業目標(ねらい・到達目標)				
本講義では講義・実技の統合型の方法で健康に関連する文化的側面を様々な角度から取り上げ、身体観、健康観の基礎を築き、身体、健康、スポーツへの理解を高め、健康に対する見方、考え方を広げ、アクセスの方法を学ぶ。			様々なスポーツを体験し、心身共に充実した大学生活を送り、生涯にわたって自己の健康を守り創っていくさまざまな方法や技能を学ぶ。また生活に運動を取り入れる喜びを味わい、積極的な健康づくりの態度を養う。生涯スポーツの基礎づくりとなる授業である。				
教授方法	授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。						
履修条件	【保育士資格必須科目】 毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育<公用掲示板>にて知らせるので注意すること。また単位取得には3回以上の出席が必要。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	授業内容:授業の概要と進め方(課題説明)						
第2回	講義:東西身体の多様な見方を理解する 実技:ブラインドボール						
第3回	講義:東西身体の多様な見方を理解する 実技:ブラインドボール						
第4回	実技:キンボール・スポーツ						
第5回	エスニックスポーツと近代化を考える 実技:インディアカ(遊戯の原点を理解する)						
第6回	講義・実技:インディアカ(遊戯における現在を考える)						
第7回	実技:ユニホック(地域再創造のためのスポーツを理解する)						
第8回	実技:ユニホック(生涯スポーツを理解する)						
第9回	東洋の身体技法原点・東洋ウエルネスを考える 実技:体操・カバディ・呼吸法						
第10回	講義:天人合一の身体を考える 実技:スロースポーツ・太極拳・体操・瞑想法						
第11回	講義:気をめぐる身体文化を理解する 実技:卓球						
第12回	講義:健康づくりについて考える 実技:卓球						
第13回	講義:スポーツを理解する 実技:卓球						
第14回	授業のまとめ						
共通の評価基準							
全ての授業を通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
積極的な授業参加姿勢	30	実践・講義5回以上出席すること		授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと	
上記以外の授業評価	30	授業時間外の運動を促すこと					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
実践】最終レポートを課す。 また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学習を達成する。 【理論】 理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。 さらに、将来の健康管理にどのように役立てていこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学習を達成する。				e-mailで対応する。E-mail:zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。		
参考書・参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月			その他・特記事項	特になし		

授業科目		健康と運動科学 (C)					
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				授業目標(ねらい・到達目標)			
<p>学生自分のからだどこへへの理解は、知識だけではなく「からだを動かす」ということを通しても広がり、深まってゆく。そのため、できるだけ幅広い分野の教材を取り上げたい。健康・運動・スポーツは、分かる・理解するなどの「知識」を身につけるだけでは不十分で、「実践」につながってこそ始めて完結する。ここに健康と運動科学授業の意味と重要さがある。自分自身でやってみることで、自分自身のからだを実感し、その中の客観的・科学的理論を抽出し、これを再意識して「からだ」についての知識とからだそのものを結び付ける授業としたい。</p>				<p>西洋的価値観から生まれた「より高く、強く、速く」を競うことから観点を換え、大学生も生老病死の人生を生きる人間であるから、「もっとゆっくり・もっと深く・もっと柔軟に」と、こころやからだを動かすことの価値を学ぶことも意味がある。これまでの大学体育では、あまり行われていなかったが、こうした視点を取り入れた授業を積極的に進めたい。</p>			
教授方法	<p>授業では、様々な身体技法、健康法、スポ・ツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポ・ツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。</p>						
履修条件	<p>「幼稚園教諭資格必須科目」 【実践】 毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育&lt;公用掲示板&gt;にて知らせるので注意すること。また単位取得には3回以上の出席が必要。</p>						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	授業の概要と進め方(課題説明)						
第2回	健康観と健康づくりの変遷について考える 実技:バレボール						
第3回	体力とは(体力について理解する) 実技:バレ・ボール						
第4回	健康と運動を考える 実技:バレ・ボール						
第5回	講義:生活習慣病と運動を理解する 実技:バレ・ボール						
第6回	講義:ダイエットと健康を理解する 実技:バスケットボール						
第7回	講義:肥満について理解する 実技:バスケットボール						
第8回	講義:有酸素運動と無酸素運動 運動効果について理解する 実技:バスケットボール						
第9回	運動の原則を理解する 実技:ウォーキング、ジョギング						
第10回	講義:トレーニング原則について理解する 実技:バドミントン						
第11回	講義:ウォーキング、ジョギングの運動特性について理解する 実技:バドミントン						
第12回	講義:身体活動強度とエネルギーについて理解する 実技:バドミントン						
第13回	講義:健康づくりについて考える 実技:バドミントン						
第14回	授業のまとめ						
共通の評価基準							
全ての授業を通して、リーダシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
積極的な授業参加姿勢	30	実践・講義5回以上出席すること			授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと
上記以外の授業評価	30	授業時間外の運動を促すこと					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>【実践】小テストの予習および最終レポートを課す。また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学習を達成する。 【理論】 理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。さらに、将来の健康管理にどのように役立てていこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学習を達成する。</p>				e-mailで対応する。E-mail: zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。		
参考書・参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月			その他・特記事項	特になし		